

# 東関東自動車道(木更津・富津線) 埋蔵文化財調査報告書 4

—君津市三直中郷遺跡(沖田地区・中郷地区)—

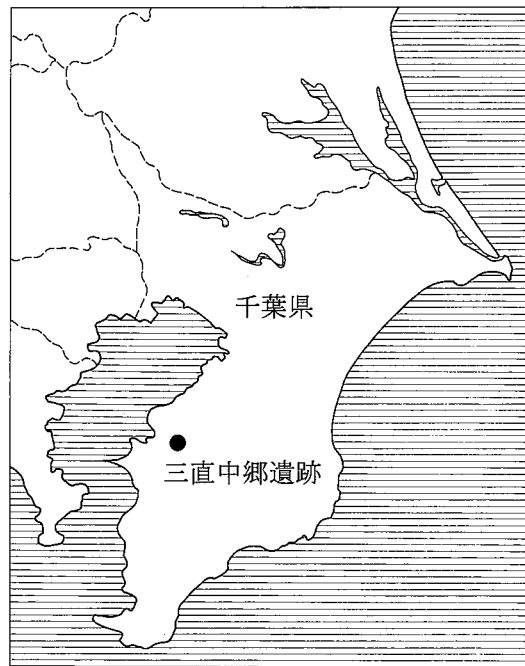
平成17年 3月

日 本 道 路 公 団

財団法人 千葉県文化財センター

# 東関東自動車道(木更津・富津線) 埋蔵文化財調査報告書 4

きみつ みのう なかごう おきた なかごう  
— 君津市三直中郷遺跡(沖田地区・中郷地区) —





三直中郷遺跡遠景



沖田地区 大足出土状況



沖田地区 田下駄出土状況



沖田地区 畦畔検出状況



中郷地区 ISB-010



中郷地区 IV区掘立柱建物跡群



中郷地区 出土貿易陶磁器

## 序 文

財団法人千葉県文化財センターは、埋蔵文化財の調査研究、文化財保護思想の涵養と普及などを主な目的として昭和49年に設立され、以来、多くの遺跡の発掘調査を実施し、その成果として多数の発掘調査報告書を刊行してきました。

このたび、千葉県文化財センター調査報告第522集として、日本道路公団の東関東自動車道（木更津・富津線）建設事業に伴って実施した君津市三直中郷遺跡（沖田地区・中郷地区）の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

この調査では、沖田地区で奈良・平安時代の多量の木製品を伴う水田跡が、中郷地区で奈良・平安時代の掘立柱建物跡、中・近世の屋敷地を形成する掘立柱建物跡や井戸が検出され、現在の中郷地区の村落景観の成立と変遷が窺われるなど、この地域の歴史を知る上で大変貴重な成果が得られています。

刊行に当たり、この報告書が学術資料として、また地域の歴史解明の資料として広く活用されることを願っております。

終わりに、調査に際し、御指導、御協力をいただきました地元の方々をはじめとする関係の皆様や関係機関、また、発掘から整理までご苦勞をおかけした調査補助員の皆様に心から感謝の意を表します。

平成17年3月25日

財団法人千葉県文化財センター  
理事長 清水 新次

## 凡 例

- 1 本書は、日本道路公団による東関東自動車道千葉富津線（木更津・富津線）建設事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査報告書の第4冊目である。
- 2 本書は下記の遺跡を収録したものである。

三直中郷遺跡沖田地区 千葉県君津市三直沖田917-1ほか （遺跡コード225-010A）  
三直中郷遺跡中郷地区 千葉県君津市三直中郷212ほか （遺跡コード225-010B）
- 3 発掘調査から報告書作成に至る業務は、日本道路公団の委託を受け、財団法人千葉県文化財センターが実施した。
- 4 発掘調査及び整理作業の担当者、実施期間は第1章第1節に記載した。
- 5 本書の編集・執筆は、第1章の一部を上席研究員 麻生正信が、付章を除くその他の章の執筆および編集を上席研究員 半澤幹雄が担当した。
- 6 出土した木製品のうち保存処理の必要があるものについて、株式会社東都文化財保存研究所に委託し、併せて、保存処理済みの木製品の樹種同定の自然科学分析も委託した。
- 7 発掘調査から報告書の刊行に至るまで、千葉県教育庁教育振興部文化財課、日本道路公団、君津市教育委員会、財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所、玉井哲雄氏、西尾太加二氏、小高春雄氏、井上哲朗氏、笹生 衛氏の御指導、御協力を得た。
- 8 本書で使用した地形図は、下記のとおりである。

第1図 国土地理院発行1/50,000地形図「木更津」(NI-54-25-4)  
国土地理院発行1/50,000地形図「富津」(NI-54-26-1)  
第2・3図 君津市役所発行1/2,500地形図E-5, E-6, F-5, F-6  
第4図 国土地理院発行1/25,000地形図「鹿野山」(NI-54-26-1-1)
- 9 周辺地形航空写真は、京葉測量株式会社による昭和42年撮影のものを使用した。
- 10 本書で使用した図面等の方位はすべて座標北であり、座標値は平成9年に実施した基準点測量の数値に基づいており、測量値は日本測地系による。
- 11 図面等におけるスクリーントーン及び記号等の用例は、それぞれに明示したものを除き、以下のとおりである。

● 土器

▲ 石器

★ 鹿角製品

⊙ 木製品

□ K 攪乱

■ 赤彩

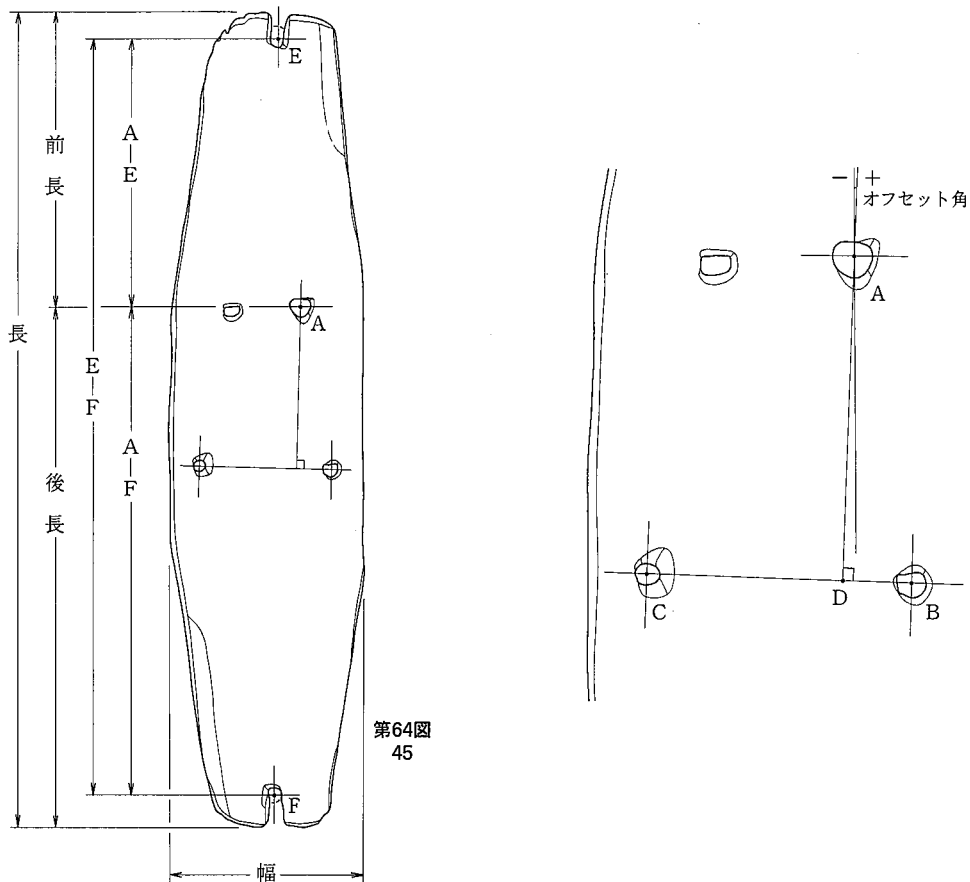


12 沖田地区では、杵付田下駄の足板が102点出土しており、これらの計測を下図に基づき実施し、第6表として掲載した。計測部位及びその方法は、大きく全体の計測と緒孔の計測に分けることができる。全体の計測では、全長、幅、厚みのほかに、前緒孔中心点をA点とし、A点から前端までの長さを前長、後端までを後長とした。杵（小口板）との緊縛孔については、前後の緊縛孔がそれぞれ中央に1か所ずつ配されたものを単式、板の左右に配され計4組の緊縛孔を有するものを複式とし、単式の場合は緊縛孔中心、複式の場合はA点からの長さの長い側の緊縛孔中心を前端部側をE点、後端部側をF点とし、それぞれ計測した。緊縛孔が2個1対となっているものはその中間点を計測点とした。

緒孔の計測については、足半の緒孔の計測法を採用し、前緒孔の中心をA点、二つの横緒孔の中心をB点、C点とし、BC間の水平線と前緒孔のAから下る垂直線との交点をD点として、それぞれの長さを計測した。足板全体の軸線とA-D線とのズレをオフセット角とし、軸線に対しA-D線の延長線が内側に振れる場合を「+」、外側に振れる場合を「-」であらわした。概念的には、装着時に前端が外側を向くものを「+」、内側を向くものを「-」として捉えることが可能である。

また、前緒孔を開け直した可能性があるものは、パターンとして別に計測した。

なお、出土時左右は出土時の実測図、表面の腐食状況から表裏を判断して左右を決定し、観察時左右は、杵の痕跡や緒孔の形状などから表裏を判断し左右を決定した。



第64図  
45

# 本文目次

第1章 はじめに .....	1
第1節 調査の概要 .....	1
第2節 遺跡の位置と環境 .....	6
1 遺跡の位置 .....	6
2 遺跡の環境 .....	6
第2章 沖田地区 .....	9
第1節 調査成果の概要 .....	9
第2節 調査の経過と整理の方法 .....	9
第3節 基本土層 .....	11
第4節 遺構 .....	15
1 溝状遺構 .....	15
2 土器散布地点 .....	15
3 畦畔 .....	16
4 木製品等集中地点 .....	16
第5節 遺物 .....	43
1 土器・陶器 .....	43
2 土製品 .....	45
3 石器・石製品 .....	45
4 金属製品 .....	45
5 銭貨 .....	45
6 木製品 .....	48
第3章 中郷地区 .....	107
第1節 調査の経過と概要 .....	107
第2節 弥生時代～古墳時代の遺構と遺物 .....	109
1 竪穴住居跡 .....	109
2 土坑 .....	117
3 溝状遺構 .....	117
4 遺構外出土遺物 .....	120

第3節 奈良・平安時代の遺構と遺物	127
1 竪穴住居跡	127
2 掘立柱建物跡	127
3 井戸・土坑	145
4 出土遺物	145
第4節 中・近世の遺構と遺物	157
1 掘立柱建物跡	157
2 井戸・土坑	192
3 出土遺物	209
第4章 まとめ	276
第1節 三直中郷遺跡の変遷	276
第2節 三直中郷遺跡の条里地割りについて	277
第3節 沖田地区の木製品について	280
付章 自然科学分析	281
第1節 放射性炭素年代測定	281
第2節 三直中郷遺跡出土材の樹種	284
報告書抄録	巻末

## 挿図目次

第1章	はじめに		
第1図	東関東自動車道(木更津～富津) 関連遺跡位置図(1:50,000)	3	
第2図	調査区位置図(1:10,000)	4	
第3図	調査区と調査年度(1:5,000)	5	
第4図	周辺の遺跡(1:25,000)	7	
第2章	沖田地区		
第5図	グリッド設定とトレンチ配置図	10	
第6図	沖田地区遺構配置と断面位置図	12	
第7図	基本層序1	13	
第8図	基本層序2	14	
第9図	西区遺構配置図	19	
第10図	西区遺構図1	20	
第11図	西区遺構図2	21	
第12図	西区遺構図3	22	
第13図	西区遺構図4	23	
第14図	東区遺構配置図	24	
第15図	東区遺構図	25	
第16図	西区木製品等出土状況割付図	26	
第17図	西区木製品等出土状況図(1)(1群)	27	
第18図	1群出土木製品	27	
第19図	西区木製品等出土状況図(2)(2群)	28	
第20図	2群出土木製品	29	
第21図	西区木製品等出土状況図(3)(3～5群)	30	
第22図	3群出土木製品	31	
第23図	4群出土木製品	31	
第24図	5群出土木製品	31	
第25図	西区木製品等出土状況図(4)(6, 7群)	32	
第26図	6群出土木製品	33	
第27図	7群出土木製品	33	
第28図	西区木製品等出土状況図(5)(8, 9群)	34	
第29図	8群出土木製品	35	
第30図	9群出土木製品	35	
第31図	東区木製品等出土状況割付図	36	
第32図	東区木製品等出土状況図(1)(10群)	37	
第33図	10群出土木製品	37	
第34図	東区木製品等出土状況図(2)(11～13群)	38	
第35図	11群出土木製品	39	
第36図	12群出土木製品	39	
第37図	13群出土木製品	39	
第38図	東区木製品等出土状況図(3)(14, 15群)	40	
第39図	14群出土木製品	41	
第40図	15群出土木製品	41	
第41図	土器等出土地点図	42	
第42図	出土土器, 陶器	44	
第43図	出土土製品, 石器, 鉄製品, 銅製品	46	
第44図	出土銭貨	47	
第45図	大足・田下駄分類図	49	
第46図	大足出土状況図	52	
第47図	出土木製品1(大足1)	53	
第48図	出土木製品2(大足2)	54	
第49図	出土木製品3(大足3)	55	
第50図	出土木製品4(大足4)	56	
第51図	出土木製品5(大足5)	57	
第52図	出土木製品6(田下駄1)	58	
第53図	田下駄出土状況図1	59	
第54図	出土木製品7(田下駄2)	59	
第55図	田下駄出土状況図2	60	
第56図	田下駄出土状況図3	60	
第57図	田下駄出土状況図4	61	
第58図	出土木製品8(田下駄3)	61	
第59図	田下駄出土状況図5	62	
第60図	出土木製品9(田下駄4)	62	
第61図	田下駄出土状況図6	63	
第62図	出土木製品10(田下駄5)	63	
第63図	出土木製品11(田下駄6)	64	
第64図	出土木製品12(田下駄7)	65	
第65図	出土木製品13(田下駄8)	66	
第66図	出土木製品14(田下駄9)	67	

第67図	出土木製品15 (田下駄10) ……………	68	第101図	弥生時代～古墳時代遺構配置図4 ……	113
第68図	出土木製品16 (田下駄11) ……………	69	第102図	弥生時代～古墳時代遺構配置図5 ……	114
第69図	出土木製品17 (田下駄12) ……………	70	第103図	I SI-003と出土遺物 ……………	115
第70図	出土木製品18 (田下駄13) ……………	71	第104図	I SI-008 ……………	115
第71図	出土木製品19 (田下駄14) ……………	72	第105図	I SI-002と出土遺物 ……………	116
第72図	出土木製品20 (田下駄15) ……………	73	第106図	I SI-001 ……………	117
第73図	出土木製品21 (田下駄16) ……………	74	第107図	I SI-001出土遺物 ……………	118
第74図	出土木製品22 (田下駄17) ……………	75	第108図	I SI-005 ……………	118
第75図	出土木製品23 (田下駄18) ……………	76	第109図	I SK-019と出土遺物 ……………	119
第76図	出土木製品24 (田下駄19) ……………	77	第110図	I SK-006と出土遺物 ……………	119
第77図	出土木製品25 (田下駄20) ……………	78	第111図	I SK-015と出土遺物 ……………	119
第78図	出土木製品26 (田下駄21) ……………	79	第112図	II SK-001 ……………	119
第79図	出土木製品27 (田下駄22) ……………	80	第113図	遺構外出土土器1 ……………	120
第80図	出土木製品28 (田下駄23) ……………	81	第114図	遺構外出土土器2 ……………	121
第81図	出土木製品29 (田下駄24) ……………	82	第115図	遺構外出土土器3 ……………	122
第82図	出土木製品30 (田下駄25) ……………	83	第116図	遺構外出土土器4 ……………	123
第83図	出土木製品31 (田下駄26) ……………	84	第117図	遺構外出土土器5 ……………	124
第84図	出土木製品32 (鍬) ……………	85	第118図	遺構外出土土製品類 ……………	124
第85図	出土木製品33 (鍬・鍬柄) ……………	86	第119図	遺構外出土石器・石製品1 ……………	125
第86図	出土木製品34 (鍬柄) ……………	87	第120図	遺構外出土石器・石製品2 ……………	126
第87図	出土木製品35 (鍬・鋤) ……………	88	第121図	奈良・平安時代遺構配置図1 ……………	128
第88図	出土木製品36 (容器) ……………	89	第122図	奈良・平安時代遺構配置図2 ……………	129
第89図	出土木製品37 (建築部材1) ……………	90	第123図	奈良・平安時代遺構配置図3 ……………	130
第90図	出土木製品38 (建築部材2) ……………	91	第124図	奈良・平安時代遺構配置図4 ……………	131
第91図	出土木製品39 (その他1) ……………	92	第125図	奈良・平安時代遺構配置図5 ……………	132
第92図	出土木製品40 (その他2) ……………	93	第126図	奈良・平安時代遺構配置図6 ……………	133
第93図	出土木製品41 (その他3) ……………	94	第127図	I SI-007と出土遺物 ……………	134
第94図	出土木製品42 (その他4) ……………	95	第128図	I SB-014と出土遺物 ……………	135
第95図	出土木製品43 (その他5) ……………	96	第129図	I SB-020と出土遺物 ……………	135
第96図	出土木製品44 (その他6) ……………	97	第130図	II SB-003 ……………	136
			第131図	II SB-001 ……………	136
第3章	中郷地区		第132図	II SB-004 ……………	137
第97図	グリッド設定とトレンチ配置図・ 調査区割図 ……………	108	第133図	II SB-002 ……………	137
第98図	弥生時代～古墳時代遺構配置図1 ……	110	第134図	II SB-006 ……………	138
第99図	弥生時代～古墳時代遺構配置図2 ……	111	第135図	I SB-002 ……………	138
第100図	弥生時代～古墳時代遺構配置図3 ……	112	第136図	I SB-001と出土遺物 ……………	139
			第137図	I SB-003と出土遺物 ……………	140

第138図	I SB-004と出土遺物	141	第175図	IVSB-003と出土遺物	165
第139図	I SB-007	142	第176図	IVSB-002と出土遺物	165
第140図	I SB-009	142	第177図	IVSB-004	167
第141図	I SB-010と出土遺物	143	第178図	IVSB-006と出土遺物	167
第142図	I SB-005と出土遺物	144	第179図	IVSB-005と出土遺物	168
第143図	IVSE-006と出土遺物	146	第180図	I SB-017	168
第144図	I SE-023	146	第181図	I SB-015A	170
第145図	I SE-020と出土遺物	146	第182図	I SB-015Bと出土遺物	170
第146図	I SK-029と出土遺物	147	第183図	I SB-015C	171
第147図	I SK-026と出土遺物	147	第184図	I SB-016	171
第148図	II SE-007	147	第185図	I SB-018	173
第149図	II SX-001と出土遺物	147	第186図	I SB-021	173
第150図	II SX-002と出土遺物	148	第187図	VSB-008	174
第151図	II SX-003と出土遺物	149	第188図	VSB-009と出土遺物	174
第152図	I SX-001と出土遺物	149	第189図	VSB-010	176
第153図	I SK-017と出土遺物	149	第190図	VSB-011と出土遺物	176
第154図	I SK-018と出土遺物	149	第191図	VSB-012と出土遺物	177
第155図	I SK-014	149	第192図	VSB-007と出土遺物	177
第156図	I SX-004	149	第193図	VSB-006	179
第157図	I SK-023と出土遺物	150	第194図	VSB-001	179
第158図	I SX-010	150	第195図	VSB-002と出土遺物	180
第159図	I SK-025と出土遺物	150	第196図	VSB-003	181
第160図	I SX-012と出土遺物	150	第197図	VSB-004	182
第161図	出土土器 1	151	第198図	VSB-005	182
第162図	出土土器 2	152	第199図	II SB-018	183
第163図	出土土器 3	153	第200図	II SB-012	183
第164図	出土土器 4	154	第201図	II SB-013	183
第165図	出土土器 5	155	第202図	II SB-005	185
第166図	出土土製品類	156	第203図	II SB-007	185
第167図	中世以降遺構配置図 1	158	第204図	II SB-014	185
第168図	中世以降遺構配置図 2	159	第205図	II SB-015	187
第169図	中世以降遺構配置図 3	160	第206図	II SB-016	187
第170図	中世以降遺構配置図 4	161	第207図	II SB-011	187
第171図	中世以降遺構配置図 5	162	第208図	II SB-008と出土遺物	188
第172図	中世以降遺構配置図 6	163	第209図	II SB-009	188
第173図	IVSB-007	164	第210図	II SB-010	190
第174図	IVSB-001	164	第211図	II SB-017	190

第212図	I SB-006	190	第249図	V SE-001	201
第213図	I SB-008	191	第250図	V SE-001出土遺物	202
第214図	I SB-012	191	第251図	I SK-003	203
第215図	I SB-013	191	第252図	V SE-007と出土遺物	203
第216図	IV SE-005と出土遺物	193	第253図	V SK-002	203
第217図	IV SE-002	193	第254図	V SK-006と出土遺物	203
第218図	IV SE-001と出土遺物	193	第255図	II SE-005	204
第219図	IV SE-007	193	第256図	II SE-002	204
第220図	I SE-003・004と出土遺物	194	第257図	II SE-003・004と出土遺物	204
第221図	III SX-001	194	第258図	II SE-006	205
第222図	I SE-018と出土遺物	194	第259図	I SK-002	205
第223図	I SE-019と出土遺物	195	第260図	I SX-002と出土遺物	205
第224図	I SE-017と出土遺物	195	第261図	I SX-007と出土遺物	206
第225図	I SE-006	195	第262図	I SX-006と出土遺物	206
第226図	I SX-015と出土遺物	196	第263図	I SK-001と出土遺物	206
第227図	I SX-017と出土遺物	196	第264図	I SE-001と出土遺物	206
第228図	I SX-016と出土遺物	196	第265図	I SK-008・009と出土遺物	207
第229図	V SK-001と出土遺物	196	第266図	I SK-011と出土遺物	207
第230図	V SK-003と出土遺物	197	第267図	I SK-012・013	207
第231図	I SE-016	197	第268図	I SK-024	207
第232図	V SE-003と出土遺物	197	第269図	I SX-009	207
第233図	I SE-011	197	第270図	I SK-020	208
第234図	I SE-012	197	第271図	IV SE-003	208
第235図	I SE-013と出土遺物	197	第272図	IV SE-004と出土遺物	208
第236図	I SE-007と出土遺物	198	第273図	出土陶磁器 1	210
第237図	I SE-008と出土遺物	198	第274図	出土陶磁器 2	213
第238図	I SE-014と出土遺物	198	第275図	出土陶磁器 3	214
第239図	I SE-015	198	第276図	出土陶磁器 4	215
第240図	I SE-002	199	第277図	出土陶磁器 5	216
第241図	II SX-004	199	第278図	出土陶磁器 6	217
第242図	II SE-001と出土遺物	199	第279図	出土陶磁器 7	218
第243図	V SE-005	200	第280図	出土陶磁器 8	219
第244図	V SE-006	200	第281図	出土陶磁器 9	220
第245図	V SE-008	200	第282図	出土陶磁器10	221
第246図	V SE-004と出土遺物	200	第283図	出土陶磁器11	222
第247図	V SE-002と出土遺物	200	第284図	出土土製品類	223
第248図	V SK-004	200	第285図	出土石器・石製品 1	224

第286図	出土石器・石製品 2	225	第294図	沖田地区木製品等出土状況と 条里区画	279
第287図	出土木製品 1	226	付章	自然科学分析	
第288図	出土木製品 2	227	第295図	暦年代較正グラフ(交点法)	283
第289図	出土鹿角製品	228	第296図	暦年代較正グラフ(確率法)	283
第290図	出土金属製品	228	第297図	三直中郷遺跡出土木製品・木材組織光 学顕微鏡写真(1)	287
第291図	出土銭貨 1	229	第298図	三直中郷遺跡出土木製品・木材組織光 学顕微鏡写真(2)	288
第292図	出土銭貨 2	230	第299図	三直中郷遺跡出土木製品・木材組織光 学顕微鏡写真(3)	289
第4章 まとめ					
第293図	沖田地区遺構配置と条里区画	278			

## 表目次

第2章 沖田地区		第11表	中郷地区掲載陶磁器一覧表	251
第1表	沖田地区掲載土器・陶磁器観察表	第12表	中郷地区土錘・土製品観察表	259
第2表	沖田地区土錘・土製品観察表	第13表	中郷地区石器・石製品観察表	260
第3表	沖田地区石器・石製品観察表	第14表	中郷地区銭貨計測表	261
第4表	沖田地区銭貨計測表	第15表	中郷地区木製品観察表	261
第5表	沖田地区木製品観察表	第16表	中郷地区陶磁器遺構別組成表	262
第6表	沖田地区足板計測表	第17表	中郷地区出土鉄滓計測表	272
第3章 中郷地区		付章	自然科学分析	
第7表	中郷地区住居跡・掘立柱建物跡 一覧表	第18表	放射性炭素年代測定および暦年代較正の 結果	281
第8表	中郷地区井戸・土坑一覧表	第19表	樹種同定結果	284
第9表	中郷地区溝状遺構一覧表	第20表	器種別にみた用材	284
第10表	中郷地区掲載土器観察表			

## 図版目次

巻頭図版 1	三直中郷遺跡遠景 沖田地区 大足出土状況	図版 1	遺跡周辺航空写真
巻頭図版 2	沖田地区 田下駄出土状況 沖田地区 畦畔検出状況	図版 2	調査区遠景(南から) 調査区西側遠景(東から)
巻頭図版 3	中郷地区 I SB-010 中郷地区 IV区掘立柱建物跡群	第2章	沖田地区
巻頭図版 4	中郷地区 出土貿易陶磁器	図版 3	沖田地区遠景 沖田地区遠景 沖田地区遠景



	A-A' 断面		
	B-B' 断面		
図版 4	SD-001	図版 11	11~13群木製品等出土状況
	SD-001		11群 (35) 出土状況
	SD-002		11群 (35) 出土状況
	SD-002A-A' 断面		東区下部木製品等出土状況
	SD-002	図版 12	14群木製品等出土状況
図版 5	C3-22グリッド杭列		14群 (1,2) 出土状況
	C3-22グリッド杭列		14群 (1) 出土状況
	C3-22グリッド杭列		14群 (2) 出土状況
	C3-22グリッド杭列	図版 13	出土土器
	SX-001	図版 14	出土土製品・石器・金属製品
図版 6	2群木製品等出土状況		出土銭貨
	2群木製品等出土状況	図版 15	出土木製品 1
	2群木製品等出土状況	図版 16	出土木製品 2
	1群木製品等出土状況	図版 17	出土木製品 3
	1群 (179) 出土状況	図版 18	出土木製品 4
図版 7	3群木製品等出土状況	図版 19	出土木製品 5
	3群 (31) 出土状況	図版 20	出土木製品 6
	輪カンジキ型田下駄 (85,175) 出土状況	図版 21	出土木製品 7
	4群木製品等出土状況	図版 22	出土木製品 8
	4群 (146) 出土状況	図版 23	出土木製品 9
図版 8	6群木製品等出土状況	図版 24	出土木製品 10
	6群 (24) 出土状況	図版 25	出土木製品 11
	6群 (23,28) 出土状況	図版 26	出土木製品 12
	6群 (36) 出土状況	図版 27	出土木製品 13
	6群木製品等出土状況	図版 28	出土木製品 14
図版 9	6群 (186) 出土状況	図版 29	出土木製品 15
	8群木製品等出土状況	図版 30	出土木製品 16
	6群 (183) 出土状況	図版 31	出土木製品 17
	6群 (184) 出土状況	図版 32	出土木製品 18
	8群木製品等出土状況	図版 33	出土木製品 19
図版 10	7群木製品等出土状況	図版 34	出土木製品 20
	7群 (107,174) 出土状況	図版 35	出土木製品 21
	8群木製品等出土状況	図版 36	出土木製品 22
	その他木製品 (199) 出土状況	図版 37	出土木製品 23
	8群 (34,108) 出土状況		

第3章 中郷地区

- 図版38 I 区奈良・平安時代建物跡  
I 区(平成13年度調査区)空撮
- 図版39 I SI-002  
I SI-001  
I SI-001カマド
- 図版40 I SI-005  
I SK-006  
I SD-031・IIISD-008
- 図版41 I SI-007  
I SB-014  
II SB-003・004
- 図版42 II SB-001  
I SB-002  
I SB-001・003
- 図版43 I SB-004  
I SB-010  
I SB-005
- 図版44 IVSE-006, I SE-020, I SK-029, II SX-001, II SX-002, II SX-003, I SX-004, I SX-012
- 図版45 IVSB-001~007  
IVSB-001  
IVSB-005・006
- 図版46 VSB-008・009, VSE-004, VSD-004・005  
VSB-010・011・012, VSE-005・006, VSD-005  
VSB-006・007, VSB-007P 3
- 図版47 VSB-001~005, VSK-002, VSD-003  
II SB-005  
I SB-006
- 図版48 IVSE-002, IVSE-001, I SE-003, IIISX-001, I SE-018, I SE-019, I SE-016, I SE-012
- 図版49 I SE-013, I SE-007, I SE-008, I SE-015, II SX-004, II SE-001, VSE-001, I SX-007
- 図版50 I SX-006, I SK-024, IVSE-004, I SX-011, I SX-014, I SD-001, I SD-004, I SD-021・023
- 図版51 I SD-033, I SD-038, I SD-041, I SD-042・043, I SD-044・047, I SD-047, I SD-048, IVSD-007・008・009・011
- 図版52 出土土器(弥生~古墳時代) 1
- 図版53 出土土器(弥生~古墳時代) 2
- 図版54 出土土器(弥生~古墳時代) 3
- 図版55 出土須恵器・土製品類(古墳時代)
- 図版56 出土石器・石製品(弥生~古墳時代)
- 図版57 出土土器(奈良・平安時代) 1
- 図版58 出土土器(奈良・平安時代) 2
- 図版59 出土土器(奈良・平安時代) 3
- 図版60 出土土器(奈良・平安時代) 4
- 図版61 出土須恵器(奈良・平安時代)
- 図版62 出土緑釉・灰釉陶器(奈良・平安時代)  
出土土製品類(奈良・平安時代)
- 図版63 出土陶磁器 1
- 図版64 出土陶磁器 2
- 図版65 出土陶磁器 3
- 図版66 出土陶磁器 4
- 図版67 出土陶磁器 5
- 図版68 出土陶磁器 6
- 図版69 出土陶磁器 7
- 図版70 出土陶磁器 8
- 図版71 出土陶磁器 9
- 図版72 出土陶磁器10
- 図版73 出土陶磁器11  
出土陶磁器12
- 図版74 出土土製品類(中世以降)
- 図版75 出土石器・石製品(中世以降)
- 図版76 出土木製品 1
- 図版77 出土木製品 2
- 図版78 出土鹿角製品・金属製品
- 図版79 出土銭貨(表面)  
出土銭貨(裏面)

# 第1章 はじめに

## 第1節 調査の概要（第1～3図）

日本道路公団は、房総半島内房地域の発展及び東京湾周辺の主要都市の連携を強化するため、千葉市から富津市に至る高速自動車道である東関東自動車道千葉富津線（路線名：館山自動車道）約56kmを計画した。このうち、平成7年度に千葉市から木更津南インターチェンジまでの約35kmが開通している。次いで、木更津南ジャンクションから君津市を経て富津竹岡インターチェンジに至る約21kmの区間が東関東自動車道（木更津～富津）として事業化され、建設が行われることとなった。この道路建設に当たり、路線上に所在する遺跡について、日本道路公団より千葉県教育委員会に「埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いについて」の照会があり、これを受けて、千葉県教育委員会では現地踏査を実施し、路線上に多数の遺跡が所在する旨、回答した。その取扱いについて、千葉県教育委員会と日本道路公団の間で慎重な協議が重ねられたが、現状保存が困難な部分については、止むを得ず発掘調査による記録保存の措置を講ずることによって協議が整い、調査は財団法人千葉県文化財センターに委託されることとなった。

三直中郷遺跡の発掘調査は、まず平成9年12月1日から平成10年3月31日まで沖田地区の50,500㎡についての確認調査が実施されたが、木製品が出土した一部の地区を拡張したのみで、確認調査の範囲で終了した。次いで平成10年4月1日から平成10年7月31日まで、沖田地区の西端部分と中郷地区の47,200㎡について確認調査が実施された。確認調査の結果、沖田地区では弥生時代中期の溝や奈良・平安時代の水田畦畔及び多量の木製品を検出し、4,370㎡を本調査とした。中郷地区では古墳時代後期の溝や奈良・平安時代から中・近世に及ぶ掘立柱建物跡群を検出し、25,069㎡について本調査を実施することとし、平成11年3月31日まで本調査を継続して実施した。なお、確認調査の結果から三直中郷遺跡の中央を横切る県道君津鴨川線を境に北部と南部で遺跡の様相が異なることが明らかとなり、これにより県道の北側をその小字名から「沖田地区」、南側を「中郷地区」と呼称し本調査を実施した。また、中郷地区の市道等の部分（3,634㎡）については工事等の工程から次年度以降の調査となり、平成10年度に実施した三直中郷遺跡の本調査面積は全体で23,085㎡（沖田地区4,370㎡、中郷地区18,715㎡）であった。平成13年9月1日から平成13年12月26日まで中郷地区の残分1,984㎡に市道部分1,650㎡を合わせた3,634㎡について本調査が実施され、三直中郷遺跡の現地調査の全てを終了した。これにより、三直中郷遺跡は全体で調査対象面積99,450㎡、本調査面積26,719㎡、このうち沖田地区の対象面積72,802㎡、本調査面積4,370㎡、中郷地区の対象面積26,648㎡、本調査面積22,349㎡となった。

なお、本調査と前後して実施された主要地方道君津鴨川線道路改良工事に伴う埋蔵文化財調査は「三直中郷遺跡坂ノ下地区」と呼称され、平成11年度に発掘調査が実施され、平成15年度に報告書が刊行された<sup>1)</sup>。また、財団法人君津郡市文化財センターにおいて本遺跡の西部分で発掘調査が行われ、報告書が刊行されている<sup>2)</sup>。

整理作業は平成13年度後半から開始され、平成16年度をもって報告書刊行の運びとなった。

発掘調査及び整理作業に係る各年度の組織、担当職員並びに作業内容は以下のとおりである。

平成9年度

期 間 平成9年12月1日～平成10年3月31日（発掘）  
担当職員 南部調査事務所長 高田 博，副所長 野口行雄  
内 容 沖田地区 確認調査 1,640m<sup>2</sup>/50,500m<sup>2</sup>

平成10年度

期 間 平成10年4月1日～平成11年3月31日（発掘）  
担当職員 南部調査事務所長 高田 博，副所長 柴田龍司，主任技師 鈴木良征，  
主任技師 渡邊昭宏  
内 容 沖田地区・中郷地区 確認調査 2,360m<sup>2</sup>/47,200m<sup>2</sup>  
沖田地区 本調査 4,370m<sup>2</sup>  
中郷地区 本調査 18,715m<sup>2</sup>

平成13年度

期 間 平成13年9月1日～平成13年12月26日（発掘）  
平成14年1月4日～平成14年3月31日（整理）  
担当職員 南部調査事務所長 高田 博，研究員 半澤幹雄  
内 容 中郷地区 本調査 3,634m<sup>2</sup>  
水洗注記から復元接合の一部まで

平成14年度

南部調査事務所

期 間 平成14年9月1日～平成14年12月28日（整理）  
担当職員 南部調査事務所長 鈴木定明，主席研究員 土屋治雄，  
木更津調査室長 小林清隆，研究員 鶴岡 健  
内 容 復元接合の一部および実測の一部まで  
整 理 課  
期 間 平成14年12月1日～平成15年3月31日（整理）  
担当職員 整理課長 深澤克友，主席研究員 太田文雄，整理技術員 木島桂子  
内 容 実測の一部

平成15年度

期 間 平成15年6月1日～平成15年6月30日（整理）  
平成15年12月1日～平成16年3月31日（整理）  
担当職員 南部調査事務所長 鈴木定明，副所長 土屋治雄，上席研究員 石川 誠，  
上席研究員 半澤幹雄  
内 容 復元接合の一部および実測の一部から原稿執筆の一部

平成16年度

期 間 平成16年4月1日～平成16年9月30日（整理）

平成16年11月1日～平成17年1月31日（整理）

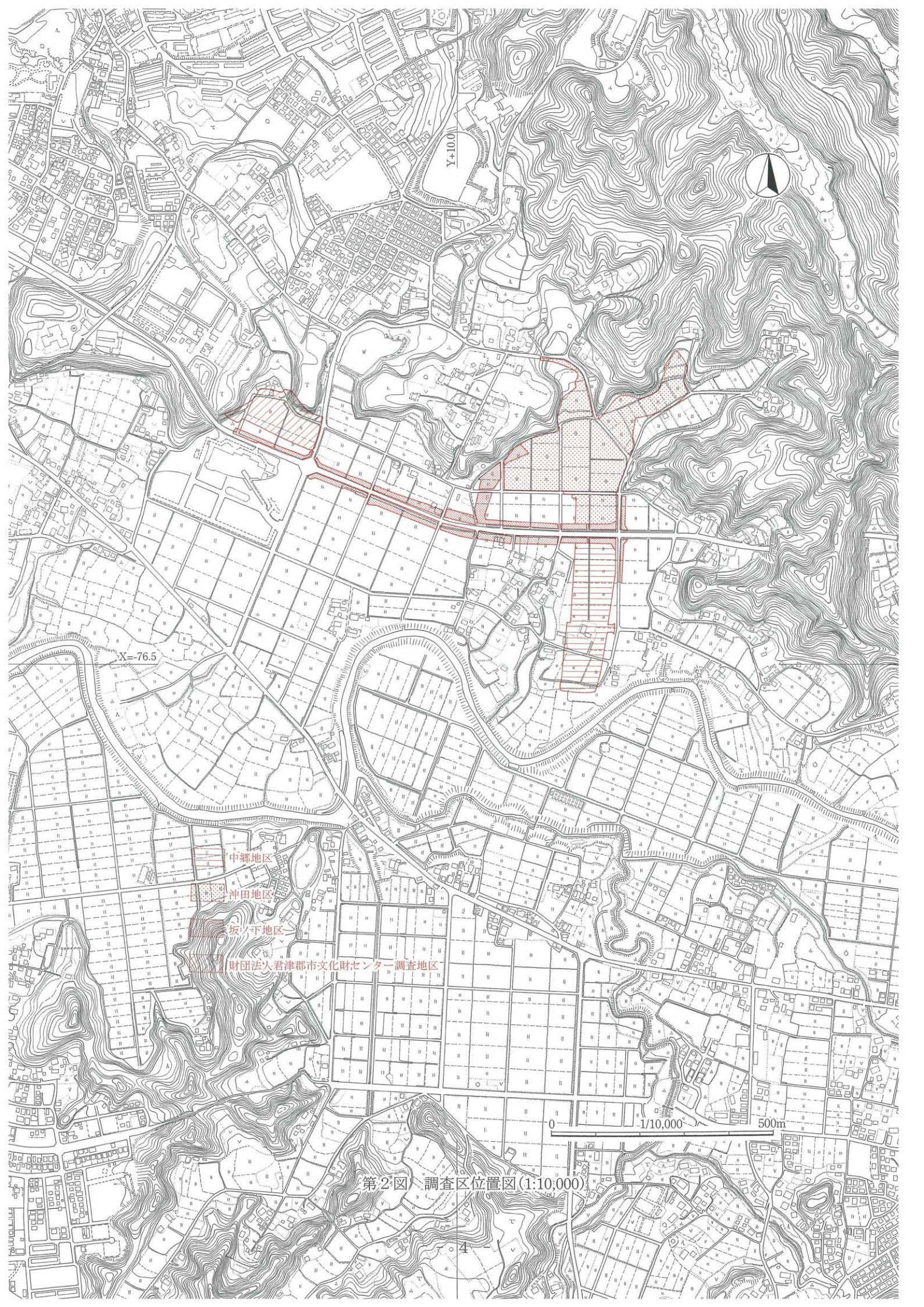
担当職員 南部調査事務所長 高田 博，上席研究員 岸本弘三

上席研究員 麻生正信，上席研究員 半澤幹雄

内 容 原稿執筆の一部から編集・報告書刊行



第1図 東関東自動車道(木更津～富津)関連遺跡位置図(1:50,000)



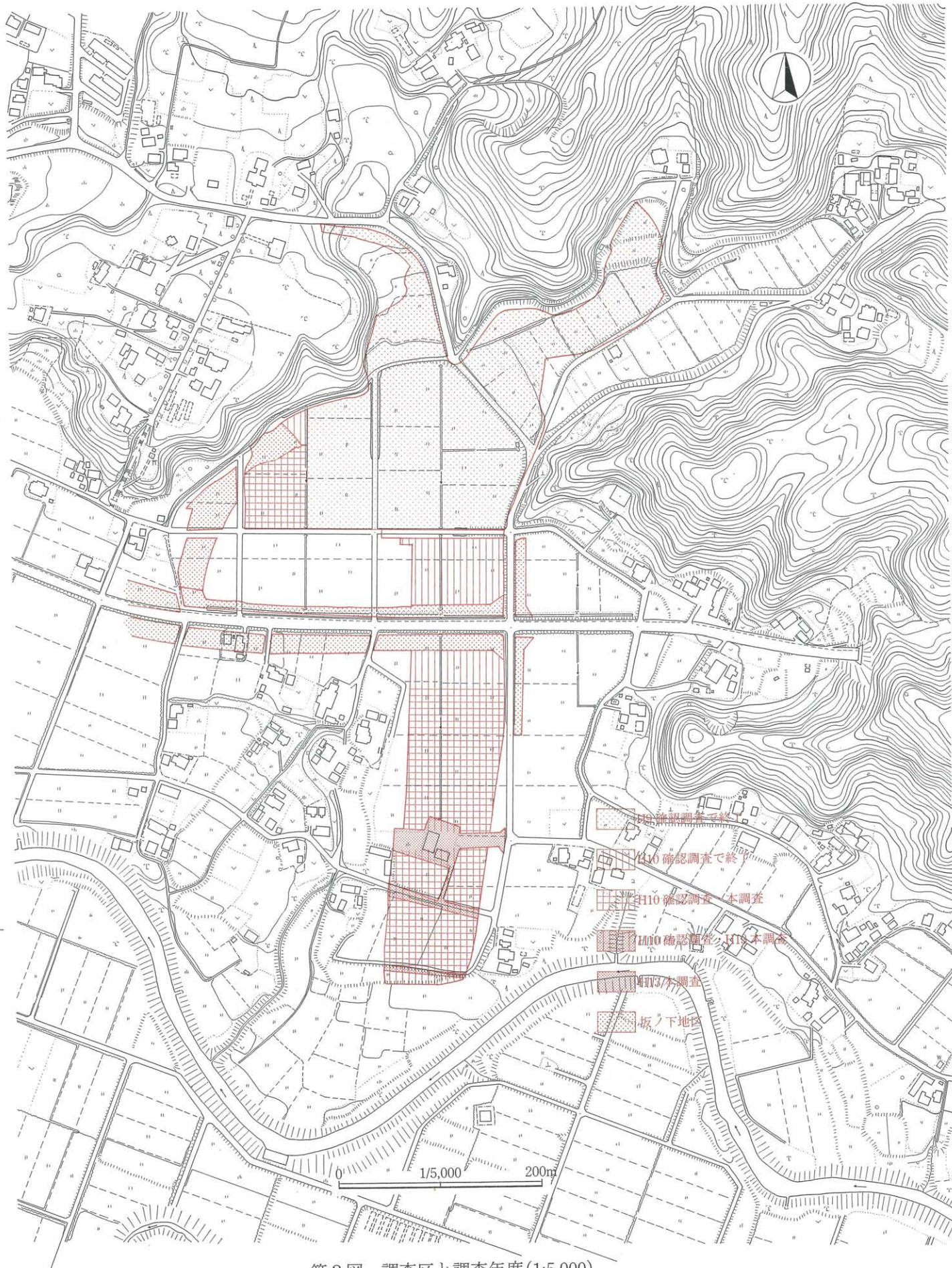
X-76.5

Y+10.0

- 中郷地区
- 沖田地区
- 坂ノ下地区
- 財団法人君津郡市文化財センター調査地区

0 1/10,000 500m

第2図 調査区位置図(1:10,000)



第3図 調査区と調査年度(1:5,000)

## 第2節 遺跡の位置と環境 (第4図)

### 1 遺跡の位置

房総丘陵中央に源を発する小糸川は、北上しながら次第に流域を広げ、中流域では流路を西に変え、南北を急峻な丘陵に囲まれた広大な沖積地を形成している。三直中郷遺跡はその右岸の丘陵裾までを範囲とし、自然堤防上と後背湿地とを主とした自然環境に形成された遺跡である。さらに北側の小支谷では多量の土砂が運び込まれた氾濫原を形成している。標高は自然堤防上で20m前後、後背湿地で標高17mほどを測る。

### 2 遺跡の環境

三直中郷遺跡の周辺は、小糸川の後背湿地においては小区画の水田耕作が長らく行われてきた。しかし、近年の圃場整備事業等によって大区画に整備され、現在の景観になった。また、水はけの比較的良好な自然堤防上や丘陵裾部には近世以来の農家が点在しているが、今回の調査によってその初現は中世に遡ることが分かってきた。

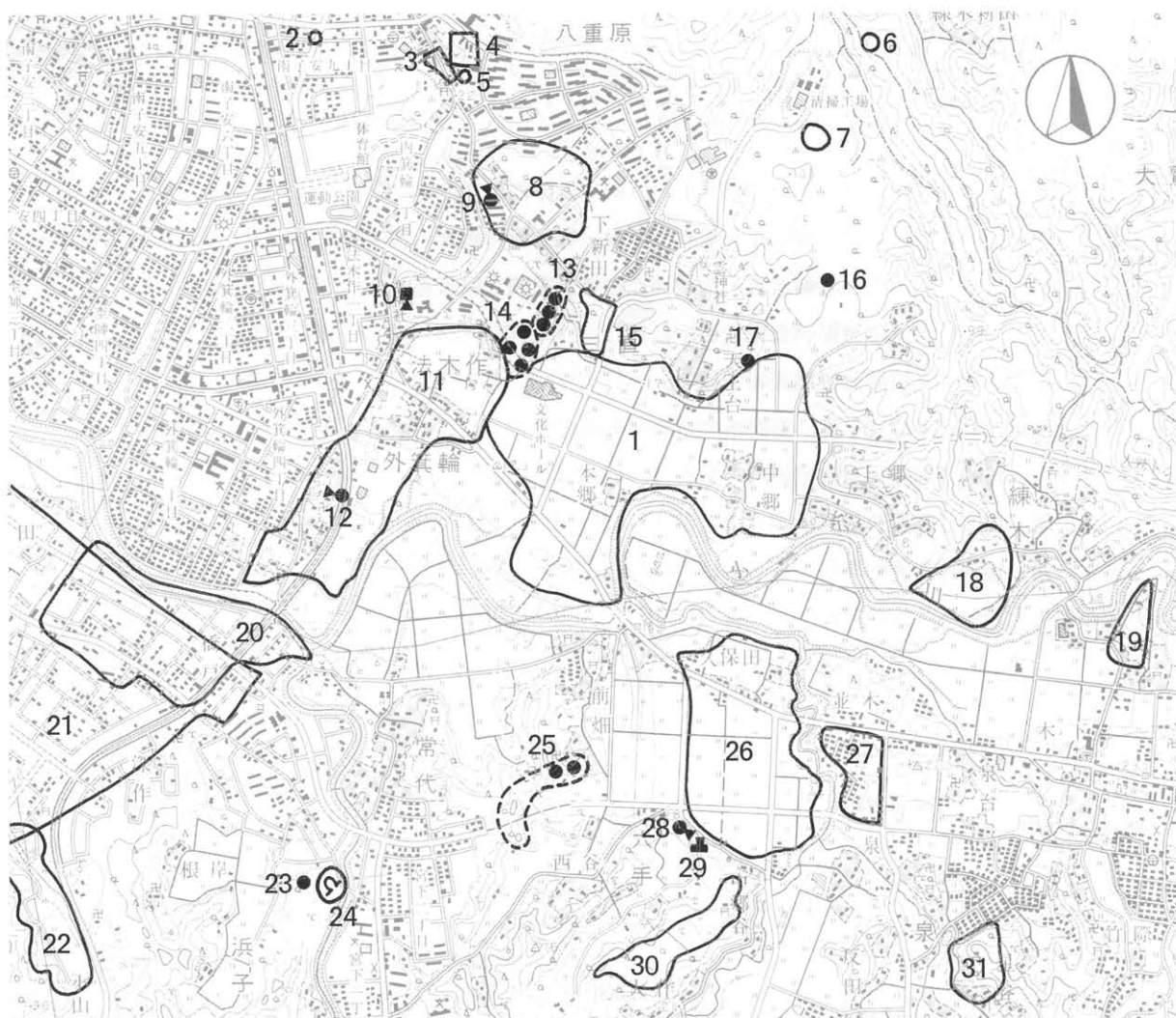
周辺の丘陵上では、旧石器時代以降の数々の遺跡を見ることができる。旧石器時代では、立川ロームV層から剥片が出土した畑沢遺跡<sup>3)</sup>、星谷上遺跡<sup>4)</sup>があげられる。縄文時代では、早期の炉穴や竪穴住居跡が検出された踊ヶ作遺跡<sup>5)</sup>、中期の竪穴住居跡と石鏃の製作跡が検出された練木遺跡<sup>6)</sup>、後期から晩期の拠点遺跡であり地点貝塚や大型住居跡が検出された、いわゆる環状盛土遺構の三直貝塚<sup>7)</sup>は、本遺跡の北方の標高約100mの丘陵先端に築かれている。

弥生時代では、丘陵のみでなく小糸川流域の沖積地にも進出し、初期の小区画水田が検出されている。西方2kmに位置する常代遺跡<sup>8)</sup>では、中期の水田遺構のほかにも多数の方形周溝墓、水路跡、土器のほかにも木製品が検出され、また、小糸川の対岸の丘陵先端の鹿島台遺跡<sup>9)</sup>では、中期から後期の集落跡、中期の環濠や方形周溝墓が検出された。小銅鐸・釧等が出土し注目された大井戸八木遺跡<sup>10)</sup>は、5km上流の丘陵上に位置する。

古墳時代では、小糸川流域で初現の古墳は、前方後方墳の形状をとるものが特徴であり、小糸川右岸の西方1.5kmに位置する県指定史跡の道祖神裏古墳<sup>11)</sup>、本遺跡のすぐ北側の低丘陵上に沖込遺跡1号墳<sup>12)</sup>、さらに上流左岸の丘陵上には、2基の前方後方墳を有する駒久保古墳群<sup>13)</sup>が存在する。その後続く古墳としては、道祖神裏古墳の東に隣接し横矧錨留短甲が2両出土した八重原古墳群<sup>14)</sup>が、また、外箕輪遺跡の位置する沖積地には、二重周溝を持つ八幡神社古墳<sup>15)</sup>が存在する。

古墳時代の低地の集落跡としては、5～6世紀の竪穴住居跡が検出された泉遺跡<sup>16)</sup>、6～8世紀の大型掘立柱建物跡群が確認された郡遺跡<sup>17)</sup>があげられる。郡遺跡は奈良・平安時代になると、条里地割が遺存し、郡衙が想像される遺跡である。また、その北方には、8世紀代の整然とした掘立柱建物跡が検出された外箕輪遺跡<sup>18)</sup>があげられる。外箕輪遺跡は、12～14世紀の掘立柱建物跡と貿易陶磁器が検出され、泉遺跡では11～14世紀の掘立柱建物跡が、郡遺跡では13～14世紀の掘立柱建物跡が、常代遺跡でも13世紀代の掘立柱建物跡が検出されるなど、小糸川の低地には中世まで連続と継続した居住域が営まれた。





- 1, 三直中郷遺跡 2, 南子安遺跡 3, 南子安金井崎遺跡 4, 九十九坊廃寺跡 5, 九十九坊台遺跡 6, 練木遺跡 7, 三直貝塚  
 8, 畑沢遺跡 9, 星谷上古墳 10, 道祖神裏古墳 11, 外箕輪遺跡 12, 八幡神社古墳 13, 八重原古墳群 14, 宇曾貝四ツ塚古墳群  
 15, 三直城跡 16, 沖込遺跡 17, 三直台古墳 18, 寺崎遺跡 19, 天神台遺跡 20, 常代遺跡 21, 郡条里遺跡 22, 郡遺跡  
 23, 関ノ前遺跡 24, 日影山横穴 25, 奥中谷古墳群 26, 姥田遺跡 27, 泉遺跡 28, 狐山古墳 29, 狐山砦跡 30, 鹿島台遺跡  
 31, 星谷城跡

第4図 周辺の遺跡(1:25,000)

- 注1 相京邦彦 2003『主要地方道君津鴨川線道路改良工事に伴う埋蔵文化財調査報告-三直中郷遺跡 坂ノ下地区-』(財)千葉県文化財センター第453集
- 2 渡邊祐二 2001『三直中郷遺跡発掘調査報告書』(財)君津郡市文化財センター第168集
- 3 佐伯秀人 1989『星谷上古墳・畑沢遺跡(第2次調査)』(財)君津郡市文化財センター第43集
- 4 注3に同じ
- 5 (財)千葉県文化財センター調査
- 6 田島 新 2003『東関東自動車道(木更津・富津線)埋蔵文化財調査報告書1-君津市練木遺跡-』(財)千葉県文化財センター第460集
- 7 注5に同じ
- 8 甲斐博幸 1996『常代遺跡群』(財)君津郡市文化財センター第112集  
 半澤幹雄 2004『国道127号埋蔵文化財調査報告書』(財)千葉県文化財センター第493集

- 9 注5に同じ
- 10 矢野淳一・甲斐博幸 1996『大井戸八木25号墳・大井戸八木遺跡』(財)君津郡市文化財センター第123集
- 11 大塚初重 1976『千葉県君津市道祖神裏古墳調査概要』
- 12 注5に同じ
- 13 酒巻忠史 1991『駒久保古墳群の調査(1)』(財)君津郡市文化財センター研究紀要V
- 14 杉山晋作 1989『千葉県君津市所在八重原1号墳・2号墳の調査 古墳時代研究Ⅲ』調査は昭和42年
- 15 笹生 衛 1989『君津市外箕輪遺跡・八幡神社古墳発掘調査報告書』(財)千葉県文化財センター第180集
- 16 松本 勝 1996『泉遺跡発掘調査報告書Ⅰ』(財)君津郡市文化財センター第110集  
矢野淳一 1996『泉遺跡発掘調査報告書Ⅱ』(財)君津郡市文化財センター第111集  
西原崇浩 2001『平成12年度 君津市内遺跡発掘調査報告書Ⅱ 泉遺跡』君津市教育委員会
- 17 戸倉茂行 1990『郡条里遺跡発掘調査報告書』(財)君津郡市文化財センター第52集  
笹生 衛 1996『郡遺跡群発掘調査報告書Ⅱ』(財)君津郡市文化財センター第73集
- 18 笹生 衛 1994『外箕輪遺跡Ⅰ』(財)君津郡市文化財センター第98集  
伊藤伸久 1997『外箕輪遺跡Ⅱ』(財)君津郡市文化財センター第126集

## 第2章 沖田地区

### 第1節 調査成果の概要

沖田地区では、平成9年度に実施した確認調査拡張区（東区）と平成10年度に実施した本調査区（西区）から縄文時代晩期の伐採根多数、弥生時代中期の溝状遺構1条、古墳時代前期の溝状遺構1条、土器散布地点2か所、奈良・平安時代の畦畔、木製品多数を検出した。

### 第2節 調査の経過と整理の方法（第5図）

平成9年度の確認調査では、対象面積50,500m<sup>2</sup>に対し、1,640m<sup>2</sup>の確認トレンチを設定し、確認調査を実施した。T37では大足などの木製品が検出されたため周囲を拡張し、溝を検出したが溝及び木製品の性格、時代等が明瞭でなかったため確認調査の範囲内で終了した。

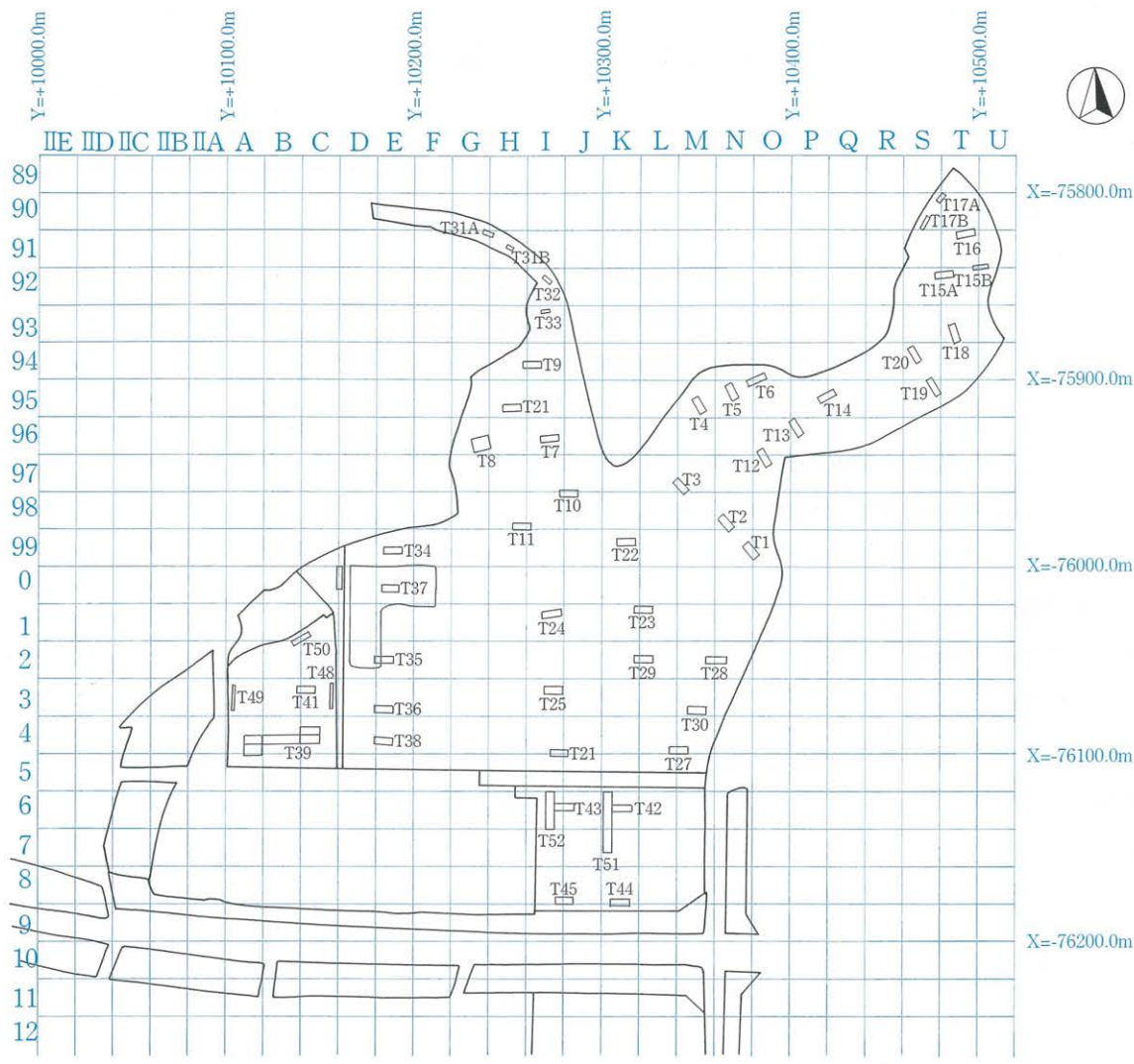
平成10年度の確認調査では、T39およびT48で木製品が出土したことから拡張したところ多量の木製品が出土し、弥生時代中期の遺物を出土する溝や古代と判断される畦畔が検出されたため、4,370m<sup>2</sup>に対し本調査を実施した。

本調査区内では、南端で小糸川により形成された自然堤防と後背湿地の境に弥生時代中期の遺物を出土する溝（SD-001）を検出したほか、黒色土を含む溝状遺構（SD-002）や未分解の腐食土層が溝状に検出された。未分解の腐食土層は畦畔と判断され、水田跡が展開することが想定された。木製品は後述する本調査区内基本土層のV層から出土し、畦畔及びSD-001はV層下部から検出されることから、V層上面まで重機で掘削し、木製品を検出しながらV層下部の畦畔と溝を検出してゆくこととした。調査時点の所見では、IV層が奈良・平安時代の耕作土、V層が弥生後期から古墳時代の耕作土、VI層はそれ以前の湿地帯に堆積した腐植土層で、本調査区内の基盤となる層と判断された。調査の結果、木製品が特定の方向を向いて検出され、木製品が畦畔の補強材として使用されたことが判断されたが、腐植土層の遺存状況から判断される畦畔と補強材である木製品から判断される畦畔には、何れも2方向以上の畦畔が推定されるが、層位的な識別が出来なかった。

本調査範囲に、公共座標に合わせて東西南北に20m×20mの方眼網を設定し、大グリッドとした。大グリッドはX=-76,000.0m、Y=+10,100.0mを起点とし、北から南に0, 1, 2, …とし、西から東にA, B, C, …として、これを組み合わせて使用した。大グリッド内には2m×2mに100分割の小グリッドを設定し、北西隅を起点に00, 01, 02, …として、南西隅を99とした。グリッド名はこれにより、大グリッドと小グリッドを組み合わせて、A1-23のように表示することにした。

整理作業において、本調査区内の土層堆積状況、畦畔の位置及び畦畔の内容から判断した結果、2方向を基準とする条里地割が推定された。2方向の条里地割は時期の異なるものと判断され、これにより、木製品の時期を推定することとした。

なお、平成9年度に実施したT37の確認調査拡張区については、本調査範囲の成果から畦畔を示すものと判断されることから、確認調査拡張区として本調査区と同様に扱うこととしたい。



20m

00	01	02	03	04	05	06	07	08	09
10	11								
20		22							
30			33						
40				44					
50					55				
60						66			
70							77		
80								88	
90									99

20m

小グリッド

第5図 グリッド設定とトレンチ配置図

### 第3節 基本土層（第7・8図，図版3）

本調査区（西区）及び確認調査拡張区（東区）の基本土層は第7・8図に示したとおりである。調査時点で作成した土層図は，本調査区内中央部を横断して作成したA-A'断面（以下A断面），本調査区の東壁を5か所を選択して作成したB1-B1'～B5-B5'断面（以下B断面），南壁の5か所を選択して作成したC1-C1'～C5-C5'断面（以下C断面）と確認調査拡張区の北壁の2か所を選択して作成したD1-D1'～D2-D2'断面（以下D断面），東壁の2か所を選択して作成したE1-E1'～E2-E2'断面（以下E断面）の5本の土層断面があるが，土質などの内容については対応関係が明確に記述されていなかった。整理作業により，各土層の対応関係を概ね復元することが出来たが，A断面を標準土層としてローマ数字により表記し，B断面，C断面，D・E断面については調査時点での土層注記をアラビア数字で示した後，各層をA断面の基準土層に合わせることにした。なお，各土層断面の位置は第6図のとおりである。

#### A断面（第7図）

I層 圃場整備後の耕作土で，上部の耕作土にあたる黒色土層（Ia層）と，鋤床にあたる褐色土層の2層に分層される。

II層 近代以後，圃場整備以前耕作土と判断され，灰白色土層であるが，酸化鉄の凝集の認められる上層（IIa層）と，下層のIII層により近いIIb層に細分することが可能である。

なお，I層とII層の境目には鉄分の帯が認められた。

III層 近世耕作土と判断され，粘性の強い灰色粘質土層で径1cm～3cmの白色砂岩ブロックを多く含む。

IV層 中世の耕作土と判断され，上部の青灰色の砂質粒の混じる黒灰色土層（IVa層）と下部のV層を含む黒色砂質土層（IVb層）に細分される。

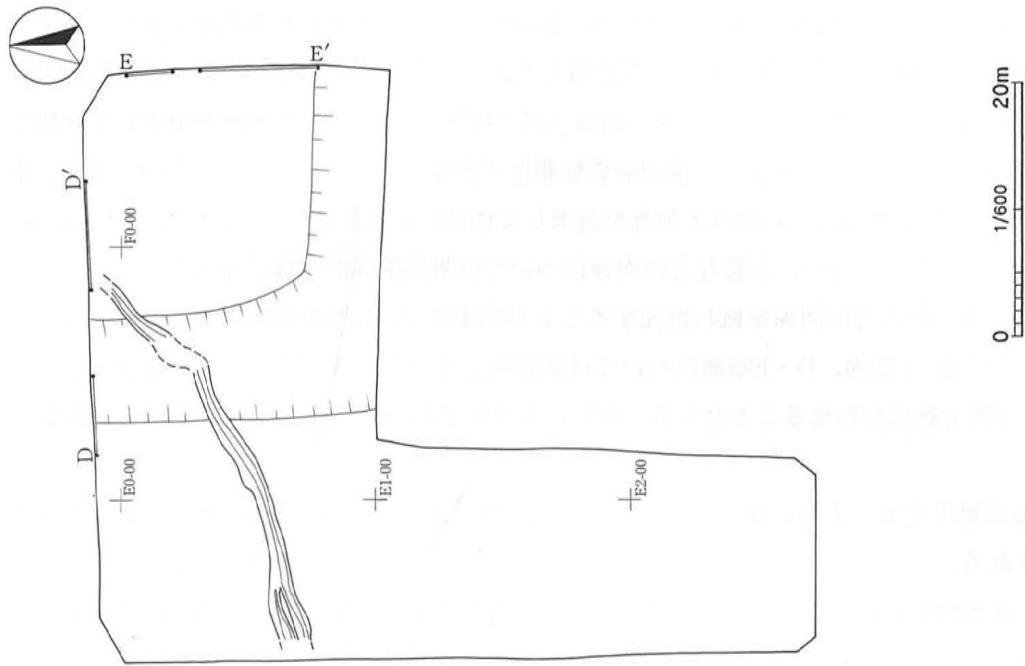
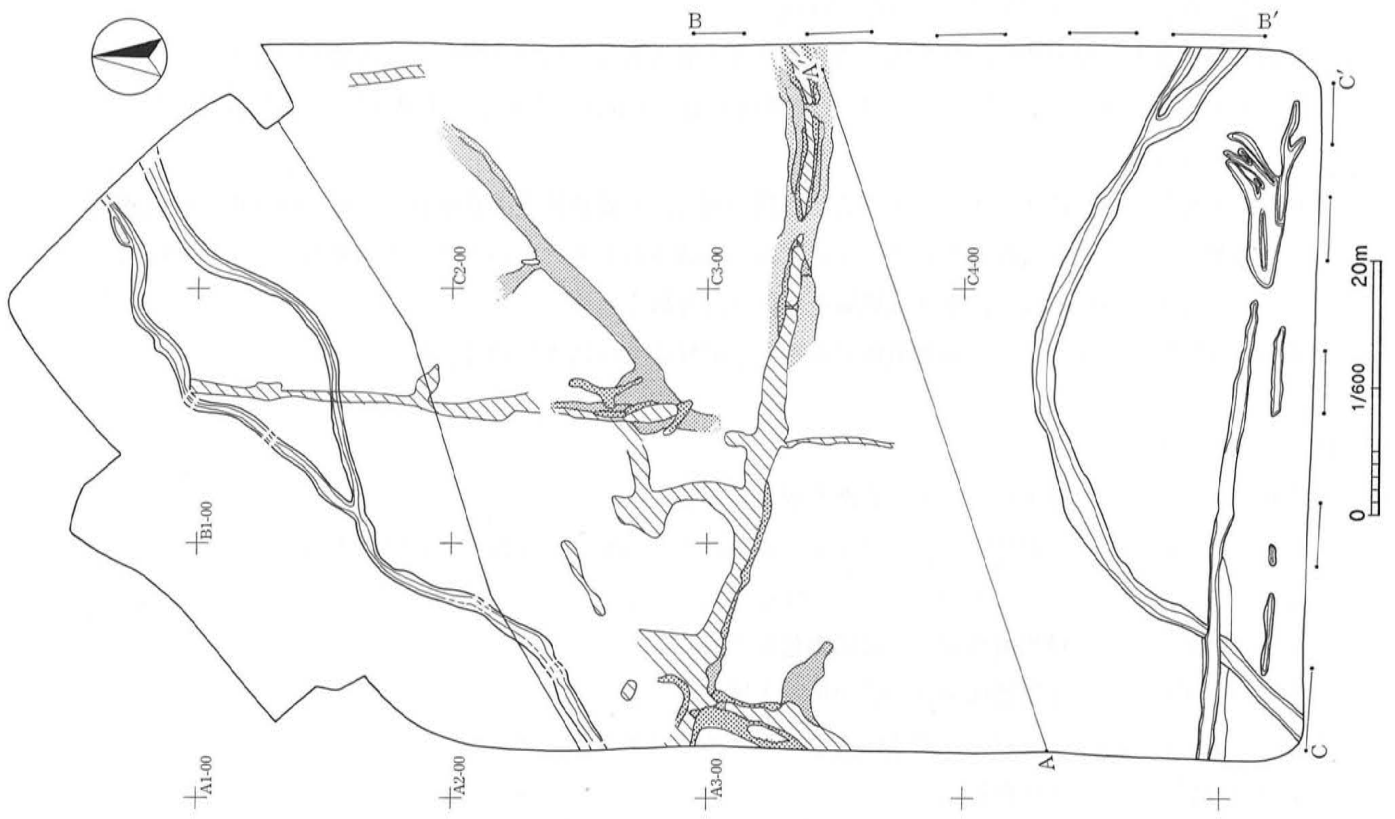
V層 弥生後期～平安時代の耕作土と判断される土層である。VI層の分解状況により細分され，上部が黒褐色粘土層（Va層），下部が暗茶褐色粘土層（Vb層）である。本調査区の北半部ではさらに分層される。

VI層 未分解の植物遺体を主体とする茶褐色粘土層で，V層耕作土の基盤層である。伐採根の年代測定結果によれば，縄文晩期から弥生中期初頭に形成されたものと判断される。砂の混じり具合によりさらに細分されるほか，下部はVII層を含む層に分層される。

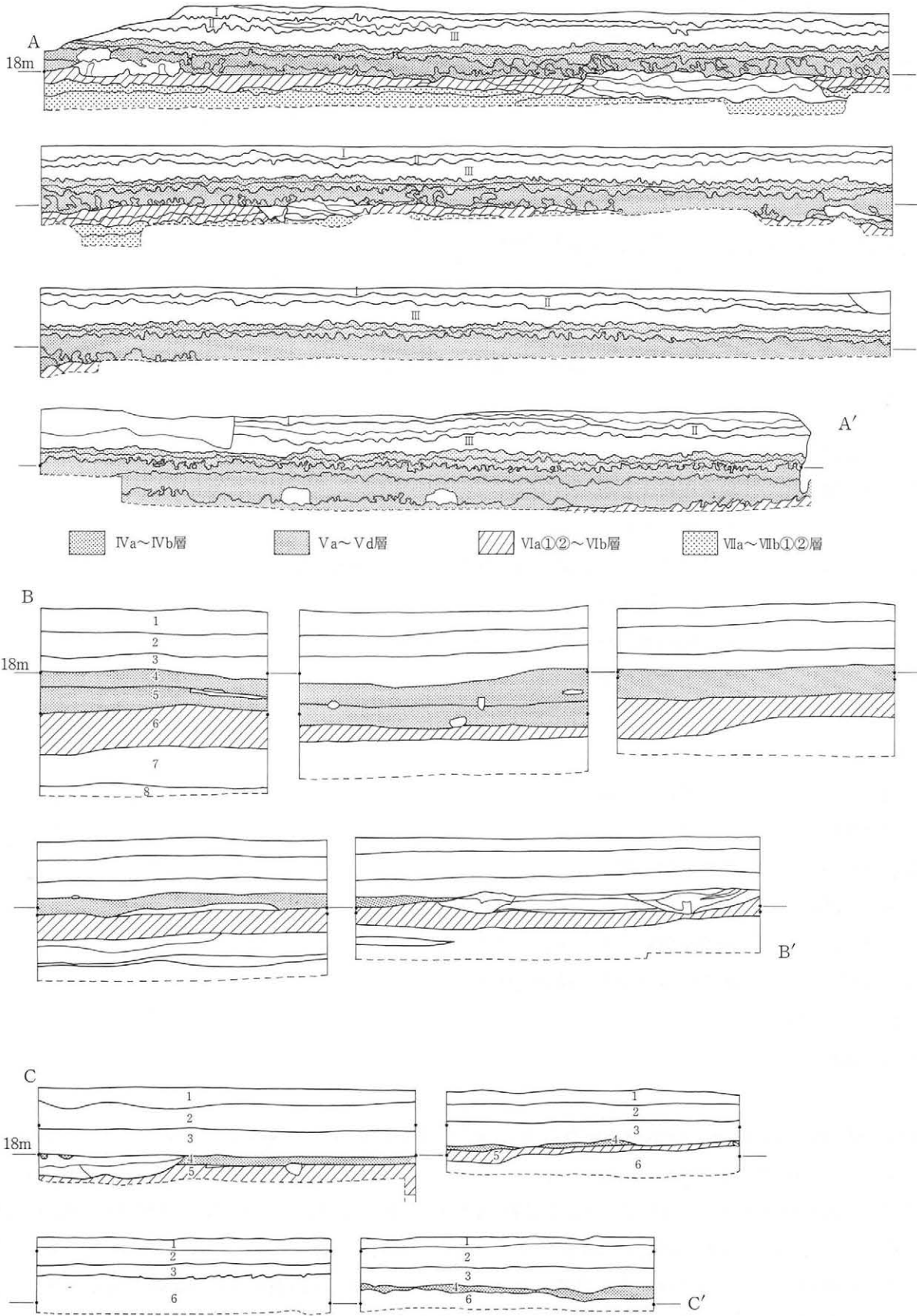
VII層 青灰色粘質土である。植物遺体の包含及び砂粒の大小により細分される。

#### B断面（第7図）

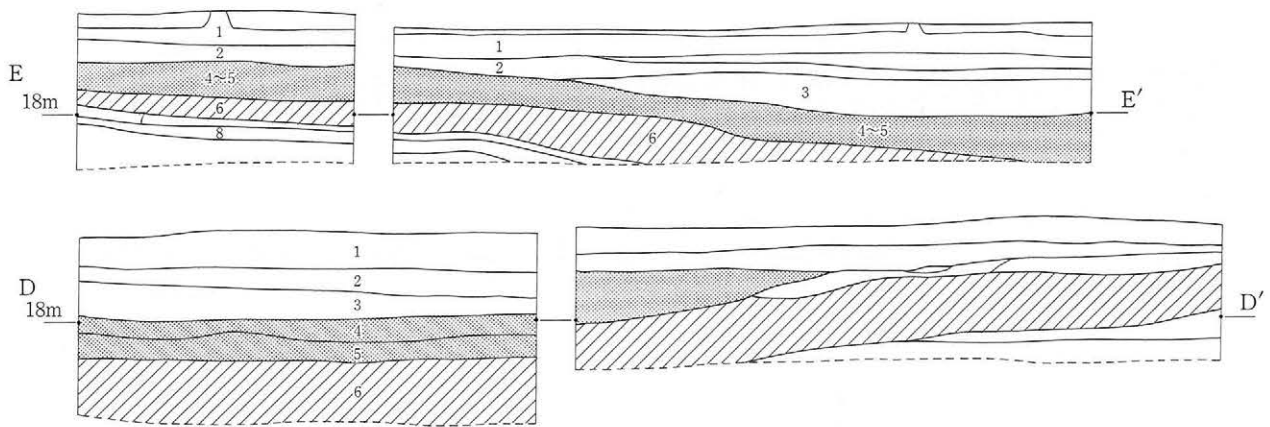
- |           |                               |
|-----------|-------------------------------|
| 1層（I～II層） | 現水田耕作土にあたる灰色粘土層               |
| 2層（III層）  | 灰白色結晶塊・カルシウム結晶またはテフラを含む黒灰色粘土層 |
| 3層（IV層）   | 木製品・加工材を包含する黒褐色粘土層            |
| 4層（V層）    | 植物遺体を含む暗灰黒色粘土層                |
| 5層（V層）    | 植物遺体を含む暗灰色粘土層                 |
| 6層（VI層）   | 未分解の植物遺体を主体とする明茶褐色粘土層         |
| 7層（VII層）  | 明灰色粘土層                        |
| 8層        | 黒色粘土層                         |



第6図 沖田地区遺構配置と断面位置図



第7図 基本層序1 (1:100)



第8図 基本層序2 (1:100)

C断面 (第7図)

- |              |                        |
|--------------|------------------------|
| 1層 (I層)      | 現水田耕作土層                |
| 2層 (II～III層) | 現水田床土層                 |
| 3層 (IV層)     | 黒色粘土層で下部に木製品及び加工材を包含する |
| 4層 (V層)      | 暗灰白色粘土層                |
| 5層 (VI層)     | 灰茶褐色粘土層 B層に比べ植物遺体が少ない  |
| 6層 (VII層)    | 青灰色砂質粘土層               |

D・E断面 (第8図)

- |            |                     |
|------------|---------------------|
| 1層 (I～II層) | 圃場整備客土層             |
| 2層 (III層)  | 黒灰色粘土層              |
| 3層 (IV層)   | 黒褐色粘土層              |
| 4層 (Va層)   | 暗茶褐色粘土層 (植物遺体根未分解)  |
| 5層 (Vc層)   | 暗茶褐色粘土層 (4層より未分解多い) |
| 6層 (VI層)   | 明茶褐色粘土層 (植物遺体未分解)   |
| 7層         | 黒色粘土                |
| 8層         | 細粒砂                 |

各土層断面から判断される本調査区及び確認調査拡張区の地形は、本調査区の南半部に検出されたSD-001の南側が自然堤防の端部で北側に向かって低くなり、後背湿地の様相を呈している。確認調査拡張区では、SD-003の検出された北側が高く南側に向かって低くなり、全体的には山裾の後背湿地の様相を呈するものと判断される。確認調査拡張区から本調査区に向かい徐々に低くなっており、木製品が多量に出土した範囲は、山裾の後背湿地で北側や東側の谷津内のしぼり水の集まった湿地帯であるとともに、水は西側の山裾を通り、中郷地区の西側に見られる谷内から小糸川に注いでいたものと考えられる。



## 第4節 遺構

第1節でも述べたとおり、今回の調査で検出した遺構は、弥生時代中期の溝状遺構、古墳時代前期の溝状遺構1条、土器散布地点2か所、奈良・平安時代の畦畔数条、木製品等集中地点15地点である。

木製品等集中地点は、調査当初は特に名称を付していなかったが、報告にあたり各地点ごとに詳述することが理解しやすいものと判断し、木製品集中地点の名称を付すこととした。

### 1 溝状遺構

#### SD-001 (第12・13図, 図版4)

SD-001は本調査区南半, A5-22~C5-09グリッドで検出した溝状遺構である。北に弧を描くように, B4-26グリッドを境に東半部ではN-58°-W, 西半部ではN-50°-Eと緩やかではあるが, ほぼ直角方向に湾曲する。検出長は約65mで, 幅2.6m, 深さ0.3mである。東端部では2条に分岐するが, 土層断面からは幅広の溝であった可能性も考えられ, その場合の幅は3.5mである。断面皿形を呈し, 覆土は青灰色砂と青灰色砂を含む暗褐色粘質土の互層である。底面の標高は東端で18.0m, 中央で17.7m, 西端で17.9mと中央部が若干下がっており, 流水方向は不明である。

遺物は弥生土器, 弥生時代石器が少量出土しており, 第42図1~3及び第43図8に掲載した。

時期は出土遺物から弥生時代中期後半のものと思われる。

#### SD-002 (第15図, 図版4)

SD-002は東区北半, A5-22~C5-09グリッドで検出した溝状遺構である。E0-25グリッド付近で谷を横切するため不明瞭であるが, 緩やかに南東方向に弧を描くように湾曲する。検出長約31m, 幅0.8m~1.7m, 深さ0.3mである。西端部では2条に分岐するが, 土層断面では北側が新しく, 南側が古い。断面皿形を呈し, 覆土は北側溝が細粒砂を主体とし, 南側溝が粗粒砂を主体とする。流水方向は谷を境に西側が北東方向, 東側が南西方向に流れ, 谷内を南東方向に流れていたものであろう。

遺物は出土していないが, 坂ノ下地区Ⅲ区ⅢSD-001に続くものと判断され, その成果から古墳時代前期の溝と考えられ, 該期までは湿地帯でありながら起伏のある地形を呈していたものと判断される。

なお, ⅢSD-001は東半部で2条, 西半部で合流し1条となるが, 平面観察により北側が新しいと判断されており, 今回の調査でもそれを裏付ける成果を得た。

### 2 土器散布地点

#### SX-001 (第41図, 図版5)

SX-001は西区, B2-23グリッドで検出した土器集中地点である。土師器甕(第42図5)片が集中して出土した。古墳時代前期のものである。

#### SX-002 (第41図, 図版5)

SX-002は東区北東隅, F0-52グリッドで検出した土器集中地点である。土師器甕(第42図6)片が集中して出土した。古墳時代前期のものである。

### 3 畦畔

畦畔は西区北半部と南端部で検出した。

北半部の畦畔は芯にVI層（明茶褐色粘土層）、両側縁にV層（黒褐色粘土層）及びV層、VI層の混じった部分が認められる畦畔とVI層を芯に持たないV層のみの畦畔が見られる。前者（以下、A畦畔）は概ねN-5°～15°-Eとこれにほぼ直交する方向で確認され、後者（以下、B畦畔）はN-45°-Eの方向で確認されている。A畦畔を検出したA3-13グリッド周辺では畦畔に重なるように3群木製品等集中地点、B3-24グリッド周辺では6群木製品等集中地点を検出した。B畦畔を検出したC2-40グリッド周辺では同様に2群木製品集中地点を検出した。

南端部の畦畔は溝状遺構として調査されたものである。A4-92～C5-28グリッドでN-85°-Wの方向に2条並行して検出された。北側の溝はC5-00グリッドで2条に分かれ、さらにC5-04グリッドで北に屈曲する5条と東進する2条に分岐する。2条並行している西半部では、北側溝の南側、すなわち2条の溝の間にVI層が帯状に認められることから、北半部で検出した畦畔と同様の畦畔痕跡を示すものと判断され、その方位と併せてA畦畔と考えたい。

### 4 木製品等集中地点

#### 1 群木製品等集中地点（第17・18図、図版6）

西区北東端、C1-35～57グリッドで検出した木製品等集中地点で、坂ノ下地区Ⅲ区東端の木製品等集中地点に連なるものと判断される。長さ2mを超える建築部材などが多く見られ、畦畔補強材とするならばN-40°-W（直交方向N-50°-E）の畦畔に設置されたものであろう。

遺物は、杵付田下駄足板、四又鋸身を掲載した。

#### 2 群木製品等集中地点（第19・20図、図版6）

西区北東部、B2-68～C2-45グリッドを中心に検出した木製品等集中地点である。長さ2m～4mの細身の部材がN-45°-E方向に集中して見られ、周囲に田下駄などの木製品が集中して出土している。ほぼ直交する方向にやや太い部材が見られ、B1-96付近やC3-07付近に点在する太めの部材と連続し、畦畔の補強材であった可能性が考えられる。

遺物は、木製品等集中地点15群中最も多いが、掲載遺物はすべて杵付田下駄の部材である。

#### 3 群木製品等集中地点（第21・22図、図版7）

西区北西端、A3-03～71グリッドで検出した木製品等集中地点である。長さ2m～4mの細身の部材がN-15°-E方向に分布しており、前述したようにA畦畔に伴う畦畔補強材及びその周囲に置かれた木製品と考えたい。

遺物は板状田下駄、天秤棒を掲載した。

#### 4 群木製品等集中地点 (第21・23図, 図版7)

西区北西端, A2-74~A3-26グリッドで検出した木製品等集中地点である。南半部に長さ2m以内の細身の部材が見られ, 部材や木製品はN-25° -W方向に分布している。

遺物は、大足, 杵付田下駄の部材を掲載した。

#### 5 群木製品等集中地点 (第21・24図)

西区西半部中央, A3-48~86グリッドで検出した木製品等集中地点である。周辺部に建築材や伐採木が散布するが, N-25° -E方向に木製品が散布している。

遺物は、大足, 杵付田下駄の部材を掲載した。

#### 6 群木製品等集中地点 (第25・26図, 図版8・9)

西区中央部, B2-84~B3-39グリッドで検出した木製品等集中地点である。長さ1m~3mの建築材等がN-75° -W方向に分布するほか, 北西部ではこれに直交するN-15° -E方向に分布している。前述したように, A畦畔の補強材として使用されたもののほか, その周囲に置かれた木製品と考えたい。

遺物は、横長板状田下駄, 杵付田下駄の部材のほかに鋏曲柄, 一木鋤を掲載した。

#### 7 群木製品等集中地点 (第25・27図, 図版10)

西区中央部, B3-30~43グリッドで検出した木製品等集中地点である。細身の部材がN-75° -W方向に分布している。

遺物は輪カンジキ型田下駄 (第83図174) のほか, 杵付田下駄の部材を掲載した。

#### 8 群木製品等集中地点 (第28・29図, 図版10)

西区南東部, C3-85~C4-58グリッドで検出した木製品等集中地点である。集中地点とするには散漫な分布状況であり, 1つの群とするには無理があるかもしれない。N-18° -W方向に散布する木製品群 (8a群), その西にN-3° -W方向に集中してみられる木製品と部材の一群 (8b群), N-35° -E方向に直線的に分布する2m前後の建築材を主体とする一群 (8c群) の大きく3つの群に細分されるようである。8c群については, C4-43グリッドで直交し, N-55° -Wと東西に延びる伐採木等の形成する畦畔状の痕跡との関連も考えられる。

遺物は、8b群から出土した形態の復元可能な方形杵型田下駄 (第58図33), 杵付田下駄の部材のほか, 8c群から出土した建築材を掲載した。

#### 9 群木製品等集中地点 (第28・30図)

西区北西端, C4-54~93グリッドで検出した木製品等集中地点である。長さ1mの細身の部材がN-15° -E方向に分布している。

遺物は杵付田下駄の足板を掲載した。

#### 10群木製品等集中地点（第32・33図）

東区北西端，D0-05～E0-22グリッドで検出した木製品等集中地点である。N-60° -W方向に木製品が散布する。北半部に長さ3m前後の部材等も分布するが，東側に展開する11群との関連が強い。

遺物は杵付田下駄の足板を掲載した。

#### 11群木製品等集中地点（第34・35図）

東区西部南端，E0-79～F0-90グリッドで検出した木製品等集中地点であり，小規模に纏まっており，長さ2mの細身の部材がN-30° -W方向に集中している。

遺物は杵付田下駄の足板のほか，二又鍬身，鋤柄を掲載した。

#### 12群木製品等集中地点（第34・36，図版11）

東区西部，E0-29～72グリッドで検出した木製品等集中地点である。長さ2m～4mの板状の部材がN-30° -W方向に分布し，周囲から木製品が出土している。

遺物は，杵部が組まれた状態で出土した方形杵型田下駄（第62図35），杵付田下駄の部材，扉板などを掲載した。

#### 13群木製品等集中地点（第34・37，図版11）

東区北西端，F0-32～84グリッドで検出した木製品等集中地点である。長さ2m～3mの角材や建築材がN-30° -W方向に集中し，周囲に木製品が分布している。

遺物は大足の小口板，杵付田下駄の部材，えつり等を掲載した。

#### 14群木製品等集中地点（第38・39図，図版12）

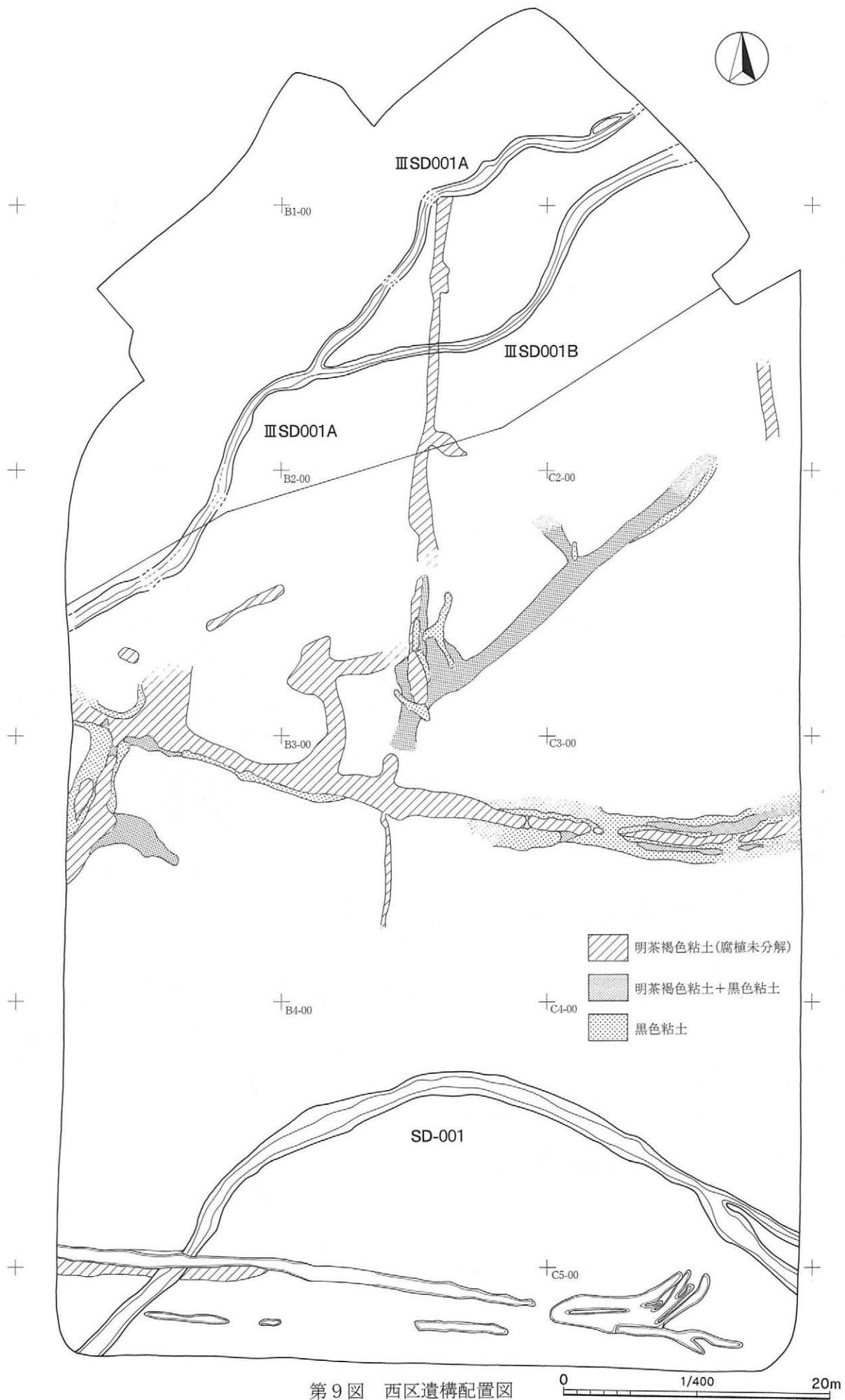
東区中央，D1-36～49グリッドで検出した木製品等集中地点である。ほぼ完形の大足2点（第47図1，第48図2）の下に，長さ2m～4mの板材がN-75° -W方向に分布している。

遺物は前述の大足のほか，杵付田下駄の足板を掲載した。

#### 15群木製品等集中地点（第38・40図）

東区南半，E1-02～E2-03グリッドで検出した木製品等集中地点である。長さ2mの前後の板材がN-5° -E方向に散布している。

遺物は輪カンジキ型田下駄横木，二又鍬などを掲載した。

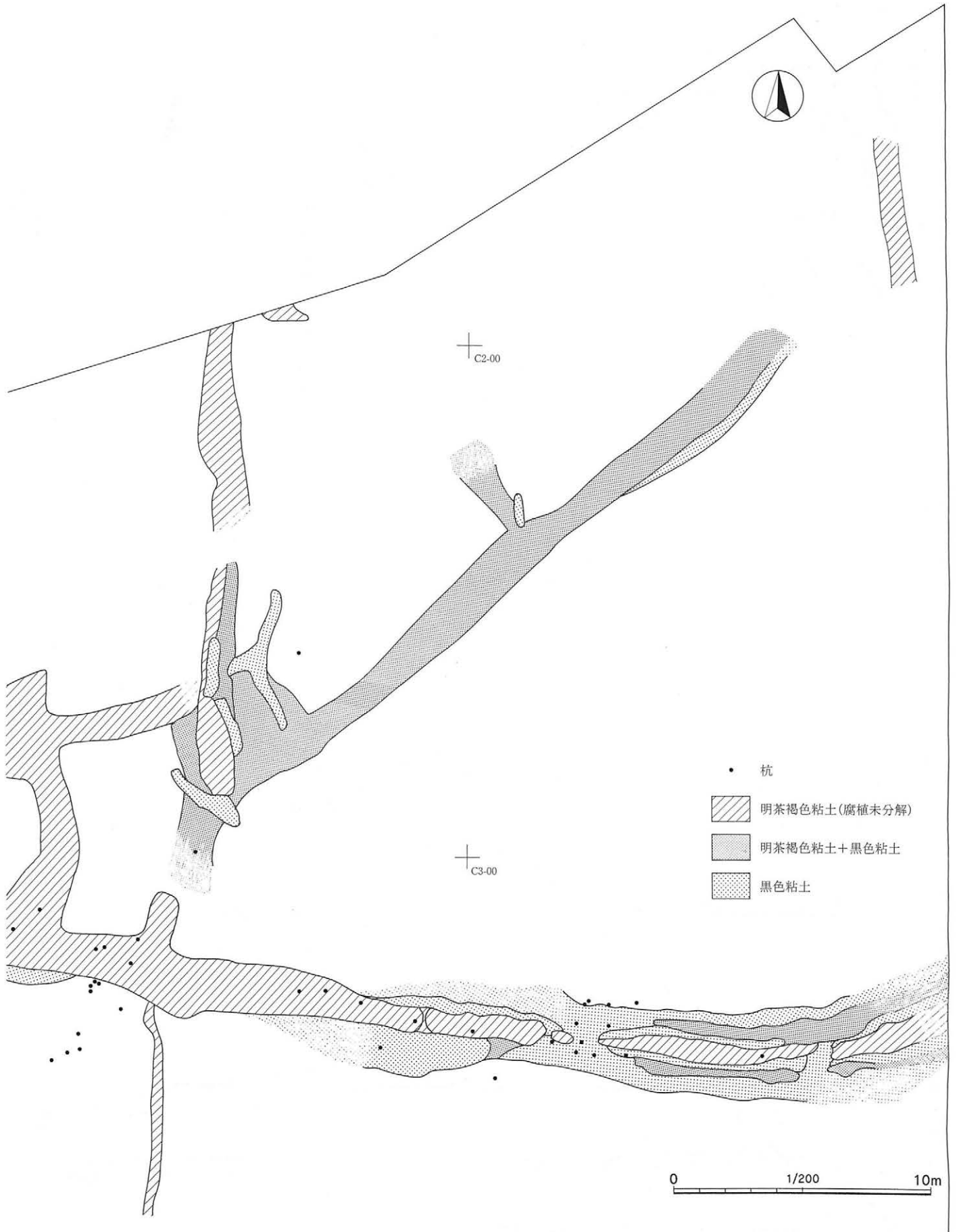


第9図 西区遺構配置図

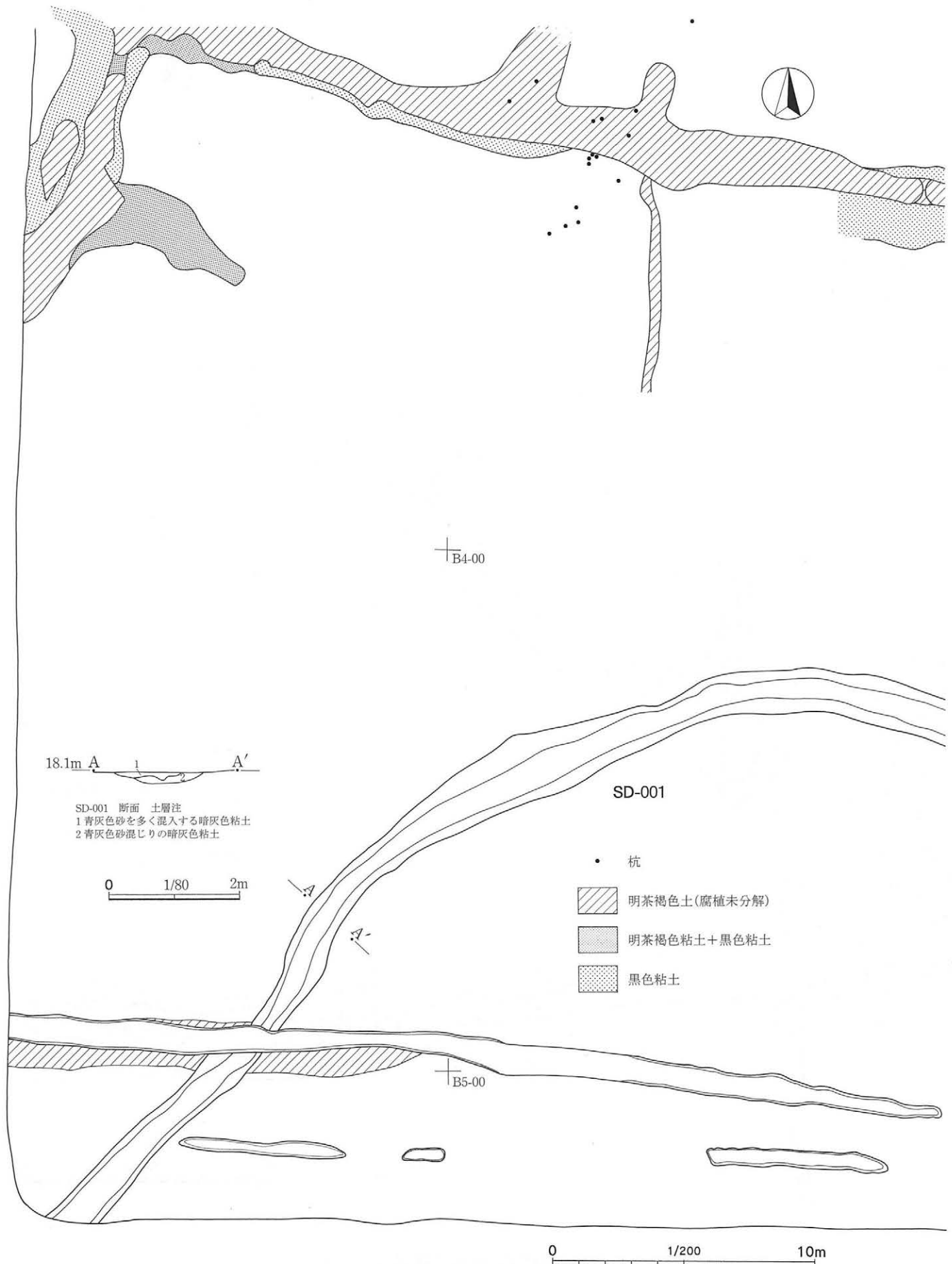
0 1/400 20m



第10図 西区遺構図1

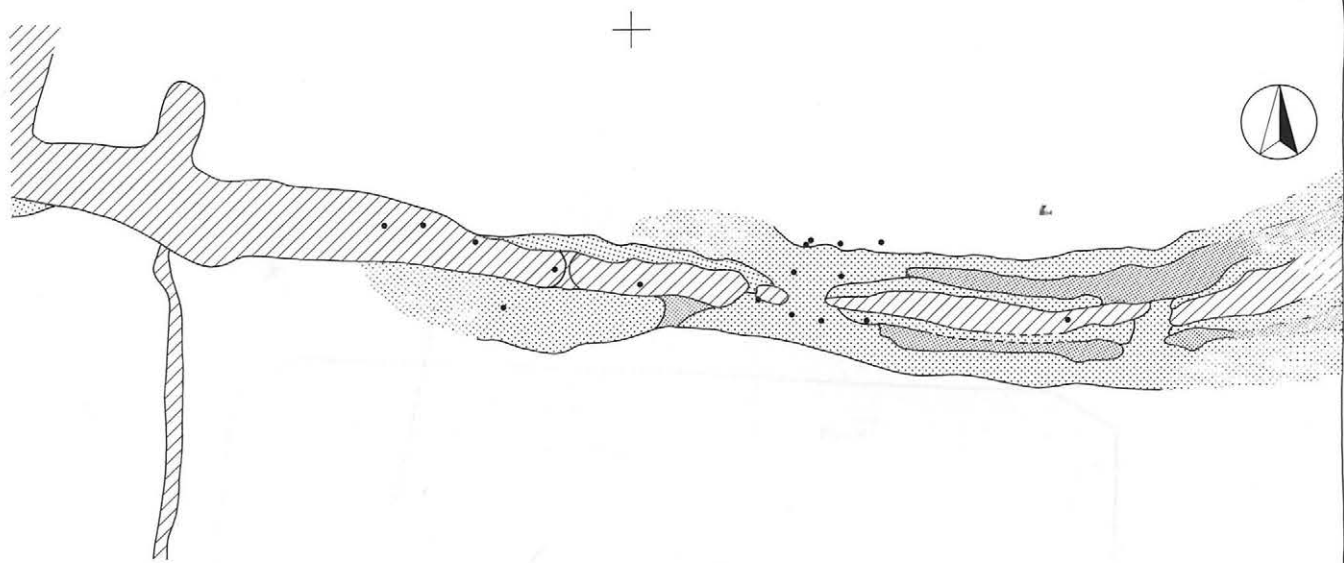


第11図 西区遺構図2

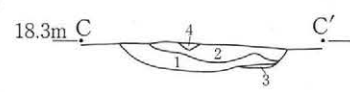
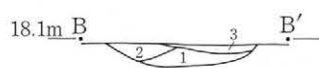


第12図 西区遺構図3



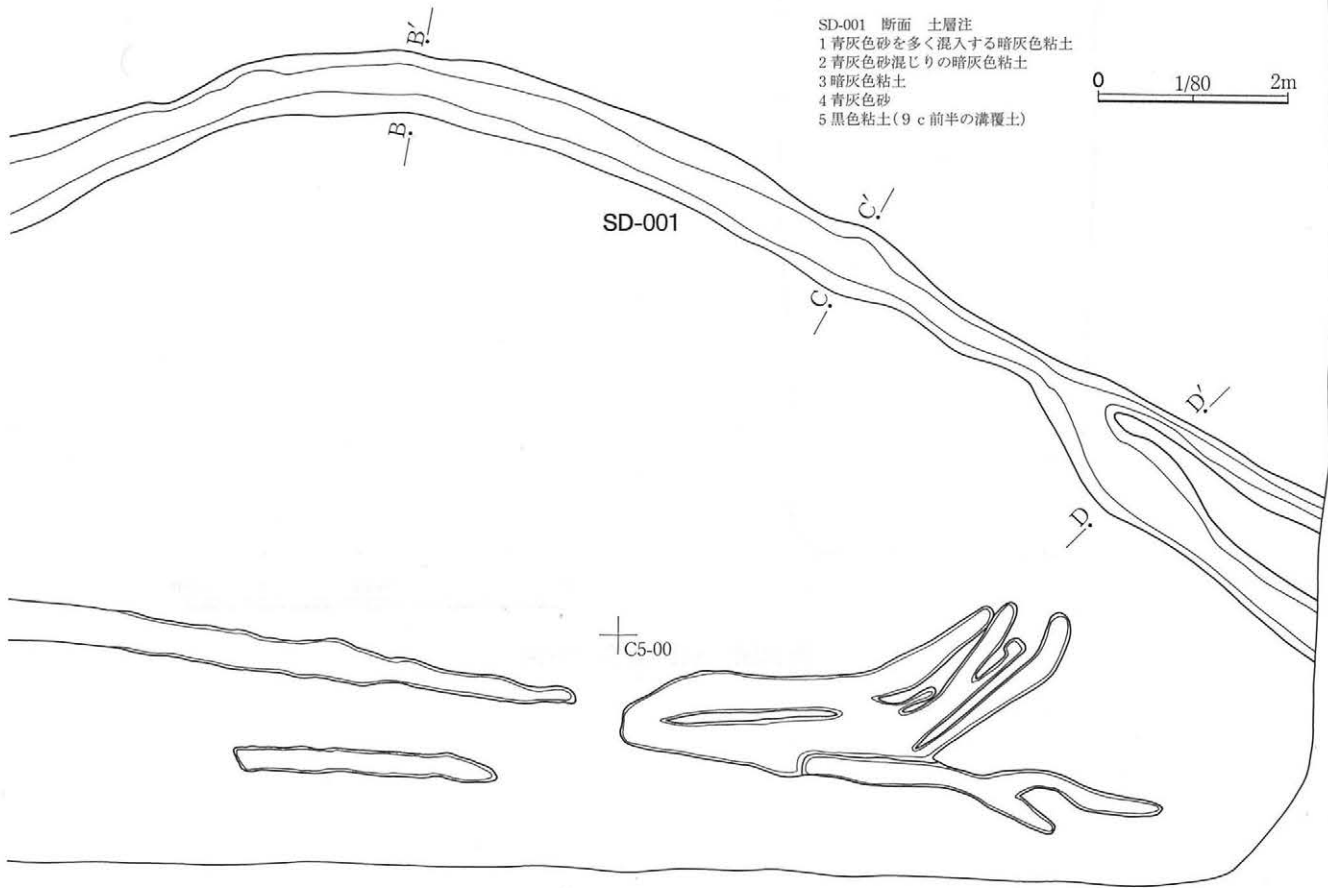
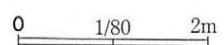


- 杭
-  明茶褐色粘土(腐植未分解)
-  明茶褐色粘土+黑色粘土
-  黑色粘土

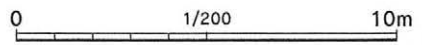


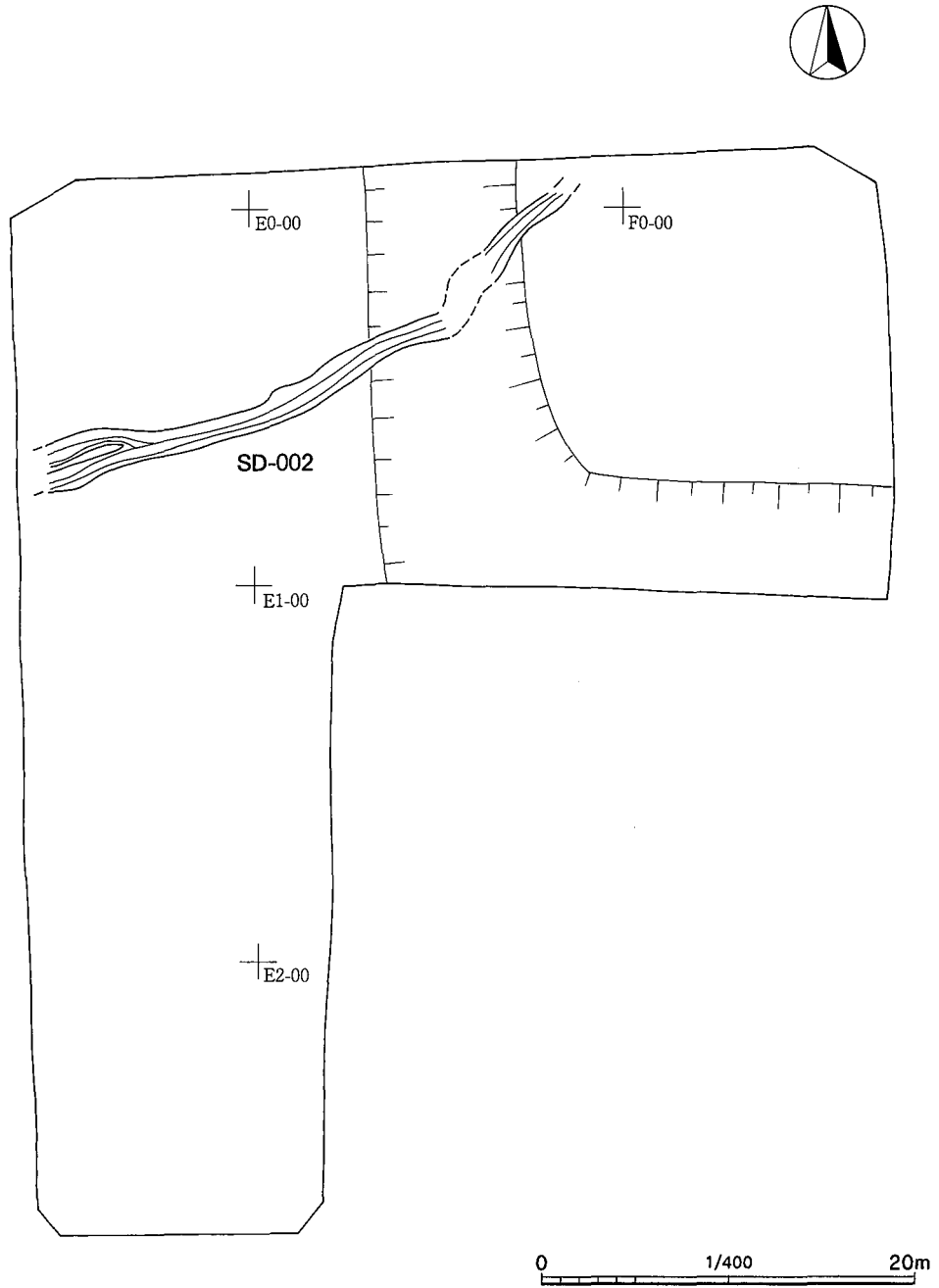
├ C4-00

- SD-001 断面 土層注
- 1 青灰色砂を多く混入する暗灰色粘土
  - 2 青灰色砂混じりの暗灰色粘土
  - 3 暗灰色粘土
  - 4 青灰色砂
  - 5 黒色粘土(9 c 前半の溝覆土)

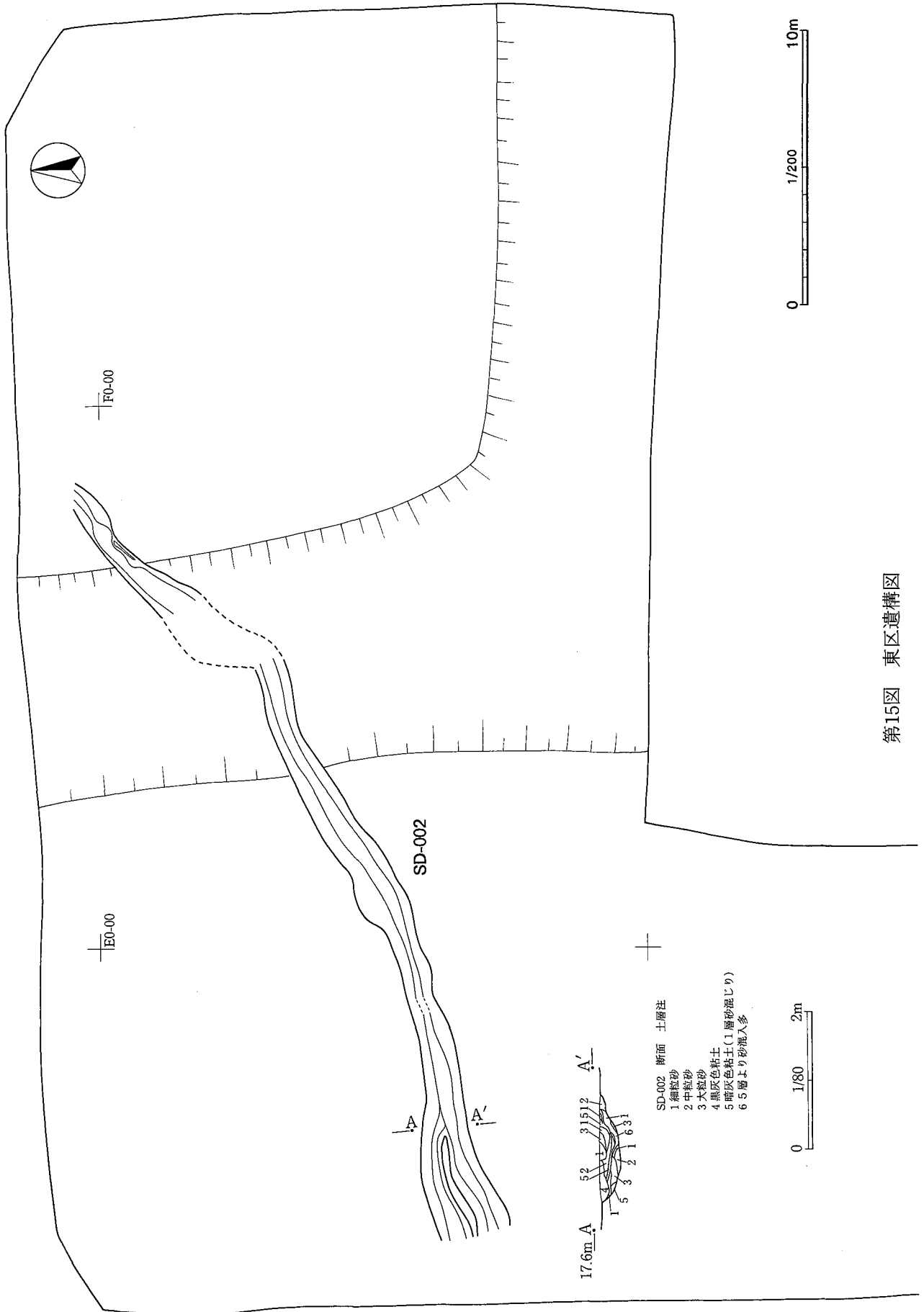


第13図 西区遺構図4

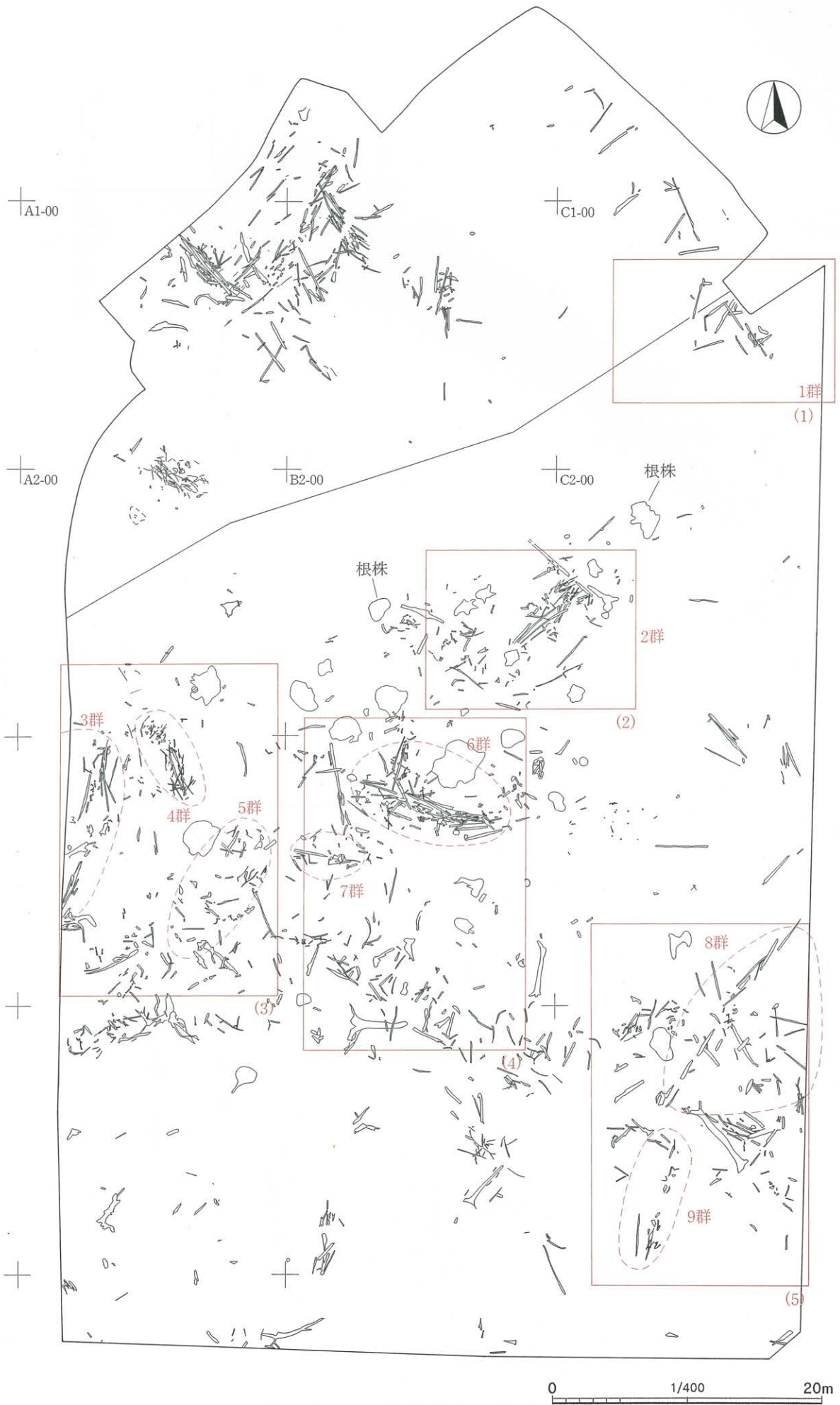




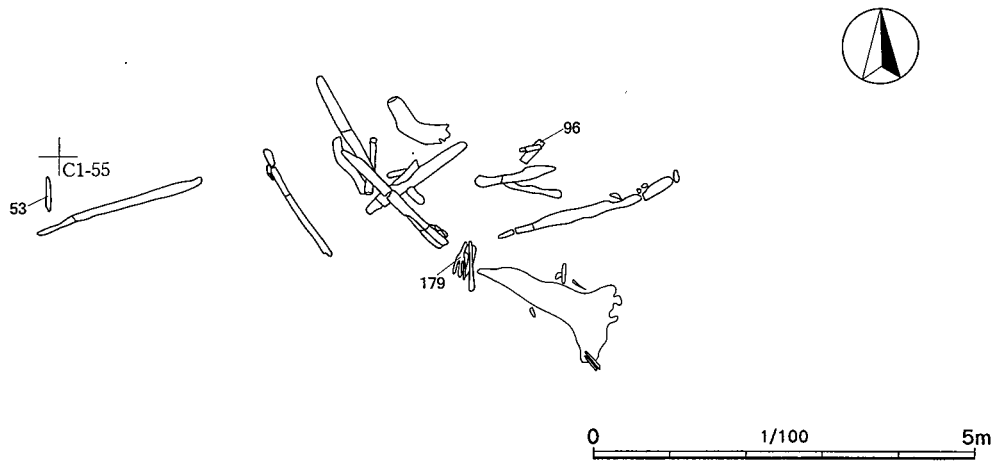
第14図 東区遺構配置図



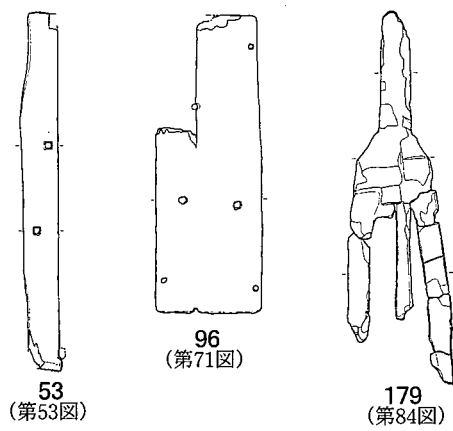
第15図 東区遺構図



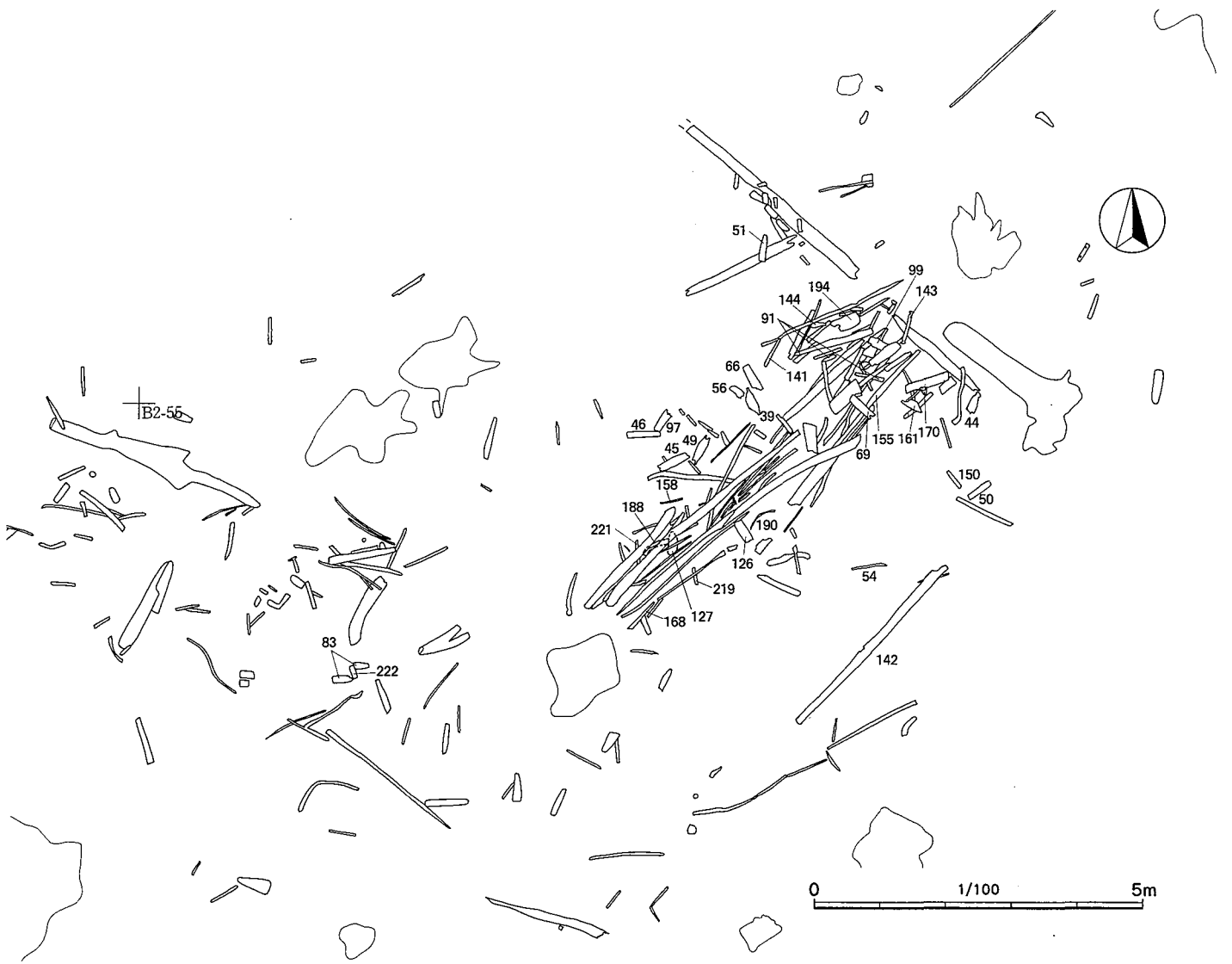
第16図 西区木製品等出土状況割付図



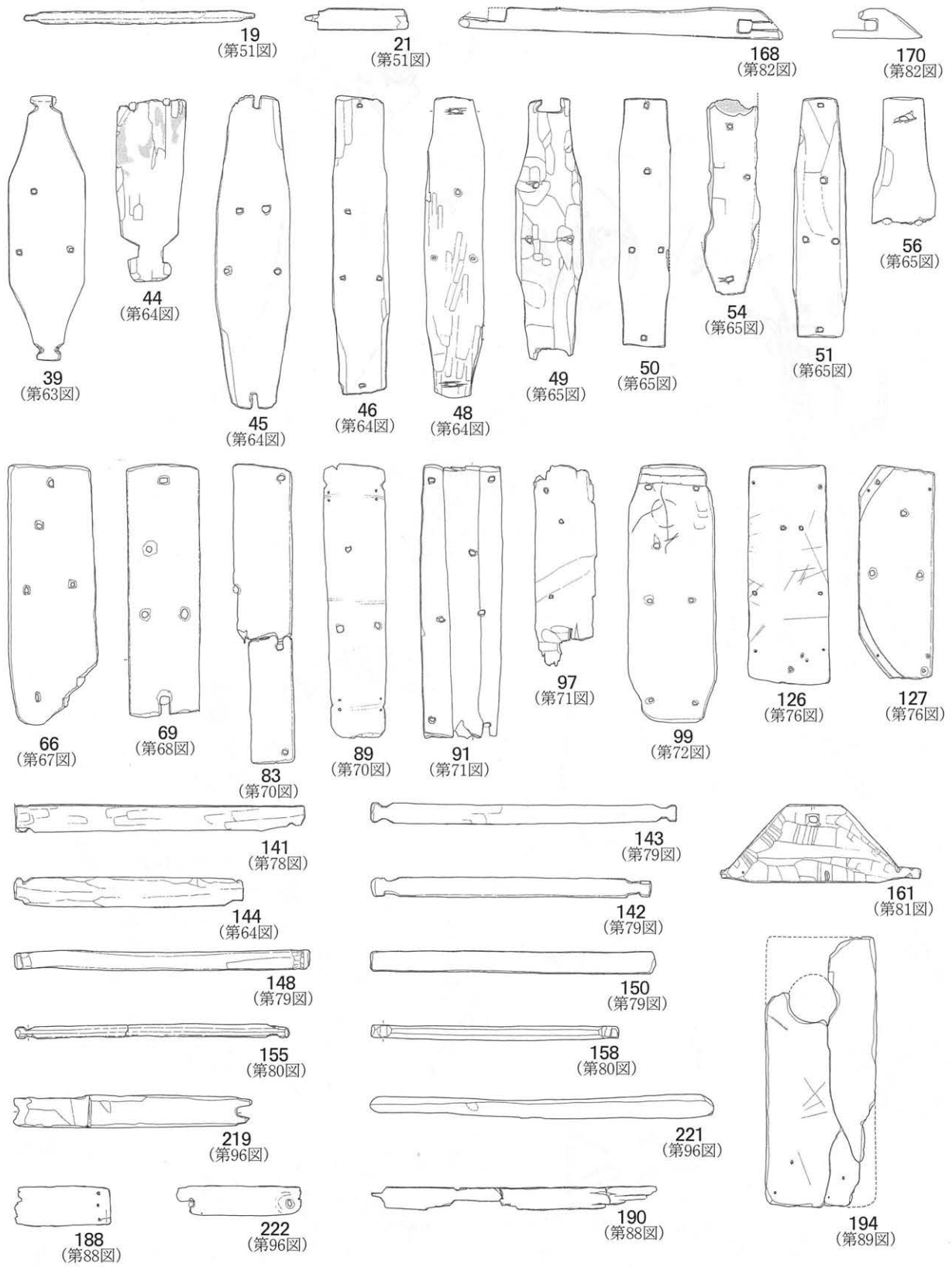
第17図 西区木製品等出土状況図(1)(1群)



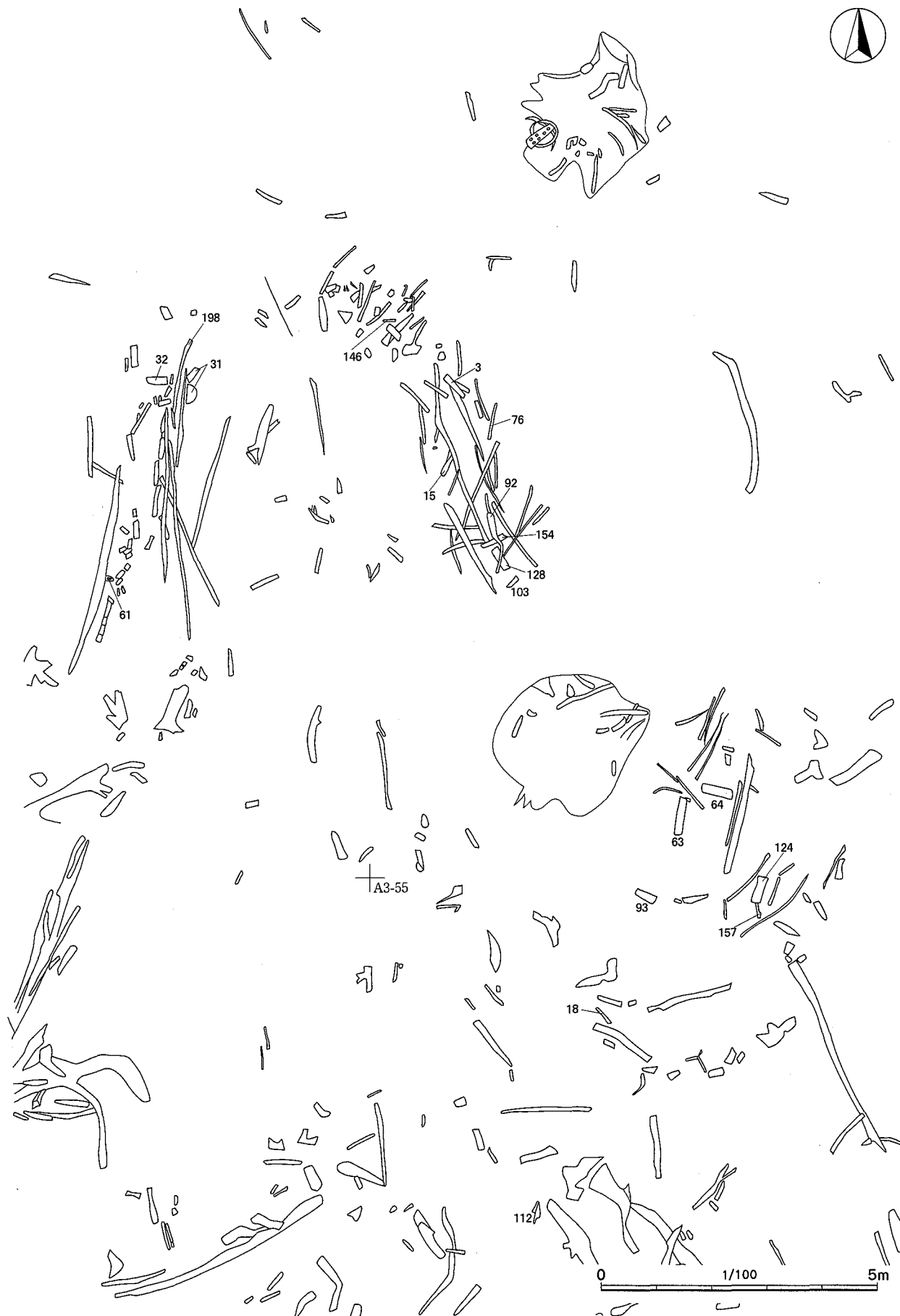
第18図 1群出土木製品



第19図 西区木製品等出土状況図(2)(2群)

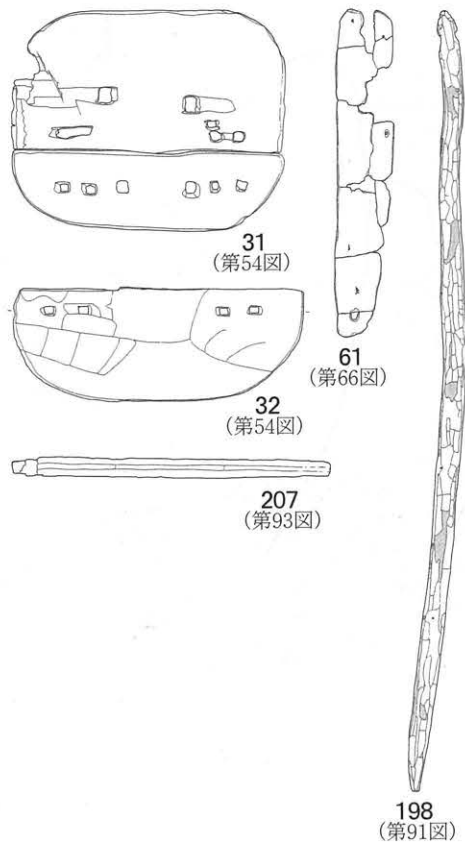


第20图 2群出土木製品

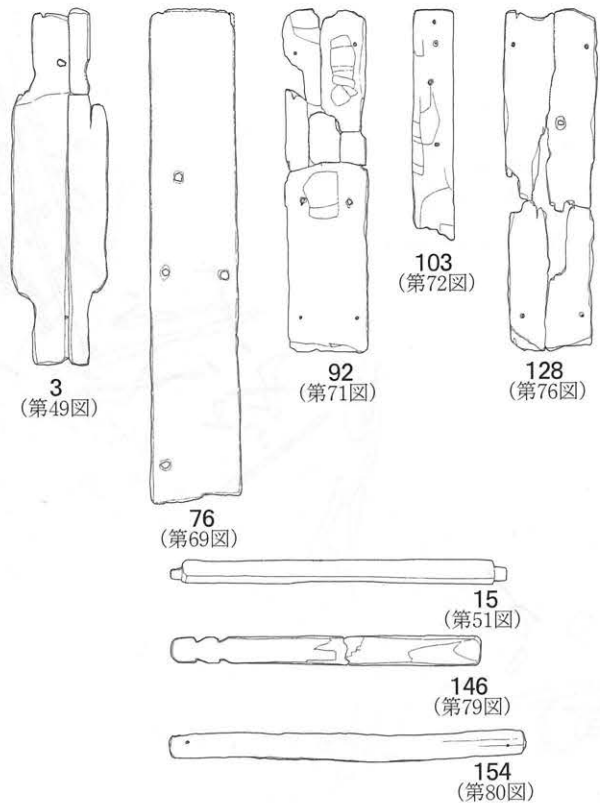


第21図 西区木製品等出土状況図(3)(3~5群)

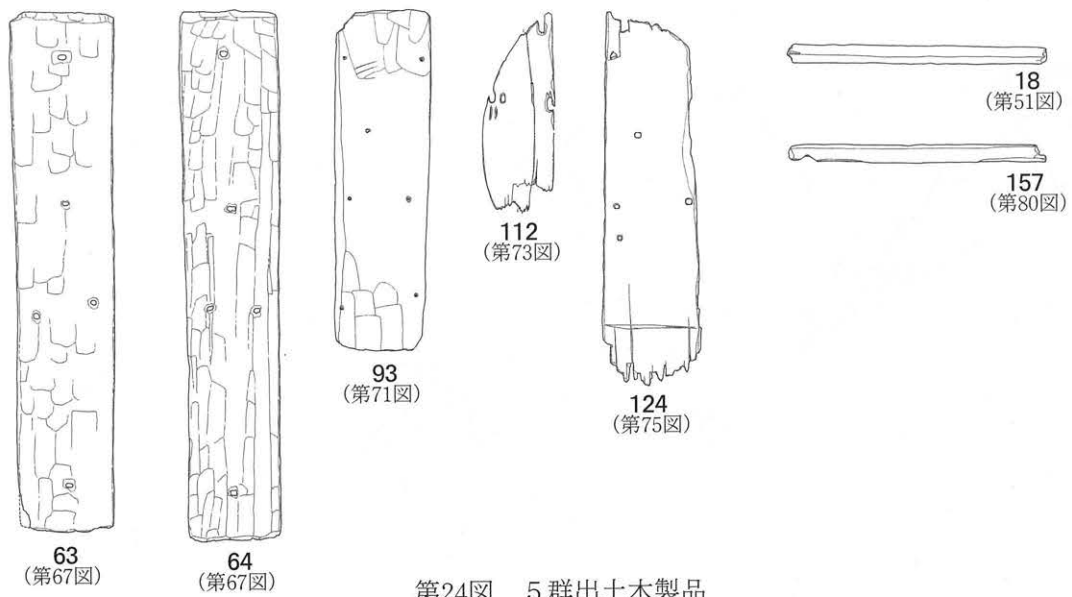




第22図 3群出土木製品



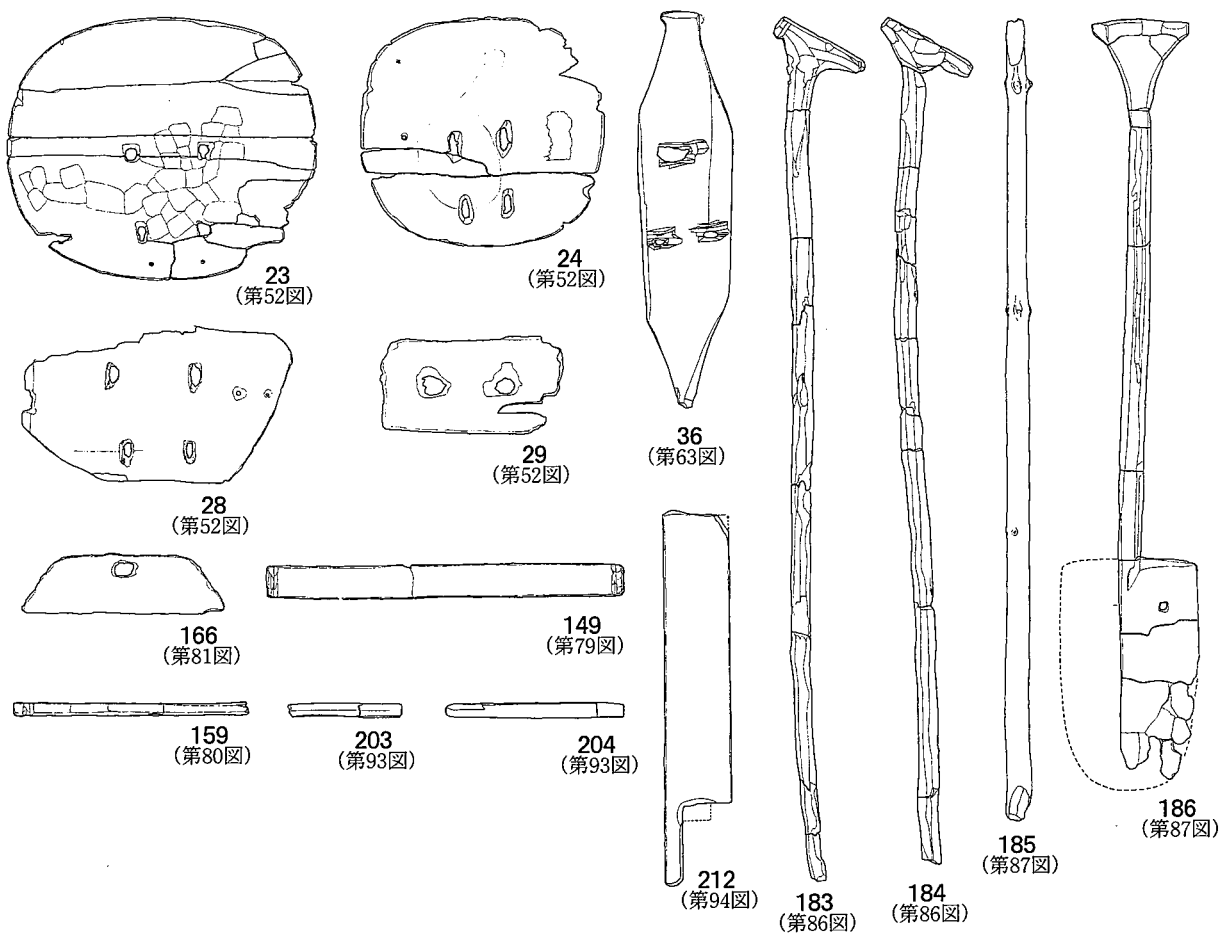
第23図 4群出土木製品



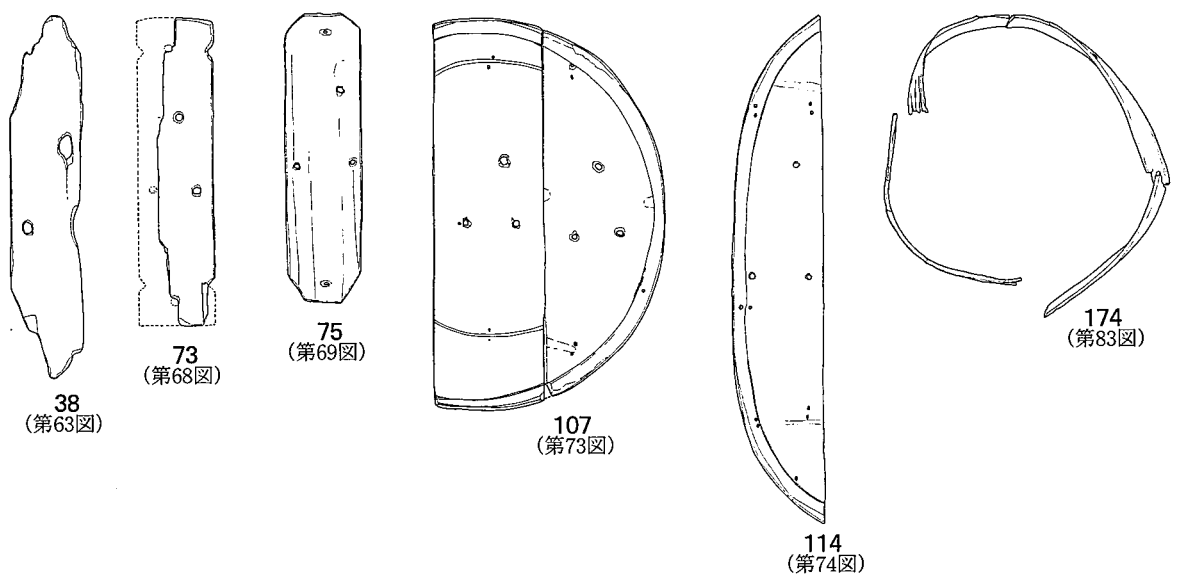
第24図 5群出土木製品



第25図 西区木製品等出土状況図(4)(6,7群)



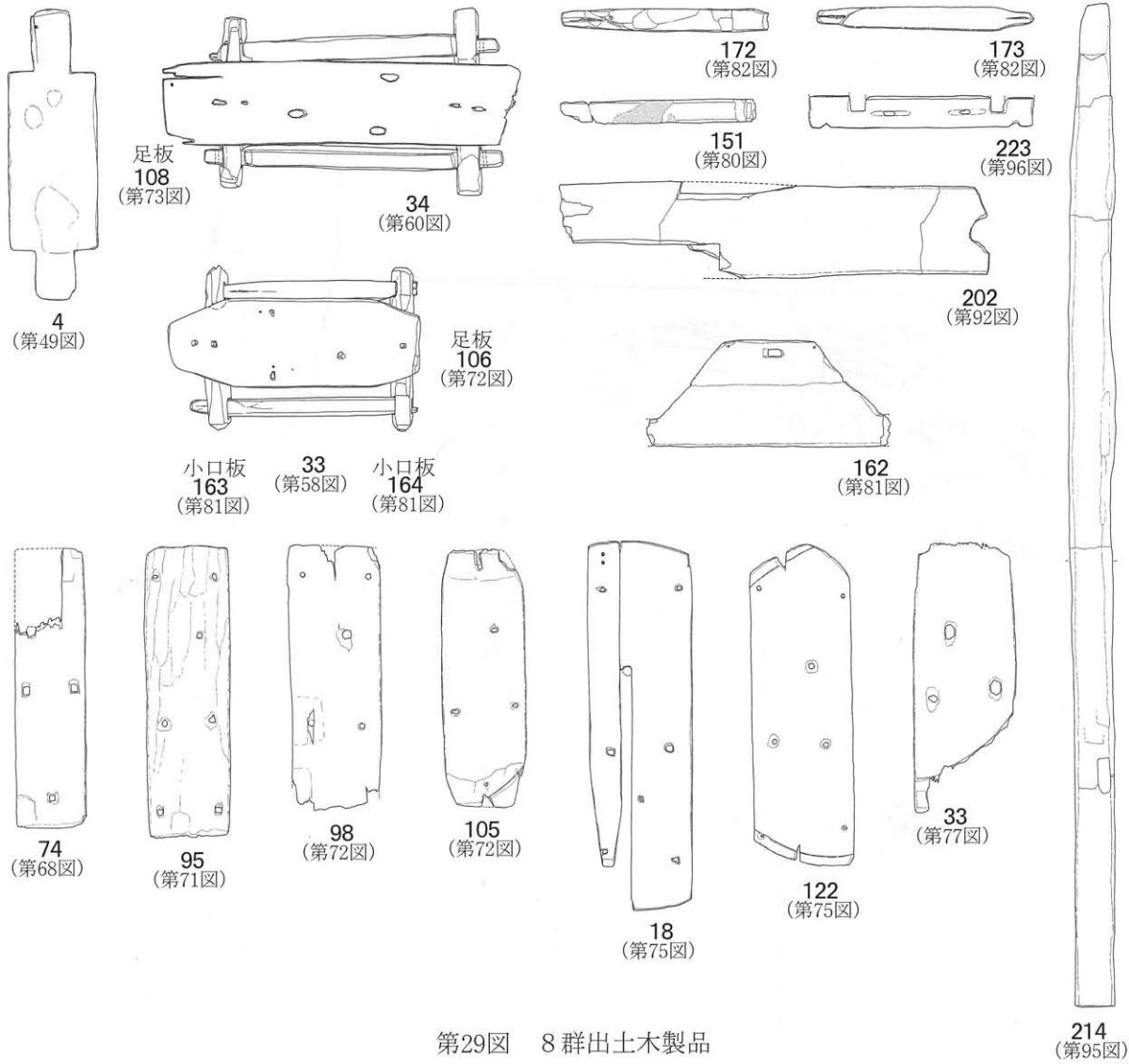
第26図 6群出土木製品



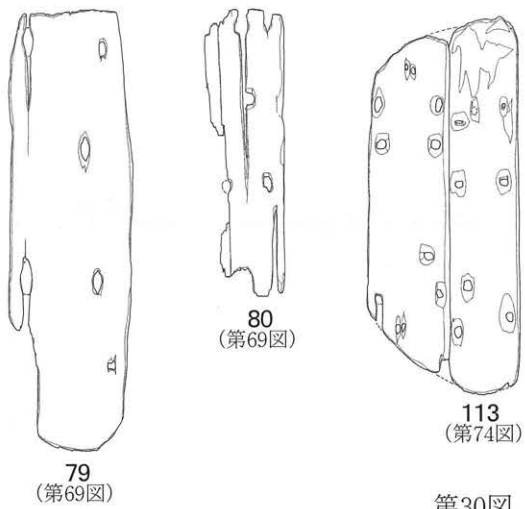
第27図 7群出土木製品



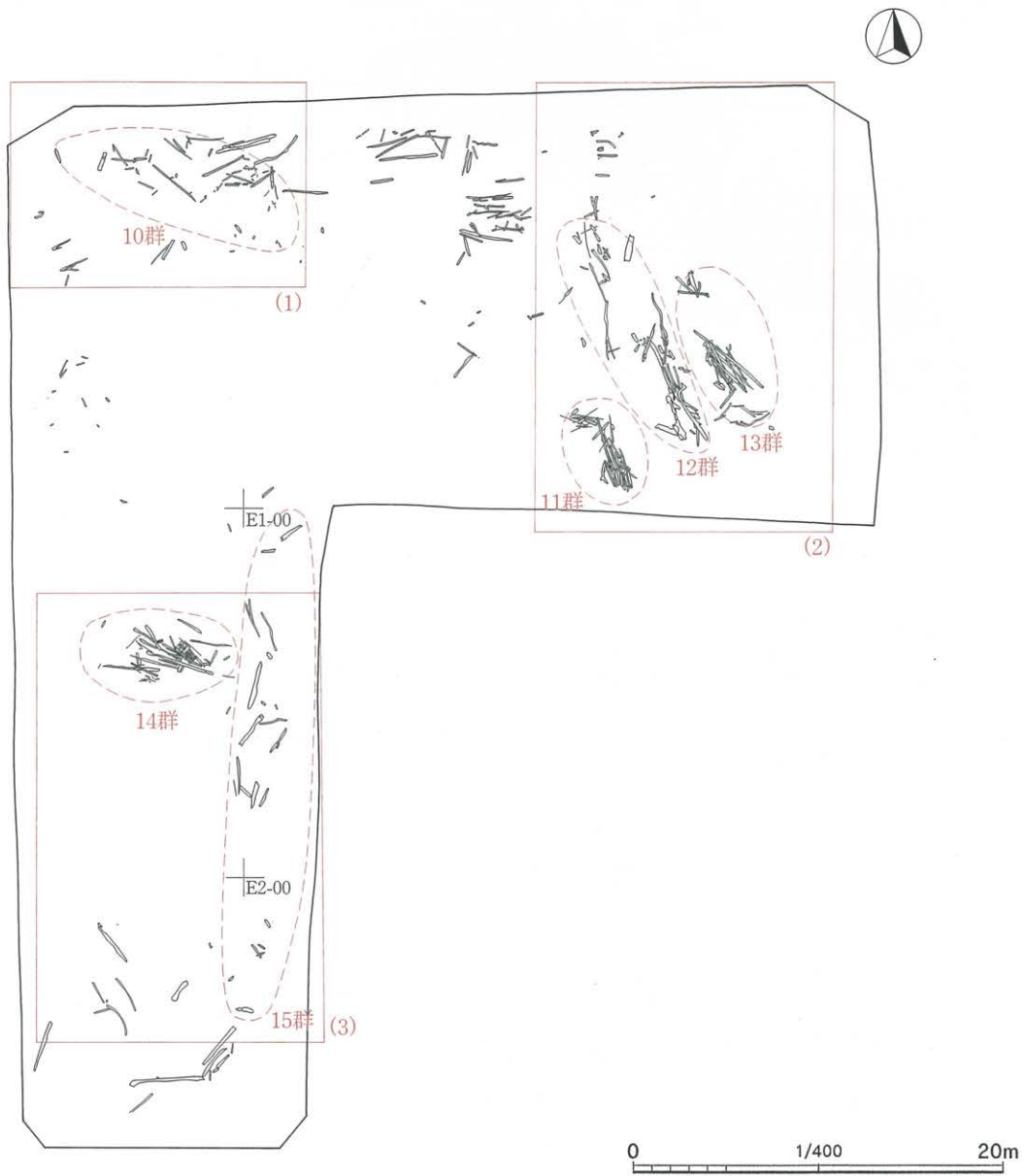
第28図 西区木製品等出土状況図(5) (8, 9群)



第29図 8群出土木製品



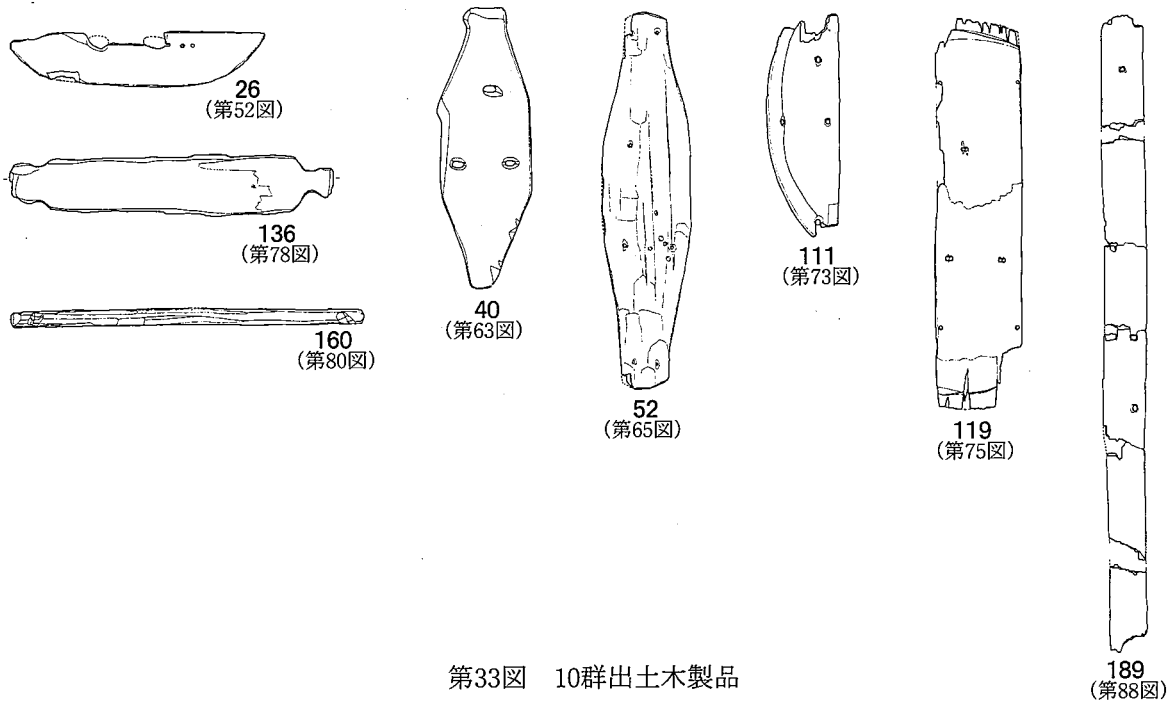
第30図 9群出土木製品



第31図 東区木製品等出土状況割付図



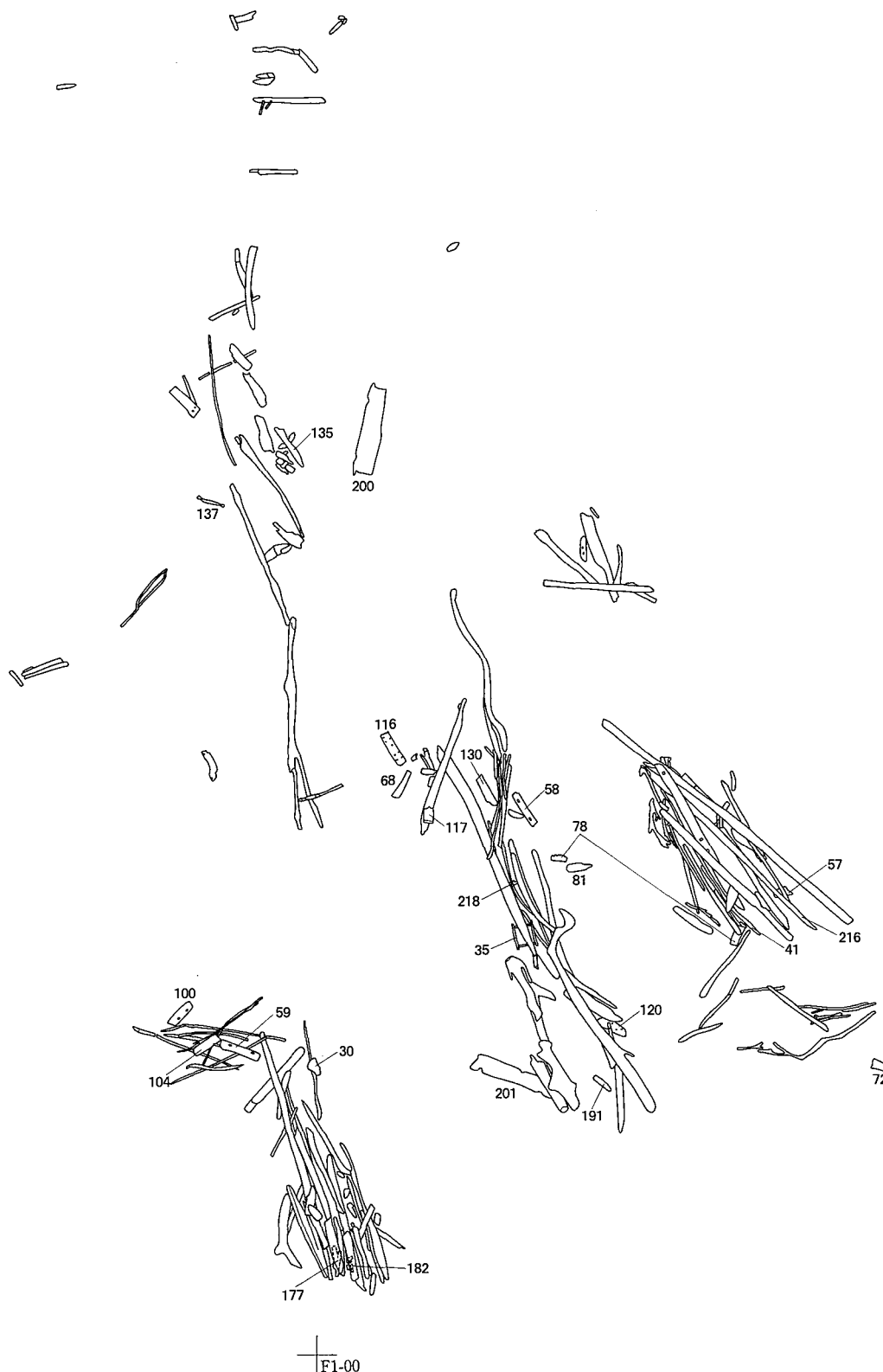
第32図 東区木製品等出土状況図(1) (10群)



第33図 10群出土木製品

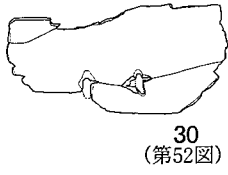


F0-05

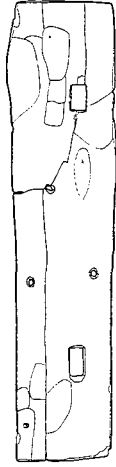


第34図 東区木製品等出土状況図(2) (11~13群)

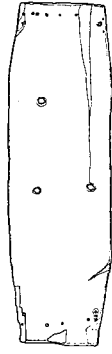




30  
(第52図)



59  
(第66図)



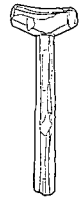
100  
(第72図)



104  
(第72図)

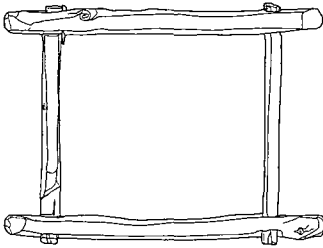


177  
(第84図)



182  
(第85図)

第35図 11群出土木製品



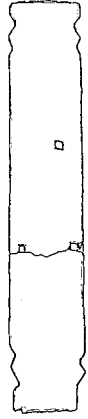
35  
(第62図)



68  
(第68図)



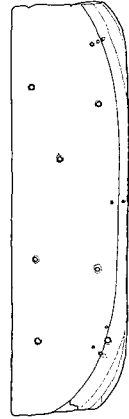
58  
(第66図)



78  
(第69図)



81  
(第69図)



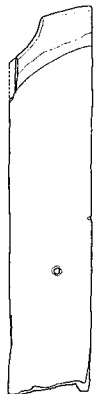
116  
(第74図)



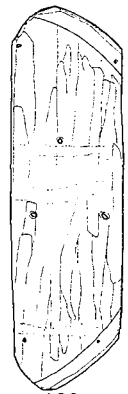
200  
(第92図)



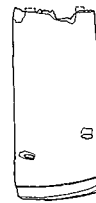
201  
(第92図)



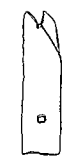
130  
(第76図)



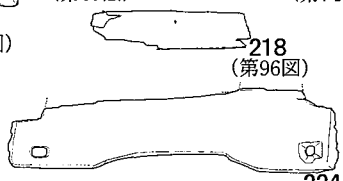
120  
(第75図)



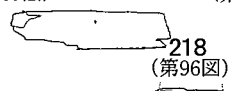
117  
(第74図)



135  
(第77図)



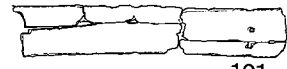
224  
(第96図)



218  
(第96図)



137  
(第78図)

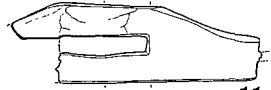


191  
(第88図)

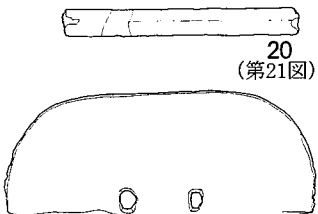
第36図 12群出土木製品



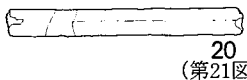
9  
(第50図)



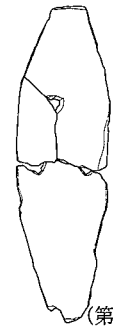
11  
(第50図)



25  
(第52図)



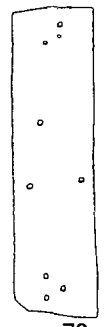
20  
(第21図)



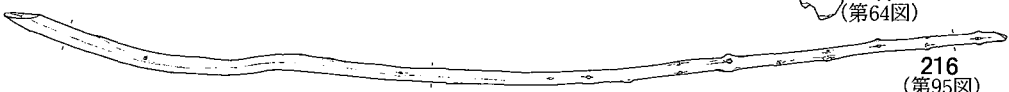
41  
(第64図)



57  
(第65図)

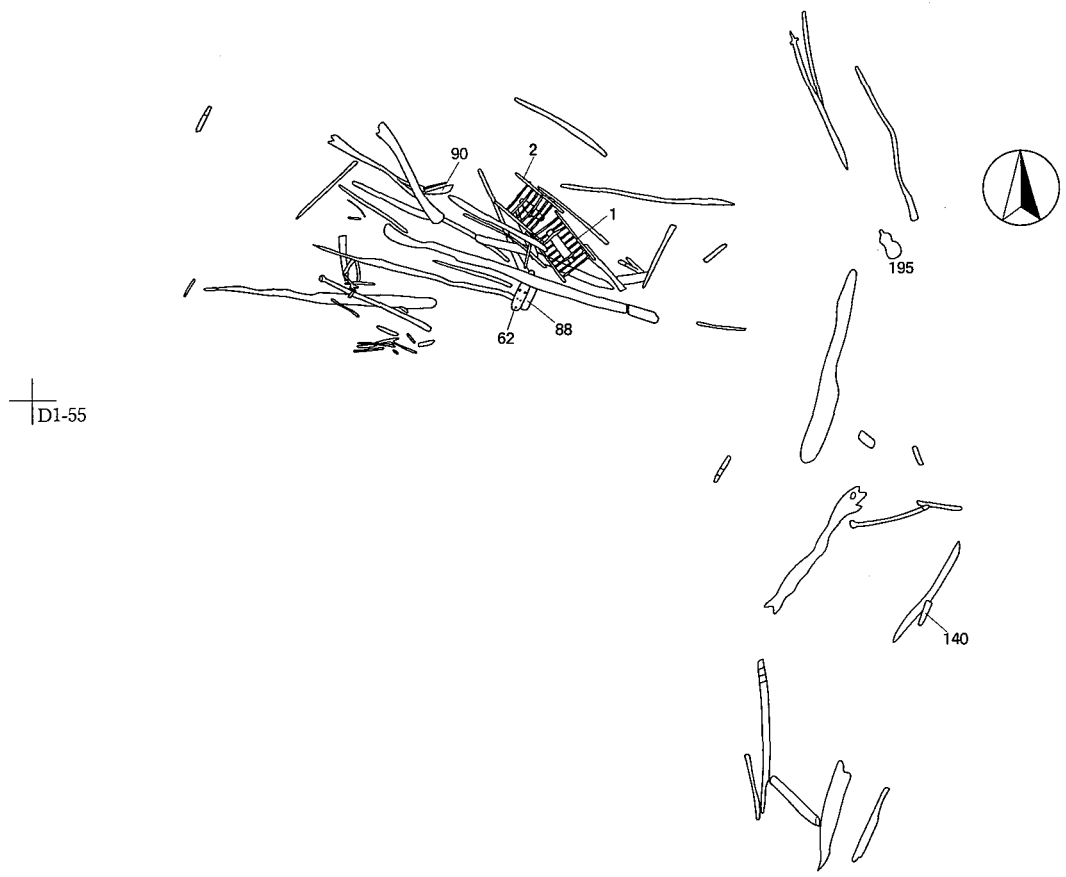


72  
(第68図)



216  
(第95図)

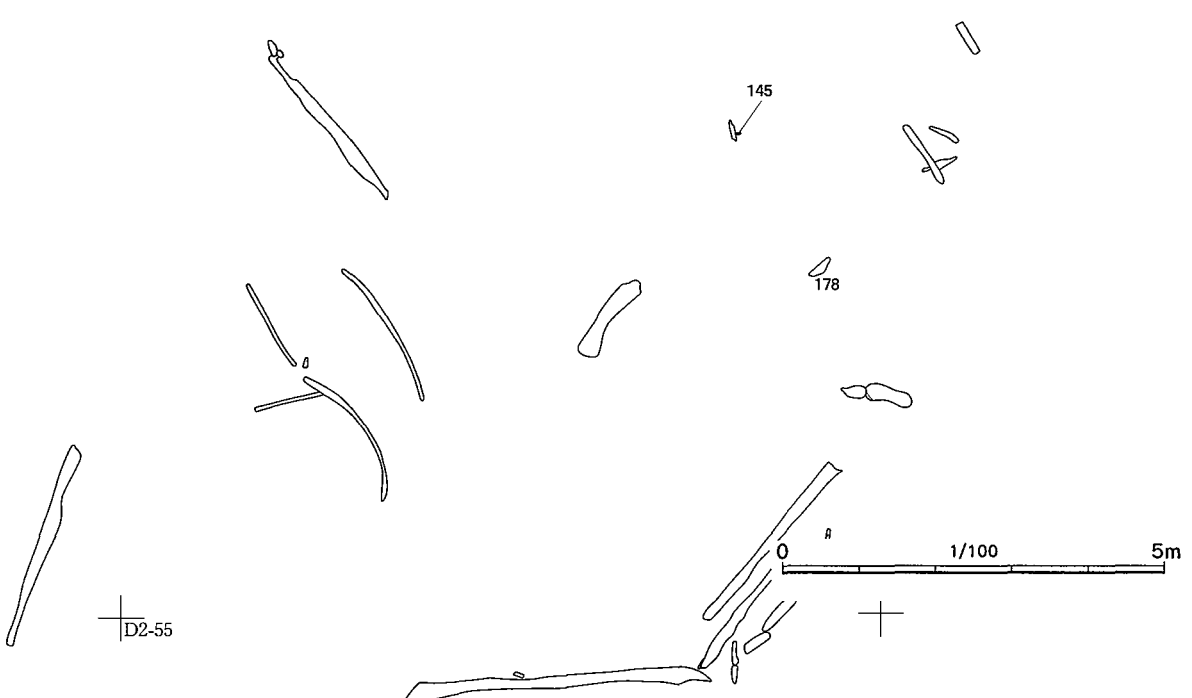
第37図 13群出土木製品



D1-55

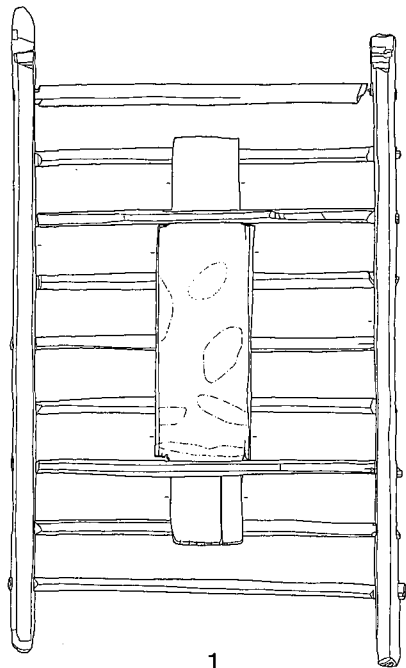
D2-05

E2-00

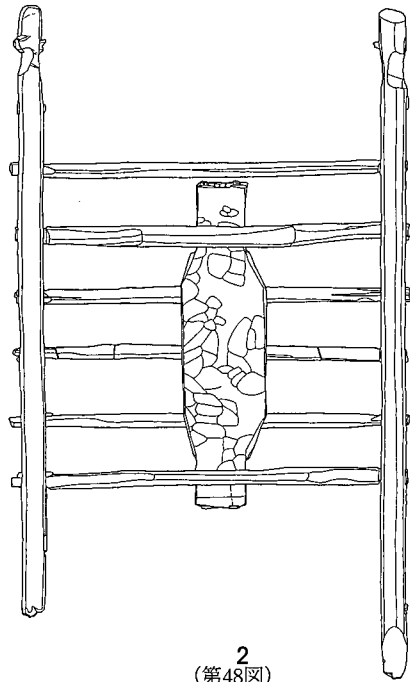


D2-55

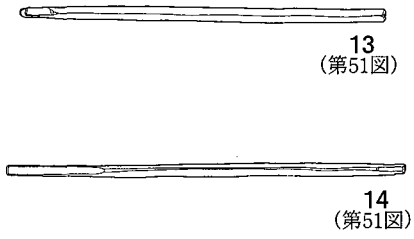
第38図 東区木製品等出土状況図(3)(14, 15群)



1  
(第47図)

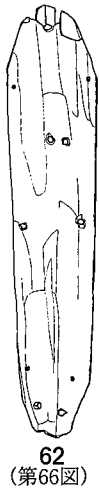


2  
(第48図)

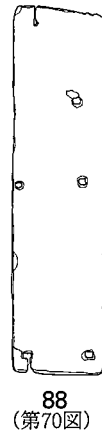


13  
(第51図)

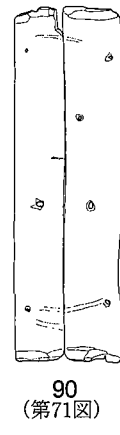
14  
(第51図)



62  
(第66図)

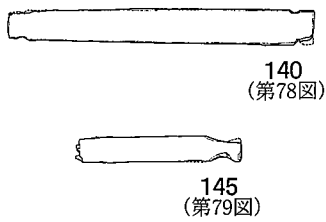


88  
(第70図)



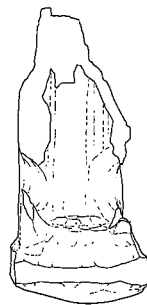
90  
(第71図)

第39図 14群出土木製品



140  
(第78図)

145  
(第79図)

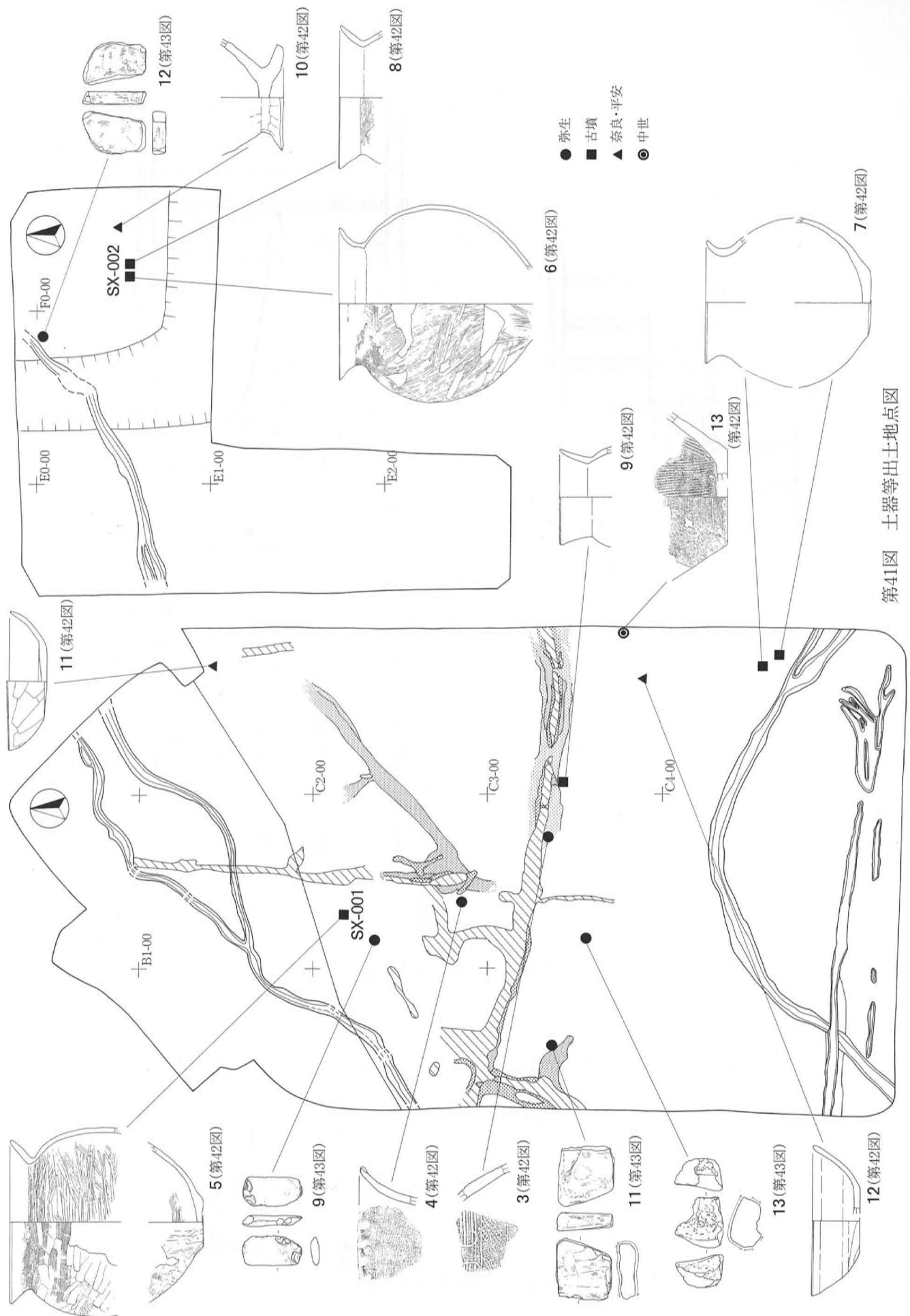


195  
(第89図)



178  
(第84図)

第40図 15群出土木製品



- 弥生
- 古墳
- ▲ 奈良・平安
- ◎ 中世

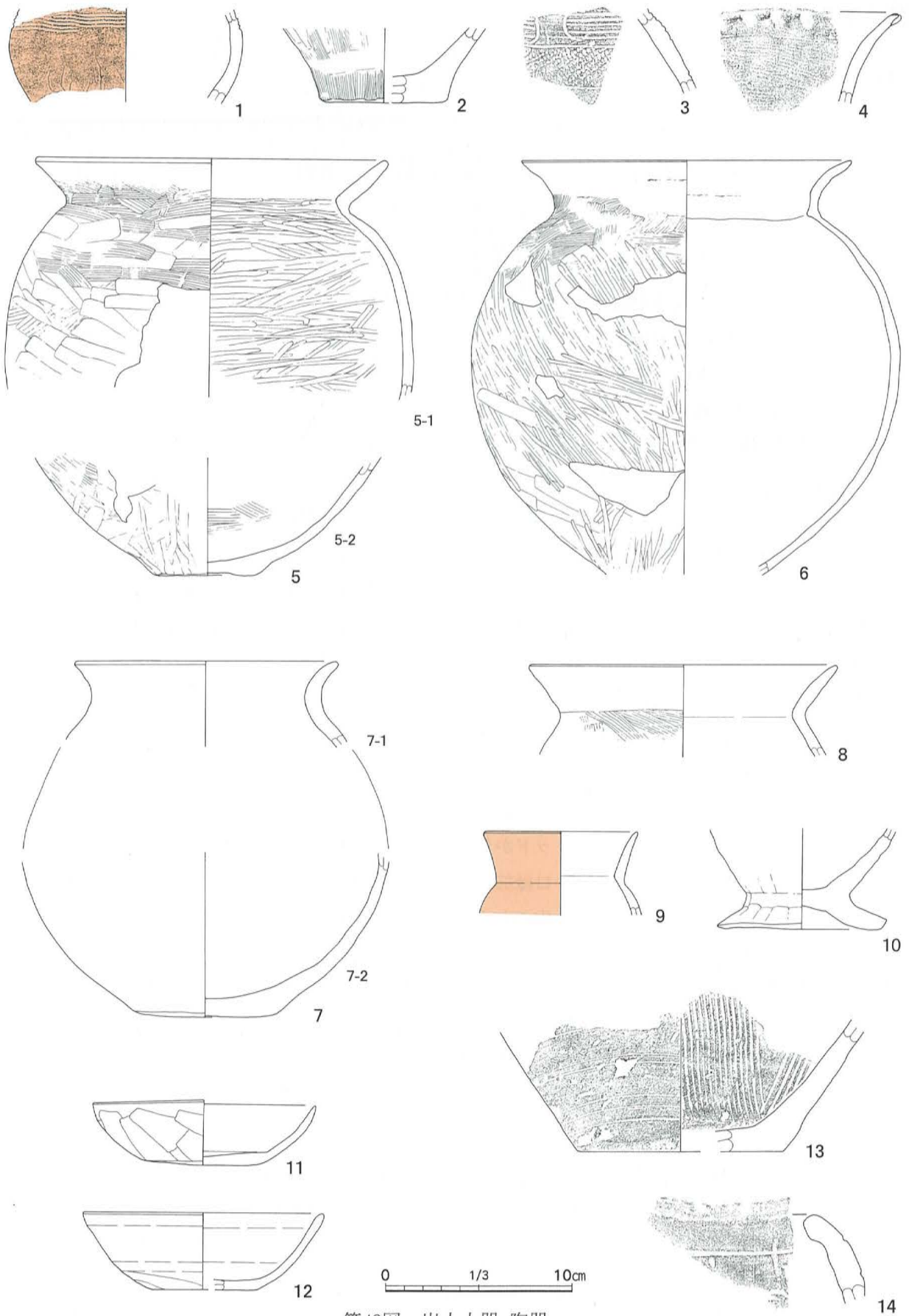
第41图 土器等出土地点图

## 第5節 遺物

三直中郷遺跡沖田地区から出土した遺物の大半は、農具を中心とする木製品であり、中でも杵付田下駄（輪カンジキ型田下駄、方形杵型田下駄）の足板、横木、杵木等がほとんどを占める。その他の遺物としては、SD-001溝状遺構から出土した弥生土器・石器、土器散布地点から出土した古墳時代土師器、包含層内の奈良・平安時代土師器、中世陶器、近世土製品・石製品・鉄製品・銅製品、銭貨などがある。

### 1 土器・陶器（第42図，図版13）

1～2は、SD-001から出土した弥生土器である。1は、壺の胴部片で約1/2が遺存している。胴部上半に櫛状工具による横方向の条線が見られ、赤彩が施される。2は、甕の底部片で、外面に縦方向のハケ目が見られる。3は西区，B3-21グリッドから出土した弥生土器の壺である。胴部上半の破片と思われる。上半は、沈線により擬似流水紋の退化したものと思われる紋様が見られ、下半は沈線で区画された中に縄文が充填される。擬似流水紋は横方向に5条の沈線が並行に引かれた後、()により幾つかに区画し、その境の沈線を雑にナデ消したものである。4は西区，B2-84グリッドから出土した弥生土器で、甕の口縁部片である。口唇部は押捺による波状を呈し、外面には、横方向のハケ目が施される。5は土器散布地点としたB2-23グリッド出土の古墳時代土師器甕であり、接合する部分はないが、同一個体と思われる。6は東区，F0-42グリッドを中心に出土した土師器甕である。球形の胴部から頸部は、緩やかに外反しながら口縁部に至り、口縁端部は僅かに内湾する。内面の胴部と頸部の境に明瞭な稜を有する。頸部上半から口縁部にかけてナデ、頸部下半から胴部上位にはハケ目が見られ、肩部から胴部は斜め方向のヘラミガキが施される。7は西区，C4-57～68グリッドで出土した土師器甕である。口頸部片がC4-57グリッドから、胴底部片がC4-68グリッドと隣接するグリッドから出土しており、色調等から同一個体と判断した。頸部は肥厚しながら緩やかに屈曲する。摩滅が著しく調整は不明瞭であるが、縦方向のヘラ削りの痕跡が見られる。古墳時代後期初頭のものであろう。8は6と同様、東区，F0-42グリッドで出土した土師器甕口縁部片である。頸部はく字状に屈曲し、口縁部は直線的に開く。口縁部はナデ、胴部には斜め方向のハケ目が施される。9は西区，C3-46グリッドから出土した土師器小型壺、所謂、埴である。口縁から胴部上位片で、小ぶりの球形の胴部から低い口縁部が僅かに外反しながら開く。全体に横方向のヘラナデが施され、外面は赤彩される。5世紀前半を中心とするものであろう。10は東区，F0-44グリッドから出土した土師器小型台付甕の胴部下端から脚台部の破片である。胴部及び脚台部の接合部には縦方向のヘラ削りが施され、低平な脚台部の端部周辺は雑にナデられている。7世紀末葉から8世紀初頭を中心とする時期が考えられる。11は非ロクロ整形の土師器杯である。摩滅が著しく調整は不鮮明であるが、内面及び口縁部外面にはナデが、体部外面から底部にかけて手持ちヘラ削りが施されたものと判断される。底部内面見込みには底部と内面の境が明瞭に認められる。8世紀第IV四半期を中心とする年代が考えられる。12はロクロ整形の土師器杯である。内面及び体部外面には回転ナデが施され、外面体部下端から底部には回転ヘラ削りが施される。9世紀中葉のものと考えられる。13は瀬戸・美濃播鉢の底部片である。外面体部下端には回転ヘラ削り、底部には糸切り痕、内面には15条を1単位とする櫛状工具による播目が見られる。胎土は灰白色で長石粒を含み、茶褐色の鉄釉が施される。内面は平滑で良く使い込まれている。17世紀前半のものと考えられる。14は瓦質土器の口縁部片である。口唇部は内面に丸みを帯びた玉縁状を呈し、口縁と体部の境に1条の沈線が巡る。口縁端部は摩滅が著しく、蓋を頻繁に開け閉めするものであるとするな



第42图 出土土器, 陶器

らば、火消壺の可能性が高く、近世のものであろう。

## 2 土製品（第43図，図版14）

1は転用砥石である。器面も良く使用されており、何を転用したものか明らかでない。2は図下端より焼成前穿孔が施され、上端の破損部まで辛うじて貫通している。3は、脚状の部分も含め型押しによって半分ずつ作られている。内側はやや凹み、器状である。1～3は中・近世以降の所産とみられる。4は摩耗が著しく詳細は不明だが、内面に赤彩が施されている可能性もある。弥生～古墳時代のミニチュア土器と考えられる。5～7は泥面子と考えられ、中・近世以降の所産と考えられる。

## 3 石器・石製品（第43図，図版14）

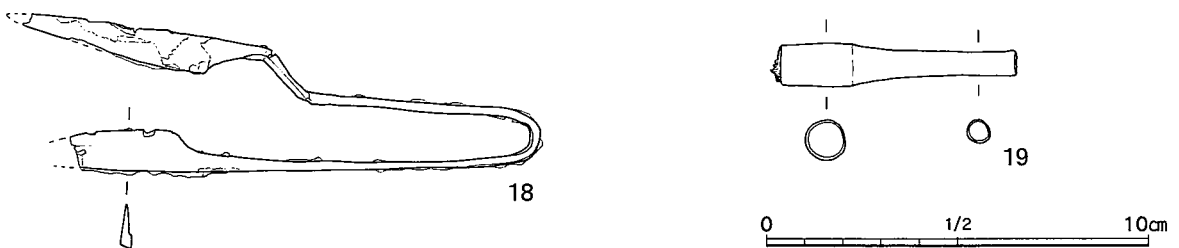
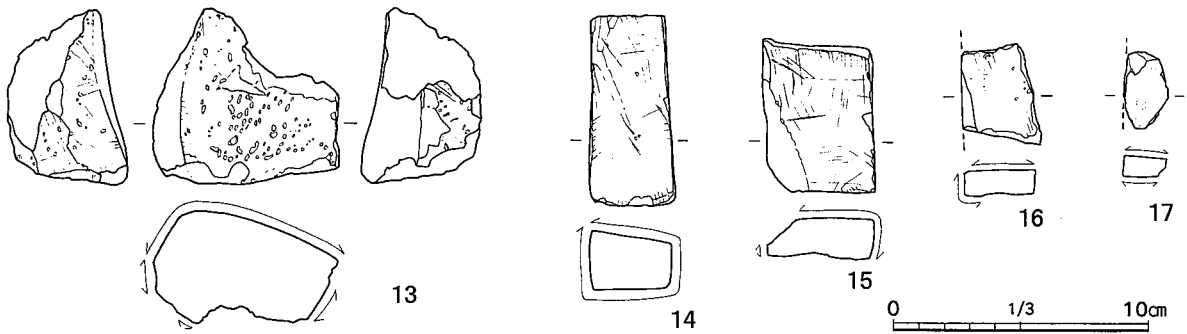
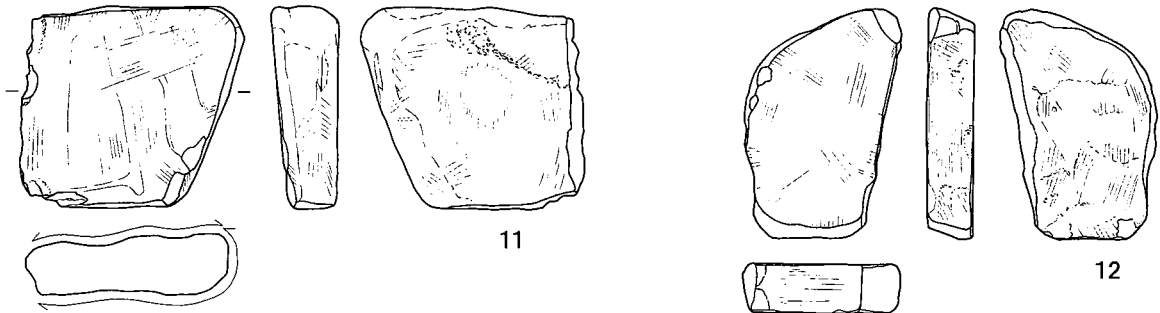
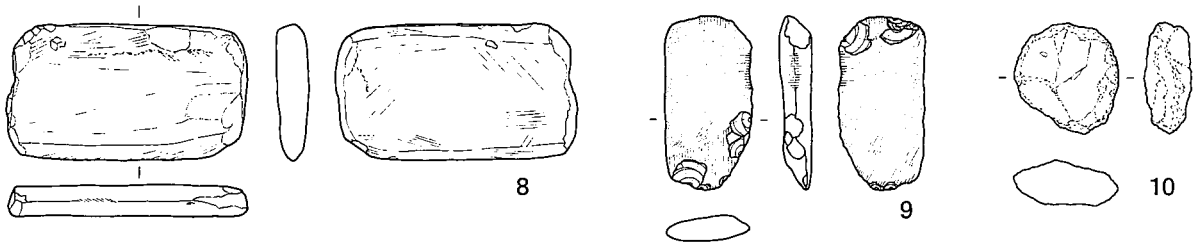
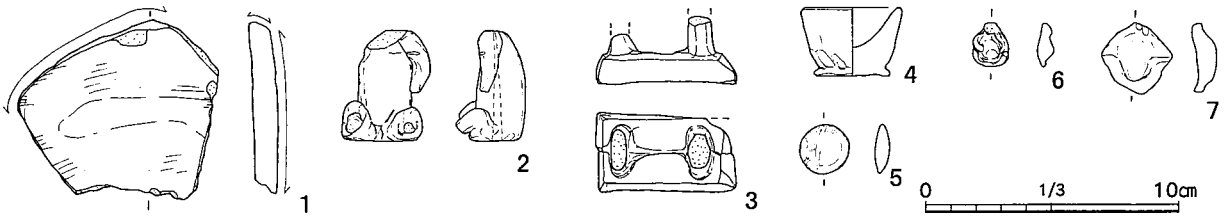
8はSD-001から出土した。砂岩製で、砥石の可能性もあるが、図の下端部を刃部とする石庖丁状石器と考えられる。刃部は、中央よりやや左の一部のみ摩耗しているのが観察される。9は片刃の刃部磨製石斧である。10は火打石である。稜線の潰れが著しい。11～17は砥石とみられる。11は8と類似した石材で、図正面に2条の浅い溝が認められる。

## 4 金属製品（第43図，図版14）

18は鉄製の鉄である。19はキセルである。

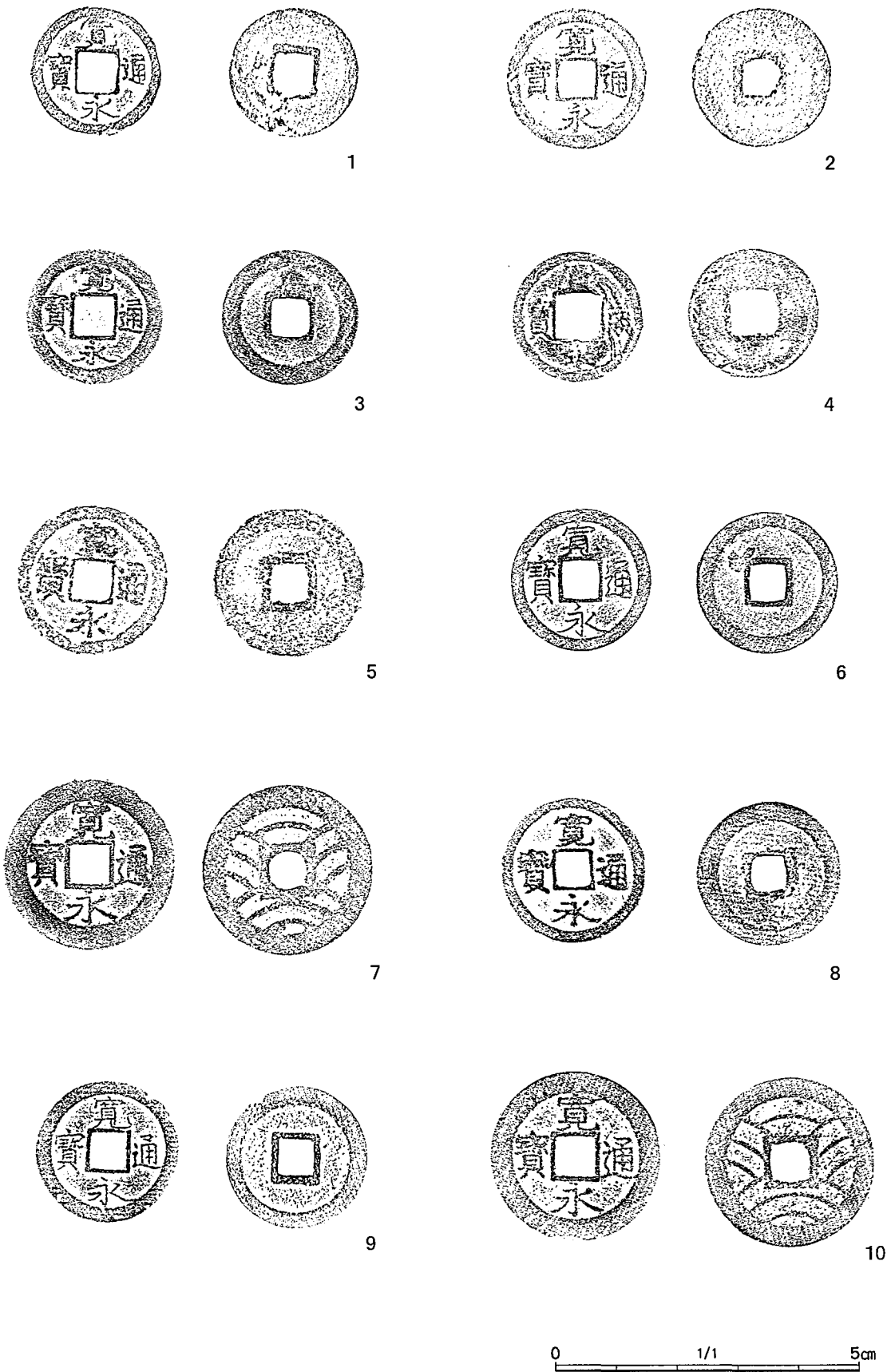
## 5 銭貨（第44図，図版14）

1～10はいずれも寛永通寶である。



第43図 出土土製品，石器，鉄製品，銅製品





第44図 出土銭貨

## 6 木製品

### 大足と田下駄

三直中郷遺跡沖田地区からは、奈良・平安時代の足と田下駄が多数出土し、大足についてはほぼ完形の杵型大足2点と杵型大足の部材数点、田下駄については横長板状田下駄、下駄型田下駄、輪カンジキ型田下駄、高下駄型田下駄が出土し、民俗例に見られるほぼ全ての「田で履く下駄」が揃っているものと判断される(第45図)<sup>1)</sup>。

大足と田下駄については、その機能から明確に分類する必要があるとされており<sup>2)</sup>、本報告でもそれを踏襲し、大足と田下駄を大別し、大足と田下駄それぞれに構造が明瞭なもの、ないしは推定されるものを掲載した後、各部材を掲載した。

田下駄の部材のひとつである足板については、各型式に細分することが困難なものもあることから、足板の形態から短冊形(A型)、舟形(B型)、その中間形(C型)に分類し(第6表)、曲物盖板、底板の転用田下駄は各類型に含まれるものと判断して各類型に続けて掲載した。

第47図1～第51図22は大足及びその部材である。1, 2はD1-38～48グリッド、14群木製品等集中地点から出土しており、双方とも、足板、小口板、縦杵、横木の残る良好な遺存状態である。1は両端が欠損するが左後端部下端が丸みを帯び端部にほど近い部分である点、2は前端が残り、緊縛部と思われる窪みが見られる点から判断して、9本の横木と2枚の横板が梯子状に組み込まれ、前部にのみ手綱を有する大足と判断される。但し、前後の欠損状況や周辺から、2に伴うと思われる2本の横木のみが出土している点から、前後の横木各1本を欠失した状態で使用されていた可能性も考えられる。

第47図1は、足板が小口板のほぞ穴に、7本の横木と2枚の小口板が、縦杵のほぞ穴に組み込まれた状態で、足板を上にした正位の状態で出土した。全長82.0cm、幅50.0cm、横木の底面から足板の上面まで10.0cmを測る。足板は、方形の足台の前後に凸状の方形のほぞを作り出している。小口板は、斜辺が内湾する台形(琴柱形)を呈し、中央に足板を組み込む横長のほぞ穴1個、両端には横木に組み込むためのほぞを有する。下端の接地面は断面半円形を呈し、横木ほどではないが細く仕上げられている。縦杵は、外側が丸みを帯びたD字形を呈する。左右ともに前後端を欠き、欠損部に横木の組み込まれるほぞ穴が見られることから、前後に横木が1本ずつ組み込まれ、9本の横木があったものと判断されるが、欠損後も使用されていた可能性も考えられる。横木のほぞ穴は方形で、右側縁のほぞ穴には2本の楔が十字に打ち込まれている。

第48図2は、足板が小口板のほぞ穴に、4本の横木と2枚の小口板が縦杵のほぞ穴に組み込まれた状態で、足板を下にした倒位の状態で出土した。全長86.5cm、幅51.0cm、横木の底面から足板の上面まで10.0cmを測る。周囲から2本の横木(第51図13・14)が出土しているが、本大足に伴うものであろう。足板は亀甲型の足台部の前後にほぞを作り出している。表面の加工は荒く、表裏面やほぞの小口にも工具痕が見られる。1の足板と形状が異なる点や、小口板のほぞ穴と足板のほぞの幅が異なる点から、足板は使用者によって作り直され、足板のみを付け直した可能性が考えられる。小口板は斜辺が内湾する台形(琴柱形)を呈し、中央に足板を組み込む横長のほぞ穴1個、両端には横木に組み込むためのほぞを有する。下端の接地面は断面半円形を呈し、横木ほどではないが細く仕上げられている。縦杵は、外側が丸みを帯びたD字形を呈する。左右ともに前後端を欠き、欠損部に横木の組み込まれるほぞ穴が見られることから、前後に横木が1本ずつ組み込まれ、9本の横木があったものと判断されるが、欠損後も使用されてい

大足		田下駄				
		杵なし		杵付		
0-1 杵型大足	0-2 箱型大足	T-1 横長板状田下駄	T-2 下駄型田下駄	T-3 輪カンジキ型田下駄	T-4 杵型田下駄	T-5 高下駄型田下駄
緑肥踏み込み代掻き	緑肥踏み込み代掻き	稲刈り等に足が沈まないように履く	湿地の開墾、ヒエ取り、畦の上を歩く	稲刈り等に足が沈まないように履く	稲刈り等に足が沈まないように履く	強湿田、冷水帯で足が沈まないように履く

第45図 大足・田下駄分類図(『瀬名遺跡Ⅲ』P167を改編・加筆)

た可能性も考えられる。左縦枠は前端の上部と後端を欠く。横木を組み込むほぞ穴は方形である。横木のほぞ穴は方形で右側縁のほぞ穴には2本の楔が十字に打ち込まれている。

第49図3・4は大足の足板である。3は遺存状態が悪く中央で割れ、足台部の隅が丸みをおびているが、方形の足台の前後に凸状の方形のほぞを作り出していたものと判断される。ほぞの付根に溝状の窪みが見られ、小口板のほぞ穴に組み込まれた痕跡と判断される。ほぞにはそれぞれ穴が見られ、目釘穴であろう。裏面には横木の圧痕が4条見られる。4は遺存状態が良好である。方形の足台の前後に凸状の方形のほぞを作り出していたものと判断される。裏面には横木の圧痕が3条見られる。

第49図5～8は縦枠である。6, 7には横木が組まれた状態で出土した。5は横断面横長のD字状の縦枠で下半を欠損する。方形のほぞ穴が4個見られる。先端部のほぞ穴の周囲は抉りが見られ、支持紐の緊縛痕と考えられる。残存長26.4cm, 幅5.0cm, 厚さ3.2cmである。なお、図示していないが、接点の無い破片があり、ほぞ穴を挟んで結合するものとするならば、長さ約35.0cm, 5個のほぞ穴が遺存する。6は横断面D字状の縦枠であろう。菱形を基調とするほぞ穴が4個見られる。先端部は欠損し、ほぞ穴としての機能は果たしていない。ほぞ穴が菱形を基調としながらも不正形である点は、使用の頻度、乃至は横木の組込みの脆さを示すものであろうか。7は遺存状態が悪いが、大足横枠の先端部の破片と考えられ、台形のほぞ穴に横木が組み込まれた状態で出土した。ほぞ穴に合わせた断面台形の横木は左側に端面が残り、右側が欠損し焼け焦げている。横木の幅の狭小な面を下面とするならば、縦枠の平坦面が下面、削り込んで扁平に仕上げた側が上面となる。8は大足横枠の先端部の破片と考えられる。D字状の横断面を呈し、中央のほぞ穴のほか、削られた側の端面にもほぞ穴の痕跡が見られた。削りは支持紐の緊縛部であった可能性も考えられる。

第50図9～12は小口板である。12を除く9～11は、1, 2の大足の小口板同様、斜辺が内湾する台形（琴柱形）を呈し、中央に足板を組み込む横長のほぞ穴1個、両端には横木に組み込むためのほぞを有するものである。9は下端の接地面が断面逆三角形を呈する。足板を組み込むほぞ穴は長方形を呈する。10は下端の接地面が断面逆三角形を呈する。足板を組み込むほぞ穴は長方形を呈し、ほぞ穴の左右に削りの見られる面が内面と考えられる。右側のほぞは端部まで遺存し、縦に見られる割れは楔の痕と判断される。欠損する左側のほぞも破面が不均等であり、楔によるものであろう。11は下端の接地面が断面逆三角形を呈する。足板を組み込むほぞ穴は長方形を呈する。12は、低平な台形を呈し、足板を組み込むためのほぞ穴を2個有するものである。下端の接地面は断面逆三角形を呈する。ほぞ穴周辺部に見られる凹部が足板のアタリと考えられ、内面であったであろう。

第51図13～22は大足の横木である。13は断面菱形を呈し、左端のほぞと右端の破面には楔の痕跡が見られる。14は断面三角形を呈し、左側のほぞが長い点が特徴的であり、おそらく、既に組み上げられた大足の補修用に使用されたものであろう。15は断面流滴形を呈し、足板のアタリが見られ、両端のほぞも遺存している。16は断面菱形を呈し、右端のほぞが欠損するが、やや細くなっていることから、ほぼ旧形を残しているものと判断される。17は断面流滴形を呈し、左端は細くなりほぞと考えられる。18は断面菱形を呈し、左端部には僅かにほぞの痕跡が見られる。19は断面不正形であるが、片側を片刃状に削り出している点や両端にほぞと見られる部分があることから、大足の横木と判断した。20は断面流滴形を呈し、左端部にほぞの痕跡が見られる。21は断面細長い流滴形を呈し、左端部に細いほぞが見られる。22は断面が菱形の側面を削ったような五角形を呈し、左端部が細くほぞ状を呈していることから大足の横木と判断した。

第52図23～30、第54図31～32は、横長板状田下駄である。23、24は円形に近い小判形を呈し、ほぼ完形である。25は小判形の前半部、26は後半部の破片である。27は長方形に近い小判形を呈する。28は弧状形を呈する。29、30は緒孔、厚さから横長板状田下駄と判断したが、平面形態は不明である。31は緒孔以外に緒孔の外側に9個の方形の孔が見られる。推定の範囲を脱しないが、民俗例に見られる足枠の緊縛孔ではなかろうか。32を同様の視点で見ると、緒孔が無く、足板の緊縛孔のみが見られるものと思われる。23～25、31は緒孔が後ろ寄りに開けられているのに対し、27、28は中央寄りに開けられている。

第55図(85, 175)、第56図(107, 174)は輪カンジキ型田下駄で、足板と枠木がほぼ組まれた状態で出土している。何れも横木は見られなかった。実測は足板と枠木とそれぞれ別に行った。特筆されるのは、107の足板と174の枠木により組まれた輪カンジキ型田下駄で、足板はカキ底の曲物を転用しており、第73図107のように左右セットとなる足板が見られ、足板は非対象形である。枠木は細い板状を呈しており、曲物の側板を使用したものと判断された。第58図33～第62図35は方形枠型田下駄である。ほぼ組まれた状態で出土した。第63図36～第64図44は輪カンジキ型田下駄の足板である。第64図45～第77図135は枠付田下駄の足板で、このうち第65図55・第68図68・第70図85～87・第73図107、そして第82図171は輪カンジキ型田下駄の足板とみられる。また、第72図106・第73図108は方形枠型田下駄の足板とみられる。第78図136～第80図160は、輪カンジキ型田下駄の横木と考えられる。第81図162～第81図167は方形枠型田下駄の小口板、第82図168～170・172・173は方形枠型田下駄の縦枠とみられる。第83図174～176は輪カンジキ型田下駄の枠木とみられる。

#### 農具

第84図177～180は鋤である。177は先端部の刃部を欠損する曲柄又鋤身である。横断面半月状を呈し、軸部と刃部の境は明瞭に認められるが、柄との緊縛溝は認められず、軸部先端が欠損している可能性が高い。178は又鋤の刃部の片側と判断したが、柄との結合部については不明である。179は四又となる曲柄多又鋤である。軸部と刃部の境は明瞭で、軸部先端に緊縛溝が見られる。180は刃部を欠く直柄平鋤である。幅11cmであることから狭鋤となろう。柄孔径は1.5cmで柄孔付近に突起及び隆起は見られない。第85図181は泥除けである。隅丸形状の平面形を呈し、柄孔径は3.5cmである。柄孔の周囲に4個の小孔が見られ、鋤身や柄との緊縛に使用されたものであろうか。鋤身との結合のための仕上げ等は見られない。第85図182は鋤柄であろう。把手はT字状に削り出している。第86図183～184は膝柄である。183は軸部の上部と柄の基部に緊縛のための紐かけが見られる。184は軸部の上部がやや細く作られており、紐かけであろう。第87図185は棒状の木製品で、直柄の可能性が高い。第87図186は一木平鋤である。柄から左右に肩が水平にのびる角肩を呈し、刃部横断面は前面がふくらみ、後面がくぼみ、柄の延長にふくらみを有する。刃部に方形の孔が見られるが用途は不明である。逆三角形の把手は中央に穴が無く、上端部が厚くなるように前面が削られている。

#### 容器

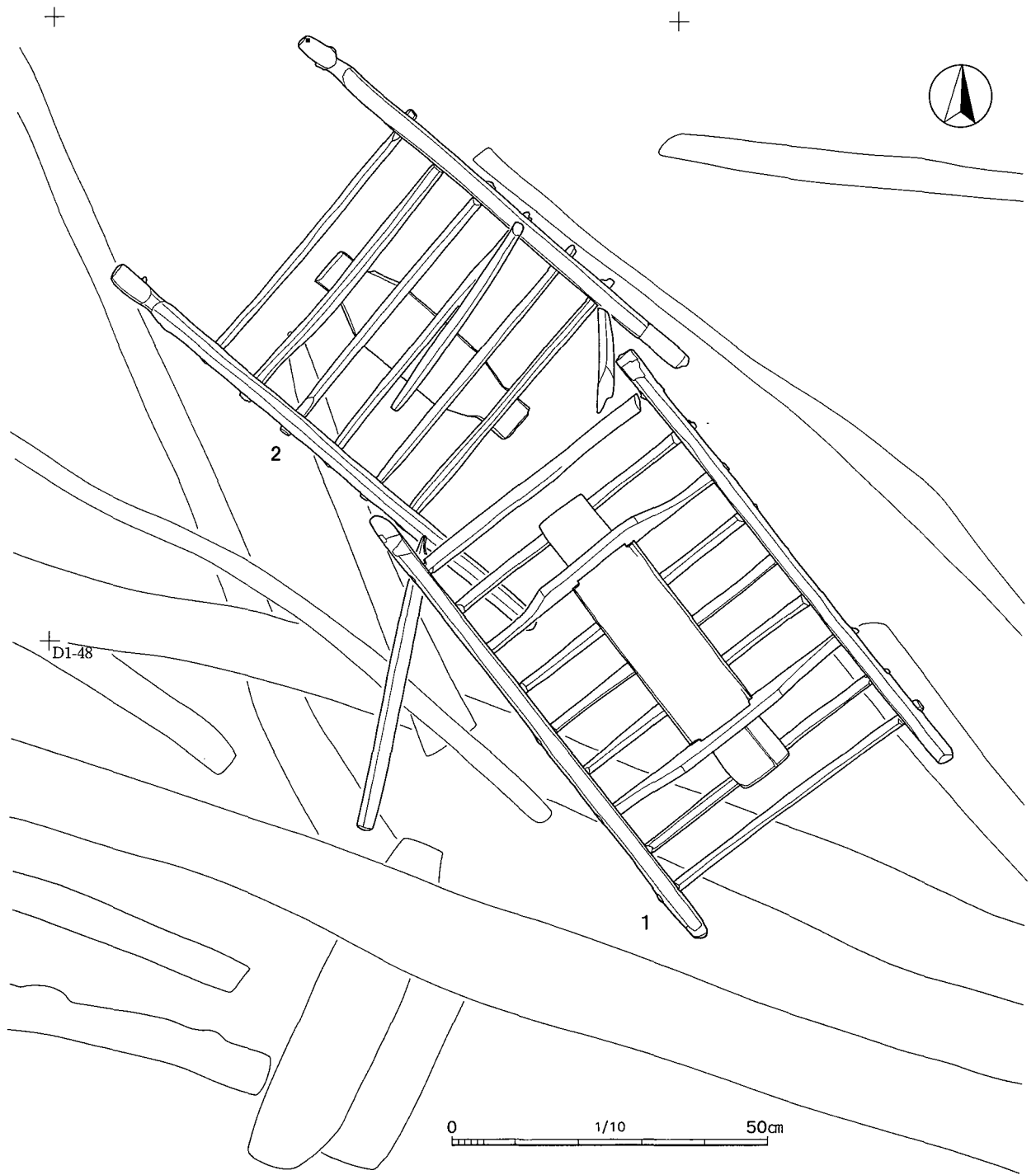
第88図187～第88図191は曲物で側板である。192は箱状の容器の側板、193は容器の蓋であろう。

#### 建築材ほか

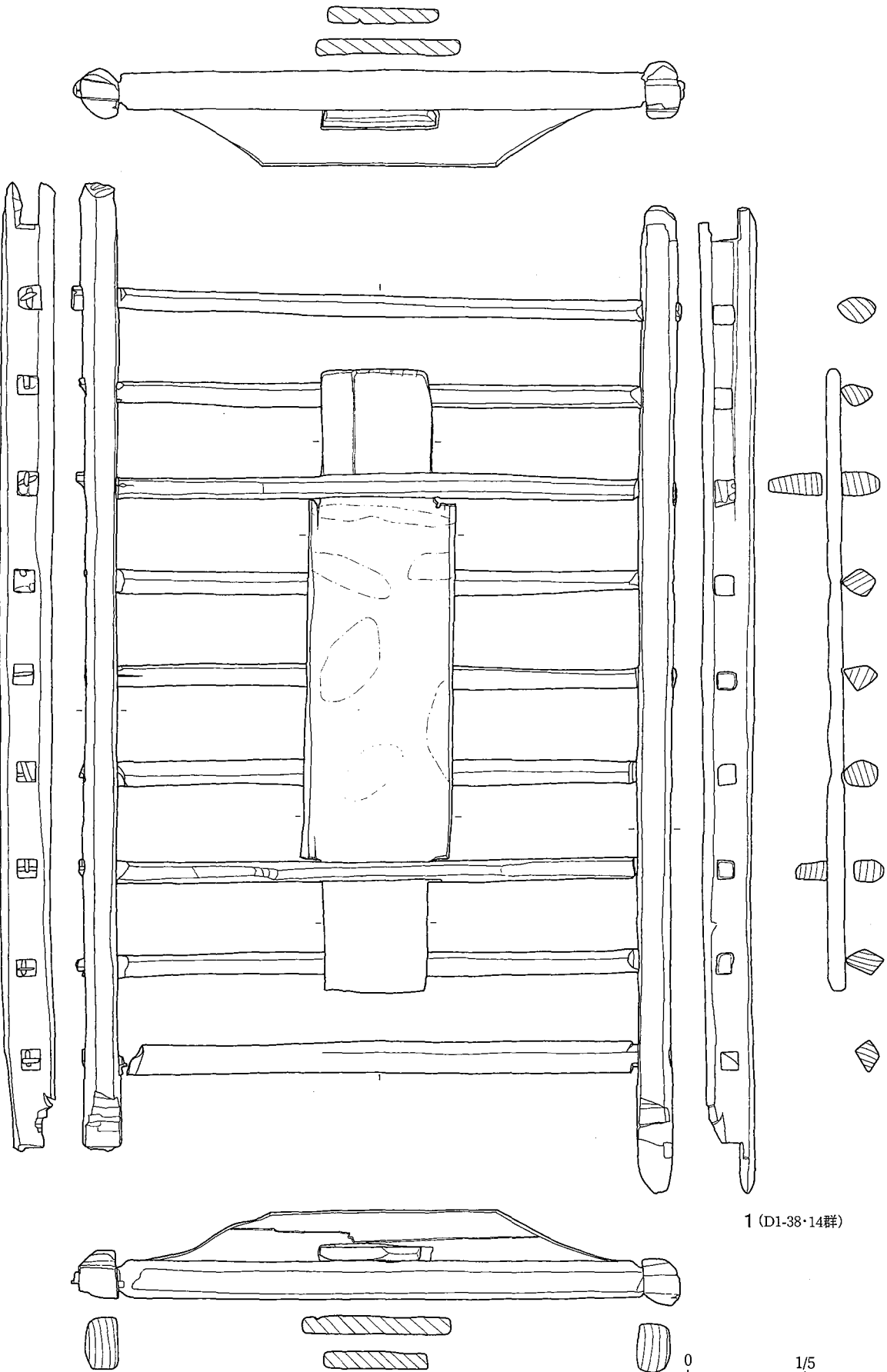
第89図194～第90図197は建築部材と考えられる。第91図198は天秤棒、第91図199は木刀である。第92図200～202は厚手の板状を呈し、扉板の可能性はある。

注1 中山正典ほか 1994『瀬名遺跡Ⅲ(遺物編Ⅰ)』財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所

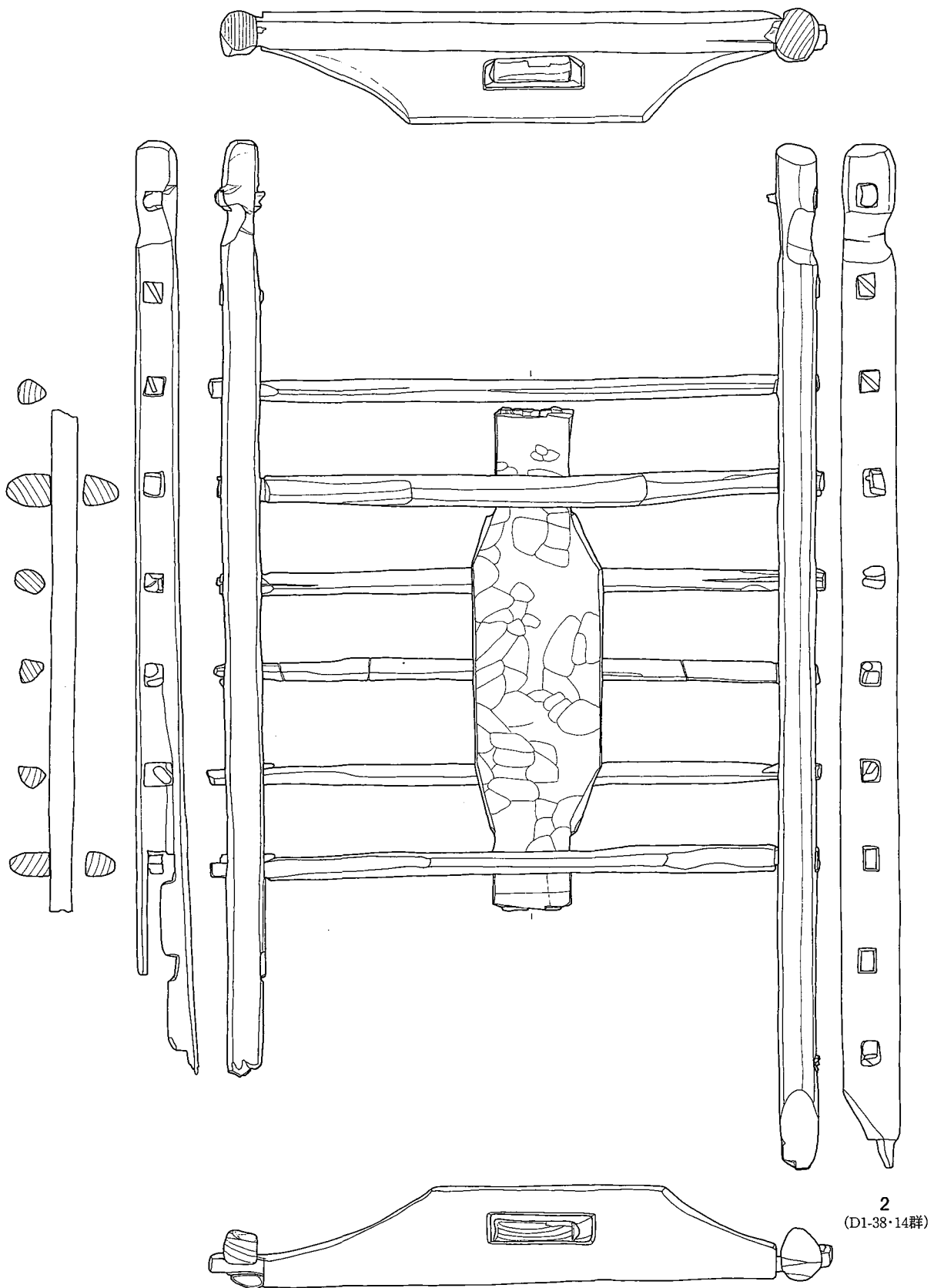
2 注1に同じ



第46図 大足出土状況図



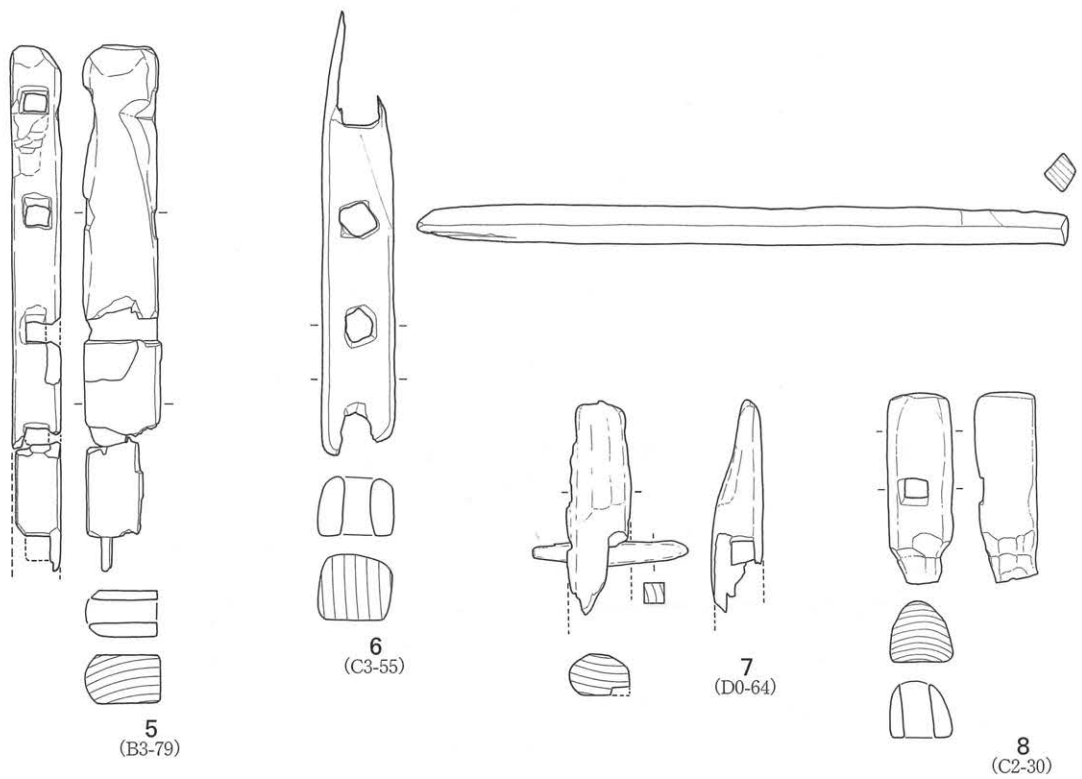
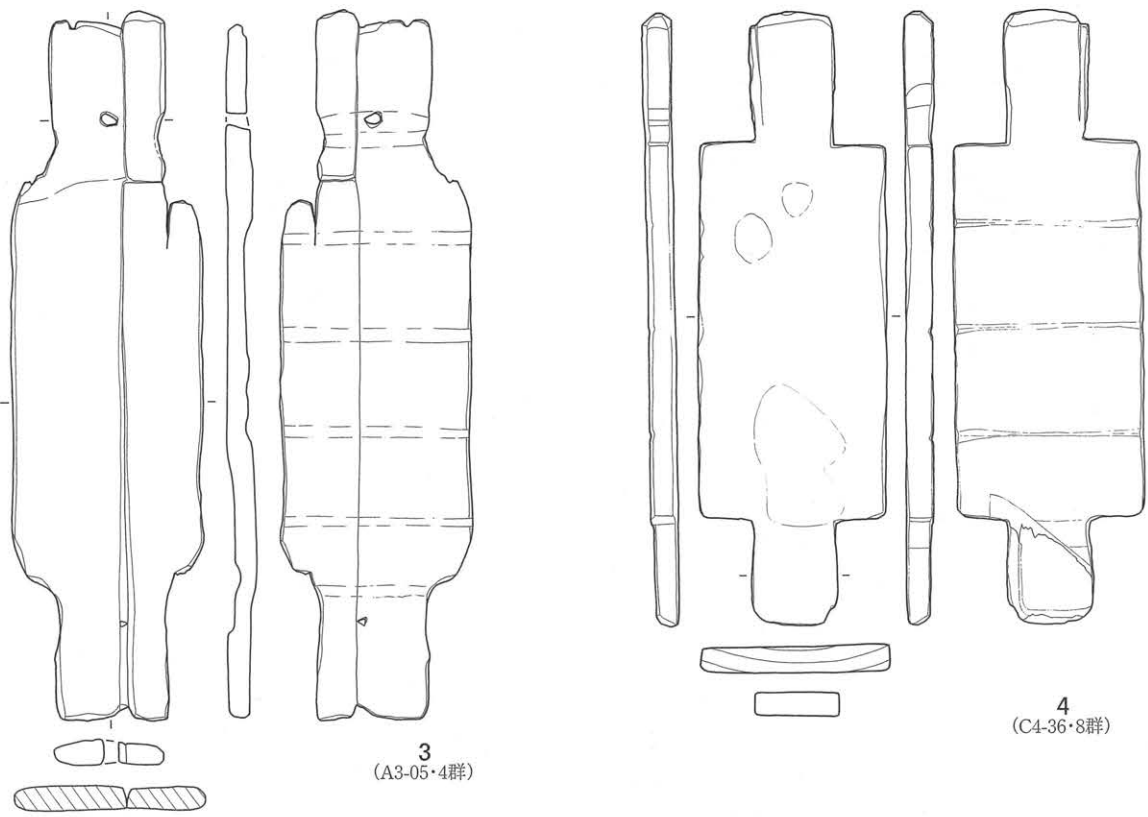
第47図 出土木製品 1 (大足 1)



第48図 出土木製品 2 (大足 2)

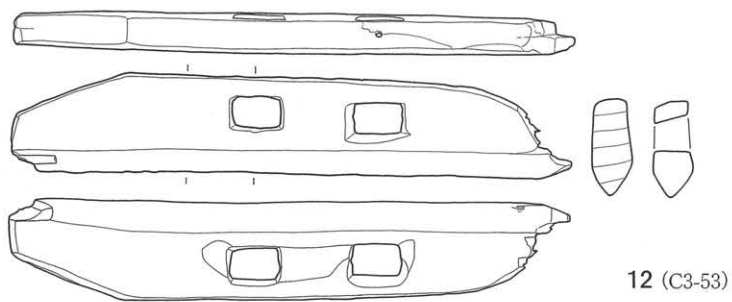
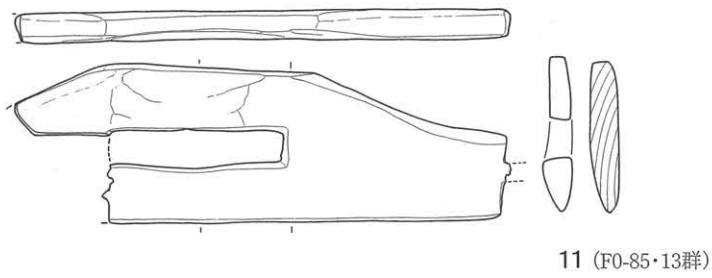
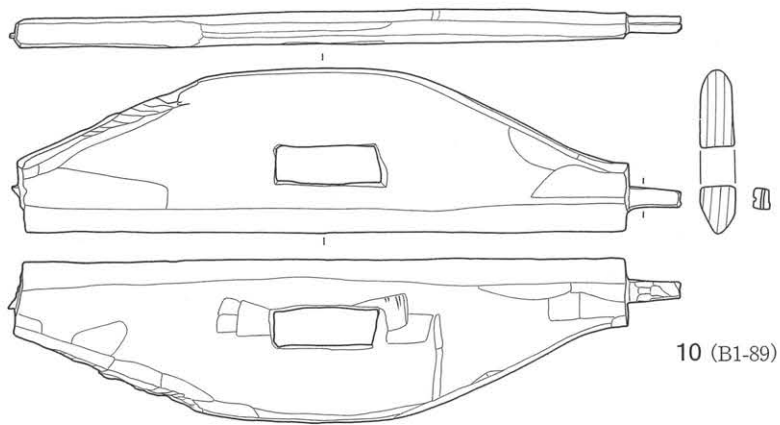
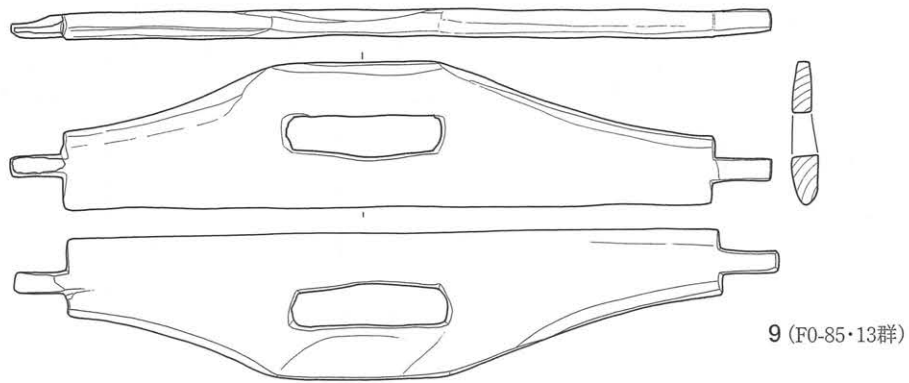
0 1/5 20cm





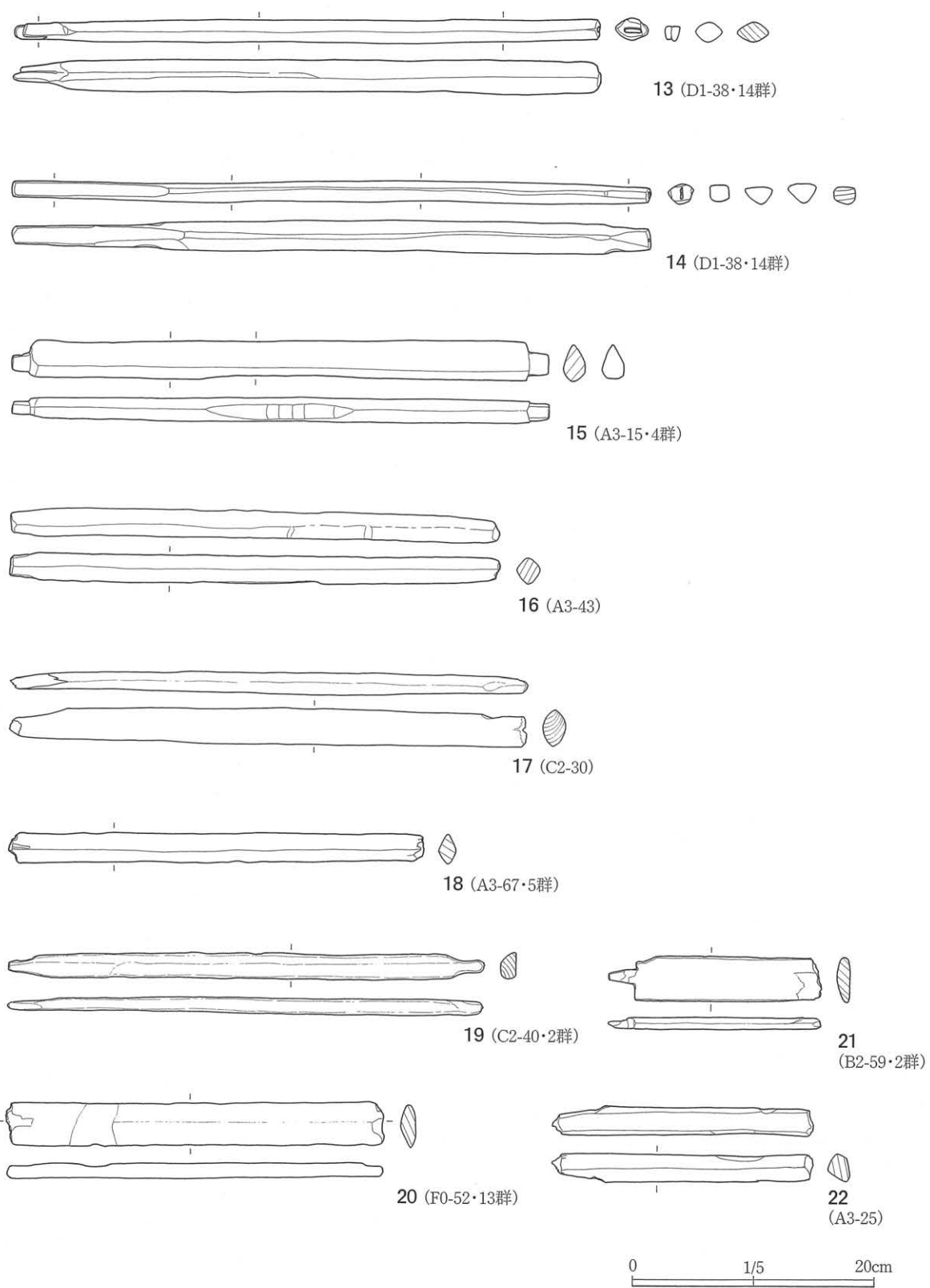
0 1/5 20cm

第49図 出土木製品3 (大足3)

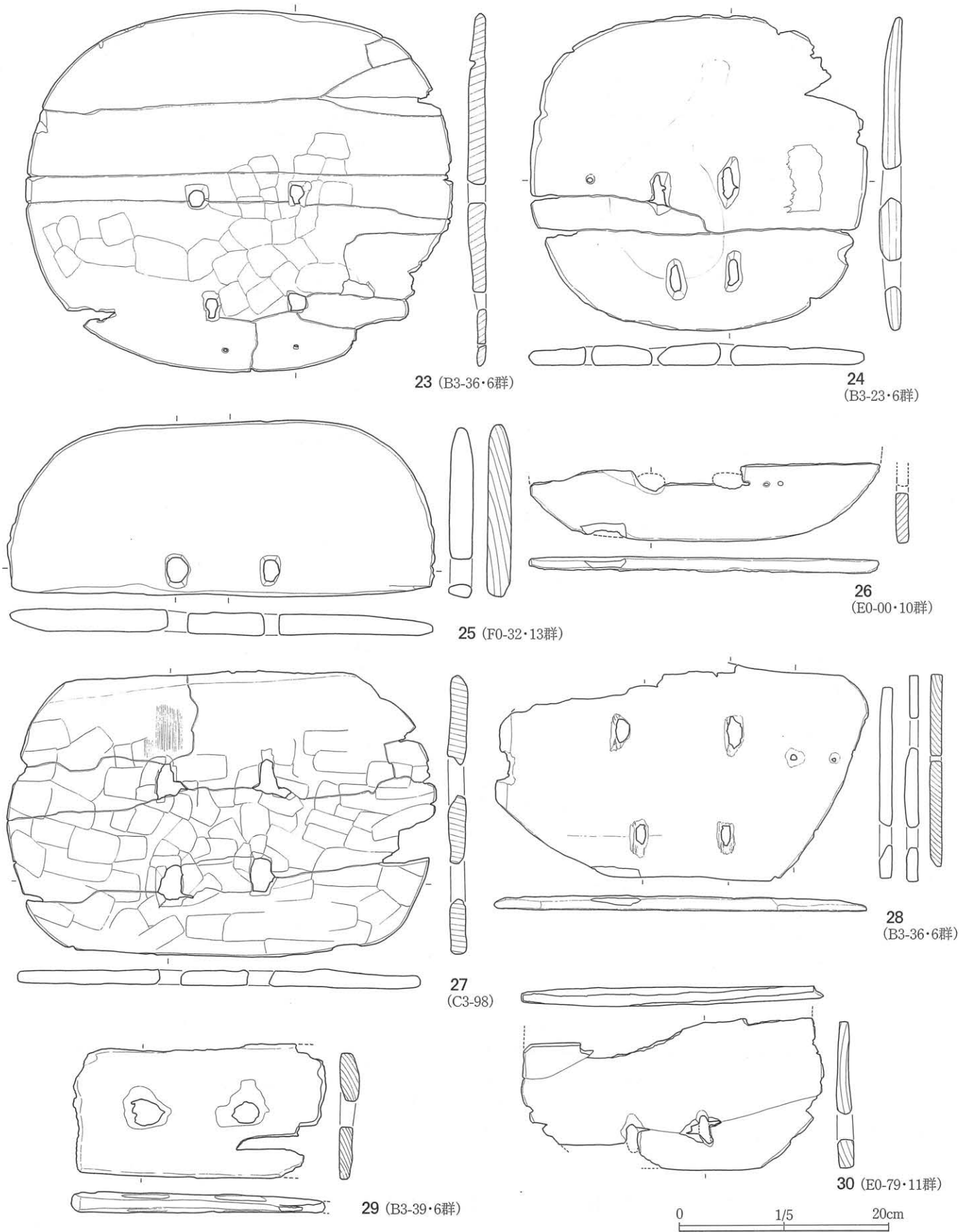


0 1/5 20cm

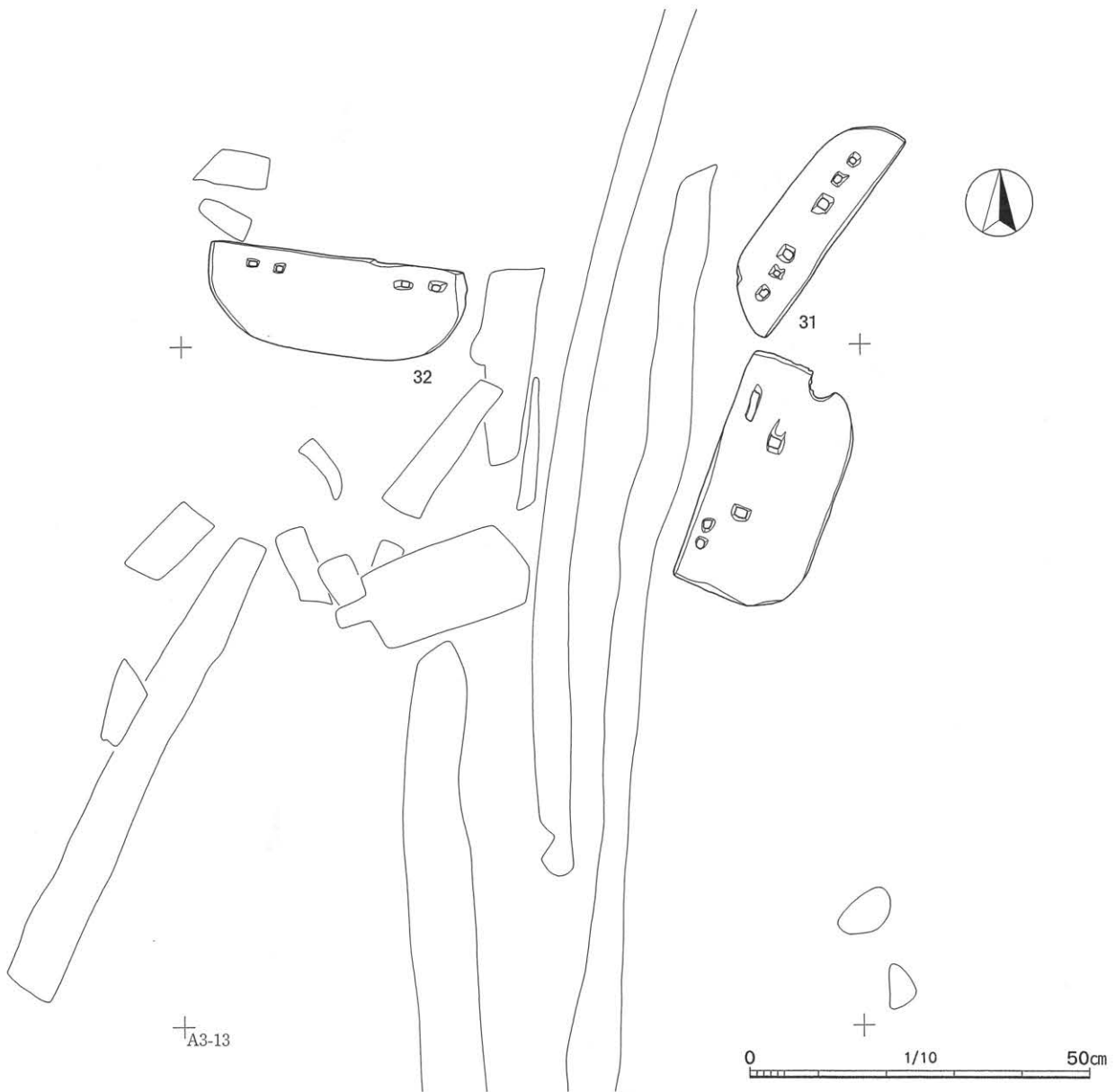
第50図 出土木製品4(大足4)



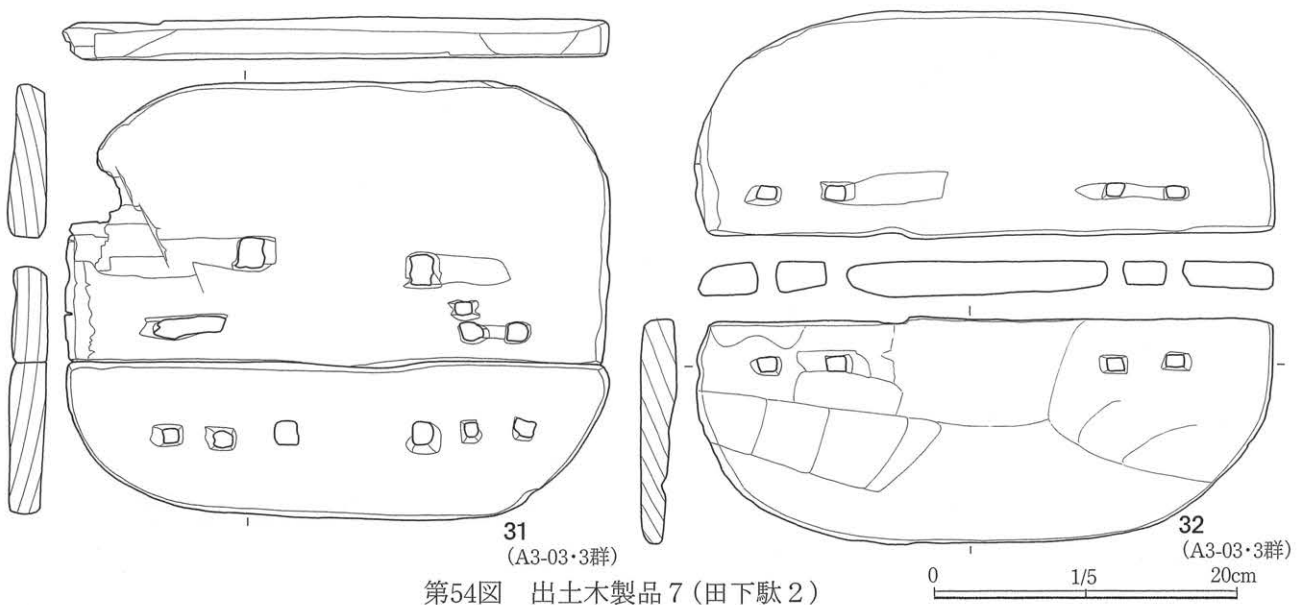
第51図 出土木製品5 (大足5)



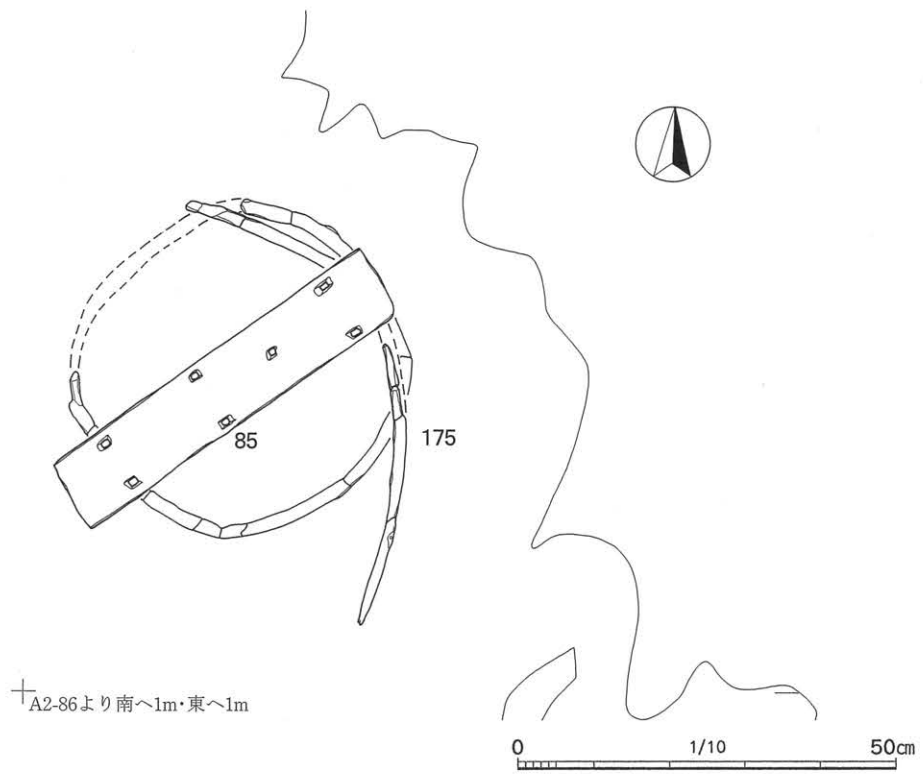
第52図 出土木製品6 (田下駄1)



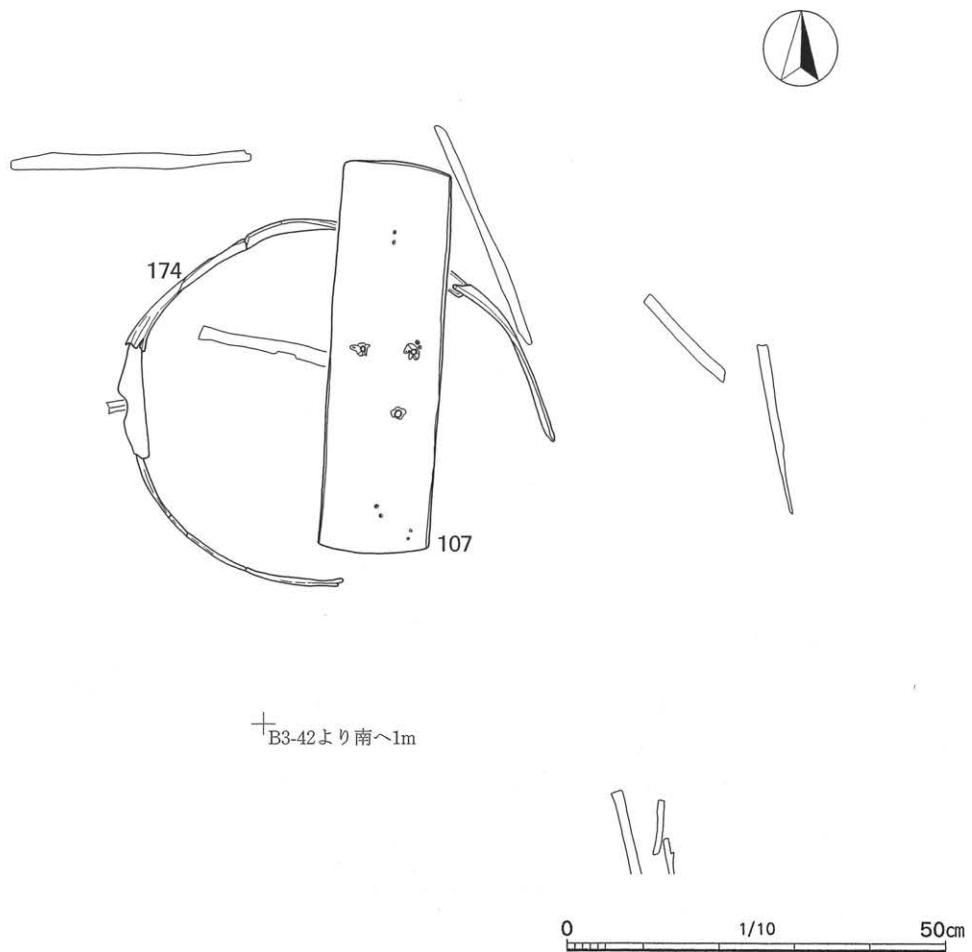
第53図 田下駄出土状況図1



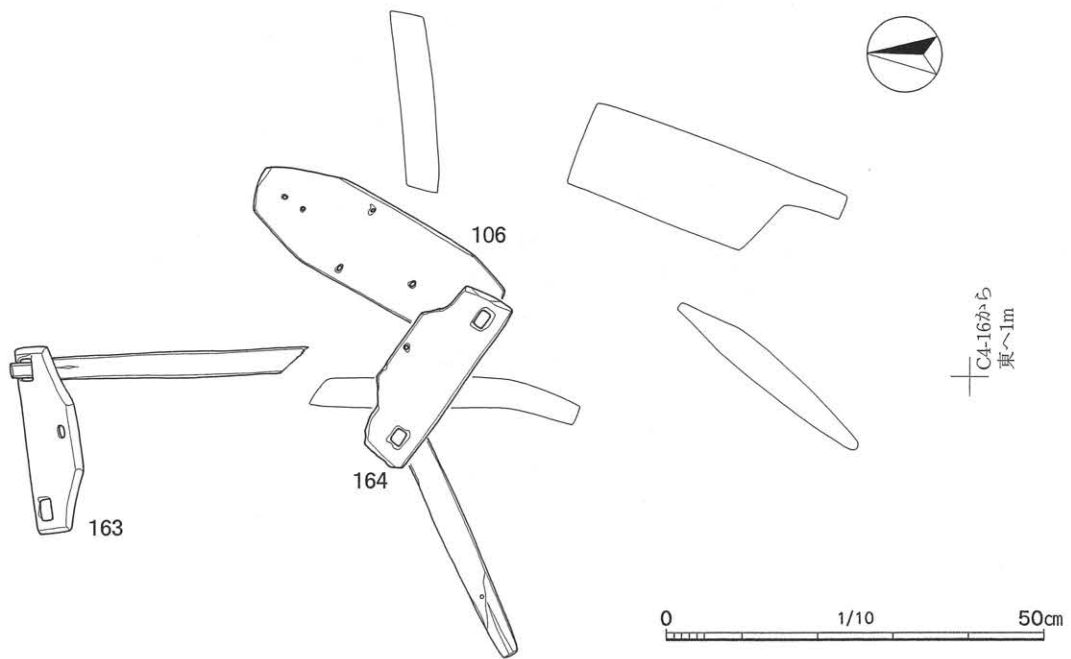
第54図 出土木製品7(田下駄2)



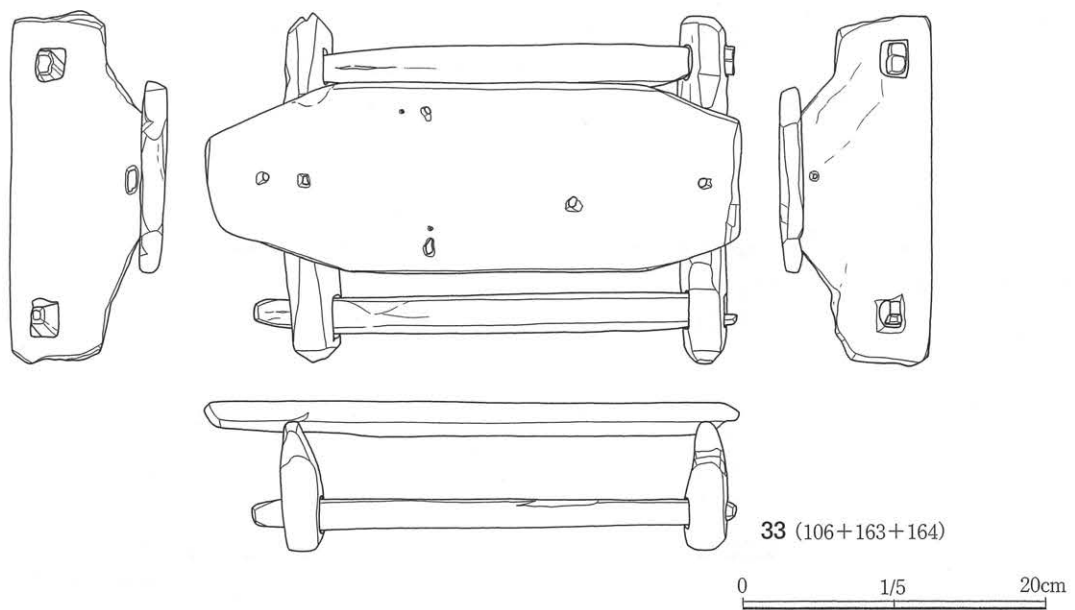
第55図 田下駄出土状況図2



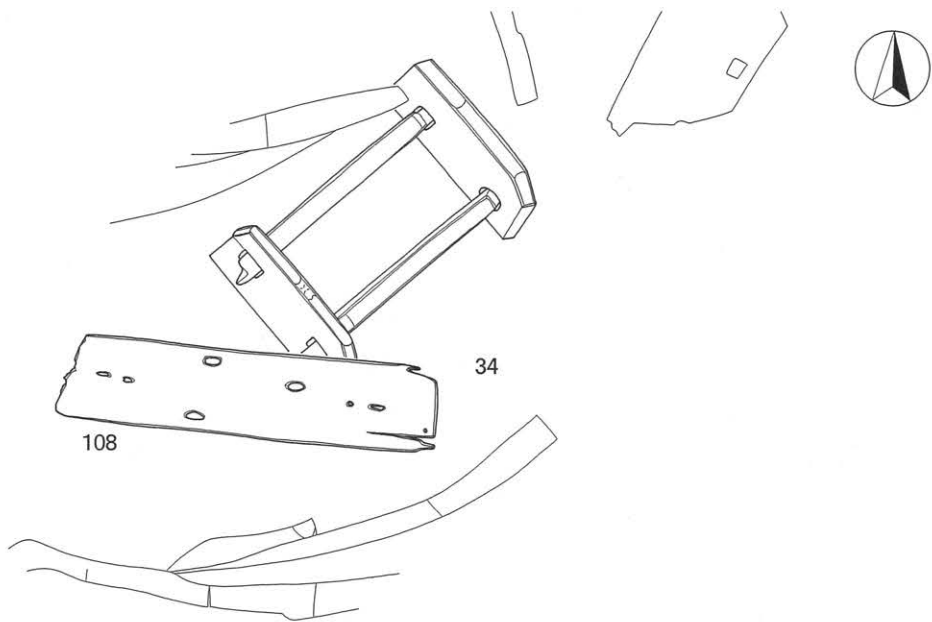
第56図 田下駄出土状況図3



第57図 田下駄出土状況図4



第58図 出土木製品8 (田下駄3)

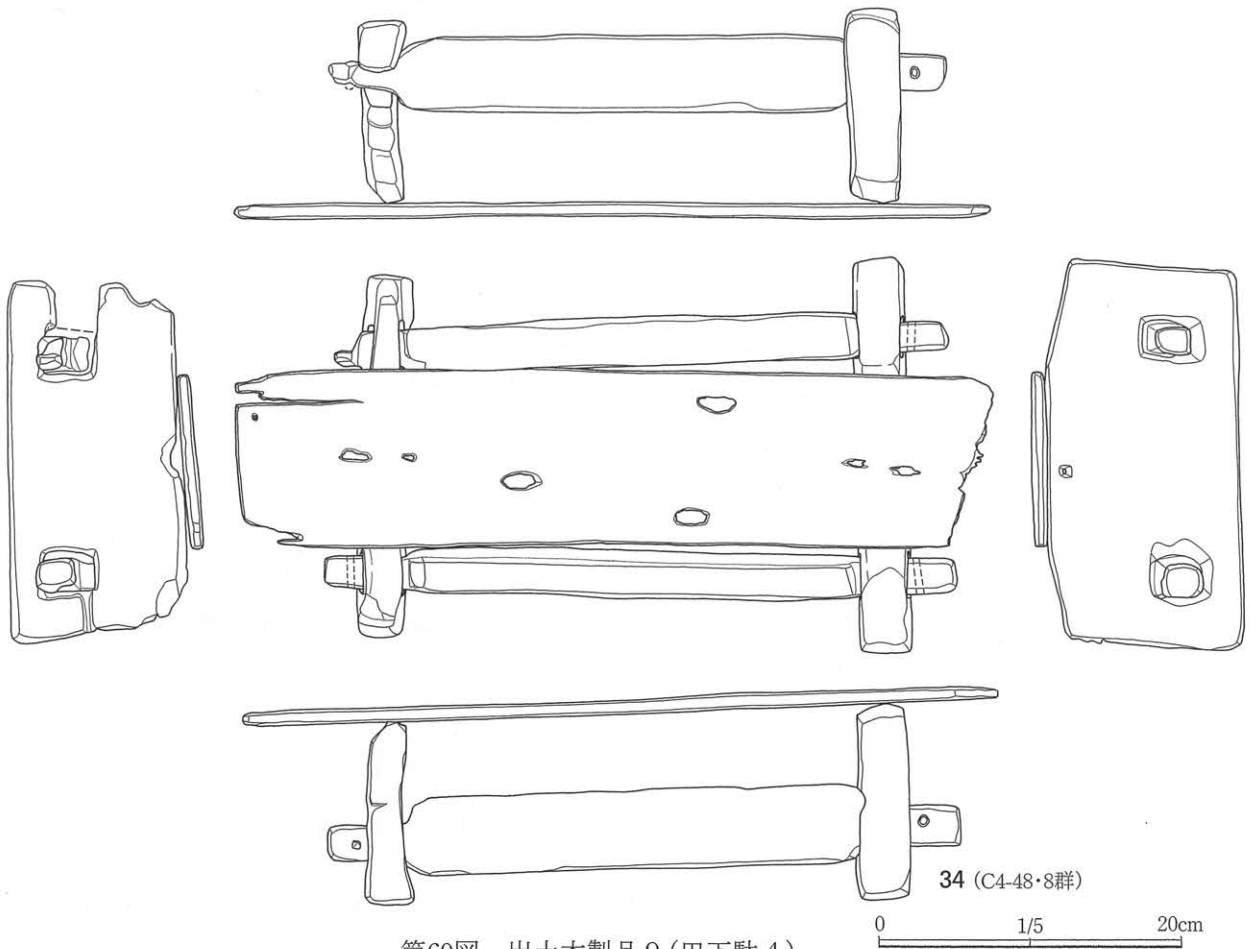


+

†C4-59

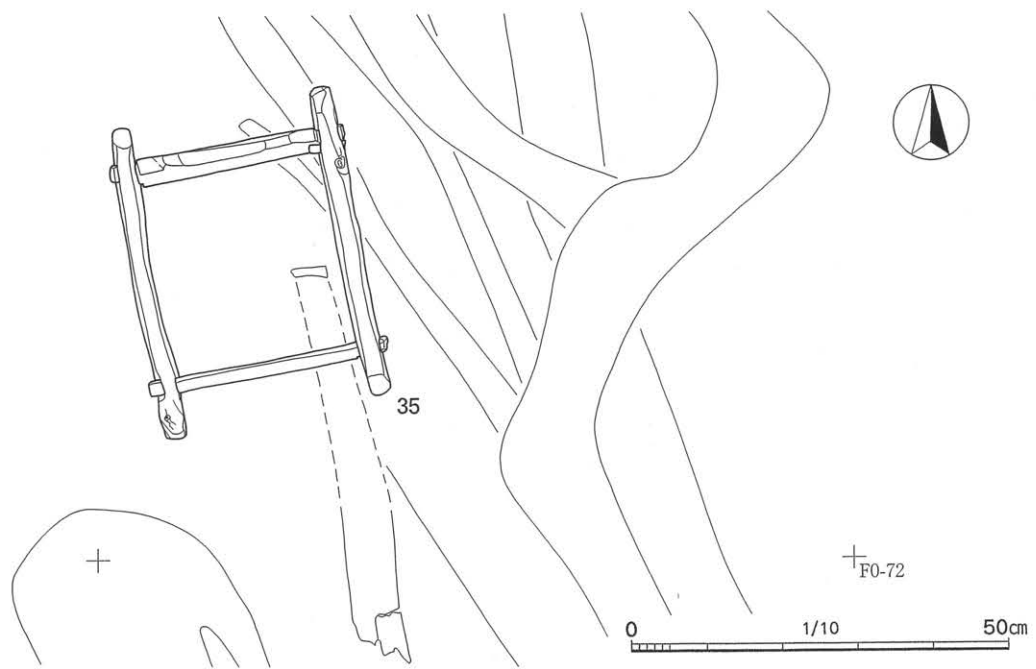
0 1/10 50cm

第59図 田下駄出土状況図5

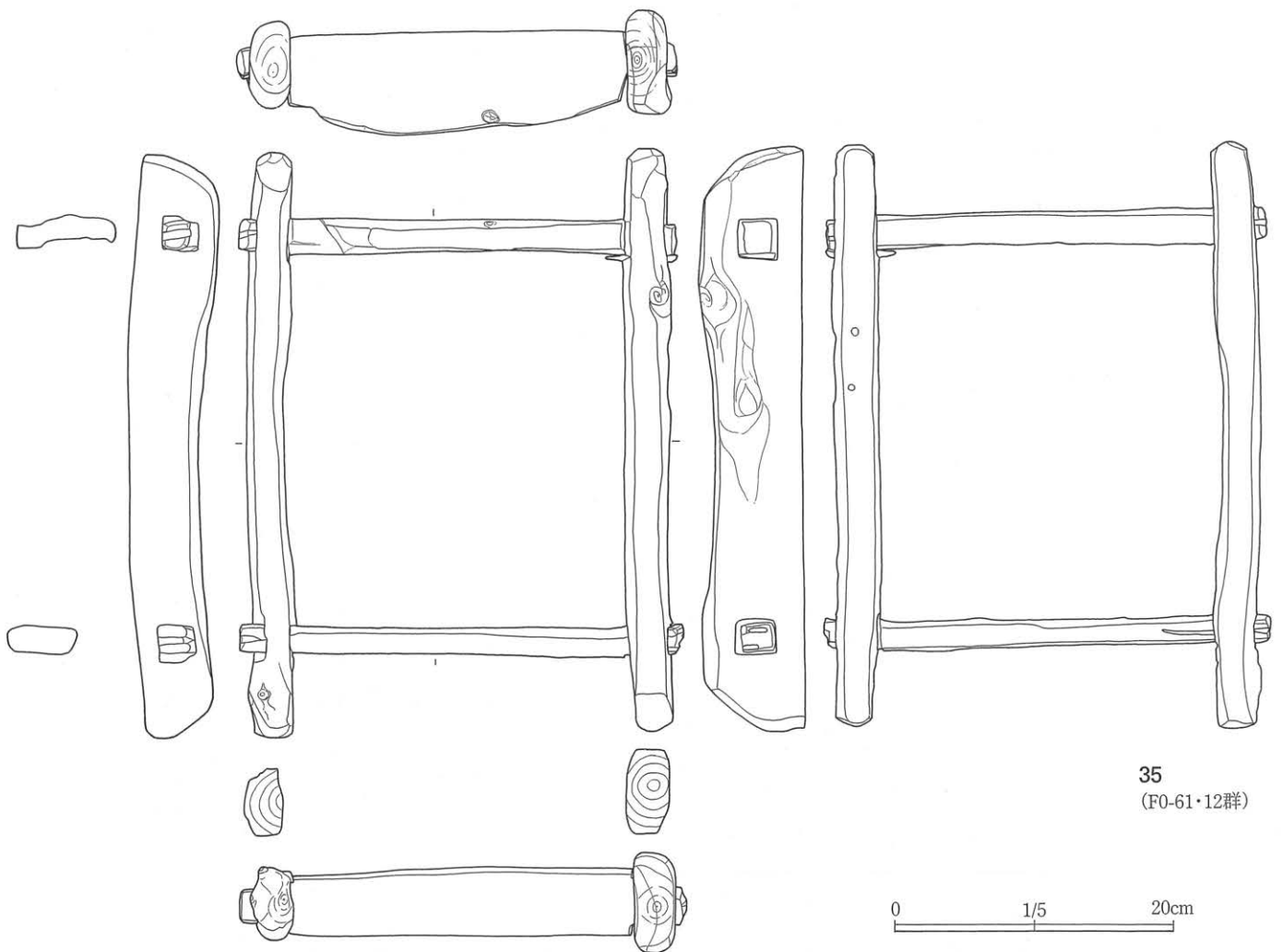


第60図 出土木製品9 (田下駄4)



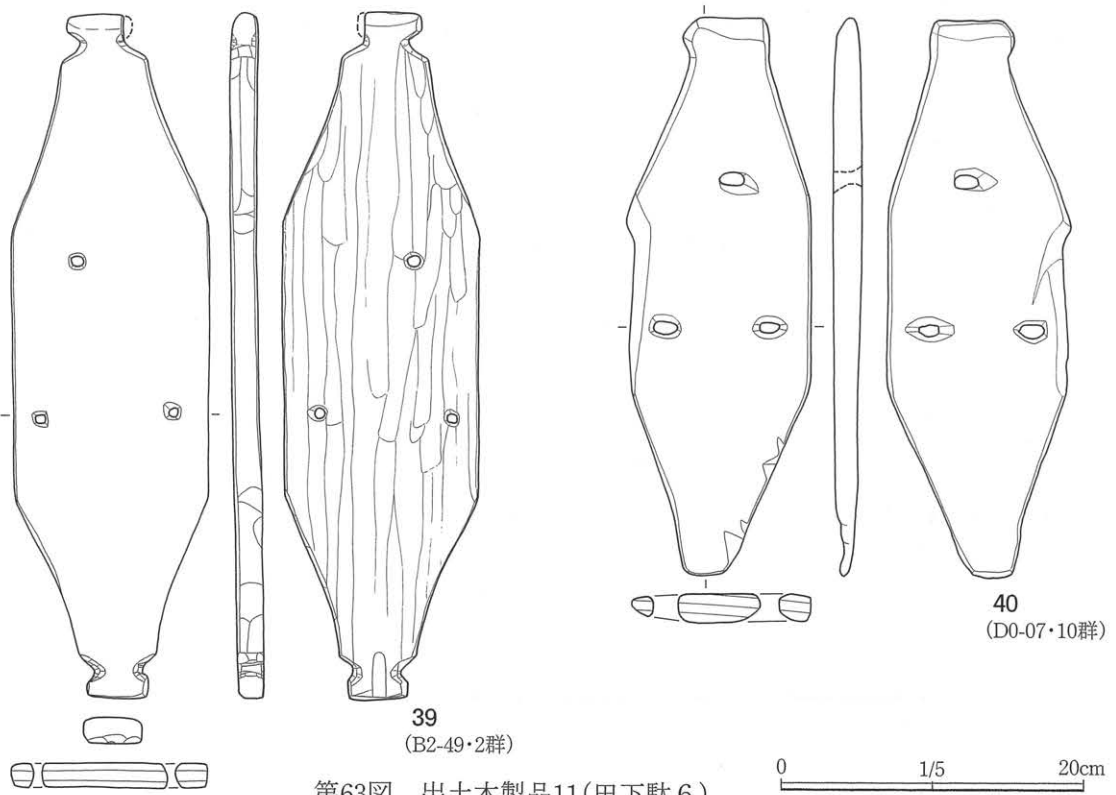
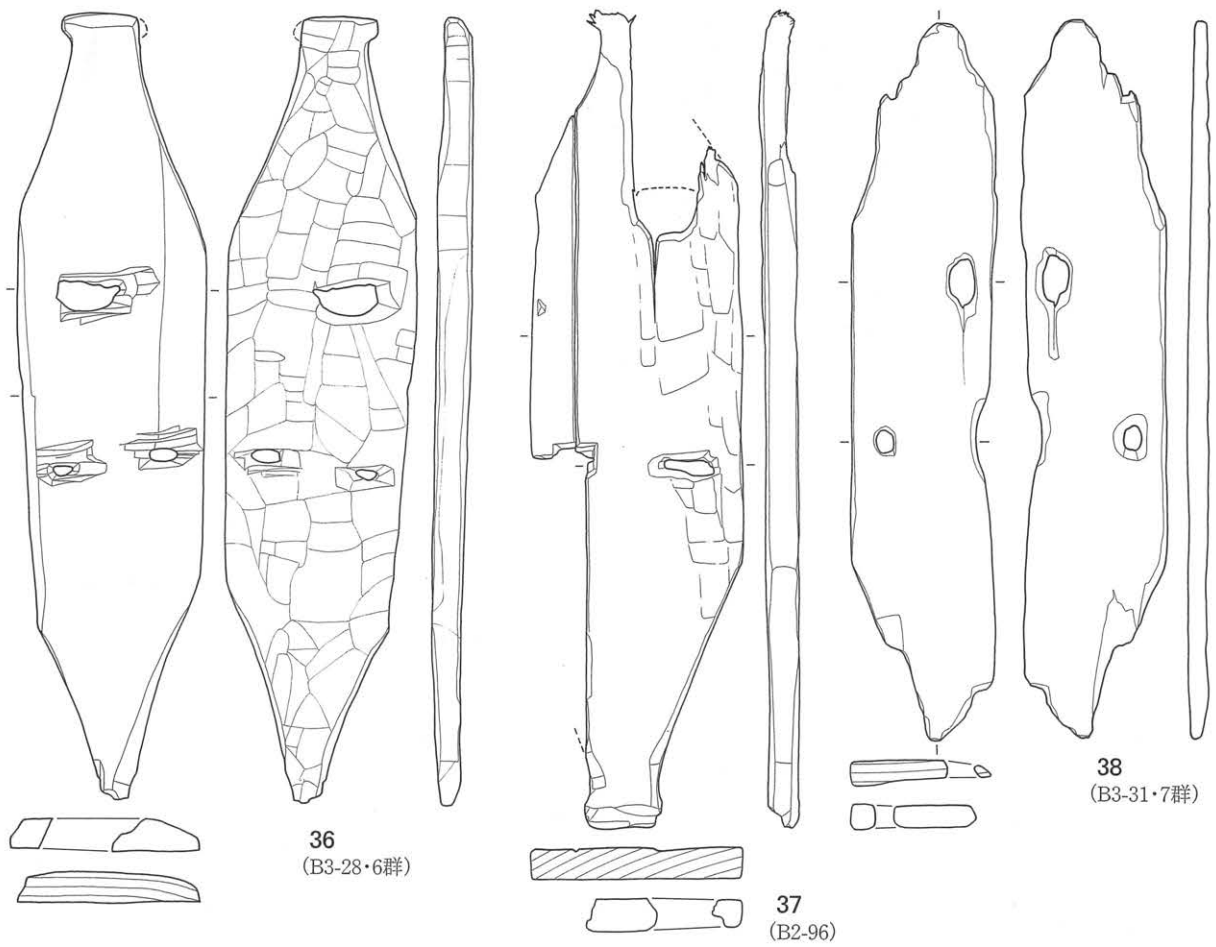


第61図 田下駄出土状況図 6



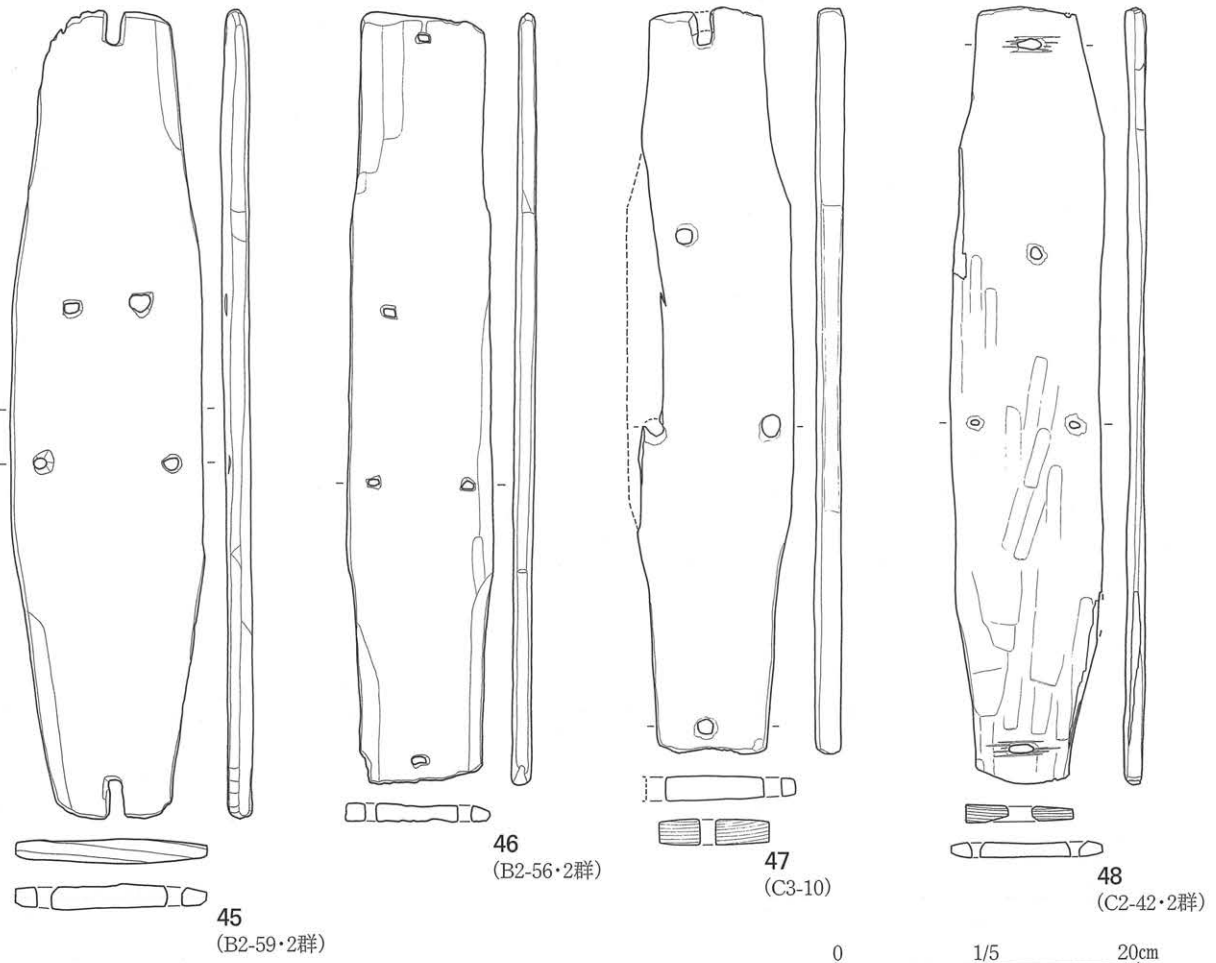
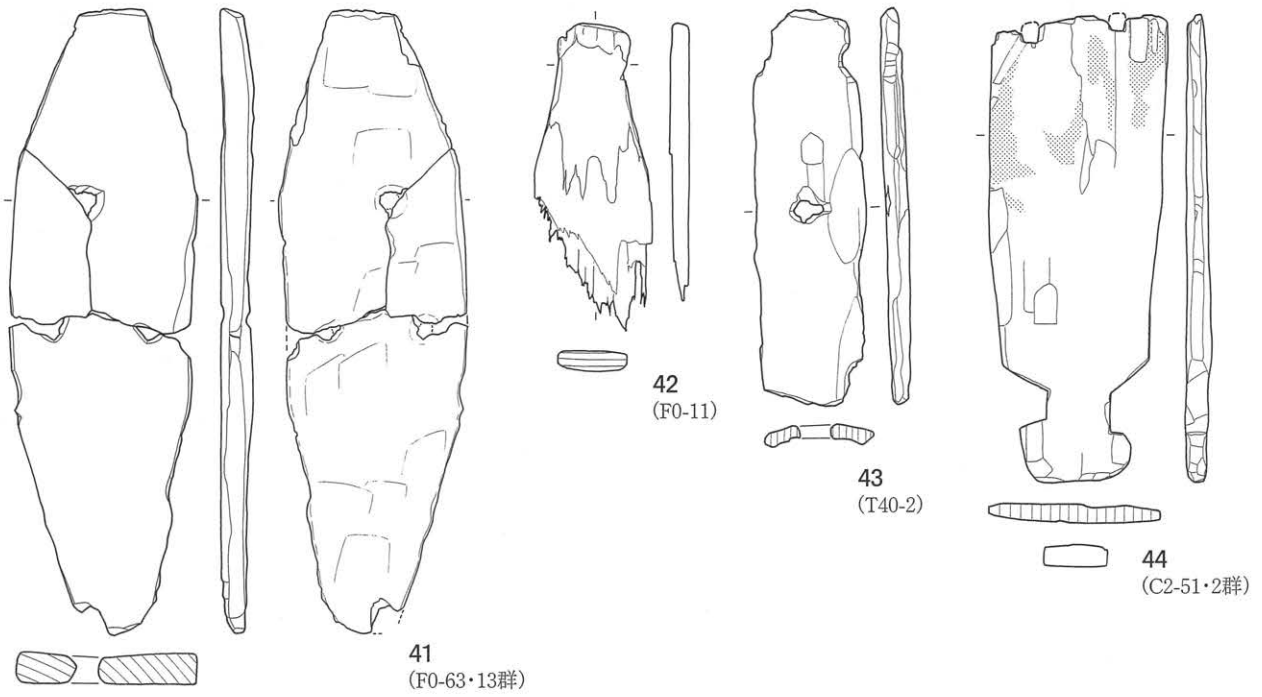
35  
(F0-61・12群)

第62図 出土木製品10(田下駄 5)



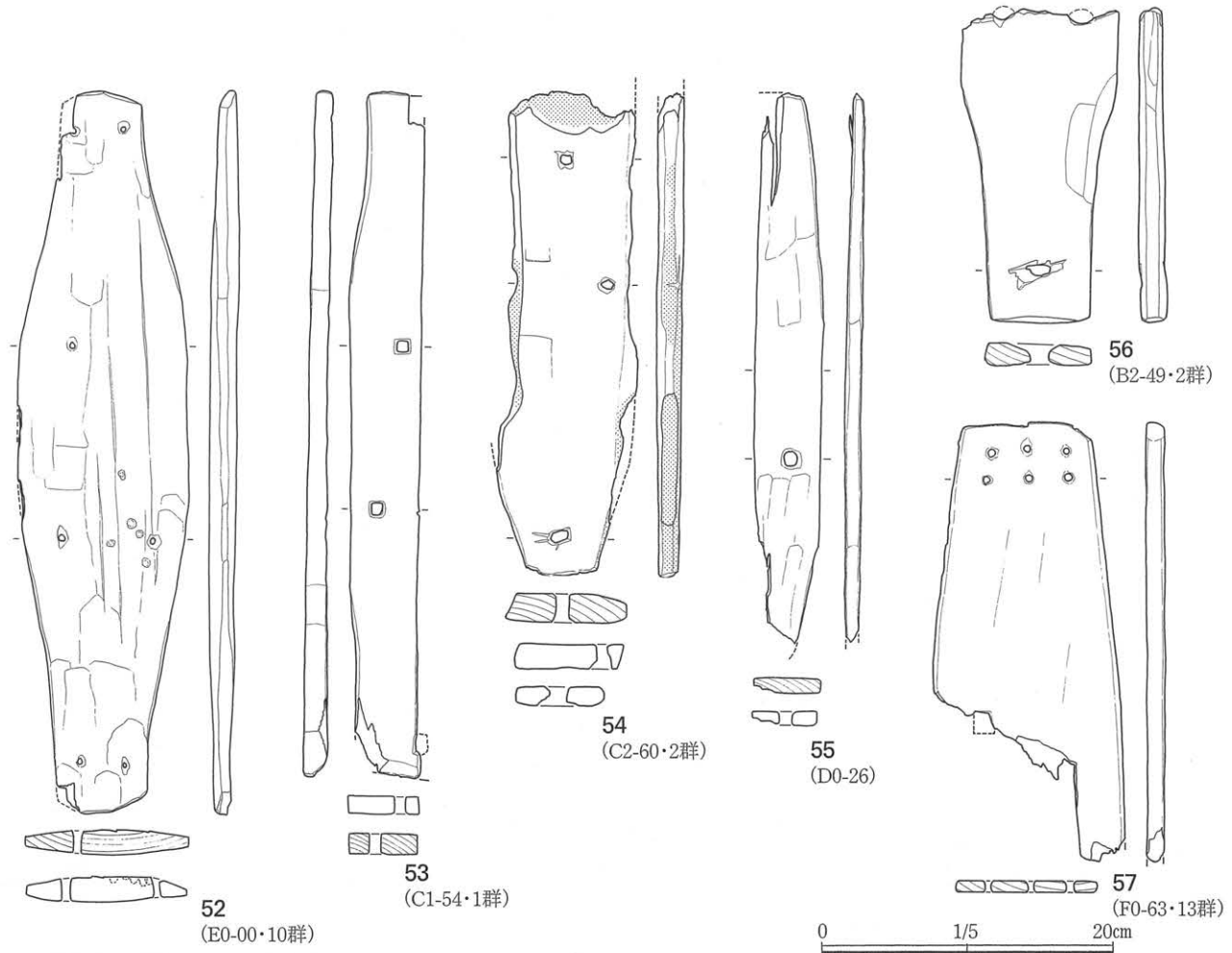
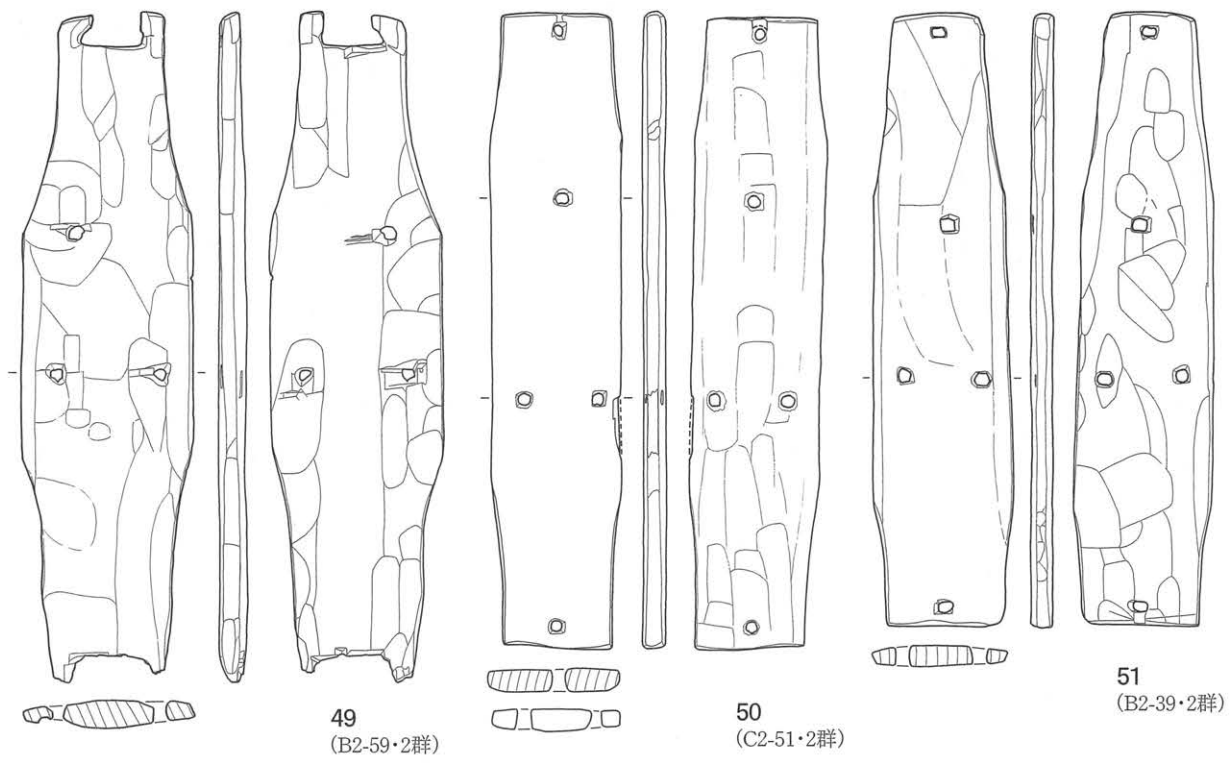
第63図 出土木製品11(田下駄6)

0 1/5 20cm

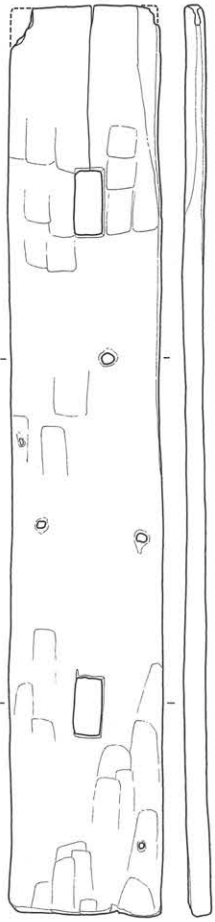


0 1/5 20cm

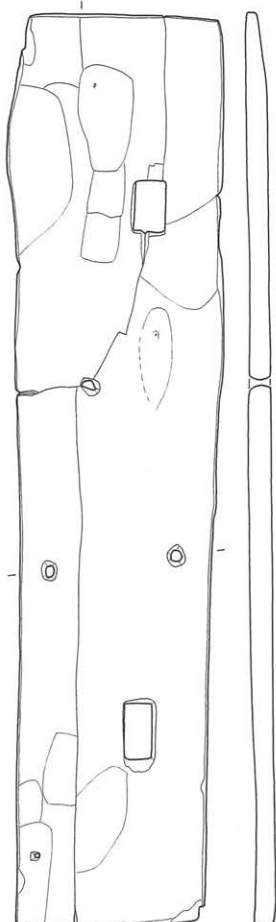
第64図 出土木製品12(田下駄7)



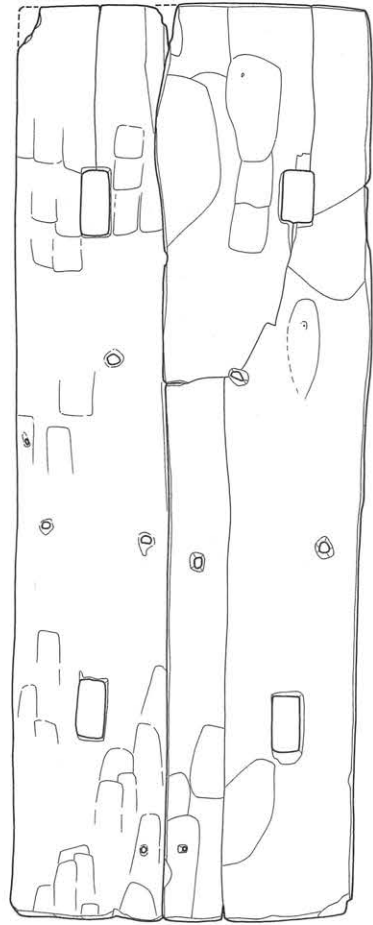
第65図 出土木製品13(田下駄8)



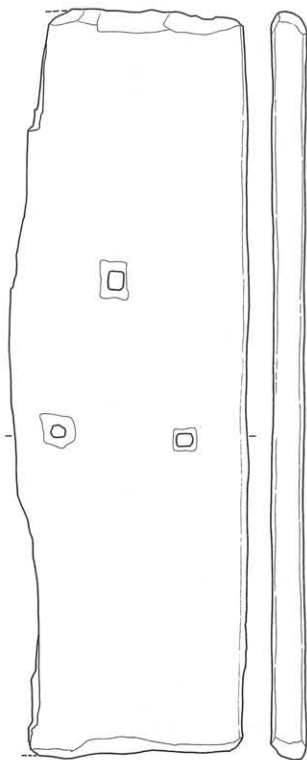
58  
(F0-51・12群)



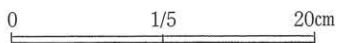
59  
(E0-79・11群)



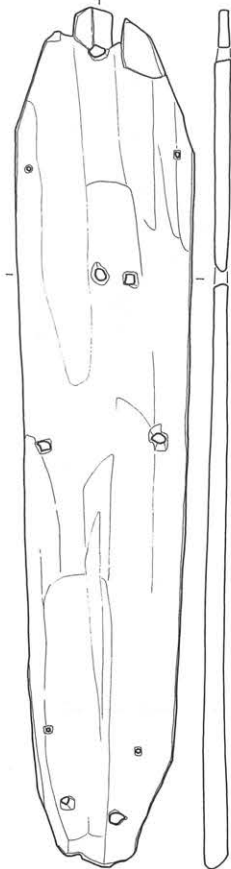
58+59



60  
(B3-58)

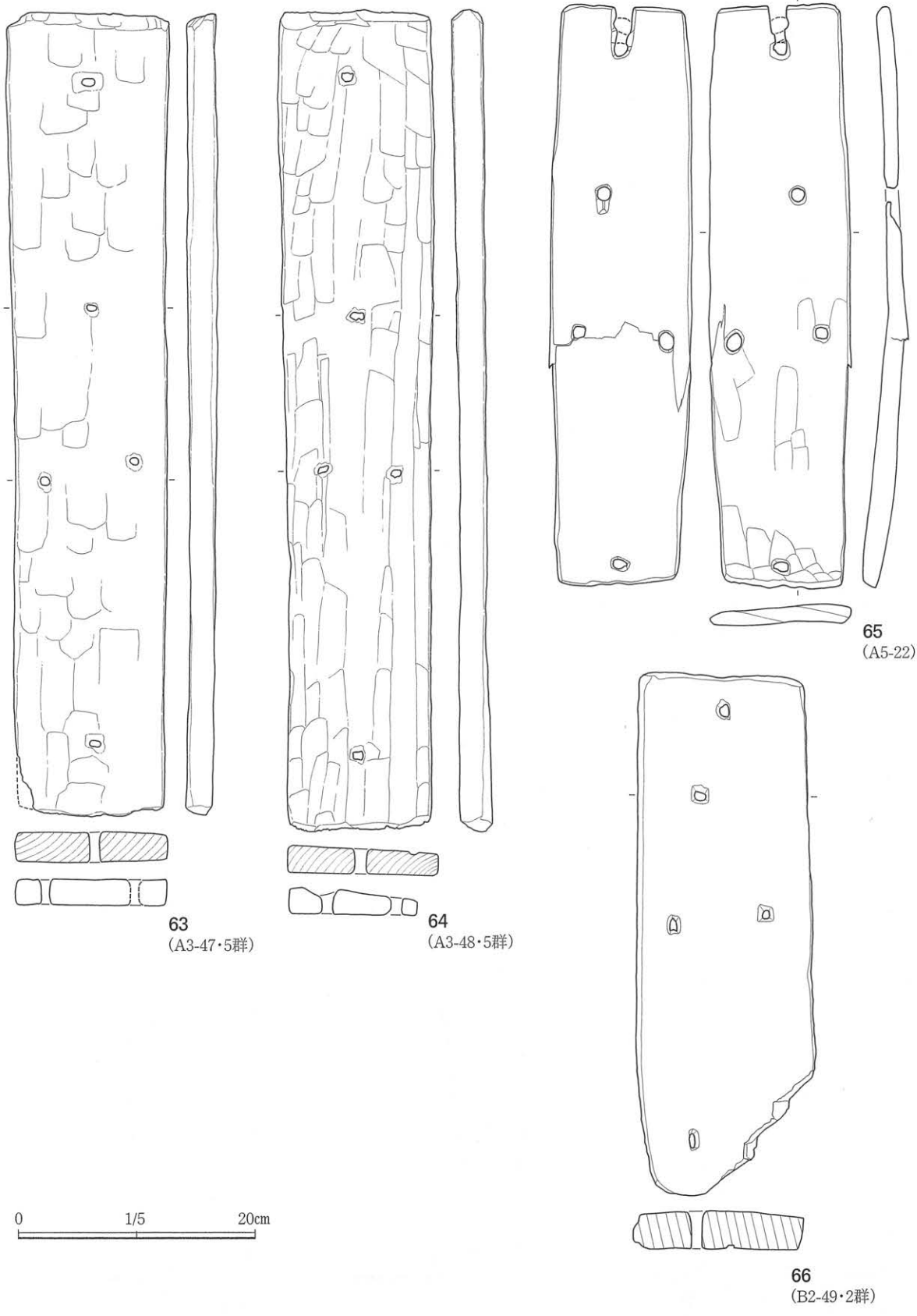


61  
(A3-22・3群)



62  
(D1-48・14群)

第66図 出土木製品14(田下駄9)



63  
(A3-47・5群)

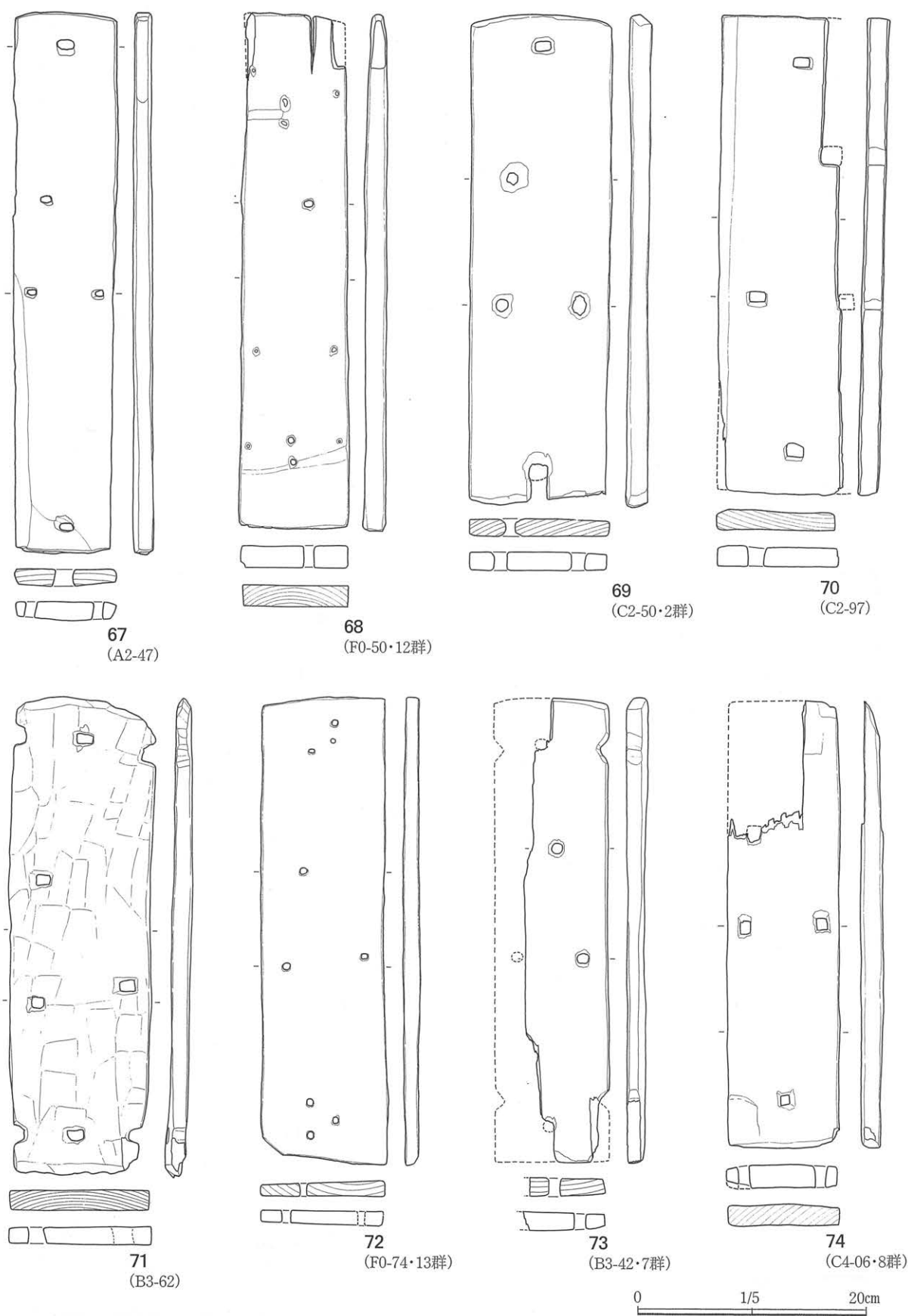
64  
(A3-48・5群)

65  
(A5-22)

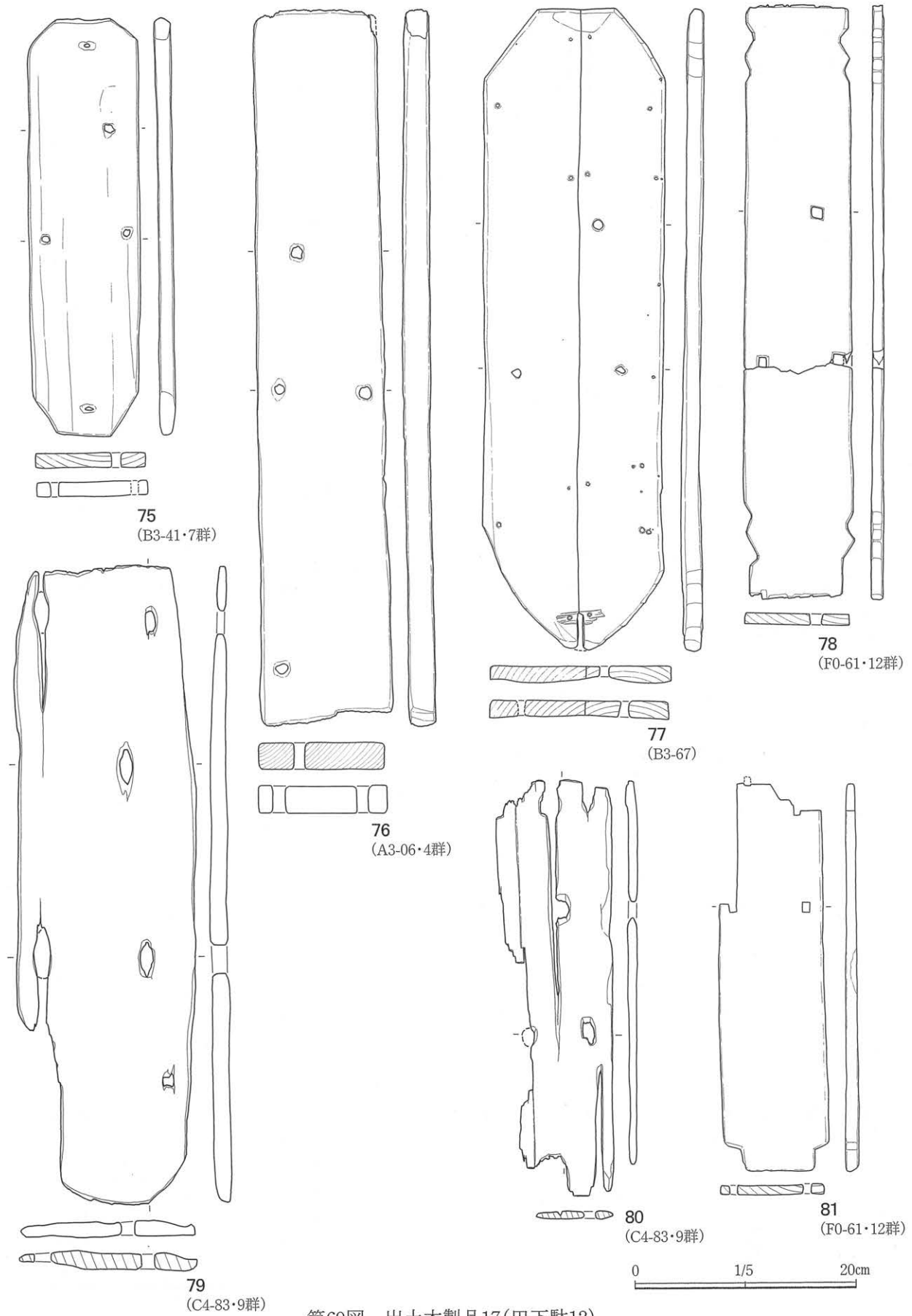
66  
(B2-49・2群)

0 1/5 20cm

第67図 出土木製品15(田下駄10)

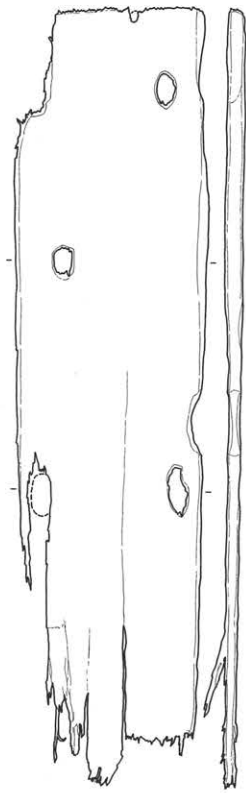


第68図 出土木製品16(田下駄11)

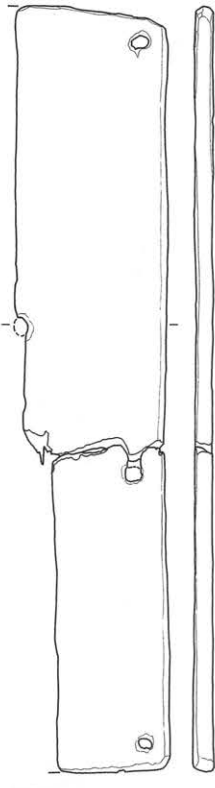


第69図 出土木製品17(田下駄12)

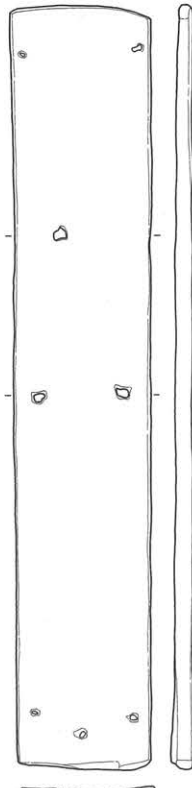




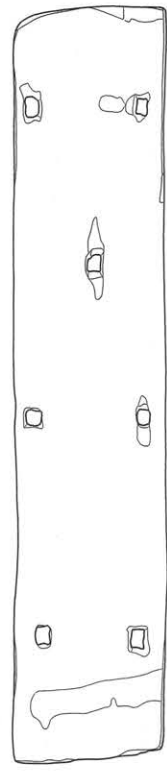
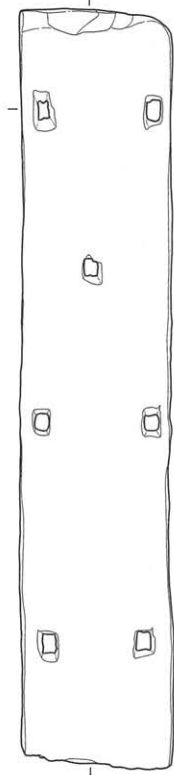
82  
(C1-86)



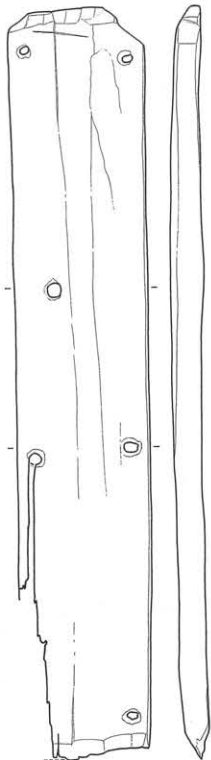
83  
(B2-76・2群)



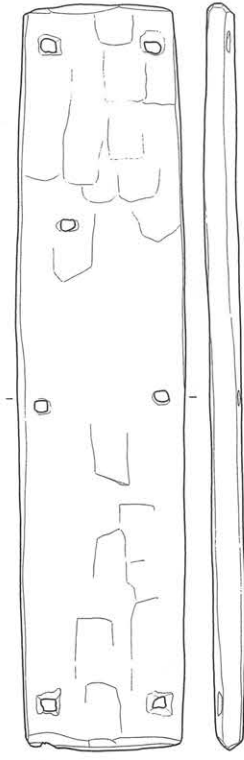
84  
(B4-18)



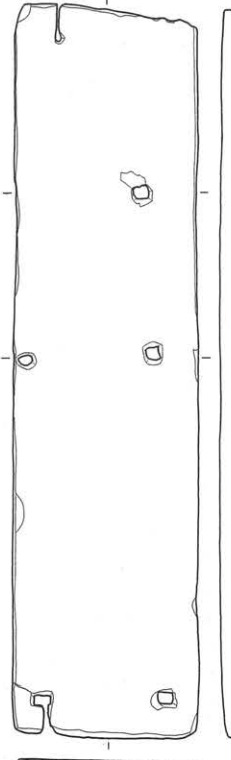
85  
(A2-86)



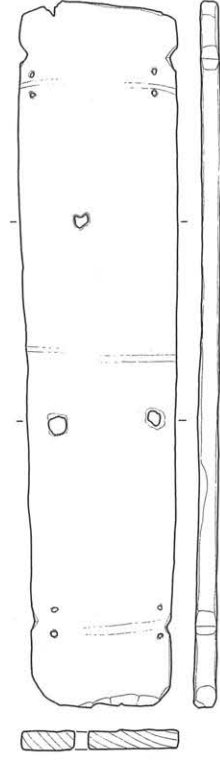
86  
(E0-27)



87  
(E0-27)



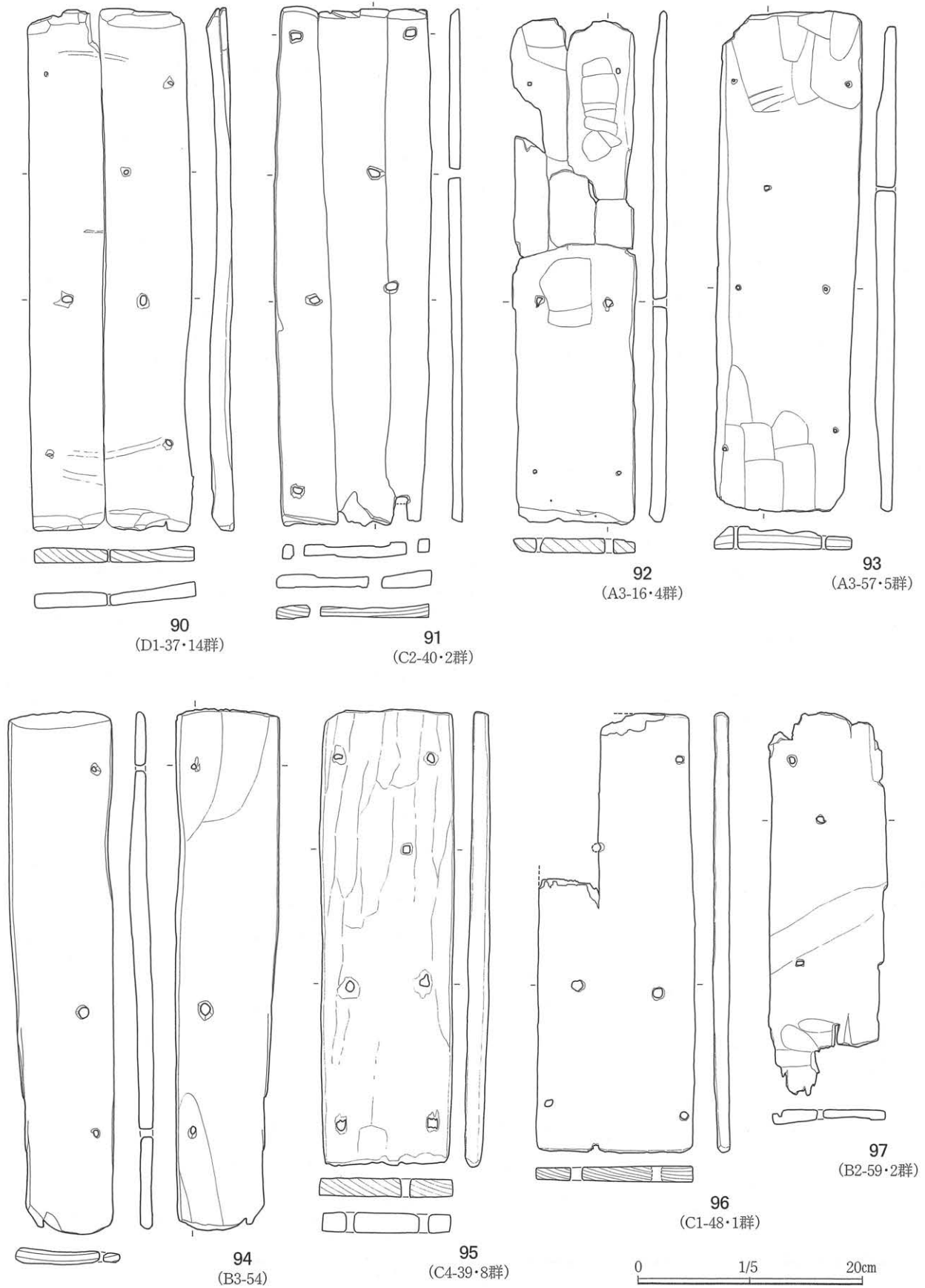
88  
(D1-48・14群)



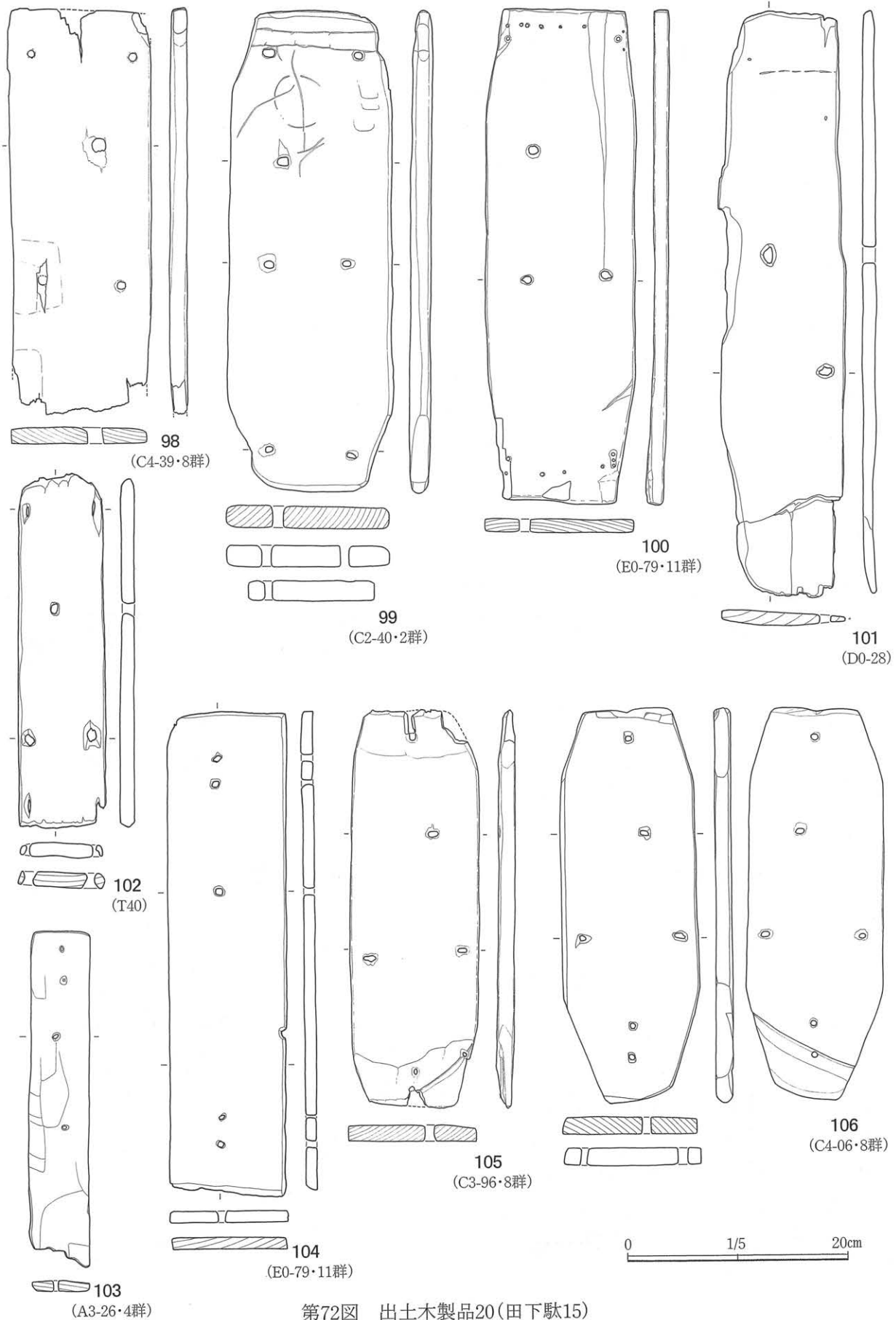
89  
(B2-68・2群)

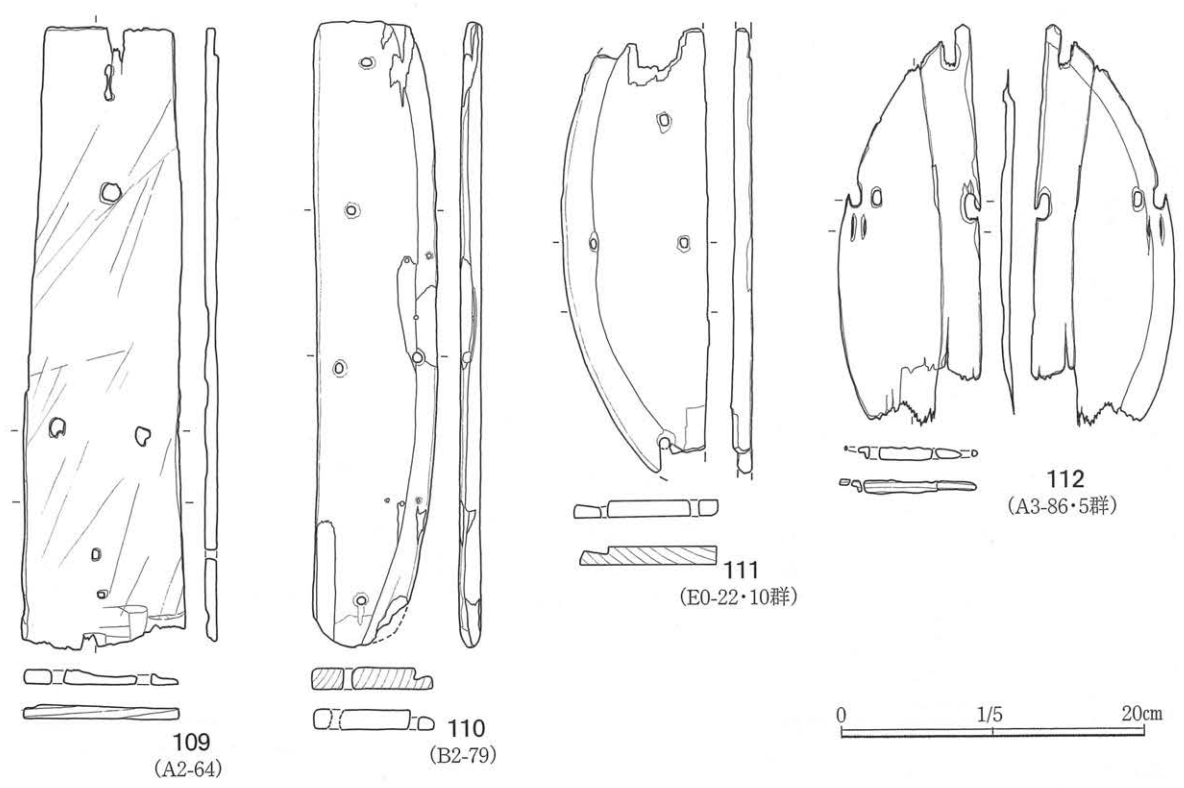
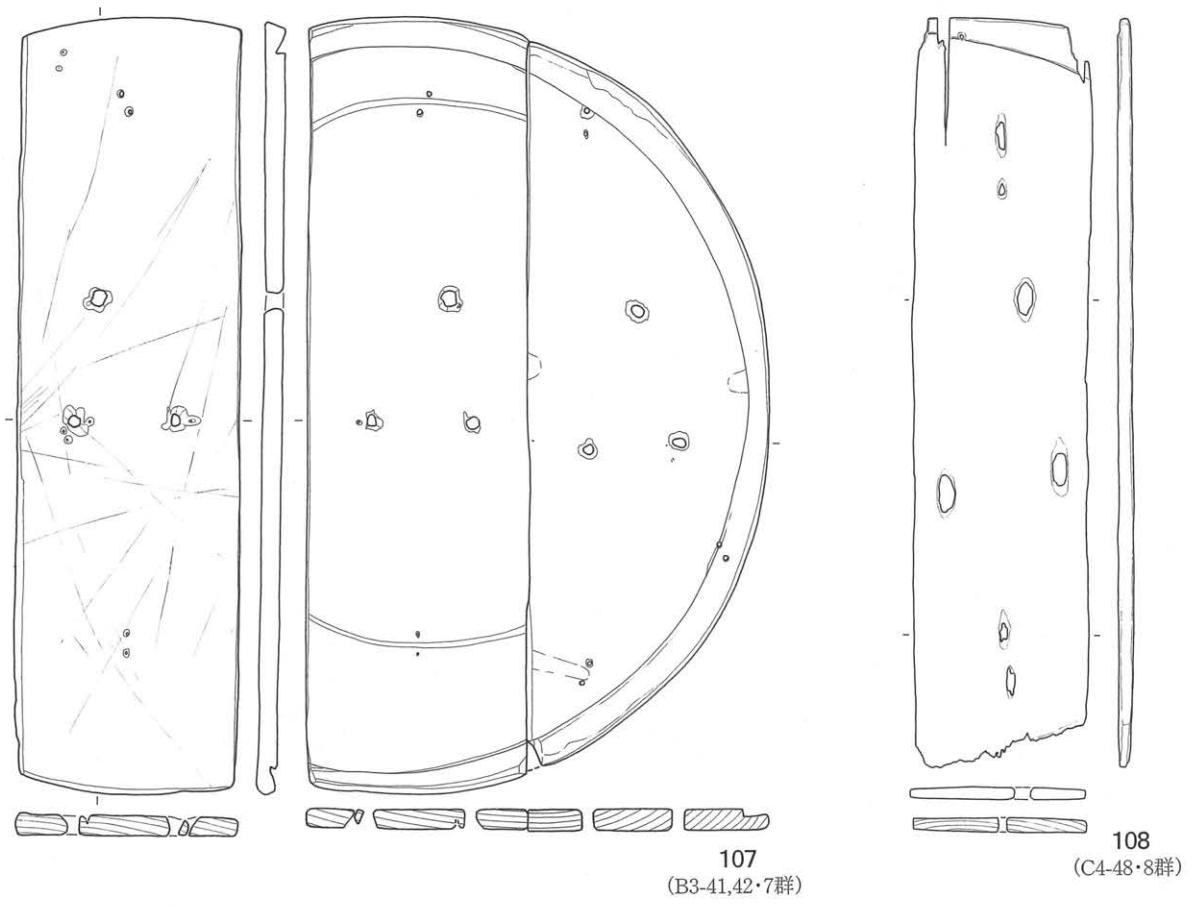
0 1/5 20cm

第70図 出土木製品18(田下駄13)

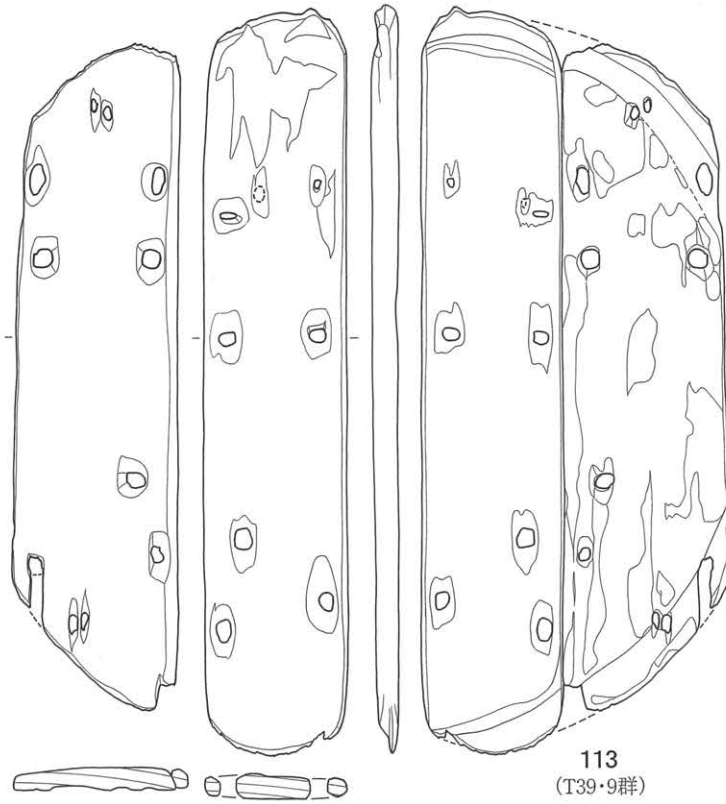


第71図 出土木製品19(田下駄14)

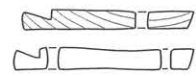
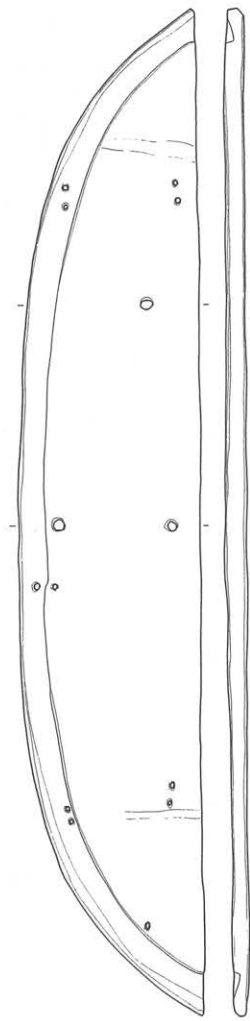




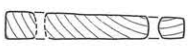
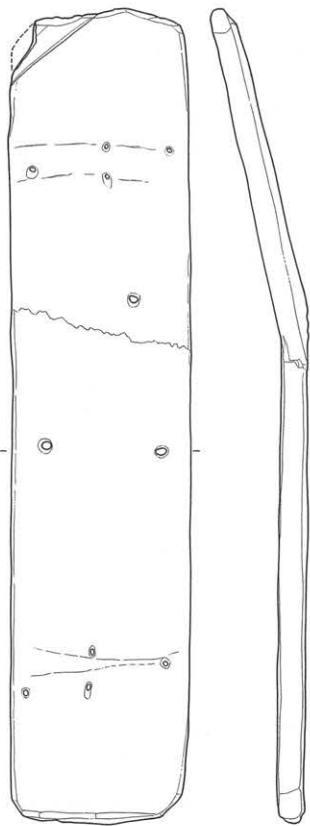
第73図 出土木製品21(田下駄16)



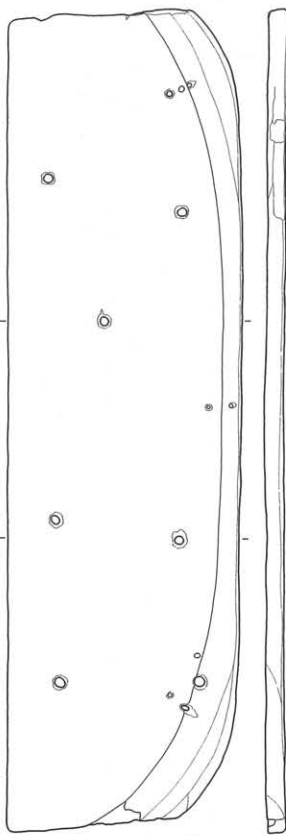
113  
(T39・9群)



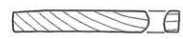
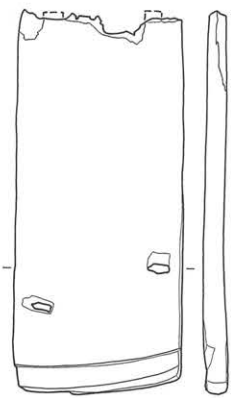
114  
(B3-42・7群)



115  
(F0-65)

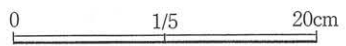


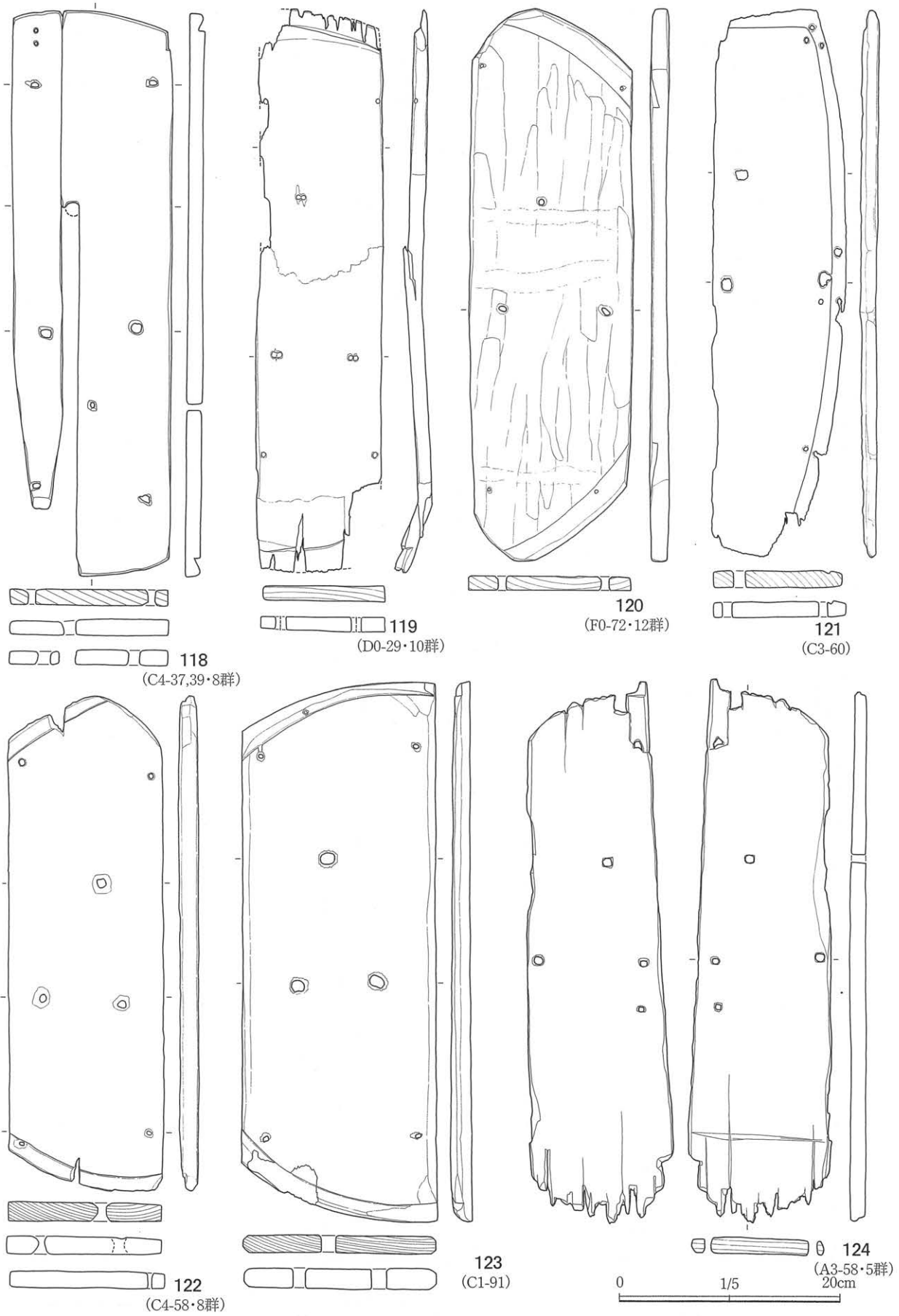
116  
(F0-50・12群)



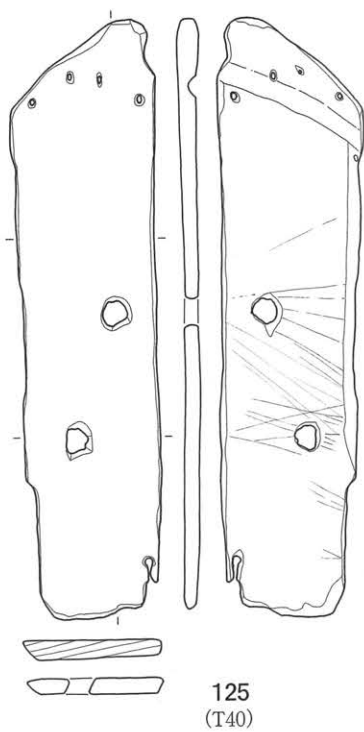
117  
(F0-50・12群)

第74図 出土木製品22(田下駄17)

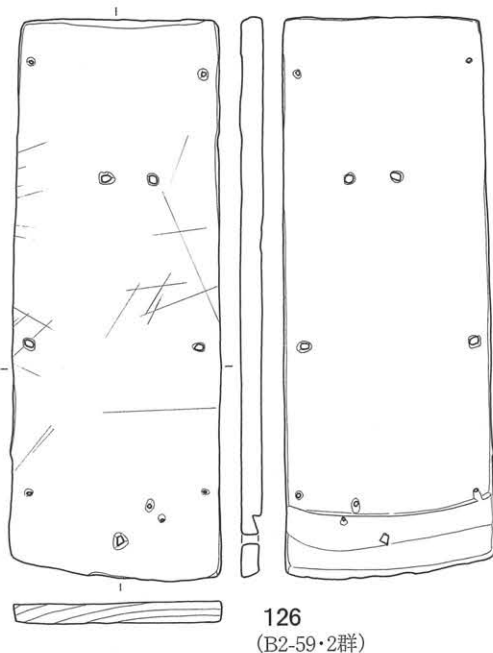




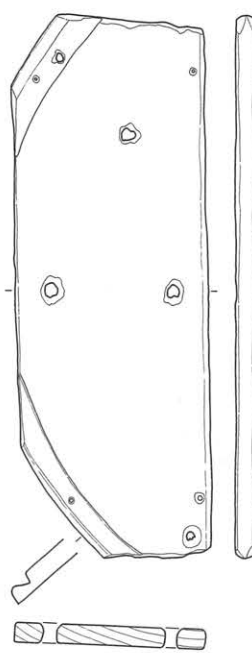
第75図 出土木製品23(田下駄18)



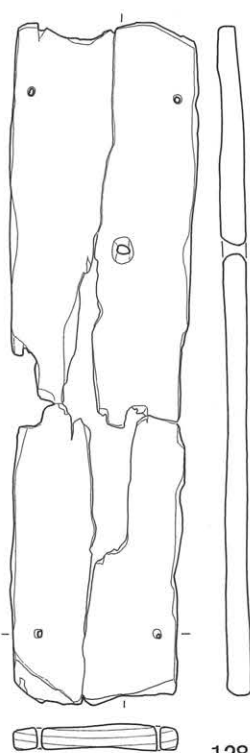
125  
(T40)



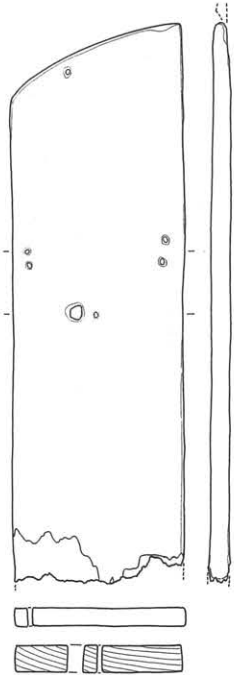
126  
(B2-59・2群)



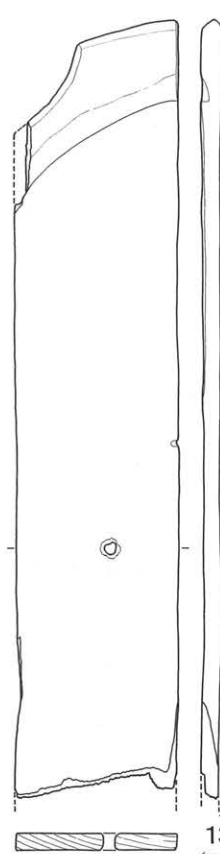
127  
(B2-69・2群)



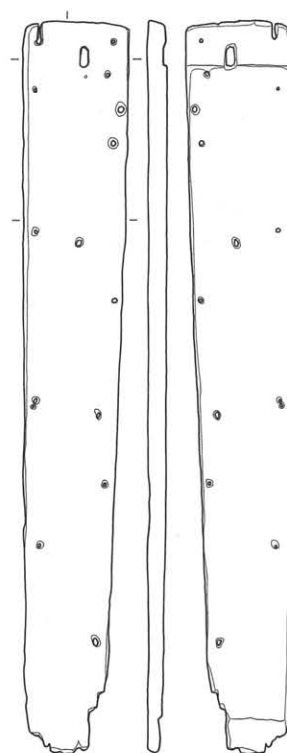
128  
(A3-26・4群)



129  
(C3-07)



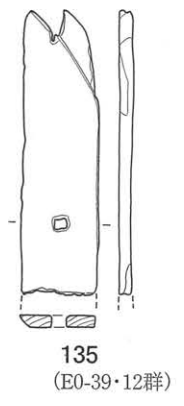
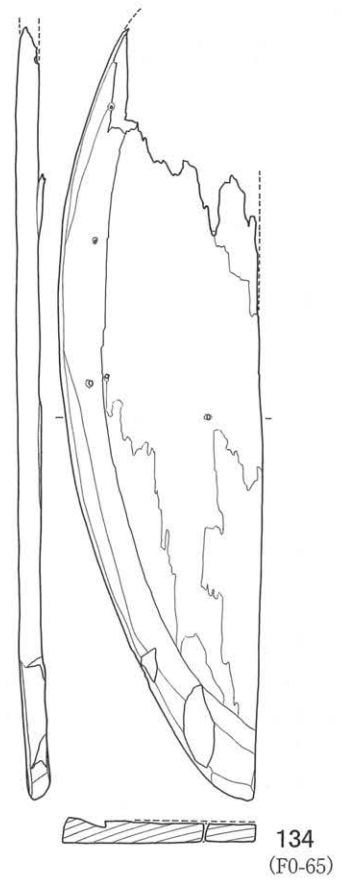
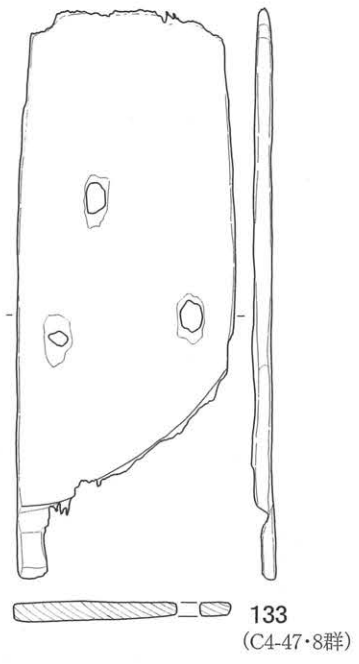
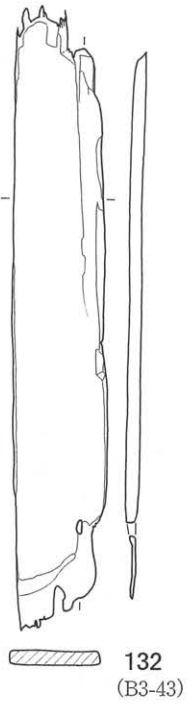
130  
(F0-51・12群)



131  
(A3-24)

0 1/5 20cm

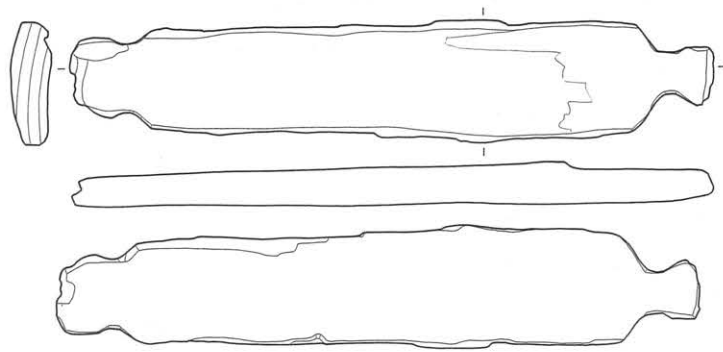
第76図 出土木製品24(田下駄19)



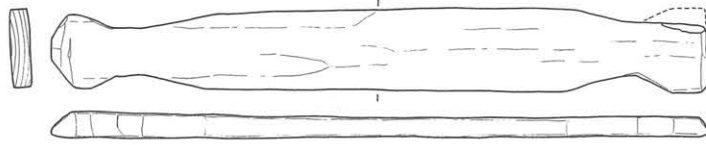
0 1/5 20cm

第77図 出土木製品25(田下駄20)

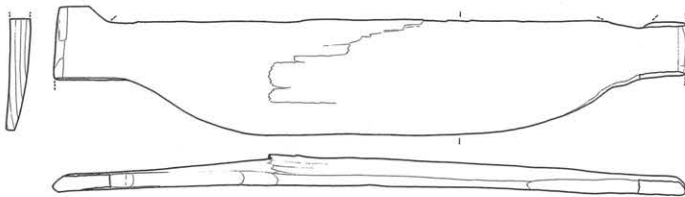




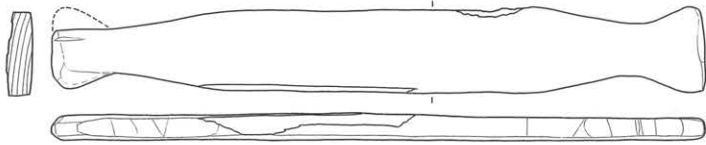
136(D0-09・10群)



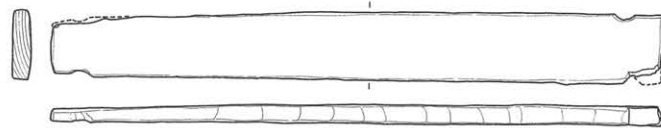
137(E0-39・12群)



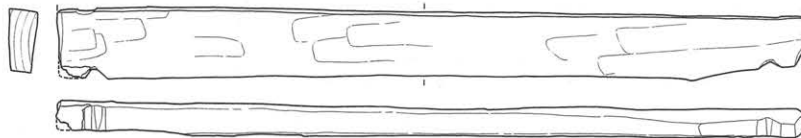
138(E0-48)



139(E0-48)



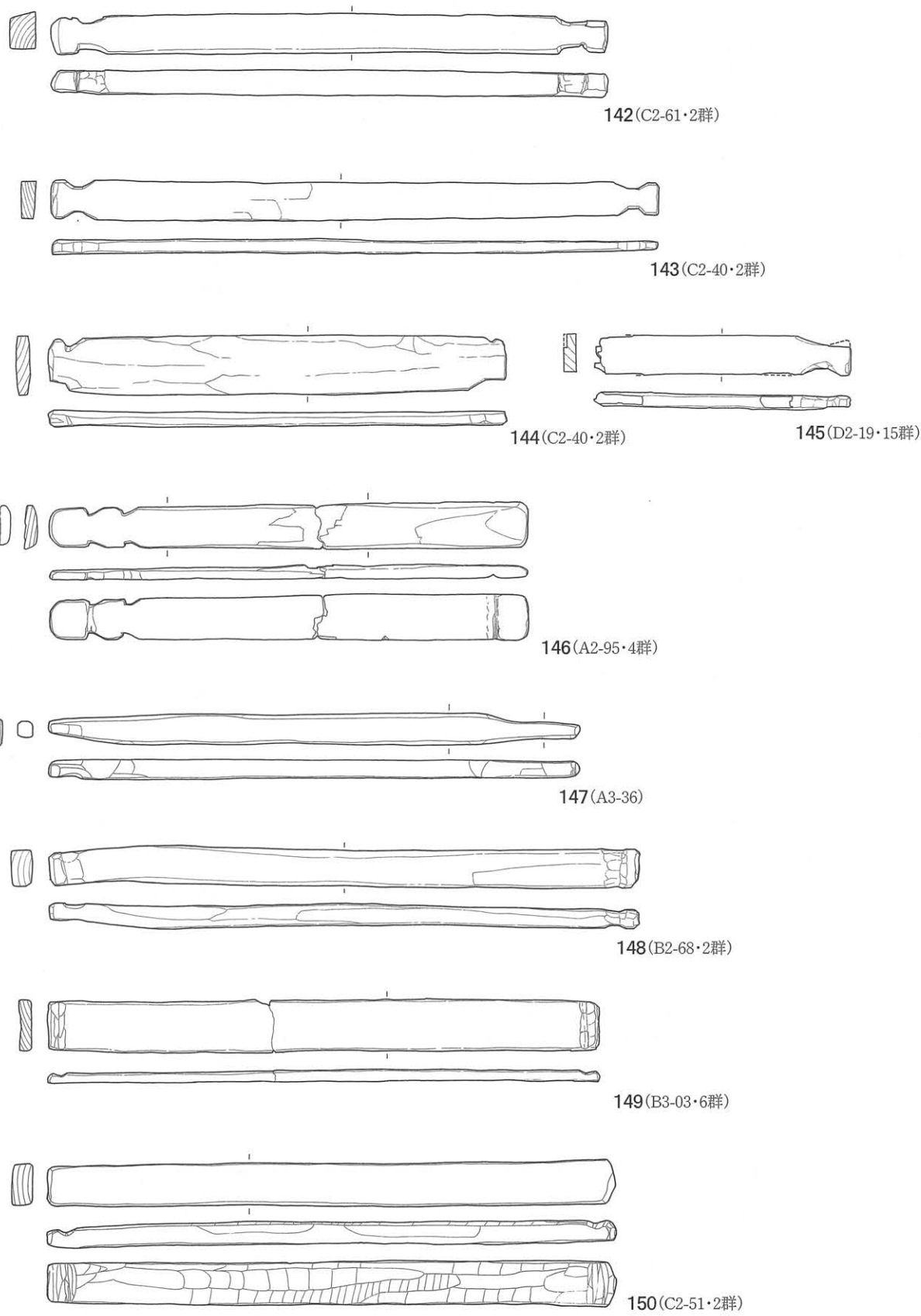
140(E1-60・15群)



141(B2-49・2群)

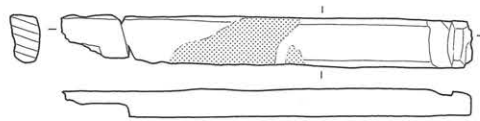
0 1/5 20cm

第78図 出土木製品26(田下駄21)

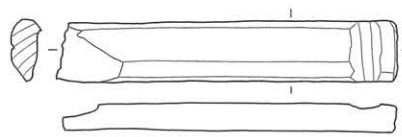


0 1/5 20cm

第79図 出土木製品27(田下駄22)



151 (C4-57・8群)



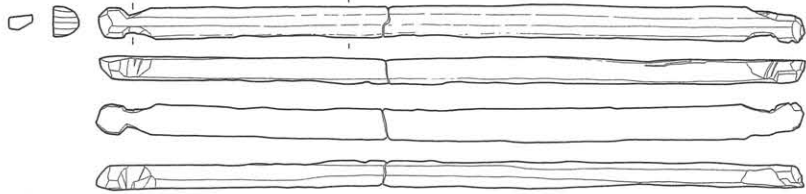
152 (E0-27)



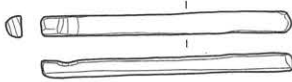
153 (E0-27)



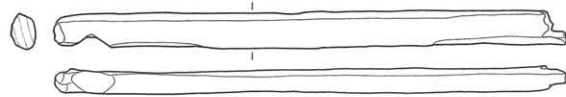
154 (A3-16・4群)



155 (C2-40・2群)



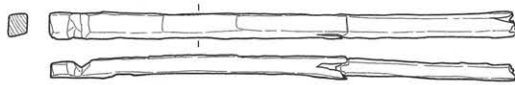
156 (A2-38)



157 (A3-58・5群)



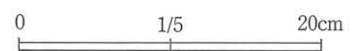
158 (B2-59・2群)



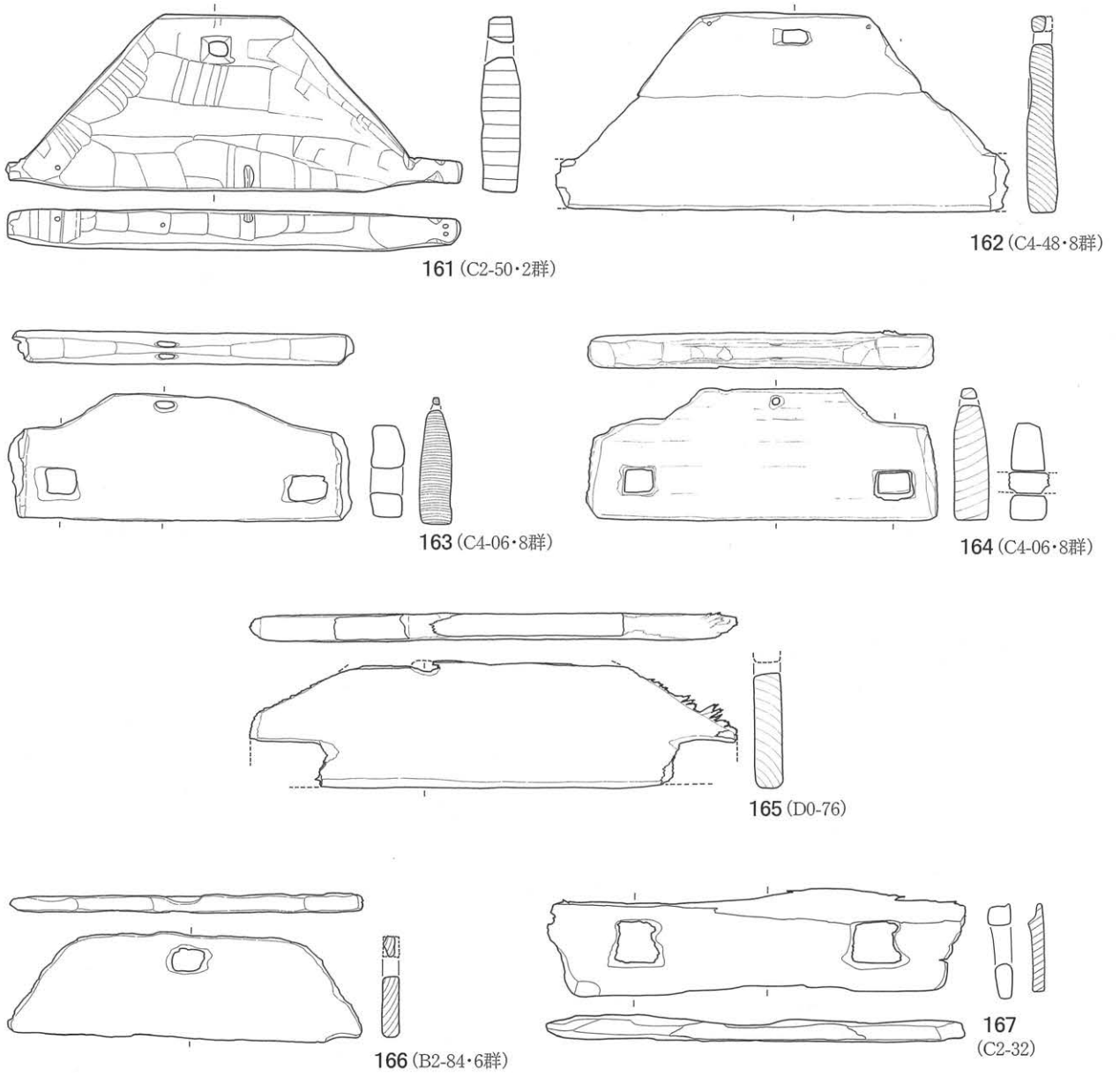
159 (B3-37・6群)



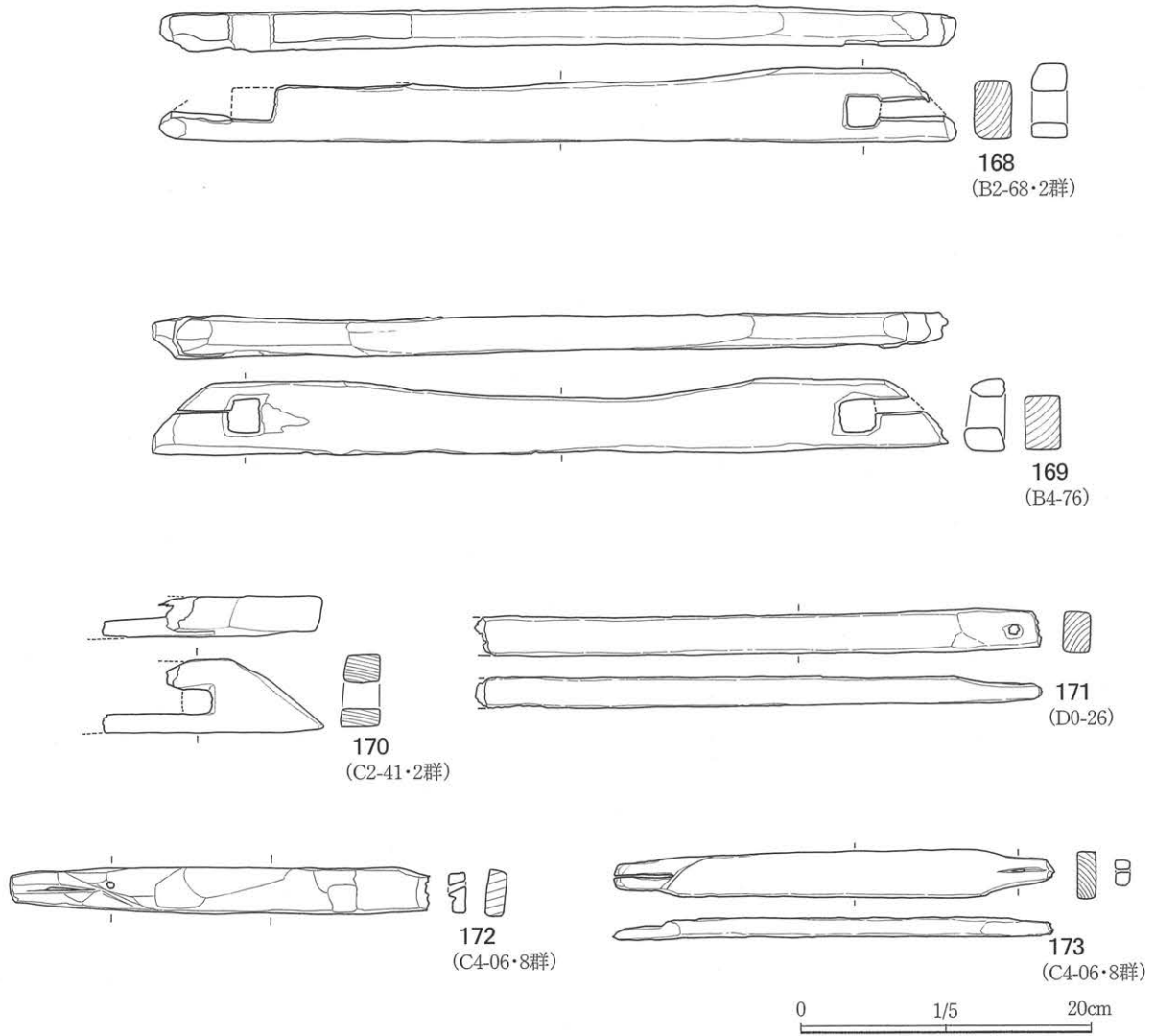
160 (E0-20・10群)



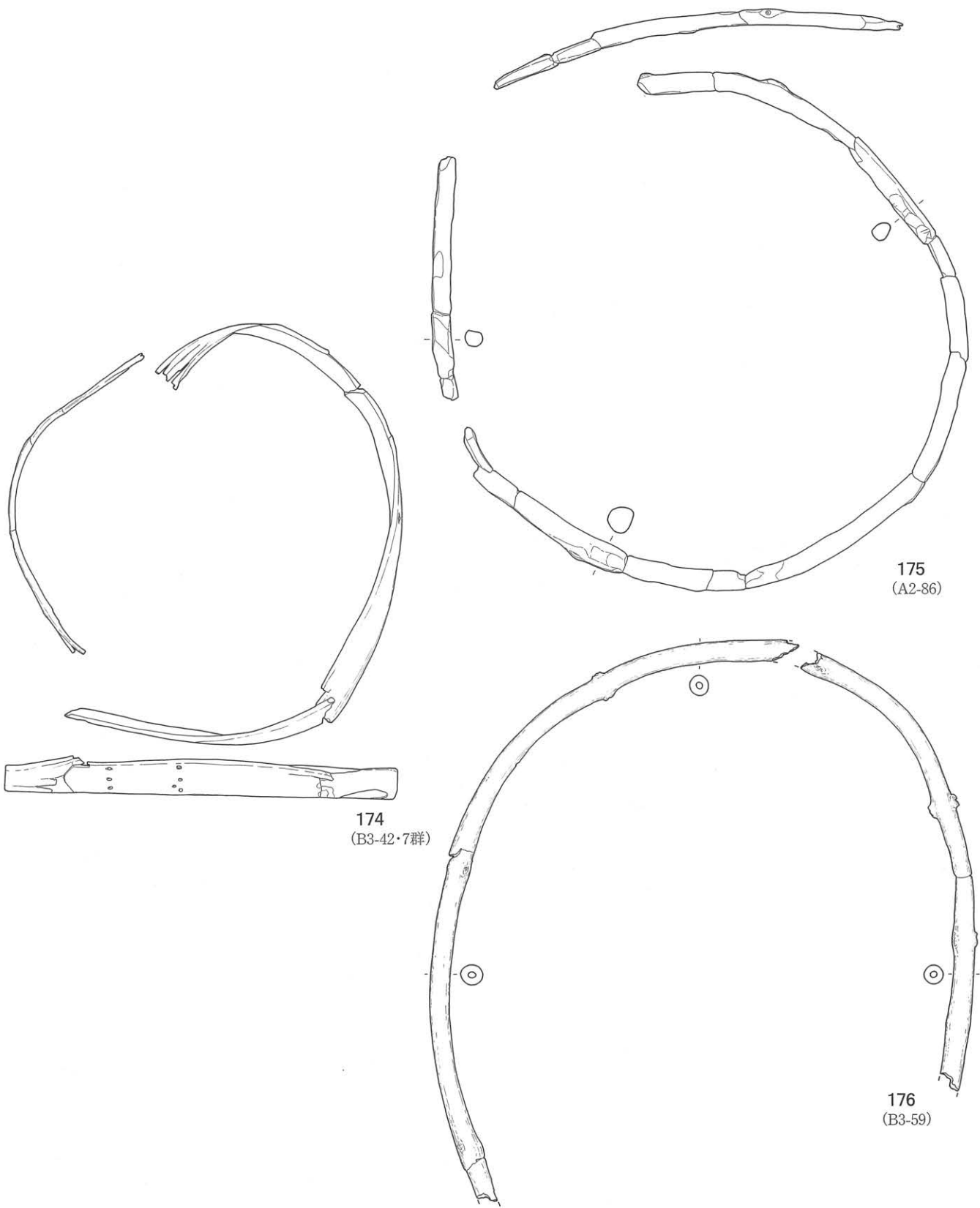
第80図 出土木製品28(田下駄23)



第81図 出土木製品29(田下駄24)



第82図 出土木製品30(田下駄25)



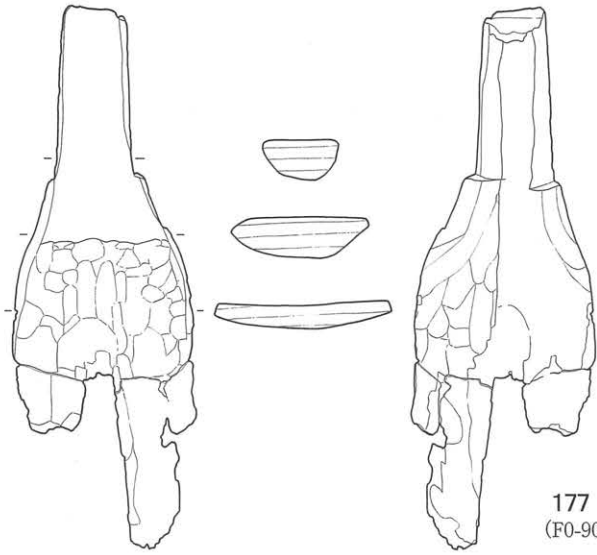
174  
(B3-42・7群)

175  
(A2-86)

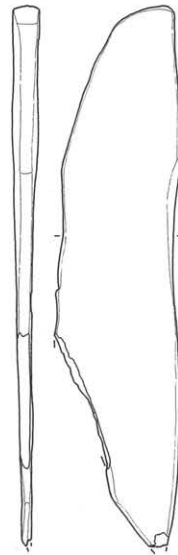
176  
(B3-59)

0 1/5 20cm

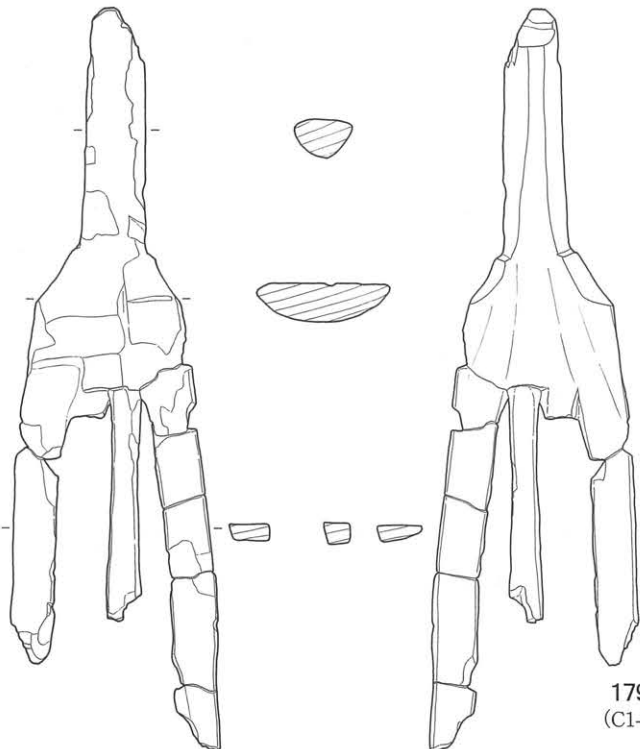
第83図 出土木製品31(田下駄26)



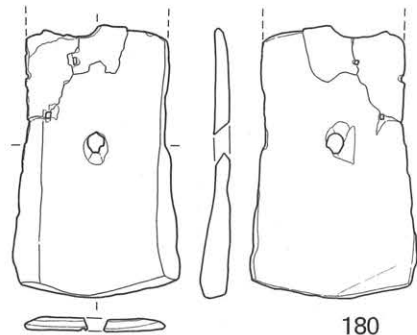
177  
(F0-90・11群)



178  
(D0-29・15群)



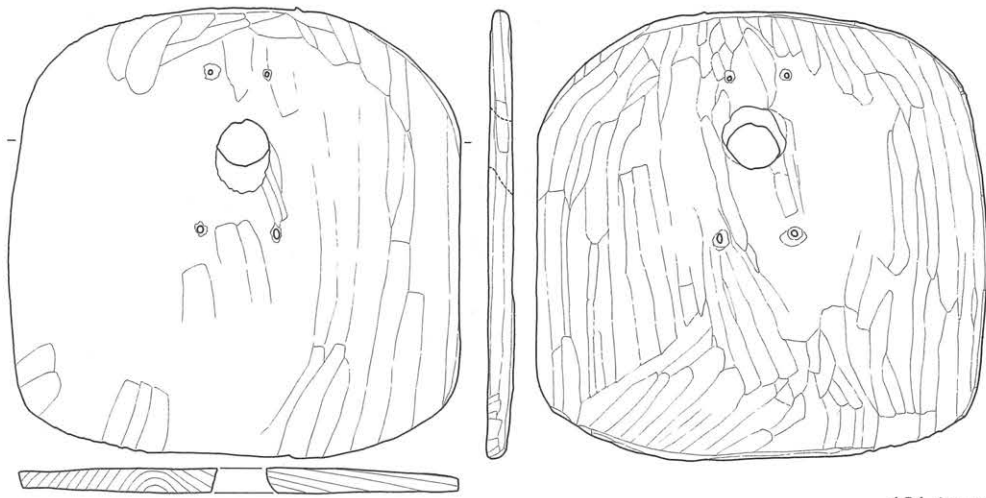
179  
(C1-57・1群)



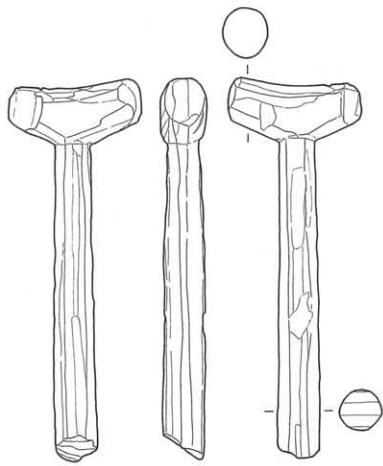
180  
(A3-19)

0 1/5 20cm

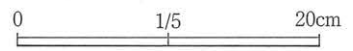
第84図 出土木製品32(鋏)



181 (E0-57)

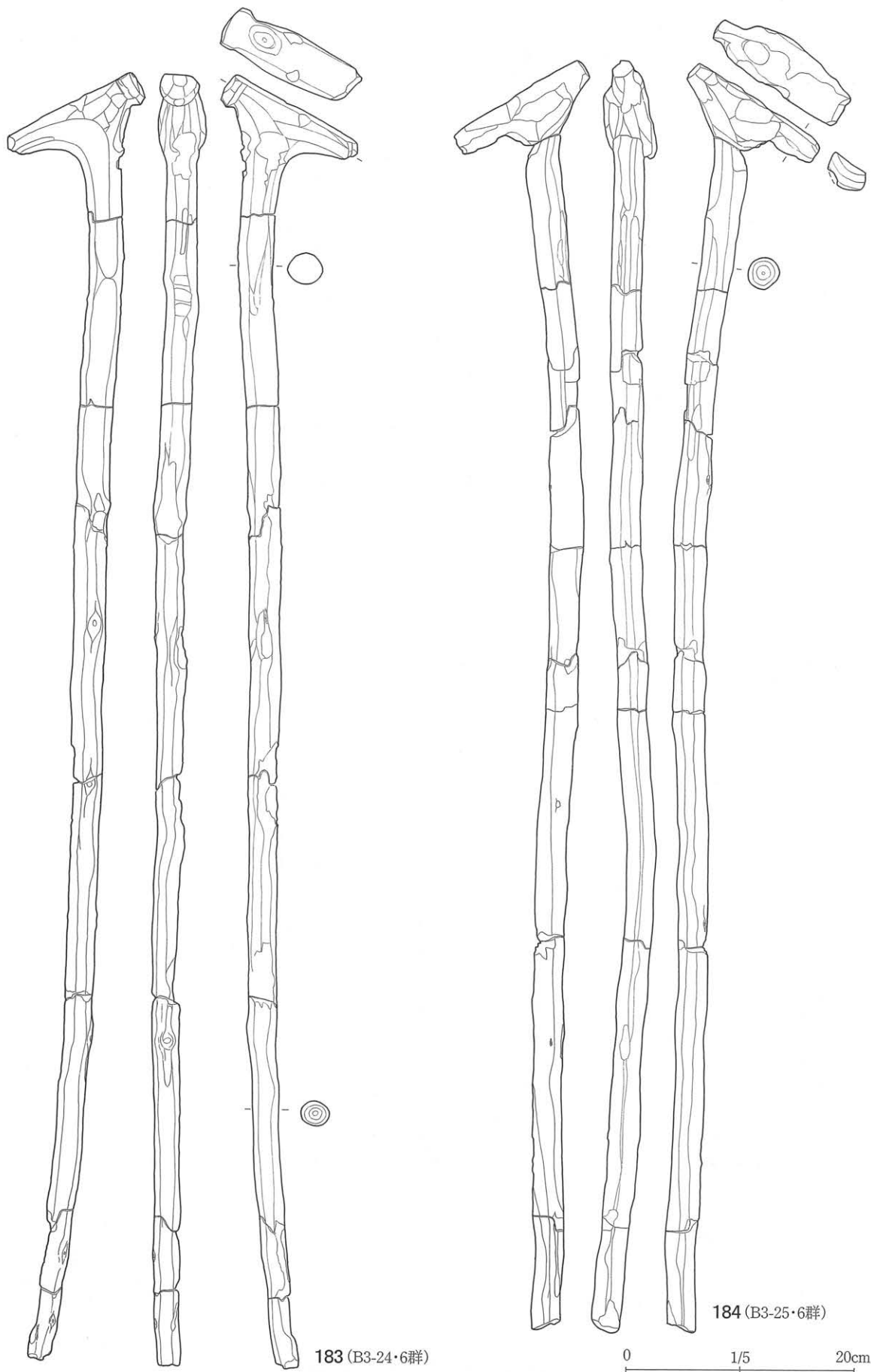


182 (F0-90・11群)



第85図 出土木製品33(鋏・鋏柄)

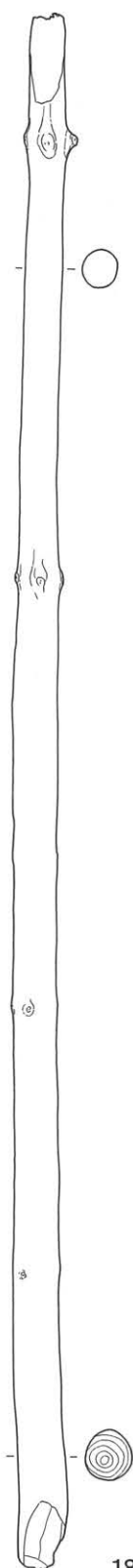




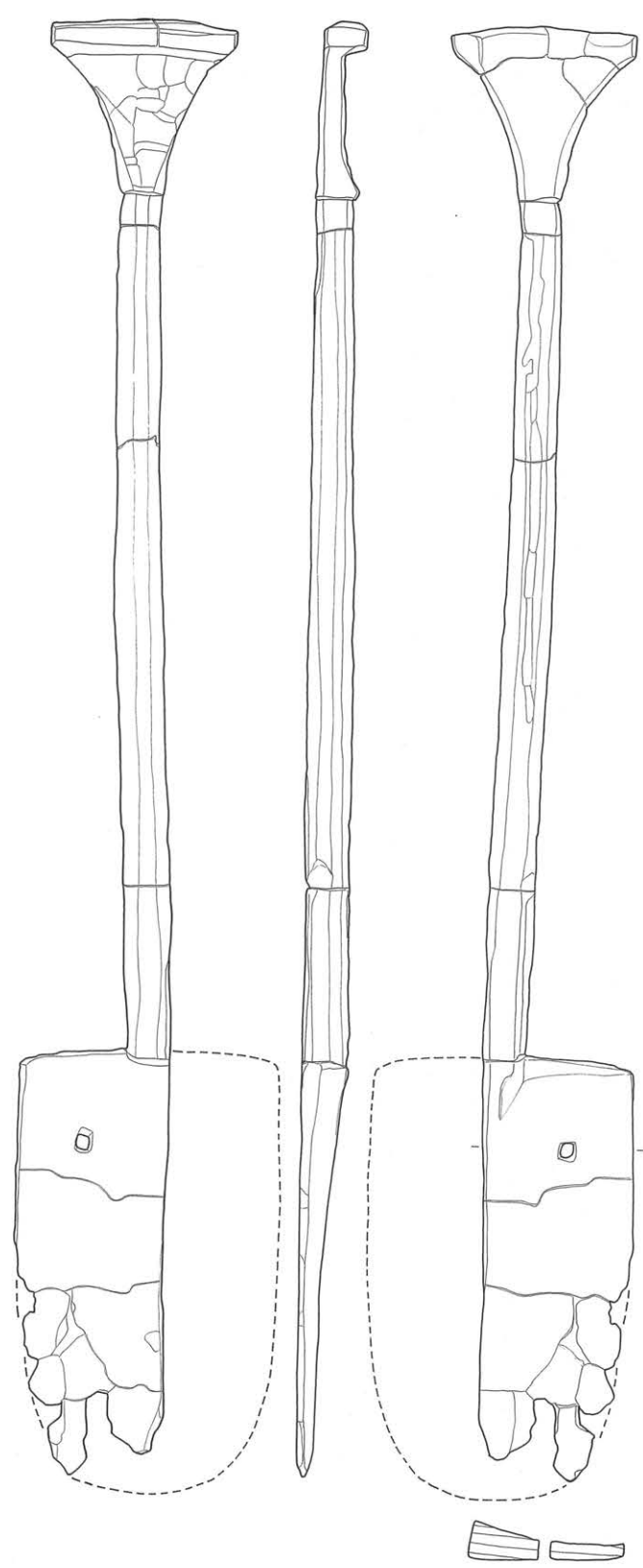
183 (B3-24・6群)

184 (B3-25・6群)

第86図 出土木製品34(鋤柄)



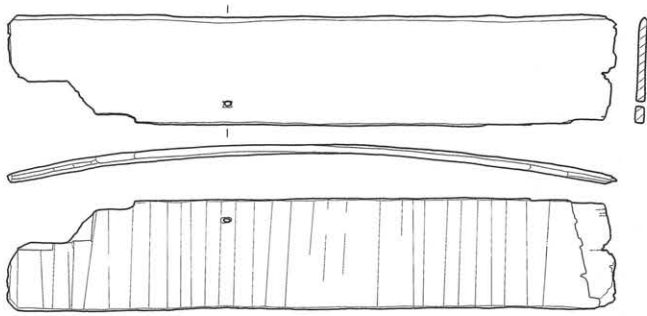
185  
(B3-26・6群)



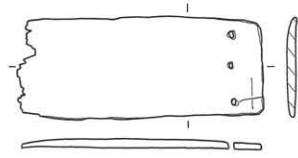
186  
(B3-03・6群)

0 1/5 20cm

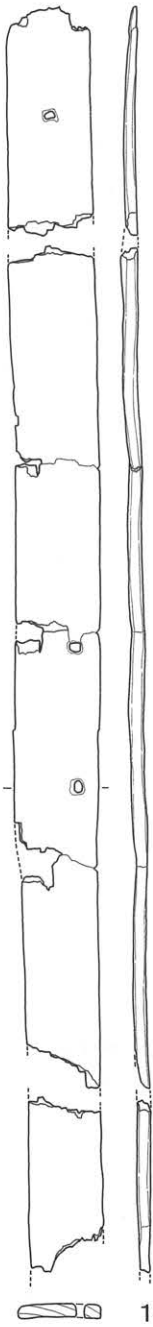
第87図 出土木製品35(鍬・鋤)



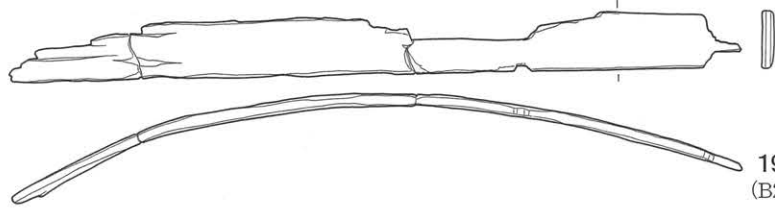
187  
(A3-45)



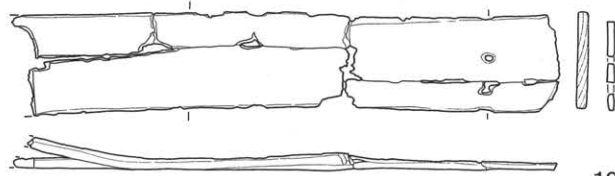
188  
(B2-68・2群)



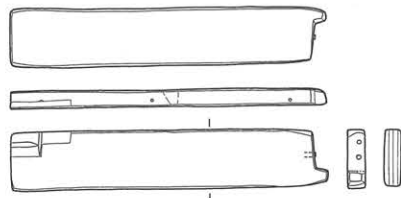
189 (E0-20・10群)



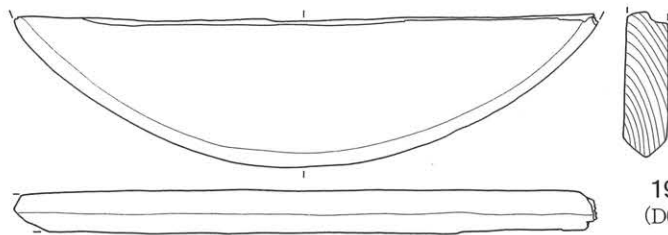
190  
(B2-59・2群)



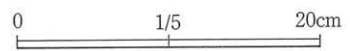
191 (F0-72・12群)



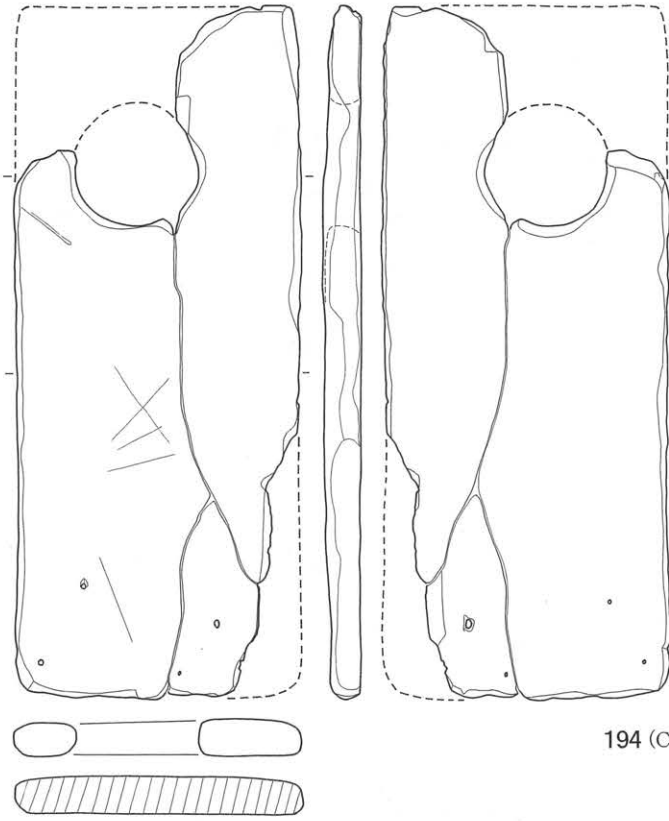
192 (A3-43)



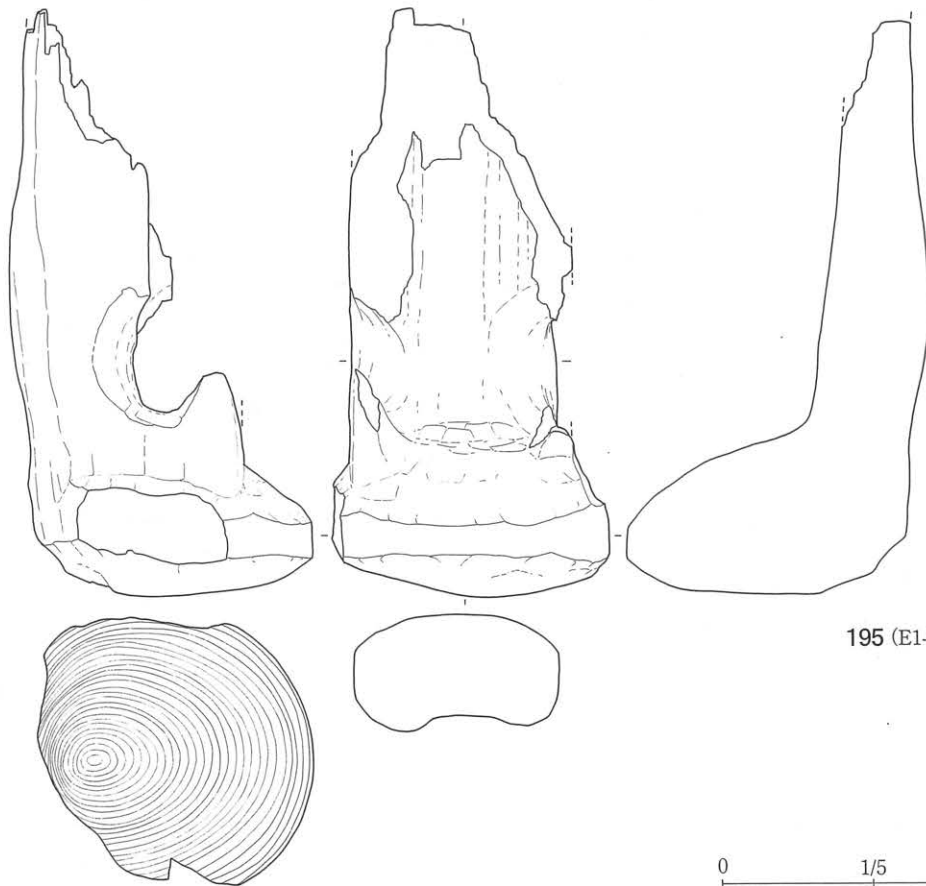
193  
(D0-96)



第88図 出土木製品36(容器)

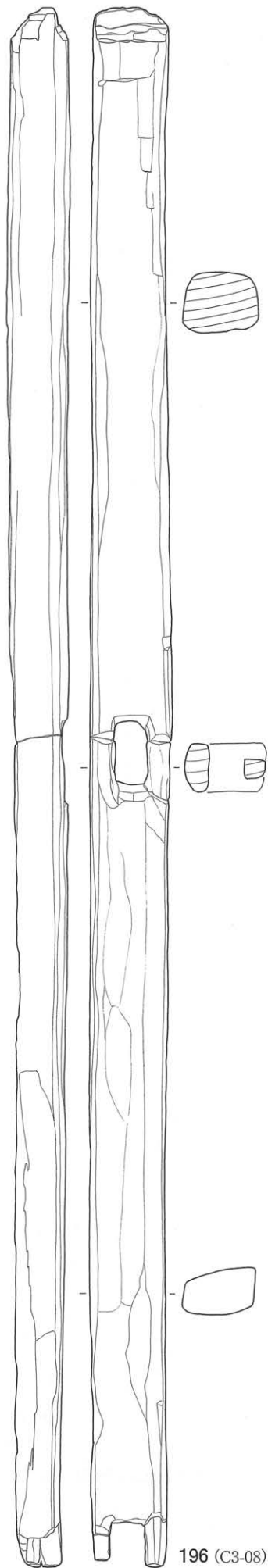


194 (C2-40・2群)

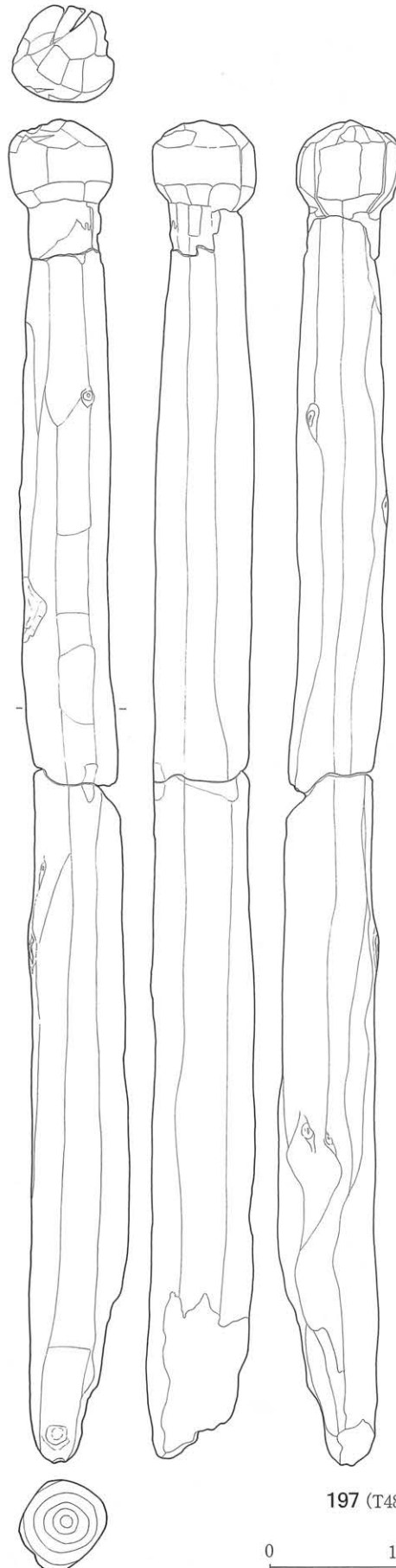


195 (E1-30・15群)

第89図 出土木製品37(建築部材 1)



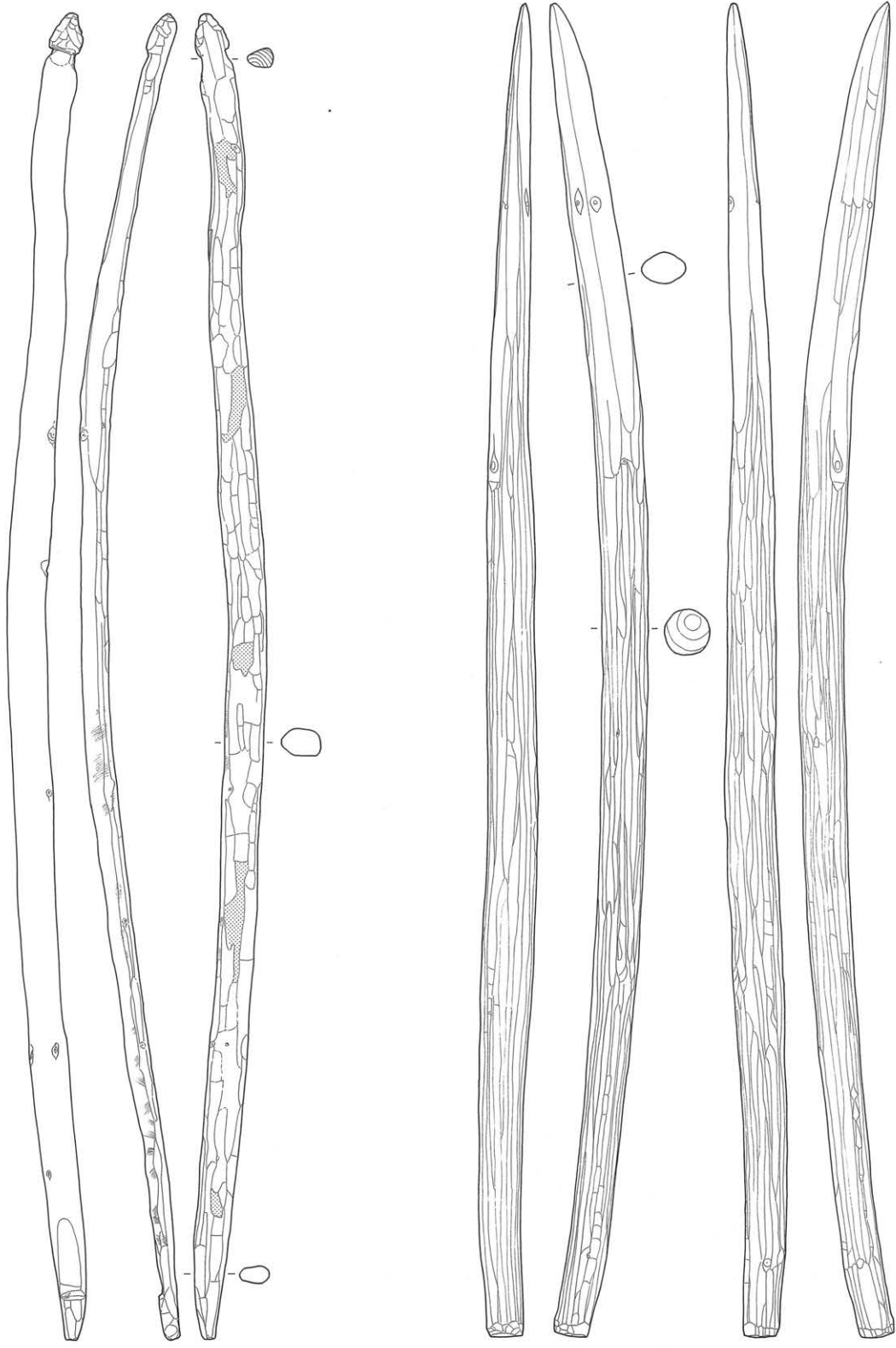
196 (C3-08)



197 (T48)

0 1/5 20cm

第90図 出土木製品38(建築部材 2)



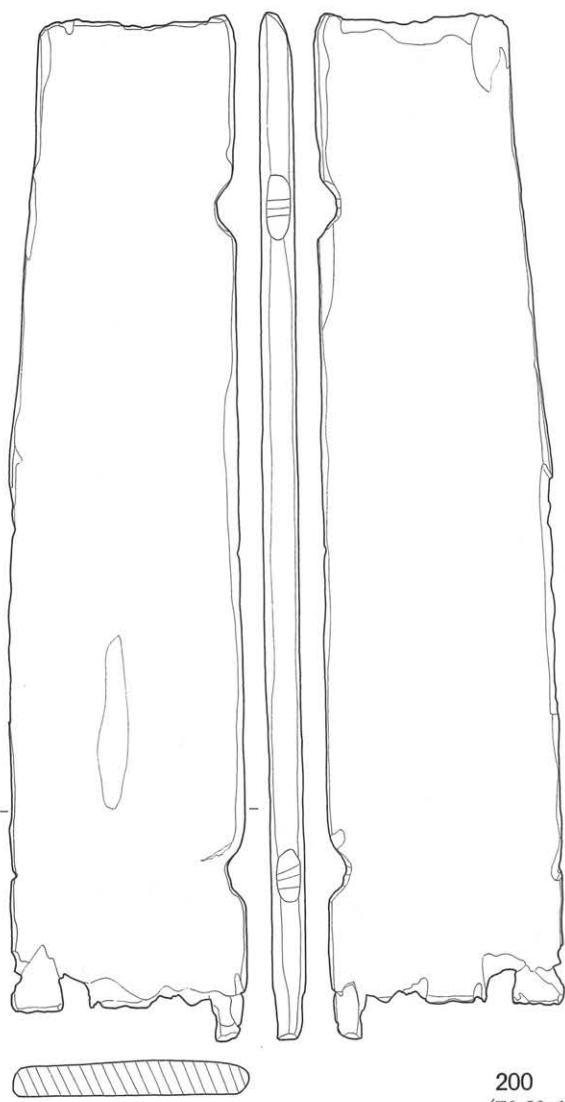
198 (A3-03-3群)

199 (C2-14)

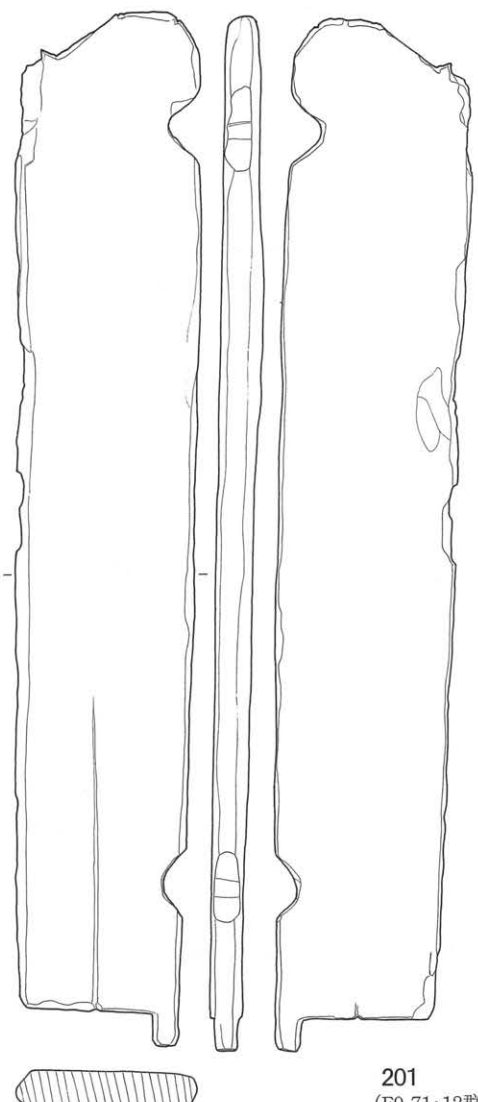
0 1/8 20cm  
(198)

0 1/5 20cm  
(199)

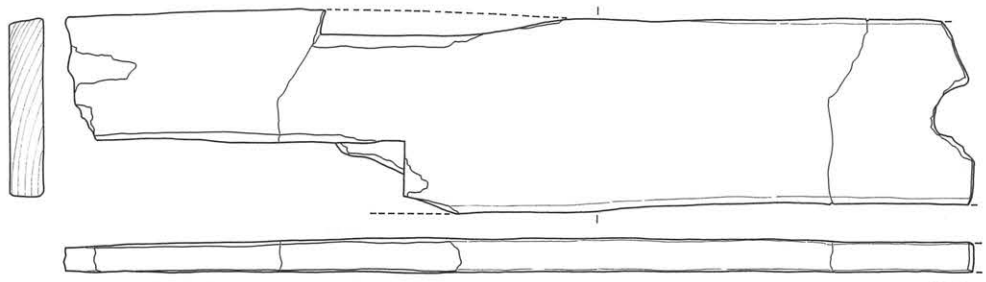
第91図 出土木製品39(その他1)



200  
(F0-20・12群)



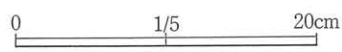
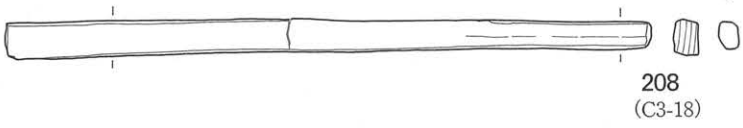
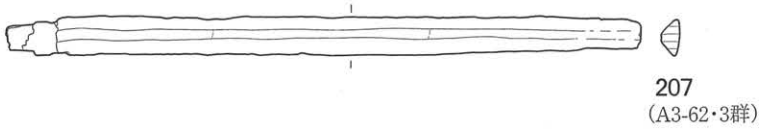
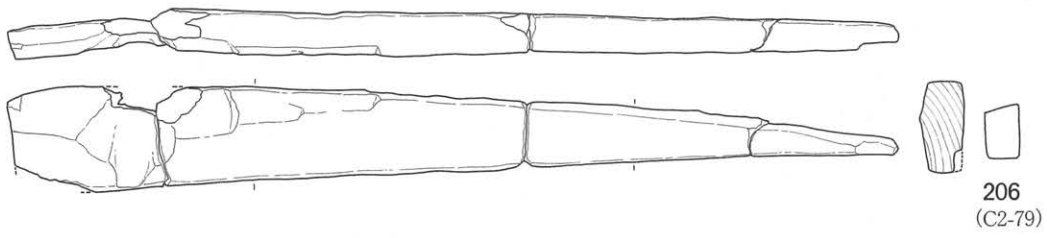
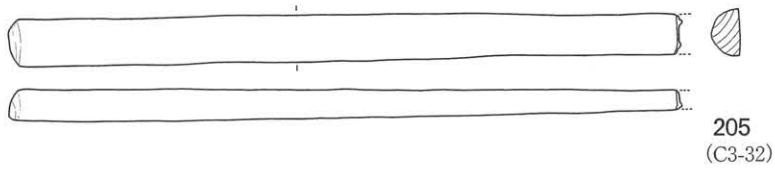
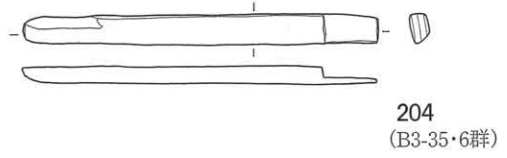
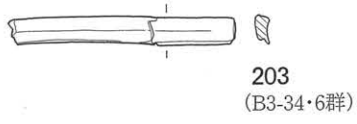
201  
(F0-71・12群)



202  
(C4-17・8群)

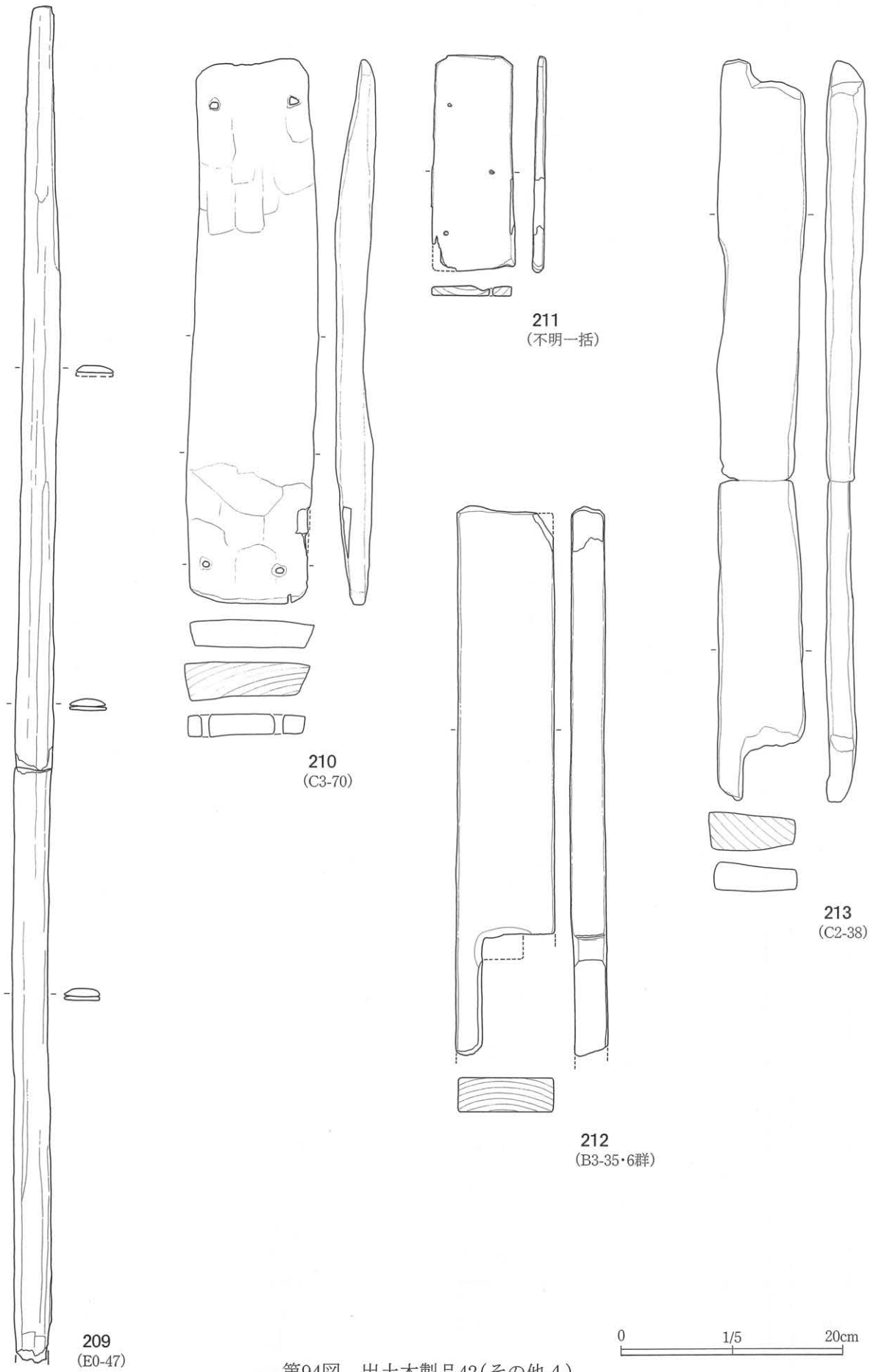
0 1/10 40cm

第92図 出土木製品40(その他2)



第93図 出土木製品41(その他3)





209  
(E0-47)

210  
(C3-70)

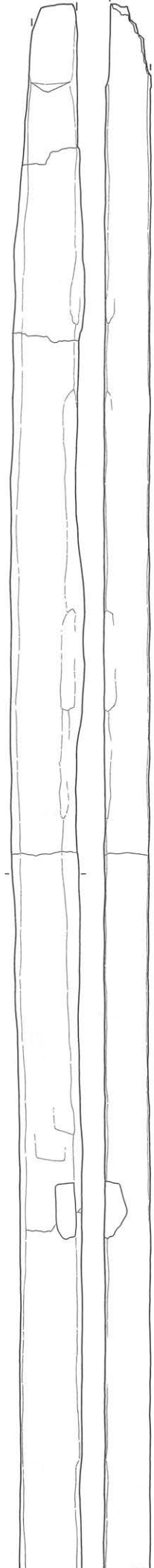
211  
(不明一括)

212  
(B3-35・6群)

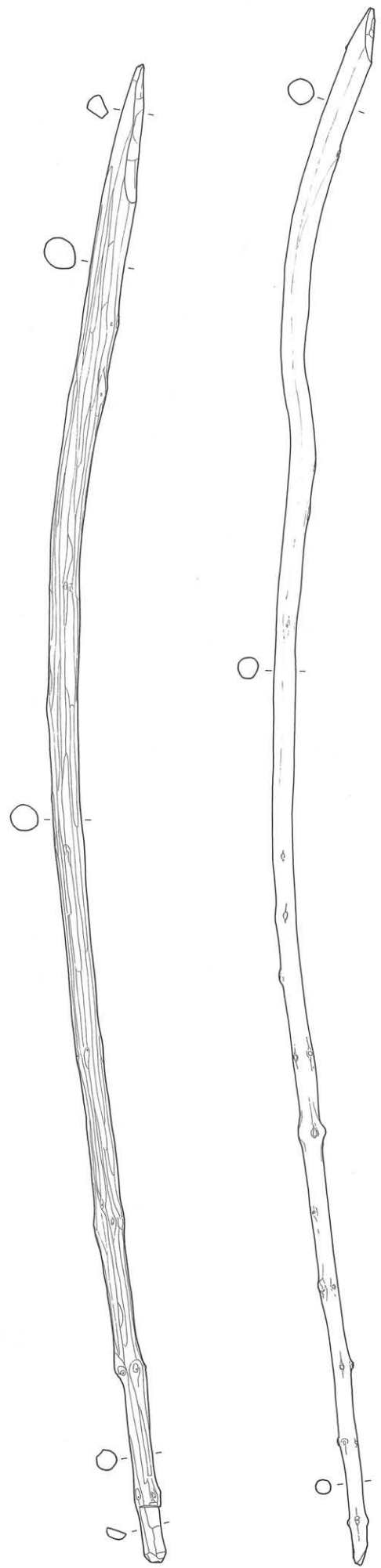
213  
(C2-38)

0 1/5 20cm

第94図 出土木製品42(その他 4)

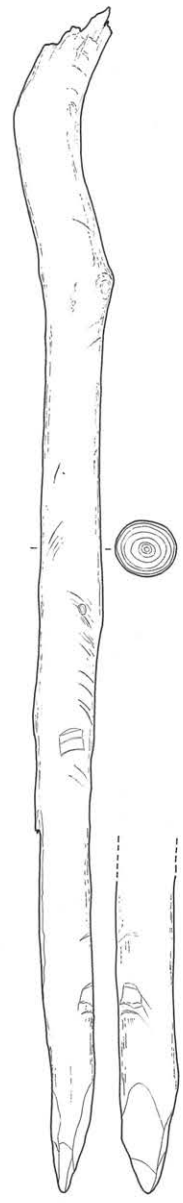


214 (C3-96・8群)

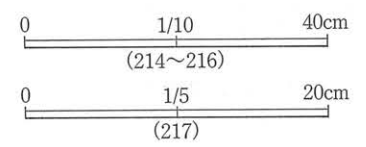


215  
(E0-16)

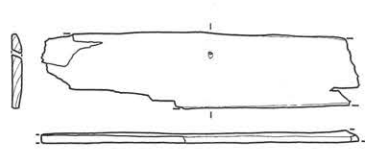
216  
(F0-62・13群)



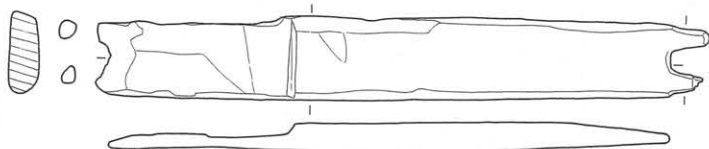
217  
(不明一括)



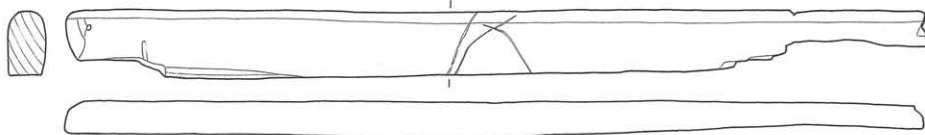
第95図 出土木製品43(その他5)



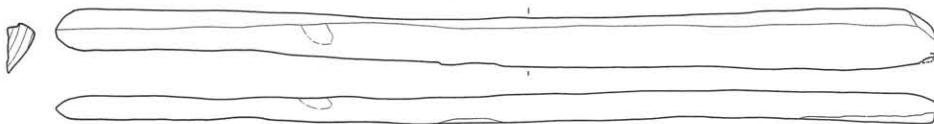
218  
(F0-61・12群)



219  
(B2-69・2群)



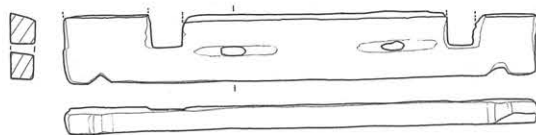
220 (B2-47)



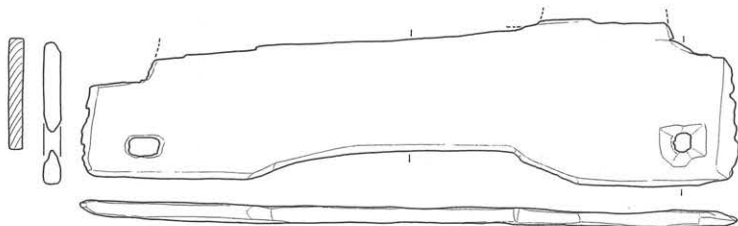
221 (B2-68・2群)



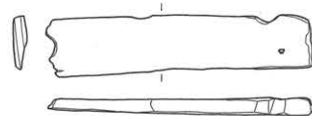
222  
(B2-76・2群)



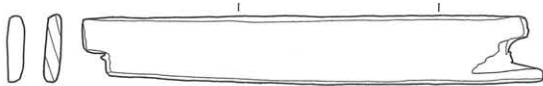
223  
(C4-58・8群)



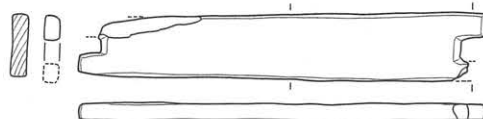
224  
(E0-59・12群)



225  
(A3-75)



226  
(E0-44)



227  
(E0-46)

0 1/5 20cm

第96図 出土木製品44(その他6)

第1表 沖田地区 掲載土器・陶磁器観察表

遺構番号	挿図	番号	枝番	種別	器種	遺存度	単位:cm				(復元値)		[現存値]		調		胎土	焼成	色	
							口径	頸部径	胴径最大径	底径	器高	外面	内面	外面	内面					
SD-001	第42図	1		弥生土器	壺	胴部破片	-	-	12.4	-	(5.0)	横位櫛描文		砂粒、雲母	良好	灰黄褐色		外面	内面	
SD-001	第42図	2		弥生土器	甗	全体の1/2	-	-	6.6	(4.0)	縦位ハケ目		細砂粒、雲母	良好	橙色～にぶい橙色		黒褐色			
B3-21	第42図	3		弥生土器	壺	胴部破片					沈織文、縄文	ヘラナデ	砂粒、白色針状物質	普通	暗褐色		黄褐色			
B2-84	第42図	4		弥生土器	甗	胴部破片					横位ハケ目	上部横位ハケ目	砂粒、白色針状物質	普通	暗褐色		黄褐色			
B2-23	第42図	5	1	土師器	甗	全体の1/2	18.5	15.1	-	(12.8)	横ナデ、横位ハケ目	横位ヘラミガキ	砂粒、雲母	良好	黒色～にぶい黄褐色					
B2-23	第42図	5	2	土師器	甗	全体の1/3	-	-	5.6	(6.3)	斜位ハケ目、ヘラミガキ	ハケ目	砂粒多量	良好	橙色～褐灰色		黒褐色			
F0-42	第42図	6		土師器	甗	全体の1/2	(17.4)	(14.0)	(22.8)	(22.2)	上部横位ハケ調整、ヘラミガキ		砂粒、白色針状物質	良好	にぶい黄褐色～黒褐色		にぶい黄褐色～黒褐色			
C4-57	第42図	7	1	土師器	甗	全体の1/5	(13.8)	(12.2)	-	(4.6)	摩擦のため不明	摩擦のため不明	砂粒、白色針状物質	普通	にぶい黄褐色～褐色					
C4-68	第42図	7	2	土師器	甗	全体の1/5	-	-	7.6	(8.8)	摩擦のため不明	摩擦のため不明	砂粒多量、白色針状物質	普通	にぶい赤褐色		にぶい黄褐色			
F0-42	第42図	8		土師器	甗	全体の1/4	(16.2)	(13.0)	-	(4.9)	横ナデ、斜位ハケ目		粗砂粒、白色針状物質	やや甘い	にぶい黄色					
C3-40	第42図	9		土師器	埴	全体の1/4	(8.1)	(6.8)	-	(4.4)	赤彩	頸部～口縁部赤彩	砂粒、雲母	良好	にぶい黄褐色					
F0-44	第42図	10		土師器	台付甗	全体の1/3	-	-	9.0	(5.4)	ヘラケズリ	摩擦のため不明	砂粒多量	普通	にぶい褐色～暗褐色		暗褐色			
B2-47	第42図	11		土師器	杯	ほぼ完形	12.0	-	-	6.2	ナデ、ヘラケズリ	ナデ	砂粒、白色粒、白色針状物質		橙色～明褐色		淡褐色			
C3-86	第42図	12		土師器	杯	全体の1/4	(13.0)	-	-	(5.8)	ロクロナデ、回転ヘラケズリ	ロクロナデ	砂粒、白色粒	良好	橙色～明褐色		褐色～明褐色			
D3-70	第42図	13		瀬戸・美濃	播鉢	全体の1/4	-	-	-	(11.0)	体部回転ヘラケズリ、底部回転米切り	櫛状工具による櫛目(15条)	長石	良好	茶褐色、灰白色		茶褐色、灰白色			
表採	第42図	14		瓦質土器	火消壺?	口縁部破片														

第2表 沖田地区土錘・土製品観察表

遺構番号	挿図	番号	種 類	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重 量 (g)	孔径 (mm)	備 考
T40-1	第43図	1	転用砥石	7.1	7.8	1.0	68.1		
T16	第43図	2	土製品	(44.0)	(31.0)	(27.0)	22.7		
T16	第43図	3	土製品	(27.0)	55.0	31.0	20.3		
T46	第43図	4	ミニチュア土器	口径(27.0)	底径(28.0)	器高(27.0)	17.8		
T23	第43図	5	土製品	19.0	19.0	6.0	1.7		
T23	第43図	6	土製品	17.0	14.0	7.0	1.0		
T23	第43図	7	土製品	28.0	27.0	10.0	3.8		

第3表 沖田地区石器・石製品観察表

遺構番号	挿図	番号	種 類	石 材	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重 量 (g)	孔径(mm)		備 考
									縦	横	
S D-001	第43図	8	石庖丁状石器	砂岩	54.0	94.7	12.7	101.4			
沖田地区	第43図	9	刃部磨製石斧	砂岩	68.6	34.7	13.2	45.1			片刃と思われる
T13	第43図	10	火打石	玉髓	43.9	41.3	18.8	38.8			
A 3-35	第43図	11	砥石	砂岩	79.4	88.2	26.9	247.4			
E 0-08	第43図	12	砥石	砂岩	90.6	62.2	19.0	162.8			
B 3-51	第43図	13	砥石	凝灰岩	68.4	73.5	46.9	207.8			
T22	第43図	14	砥石	凝灰岩	74.5	34.0	23.0	89.1			
T22	第43図	15	砥石	凝灰岩	39.5	31.0	10.0	16.7			
T22	第43図	16	砥石	凝灰岩	60.0	45.0	16.0	69.1			同一個体の可能性あり
T16	第43図	17	砥石	凝灰岩	30.0	17.0	8.5	5.7			

第4表 沖田地区銭貨計測表

遺構番号	挿図	番号	銭種	外縁外径(mm)		外縁内径(mm)		内郭外径(mm)		内郭内径(mm)		外縁厚 (mm)	内面厚 (mm)	量目 (g)	備 考
				縦	横	縦	横	縦	横	縦	横				
C4-75	第44図	1	寛永通寶	21.5	21.6	18.0	18.0	8.0	7.5	7.0	6.5	1.1	0.7	1.9	新寛永
C4-75	第44図	2	寛永通寶	23.5	23.2	18.0	19.0	7.5	6.5	7.0	6.0	1.2	0.7	2.2	新寛永
T3	第44図	3	寛永通寶	22.6	22.6	18.0	17.5	8.0	8.0	6.5	6.5	1.1	0.6	2.0	新寛永
T4	第44図	4	寛永通寶	21.5	21.5	18.5	18.5	8.5	8.0	7.5	7.0	1.0	0.8	1.7	新寛永
T5	第44図	5	寛永通寶	24.6	24.6	20.0	20.5	7.5	7.5	6.5	6.5	1.0	0.6	2.4	古寛永
T12	第44図	6	寛永通寶	23.5	23.4	19.0	19.0	8.5	7.5	6.5	6.0	1.1	0.7	2.6	新寛永
T21	第44図	7	寛永通寶	28.1	28.1	21.0	21.5	8.0	8.0	6.5	6.5	1.5	1.0	5.9	四文銭, 11波
T51	第44図	8	寛永通寶	23.9	23.9	20.5	20.0	7.5	7.0	6.0	5.5	1.2	0.7	3.2	古寛永
T51	第44図	9	寛永通寶	23.5	23.5	18.5	18.5	8.5	8.5	6.5	6.0	1.2	0.8	2.9	新寛永
T51	第44図	10	寛永通寶	28.2	28.1	21.0	21.5	9.0	8.0	7.0	6.5	1.2	0.8	4.3	四文銭, 11波

第5表 沖田地区木製品観察表(1)

挿図	番号	出土 地区	遺構 番号	器種・分類					法量(cm)			樹種
				大項目	中項目	小項目	細項目	部 位	長	幅(径)	高	
第47図	1	D1-38	14群	農具	大足	木杵式		足板, 縦杵, 小口板, 横木	82.0	50.0	10.0	ヒノキ
第48図	2	D1-38	14群	農具	大足	木杵式		足板, 縦杵, 小口板, 横木	86.5	51.0	10.0	ヒノキ
第49図	3	A3-05	4群	農具	大足			足板	46.6	9.7	1.6	
第49図	4	C4-36	8群	農具	大足			足板	40.3	12.5	1.8	
第49図	5	B3-79	他	農具	大足	木杵式		縦杵	34.8	5.0	3.5	
第49図	6	C3-55	他	農具	大足	木杵式		縦杵, 横木	29.0	4.9	4.4	
第49図	7	D0-64	他	農具	大足	木杵式		縦杵, 横木	14.0	1.5	3.0	
第49図	8	C2-30	他	農具	大足	木杵式		縦杵	12.5	3.5	4.5	
第50図	9	F0-85	13群	農具	大足			小口板	50.3	9.7	1.9	
第50図	10	B1-89	他	農具	大足			小口板	44.0	10.7	2.2	
第50図	11	F0-85	13群	農具	大足			小口板	32.7	10.6	2.0	
第50図	12	C3-53	他	農具	大足			小口板	36.8	6.5	2.7	
第51図	13	D1-38	14群	農具	大足			横木	47.0	2.5	1.5	
第51図	14	D1-38	14群	農具	大足			横木	54.4	2.0	2.5	
第51図	15	A3-15	4群	農具	大足			横木	44.0	3.2	1.9	
第51図	16	A3-43	他	農具	大足			横木	40.0	2.3	1.9	
第51図	17	C2-30	他	農具	大足			横木	42.3	3.0	2.0	
第51図	18	A3-67	5群	農具	大足			横木	33.9	2.4	1.5	
第51図	19	C2-40	2群	農具	大足			横木	39.0	2.0	1.0	
第51図	20	F0-52	13群	農具	大足			横木	31.1	3.4	1.3	
第51図	21	B2-59	2群	農具	大足			横木	17.4	3.5	0.5	
第51図	22	A3-25	他	農具	大足			横木	23.7	2.4	1.8	
第52図	23	B3-36	6群	農具	田下駄	板状	足台なし		34.5	40.5	1.7	トチノキ
第52図	24	B3-23	6群	農具	田下駄	板状	足台なし		30.0	31.7	2.1	クスノキ
第52図	25	F0-32	13群	農具	田下駄	板状	足台なし		16.7	40.3	2.2	
第52図	26	E0-00	10群	農具	田下駄	板状	足台なし		7.1	33.2	1.2	
第52図	27	C3-88	他	農具	田下駄	板状	足台なし		27.3	40.5	1.0	トチノキ
第52図	28	B3-36	6群	農具	田下駄	板状	足台なし		20.5	35.5	1.4	
第52図	29	B3-39	6群	農具	田下駄	板状	足台なし		12.8	24.5	2.0	
第52図	30	E0-79	11群	農具	田下駄	板状	足台なし		14.6	28.8	1.5	
第54図	31	A3-03	3群	農具	田下駄	板状	足杵付?		36.0	19.1	2.7	
第54図	31	A3-03	3群	農具	田下駄	板状	足杵付?		10.0	35.5	2.6	
第54図	32	A3-03	3群	農具	田下駄	板状	足杵付?		14.8	37.8	2.4	
第81図	33(164)	C4-06	8群	農具	田下駄	杵付	方形杵型	足板・縦杵・小口板	35.0	23.2	9.8	
第81図	33(164)	C4-06	8群	農具	田下駄	杵付	方形杵型	小口板	26.2	9.8	2.7	
第60図	34	C4-48	8群	農具	田下駄	杵付	方形杵型	小口板, 縦杵	40.7	25.1	12.7	ヒノキ
第62図	35	F0-61	12群	農具	田下駄	杵付	方形杵型	小口板, 縦杵	41.7	31.8	8.0	ヒノキ
第63図	36	B3-28	6群	農具	田下駄	杵付	輪カンジキ型	足板	51.7	12.5	2.2	スギ
第63図	37	B2-96	他	農具	田下駄	杵付	輪カンジキ型	足板	53.8	11.1	2.2	
第63図	38	B3-31	7群	農具	田下駄	杵付	輪カンジキ型	足板	47.2	10.0	1.5	
第63図	39	B2-49	2群	農具	田下駄	杵付	輪カンジキ型	足板	45.3	13.0	1.5	
第63図	40	D0-07	10群	農具	田下駄	杵付	輪カンジキ型	足板	36.5	12.2	1.5	
第64図	41	F0-63	13群	農具	田下駄	杵付	輪カンジキ型	足板	41.0	12.4	2.2	
第64図	42	F0-11	他	農具	田下駄	杵付	輪カンジキ型	足板	20.4	7.7	1.3	
第64図	43	B4-67	他	農具	田下駄	杵付	輪カンジキ型	足板	26.2	7.5	1.6	
第64図	44	C2-51	2群	農具	田下駄	杵付	輪カンジキ型	足板	30.0	11.7	1.7	
第64図	45	B2-59	2群	農具	田下駄	杵付		足板	53.3	12.6	1.8	
第64図	46	B2-56	2群	農具	田下駄	杵付		足板	50.5	9.6	1.4	
第64図	47	C3-10	他	農具	田下駄	杵付		足板	49.1	10.2	1.8	
第64図	48	C2-42	2群	農具	田下駄	杵付		足板	51.1	10.0	1.4	

第5表 沖田地区木製品観察表(2)

挿図	番号	出土 地区	遺構 番号	器種・分類					法量(cm)			樹 種
				大項目	中項目	小項目	細項目	部 位	長	幅(径)	高	
第65図	49	B2-59	2群	農具	田下駄	杵付		足板	44.0	3.7	1.0	
第65図	50	C2-51	2群	農具	田下駄	杵付		足板	41.8	8.7	1.5	
第65図	51	B2-39	2群	農具	田下駄	杵付		足板	40.4	9.3	1.5	
第65図	52	E0-00	10群	農具	田下駄	杵付		足板	49.6	11.6	2.0	
第65図	53	C1-54	1群	農具	田下駄	杵付		足板	46.9	5.0	1.7	
第65図	54	C2-60	2群	農具	田下駄	杵付		足板	33.0	8.6	1.9	
第65図	55	D0-26	他	農具	田下駄	杵付	輪カンジキ型	足板	37.5	4.5	1.1	
第65図	56	B2-49	2群	農具	田下駄	杵付		足板	21.5	10.7	1.8	
第65図	57	F0-63	13群	農具	田下駄	杵付		足板	30.0	13.0	0.8	
第66図	58	F0-51	12群	農具	田下駄	杵付		足板	60.0	10.0	1.2	
第66図	59	E0-79	11群	農具	田下駄	杵付		足板	59.9	14.7	1.6	
第66図	60	B3-58	他	農具	田下駄	杵付		足板	49.1	15.8	2.3	
第66図	61	A3-22	3群	農具	田下駄	杵付		足板	42.9	7.7	1.0	
第66図	62	D1-48	14群	農具	田下駄	杵付		足板	56.7	11.8	1.6	
第67図	63	A3-47	5群	農具	田下駄	杵付		足板	68.6	132.0	2.6	
第67図	64	A3-48	5群	農具	田下駄	杵付		足板	69.4	12.8	2.2	
第67図	65	A5-22	他	農具	田下駄	杵付		足板	49.1	11.9	2.0	
第67図	66	B2-49	2群	農具	田下駄	杵付		足板	44.0	2.3	3.2	
第68図	67	A2-47	他	農具	田下駄	杵付		足板	47.0	9.0	1.6	ヒノキ
第68図	68	F0-50	12群	農具	田下駄	杵付	輪カンジキ型	足板	45.0	9.6	1.9	
第68図	69	C2-50	2群	農具	田下駄	杵付		足板	42.9	12.2	1.6	
第68図	70	C2-97	他	農具	田下駄	杵付		足板	41.8	11.3	2.0	
第68図	71	B3-62	他	農具	田下駄	杵付		足板	41.6	12.3	1.8	
第68図	72	F0-74	13群	農具	田下駄	杵付		足板	40.8	11.0	1.5	
第68図	73	B3-42	7群	農具	田下駄	杵付		足板	40.5	7.3	1.9	
第68図	74	C4-06	8群	農具	田下駄	杵付		足板	38.8	9.8	2.1	
第69図	75	B3-41	7群	農具	田下駄	杵付		足板	37.8	10.0	1.5	
第69図	76	A3-06	4群	農具	田下駄	杵付		足板	64.7	12.0	2.5	
第69図	77	B3-67	他	農具	田下駄	杵付		足板	58.0	16.5	1.6	
第69図	78	F0-61,63	12群	農具	田下駄	杵付		足板	53.7	10.0	1.2	
第69図	79	C4-83	9群	農具	田下駄	杵付		足板	57.9	16.0	1.6	
第69図	80	C4-83	9群	農具	田下駄	杵付		足板	37.1	10.5	1.1	
第69図	81	F0-61	12群	農具	田下駄	杵付		足板	34.9	9.5	1.2	
第70図	82	C1-86	他	農具	田下駄	杵付		足板	51.3	12.7	1.7	
第70図	83	B2-76	2群	農具	田下駄	杵付		足板	50.5	9.9	1.2	
第70図	84	B4-18	他	農具	田下駄	杵付		足板	50.4	9.0	1.0	
第70図	85	A2-86	他	農具	田下駄	杵付	輪カンジキ型	足板	49.9	10.2	2.5	ヒノキ
第70図	86	E0-27	他	農具	田下駄	杵付	輪カンジキ型	足板	49.5	9.0	2.0	
第70図	87	E0-27	他	農具	田下駄	杵付	輪カンジキ型	足板	49.2	11.0	2.0	
第70図	88	D1-48	14群	農具	田下駄	杵付		足板	48.6	12.2	1.5	
第70図	89	B2-68	2群	農具	田下駄	杵付		足板	46.4	15.0	1.3	
第71図	90	D1-37	14群	農具	田下駄	杵付		足板	46.4	14.6	2.1	
第71図	91	C2-40	2群	農具	田下駄	杵付		足板	46.1	14.0	1.4	
第71図	92	A3-16	4群	農具	田下駄	杵付		足板	44.9	11.0	1.3	
第71図	93	A3-57	5群	農具	田下駄	杵付		足板	44.4	12.6	2.0	
第71図	94	B3-54	他	農具	田下駄	杵付		足板	46.0	9.0	2.0	
第71図	95	C4-39	8群	農具	田下駄	杵付		足板	40.7	11.9	1.8	
第71図	96	C1-48	1群	農具	田下駄	杵付		足板	39.0	13.9	1.4	
第71図	97	B2-59	2群	農具	田下駄	杵付		足板	33.8	10.0	1.0	
第72図	98	C4-39	8群	農具	田下駄	杵付		足板	36.9	13.0	1.6	
第72図	99	C2-40	2群	農具	田下駄	杵付		足板	43.7	16.6	1.9	

第5表 沖田地区木製品観察表(3)

挿図	番号	出土 地区	遺構 番号	器種・分類					法量(cm)			樹種
				大項目	中項目	小項目	細項目	部 位	長	幅(径)	高	
第72図	100	E0-79	11群	農具	田下駄	杵付		足板	44.7	13.5	1.5	
第72図	101	D0-28	他	農具	田下駄	杵付		足板	52.1	11.0	1.2	
第72図	102	B4-67	他	農具	田下駄	杵付		足板	31.8	8.0	1.4	
第72図	103	A3-26	4群	農具	田下駄	杵付		足板	30.4	5.4	1.0	
第72図	104	E0-79	11群	農具	田下駄	杵付		足板	43.4	10.6	1.1	
第72図	105	C3-96	8群	農具	田下駄	杵付		足板	36.0	11.6	1.5	
第72図	106(33)	C4-06	8群	農具	田下駄	杵付	方形杵型	足板	35.5	12.4	1.5	
第73図	107	B3-42	7群	農具	田下駄	杵付	輪カンジキ型	足板	51.0	13.8	3.3	スギ
第73図	107	B3-41	7群	農具	田下駄	杵付		足板	47.5	16.0	1.5	
第73図	108	C4-48	8群	農具	田下駄	杵付	方形杵型	足板	49.5	11.5	1.0	
第73図	109	A2-64	他	農具	田下駄	杵付		足板	40.6	10.7	0.8	
第73図	110	B2-79	他	農具	田下駄	杵付		足板	41.4	8.0	1.4	
第73図	111	E0-22	10群	農具	田下駄	杵付		足板	29.2	9.5	1.0	
第73図	112	A3-86	5群	農具	田下駄	杵付		足板	23.0	9.6	0.5	
第74図	113	C4-54	9群	農具	田下駄	杵付		足板	49.0	9.5	1.7	
第74図	113	C4-30	他	農具	田下駄	杵付		足板	43.7	10.9	1.6	スギ
第74図	114	B3-42	7群	農具	田下駄	杵付		足板	66.5	12.1	1.3	
第74図	115	F0-65	他	農具	田下駄	杵付		足板	53.6	11.8	1.8	
第74図	116	F0-50	12群	農具	田下駄	杵付		足板	54.2	15.5	1.3	
第74図	117	F0-50	12群	農具	田下駄	杵付		足板	25.1	11.0	1.4	
第75図	118	C4-37	8群	農具	田下駄	杵付		足板	51.1	14.5	1.4	
第75図	118	C4-39	8群	用途不明品	板状木製品				45.2	4.5	1.3	
第75図	119	D0-29	10群	農具	田下駄	杵付		足板	50.5	11.4	1.4	
第75図	120	F0-72	12群	農具	田下駄	杵付		足板	50.0	14.2	1.6	
第75図	121	C3-60	他	農具	田下駄	杵付		足板	49.5	12.0	1.9	
第75図	122	C4-58	8群	農具	田下駄	杵付		足板	44.8	14.0	1.6	
第75図	123	C1-91	他	農具	田下駄	杵付		足板	48.8	17.6	2.0	
第75図	124	A3-58	5群	農具	田下駄	杵付		足板	48.9	13.1	1.5	
第76図	125	B4-66	他	農具	田下駄	杵付		足板	39.3	9.7	1.5	
第76図	126	B2-59	2群	農具	田下駄	杵付		足板	36.8	13.5	1.5	
第76図	127	B2-69	2群	農具	田下駄	杵付		足板	35.8	13.3	1.3	
第76図	128	A3-26	4群	農具	田下駄	杵付		足板	44.6	12.5	1.5	
第76図	129	C3-07	他	農具	田下駄	杵付		足板	35.5	11.3	1.3	
第76図	130	F0-51	12群	農具	田下駄	杵付		足板	51.1	10.8	1.4	
第76図	131	A3-24	他	農具	田下駄	杵付		足板	47.8	7.0	1.3	
第77図	132	B3-43	他	農具	田下駄	杵付		足板	40.5	6.3	0.9	
第77図	133	C4-47	8群	農具	田下駄	杵付		足板	37.5	14.4	1.3	
第77図	134	F0-65	他	農具	田下駄	杵付		足板	50.9	12.9	1.5	
第77図	135	E0-39	12群	農具	田下駄	杵付		足板	18.8	5.1	1.0	
第78図	136	D0-09	10群	農具	田下駄	杵付	輪カンジキ型	横木(板状)	42.0	8.0	2.0	
第78図	137	E0-39	12群	農具	田下駄	杵付	輪カンジキ型	横木(板状)	43.2	5.2	1.5	
第78図	138	E0-48	他	農具	田下駄	杵付	輪カンジキ型	横木(板状)	41.7	7.6	2.0	
第78図	139	E0-48	他	農具	田下駄	杵付	輪カンジキ型	横木(板状)	43.0	5.6	1.0	
第78図	140	E1-60	15群	農具	田下駄	杵付	輪カンジキ型	横木(板状)	40.3	4.6	1.0	
第78図	141	B2-49	2群	農具	田下駄	杵付	輪カンジキ型	横木(板状)	48.1	4.7	2.2	
第79図	142	C2-61	2群	農具	田下駄	杵付	輪カンジキ型	横木(板状)	47.0	3.0	2.0	
第79図	143	C2-40	2群	農具	田下駄	杵付	輪カンジキ型	横木(板状)	51.6	3.5	1.3	
第64図	144	C2-40	2群	農具	田下駄	杵付	輪カンジキ型	横木(板状)	38.9	5.0	1.2	
第79図	145	D2-19	15群	農具	田下駄	杵付	輪カンジキ型	横木(板状)	21.8	3.4	1.5	
第79図	146	A2-95	4群	農具	田下駄	杵付	輪カンジキ型	横木(板状)	40.5	3.9	1.2	スギ
第79図	147	A3-36	他	農具	田下駄	杵付	輪カンジキ型	横木(板状)	44.9	2.8	1.6	



第5表 沖田地区木製品観察表(4)

挿図	番号	出土 地区	遺構 番号	器種・分類					法量(cm)			樹 種
				大項目	中項目	小項目	細項目	部 位	長	幅(径)	高	
第79図	148	B2-68	2群	農具	田下駄	杵付	輪カンジキ型	横木(板状)	50.1	3.3	1.9	
第79図	149	B3-03	6群	農具	田下駄	杵付	輪カンジキ型	横木(板状)	46.8	4.5	1.1	
第79図	150	C2-51	2群	農具	田下駄	杵付	輪カンジキ型	横木(板状)	48.1	4.0	2.0	
第80図	151	C4-57	8群	農具	田下駄	杵付	輪カンジキ型	横木(板状)	26.3	3.1	1.8	
第80図	152	E0-27	他	農具	田下駄	杵付	輪カンジキ型	横木(板状)	22.1	3.7	1.8	
第80図	153	E0-27	他	農具	田下駄	杵付	輪カンジキ型	横木(板状)	49.3	3.3	2.0	
第80図	154	A3-16	4群	農具	田下駄	杵付	輪カンジキ型	横木(板状)	46.6	3.2	1.2	
第80図	155	C2-40	2群	農具	田下駄	杵付	輪カンジキ型	横木(棒状)	46.5	23.0	1.7	
第80図	156	A2-38	他	農具	田下駄	杵付	輪カンジキ型	横木(棒状)	16.6	1.4	1.2	
第80図	157	A3-58	5群	農具	田下駄	杵付	輪カンジキ型	横木(棒状)	33.6	2.4	1.7	
第80図	158	B2-59	2群	農具	田下駄	杵付	輪カンジキ型	横木(棒状)	41.7	2.3	2.1	
第80図	159	B3-37	6群	農具	田下駄	杵付	輪カンジキ型	横木(棒状)	30.8	1.5	1.5	
第80図	160	E0-20	10群	農具	田下駄	杵付	輪カンジキ型	横木(棒状)	46.1	2.0	1.5	
第81図	161	C2-50	2群	農具	田下駄	杵付	方形杵型	小口板	13.0	34.0	2.5	
第81図	162	C4-48	8群	農具	田下駄	杵付	方形杵型	小口板	14.9	33.9	2.4	
第81図	163(33)	C4-06	8群	農具	田下駄	杵付	方形杵型	小口板	25.7	9.5	2.5	
第81図	164(33)	C4-06	8群	農具	田下駄	杵付	方形杵型	小口板	26.2	9.8	2.7	
第81図	165	D0-76	他	農具	田下駄	杵付	方形杵型	小口板	36.3	9.5	2.0	
第81図	166	B2-84	6群	農具	田下駄	杵付	方形杵型	小口板	27.0	8.0	1.0	
第81図	167	C2-32	他	農具	田下駄	杵付	方形杵型	小口板	15.2	7.5	1.0	
第82図	168	B2-68	2群	農具	田下駄	杵付	方形杵型	縦杵	54.0	5.0	2.5	
第82図	169	B4-76	他	農具	田下駄	杵付	方形杵型	縦杵	54.7	5.2	2.8	
第82図	170	C2-41	2群	農具	田下駄	杵付	方形杵型	縦杵	15.0	5.1	2.7	
第82図	171	D0-26	他	農具	田下駄	杵付	輪カンジキ型	足板	38.5	3.0	1.5	
第82図	172	C4-06	8群	農具	田下駄	杵付	方形杵型	縦杵	31.0	3.1	1.5	
第82図	173	C4-06	8群	農具	田下駄	杵付	方形杵型	縦杵	30.0	3.2	1.3	
第83図	174	B3-42	7群	農具	田下駄	杵付	輪カンジキ型	杵木	51.0	13.8	3.3	ヒノキ
第83図	175	A2-86	他	農具	田下駄	杵付	輪カンジキ型	杵木	198.0	2.0	1.5	マタタビ属
第83図	176	B3-59	他	農具	田下駄	杵付	輪カンジキ型	杵木	71.4	2.3	1.8	
第84図	177	F0-90	11群	農具	鍬	曲柄装着鍬	二又鍬	鍬身	35.6	12.2	2.7	コナラ属アカガシ亜属
第84図	178	D2-29	15群	農具	鍬	曲柄装着鍬	二又鍬	鍬身	55.5	8.0	1.7	
第84図	179	C1-57	1群	農具	鍬	曲柄装着鍬	多又鍬	鍬身	48.5	11.0	2.6	コナラ属アカガシ亜属
第84図	180	A3-19	他	農具	鍬	直柄装着鍬			17.4	11.0	1.9	コナラ属アカガシ亜属
第85図	181	E0-57	他	農具	鍬	泥除け		IV式(木器集成)	29.5	29.8	1.6	
第85図	182	F0-90	11群	農具	鋤			柄	25.1	8.7	3.0	コナラ属アカガシ亜属
第86図	183	B3-24	6群	農具	鍬	曲柄装着鍬		曲柄	114.0	3.0	2.5	サカキ
第86図	184	B3-25	6群	農具	鍬	曲柄装着鍬		曲柄	48.0	3.0	2.0	サカキ
第87図	185	B3-26	6群	農具	鍬	直柄装着鍬		直柄?	10.5	3.1	3.3	
第87図	186	B3-03	6群	農具	鋤	一木鋤	平鋤		27.0	10.0	3.0	コナラ属アカガシ亜属
第88図	187	A3-45	他	容器	曲物			側板	39.8	7.5	0.5	
第88図	188	B2-68	2群	容器	曲物			側板	16.4	6.4	0.6	
第88図	189	E0-20	10群	容器	曲物			側板	19.0	5.0	1.0	
第88図	190	B2-59	2群	容器	曲物			側板	48.0	4.0	1.0	
第88図	191	F0-72	12群	容器	曲物			側板	35.0	6.3	0.8	
第88図	192	A3-43	他	容器	箱			側板	20.7	3.9	1.1	
第88図	193	D0-96	他	容器				蓋板	38.5	9.6	2.8	
第89図	194	C2-40	2群	用途不明品	板状木製品				45.7	19.0	2.5	
第89図	195	E1-30	15群	用途不明品	棒状木製品				38.7	17.0	16.0	
第90図	196	C3-08	他	用途不明品	角材状木製品				134.0	6.5	4.0	
第90図	197	T48	他	用途不明品	有頭棒材				102.3	7.9	8.0	サカキ
第91図	198	A3-03	3群	運搬具	天秤棒				164.0	4.5	-	イヌガヤ

第5表 沖田地区木製品観察表(5)

挿図	番号	出土 地区	遺構 番号	器種・分類					法量(cm)			樹種	
				大項目	中項目	小項目	細項目	部 位	長	幅(径)	高		
第91図	199	C2-14	他	武具	木刀					102.6	3.9	3.7	イヌガヤ
第92図	200	F0-20	12群	建築材	扉板?					135.5	31.2	4.7	サクラ属
第92図	201	F0-71	12群	建築材	扉板?					136.2	24.4	5.6	
第92図	202	C4-17	8群	建築材	板状部材					119.6	23.0	4.0	
第93図	203	B3-34	6群	用途不明品	棒状木製品					15.0	1.7	0.9	
第93図	204	B3-35	6群	用途不明品	棒状木製品					23.2	2.0	1.2	
第93図	205	C3-32	他	用途不明品	棒状木製品					44.2	3.1	1.9	
第93図	206	C2-79	他	用途不明品	棒状木製品					59.0	6.0	2.5	
第93図	207	A3-62	3群	用途不明品	棒状木製品					41.5	2.5	1.2	
第93図	208	C3-18	他	用途不明品	棒状木製品					42.0	2.4	1.6	
第94図	209	E0-47	他	用途不明品	板状木製品					123.6	3.2	1.5	
第94図	210	C3-70	他	用途不明品	板状木製品					49.0	11.2	3.4	
第94図	211	一括	不明	用途不明品	板状木製品					19.4	7.5	1.0	
第94図	212	B3-35	6群	用途不明品	板状木製品					49.1	8.7	3.0	
第94図	213	C2-38	他	用途不明品	板状木製品					68.4	7.9	3.4	
第95図	214	C3-96	8群	建築材	柱					279.0	13.0	8.0	
第95図	215	E0-16	他	建築材	えつり					252.0	5.0	5.0	
第95図	216	F0-62	13群	建築材	えつり					265.0	4.6	-	
第95図	217	一括	不明	土木材	杭					78.0	5.0	4.0	
第96図	218	F0-61	12群	用途不明品	板状木製品					20.9	5.1	0.8	
第96図	219	B2-69	2群	用途不明品	板状木製品					40.0	5.6	1.9	
第96図	220	B2-47	他	用途不明品	板状木製品					56.1	4.8	2.4	
第96図	221	B2-68	2群	用途不明品	板状木製品					57.0	4.5	1.5	
第96図	222	B2-76	2群	用途不明品	板状木製品					21.0	5.0	1.0	
第96図	223	C4-58	8群	用途不明品	板状木製品					31.0	4.0	1.5	
第96図	224	E0-59	12群	用途不明品	板状木製品					43.0	11.0	1.0	
第96図	225	A3-75	他	農具	田下駄	粹付	輪カンジキ型	足板		17.6	13.5	0.9	
第96図	226	E0-44	他	用途不明品	板状木製品					29.9	4.5	1.2	
第96図	227	E0-46	他	用途不明品	板状木製品					27.1	4.5	1.0	





## 第3章 中郷地区

### 第1節 調査の経過と概要 (第97図)

中郷地区では、平成10年度に確認調査を実施し、平成13年度まで本調査を行った。

確認調査は対象面積47,200m<sup>2</sup>に対して実施し、溝状遺構や掘立柱建物跡群などの遺構が密に検出された25,069m<sup>2</sup>について、本調査を実施することとした。本調査区内は市道や水路等によって分断され、それぞれの地区を便宜上I区～V区と呼称することとした。遺構は区ごとに、SB（掘立柱建物跡）、SD（溝状遺構）、SE（井戸）、SI（竪穴住居跡）、SK（土坑）、SP（ピット）、SX（不明遺構）と種類別に番号を付して調査したが、特にSE・SK・SXについては、調査後に遺構の性格を検討してみると、必ずしもその分類が適当であるとは言えないものも出てきた。しかし、混乱を避けるため、整理作業および本書においても調査時の遺構番号を踏襲することとした。また、地区名は遺構名の先頭にローマ数字で付すこととした。

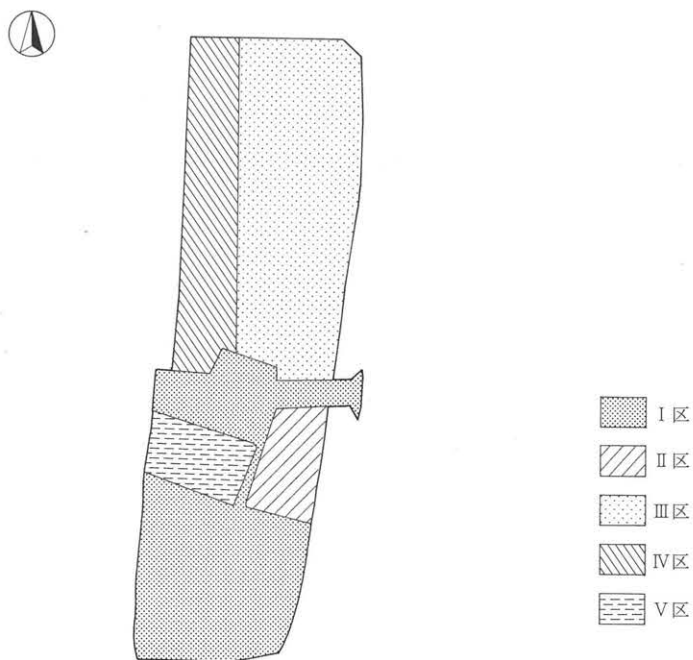
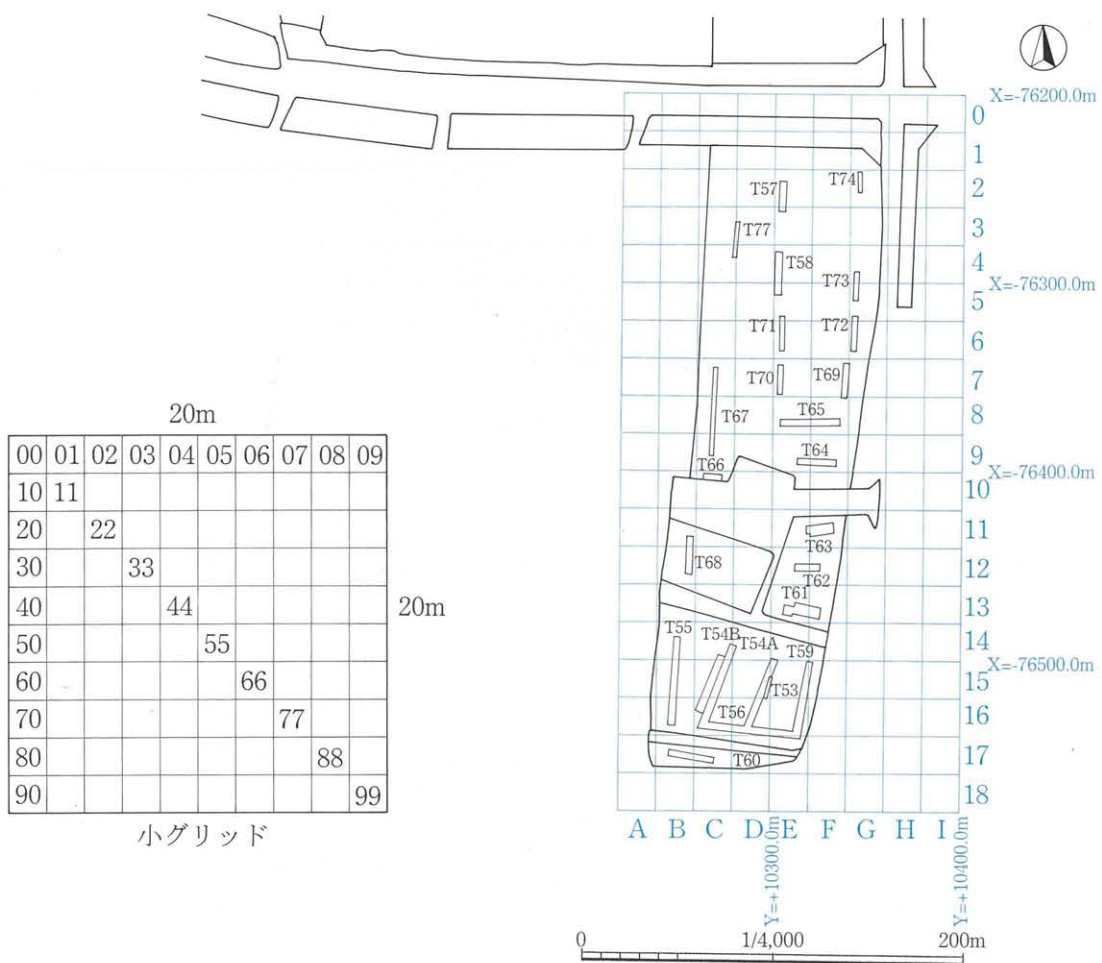
本調査区のうち3,634m<sup>2</sup>については、工事工程の関係から平成13年度に実施し、地区名はI区（拡張区）として、前回調査に連続する遺構番号を付した。

中郷地区の調査範囲には、公共座標に合わせて東西南北に20m×20mの方眼網を設定し、大グリッドとした。大グリッドはX=-76,200.0m, Y=+10,220.0mを起点とし、北から南に0, 1, 2, …とし、西から東にA, B, C, …として、これを組み合わせて使用した。大グリッド内には2m×2mに100分割の小グリッドを設定し、北西隅を起点に00, 01, 02, …として、南西隅を99とした。グリッド名はこれにより、大グリッドと小グリッドを組み合わせて、A1-23のように表示することにした。

調査の結果、中郷地区では弥生時代～中・近世以降に至るまでの遺構が多数検出された。中郷地区では、沖田地区で認められた弥生時代～近世の層が認められず、遺構の検出面は全て現耕作土直下であった。

以下、検出された遺構を時代ごとに分け、それぞれ調査区の北に所在するものから南に所在するものへと、順次掲載することとする。なお、遺構一覧は第7表～第9表のとおりで、住居跡・掘立柱建物跡一覧表（第7表）については報告書掲載順、井戸・土坑一覧表（第8表）と溝状遺構一覧表（第9表）についてはI区の遺構から番号順に並べた。

溝状遺構については時期のはっきりしないものが多いが、主に調査区北側の後背湿地に向かう部分に多数検出された。耕作などに関連するものとみられる。一方、掘立柱建物跡は、小糸川に面した自然堤防上を中心に濃密に分布しており、川に面した自然堤防上は居住域、後背湿地は耕作地として、連綿と利用されていた様子が窺えよう。



第97図 グリッド設定とトレンチ配置図・調査区割図

## 第2節 弥生時代～古墳時代の遺構と遺物

弥生時代～古墳時代に比定できる遺構は、竪穴住居跡5軒、土坑4基、溝状遺構がある。

### 1 竪穴住居跡

#### I SI-003 (第103図)

I SI-003は調査区の南端に位置する隅丸方形の竪穴住居跡である。長軸5.0m、短軸4.0mを測り、主軸方位はN-60° -Eである。壁・床面は検出できず、削平されたものと考えられる。支柱穴4か所と入口部に想定されるピットやその対辺に貯蔵穴が検出されたのみであり、炉も検出されなかった。内外面赤彩された浅鉢1個体が出土し、弥生時代後期の住居跡と考えられる。

#### I SI-008 (第104図)

I SI-008は調査区の南端に位置し、I SI-002と北壁で重複し、I SI-003の南方6mに所在するほぼ正方形の竪穴住居跡である。一辺4.2m～4.4mを測り、主軸方位はN-43° -Wである。壁は全周検出できず、削平されたものと考えられる。床面はほぼ平坦であるが、硬化面ははっきりせず、支柱穴4か所が検出された。炉は中央部よりやや北側に検出された。弥生時代の住居跡と考えてよいと思われる。

出土遺物は、皆無である。

#### I SI-002 (第105図, 図版39)

I SI-002は調査区の南端に位置し、I SI-003の南方1.5mに近接し、I SI-008と南壁で重複する隅丸方形の竪穴住居跡である。長軸4.3m、短軸4.0m、深さ0.35mを測り、主軸方位はN-28° -Wである。床面はほぼ平坦であり、中央部に硬化面が認められる。壁溝は北西部のみに検出された。炉は硬化面内の北側に検出された。柱穴は多数検出されたが不揃いである。南壁に接して貯蔵穴が存在する。弥生時代後期の住居跡と考えられる。

遺物は、内外面赤彩された折返し口縁の壺、口唇部、体部に刻みが巡る甕数個体分が出土した。

#### I SI-001 (第106図, 図版39)

I SI-001は調査区の南端に位置し、北壁にカマドを有するほぼ正方形の竪穴住居跡である。一辺3.9m、深さ0.3mを測り、主軸方位はN-43° -Eである。床面はほぼ平坦であるが、硬化面ははっきりせず、支柱穴4か所と南寄りに補助的な柱穴2か所が検出された。東隅とカマドの西側に貯蔵穴が検出された。カマドは北東辺中央やや東寄りに検出された。古墳時代中期に比定される。

遺物は、カマドのある北東辺とカマド内から出土している。土師器杯2点は、浅い碗形で内外面赤彩される。小形壺は、口縁内外と体部が赤彩され、台付碗1点、胴部のやや張った甕5点が見られる。

#### I SI-005 (第108図, 図版40)

I SI-005は調査区の南端に位置し、I SI-001の北方14mに位置し、北壁にカマドを有する方形の竪穴住居跡である。一辺の長さは3.6m、深さは0.3mほどを測り、主軸方位はN-55° -Eである。西壁と北東壁の一部は検出できず、斜面で失われたものと考えられる。床面はほぼ平坦であるが、硬化面ははっきりしな



第98図 弥生時代～古墳時代遺構配置図1 (S=1/250)





第99図 弥生時代～古墳時代遺構配置図2 (S=1/250)



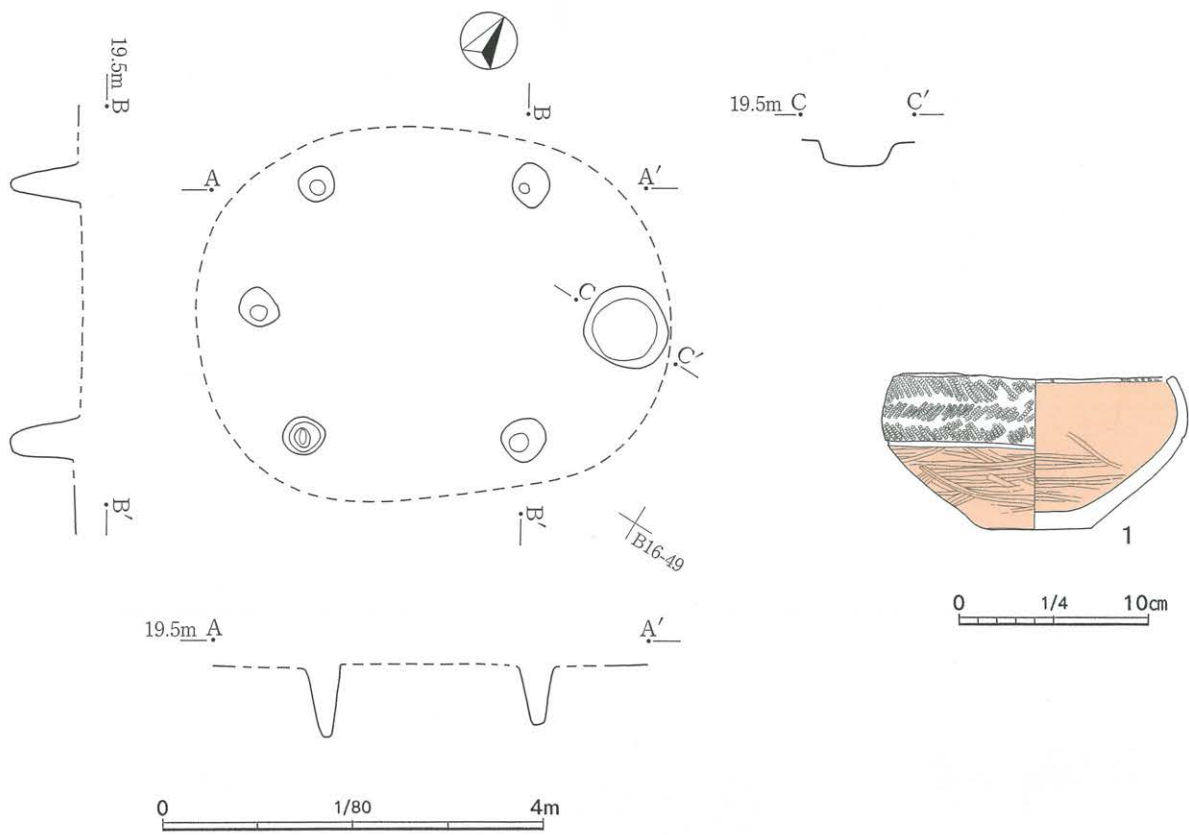
第100図 弥生時代～古墳時代遺構配置図3 (S=1/250)



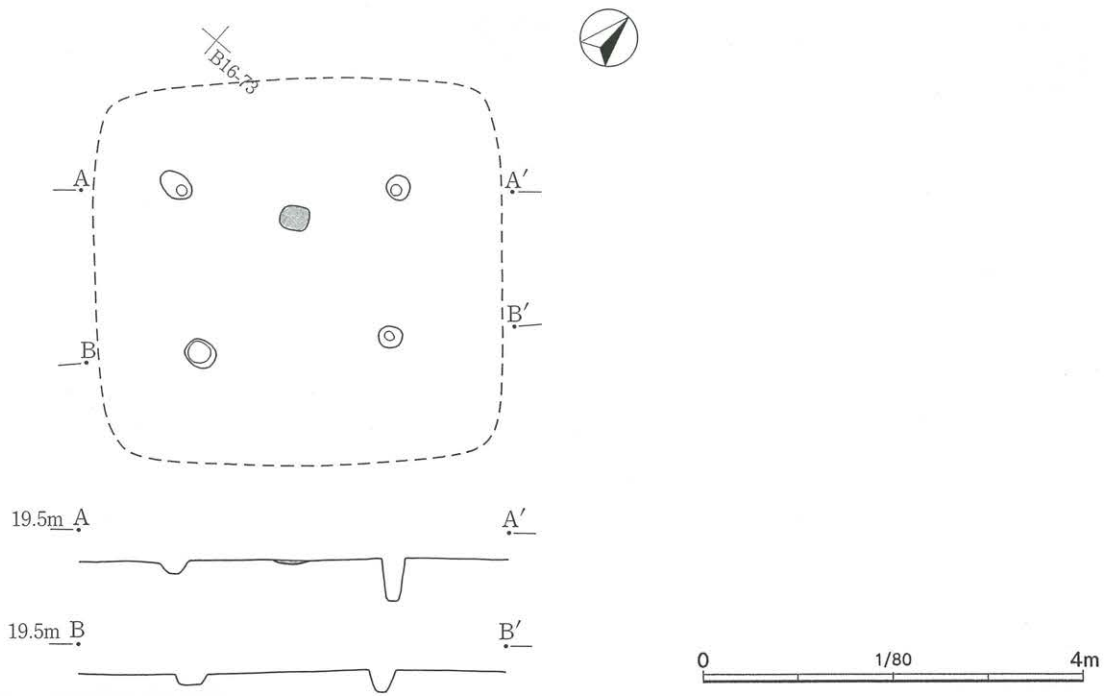
第101図 弥生時代～古墳時代遺構配置図4 (S=1/250)



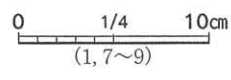
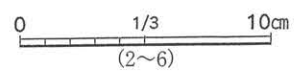
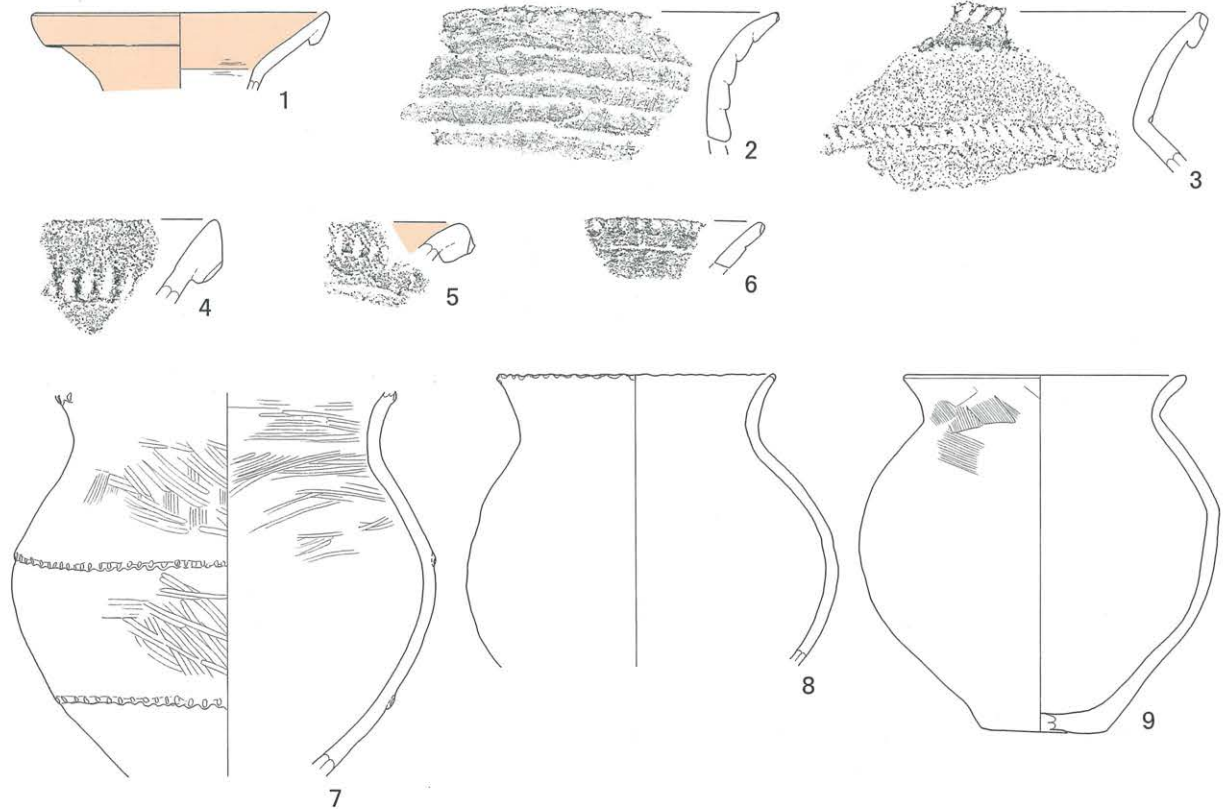
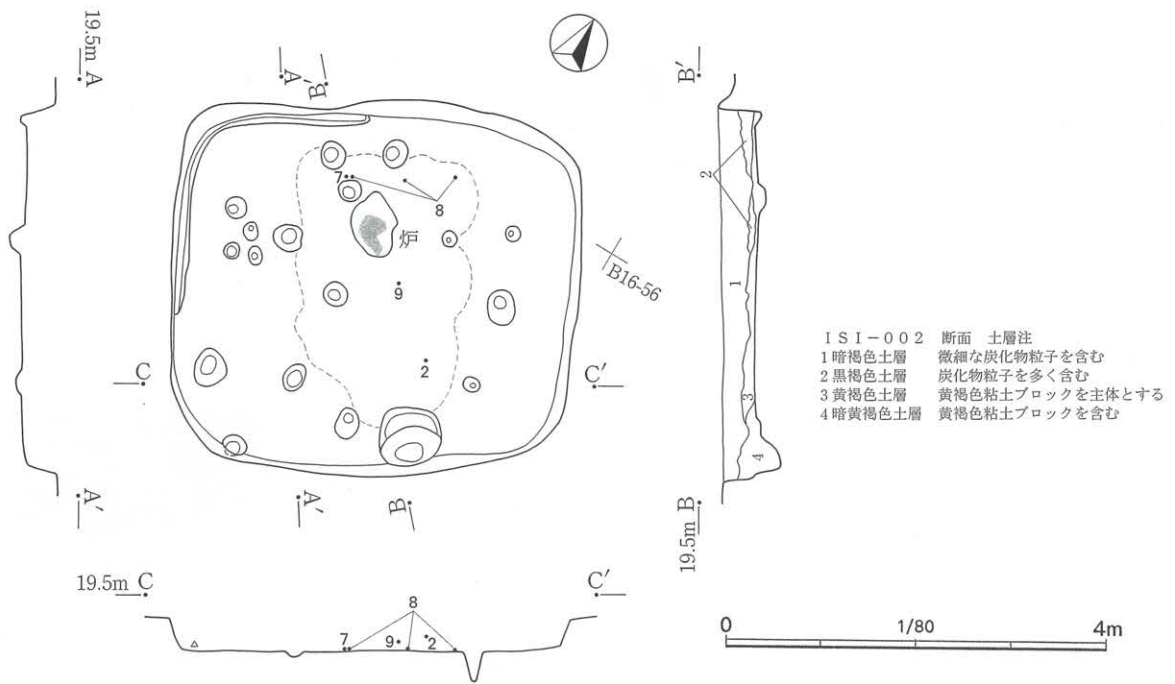
第102図 弥生時代～古墳時代遺構配置図 5 (S=1/250)



第103図 ISI-003と出土遺物



第104図 ISI-008



第105図 ISI-002と出土遺物

いが、壁溝が一部確認された。柱穴は検出できなかったが、カマドの東側に貯蔵穴が検出された。南東コーナー部の遺構検出面で焼土の散布がみられた。古墳時代中期から後期の住居跡と考えるとよいと思われる。

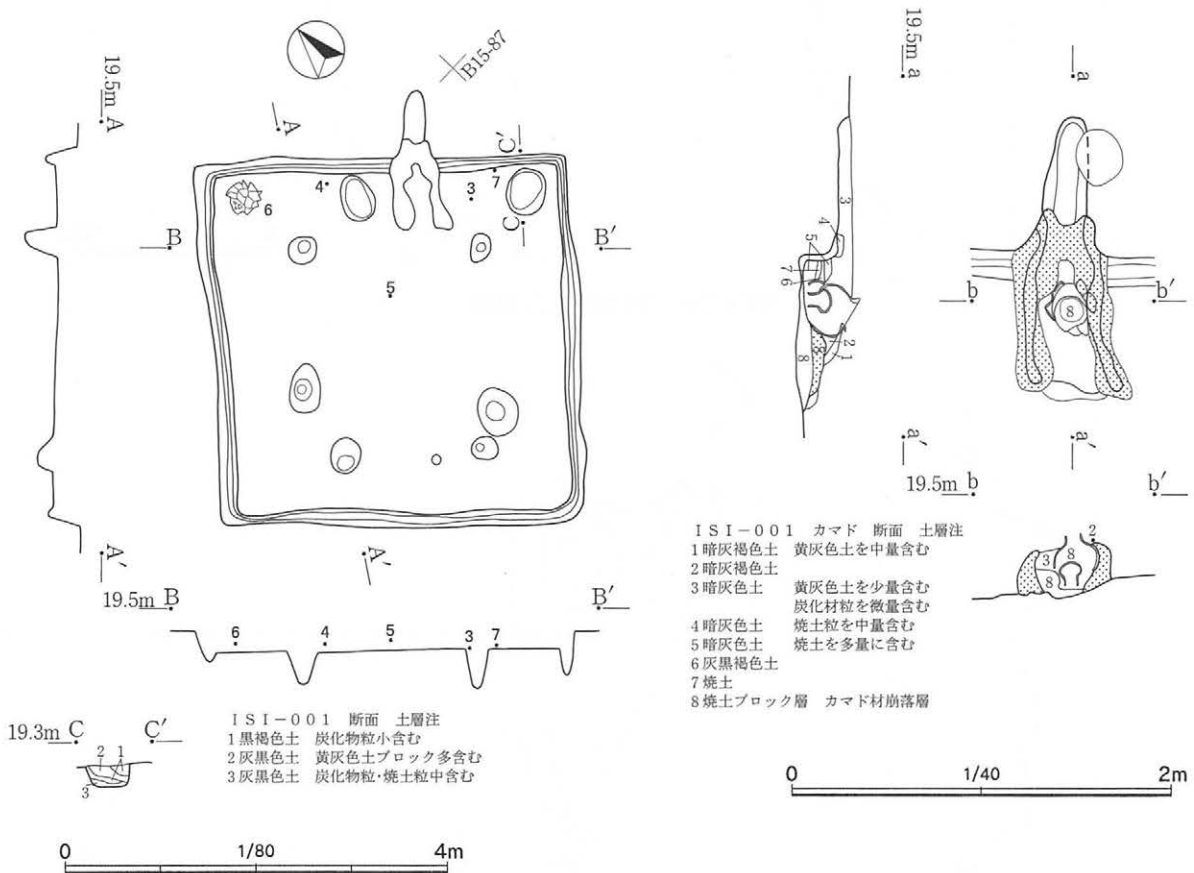
遺物は、土師器の小破片が出土したのみである。

## 2 土坑 (第109~112図・図版40)

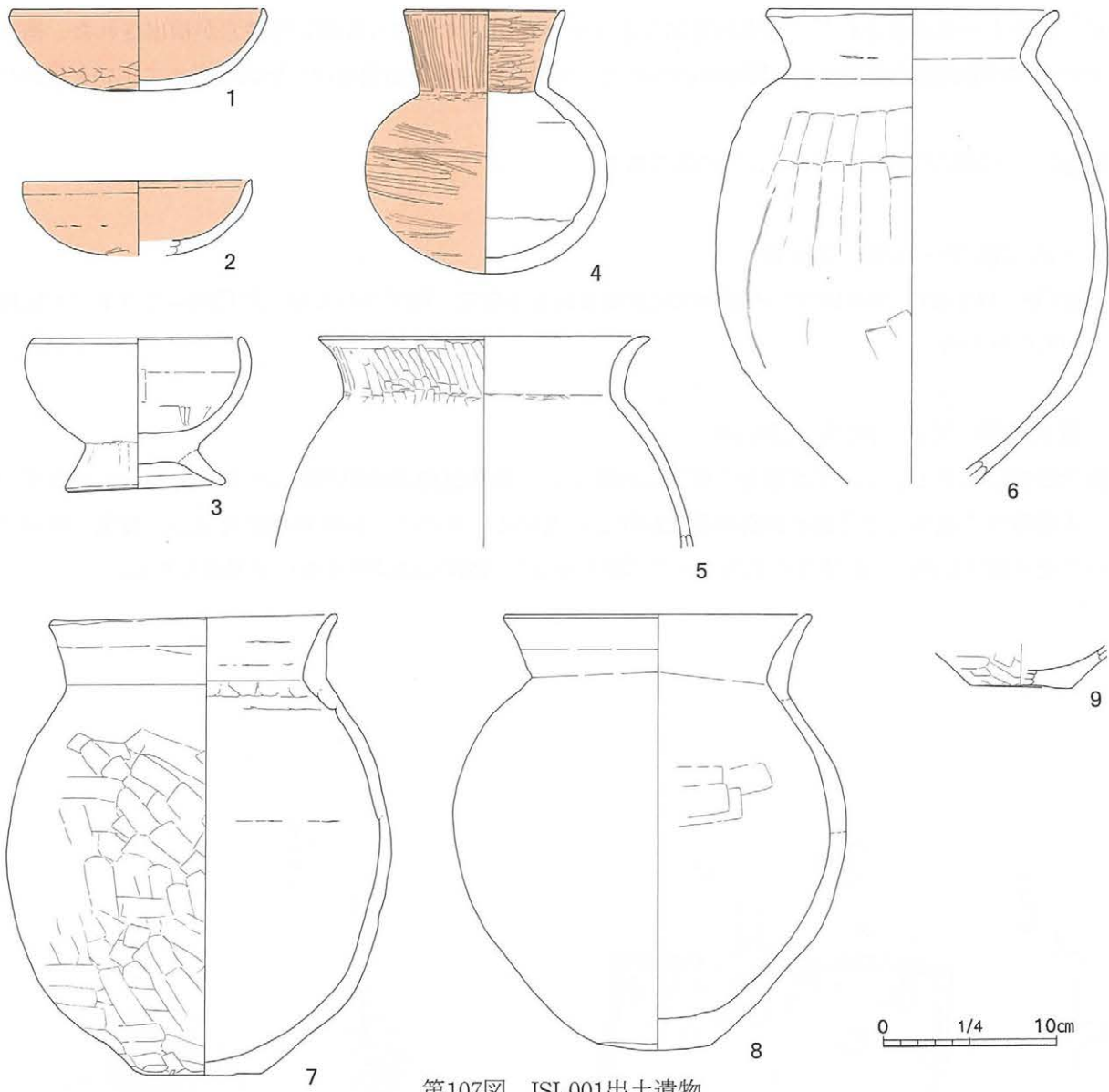
第109~112図は、弥生時代~古墳時代に比定される土坑で、削平された竪穴住居跡のピットの可能性をもつものもある。

## 3 溝状遺構 (第98~102図・図版40)

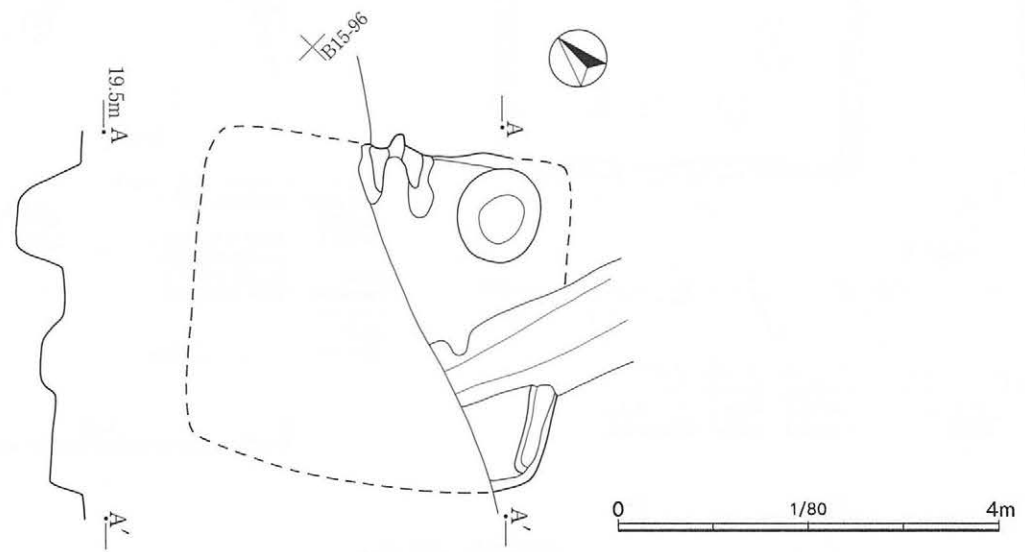
溝状遺構は原則として、平面図を全側図に掲載した。溝状遺構は時期が明らかにならないものが多いが、古墳時代に比定できる溝状遺構が数条検出されている。すべて、断面が箱形を呈し、覆土に地山ブロックを多量に含む、いわゆる小糸川タイプの溝である<sup>1)</sup>。耕作に関連するものと考えられる。



第106図 ISI-001

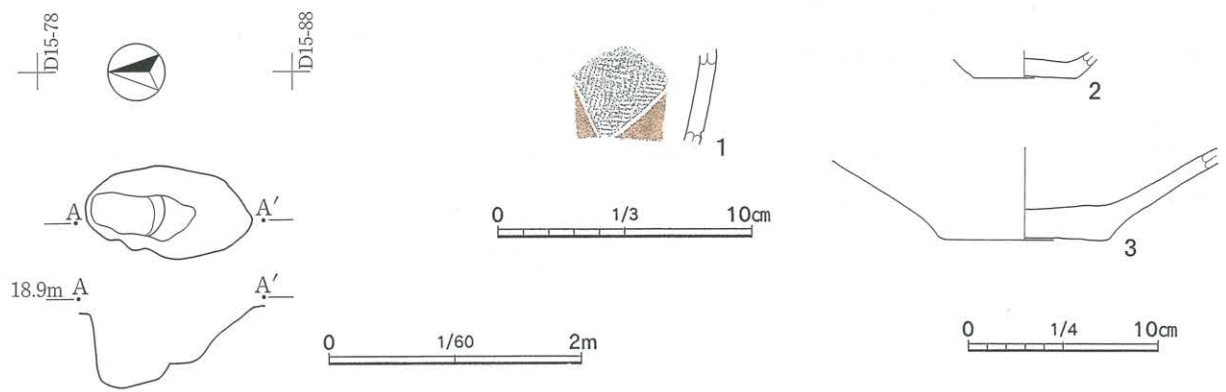


第107図 ISI-001出土遺物

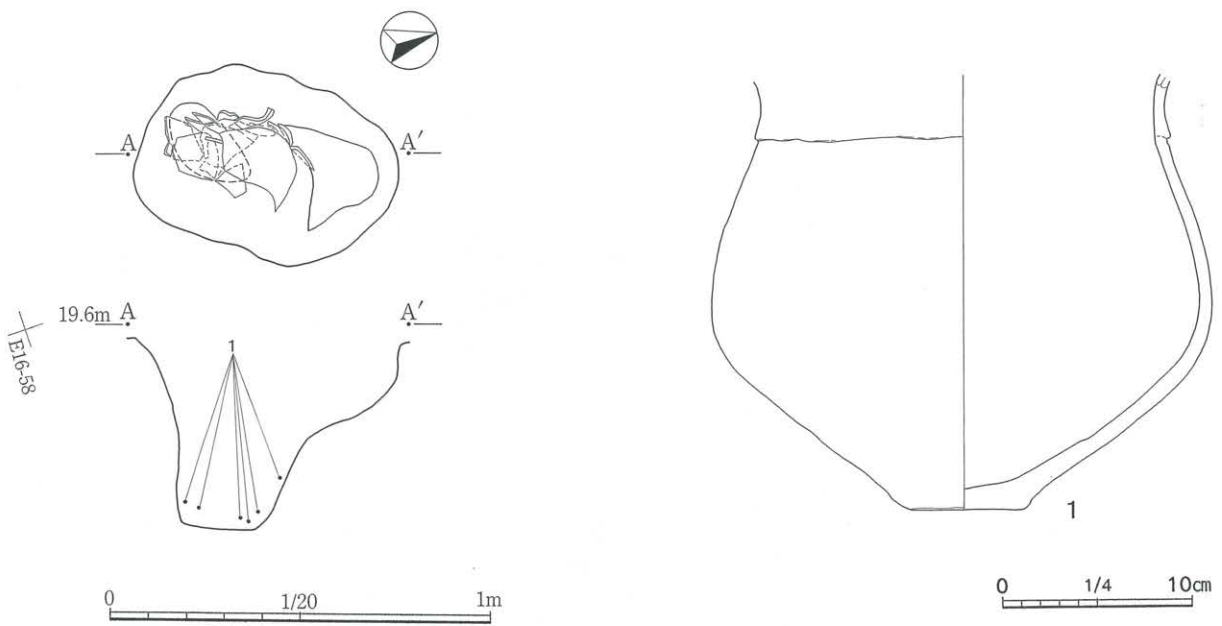


第108図 ISI-005

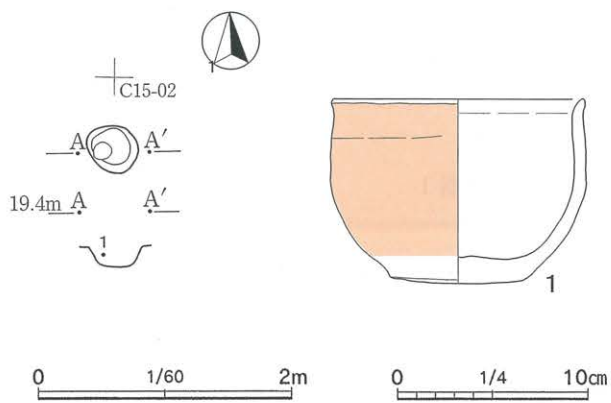




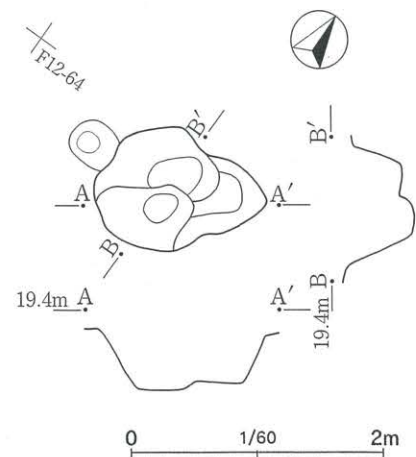
第109図 ISK-019と出土遺物



第110図 ISK-006と出土遺物



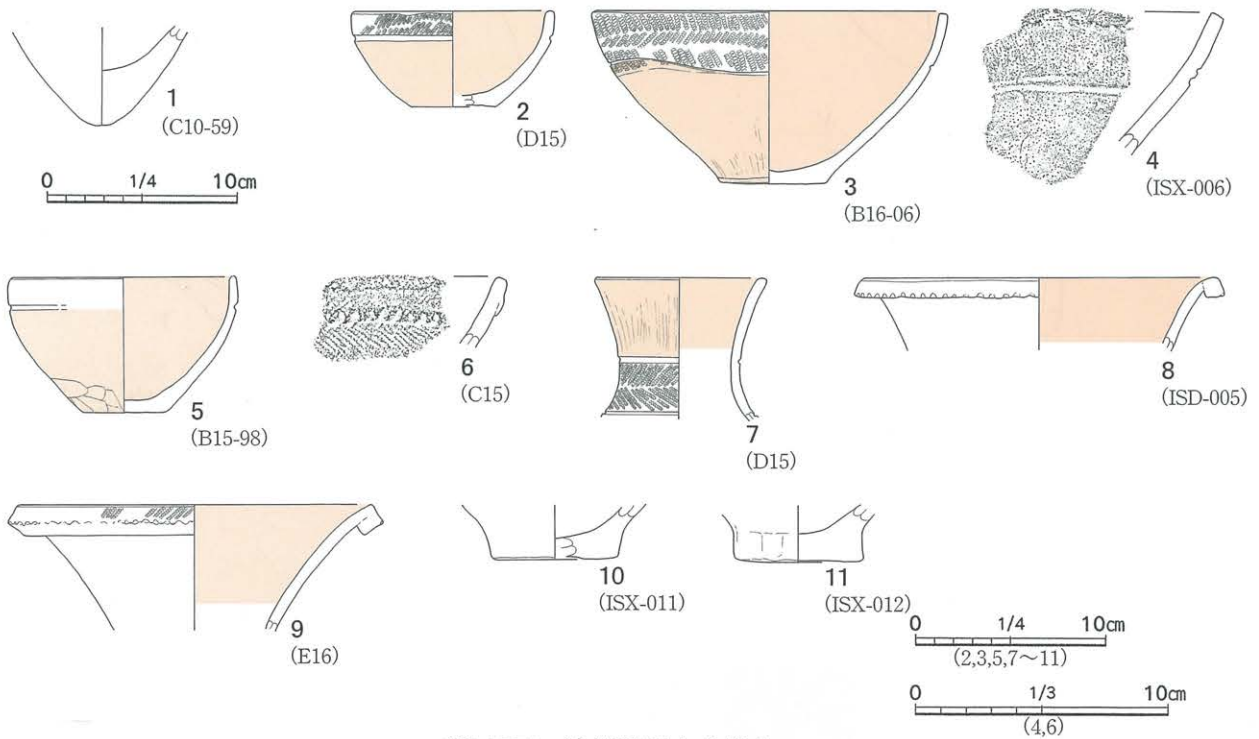
第111図 ISK-015と出土遺物



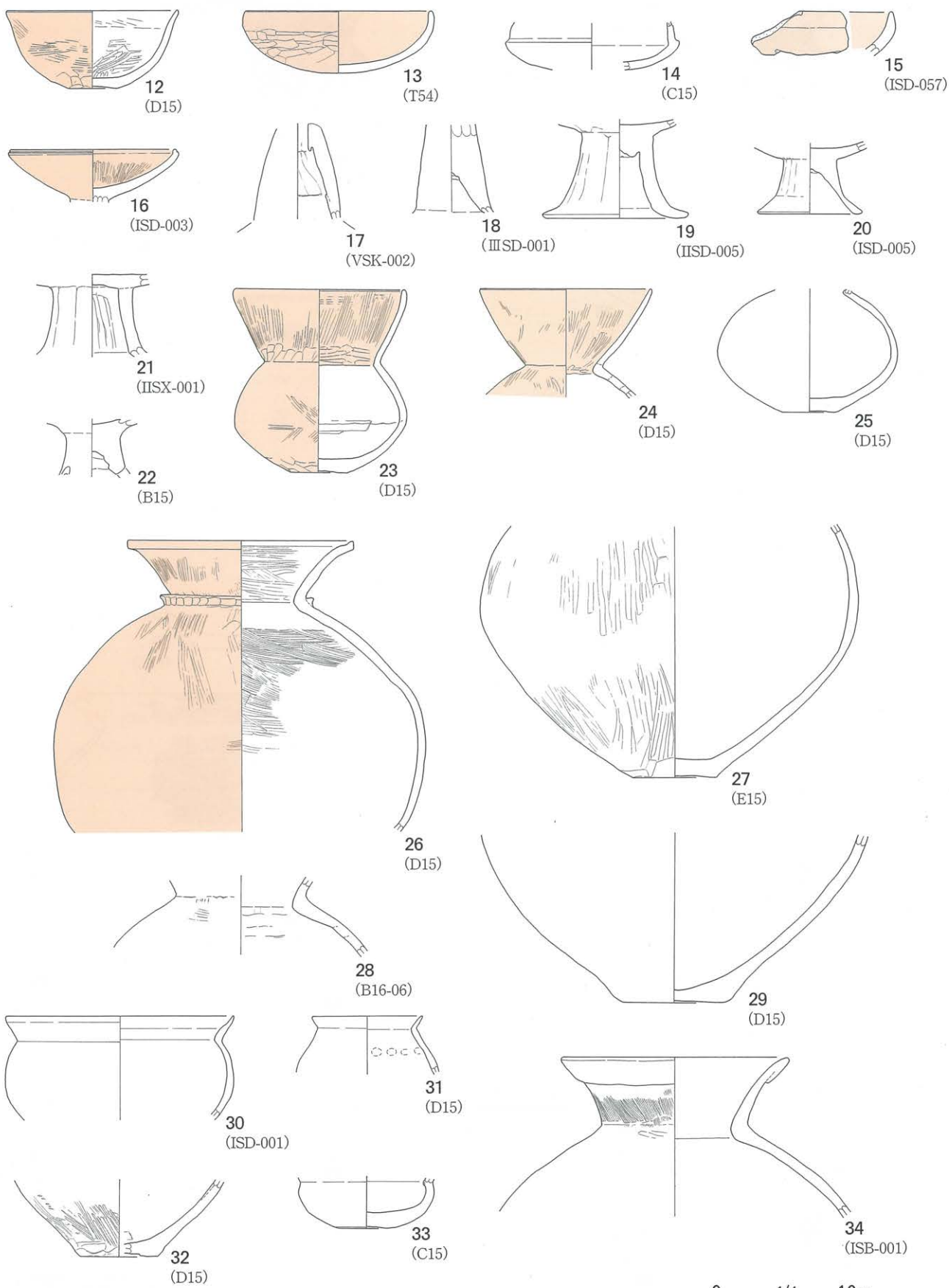
第112図 IISK-001

4 遺構外出土遺物 (第113~120図・図版52~56)

第113図1は縄文土器の尖底深鉢底部である。器面が摩滅しており、文様・調整は明らかでない。第113図2~11は弥生土器である。第114図12~第116図60は古墳時代土師器である。26は頸部に断面三角形状の隆帯が巡る。内面口縁部も赤彩の可能性があるが、器面が摩耗しており明らかでない。第116図61~第117図76は古墳時代須恵器である。第118図77・78は土製品で、77は紡錘車と考えられる。第119図1~120図23は石器・石製品である。4は石皿と思われる。12は浅い溝状の筋が数条見られ、玉砥石の可能性がある。17は有段紡錘車である。20は勾玉であるが、石材が明らかでない。乳白色を呈し、細かいひび割れが観察できる。被熱したヒスイの可能性もある。23はガラス製の小玉である。色調はスカイブルーを呈する。

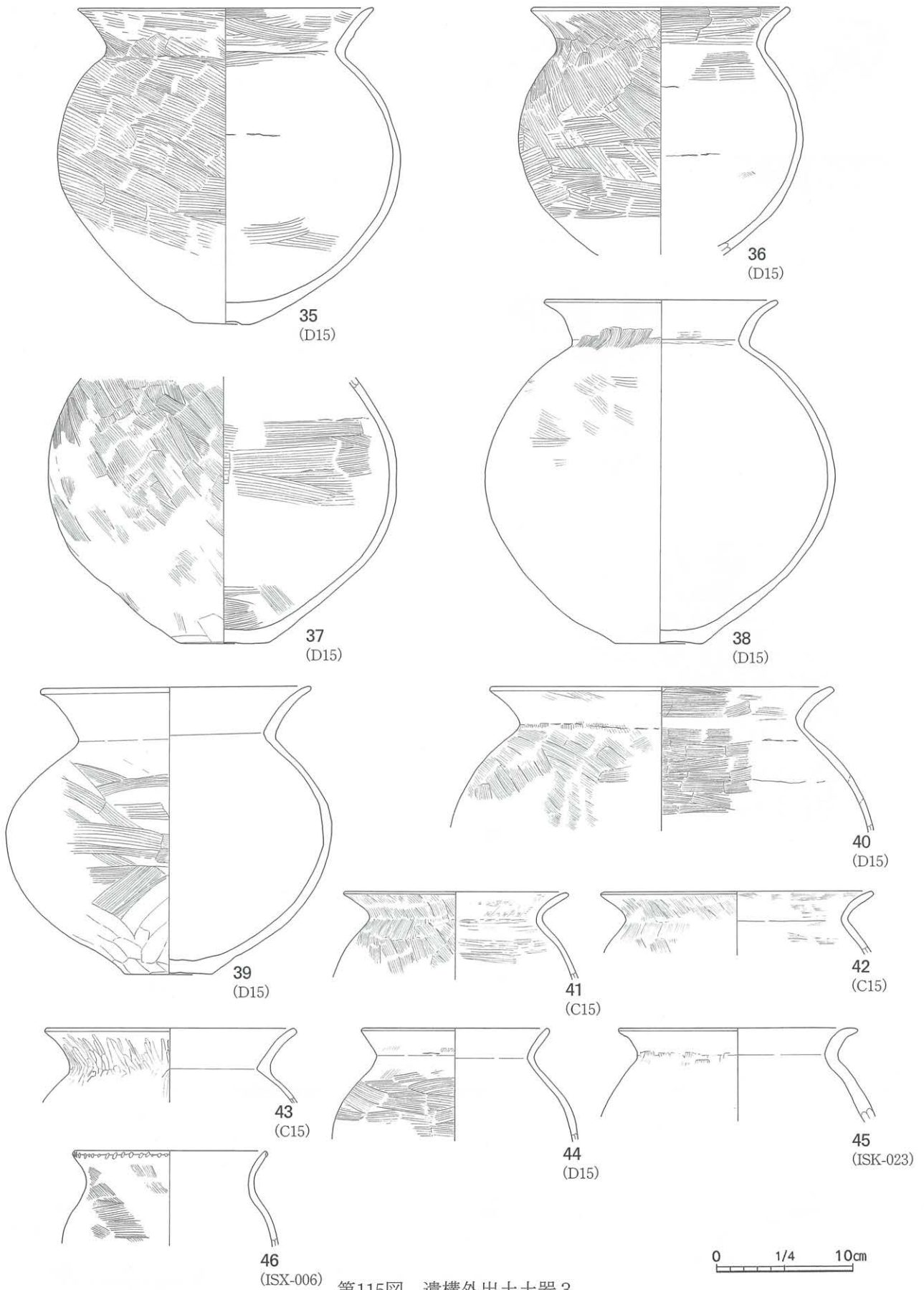


第113図 遺構外出土土器 1

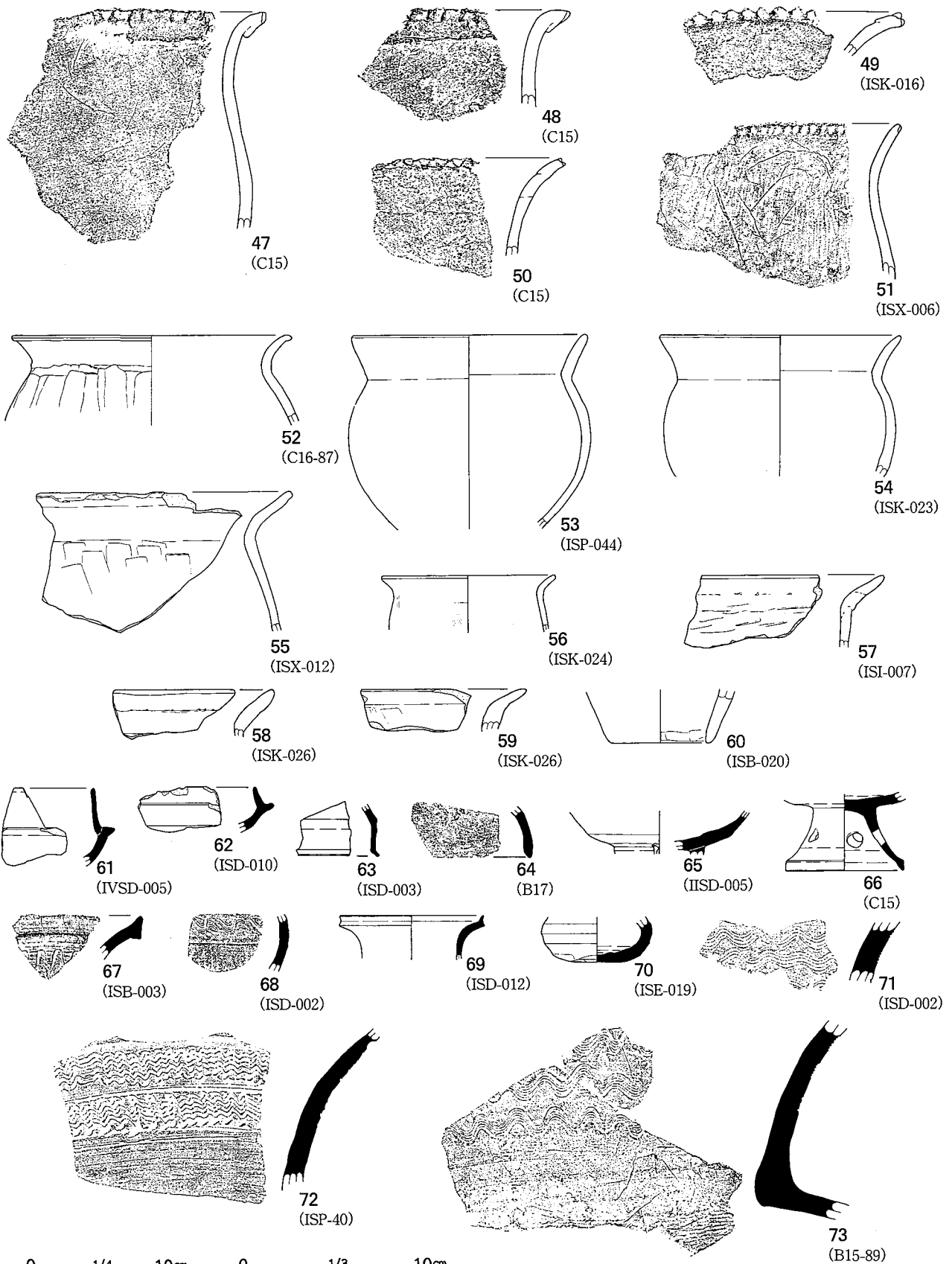


0 1/4 10cm

第114図 遺構外出土遺物 2

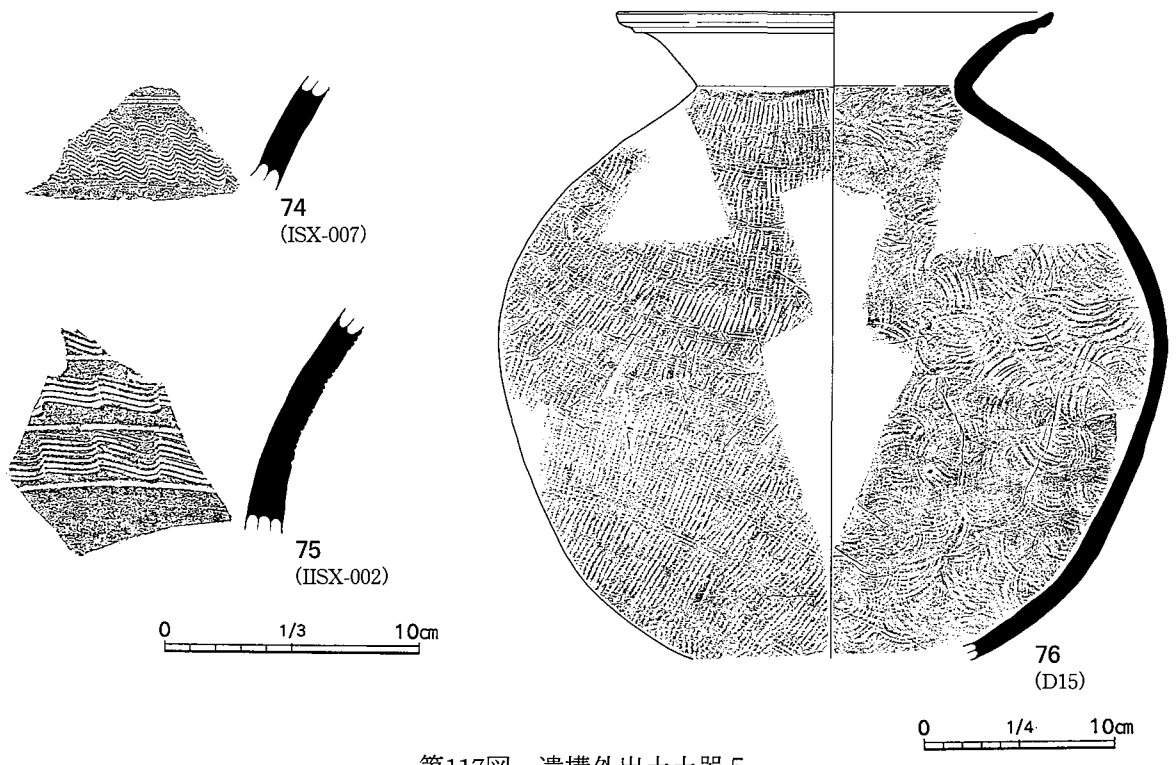


第115図 遺構外出土土器 3

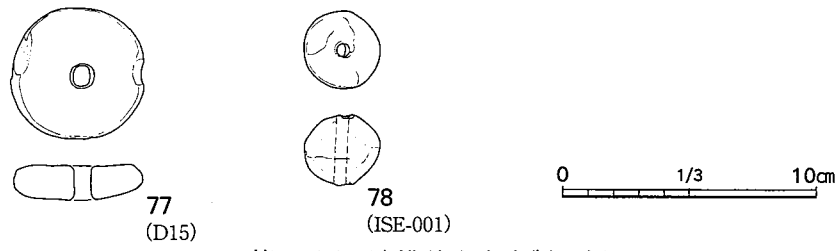


(52~54,56,60,65,66,69,70) (47~51,55,57~59,61~64,67,68,71~73)

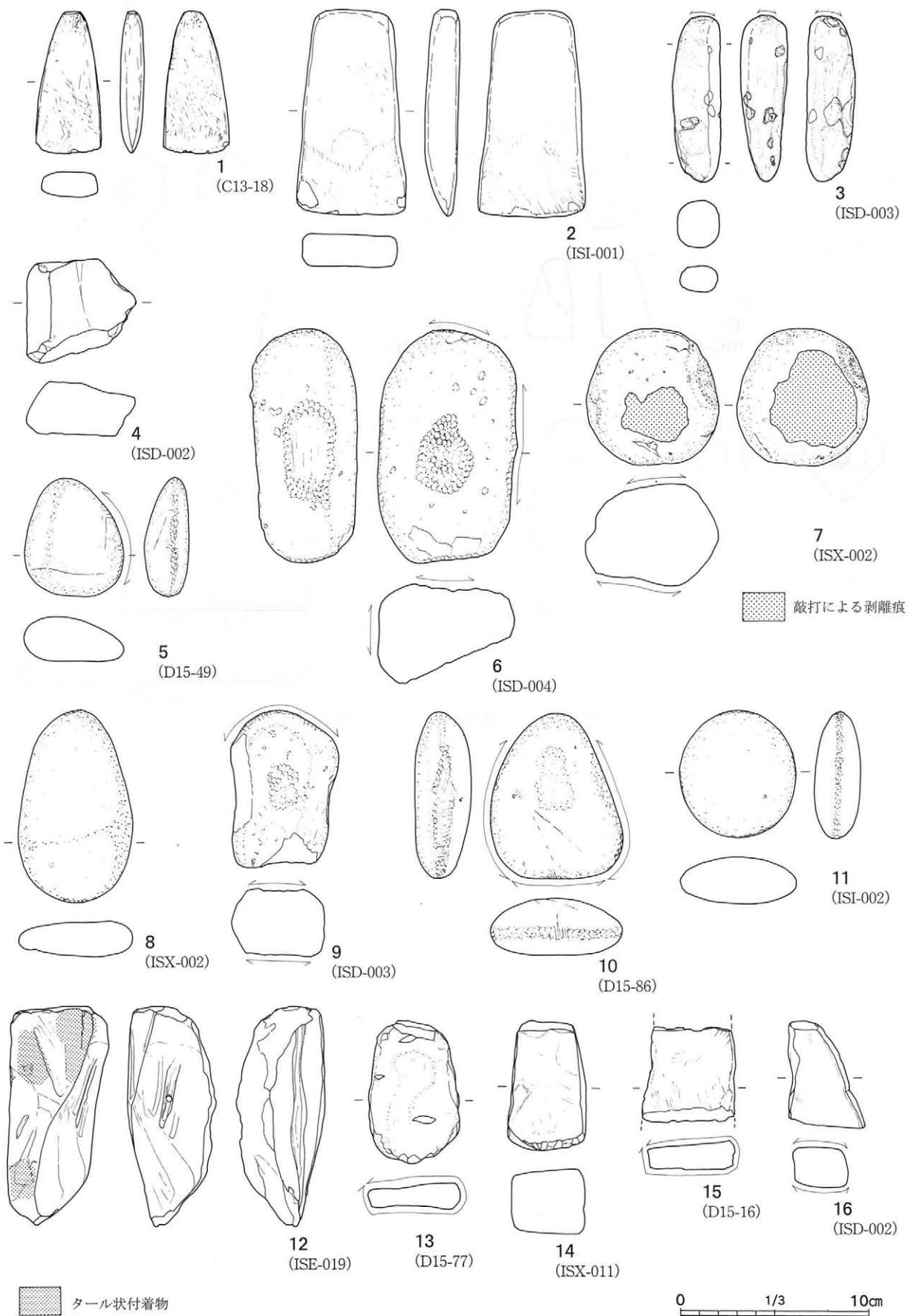
第116図 遺構外出土土器4



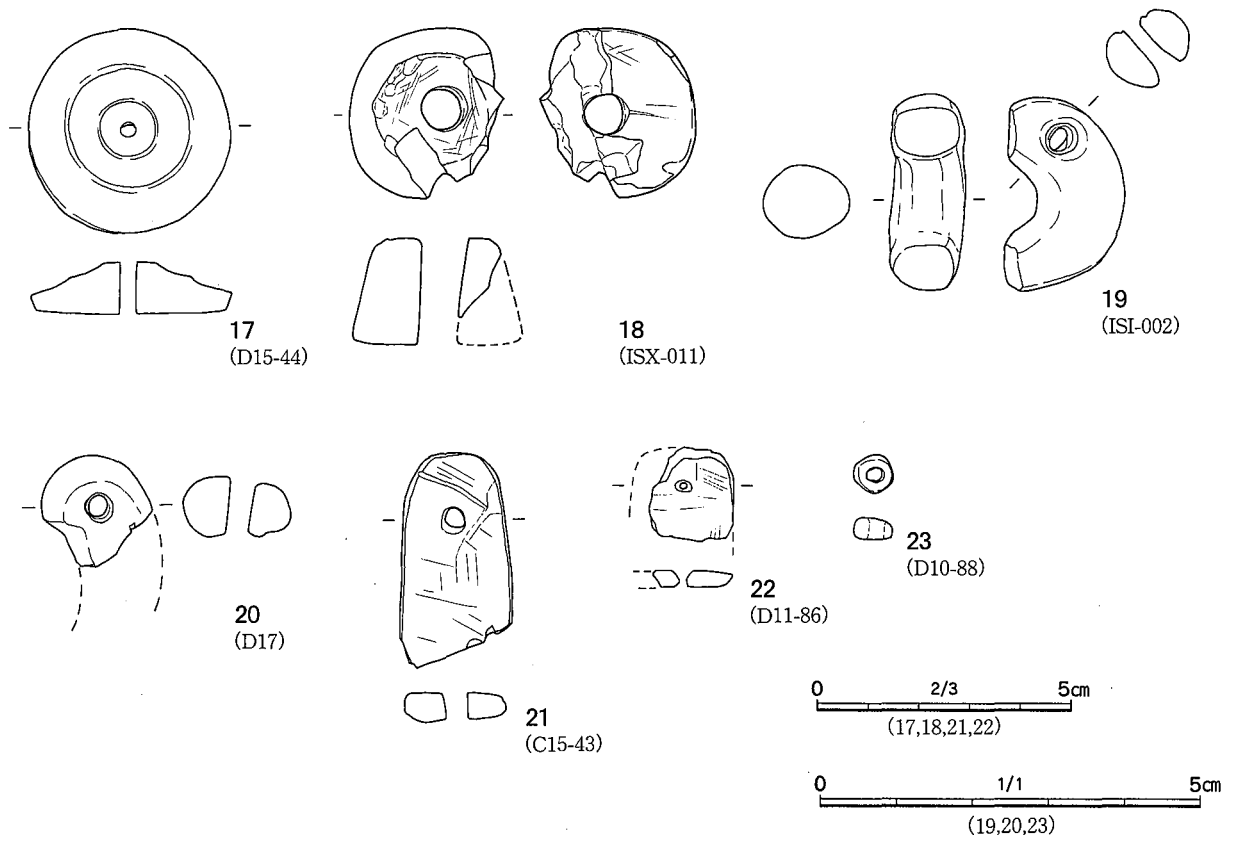
第117図 遺構外出土土器 5



第118図 遺構外出土土製品類



第119図 遺構外出土石器・石製品 1



第120図 遺構外出土石器・石製品 2



### 第3節 奈良・平安時代の遺構と遺物

奈良・平安時代に比定される遺構は、竪穴住居跡1軒、掘立柱建物跡16棟、井戸・土坑18基、溝状遺構などである。

#### 1 竪穴住居跡

##### I SI-007 (第127・162図, 図版41)

I SI-007は調査区中央に位置し、II SB-001掘立柱建物跡の西方15mに所在する竪穴住居跡であり、当該期の竪穴住居跡はほかに検出されていない。一辺3.2m、深さ0.1mを測り、壁溝が全周する。北東壁側は検出できず、失われたものと考えられる。床面はほぼ平坦であるが、硬化面ははっきりせず、ピットは床面や壁際に不揃いに検出されたが、柱穴として確定できなかった。出土遺物から奈良時代の8世紀中葉の住居跡と考えられる。

遺物は、土師器の小形の杯3点と甕口縁が出土している。

#### 2 掘立柱建物跡

##### I SB-014 (第128図, 図版41)

I SB-014は調査区南端、C17-14グリッドに位置する掘立柱建物跡である。建物規模は、桁行3間(推定)、梁行2間(3.1m)、桁行方位はN-9°-Eとなる南北棟の建物である。柱間は、桁行2m前後、梁行1.6mとなっている。柱穴の検出は、北側を確認することができなかった。柱穴掘形は、0.8m～0.9mの円形を呈する。

図示可能な遺物は、土師器杯が出土した。

##### I SB-020 (第129図)

I SB-020は調査区南西側、C10-64グリッドに位置する掘立柱建物跡である。建物規模は、桁行3間(7.6m)、梁行2間(4.4m)、桁行方位はN-Eとなる南北棟の建物である。柱間は、桁行2.5m前後、梁行2.0m～2.5mとなっている。柱穴の検出は、桁行方向に2か所の柱穴を確認することができなかった。

柱穴掘形は、0.8m×0.9mの不整形のもの、径0.6m～0.7mの円形のものが存在する。柱痕跡は、径0.2m～0.25mのもので、ほとんどの柱穴でみられた。

図示可能な遺物は、土師器体部下半、平安時代の須恵器甕口縁がある。

##### II SB-003 (第130図, 図版41)

II SB-003は調査区中央東側、F12-00グリッドに位置する掘立柱建物跡である。II SB-004、II SB-006とそれぞれ重複している。建物規模は、桁行4間(8.4m)、梁行2間(3.3m)、桁行方位はN-75°-Wとなる東西棟の建物である。柱間は、桁行2.0m前後、梁行1.6mとなっている。柱穴の検出は、全てを確認することができた。

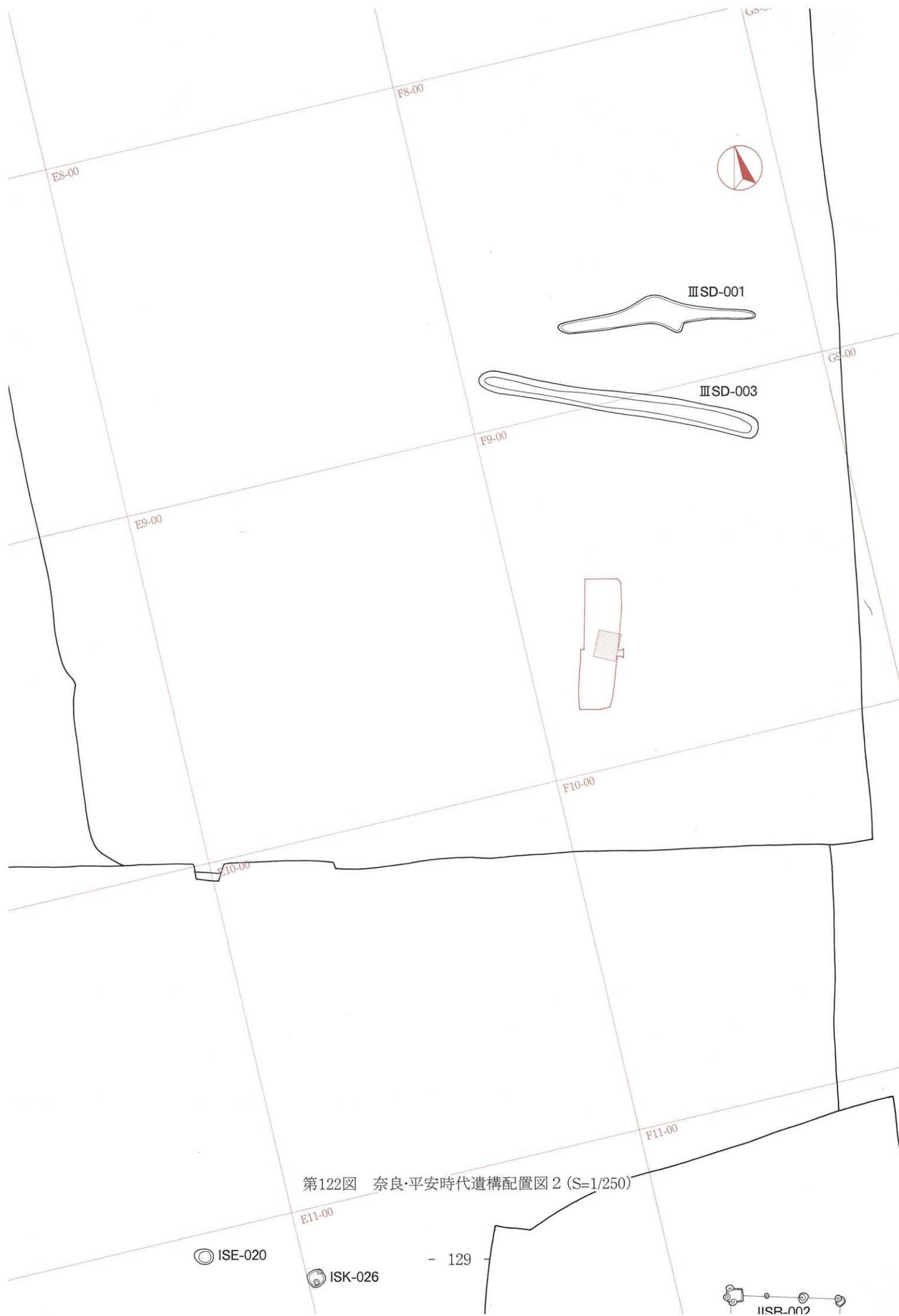
柱穴掘形は、0.8m×1.1mの方形のもの、径0.2m～0.5mの小形円形のものが存在する。柱穴掘形の覆土は、黄色砂質ブロック層と暗褐色粘質土層が交互に堆積している。柱痕跡は、径0.2m～0.3mのものが2か所の柱穴でみられた。



IVSE-006

ISB-020

第121図 奈良・平安時代遺構配置図1 (S=1/250)

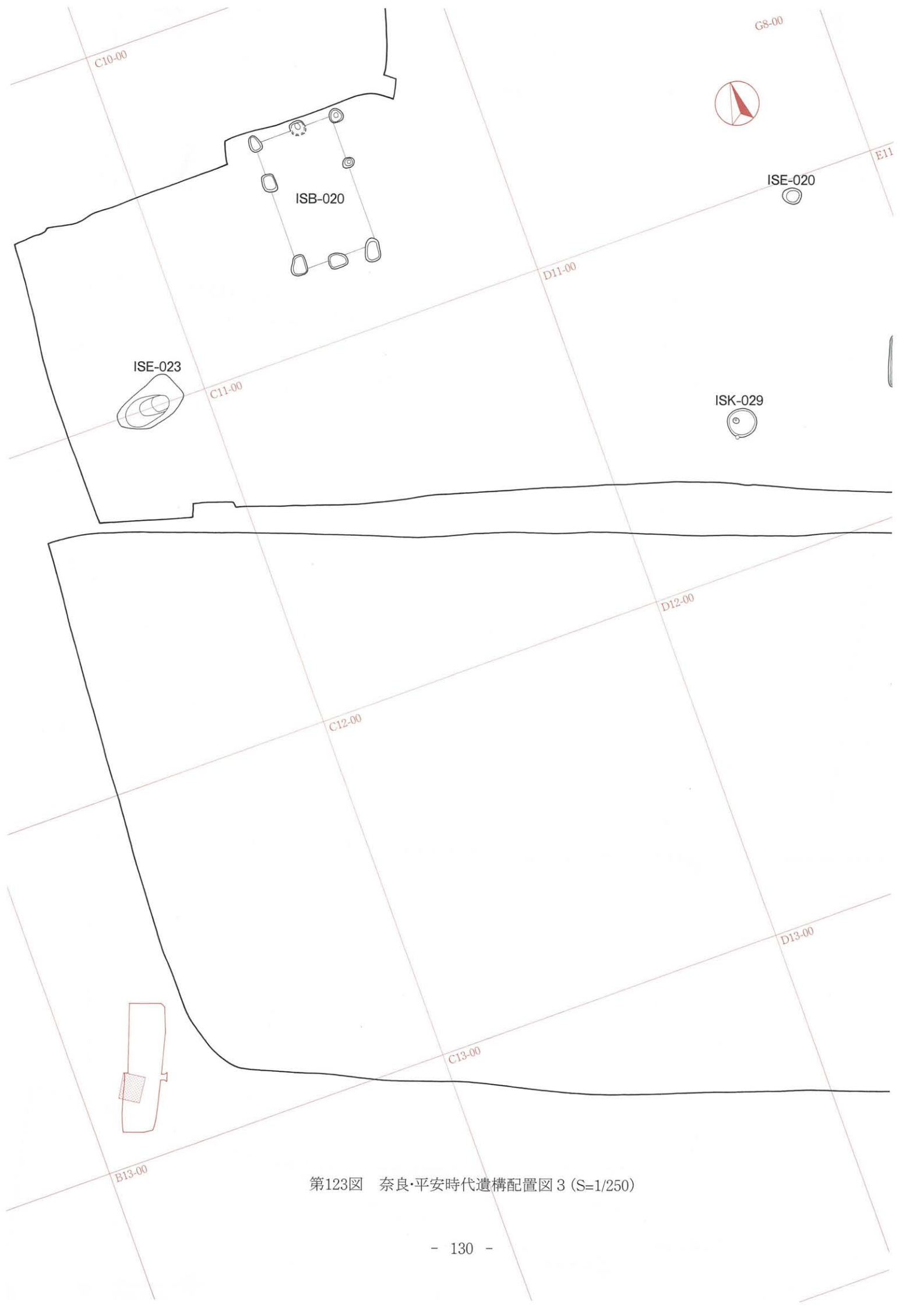


第122図 奈良・平安時代遺構配置図 2 (S=1/250)

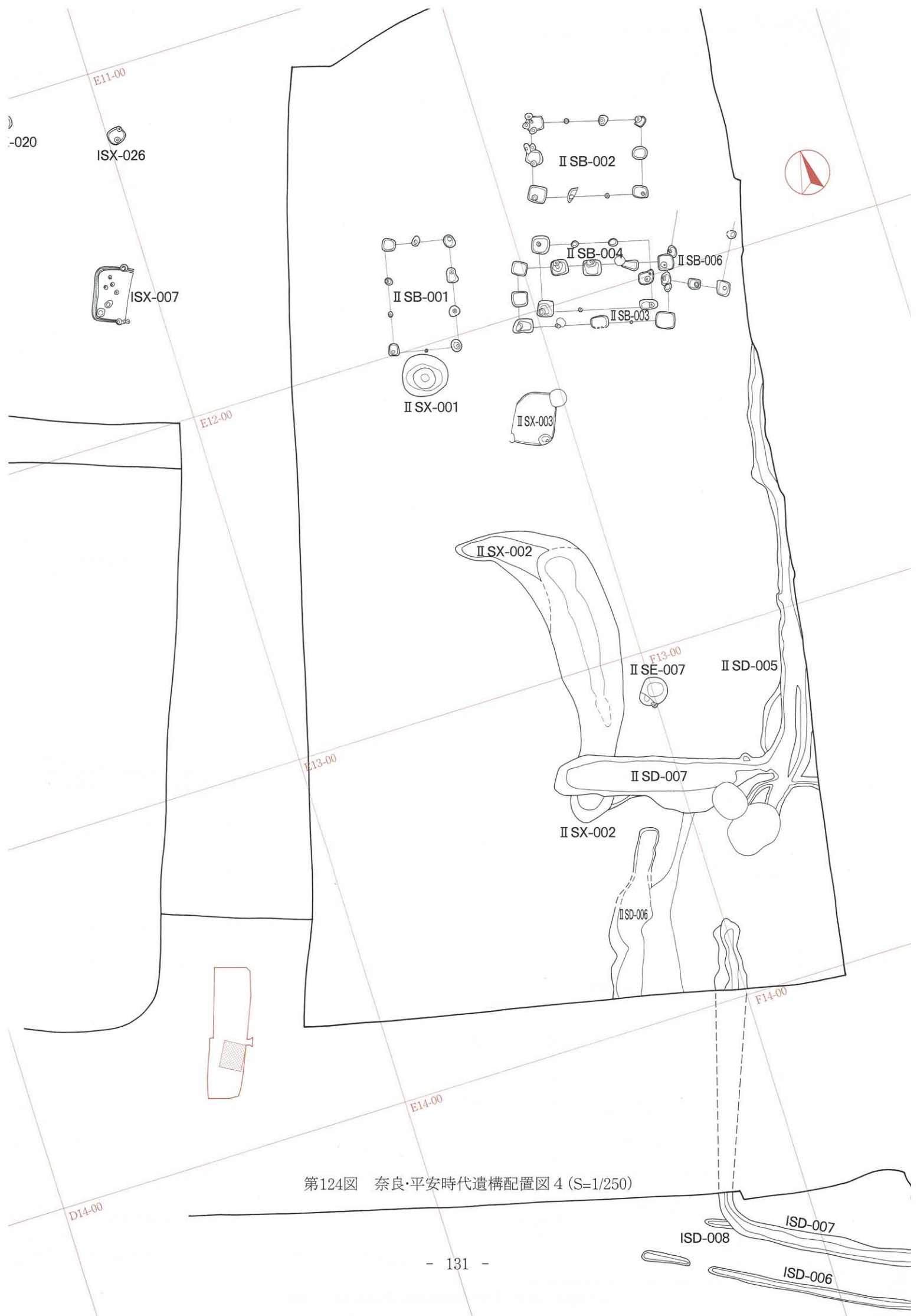
○ ISE-020

⊙ ISK-026

⊙ IISR-002



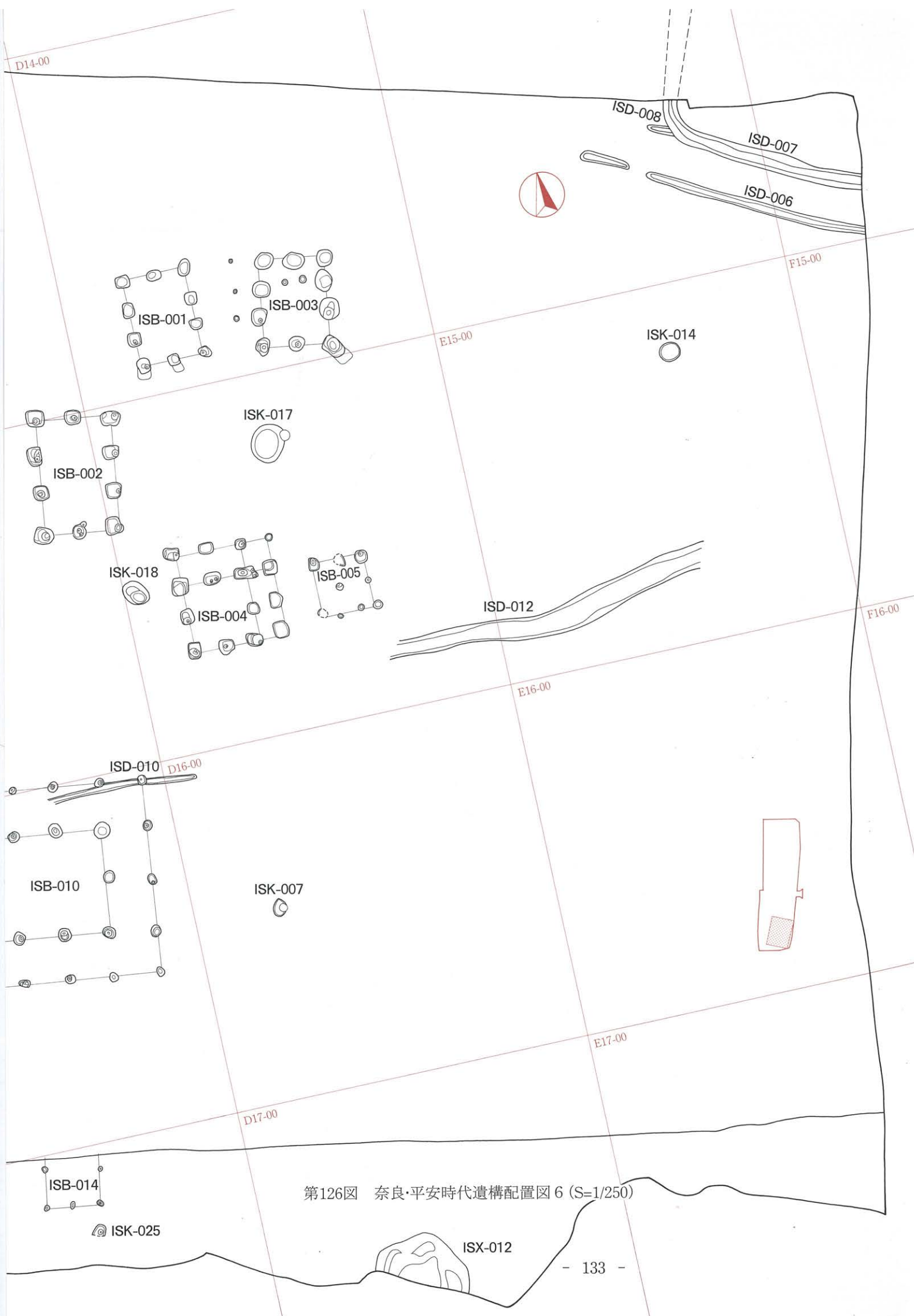
第123図 奈良・平安時代遺構配置図3 (S=1/250)



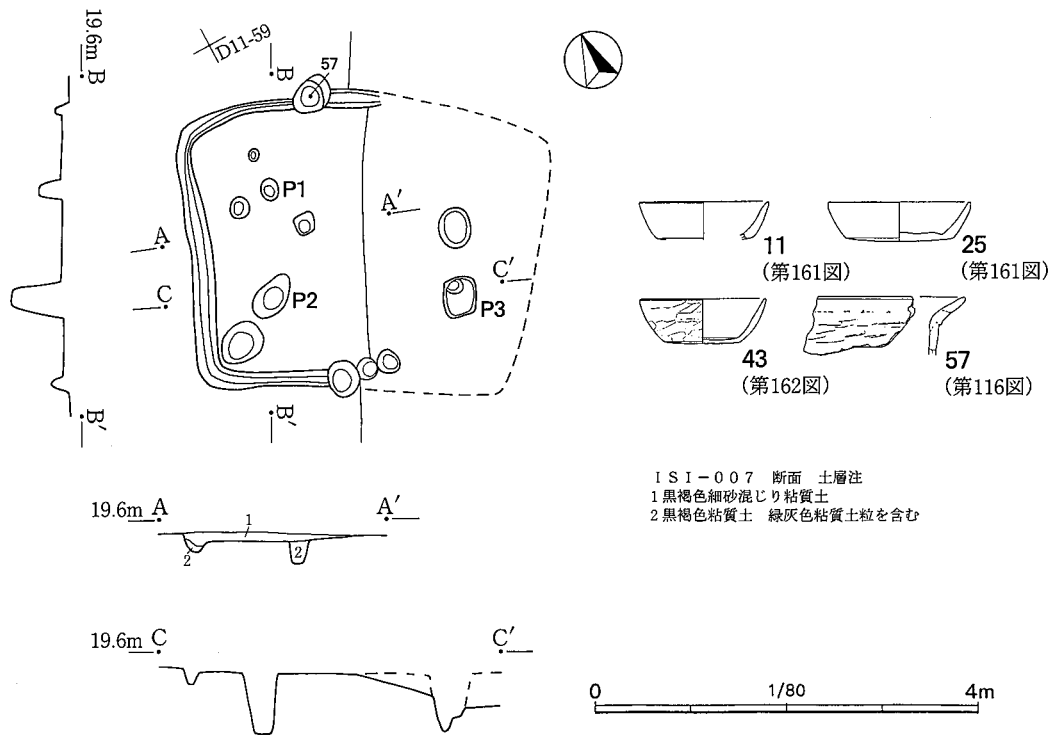
第124図 奈良・平安時代遺構配置図4 (S=1/250)



第125図 奈良・平安時代遺構配置図5 (S=1/250)



第126図 奈良・平安時代遺構配置図6 (S=1/250)



第127図 ISI-007と出土遺物

図示可能な遺物は出土しなかった。

II SB-001 (第131図, 図版42)

II SB-001は調査区中央東, E11-87グリッドに位置する掘立柱建物跡である。東方4mにII SB-003が隣接している。建物規模は、桁行3間(6.0m)、梁行2間(3.6m)、桁行方位はN-10° -Wとなる南北棟の建物である。柱間は、桁行2.0m前後、梁行1.6m前後となっている。柱穴の検出は、全ての柱穴を確認することができた。柱穴掘形は、径0.2m~0.7mの円形を呈し、四隅のものが大きい。柱穴掘形の覆土は、黄色砂質ブロック層と白色粘質土層が堆積している。柱痕跡は、径0.2m~0.3mのものがそれぞれの柱穴でみられた。

図示可能な遺物は出土しなかった。

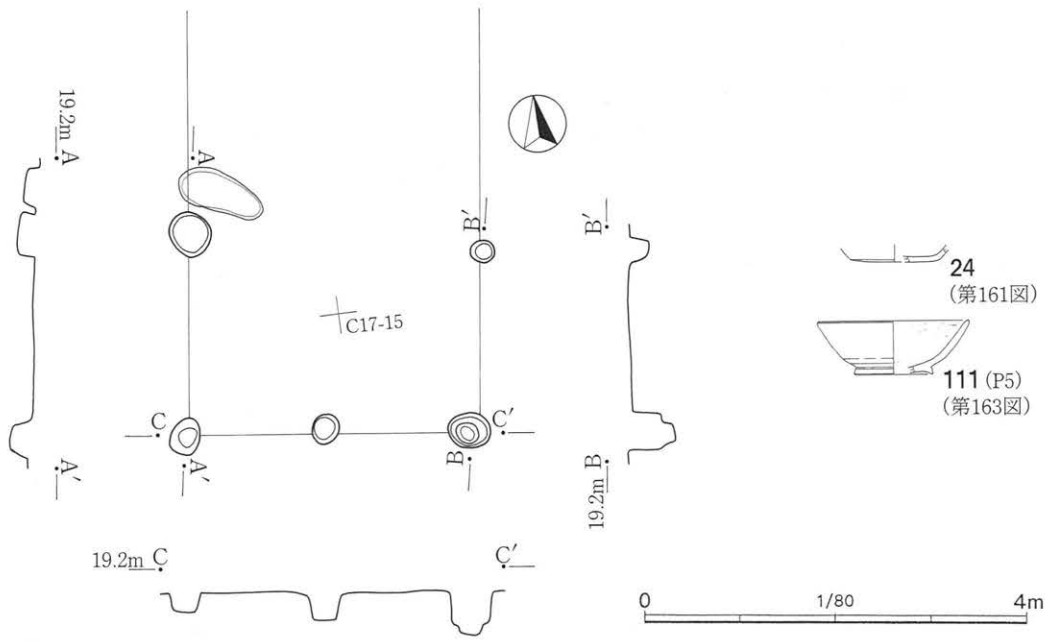
II SB-004 (第132図, 図版41)

II SB-004は調査区中央東, F11-91グリッドに位置する掘立柱建物跡である。II SB-002が北方2mに隣接する。建物規模は、桁行3間(6.1m)、梁行2間(3.8m)、桁行方位はN-77° -Wとなる東西棟の建物である。柱間は、桁行2.0m前後、梁行1.6mとなっている。柱穴の検出は、北東隅と南側桁行の柱穴1か所を確認することができなかった。

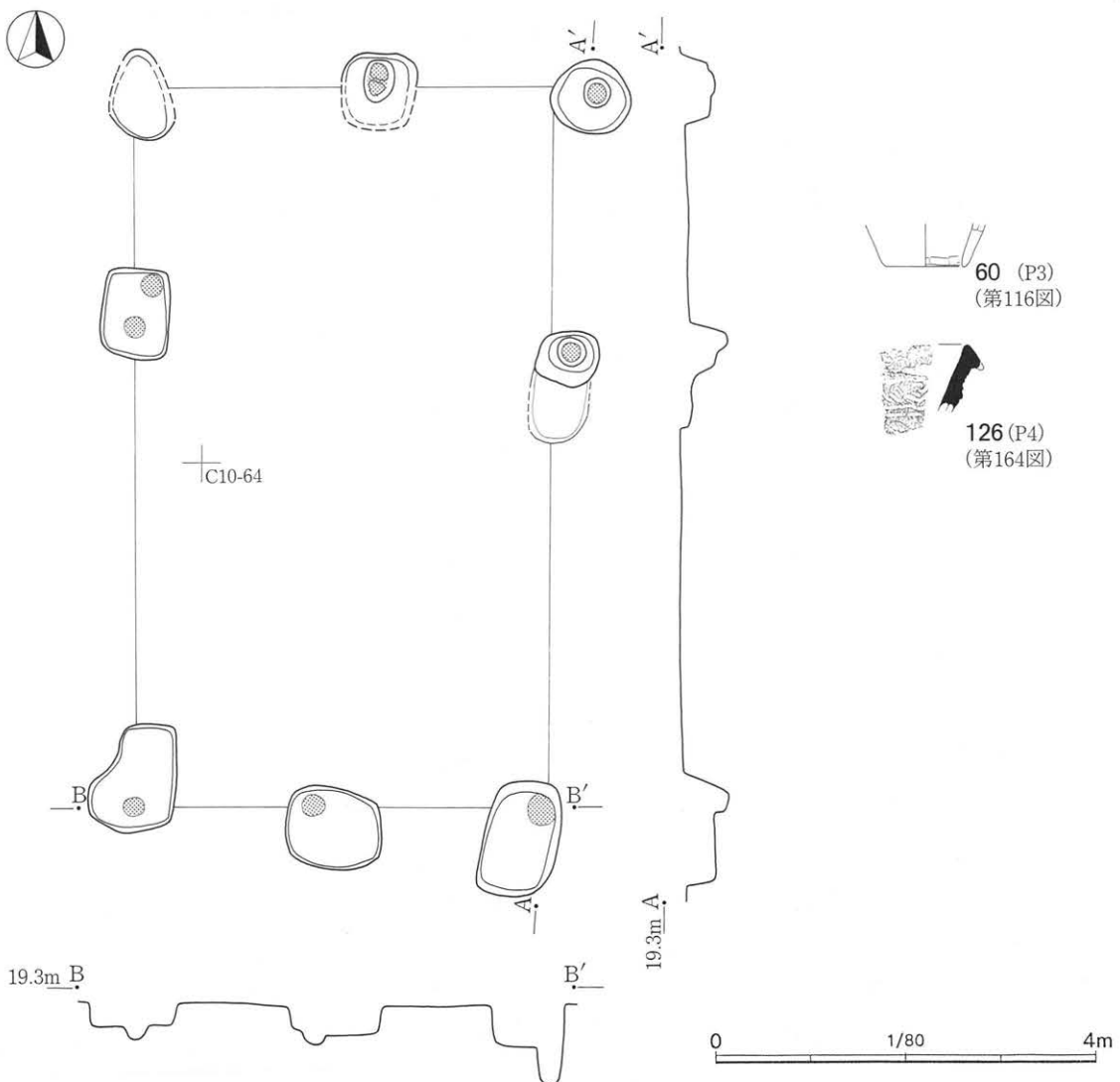
柱穴掘形は、0.8m×0.9mの方形のものと、径0.2m~0.5mの小形の円形のものが存在する。柱穴掘形の覆土は、黄色砂質ブロック層と白色粘質土層が交互に堆積している。柱痕跡は、径0.2m~0.3mのものがそれぞれの柱穴でみられた。

図示可能な遺物は出土しなかった。

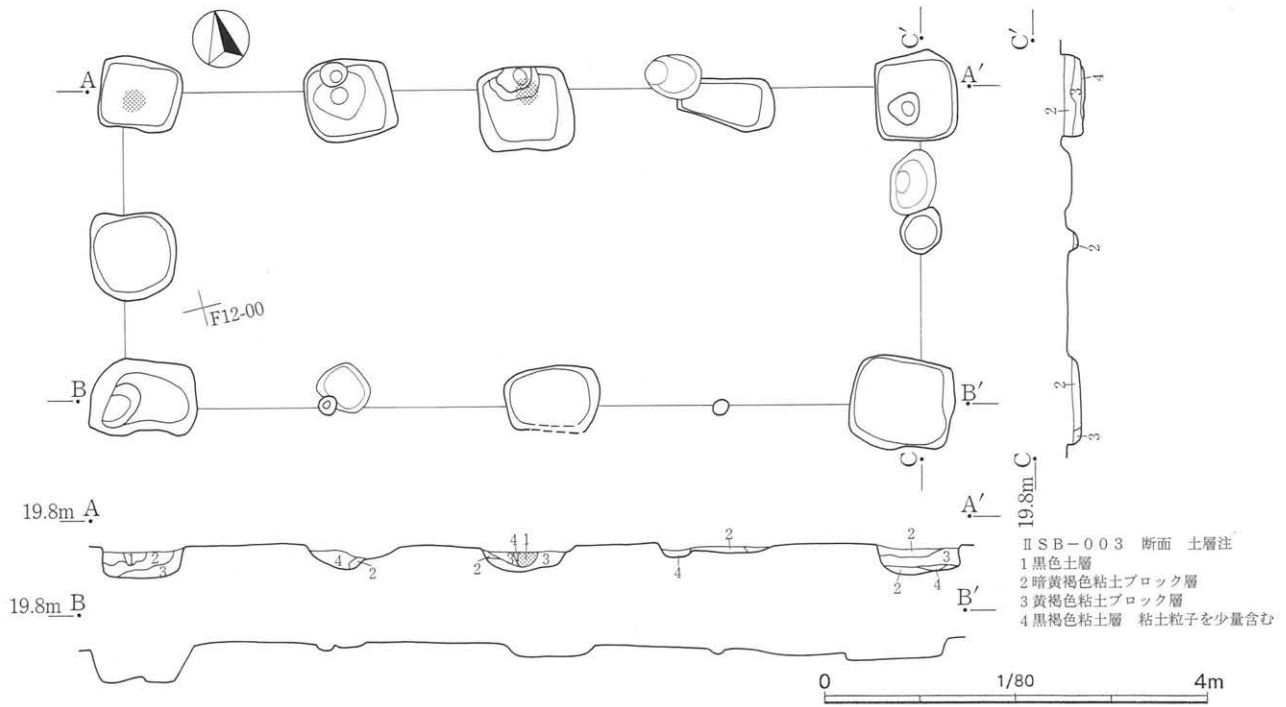




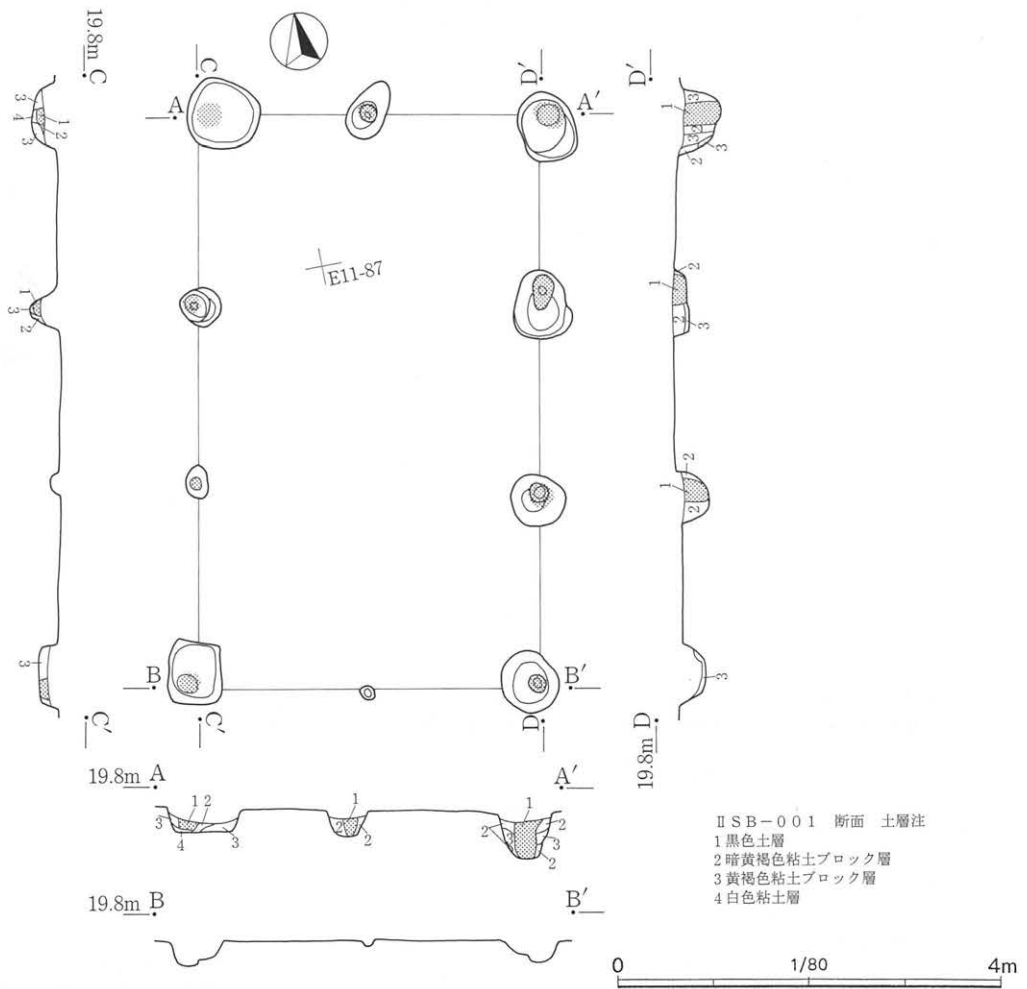
第128図 ISB-014と出土遺物



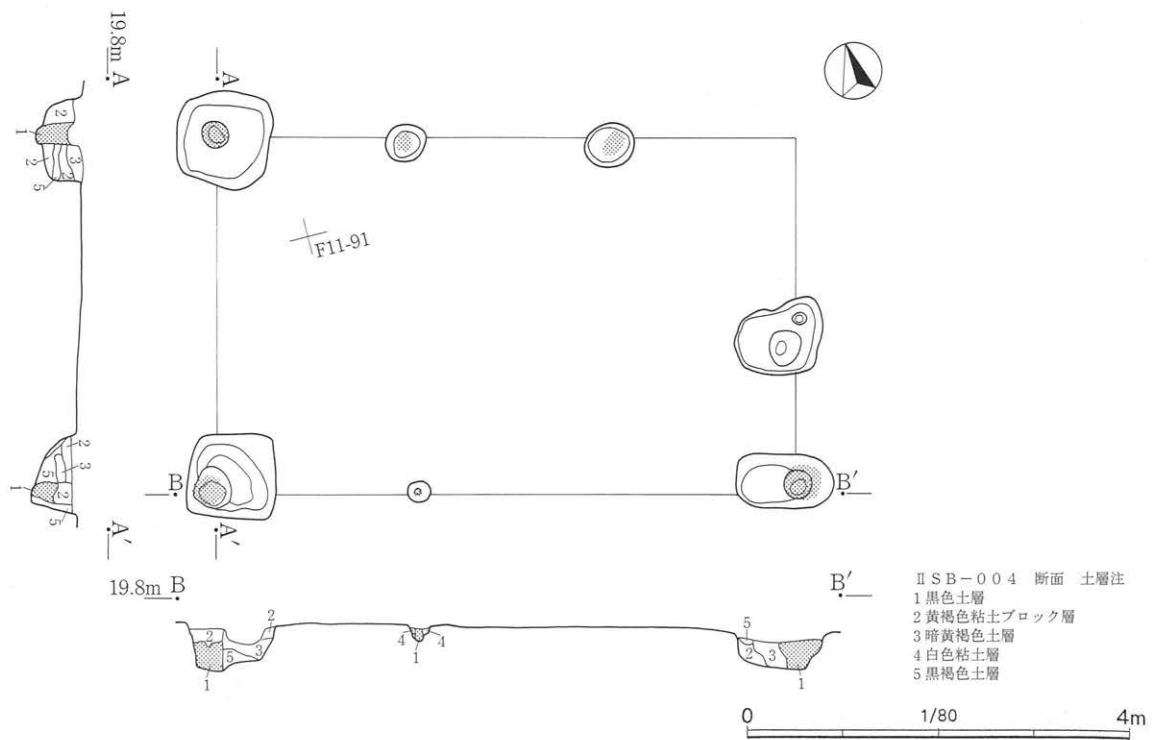
第129図 ISB-020と出土遺物



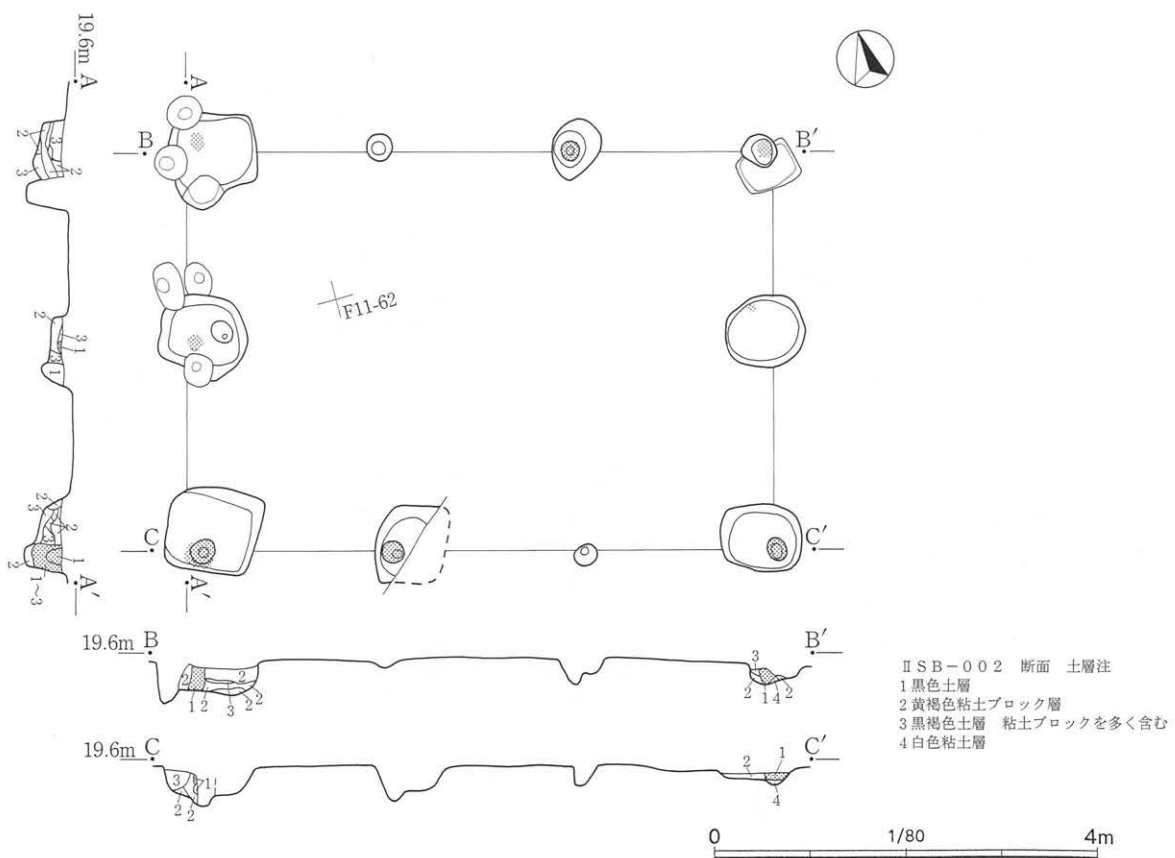
第130図 IISB-003



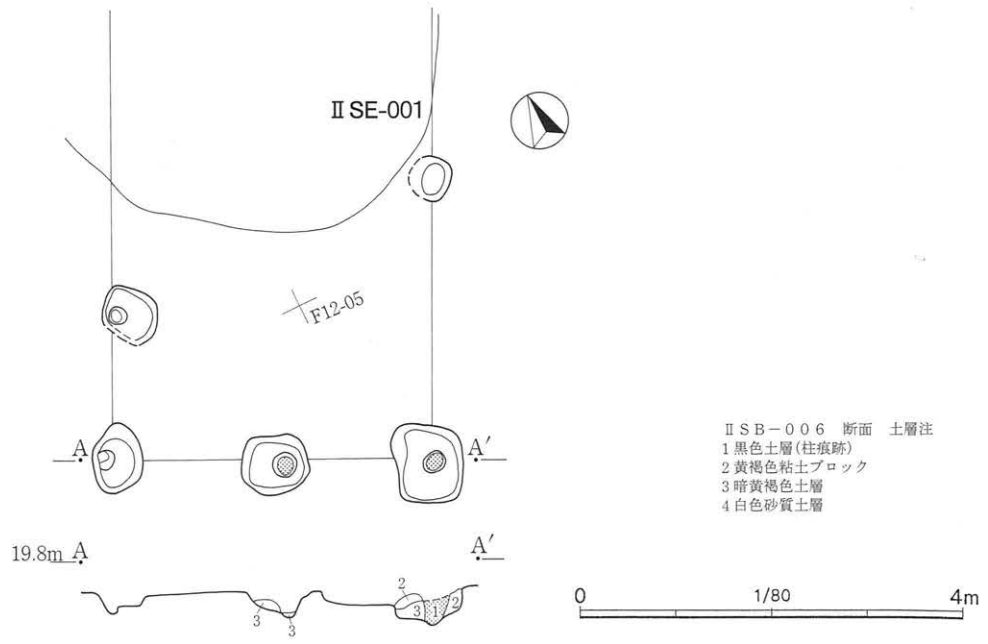
第131図 IISB-001



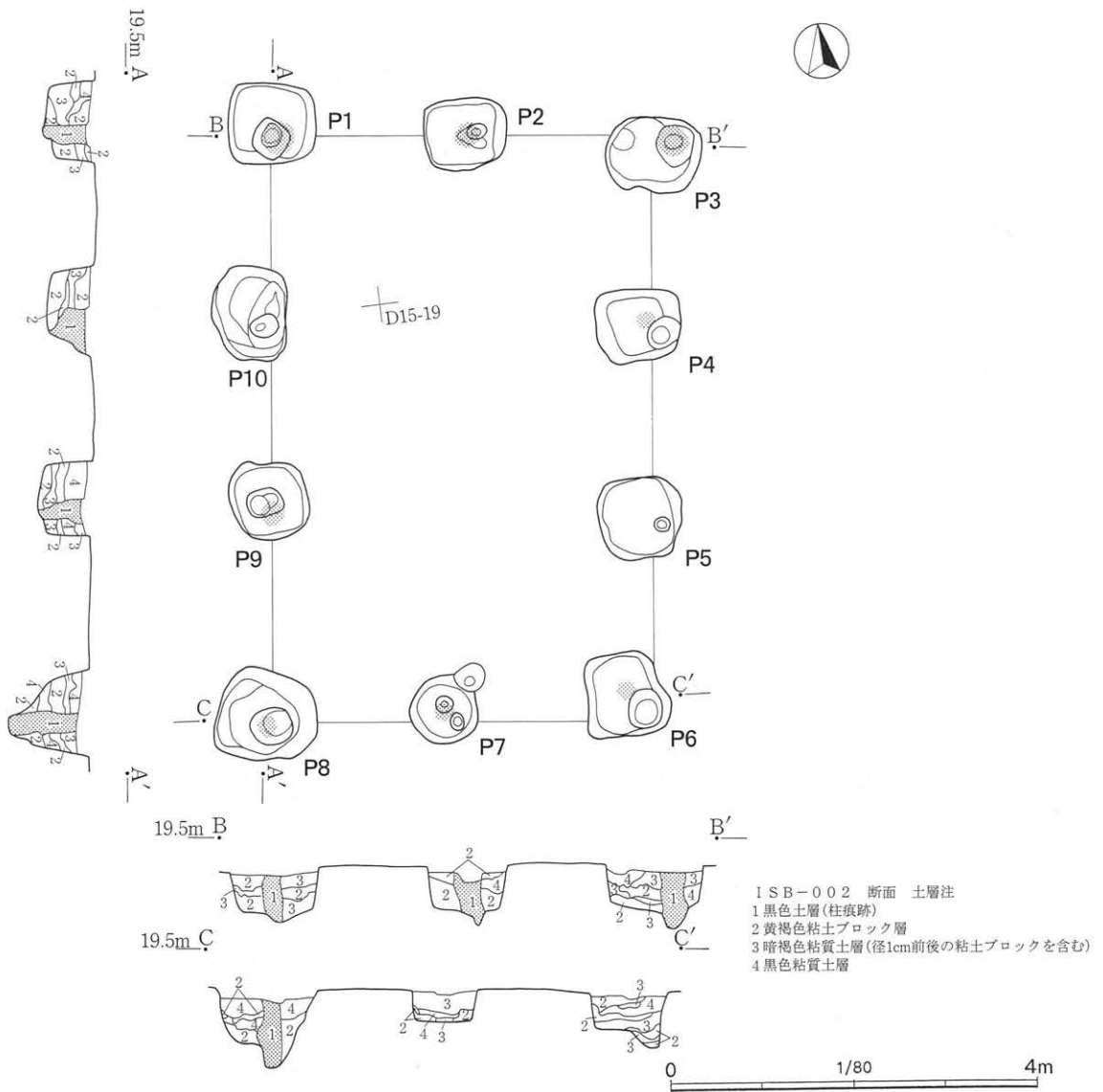
第132図 IISB-004



第133図 IISB-002



第134図 IISB-006



第135図 ISB-002

II SB-002 (第133図)

II SB-002は調査区中央東、F11-62グリッドに位置する掘立柱建物跡である。建物規模は、桁行3間(6.2m)、梁行2間(4.2m)、桁行方位はN-70° -Wとなる東西棟の建物である。柱間は、桁行2.0m前後、梁行2.1mとなっている。柱穴の検出は、全てを確認することができた。

柱穴掘形は、0.8m×0.9mの方形のものと、径0.2m~0.8mの小形の円形のものが存在する。柱穴掘形の覆土は、黄色砂質ブロック層と白色粘質土層が交互に堆積している。柱痕跡は、径0.1m~0.2mのものがみられた。

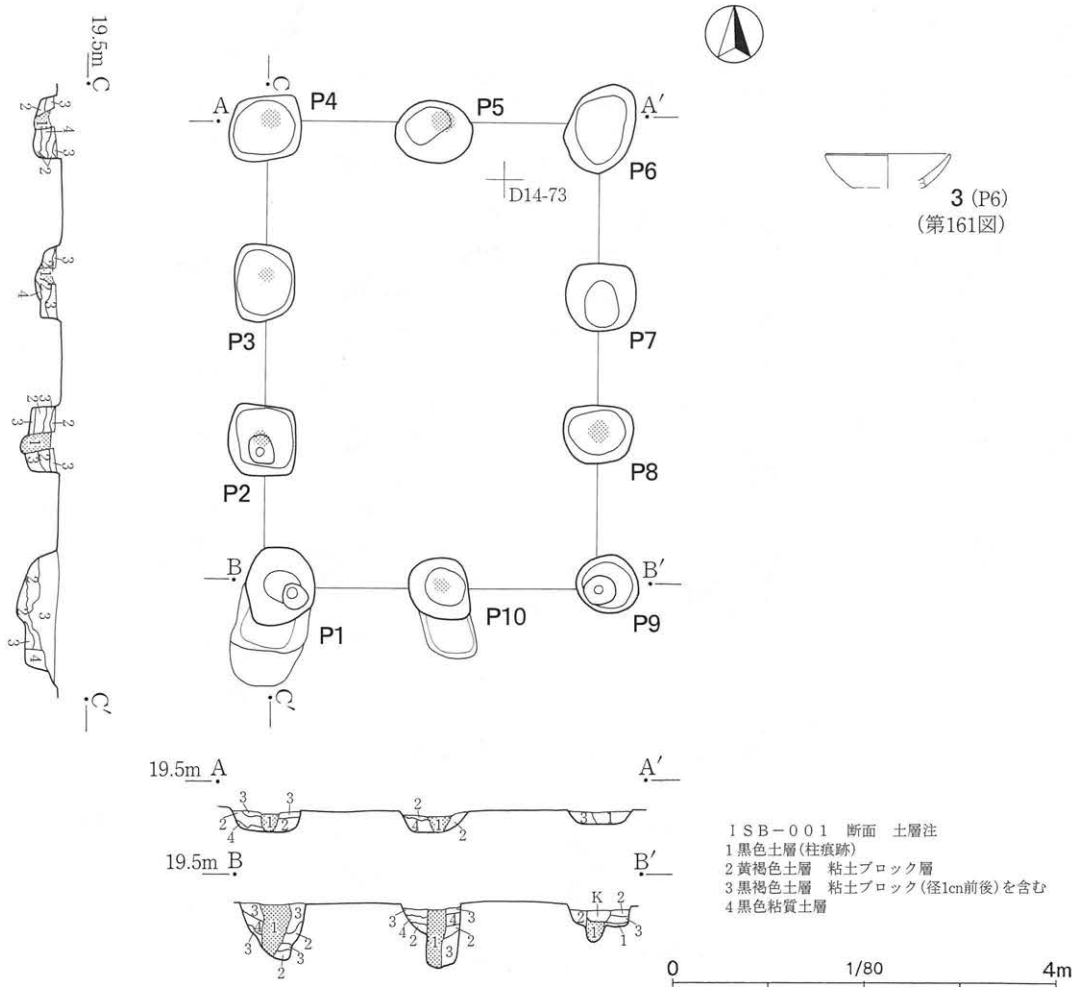
図示可能な遺物は出土しなかった。

II SB-006 (第134図)

II SB-001は調査区中央東、F12-05グリッドに位置する掘立柱建物跡である。建物規模は、桁行3間(推定)、梁行2間(3.4m)、桁行方位はN-30° -Eとなる南北棟の建物である。柱間は、桁行1.6m前後、梁行1.6m~1.9mとなっている。柱穴の検出は、北側が削平され確認することができなかった。

柱穴掘形は、0.8m×0.9mの不整形のもの、径0.4mの円形のものが存在する。柱穴掘形の覆土は、黄色砂質ブロック層と城色粘質土層が交互に堆積している。柱痕跡は、径0.1m~0.2mのものが見られた。

図示可能な遺物は出土しなかった。



第136図 ISB-001と出土遺物

I SB-002 (第135図, 図版42)

I SB-002は調査区南部中央, D15-19グリッドに位置する掘立柱建物跡である。建物規模は, 桁行3間(6.4m), 梁行2間(4.2m), 桁行方位はN-13° -Eとなる南北棟の建物である。柱間は, 桁行2.1m前後, 梁行2.1mとなっている。柱穴の検出は, 全てを確認することができた。

柱穴掘形は, 0.8m×0.9mの方形を呈する。柱穴掘形の覆土は, 黄色砂質ブロック層と暗褐色粘質土層が交互に堆積している。柱痕跡は, 径0.2mのものがほとんどの柱穴でみられた。

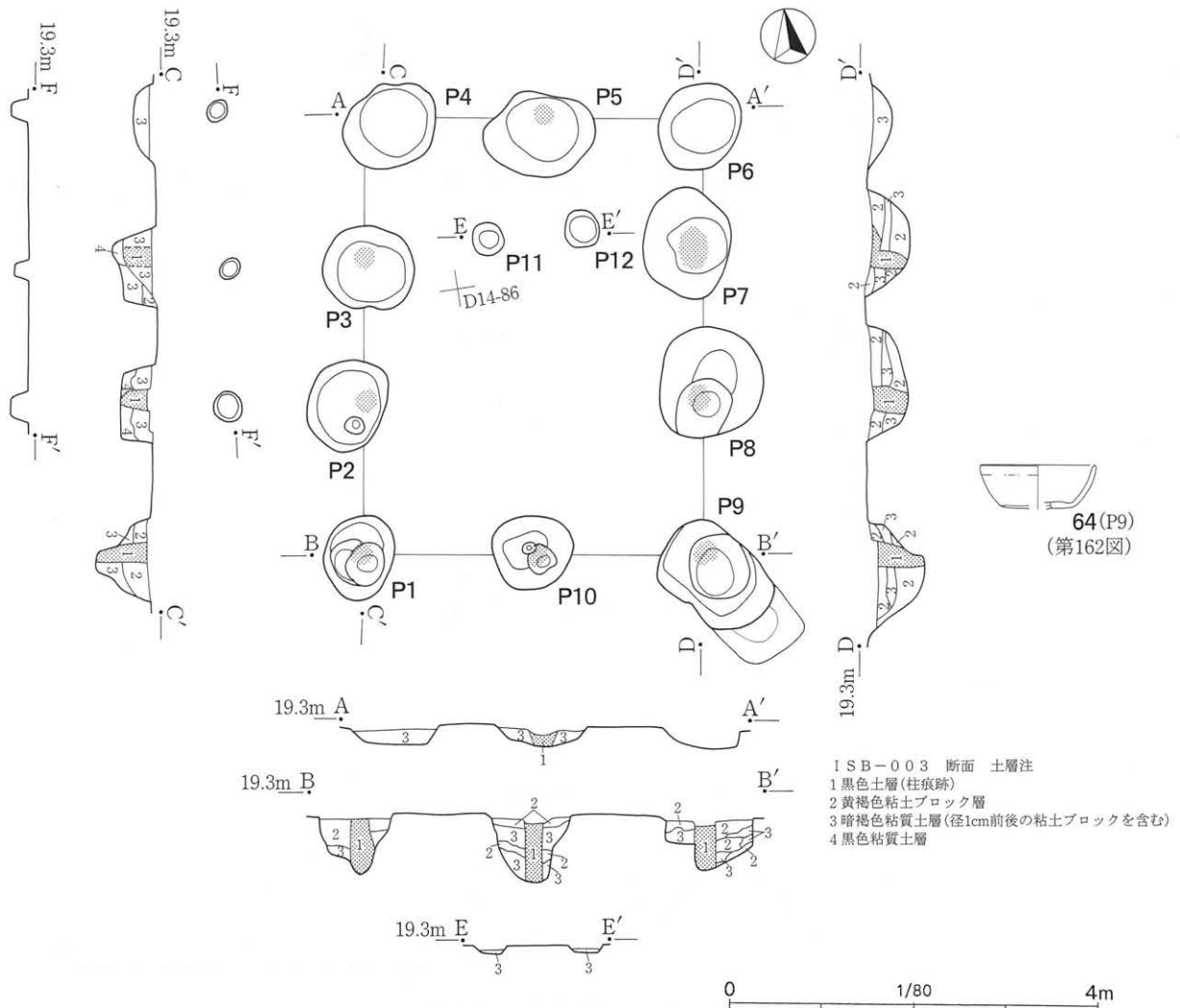
図示可能な遺物は出土しなかった。

I SB-001 (第136図, 図版42)

I SB-001は調査区南部中央, D14-73グリッドに位置する掘立柱建物跡である。南西2mにI SB-002, 南10mにI SB-004が隣接する。建物規模は, 桁行3間(4.9m), 梁行2間(3.5m), 桁行方位はN-Eとなる南北棟の建物である。柱間は, 桁行1.8m前後, 梁行1.8mとなっている。柱穴の検出は, 全てを確認することができた。

柱穴掘形は, 0.8m×0.9mの方形か同規模の円形を呈するものが存在する。柱穴掘形の覆土は, 黄色砂質ブロック層と黒色粘質土層が交互に堆積している。柱痕跡は, 径0.2mのものが多くの柱穴でみられた。

図示可能な遺物は土師器杯が出土していることから, 平安時代の時期が考えられる。



第137図 I SB-003と出土遺物

I SB-003 (第137・162図, 図版42)

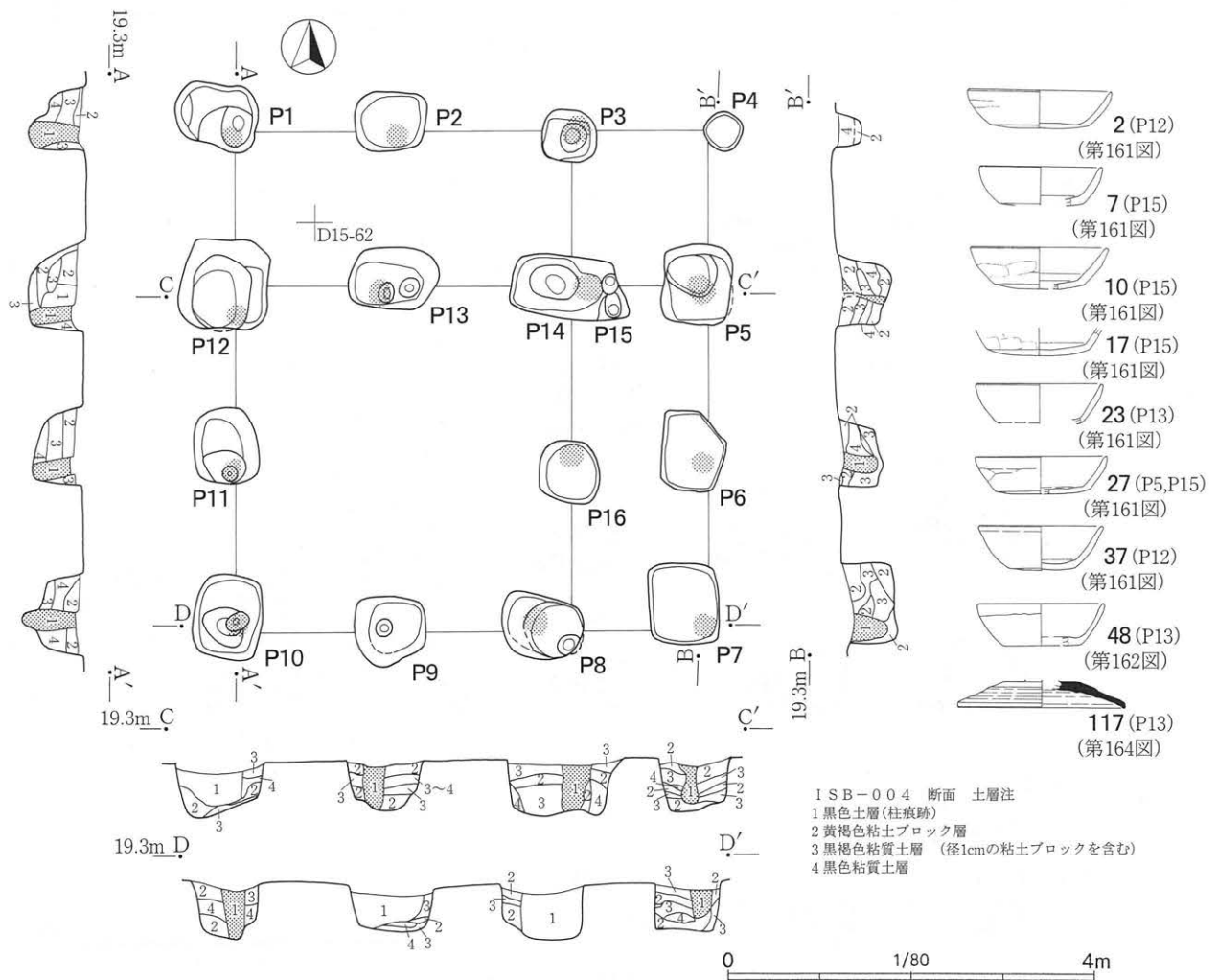
I SB-003は調査区南部中央, D14-86グリッドに位置する掘立柱建物跡である。西2.5mに I SB-001が隣接する。建物規模は, 桁行3間 (6.8m), 梁行2間 (3.7m), 桁行方位はN-8° -Eとなる南北棟の建物である。西1.6mの地点に1.6m~1.8m間隔に3か所の径0.2m程の柱跡が存在する。柱間は, 桁行・梁行ともに1.8mとなっている。柱穴の検出は, 全てを確認することができた。また, 北側に束柱2か所が検出された。

柱穴掘形は, 径0.6m~1.2mの円形を呈する。柱穴掘形の覆土は, 黄色砂質ブロック層と暗褐色粘質土層が交互に堆積している。柱痕跡は, 径0.2m前後のものが多くの柱穴でみられた。

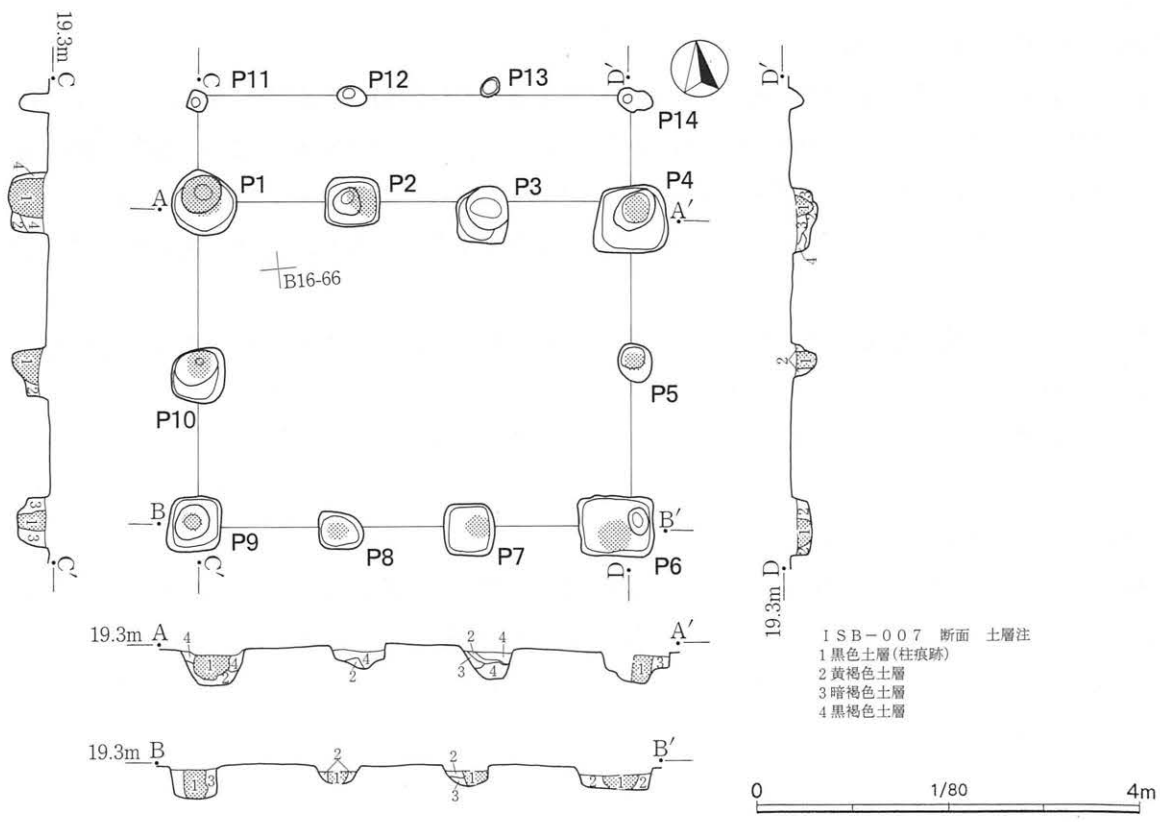
図示可能な遺物は, 土師器杯1点があり, 奈良時代の時期が考えられる。

I SB-004 (第138・164図, 図版43)

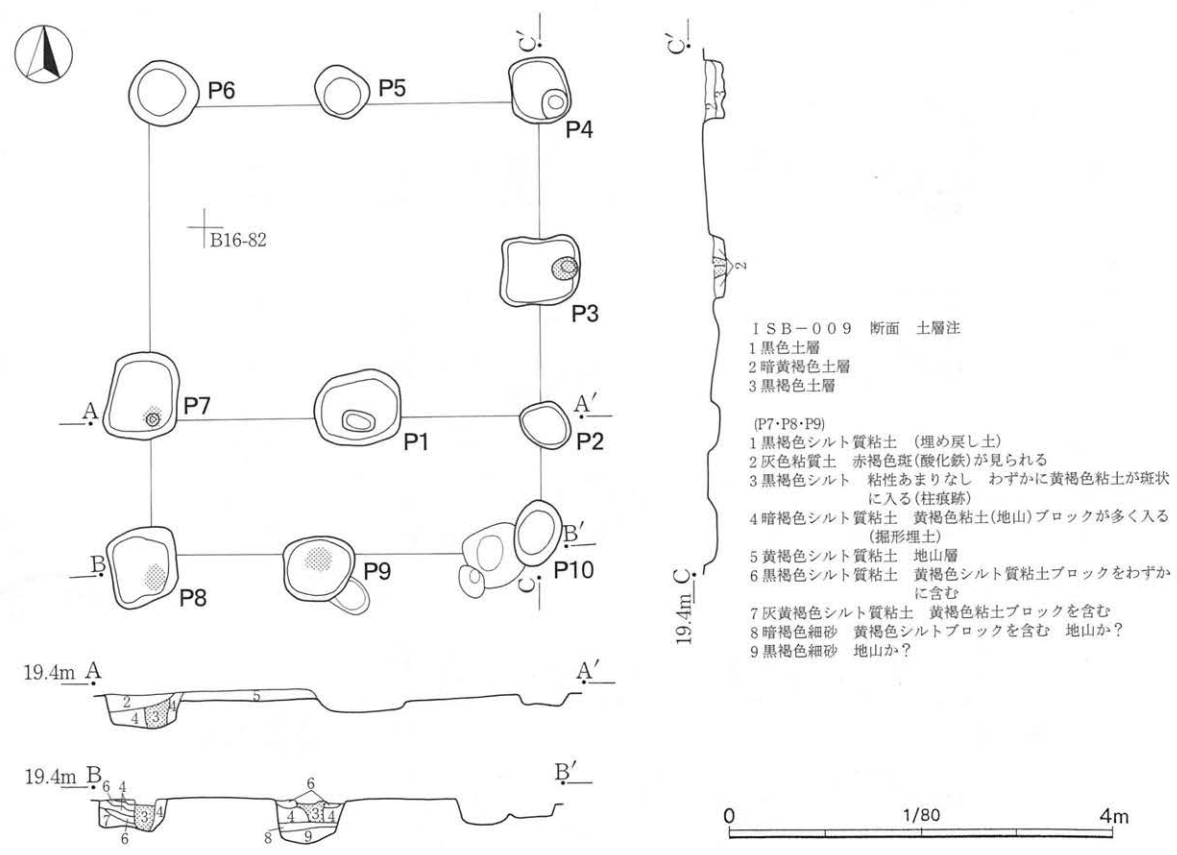
I SB-004は調査区南部中央, D15-62グリッドに位置する掘立柱建物跡である。建物規模は, 桁行3間 (5.5m), 梁行2間 (3.8m), 桁行方位はN-Sとなる南北棟の建物である。柱間は, 桁行1.8m前後, 梁行1.6m~2.0mとなっている。柱穴の検出は, 全ての側柱穴と東に廂の柱穴と東柱とを確認することができた。



第138図 I SB-004と出土遺物

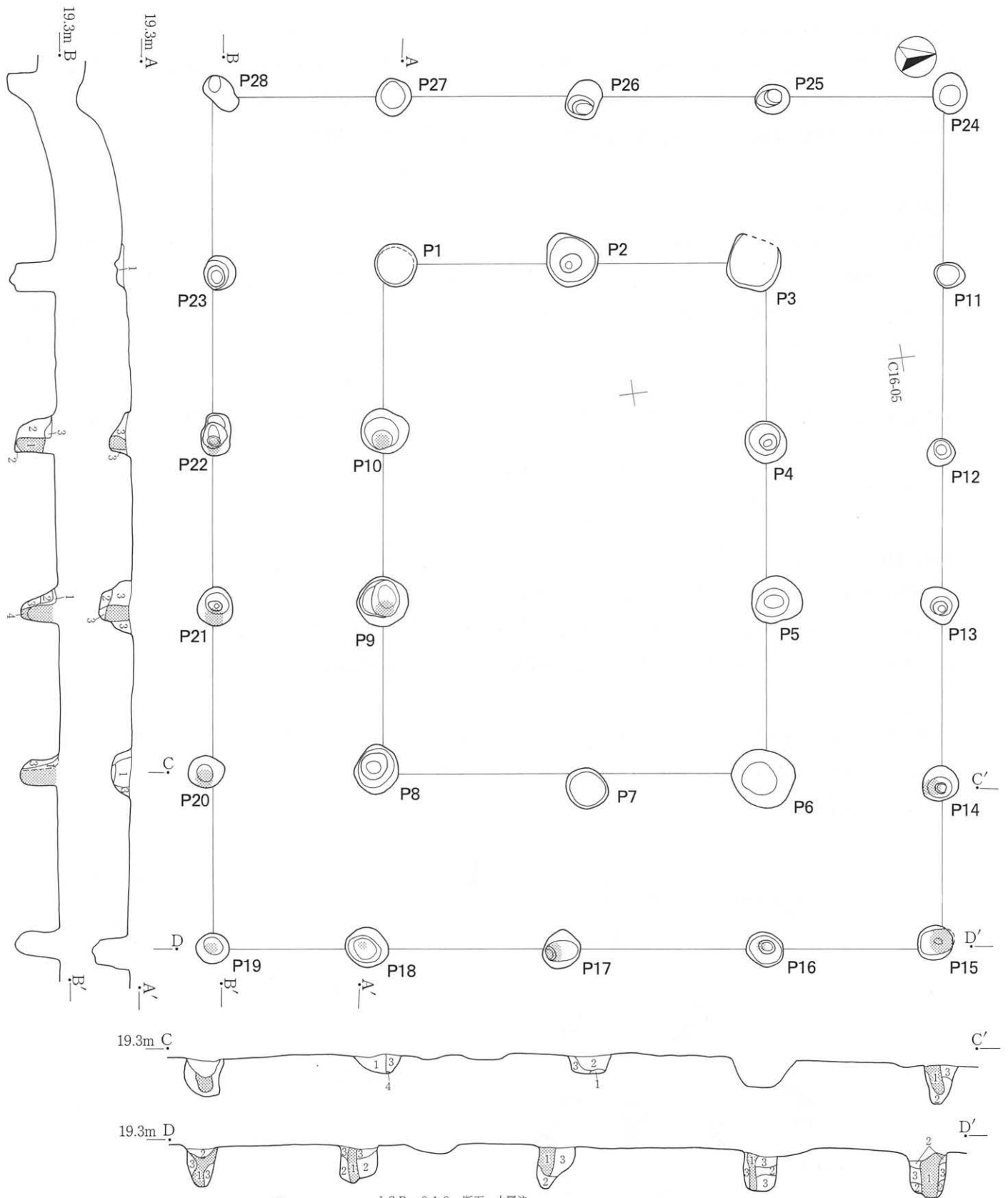


第139図 ISB-007



第140図 ISB-009





第141図 ISB-010と出土遺物

柱穴掘形は、0.8m×0.9mの方形のものと、径0.6m～0.7mの円形のものが存在する。柱穴掘形の覆土は、黄色砂質ブロック層と黒色粘質土層が交互に堆積している。柱痕跡は、径0.1mのものがそれぞれの柱穴でみられた。なお、I SB-004は3間×2間の東西棟で北側に廂を有する建物とも考えられる。

図示可能な遺物は土師器杯8点と須恵器杯蓋1点があり、奈良時代の時期が考えられる。

### I SB-007 (第139図)

I SB-007は調査区南端、B16-66グリッドに位置する掘立柱建物跡である。南西2.5mにI SB-009が隣接する。建物規模は、桁行3間(4.6m)、梁行2間(3.4m)、桁行方位はN-85°-Wとなる東西棟の建物である。柱間は、桁行1.6m前後、梁行1.8mとなっている。柱穴の検出は、全ての側柱と北側に4か所の廂の柱穴を確認することができた。

柱穴掘形は、0.8m×0.9mの方形のものと、廂柱は径0.1m～0.2mの小形円形のものが存在する。柱穴掘形の覆土は、黄色層と暗褐色層が交互に堆積している。柱痕跡は、側柱に径0.2m～0.3mのものが見られた。

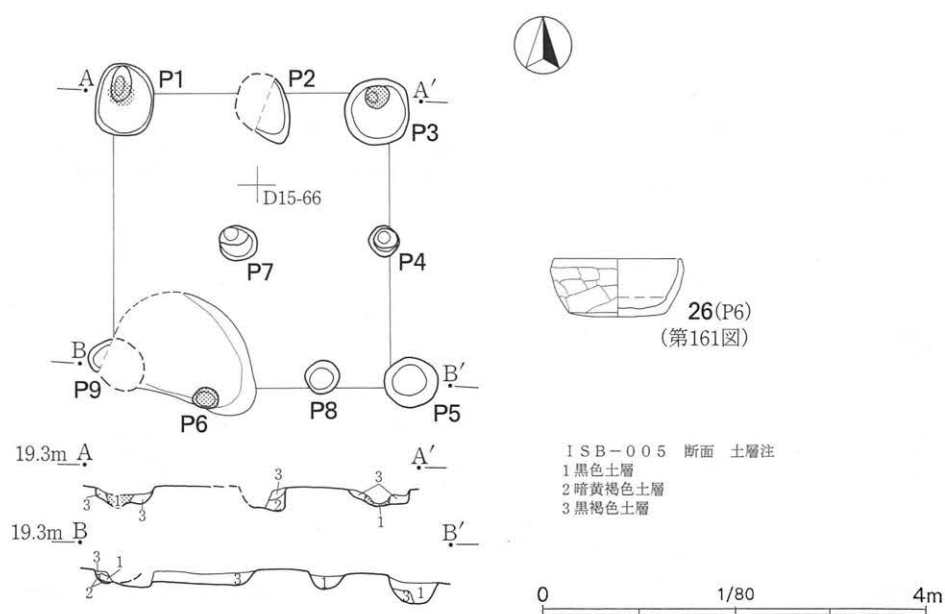
図示可能な遺物は出土しなかった。

### I SB-009 (第140図)

I SB-009は調査区南端、B16-82グリッドに位置する掘立柱建物跡である。建物規模は、桁行3間(4.1m)、梁行2間(3.3m)、桁行方位はN-Eとなる東西棟の建物である。柱間は、桁行2.1m前後、梁行1.8m前後となっている。柱穴の検出は、全ての側柱穴とその南側に付設される廂の柱穴を確認することができた。

柱穴掘形は、0.8m×0.9mの方形、円形のものが存在する。柱穴掘形の覆土は、黄色シルト質粘土層と黒色シルト質粘土層等が交互に堆積している。柱痕跡は、径0.2mのものが見られた。

図示可能な遺物は出土しなかった。



第142図 I SB-005と出土遺物

### I SB-010 (第141・165・166図, 図版43)

I SB-010は調査区南部中央, C16-58グリッドに位置する掘立柱建物跡である。建物規模は, 桁行3間(7.6m), 梁行2間(5.6m), 桁行方位はN-87° -Eとなる東西棟の建物である。柱間は, 桁行2.4m前後, 梁行2.8m前後となっている。柱穴の検出は, 全ての側柱と四面廂の柱穴を確認することができた。

柱穴掘形は, 径0.6m~0.7mの円形のものが存在する。柱穴掘形の覆土は, 暗褐色土層と白色粘土層が交互に堆積している。柱痕跡は, 径0.2mのものが見られた。

図示可能な遺物は緑釉陶器碗破片1点と管状土錘が出土した。

### I SB-005 (第142図, 図版43)

I SB-005は調査区南部中央, D15-66グリッドに位置する掘立柱建物跡である。西2mに方向を同じくしたI SB-004が所在する。建物規模は, 桁行2間(2.9m), 梁行2間(3.1m), 桁行方位はN-Sとなる建物である。柱間は, 桁行・梁行ともに1.4m~1.5mとなっている。柱穴の検出は, 西側の柱穴を1か所確認することができなかった。

柱穴掘形は, 径0.3m~0.7mの円形のものが存在する。柱穴掘形の覆土は, 黒色土層と暗褐色土層が交互に堆積している。柱痕跡は, 径0.2mのものがみられた。

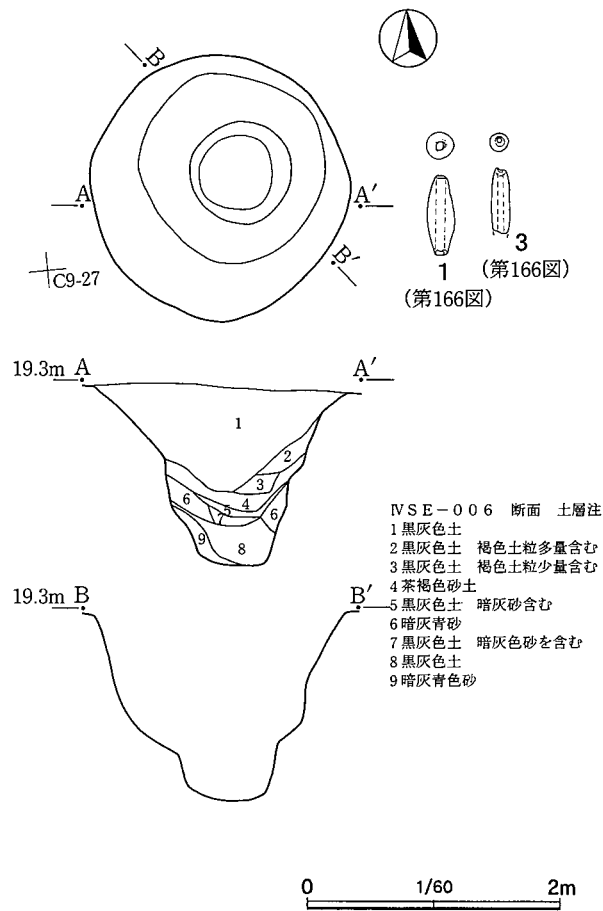
図示可能な遺物は土師器杯1点が出土し, 奈良時代の時期が考えられる。

## 3 井戸・土坑

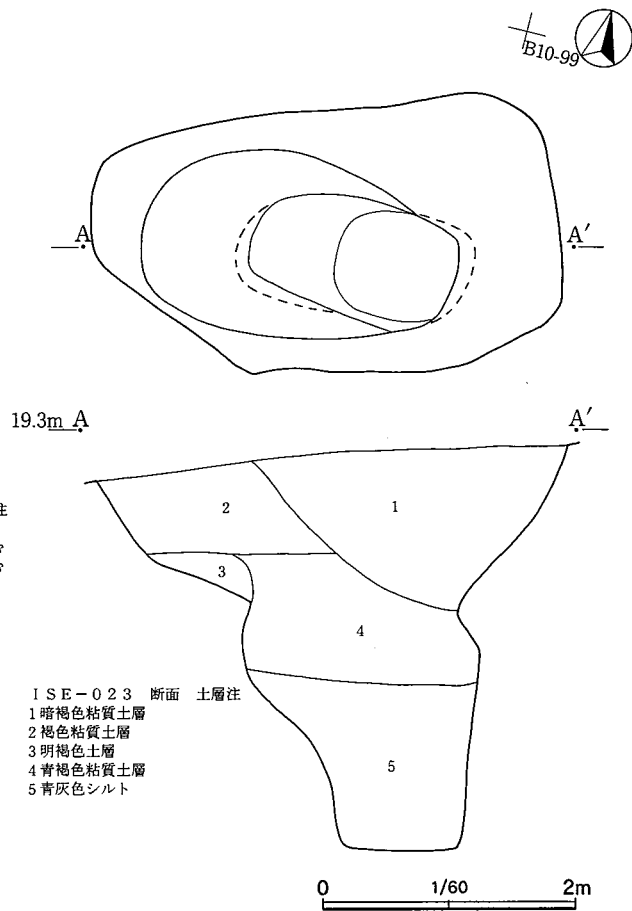
II SX-002 (第150図) は, 機能等は不明であるが多量の土器が出土した。I SX-012 (第160図) も同様である。

## 4 出土遺物 (第161~166図・図版57~62)

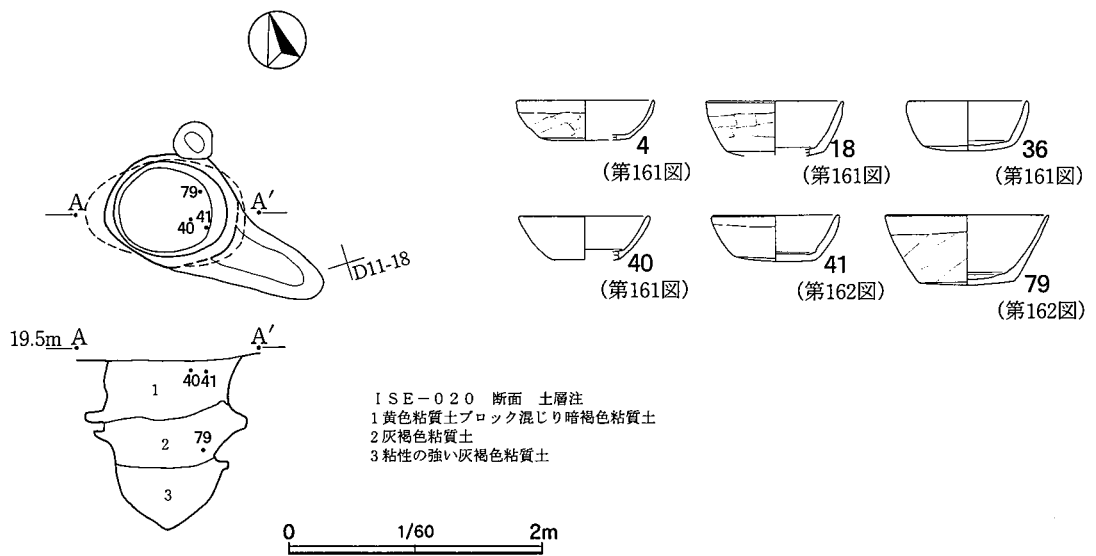
第161図1~第162図79は非ロクロ整形の土師器杯である。体部はゆるやかに内湾しながら立ち上がり, ヘラケズリ痕を残し, 底部もやや突出気味につくられた一群と, 体部は直線的に広がり, 内外面ともにミガキ等の調整により平滑化され, 底部は広くつくられた古手の一群が存在する。また, 底部を小さくし, 器高が低く小型化する杯が存在し, 奈良時代全般から平安時代初頭にわたる時間幅がある。油煙痕のみられるものもある。第163図80~112はロクロ整形の土師器である。底径が小さく, 器高の低いものが多く, 高台がつくり出されたものや, 貼り付けられた碗形に近いものなどがある。黒色処理の施されているもの, 油煙痕のみられるものもある。第164図116~第165図138は須恵器である。116~118は宝珠つまみを有する杯蓋である。119は湖西産の須恵器高台付盤である。138は頸部に3条の波形文が巡らされた大甕で, にぶい黄橙色を呈している。139~140は緑釉陶器の皿類の破片である。142~153は灰釉陶器の長頸壺類の破片である。153は鍍の脚部と考えられる。第166図1~4は管状土錘である。6・7は転用砥石である。8は瓦塔の可能性もあるが, 須恵器の部分かもしれない。9・10はフイゴの羽口である。なお, 調査区からはスラグが多数出土しているが, 鍛冶に関する遺構は検出されなかった。出土した鉄滓は, 第17表のとおりである。11は布目瓦である。



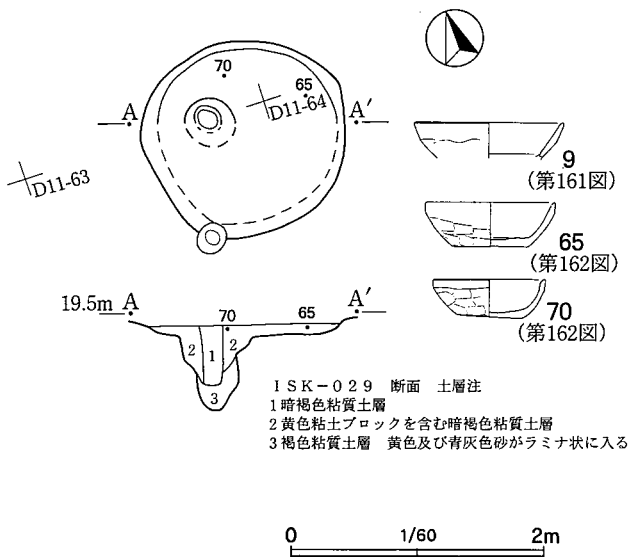
第143図 IVSE-006と出土遺物



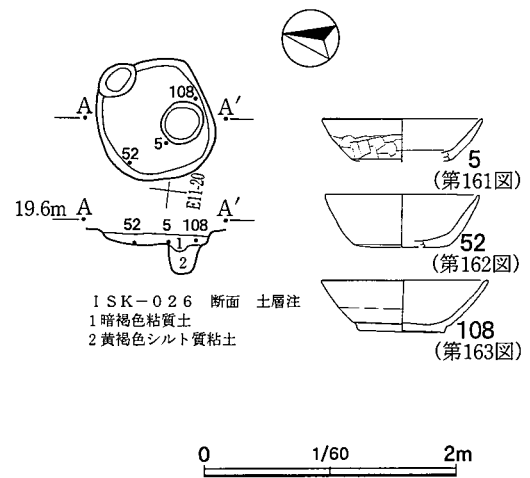
第144図 ISE-023



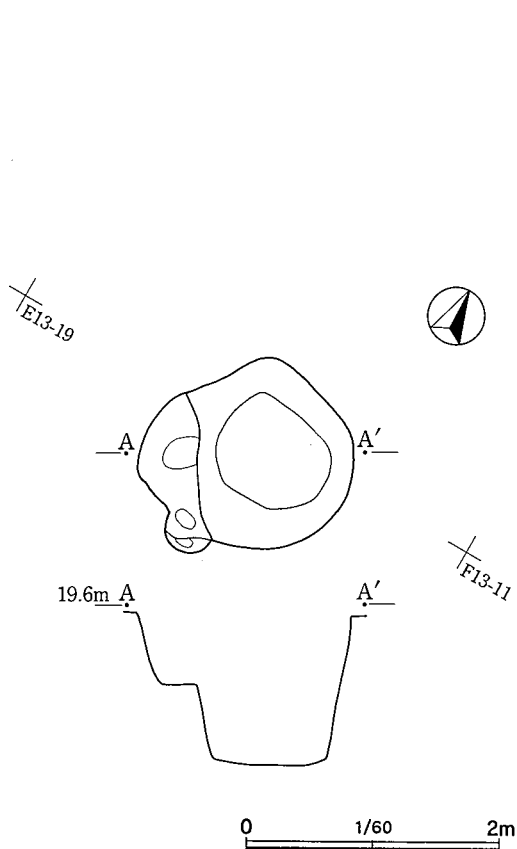
第145図 ISE-020と出土遺物



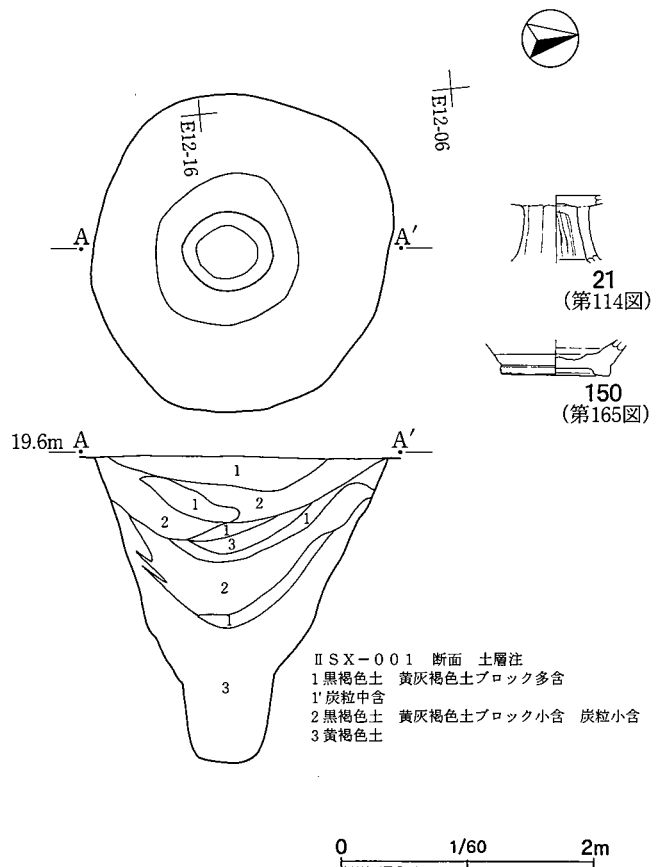
第146図 ISK-029と出土遺物



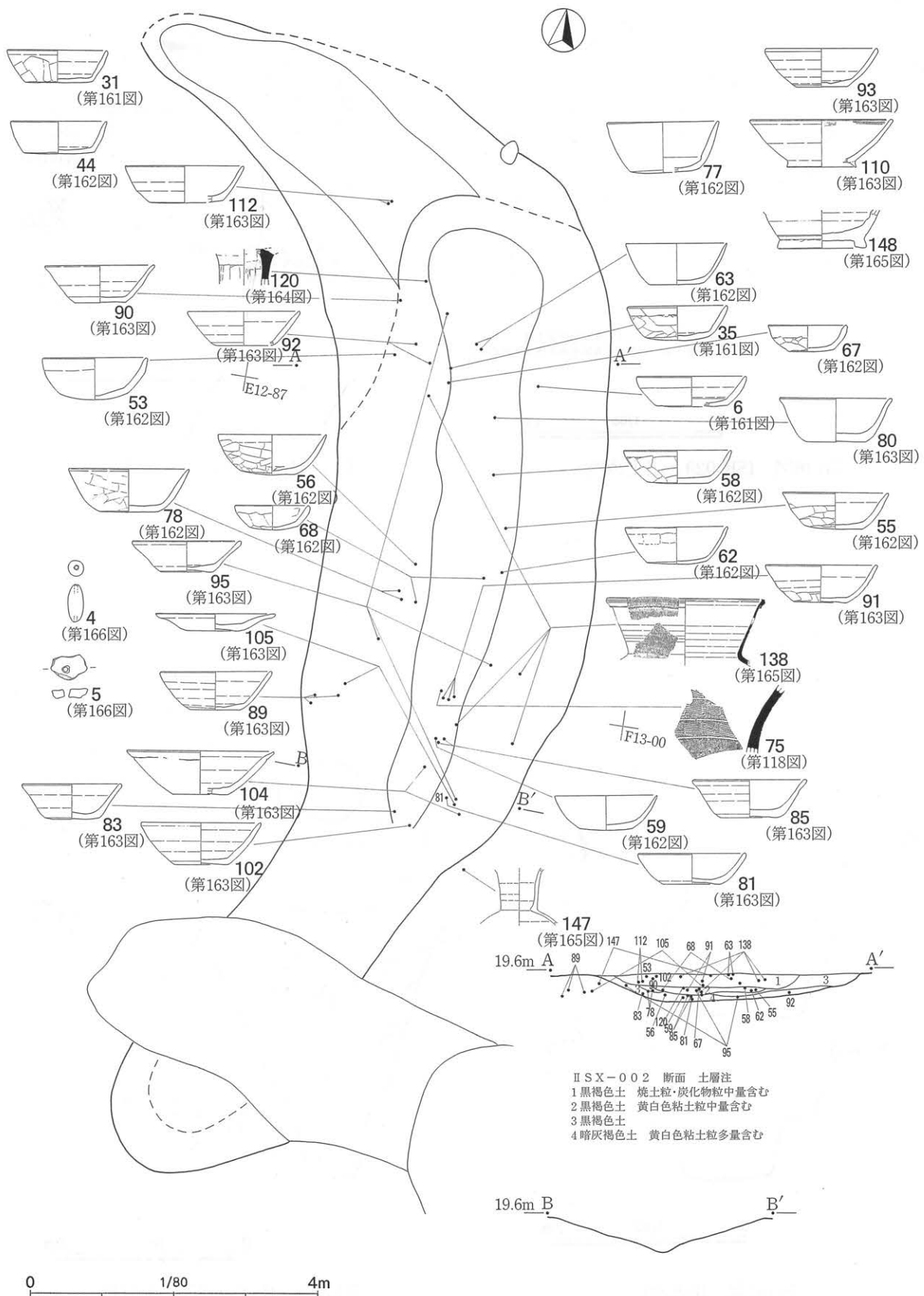
第147図 ISK-026と出土遺物



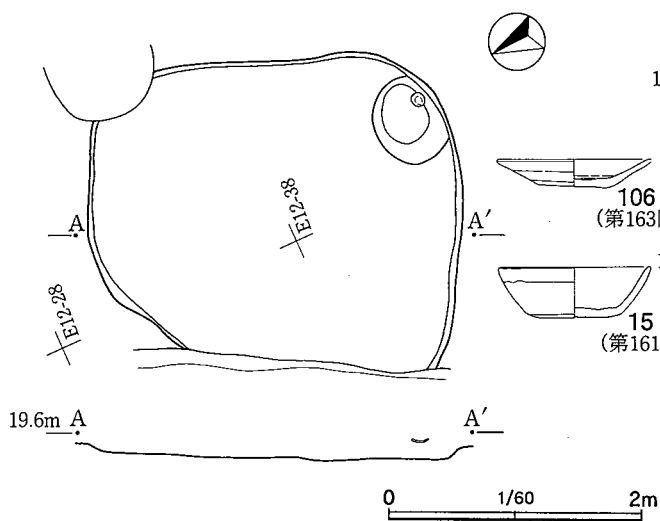
第148図 IISE-007



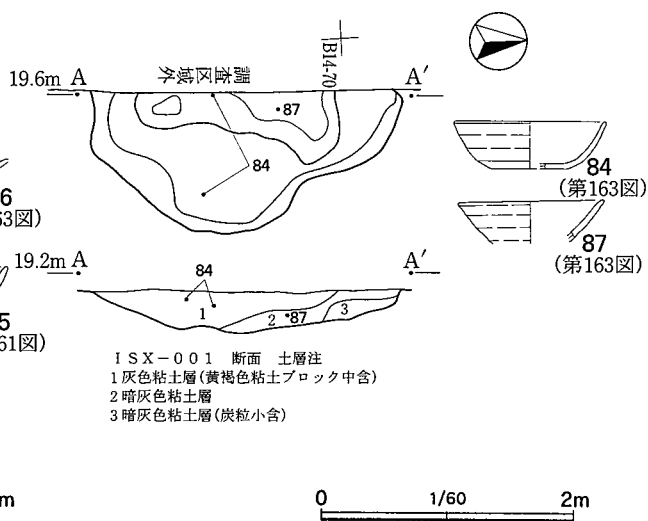
第149図 IISX-001と出土遺物



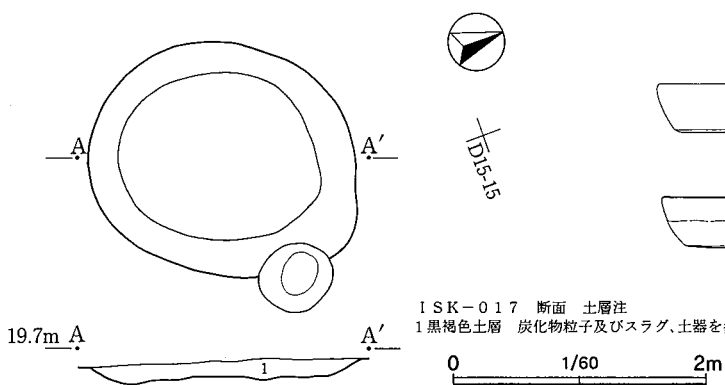
第150図 IISX-002と出土遺物



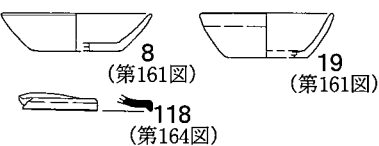
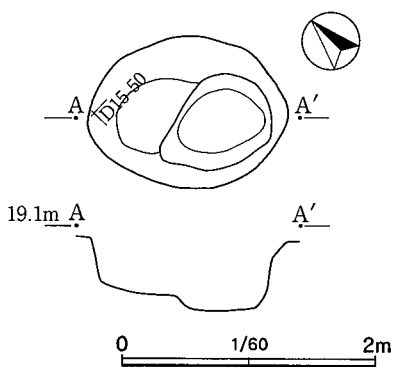
第151図 ISX-003と出土遺物



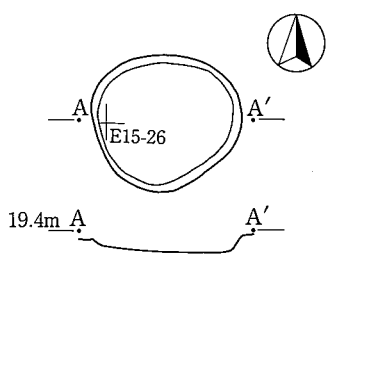
第152図 ISX-001と出土遺物



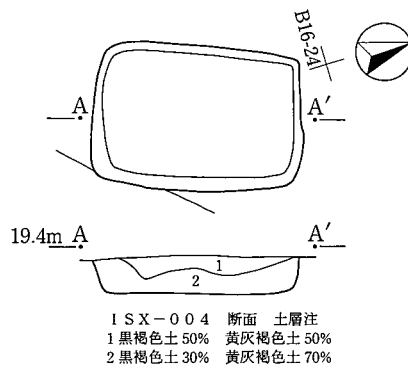
第153図 ISK-017と出土遺物



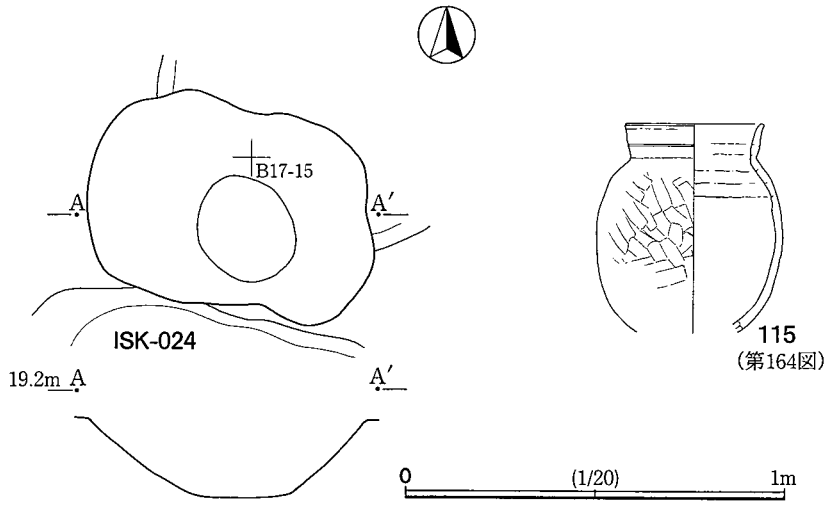
第154図 ISK-018と出土遺物



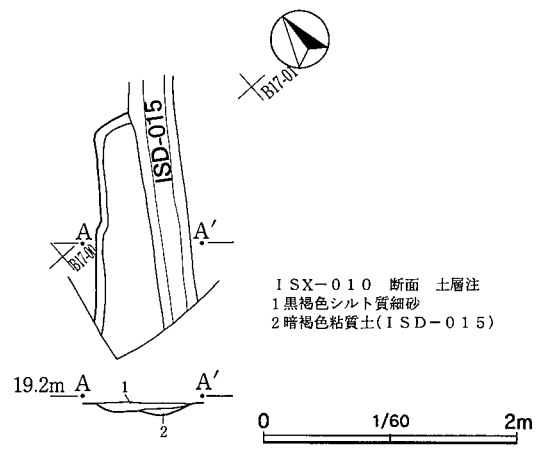
第155図 ISK-014



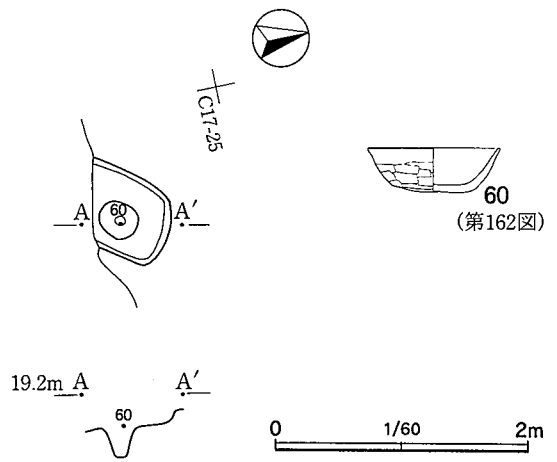
第156図 ISX-004



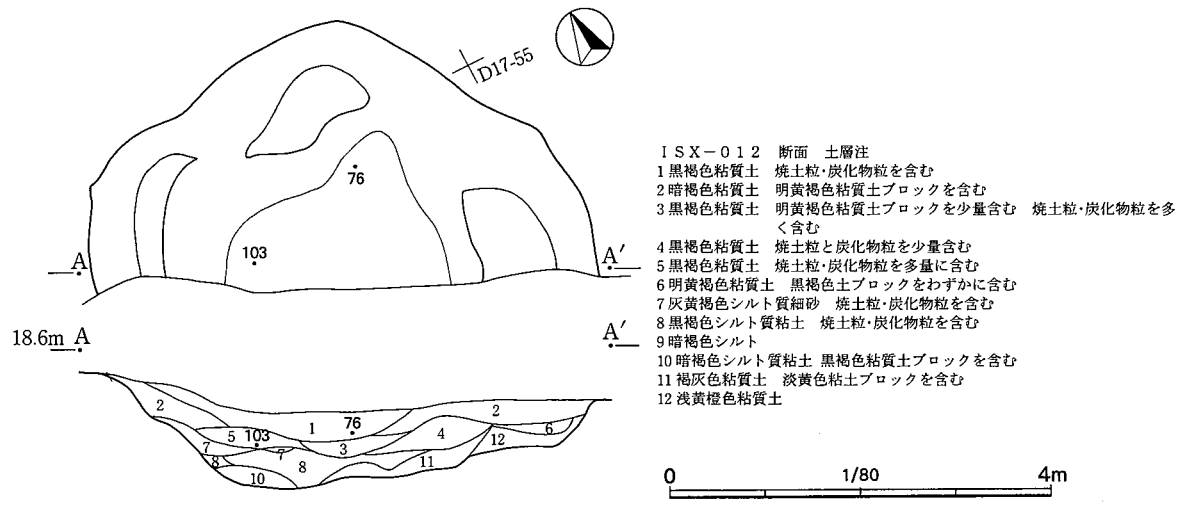
第157図 ISK-023と出土遺物



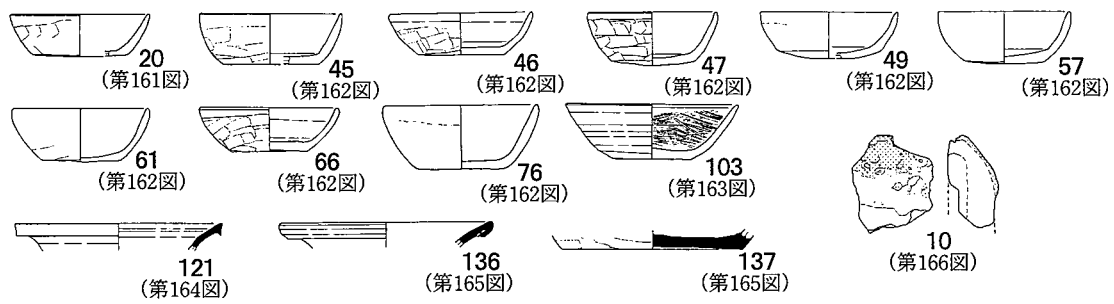
第158図 ISX-010



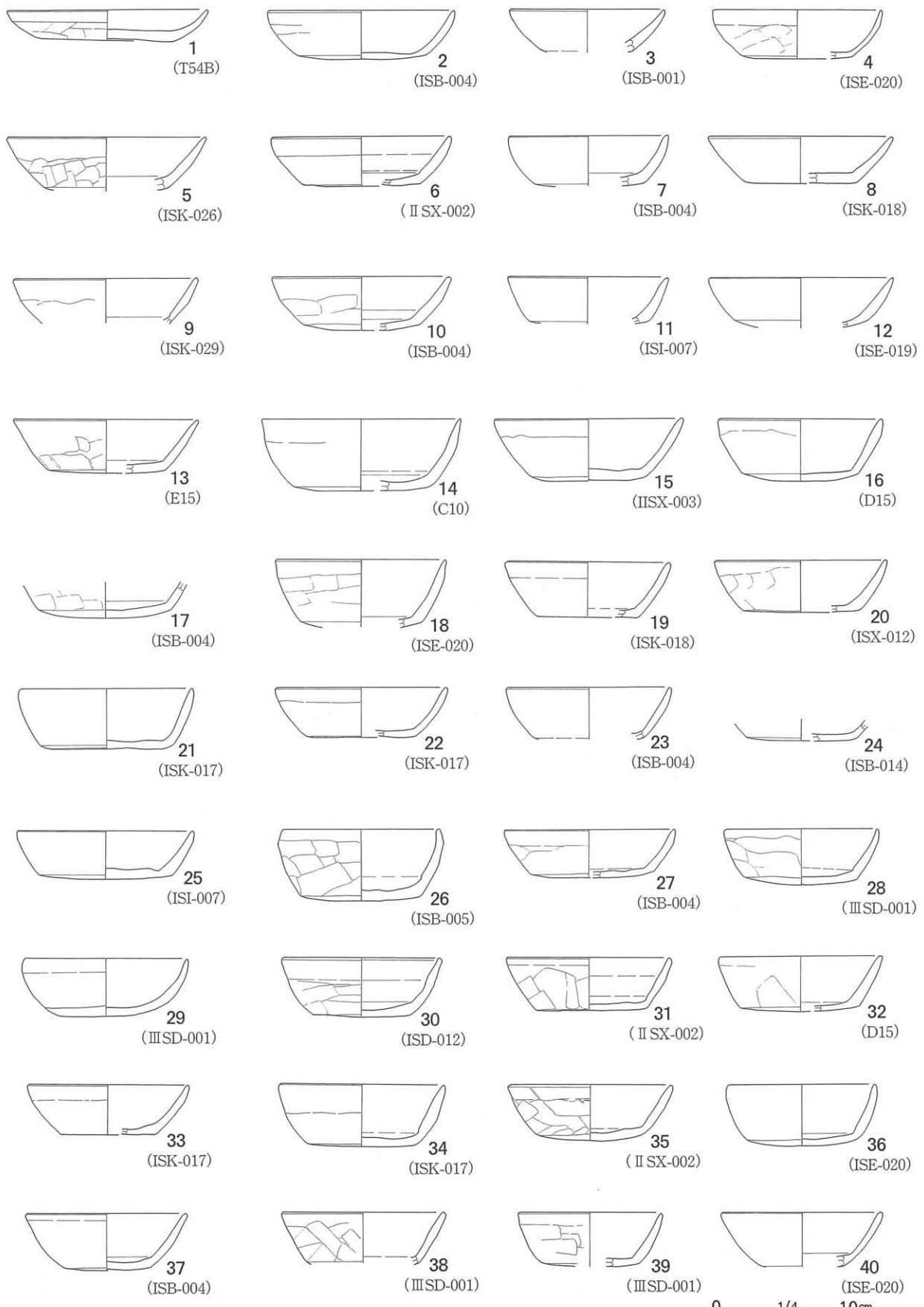
第159図 ISK-025と出土遺物



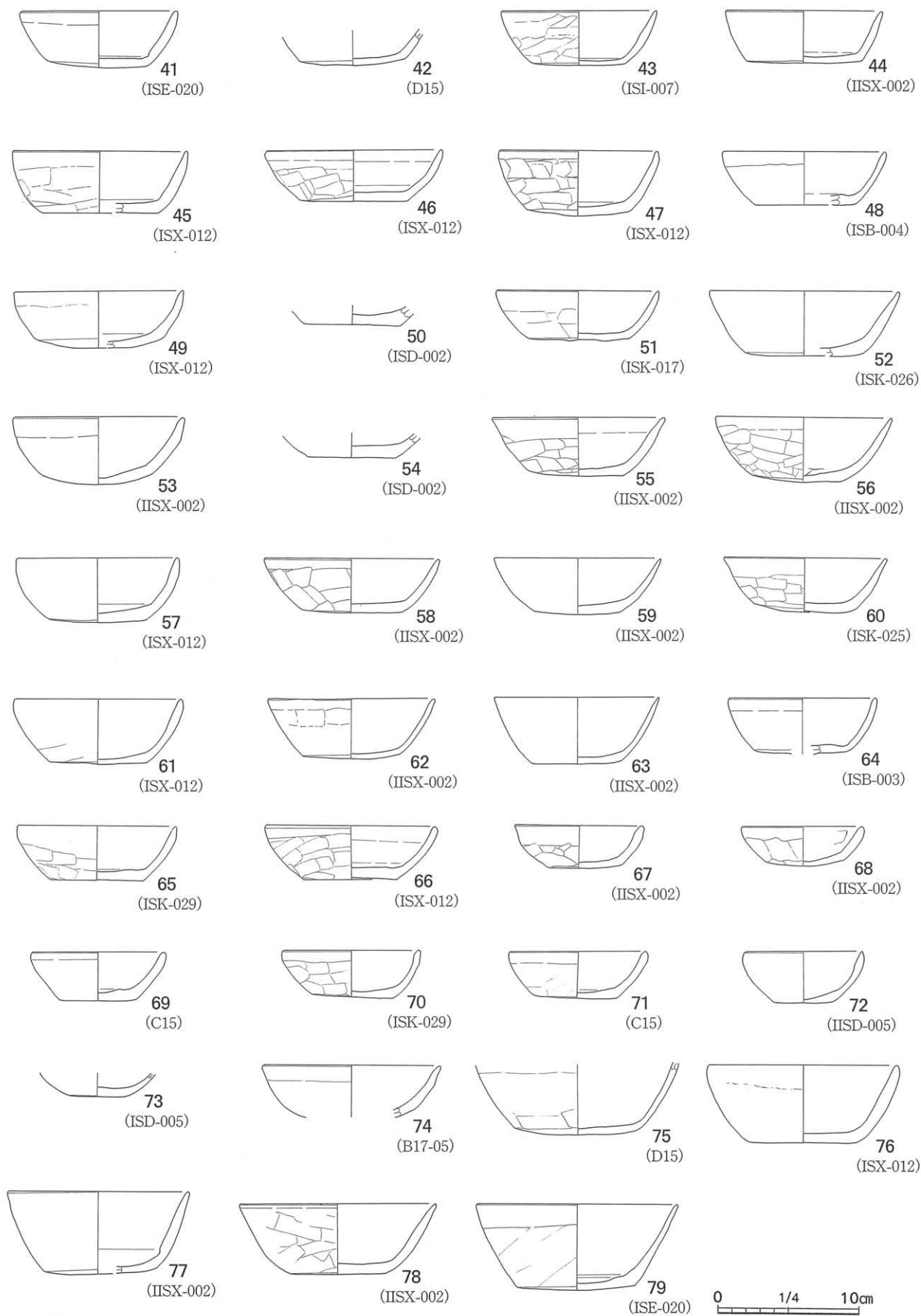
第160図 ISX-012と出土遺物



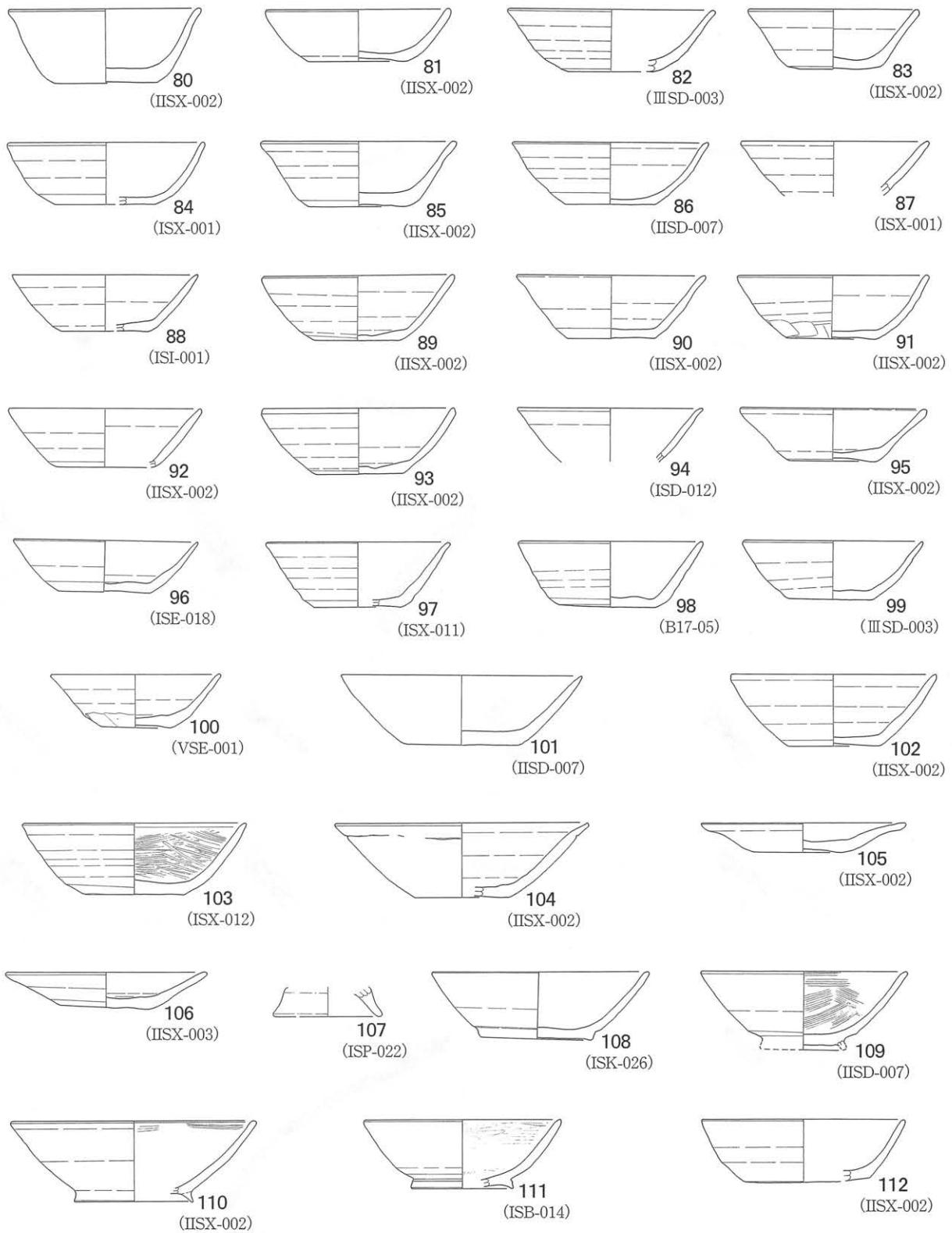




第161図 出土土器 1

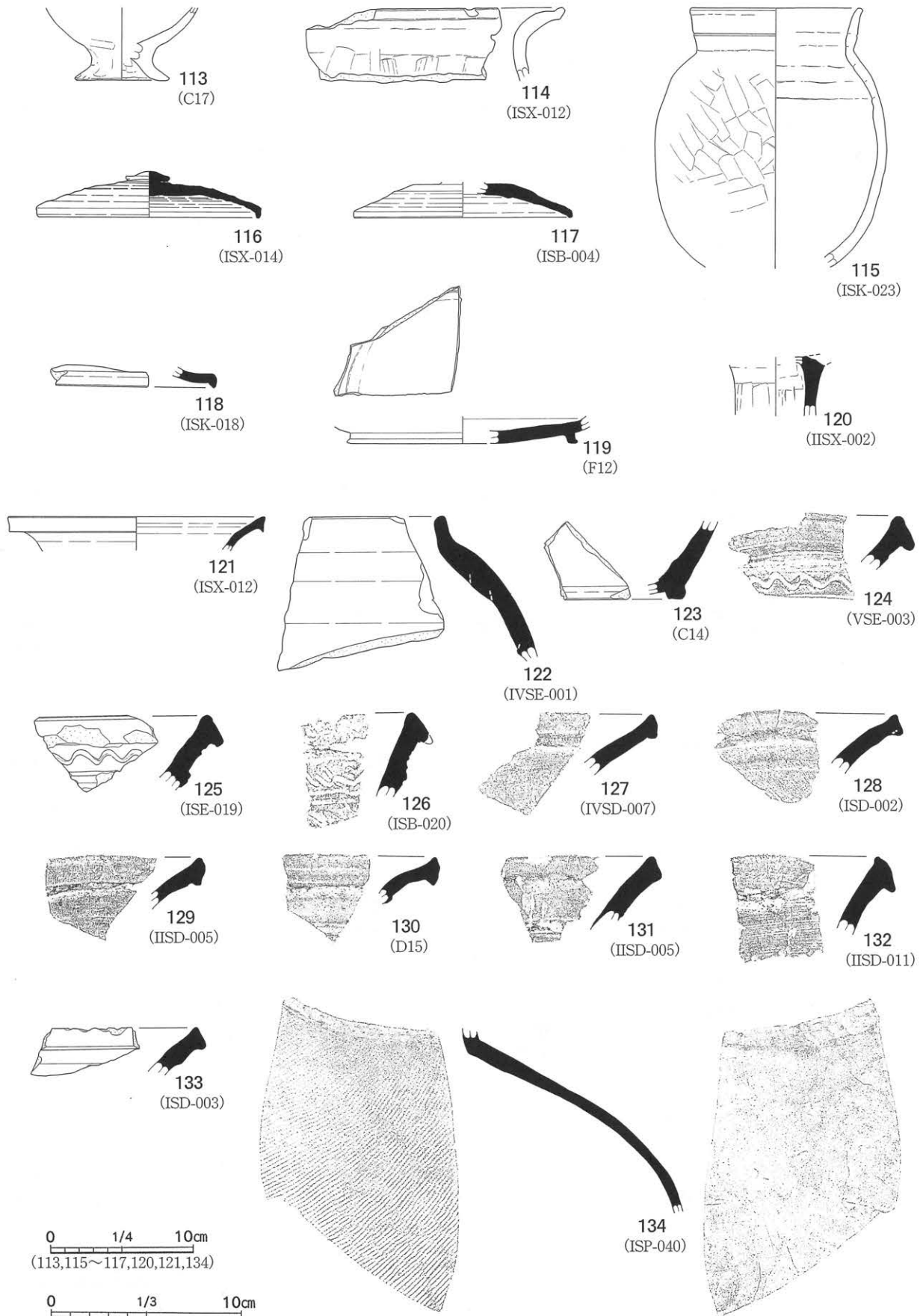


第162図 出土土器 2

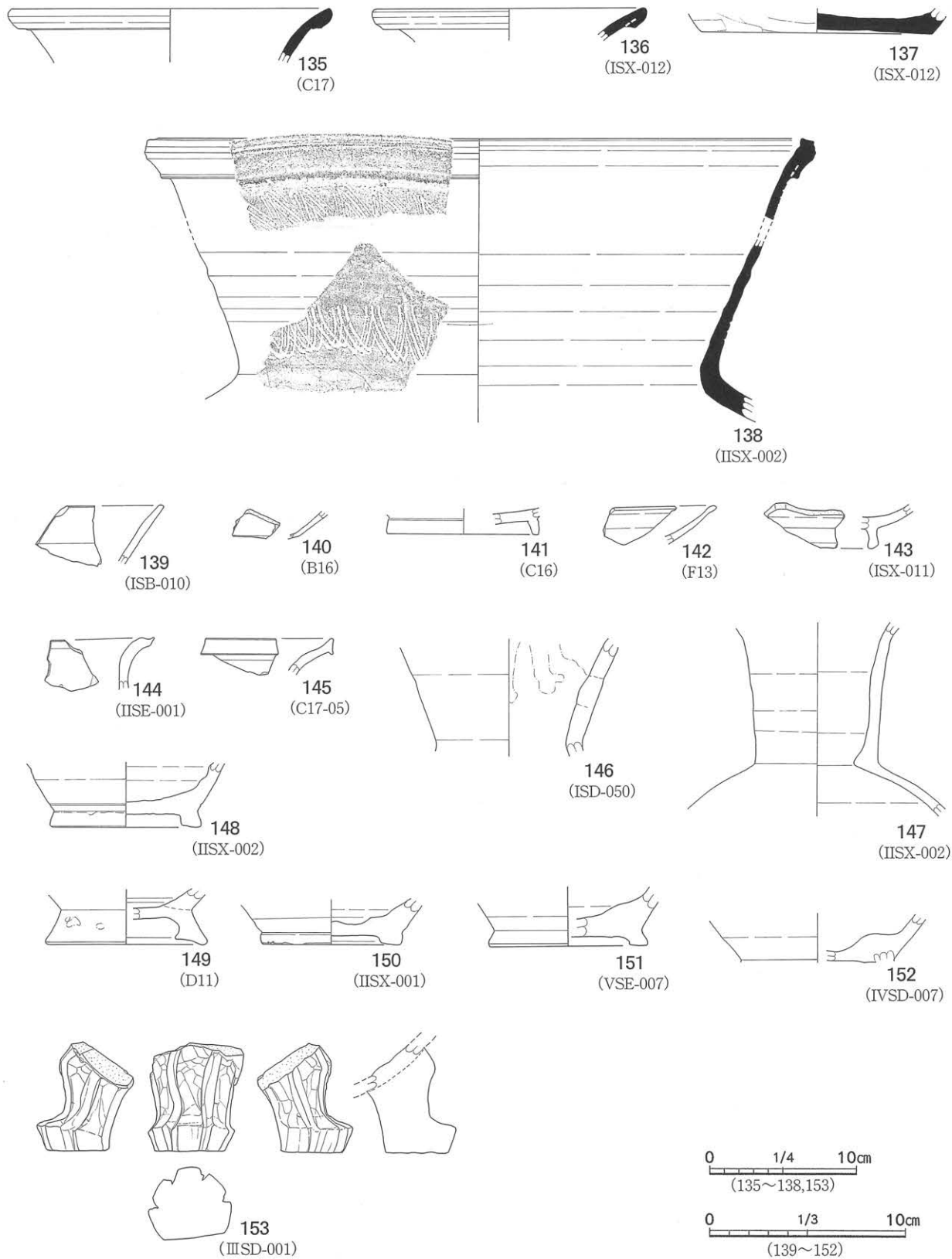


0 1/4 10cm

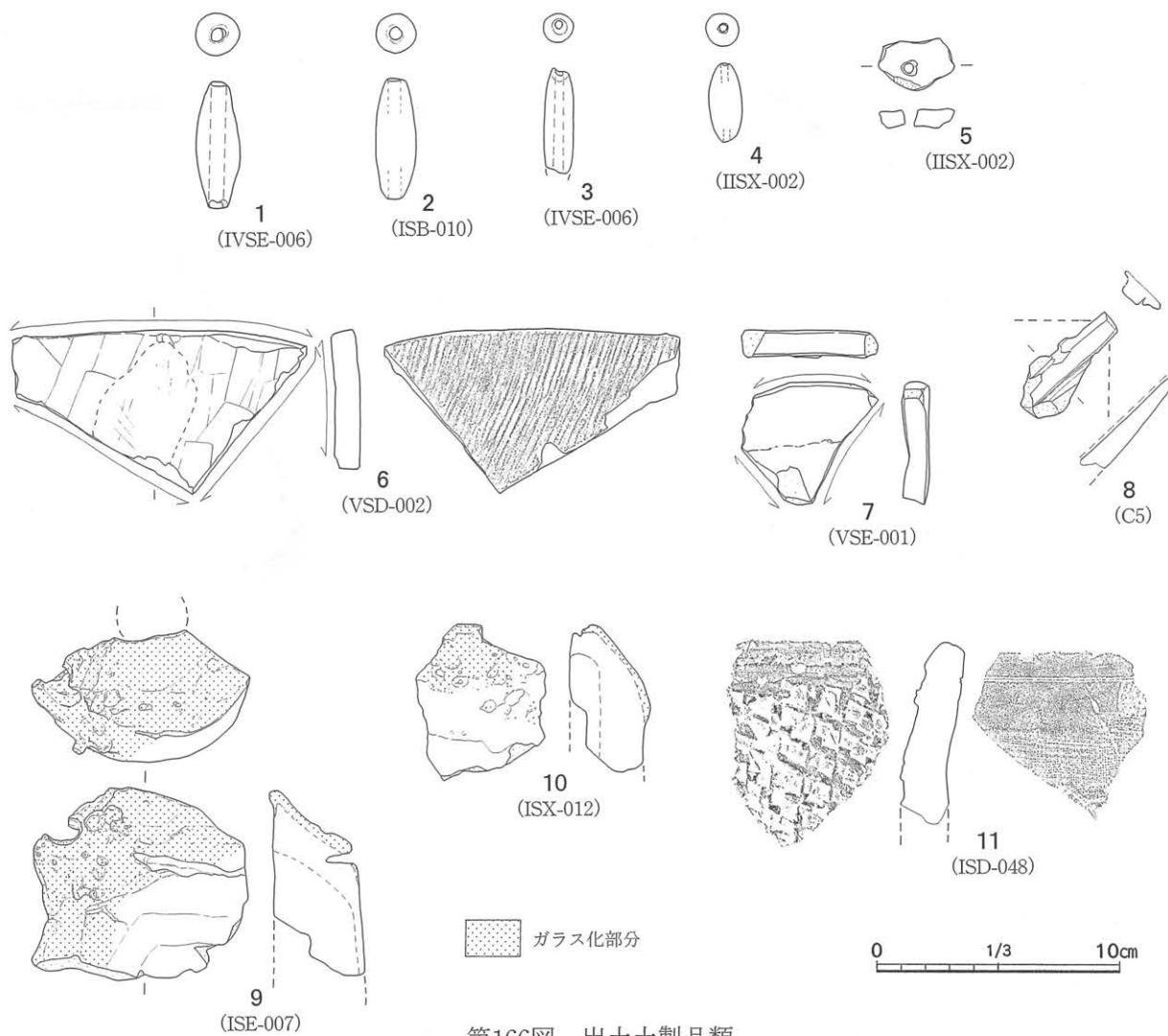
第163图 出土土器 3



第164图 出土土器 4



第165図 出土土器 5



第166図 出土土製品類

## 第4節 中・近世の遺構と遺物

中・近世に比定できる遺構は、掘立柱建物跡43棟、井戸・土坑58基などがある。調査区内からはそのほかにも、多数の時期不明のピットや溝状遺構が検出されたが、ほとんど全て中・近世に属する遺構とみられるため、時期不明の遺構は全て全測図（第167図～172図）に掲載することとした。

### 1 掘立柱建物跡

#### IVSB-007（第173図，図版45）

IVSB-007は調査区中央西，C8-17グリッドに位置する掘立柱建物跡である。南にIVSB-001，IVSB-003等と重複する。建物規模は，桁行3間（7.6m），梁行2間（3.5m），桁行方位はN-72°-Eとなる東西棟の建物である。柱間は，桁行1.4m～2.8m前後，梁行1.8mとなっている。柱穴は梁行の1か所を除いて検出された。

柱穴掘形は，径0.2m～0.3mの円形のものが中心である。

図示可能な遺物は出土しなかった。

#### IVSB-001（第174図，図版45）

IVSB-001は調査区中央西，C8-45グリッドに位置する掘立柱建物跡である。建物規模は，桁行3間（7.6m），梁行2間（4.4m）で，四面廂を有する建物である。桁行方位はN-72°-Eとなる東西棟の建物である。柱間は，桁行1.8m～3.0m前後，梁行2.2mとなっている。柱穴は，全ての側柱と四面廂を検出できた。

柱穴掘形は，径0.3m～0.5mの円形のものが中心である。柱穴掘形の覆土は，黄褐色粘土ブロック層と暗褐色粘土層が交互に堆積している。柱痕跡は，径0.2mのものが1か所見られた。

図示可能な遺物は出土しなかった。

#### IVSB-003（第175図，図版45）

IVSB-012は調査区中央西，C8-38グリッドに位置する掘立柱建物跡である。東でIVSB-001と中央でIVSB-002と直角方向に重複する。建物規模は，桁行5間（9.4m），梁行2間（3.6m），桁行方位はN-74°-Eとなる東西棟の建物である。柱間は，桁行1.7m～1.9m前後，梁行3.6mとなっている。柱穴の検出は，梁行方向に2か所の柱穴を確認することができなかった。

柱穴掘形は，径0.3m前後の円形のものが存在する。

図示可能な遺物は白磁皿が1片出土した。

#### IVSB-002（第176図，図版45）

IVSB-002は調査区中央西，D8-40グリッドに位置する掘立柱建物跡である。南西でIVSB-004と重複する。建物規模は，桁行5間（9.6m），梁行2間（3.6m），桁行方位はN-22°-Eとなる南北棟の建物である。柱間は，桁行1.8m～2.0m前後，梁行1.8mとなっている。柱穴の検出は，全ての側柱を確認することができた。



III SD-006

IVSD-005

E8-00

IVSD-007

D8-00

IVSE-004  
IVSB-007

IVSE-003

C8-00

IVSB-001

IVSB-003

IVSB-002

IVSD-007

IVSD-011

IVSB-004

D9-00

E9-00

IVSB-005

IVSE-007

C9-00

IVSE-005

IVSB-006

IVSE-002

IVSE-001

IVSK-002

C10-00

ISD-045

ISD-046

ISD-043

ISD-039

ISD-019

ISD-049

ISE-018

ISE-019

ISD-044

ISE-017

ISD-048

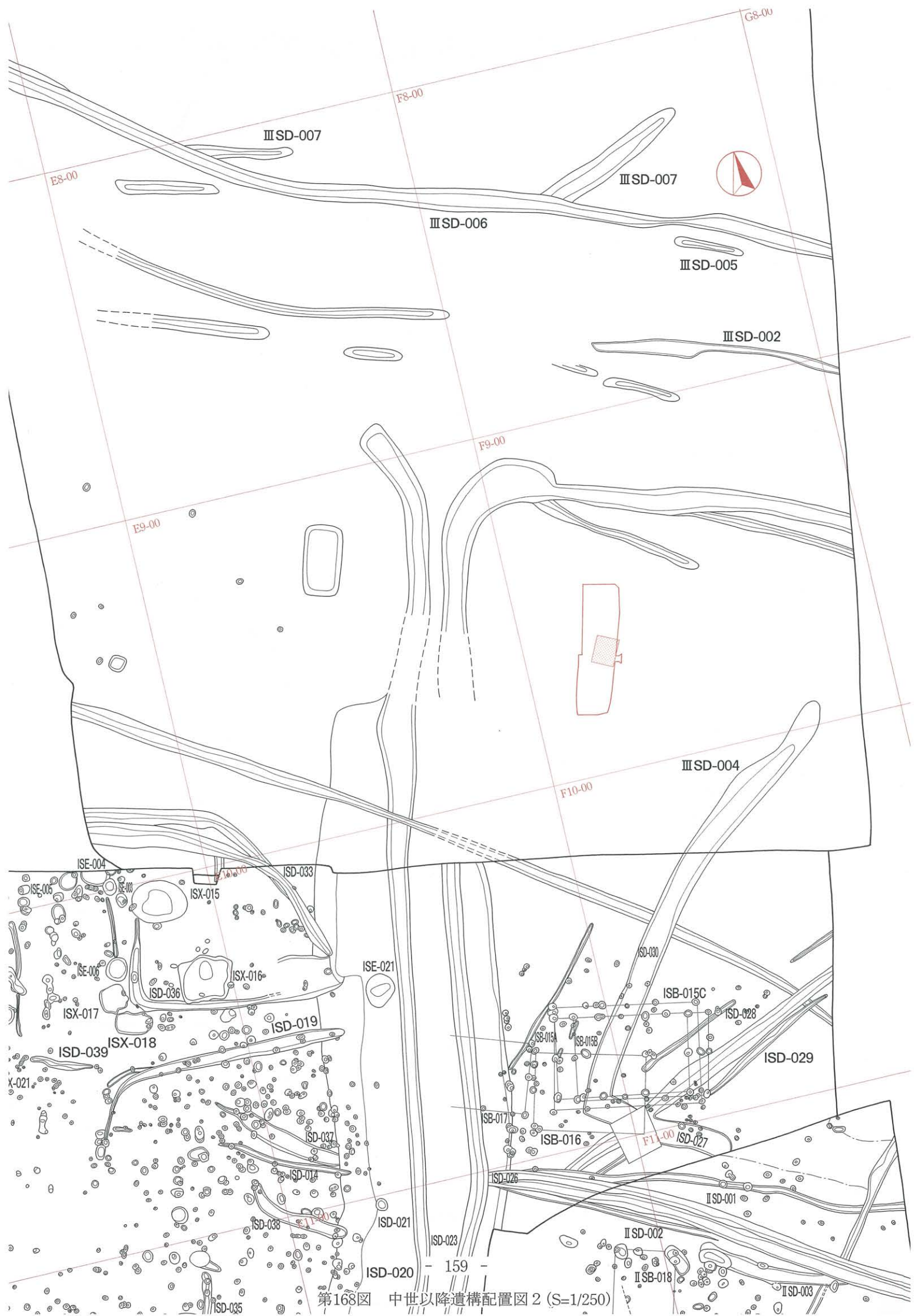
第167图 中世以降遺構配置図1(S=1/250)

ISD-050

ISD-047

ISD-035

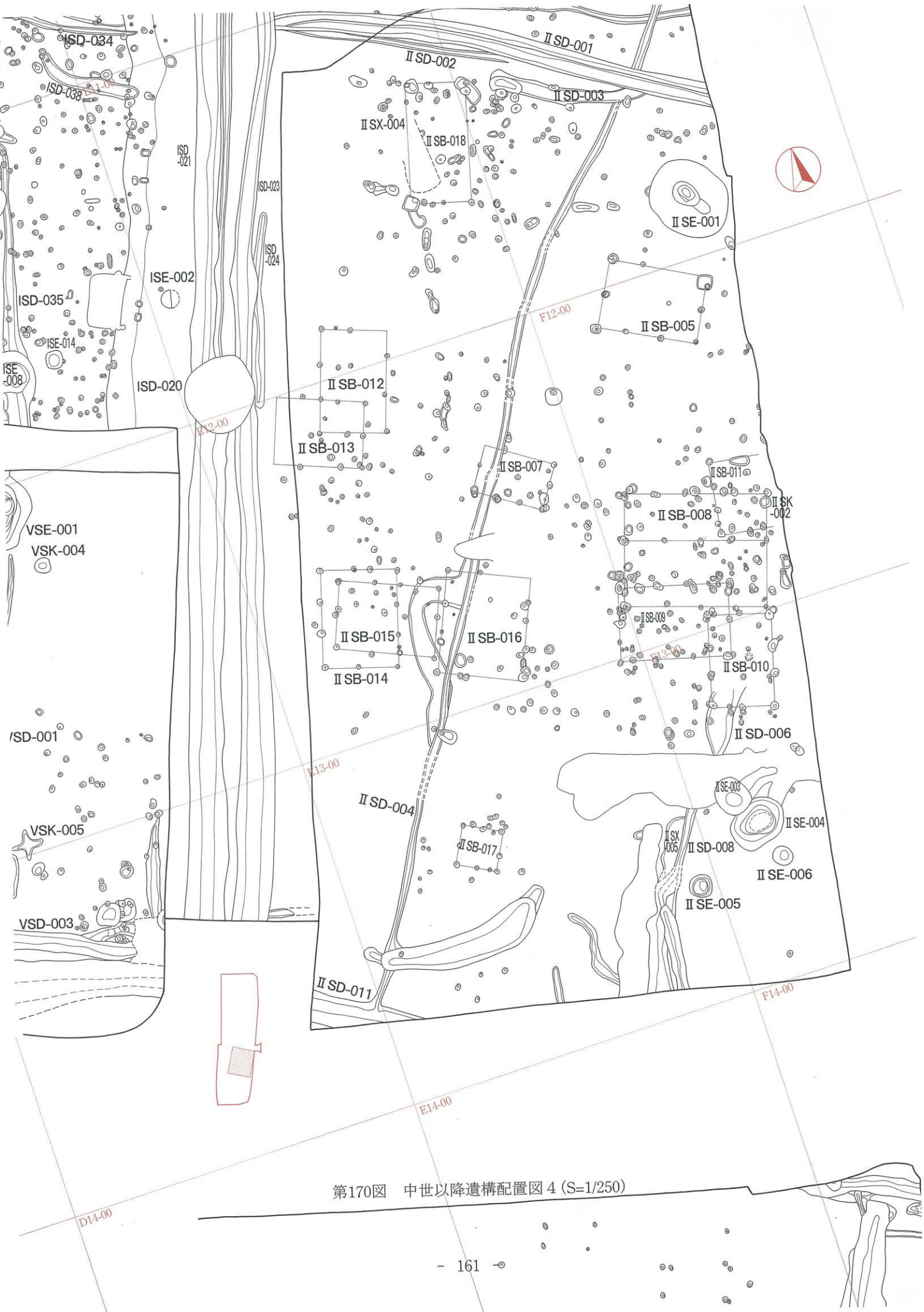




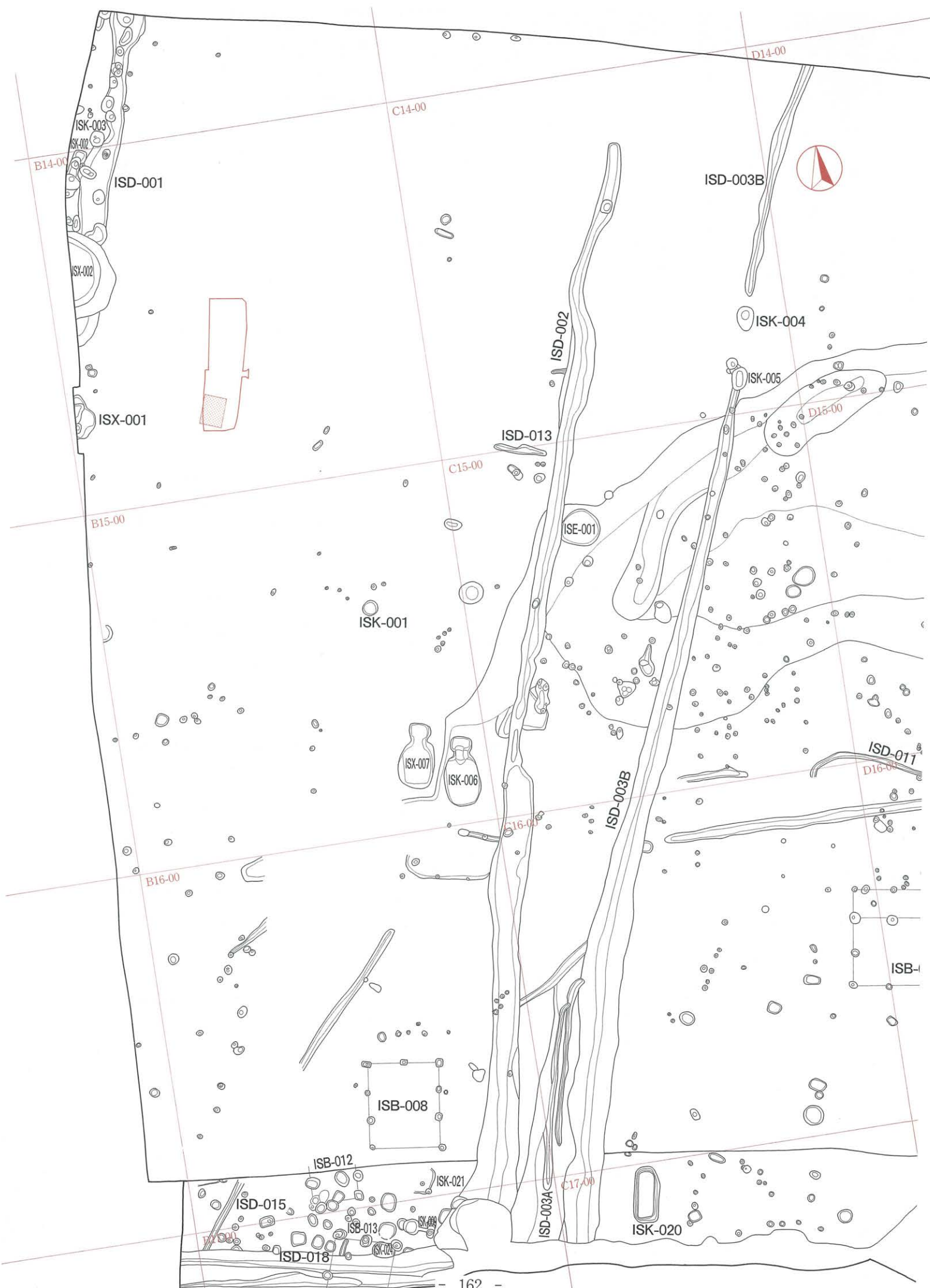
第168图 中世以降遺構配置図2 (S=1/250)



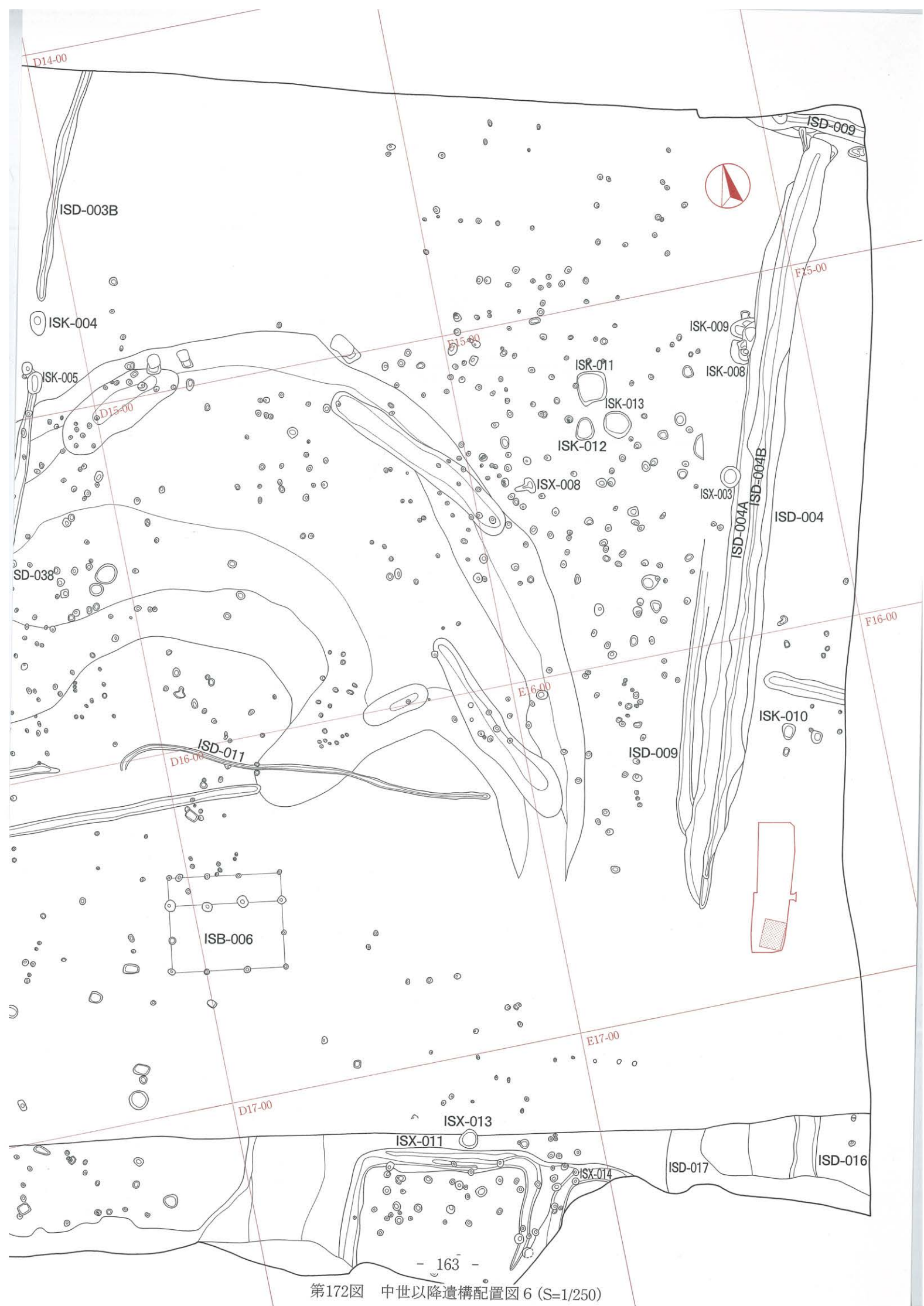
第169図 中世以降遺構配置図3 (S=1/250)



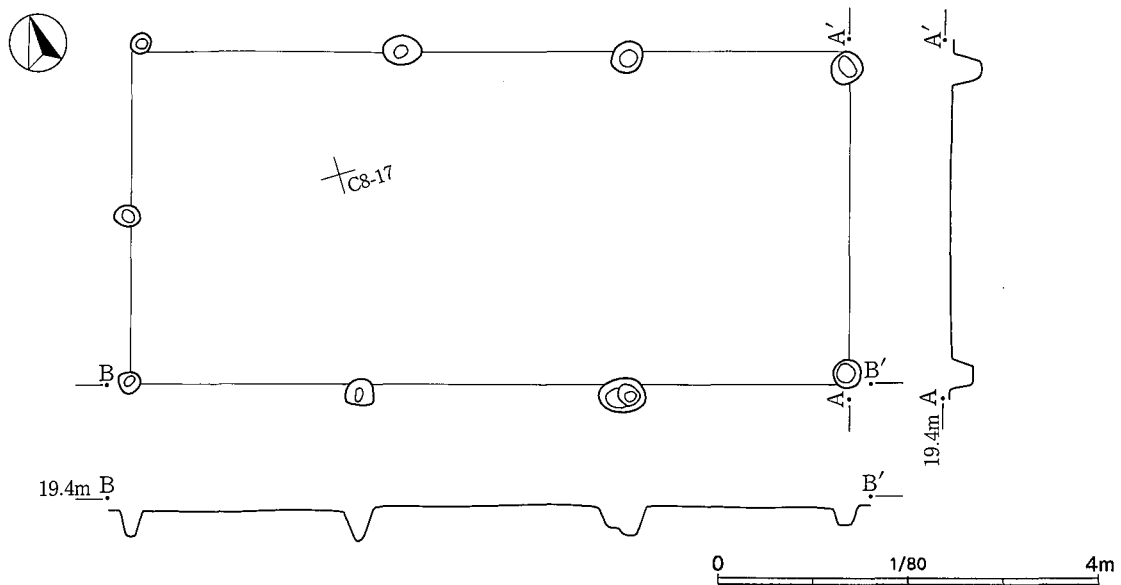
第170図 中世以降遺構配置図4 (S=1/250)



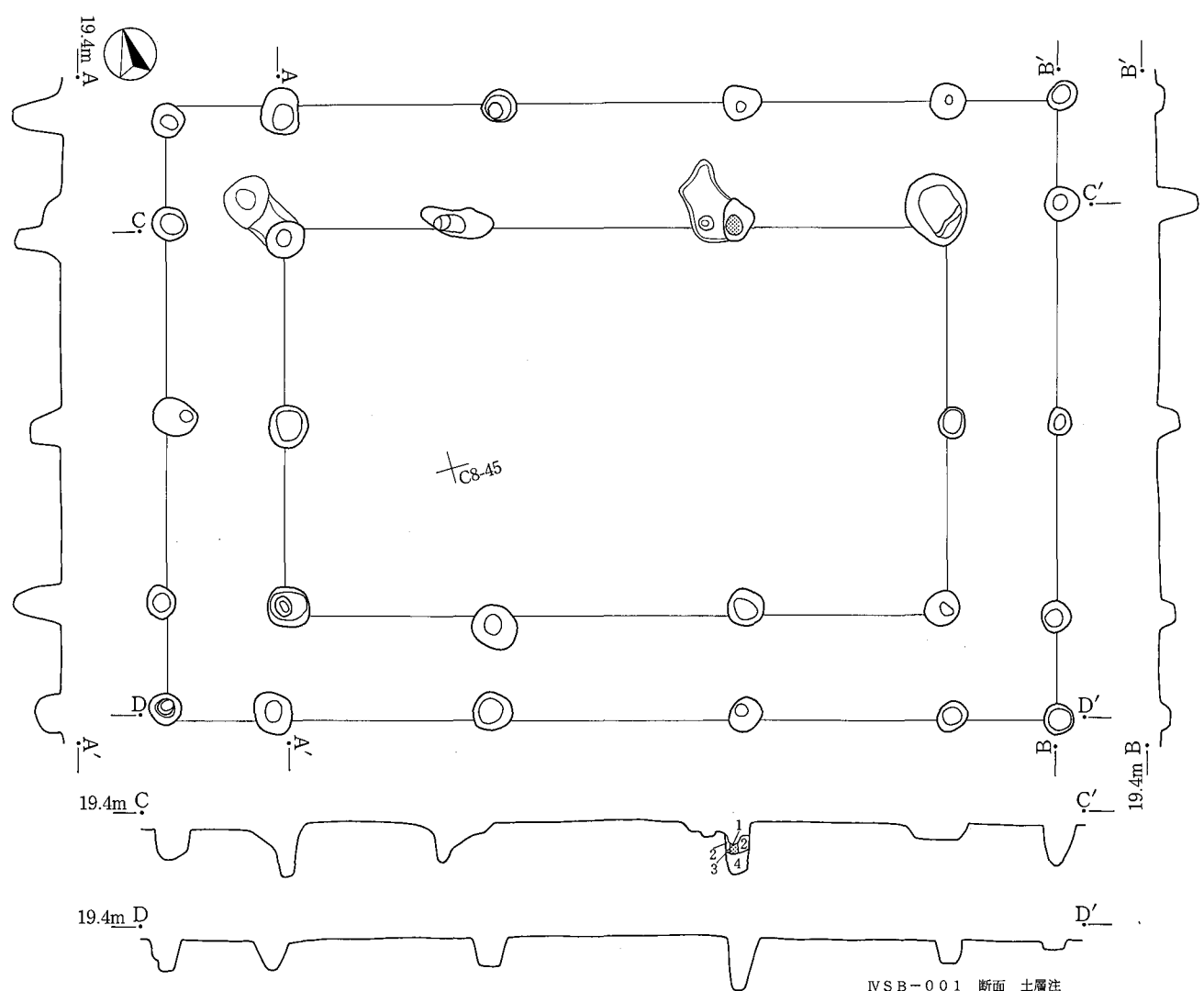
第171図 中世以降遺構配置図5 (S=1/250)



第172図 中世以降遺構配置図6 (S=1/250)

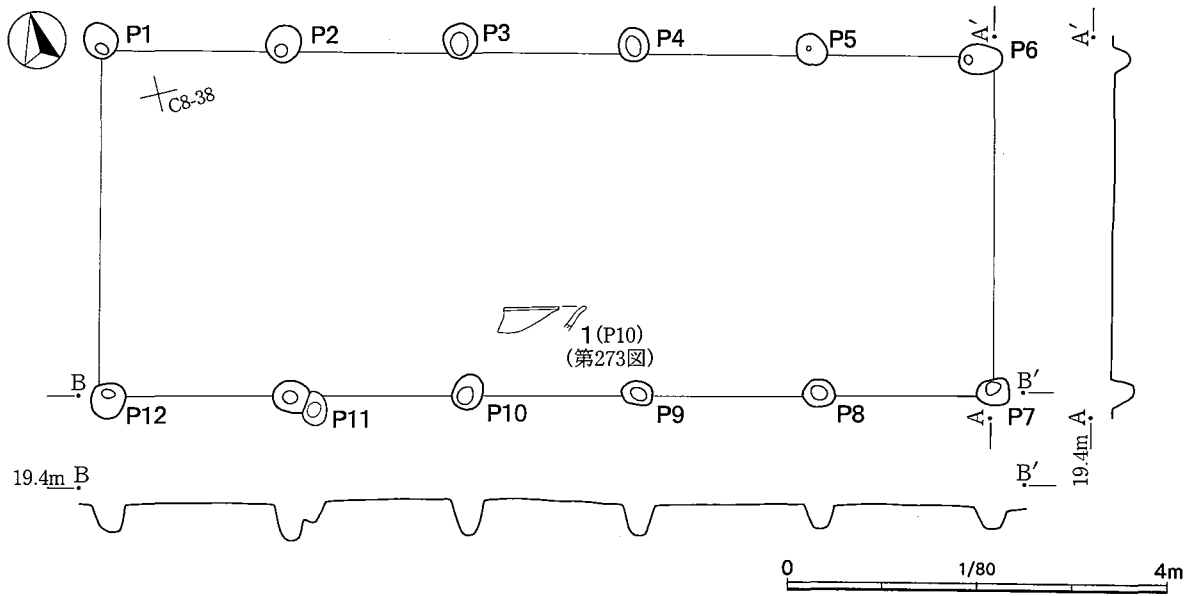


第173図 IVSB-007

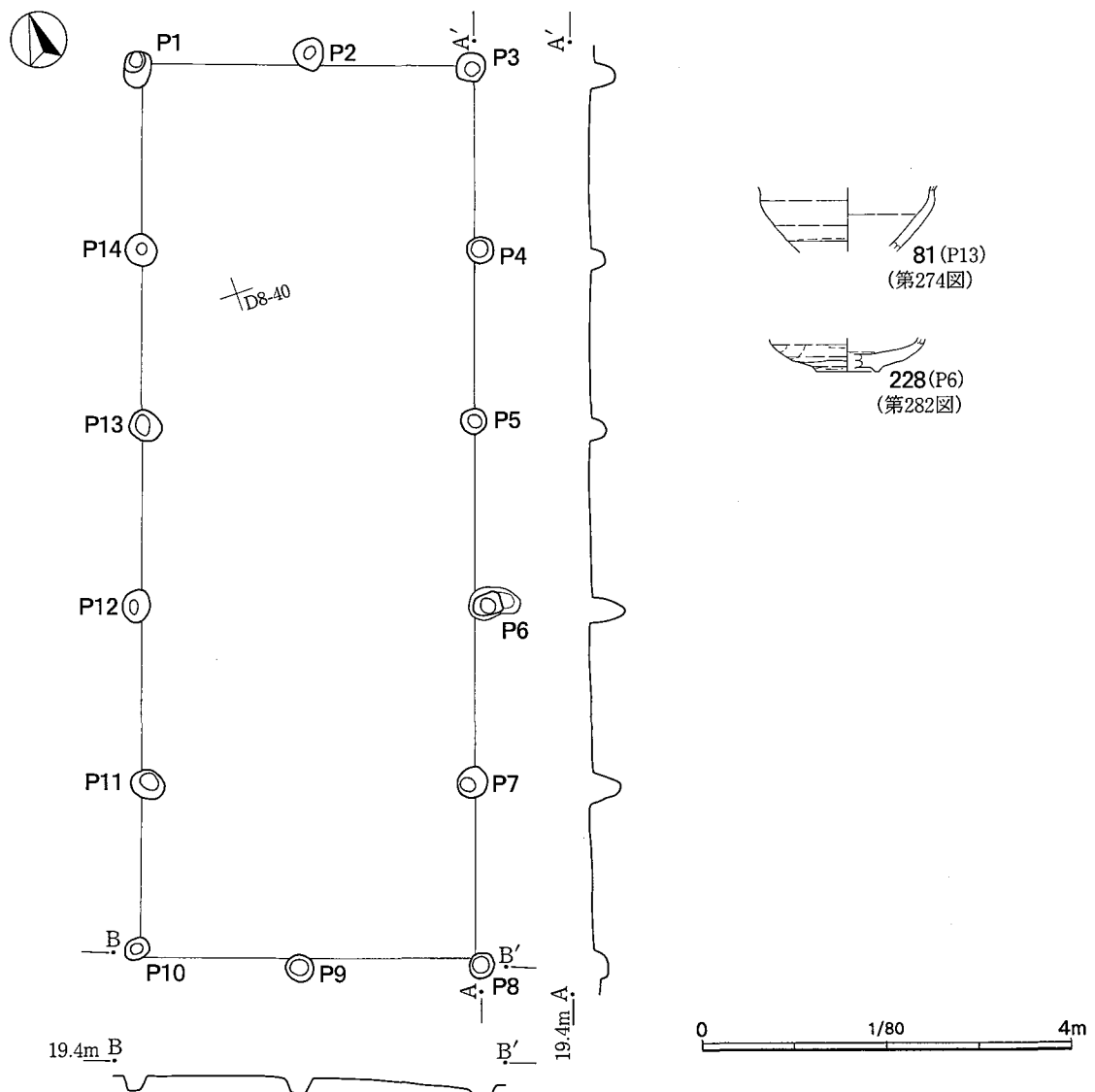


- IVSB-001 断面 土層注
- 1 黒灰色土層(柱痕跡)炭化粒子を多く含む
  - 2 黄褐色粘土ブロック層
  - 3 暗黄褐色粘土ブロック層
  - 4 黒褐色土層

第174図 IVSB-001



第175図 IVSB-003と出土遺物



第176図 IVSB-002と出土遺物

柱穴掘形は、径0.2m前後の円形のもの揃う。

図示可能な遺物は瀬戸・美濃天目茶碗と唐津の皿が出土した。

#### IVSB-004 (第177図, 図版45)

IVSB-004は調査区中央西、C8-78グリッドに位置する掘立柱建物跡である。北西端でIVSB-001と南東隅でIVSB-005と重複する。建物規模は、桁行3間(5.8m)、梁行2間(4.0m)、桁行方位はN-72°-Eとなる南北棟の建物である。柱間は、桁行1.8m～2.0m前後、梁行1.5m～2.6mとなっている。柱穴の検出は、梁行の柱穴1か所を確認することができなかった。

柱穴掘形は、径0.3m～0.4mの円形のもの存在する。

図示可能な遺物は出土しなかった。

#### IVSB-006 (第178図, 図版45)

IVSB-006は調査区中央西、C9-18グリッドに位置する掘立柱建物跡である。大部分IVSB-005と重複する。建物規模は、桁行3間(6.2m)、梁行2間(3.7m)、桁行方位はN-22°-Eとなる南北棟の建物である。柱間は、桁行2.0m～2.1m前後、梁行1.6m～2.1mとなっている。柱穴の検出は、桁行の柱穴1か所を確認することができなかった。

柱穴掘形は、径0.3m～0.4mの円形のもの存在する。

図示可能な遺物は瀬戸・美濃播鉢片が出土した。

#### IVSB-005 (第179図, 図版45)

IVSB-005は調査区中央西、C9-08グリッドに位置する掘立柱建物跡である。建物規模は、桁行4間、梁行2間(5.7m)、桁行方位はN-23°-Eとなる南北棟の建物である。柱間は、桁行2.1m、梁行1.6m～2.0mとなっている。建替えのため軸上に他の柱穴が存在し、また、柱の重複も見られる。

柱穴掘形は、径0.2m～0.4mの円形のもの存在する。

図示可能な遺物は砥石が1点出土した。

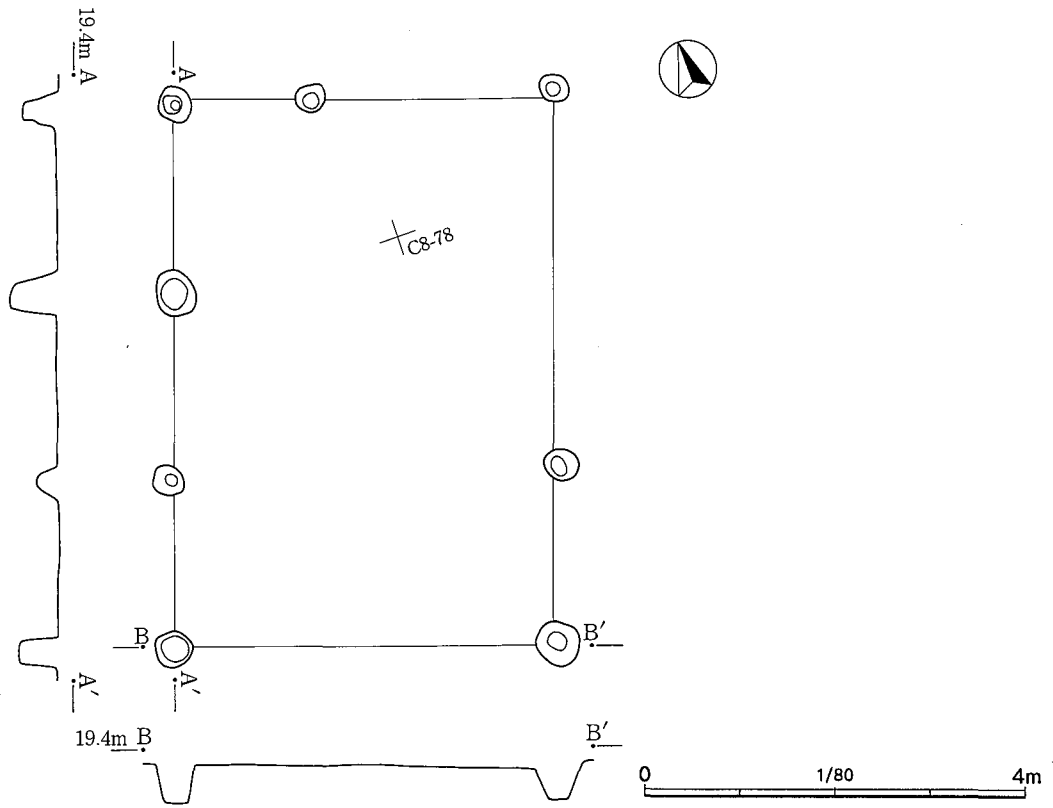
#### ISB-017 (第180図)

ISB-017は調査区中央東、E10-76グリッドに位置する掘立柱建物跡である。建物規模は、桁行3間(推定)、梁行2間(4.0m)、桁行方位はN-70°-Eとなる東西棟の建物である。柱間は、桁行2.4m、梁行1.6m～1.8mとなっている。柱穴の検出は、溝に削平されるため西側の柱穴を確認することができなかった。

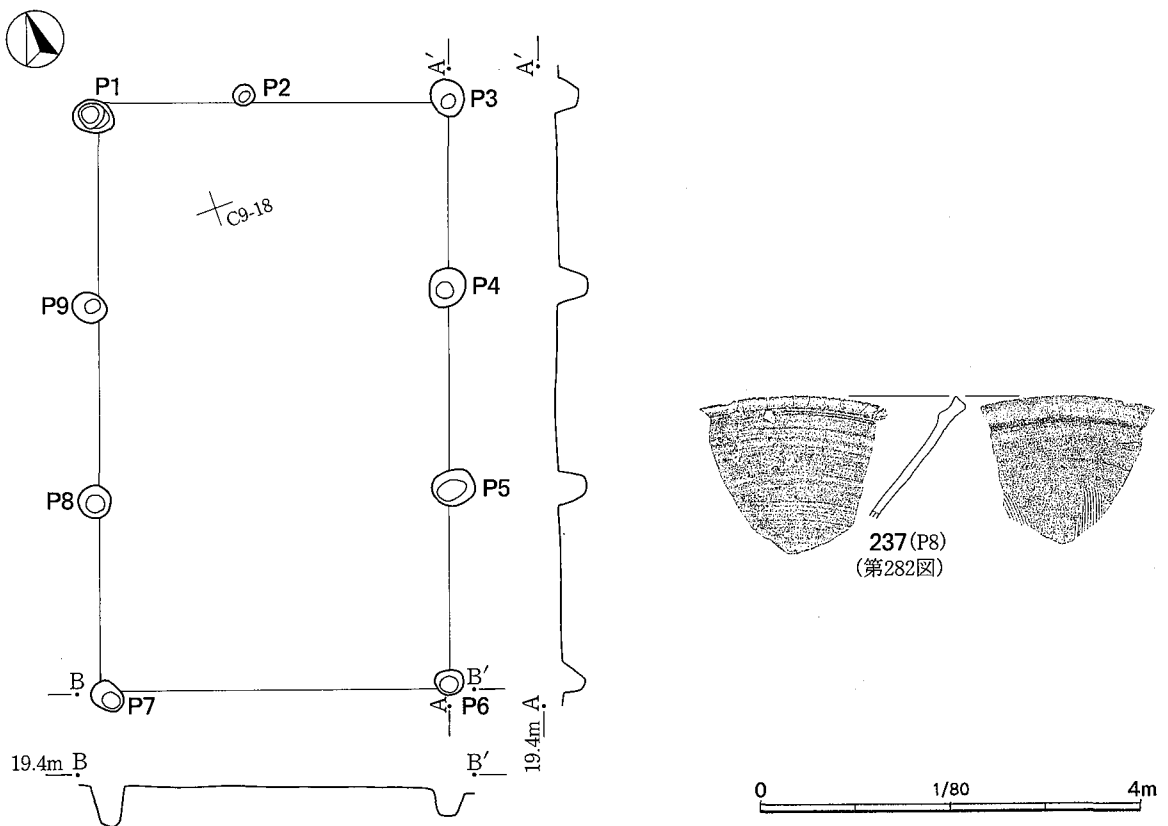
柱穴掘形は、径0.2m～0.5mの円形のもの存在する。柱穴掘形の覆土は、黄色砂質ブロック層と黒褐色粘質土層が交互に堆積している。柱痕跡は、径0.1mのものが1か所の柱穴でみられた。

図示可能な遺物は出土しなかった。

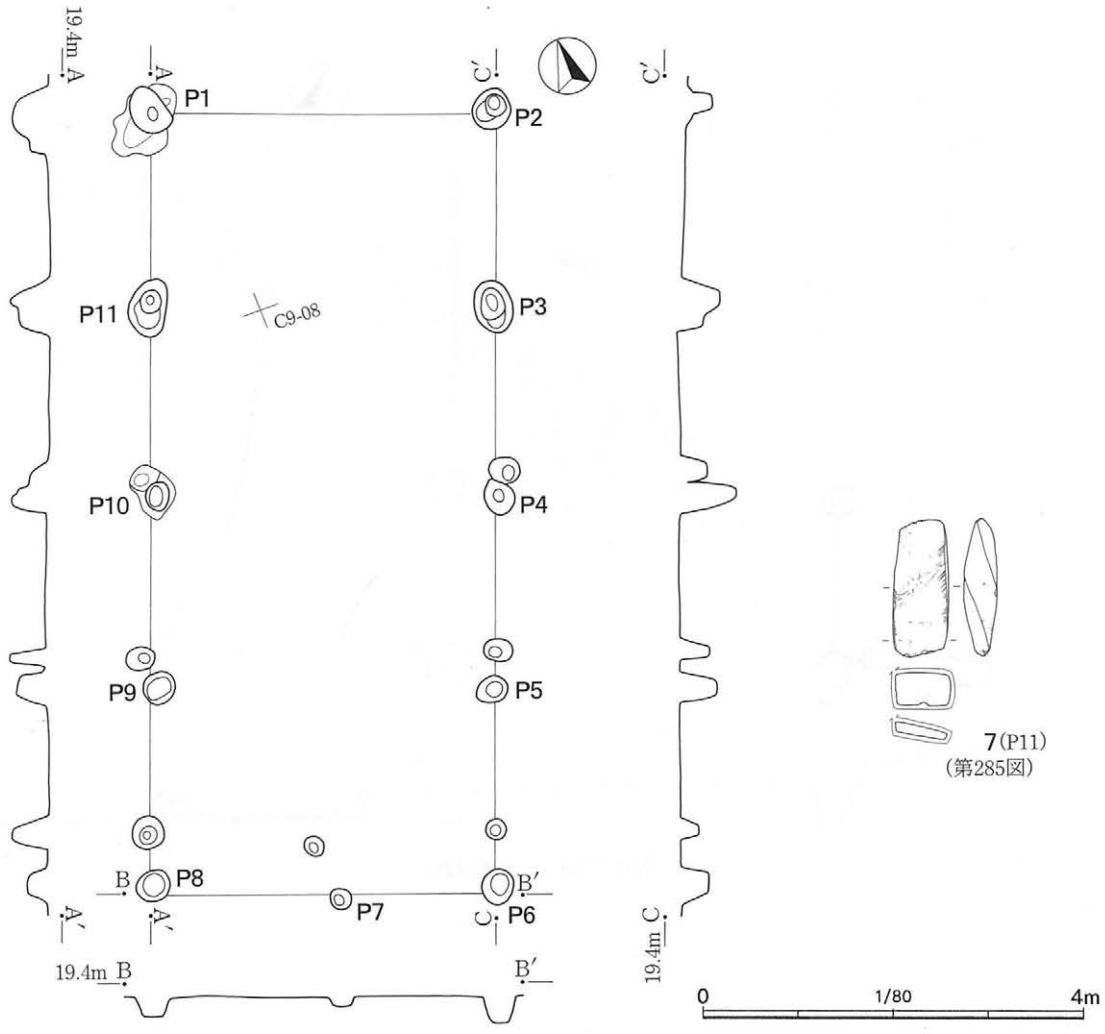




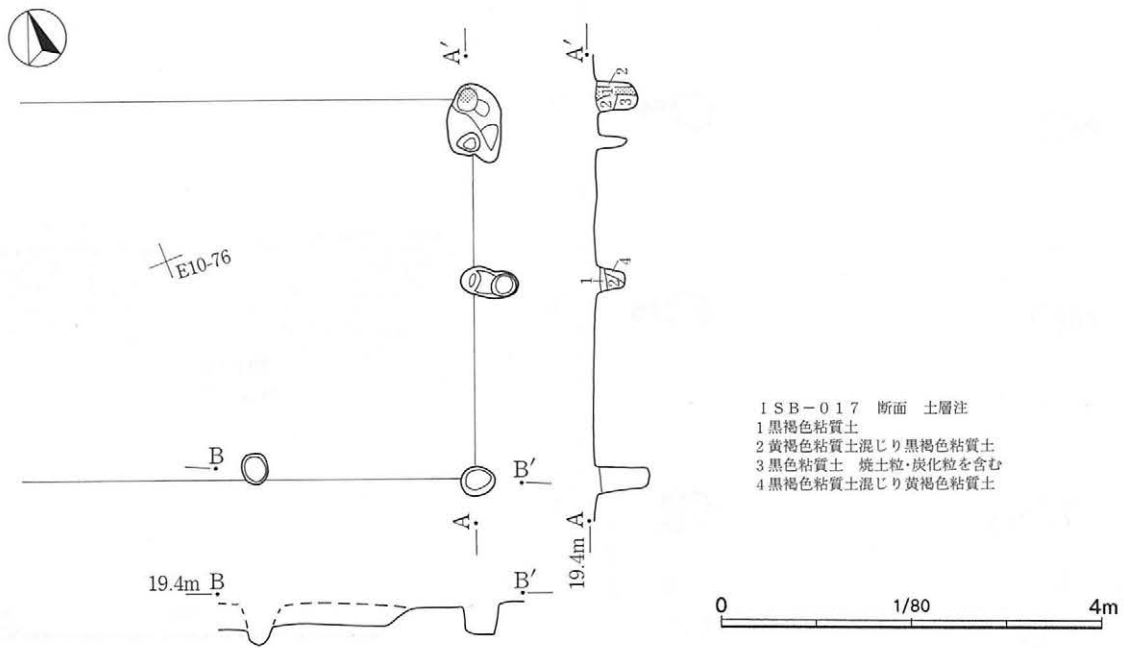
第177図 IVSB-004



第178図 IVSB-006と出土遺物



第179図 ISB-005と出土遺物



第180図 ISB-017

#### I SB-015A (第181図)

I SB-015Aは調査区中央東、E10-79グリッドに位置する掘立柱建物跡である。I SB-015B、I SB-015Cと建替えにより僅かに移動し、I SB-016とは南西で面積の1/2ほど重複している。建物規模は、桁行4間(7.4m)、梁行2間(4.4m)、桁行方位はN-79°-Eとなる東西棟の建物である。柱間は、桁行2.4m～2.6m前後、梁行2.2m～2.4mとなっている。柱穴の検出は、全ての柱穴を確認することができた。

柱穴掘形は、径0.4m～0.5mの円形のもものが中心となる。柱穴掘形の覆土は、明褐色土層と暗褐色土層が交互に堆積している。柱痕跡は、径0.1m～0.2mのもものが多くの柱穴で見られた。

図示可能な遺物は出土しなかった。

#### I SB-015B (第182図)

I SB-015Bは調査区北部東、F10-70に位置する掘立柱建物跡である。建物規模は、桁行3間(7.3m)、梁行2間(4.6m)、桁行方位はN-78°-Eとなる東西棟の建物である。柱間は、桁行2.4m前後、梁行2.2m～2.3mとなっている。柱穴の検出は、全ての柱穴を確認することができた。

柱穴掘形は、径0.2m～0.3mの円形で小形である。柱穴掘形の覆土は、黄色砂質ブロック層と黒褐色土層が交互に堆積している。柱痕跡は、径0.2m前後のもものがみられた。

図示可能な遺物は青磁碗が1点出土した。

#### I SB-015C (第183図)

I SB-015Cは調査区北部東、F10-79グリッドに位置する掘立柱建物跡である。建物規模は、桁行3間(8.1m)、梁行2間(5.7m)、桁行方位はN-79°-Eとなる東西棟の建物である。柱間は、桁行2.1m～2.9m、梁行2.6m～2.8mとなっている。柱穴の検出は、西側の梁行方向に1か所の柱穴を確認することができなかった。

柱穴掘形は、径0.1m～0.4mの円形で小形である。柱痕跡は、径0.2m～0.3mのもものがみられた。

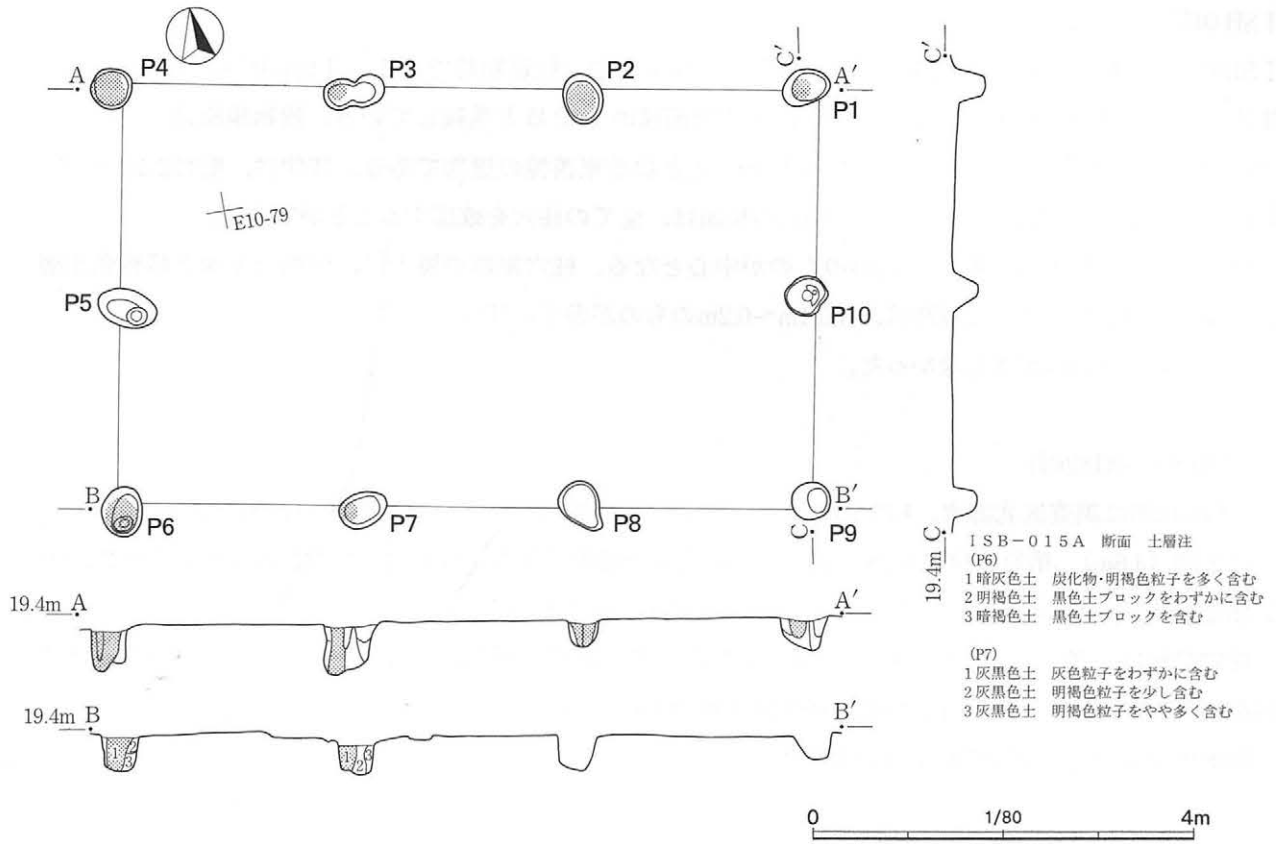
図示可能な遺物は出土しなかった。

#### I SB-016 (第184図)

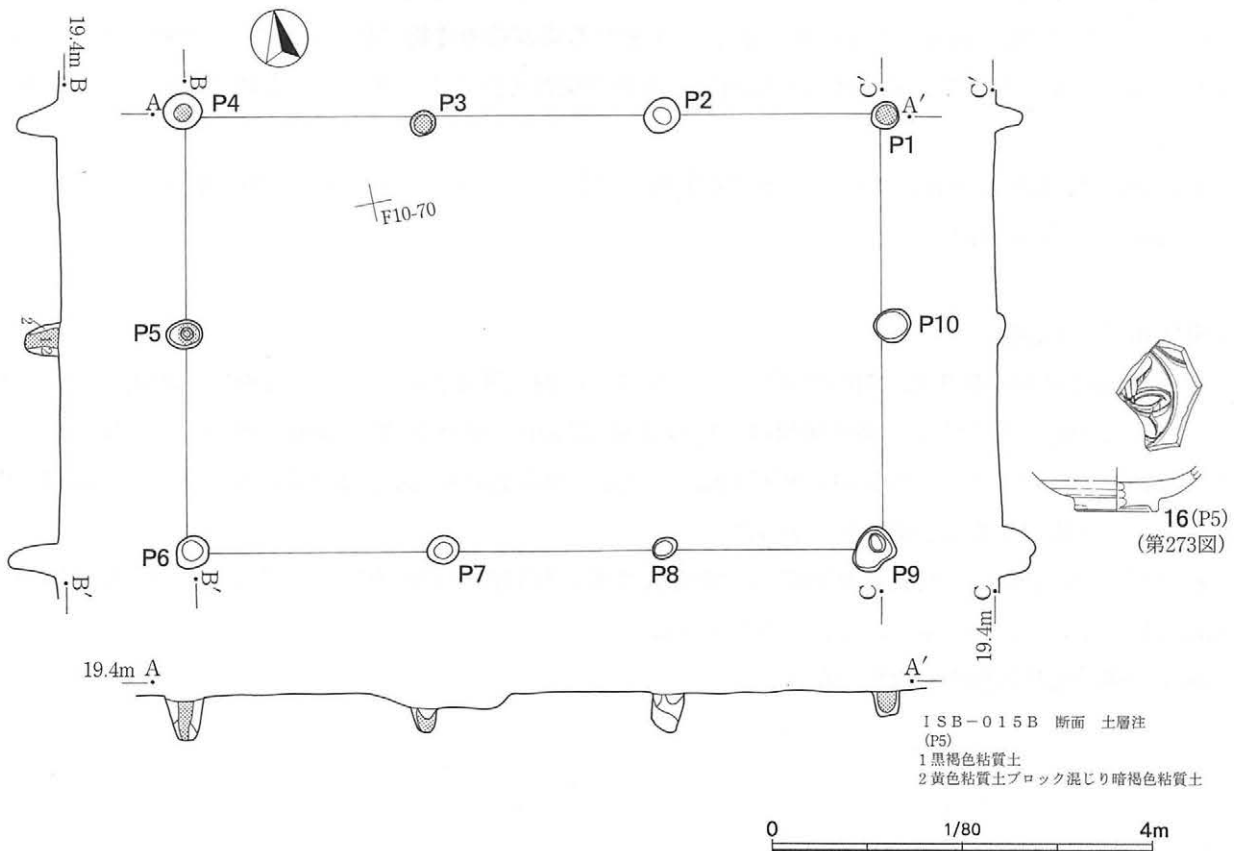
I SB-016は調査区中央東、E10-88グリッドに位置する掘立柱建物跡である。北東でI SB-015A・B・Cと西でI SB-017と重複する。建物規模は、桁行3間(7.3m)、梁行2間(4.3m)、桁行方位はN-78°-Eとなる東西棟の建物である。柱間は、桁行3.2m～3.4m、梁行2.2m～2.4mとなっている。柱穴の検出は、南東隅の柱穴を確認することができなかった。

柱穴掘形は、径0.1m～0.6mの円形のもものが存在する。柱穴掘形の覆土は、灰黒色土と明褐色土層が交互に堆積している。柱痕跡は、確認できなかった。

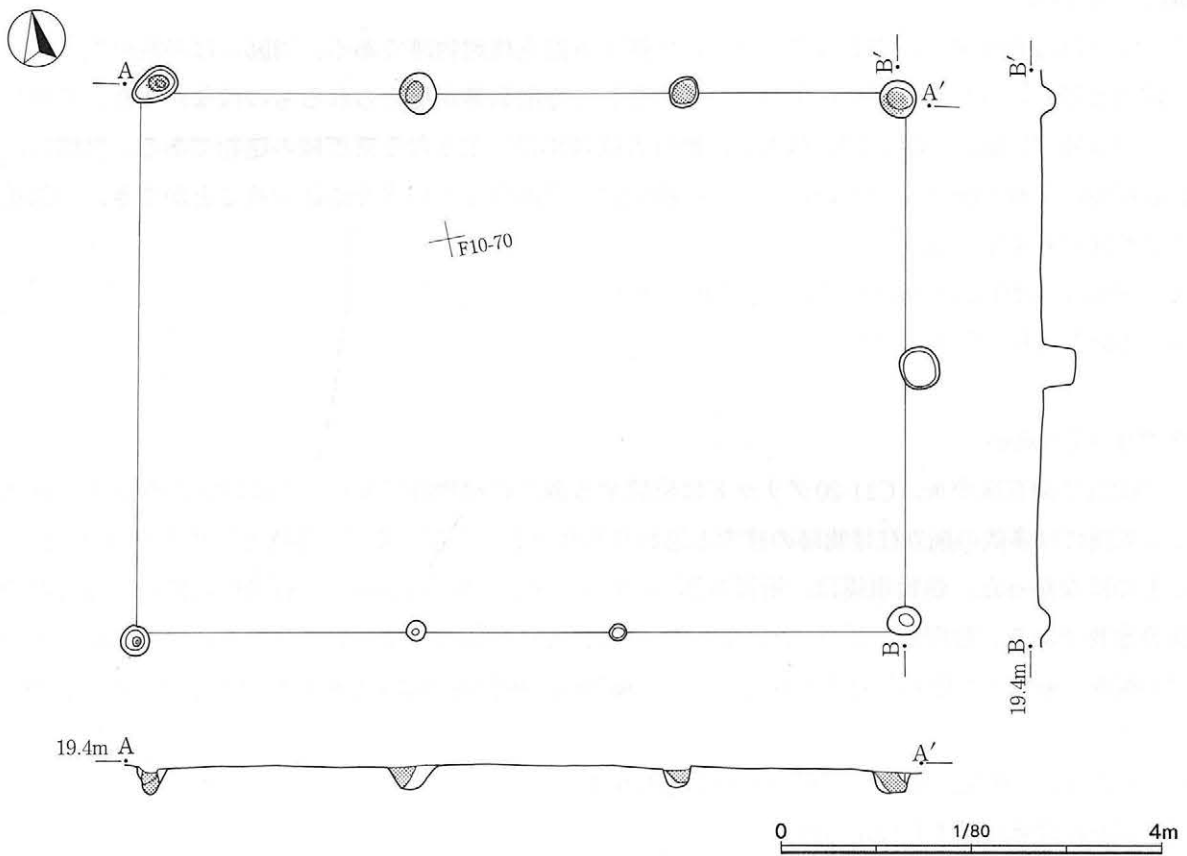
図示可能な遺物は出土しなかった。



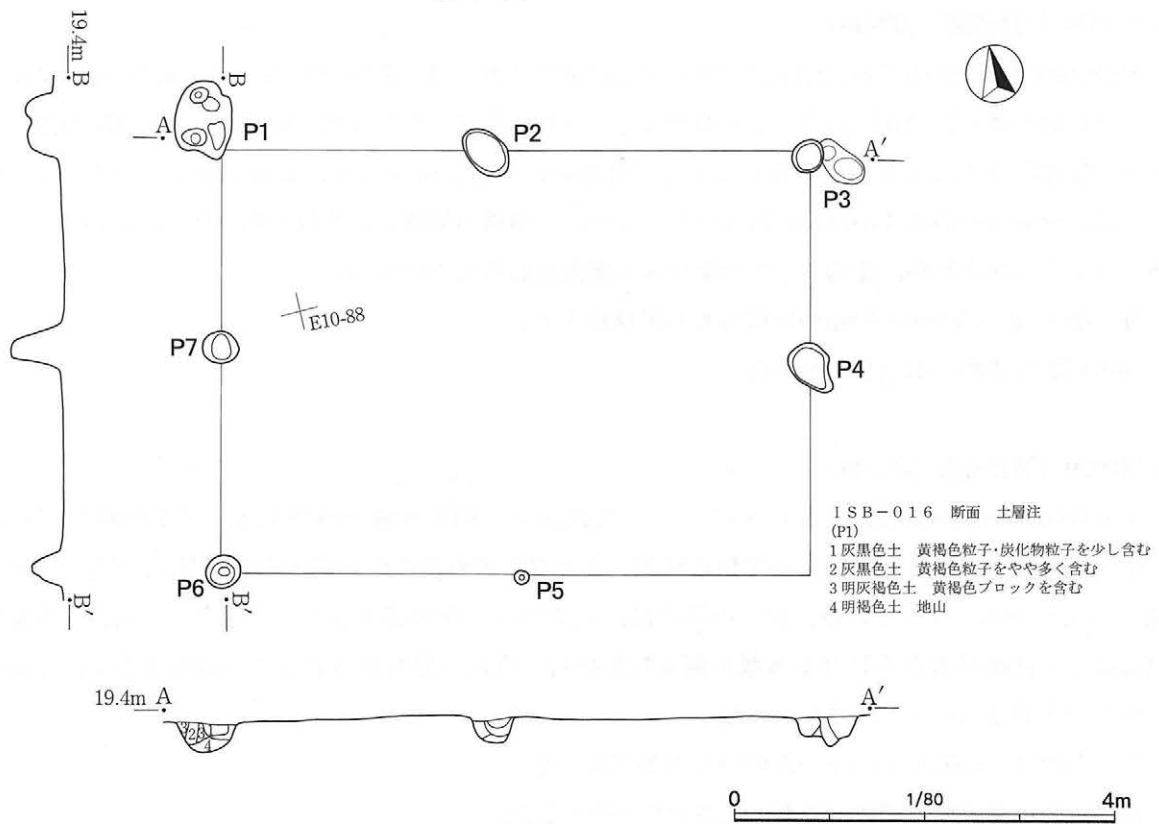
第181図 ISB-015A



第182図 ISB-015Bと出土遺物



第183図 ISB-015C



第184図 ISB-016

#### I SB-018 (第185図)

I SB-018は調査区中央、D11-21グリッドに位置する掘立柱建物跡である。周囲には多数の掘立柱建物跡の柱穴と思われるピットが存在するが、建物としての配列等が捉えられるものはなかった。建物規模は、桁行3間(7.4m)、梁行2間(4.1m)、桁行方位はN-72° -Eとなる東西棟の建物である。柱間は、桁行2.4m前後、梁行2.1mとなっている。柱穴の検出は、斜面全ての柱穴を確認することができ、一部重複している柱穴も存在する。

柱穴掘形は、径0.3m～0.6mの円形のものが存在する。

図示可能な遺物は出土しなかった。

#### I SB-021 (第186図)

I SB-021は調査区中央、C11-20グリッドに位置する掘立柱建物跡である。I SB-018が存在する地区と同様に周囲には多数の掘立柱建物跡の柱穴と思われるピットが存在するが、建物としての配列等が捉えられるものはなかった。建物規模は、桁行3間(6.0m)、梁行2間(3.3m)、桁行方位はN-77° -Eとなる東西棟の建物である。柱間は、桁行1.7m～2.5m、梁行1.4m～1.8mとなっている。また、東側1.6mに2か所柱穴が続き、廂付きの建物と考えられる。柱穴の検出は、桁行方向に1か所の柱穴を確認することができなかった。

柱穴掘形は、径0.2m～0.6mの円形のものが存在する。

図示可能な遺物は出土しなかった。

#### VSB-008 (第187図, 図版46)

VSB-008は調査区南部西、B11-35グリッドに位置する掘立柱建物跡である。南3mにVSB-009が所在する。北西側は調査区域外になり、未調査である。建物規模は、桁行3間(推定)、梁行2間(推定)、桁行方位はN-63° -Eとなる東西棟の建物である。柱間は、桁行2.2m～2.3m、梁行2.2mとなっている。柱穴の検出は、南東を中心に4か所が検出された。なお、本遺構の周囲には多数の掘立柱建物跡の柱穴と思われるピットが存在するが、建物としての配列等が捉えられるものはなかった。

柱穴掘形は、径0.3m～0.6mの円形のものが存在する。

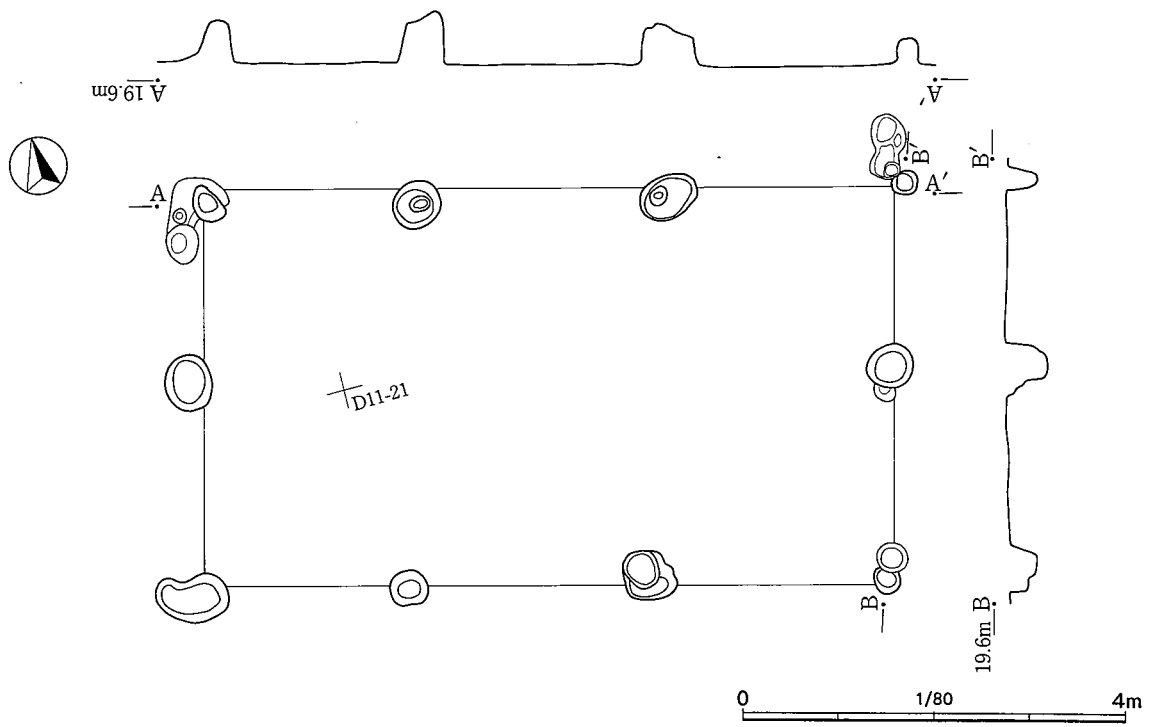
図示可能な遺物は出土しなかった。

#### VSB-009 (第188図, 図版46)

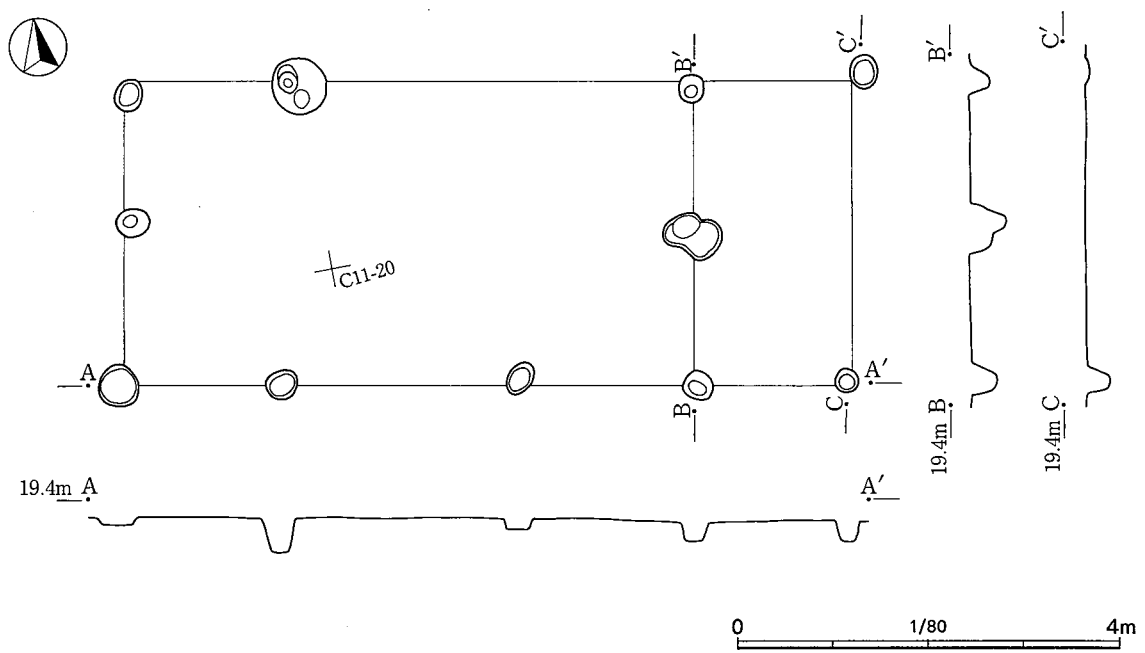
VSB-009は調査区南部西、B11-65グリッドに位置する掘立柱建物跡である。建物規模は、桁行3間(6.4m)、梁行2間(3.9m)、桁行方位はN-72° -Eとなる東西棟の建物である。柱間は、桁行2.0m～2.3m、梁行1.8m～2.0mとなっている。柱穴の検出は、全ての柱穴を確認することができた。なお、本遺構の周囲にはVSB-008付近から延びる多数の掘立柱建物跡の柱穴と思われるピットが存在するが、建物としての配列等が捉えられるものはなかった。

柱穴掘形は、径0.2m～0.4mの円形のものが存在する。

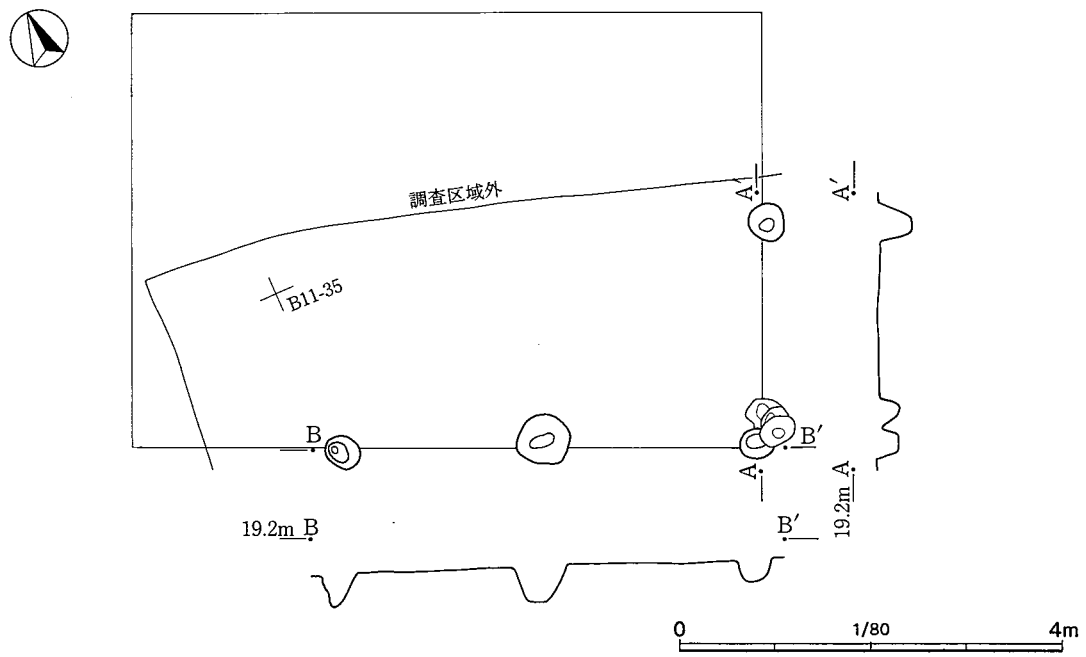
図示可能な遺物は、瀬戸・美濃折縁皿1片が出土した。



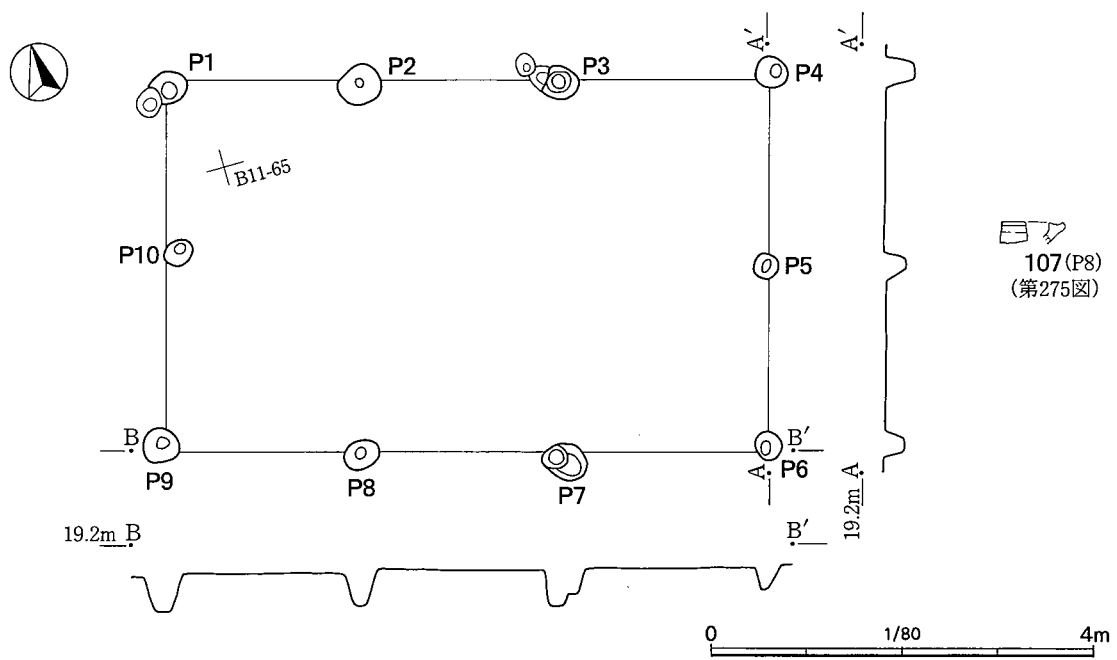
第185図 ISB-018



第186図 ISB-021



第187図 VSB-008



第188図 VSB-009と出土遺物



#### VS-B-010 (第189図, 図版46)

VS-B-010は調査区南部西, B12-17グリッドに位置する掘立柱建物跡である。VS-B-011と大部分の面積を共有している。建物規模は, 桁行3間(5.6m), 梁行2間(3.6m), 桁行方位はN-73° -Eとなる東西棟の建物である。柱間は, 桁行1.6m~1.9m, 梁行1.7m~1.9mとなっている。柱穴の検出は, 全ての柱穴を確認することができた。

柱穴掘形は, 径0.3m×0.8m程の楕円形のもものが中心となる。

図示可能な遺物は出土しなかった。

#### VS-B-011 (第190図, 図版46)

VS-B-011は調査区南部西, B12-14グリッドに位置する掘立柱建物跡である。VS-B-010と重複し, その西側に延びていく。建物規模は, 桁行5間(10.0m推定), 梁行2間(4.6m), 桁行方位はN-73° -Eとなる東西棟の建物である。柱間は, 桁行, 梁行ともに2.2mとなっている。柱穴の検出は, 西隅が調査範囲外のため柱穴を確認することができなかった。

柱穴掘形は, 径0.5m×0.8m程の不整楕円形のもものが中心となる。また, 不整形の柱穴内には柱痕跡のあたりが数か所確認され, 建替えが頻繁に行われた結果と考えられる。

図示可能な遺物は瀬戸・美濃播鉢片と銅製品が出土した。

#### VS-B-012 (第191図, 図版46)

VS-B-012は調査区南部西, B12-24グリッドに位置する掘立柱建物跡である。VS-B-011の1.5m南に同方向に並び, 建物規模も同様に, 桁行5間(10.0m), 梁行2間(4.6m), 桁行方位はN-73° -Eとなる東西棟の建物である。柱間は, 桁行, 梁行ともに2.4mとなっている。柱穴の検出は, 西隅が調査範囲外のため確認することができなかった。

柱穴掘形は, 径0.5m×0.8m程の不整楕円形のもものが中心となり, また, 不整形の柱穴内には柱痕跡のあたりが数か所確認され, 建替えが頻繁に行われた結果と考えられる。

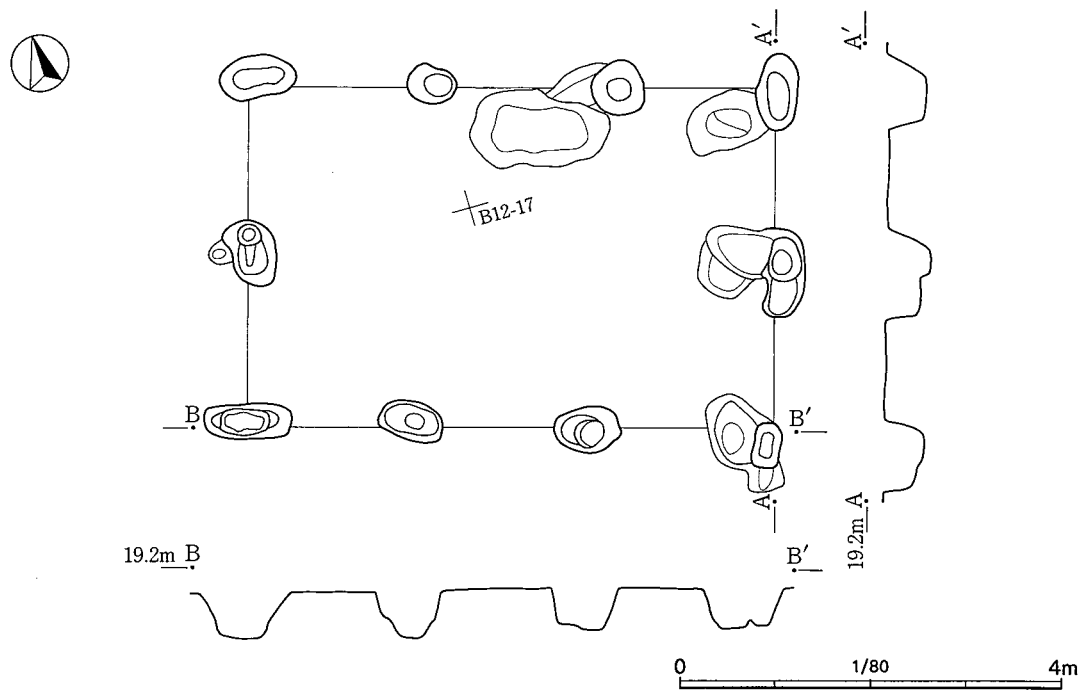
図示可能な遺物は銭貨9点と瀬戸・美濃縁釉小皿片1点が出土した。

#### VS-B-007 (第192図, 図版46)

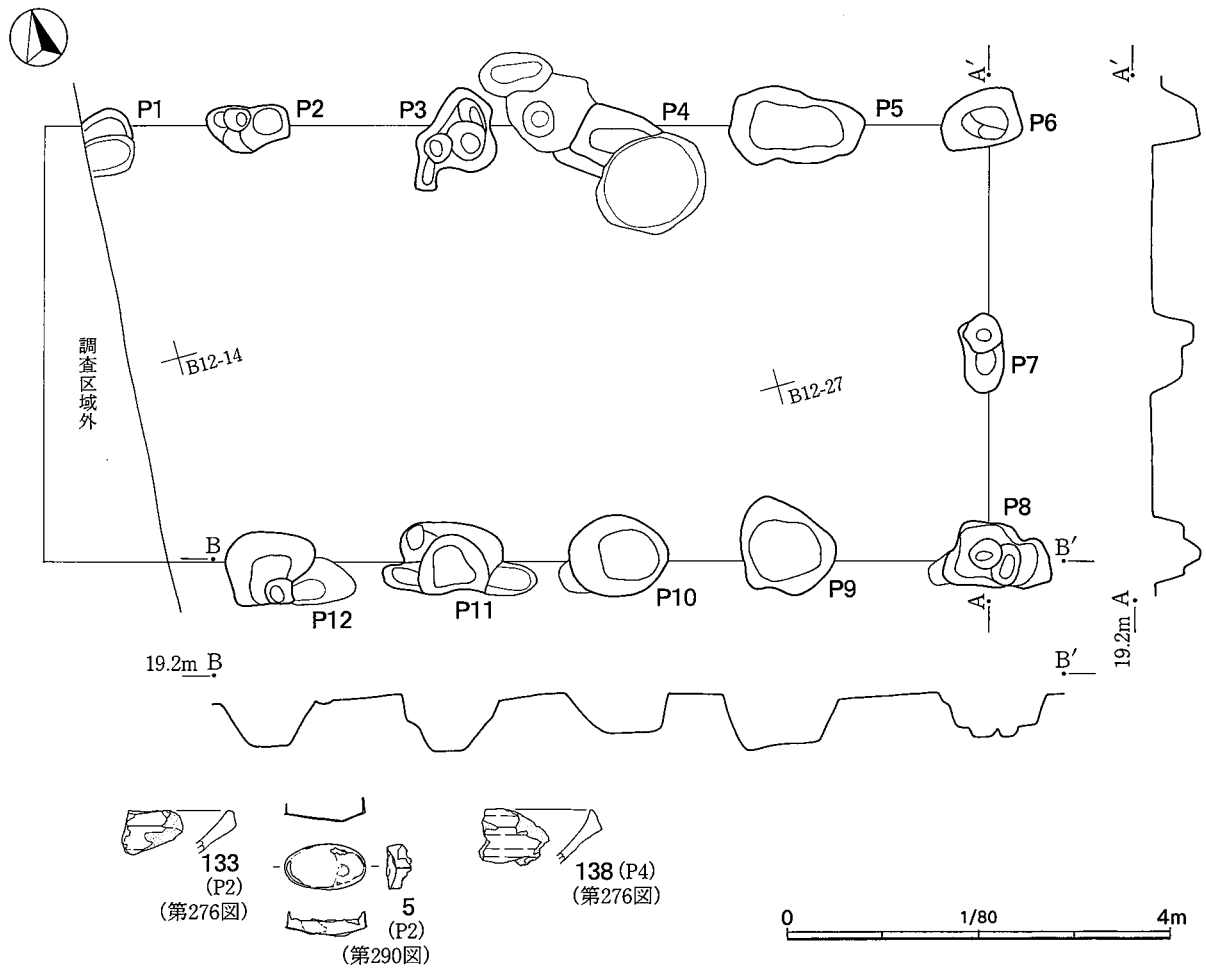
VS-B-007は調査区南部西, C11-88グリッドに位置する掘立柱建物跡である。建物規模は, 桁行3間(6.8m), 梁行2間(3.7m), 桁行方位はN-19° -Eとなる南北棟の建物である。柱間は, 桁行2.0m~2.6m, 梁行1.7m~2.0mとなっている。柱穴の検出は, 北西隅の柱穴を確認することができなかった。

柱穴掘形は, 径0.2m~0.4mの円形のもものが主体である。

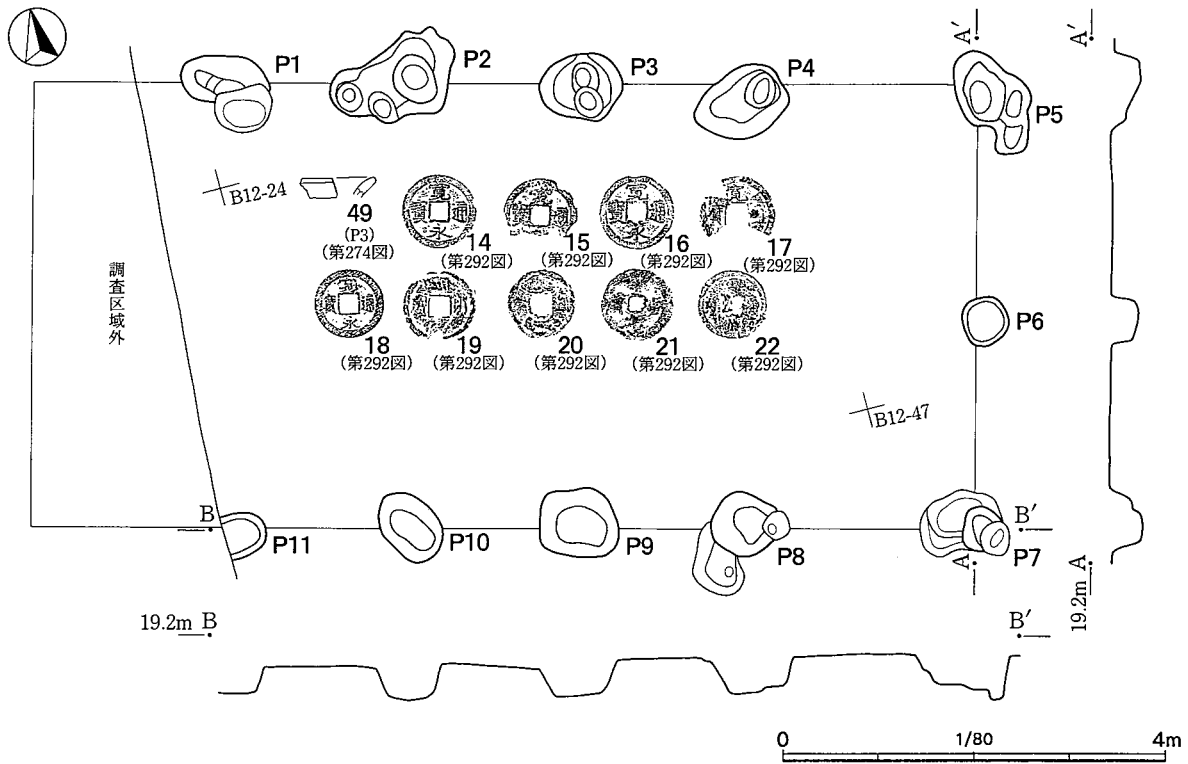
図示可能な遺物は柱穴(P3)底面から宋代の古染付が1点出土した。



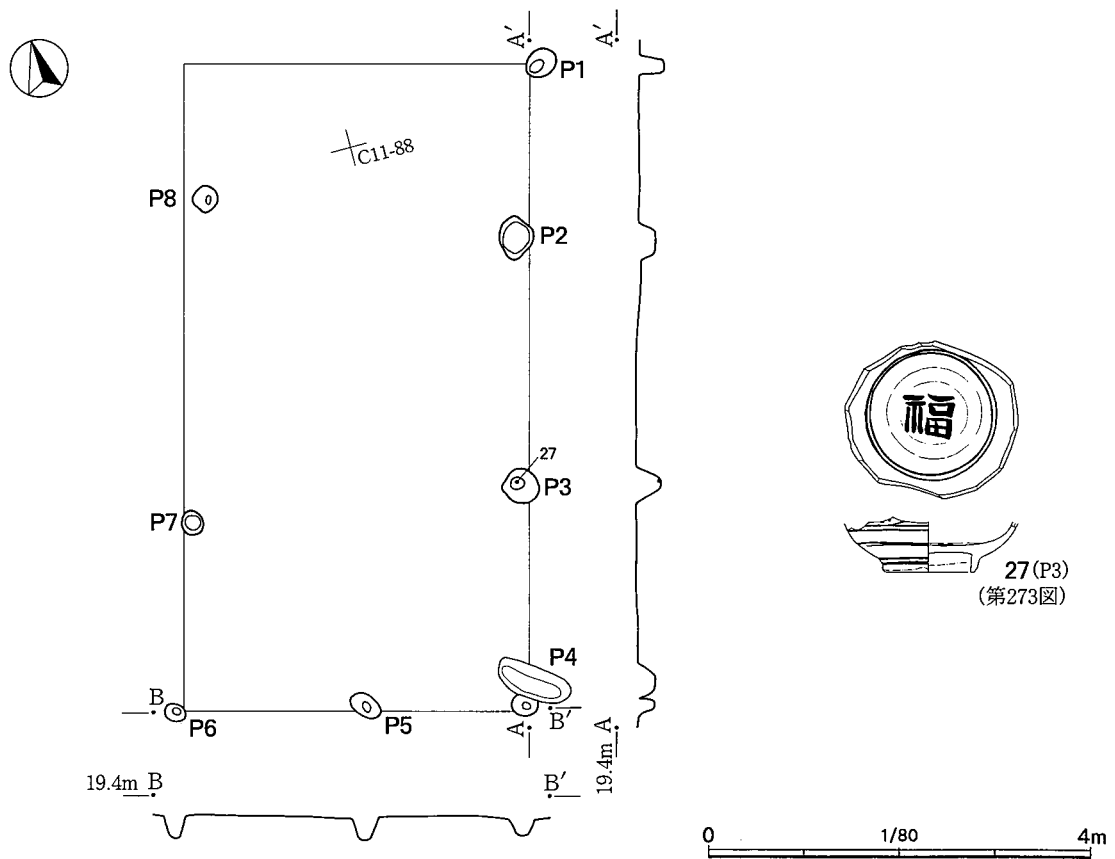
第189図 VSB-010



第190図 VSB-011と出土遺物



第191図 VSB-012と出土遺物



第192図 VSB-007と出土遺物

#### VS-B-006 (第193図, 図版46)

VS-B-006は調査区南部中央, D12-11グリッドに位置する掘立柱建物跡である。建物規模は, 桁行3間(5.5m), 梁行2間(3.9m), 桁行方位はN-74° -Eとなる東西棟の建物である。柱間は, 桁行1.7m~1.9m, 梁行3.9mとなっている。柱穴の検出は, 梁行方向で2か所の柱穴を確認することができなかった。

柱穴掘形は, 径0.3m程の小形の円形のもので主体である。

図示可能な遺物は出土しなかった。

#### VS-B-001 (第194図, 図版47)

VS-B-001は調査区南部中央, C12-37グリッドに位置する掘立柱建物跡である。この付近は南北棟になる桁行の長い建物が数軒集まっている。建物規模は, 桁行5間(10.0m), 梁行2間(4.9m), 桁行方位はN-25° -Eとなる南北棟の建物である。東側2.2mに4か所の柱穴があり, 東廂を有する建物と考えられる。柱間は, 桁行1.8m~2.0m, 梁行2.2m~2.8mとなっている。柱穴の検出は, 桁行方向に2か所の廂2か所が検出されなかった。

柱穴掘形は, 径0.35m~0.5mの円形のもので存在する。

図示可能な遺物は出土しなかった。

#### VS-B-002 (第195図, 図版47)

VS-B-002は調査区南部中央, C12-48グリッドに位置する掘立柱建物跡である。建物規模は, 桁行5間(9.7m), 梁行2間(5.0m), 桁行方位はN-20° -Eとなる南北棟の建物である。柱間は, 桁行1.8m前後, 梁行2.4mとなっている。柱穴の検出は, 全ての柱穴を確認することができた。

柱穴掘形は, 径0.2m~0.4mの円形のもので主体であり, 楕円形のもので建替えのため重複した結果と考えられる。

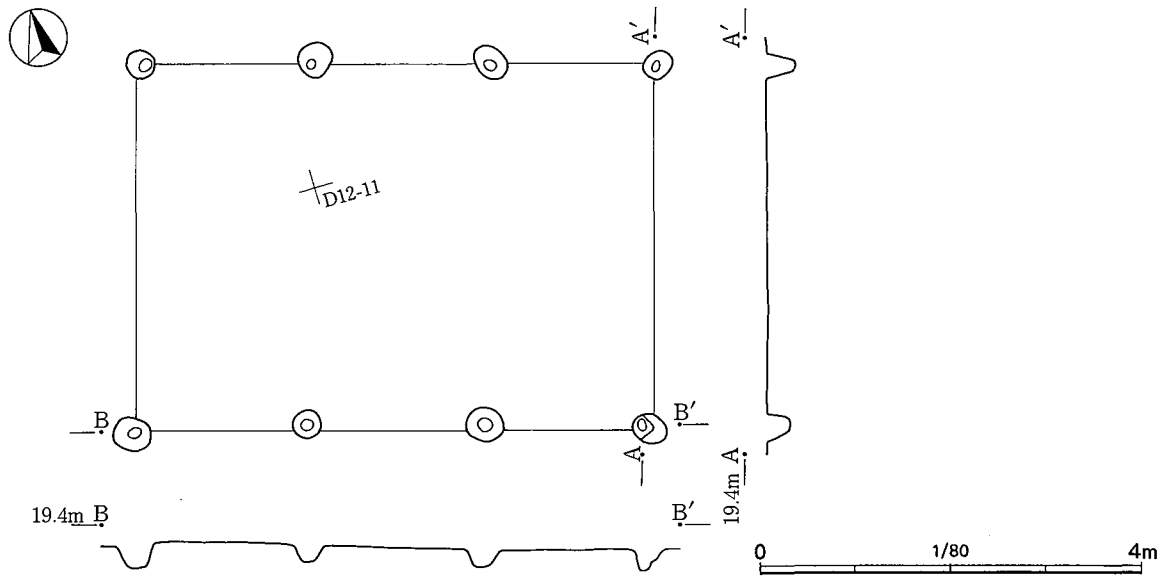
図示可能な遺物は瀬戸・美濃播鉢の破片1点が出土した。

#### VS-B-003 (第196図, 図版47)

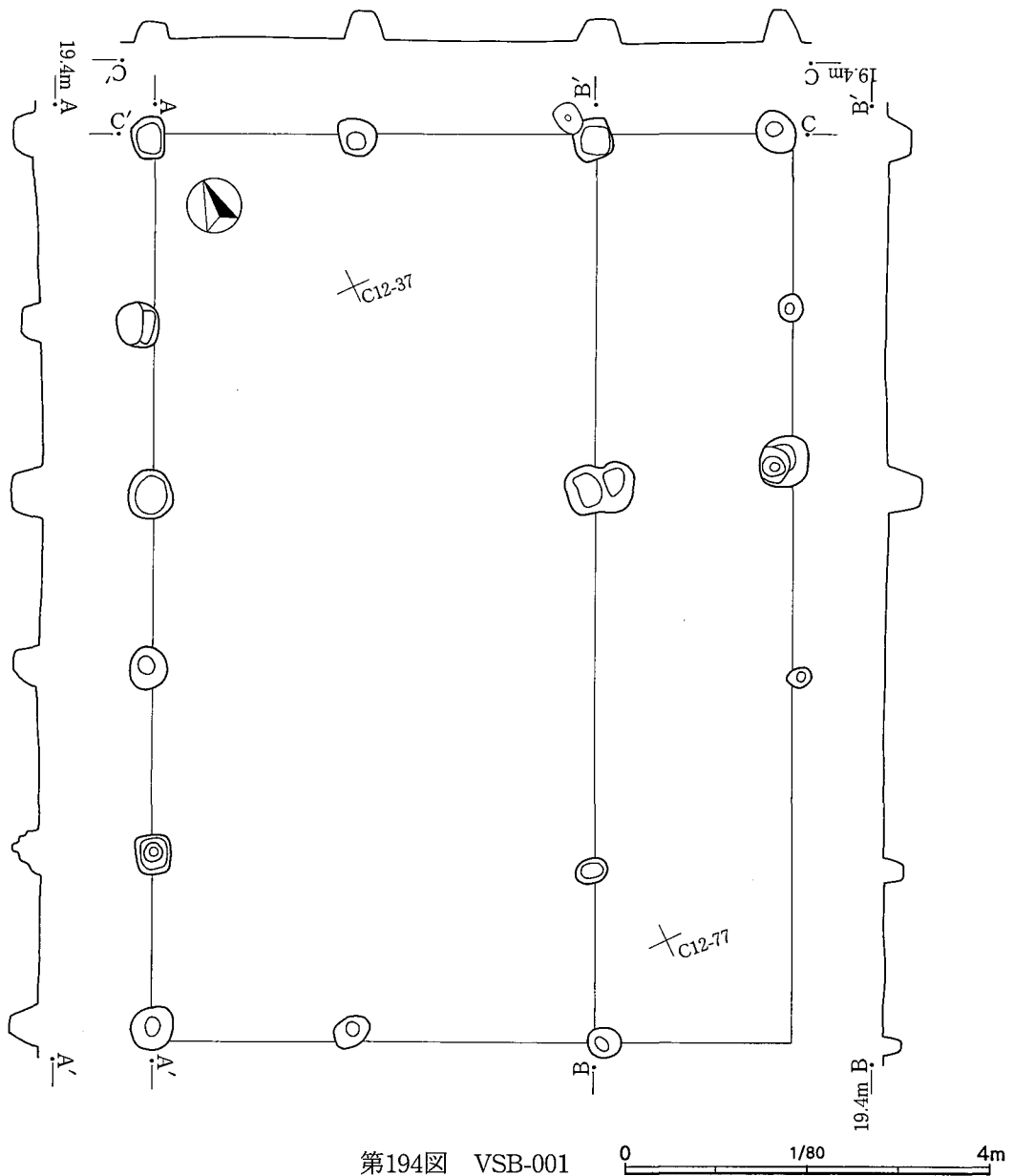
VS-B-003は調査区南部中央, C12-30グリッドに位置する掘立柱建物跡である。建物規模は, 桁行5間(10.3m), 梁行2間(4.8m), 桁行方位はN-14° -Eとなる南北棟の建物である。柱間は, 桁行2.0m前後, 梁行2.2m~2.6mとなっている。柱穴の検出は, 南側で軸上に2個ずつ検出され, 重複した結果と考えられる。

柱穴掘形は, 径0.2m~0.5mの円形のもので存在する。

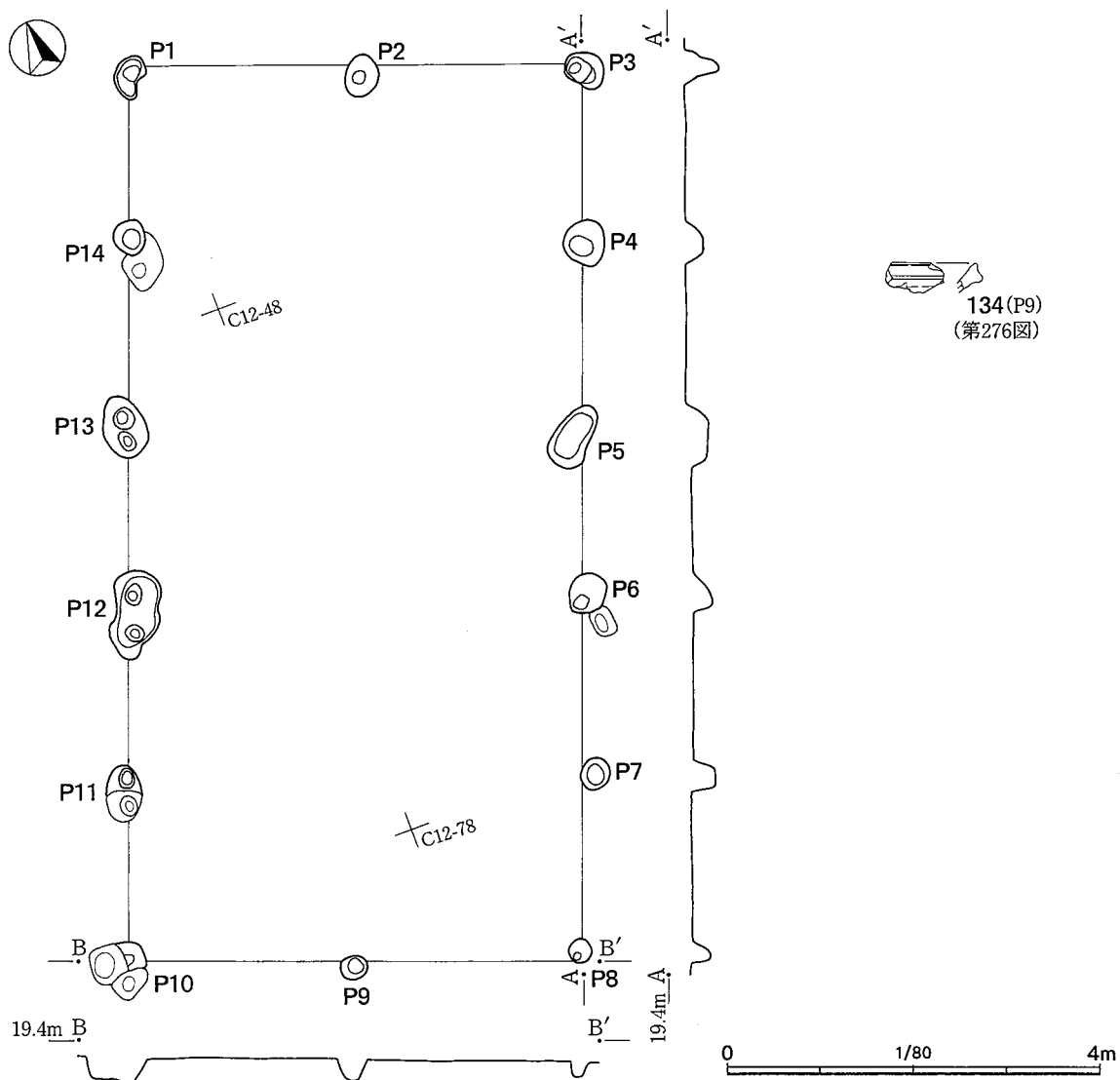
図示可能な遺物は出土しなかった。



第193图 VSB-006



第194图 VSB-001



第195図 VSB-002と出土遺物

VSB-004 (第197図, 図版47)

VSB-004は調査区南部中央, C12-39グリッドに位置する掘立柱建物跡である。建物規模は, 桁行3間(7.2m), 梁行2間(5.3m), 桁行方位はN-20°-Eとなる南北棟の建物である。柱間は, 桁行2.1m~2.5m, 梁行1.8mとなっている。柱穴の検出は, 桁行・梁行のそれぞれ2か所で確認することができなかった。

柱穴掘形は, 径0.20m~0.38mの円形のものが存在する。

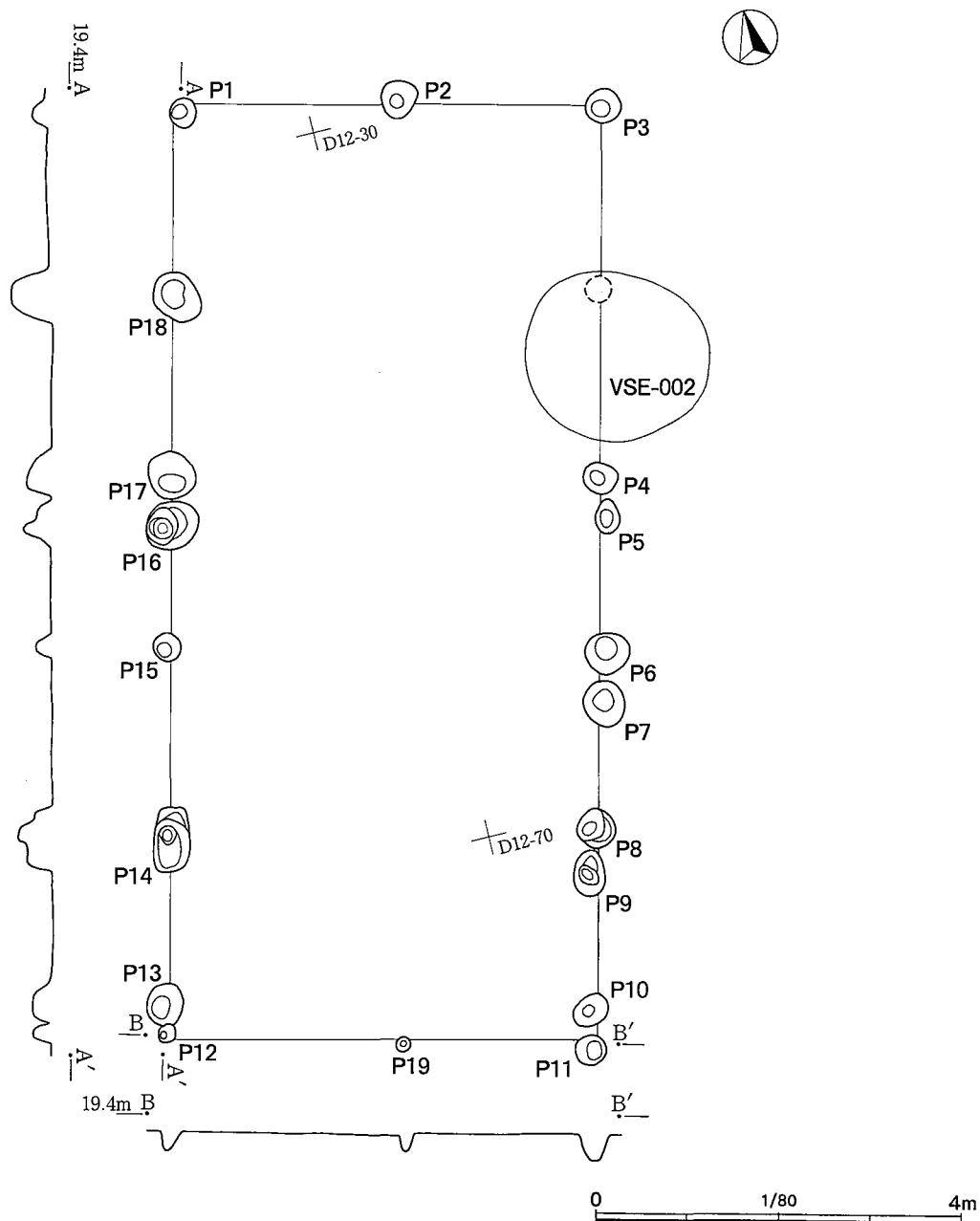
図示可能な遺物は出土しなかった。

VSB-005 (第198図, 図版47)

VSB-005は調査区南部中央, C12-56グリッドに位置する掘立柱建物跡である。建物規模は, 桁行4間(7.4m), 梁行2間(3.9m), 桁行方位はN-21°-Eとなる南北棟の建物である。柱間は, 桁行1.6m~1.9m, 梁行2.1mとなっている。柱穴の検出は, 北東隅の柱穴と桁行・梁行のそれぞれ2か所を確認することができなかった。

柱穴掘形は, 径0.20m~0.35mの円形のものが存在する。

図示可能な遺物は出土しなかった。



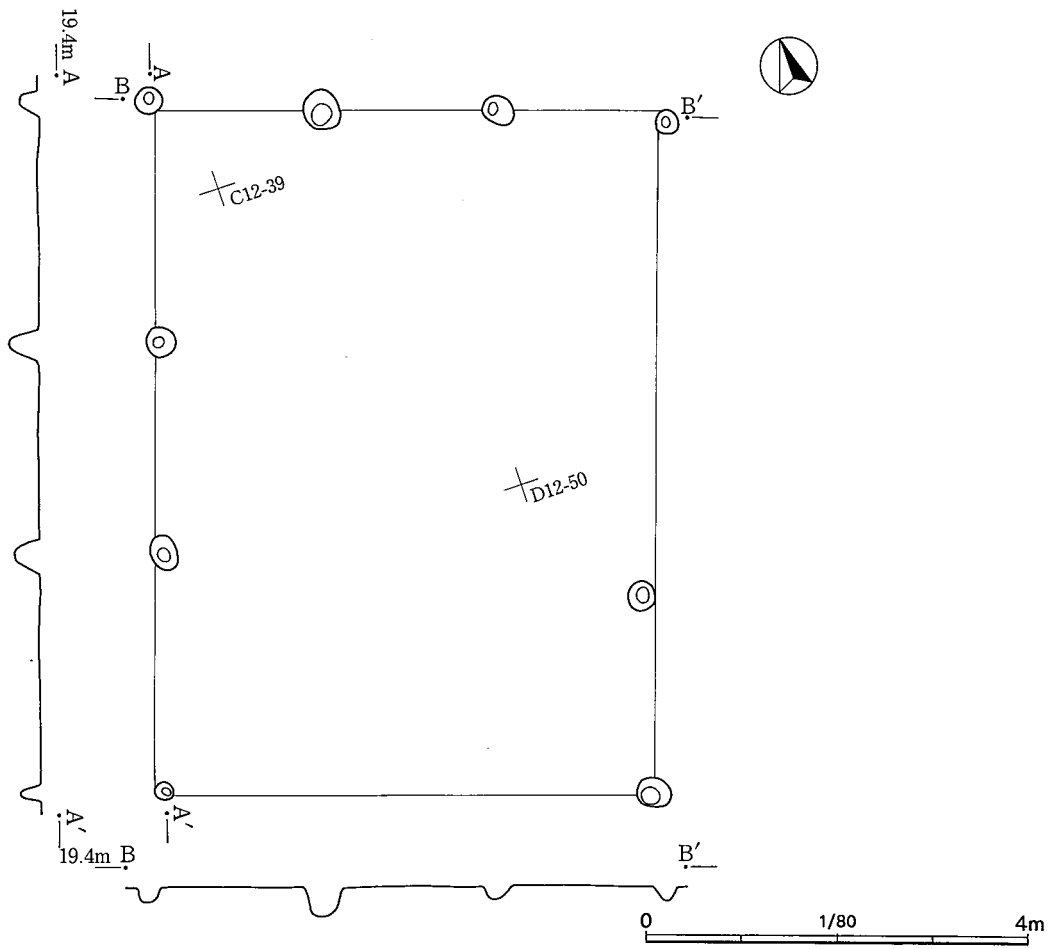
第196図 VSB-003

ⅡSB-018 (第199図)

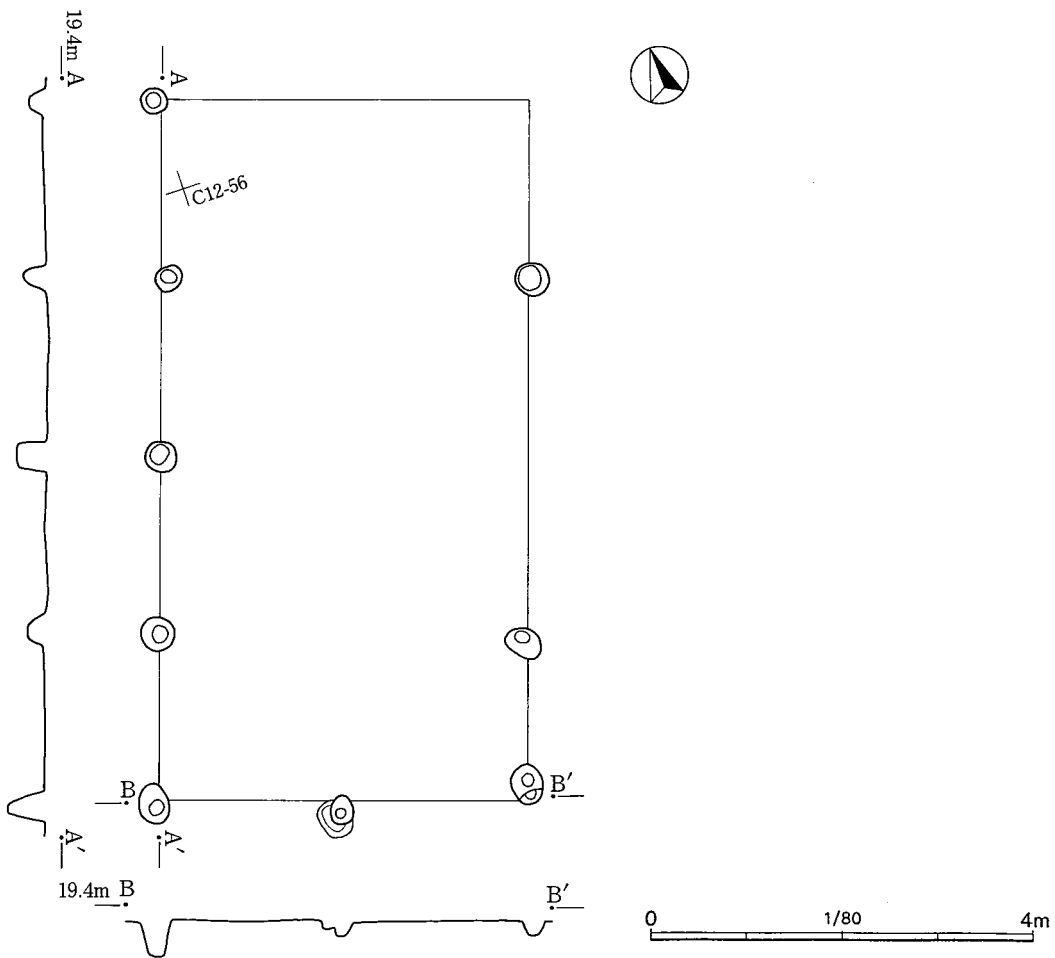
ⅡSB-018は調査区中央東、E11-49グリッドに位置する掘立柱建物跡である。周囲には多数の掘立柱建物跡の柱穴と思われるピットが存在するが、建物としての配列が捉えられるものは本遺構のみであった。桁行3間(6.7m)、梁行2間(3.4m)、桁行方位はN-19°-Eとなる南北棟の建物である。柱間は、梁行1.6m~1.8mとなっている。柱穴の検出は、各4隅の柱穴を確認することができたが、その間の柱穴は確認されなかった。

柱穴掘形は、径0.2m前後と0.8m前後の円形、0.9mの方形のものが存在する。

図示可能な遺物は出土しなかった。

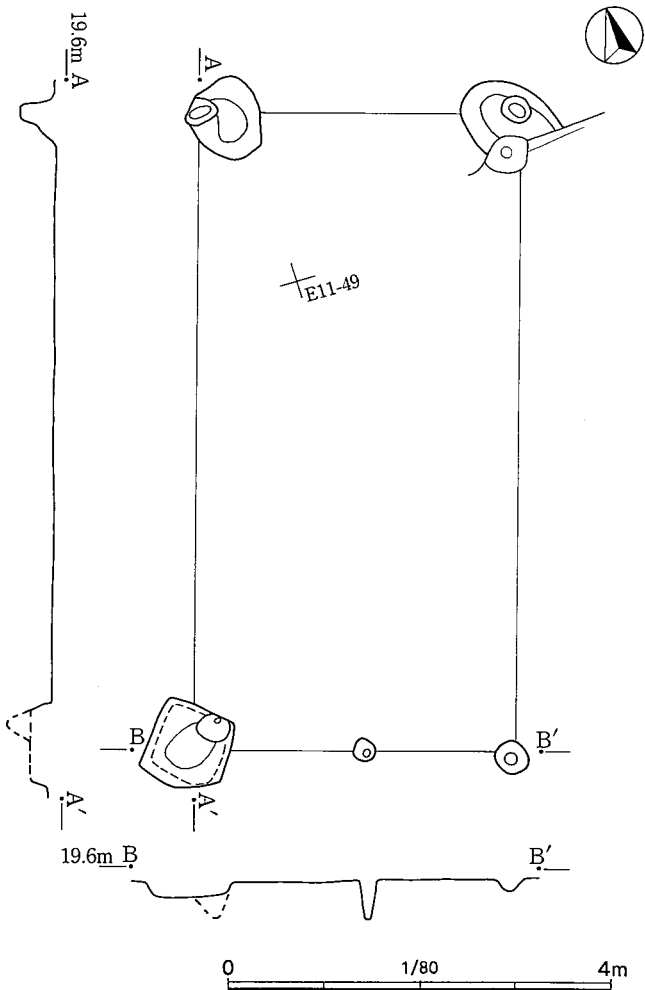


第197图 VSB-004

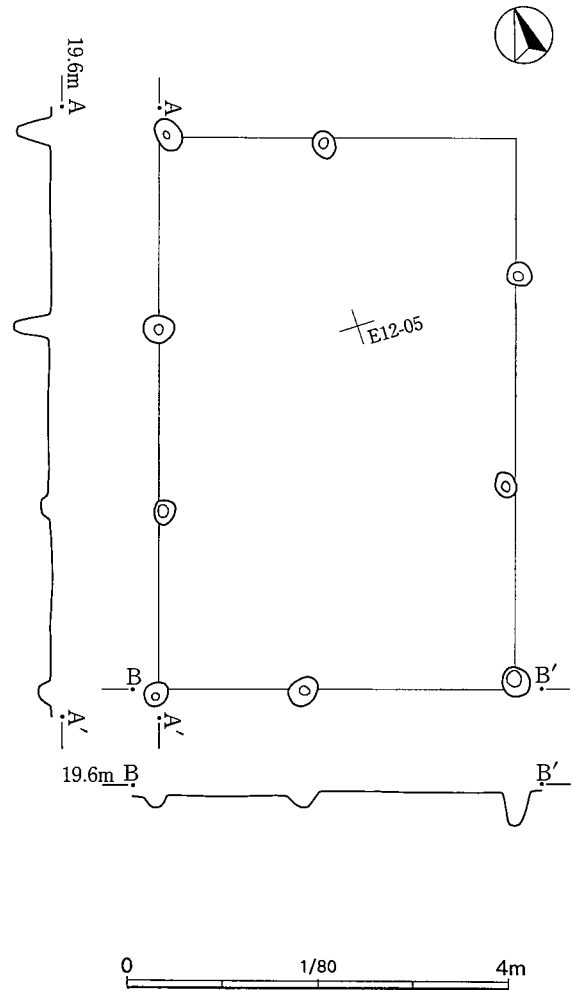


第198图 VSB-005

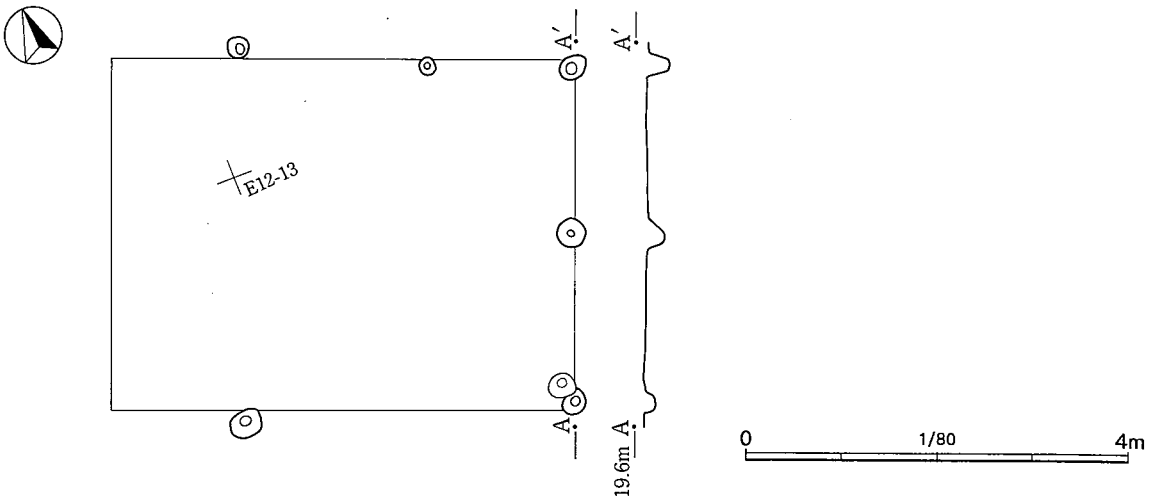




第199图 IISB-018



第200图 IISB-012



第201图 IISB-013

#### ⅡSB-012 (第200図)

ⅡSB-012は調査区中央東、E12-05グリッドに位置する掘立柱建物跡である。建物規模は、桁行3間(5.8m)、梁行2間(3.8m)、桁行方位はN-20°-Eとなる南北棟の建物である。柱間は、桁行1.9m～2.3m、梁行1.6m～2.2mとなっている。

柱穴掘形は、径0.2m前後の円形のものが存在する。

図示可能な遺物は出土しなかった。

#### ⅡSB-013 (第201図)

ⅡSB-013は調査区中央東、E12-13グリッドに位置する掘立柱建物跡である。建物規模は、桁行3間(推定4.9m)、梁行2間(3.7m)、桁行方位はN-67°-Eとなる東西棟の建物である。柱間は、桁行1.6m～2.0m前後、梁行1.6mとなっている。柱穴の検出は、西側の柱穴等を確認することができなかった。

柱穴掘形は、径0.2m前後の円形のものが存在する。

図示可能な遺物は出土しなかった。

#### ⅡSB-005 (第202図, 図版47)

ⅡSB-005は調査区中央東、F12-03グリッドに位置する掘立柱建物跡である。建物規模は、桁行3間(5.6m)、梁行2間(3.8m)、桁行方位はN-62°-Eとなる東西棟の建物である。柱間は、桁行1.6m～2.1m、梁行1.9m～2.1mとなっている。柱穴の検出は、桁行方向に1か所を確認することができなかった。

柱穴掘形は、径0.2m～0.7mの円形のものが存在する。柱穴掘形の覆土は、黄褐色ブロック層と暗褐色粘質土層が交互に堆積している。柱痕跡は、径0.2m～0.3mのものが梁行方向の3か所の柱穴でみられた。

図示可能な遺物は出土しなかった。

#### ⅡSB-007 (第203図)

ⅡSB-007は調査区中央東、E12-48グリッドに位置する掘立柱建物跡である。建物規模は、桁行3間(4.0m)、梁行2間(2.6m)、桁行方位はN-56°-Eとなる東西棟の建物である。柱間は、桁行1.3m前後、梁行1.2m～1.5mとなっている。柱穴の検出は、北西隅の柱穴を確認することができなかった。

柱穴掘形は、径0.1m～0.7mの円形のものが存在する。

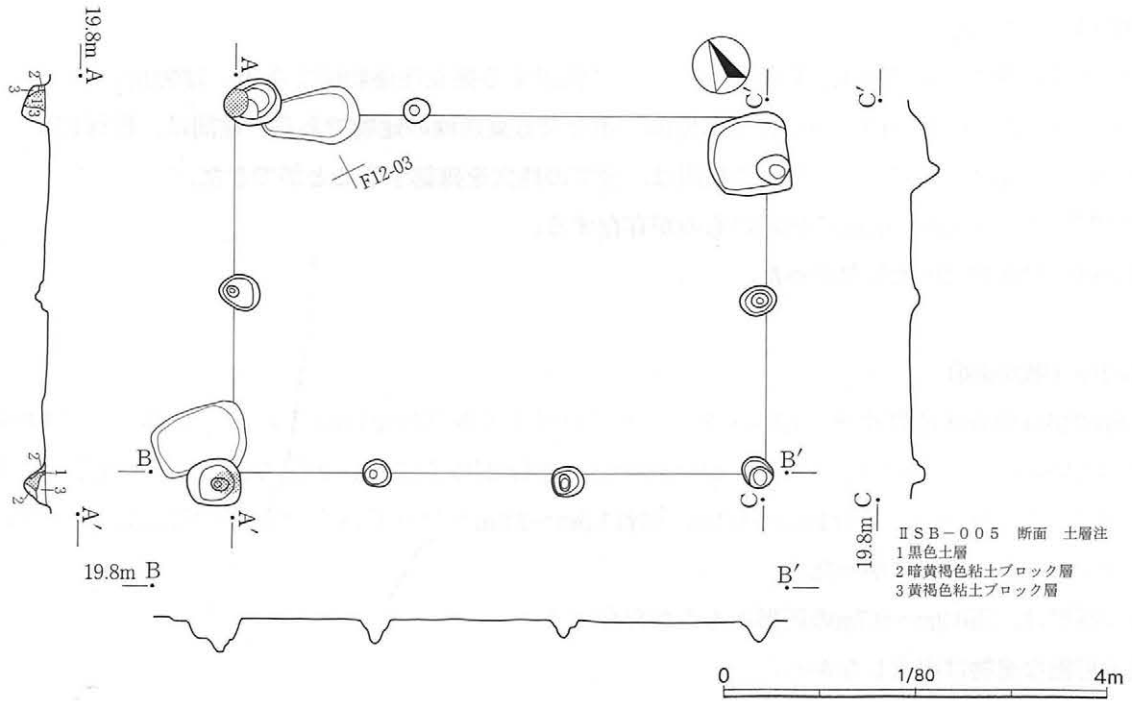
図示可能な遺物は出土しなかった。

#### ⅡSB-014 (第204図)

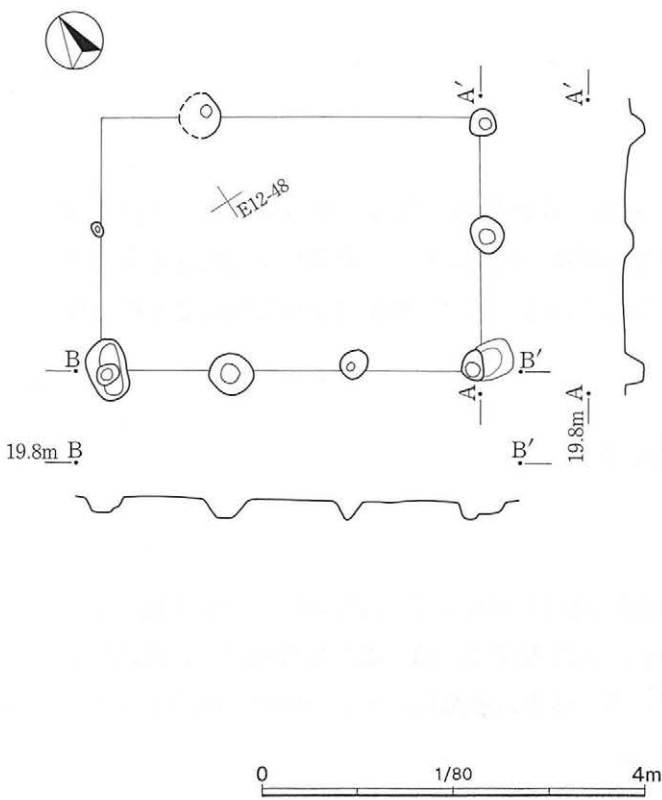
ⅡSB-014は調査区中央東、E12-63グリッドに位置する掘立柱建物跡である。ⅡSB-015と方向を異にし、多くの部分で重複している。建物規模は、桁行3間(5.4m)、梁行2間(4.3m)、桁行方位はN-17°-Eとなる南北棟の建物である。柱間は、桁行1.8m～1.9m前後、梁行1.8m～2.5mとなっている。柱穴の検出は、全ての柱穴を確認することができた。

柱穴掘形は、径0.2m～0.4mの円形のものが存在する。

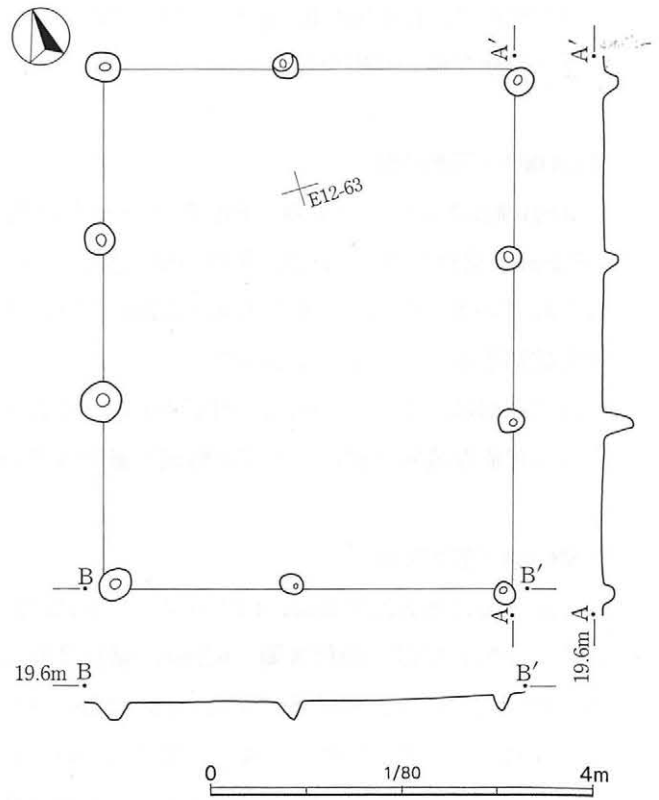
図示可能な遺物は出土しなかった。



第202図 IISB-005



第203図 IISB-007



第204図 IISB-014

## II SB-015 (第205図)

II SB-015は調査区北部中央、E12-63グリッドに位置する掘立柱建物跡である。建物規模は、桁行3間(5.1m)、梁行2間(3.8m)、桁行方位はN-68° -Eとなる東西棟の建物である。柱間は、桁行1.5m～2.1m、梁行1.5m～2.1mとなっている。柱穴の検出は、全ての柱穴を確認することができた。

柱穴掘形は、径0.2m～0.4mの円形のものが存在する。

図示可能な遺物は出土しなかった。

## II SB-016 (第206図)

II SB-016は調査区北部中央、E12-76グリッドに位置する掘立柱建物跡である。II SB-014が同方向で西側2mに近接する。建物規模は、桁行3間(5.7m)、梁行2間(4.7m)、桁行方位はN-68° -Eとなる南北棟の建物である。柱間は、桁行1.8m～2.1m、梁行1.5m～2.0mとなっている。柱穴の検出は、北東隅の柱穴を確認することができなかった。

柱穴掘形は、径0.2m～0.7mの円形のものが存在する。

図示可能な遺物は出土しなかった。

## II SB-011 (第207図)

II SB-011は調査区中央東、F12-64グリッドに位置する掘立柱建物跡である。建物規模は、桁行3間(4.0m)、梁行2間(推定)、桁行方位はN-5° -Eとなる南北棟の建物である。柱間は、桁行1.4m～1.5m前後、梁行1.7mとなっている。柱穴の検出は、東側が斜面のため柱穴を確認することができなかった。

柱穴掘形は、径0.3m～0.5mの円形のものが存在する。

図示可能な遺物は出土しなかった。

## II SB-008 (第208図)

II SB-008は調査区中央東、F12-72グリッドに位置する掘立柱建物跡である。建物規模は、桁行4間(8.1m)、梁行2間(3.7m)、桁行方位はN-70° -Eとなる東西棟の建物である。北側に梁行2.7mの廂が付設されている。柱間は、桁行1.4m～2.3m、梁行3.7mとなっている。柱穴の検出は梁行方向に2か所の柱穴を確認することができなかった。

柱穴掘形は、径0.2m～0.7mの円形のものが存在する。

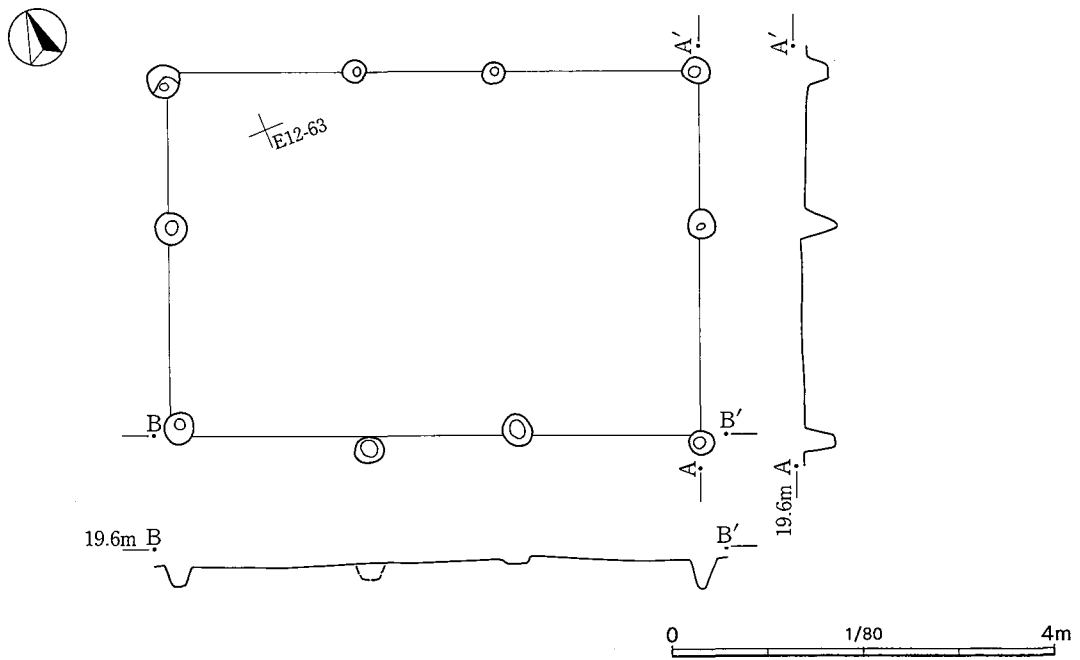
図示可能な遺物は瀬戸・美濃の梅瓶・皿の3点が出土した。

## II SB-009 (第209図)

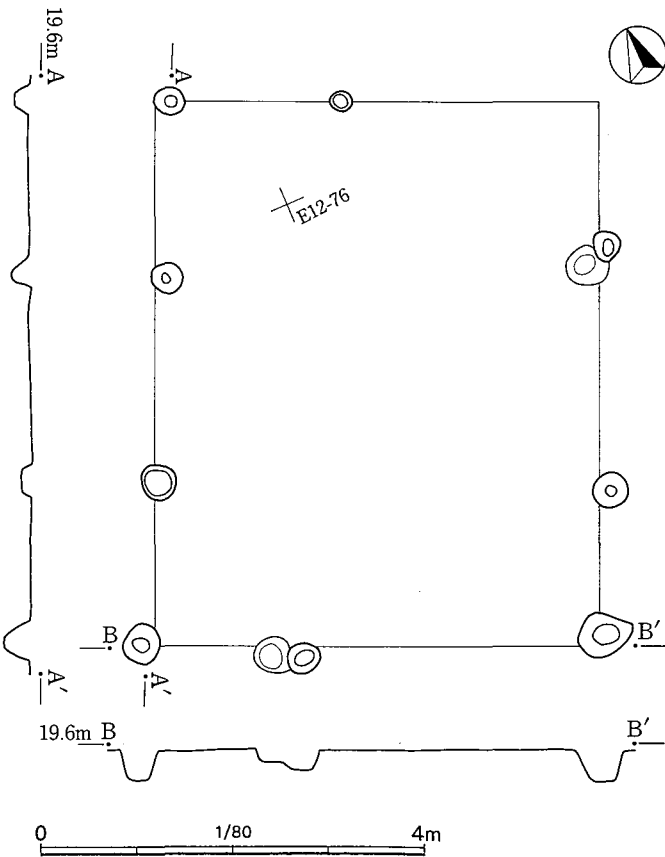
II SB-009は調査区中央東、F12-91グリッドに位置する掘立柱建物跡である。II SB-008と北側で重複している。建物規模は、桁行3間(6.2m)、梁行2間(4.1m)、桁行方位はN-73° -Eとなる東西棟の建物である。柱間は、桁行2.1m前後、梁行1.9m～2.1mとなっている。柱穴の検出は、全ての柱穴を確認することができた。その内の半数は重複し、建替えが行われている。

柱穴掘形は、径0.3m～0.7mの円形のものが存在する。

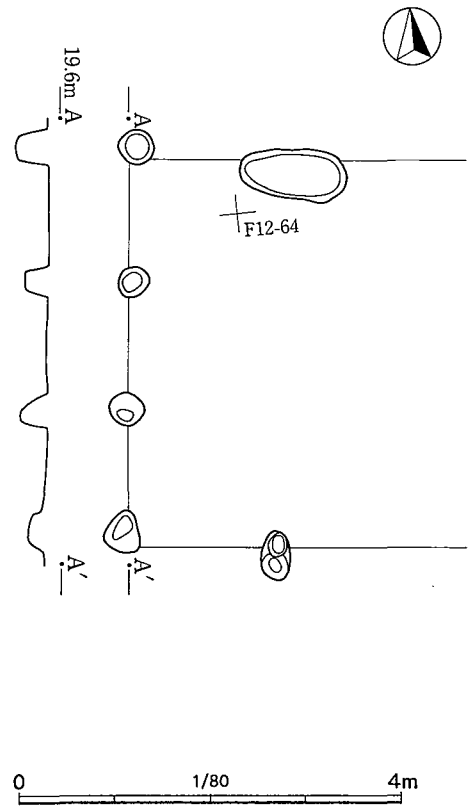
図示可能な遺物は出土しなかった。



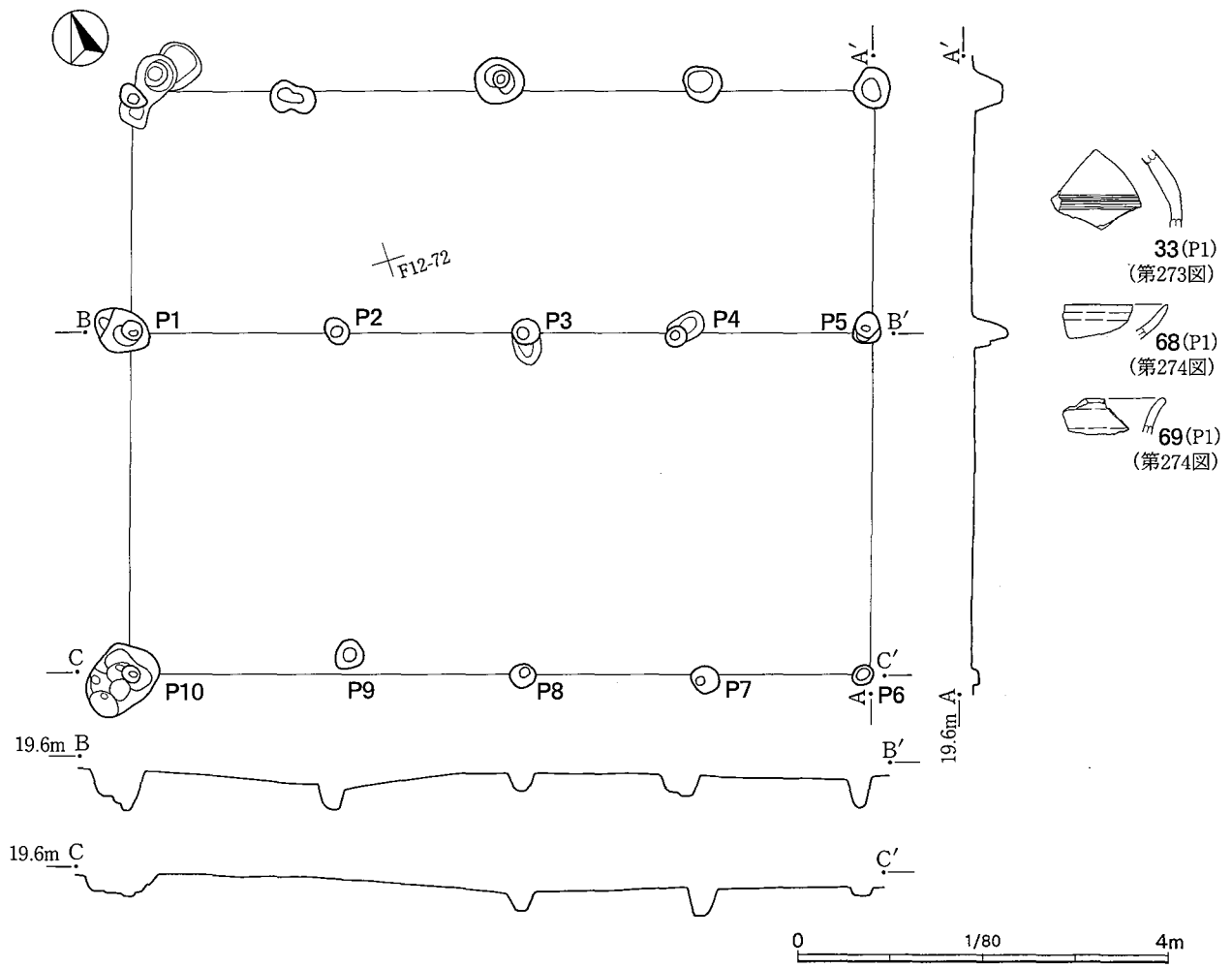
第205図 IISB-015



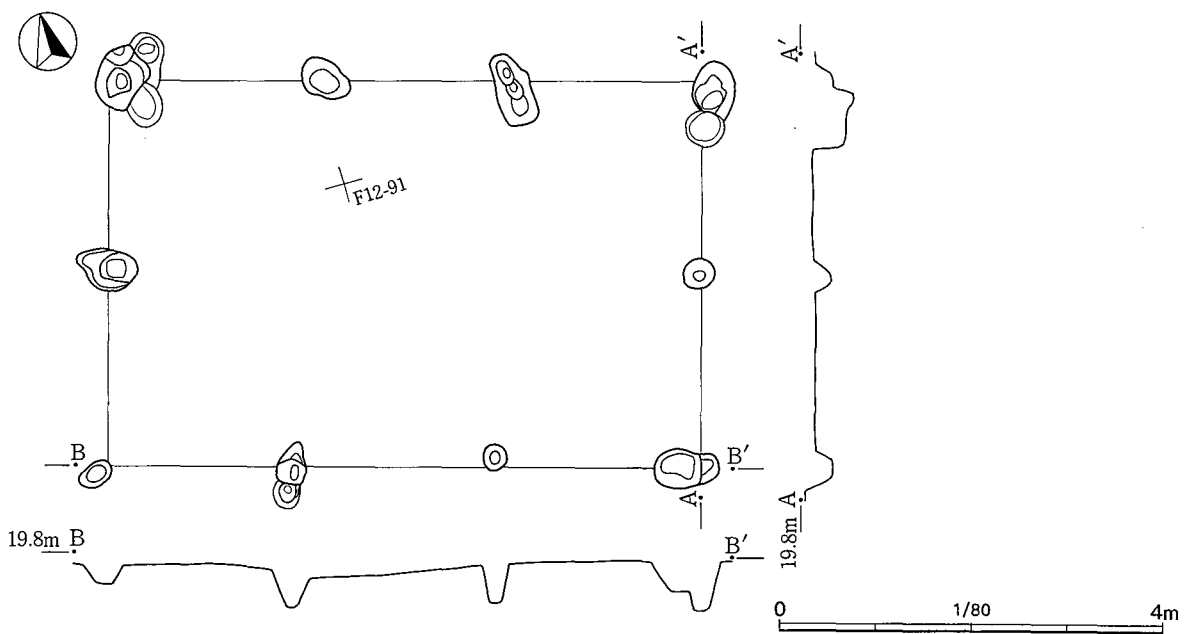
第206図 IISB-016



第207図 IISB-011



第208図 IISB-008と出土遺物



第209図 IISB-009

## II SB-010 (第210図)

II SB-010は調査区中央東、F13-13グリッドに位置する掘立柱建物跡である。建物規模は、桁行3間(5.2m)、梁行2間(3.6m)、桁行方位はN-17° -Eとなる南北棟の建物である。柱間は、桁行1.6m～1.8m前後、梁行1.6m～1.8mとなっている。柱穴の検出は、全ての柱穴を確認することができた。

柱穴掘形は、径0.3m～0.7mの円形のものが存在する。

図示可能な遺物は出土しなかった。

## II SB-017 (第211図)

II SB-017は調査区中央東、E13-44グリッドに位置する掘立柱建物跡である。建物規模は、桁行2間(2.3m)、梁行2間(2.3m)、桁行方位はN-60° -Eとなる建物である。柱間は、桁行1.2m～1.4m前後、梁行0.9m～1.3mとなっている。柱穴の検出は、全ての柱穴を確認することができた。

柱穴掘形は、径0.2m～0.3mの円形のものが存在する。

図示可能な遺物は出土しなかった。

## I SB-006 (第212図, 図版47)

I SB-006は調査区南部中央、D16-50グリッドに位置する掘立柱建物跡である。周辺には中世の掘立柱建物跡は存在せず、古代の四面廂を有するI SB-010が西南に近接し、方向を同じくし、北廂を有するI SB-007が西方40mに位置するため、古代と考えることもできる。建物規模は、桁行3間(6.5m)、梁行2間(3.7m)、桁行方位はN-83° -Eとなる東西棟の建物である。北側に梁行1.6mの廂が付設されている。柱間は、桁行2.1m～2.2m、梁行1.8m～2.1mとなっている。柱穴の検出は、全ての柱穴を確認することができた。

## I SB-008 (第213図)

I SB-008は調査区南部中央、B16-76グリッドに位置する掘立柱建物跡である。建物規模は、桁行3間(8.0m)、梁行2間(3.9m)、桁行方位はN-84° -Eとなる南北棟の建物である。柱間は、桁行1.6m～2.0m、梁行2.0mとなっている。柱穴の検出は、全ての柱穴を確認することができた。

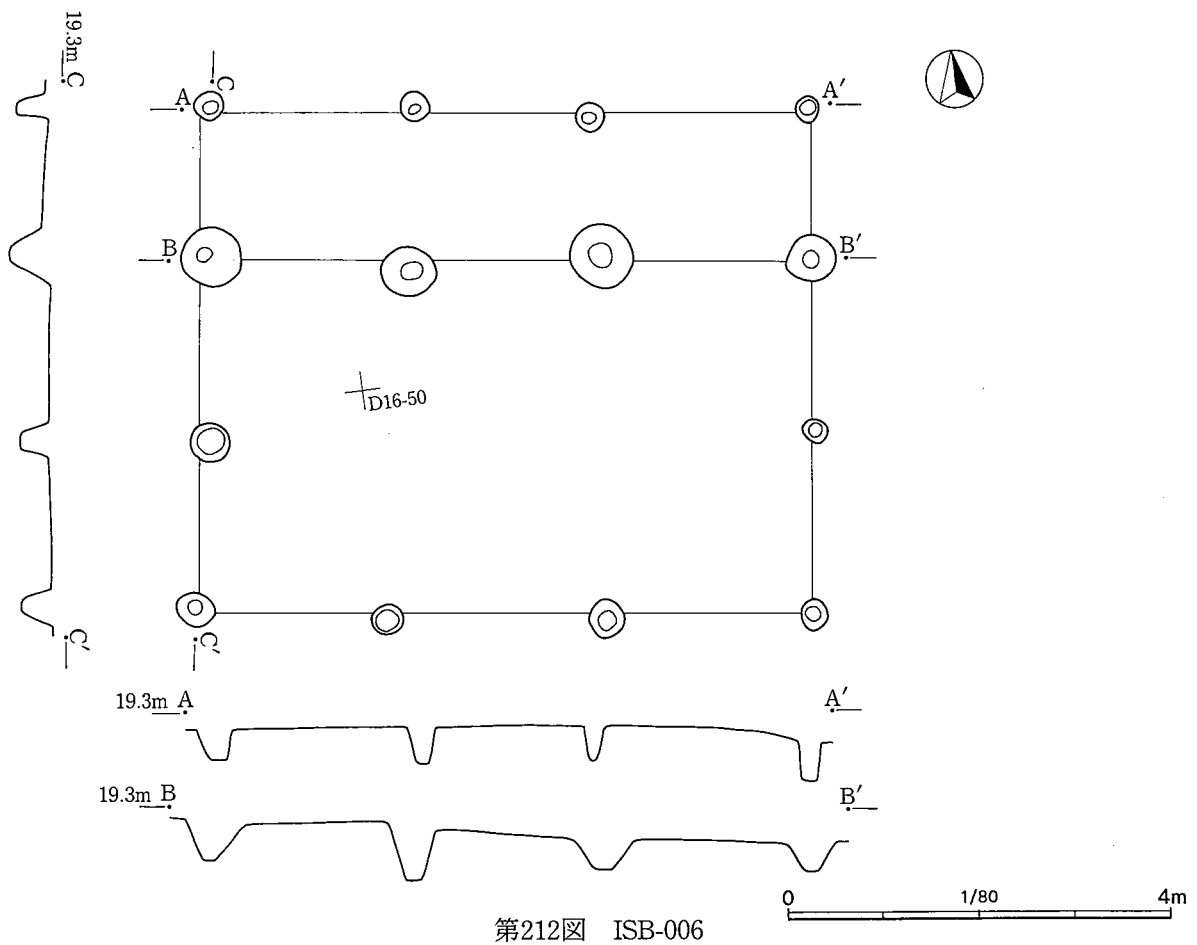
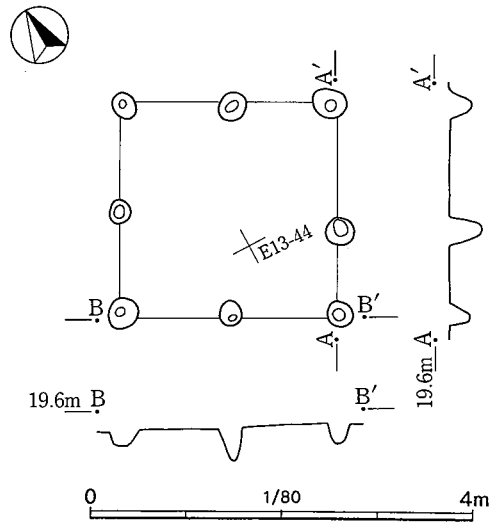
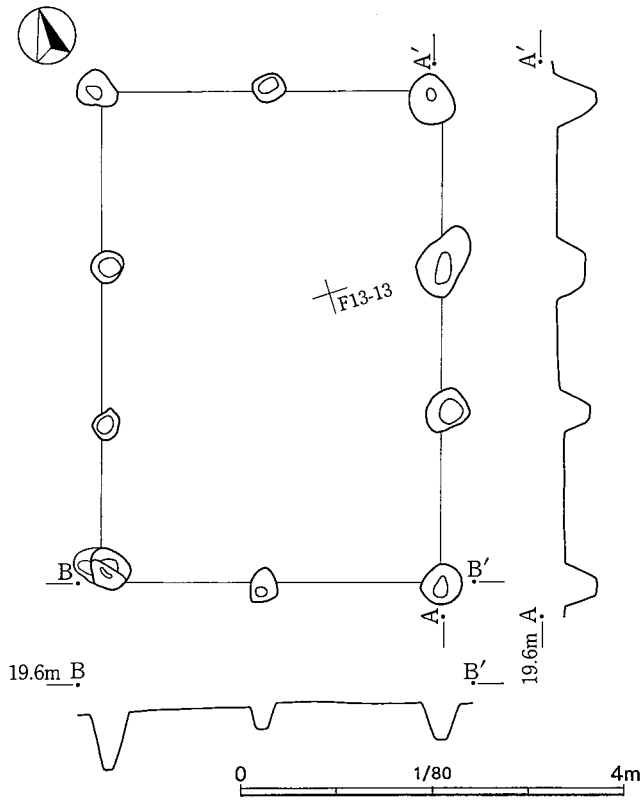
柱穴掘形は、径0.2m～0.4mの円形のものが存在する。柱穴掘形の覆土は、黒褐色土層と暗黄褐色土層が交互に堆積している。

図示可能な遺物は出土しなかった。

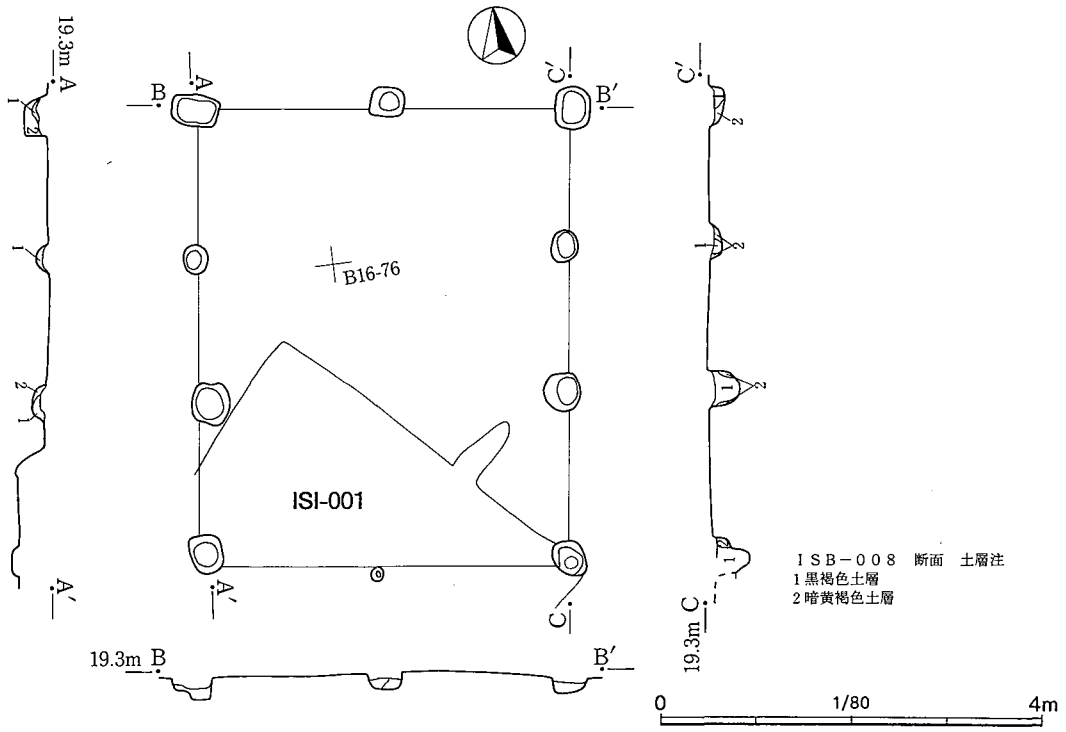
## I SB-012 (第214図)

I SB-012は調査区南部中央、B16-94グリッドに位置する掘立柱建物跡である。南2mにI SB-013が同方向に存在し、その周辺には多数の同形の柱穴が存在するが、配列は捉えられていない。建物規模は、桁行3間(推定)、梁行2間(2.5m)、桁行方位はN-1° -Eとなる南北棟の建物である。柱間は、桁行1.2m、梁行1.2mとなっている。柱穴の検出は、北側の1/2以上が削平されており、半数以上の柱穴を確認することができなかった。

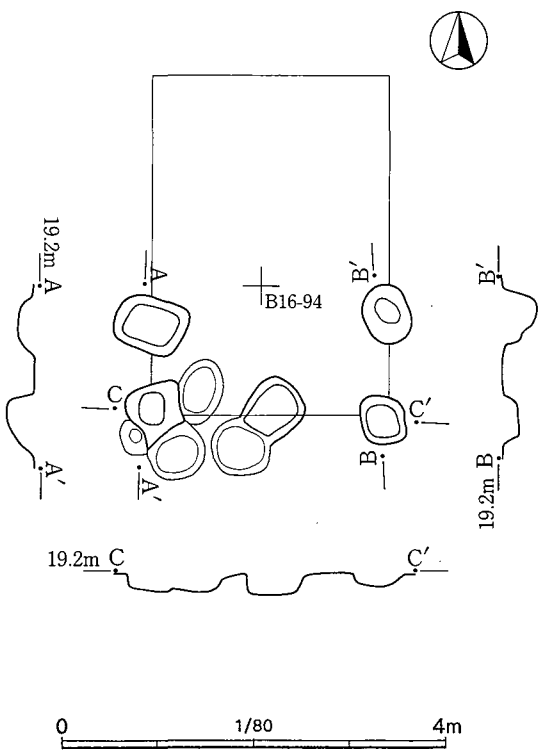
柱穴掘形は、径0.6m～0.7mの円形、不整形のもの存在する。



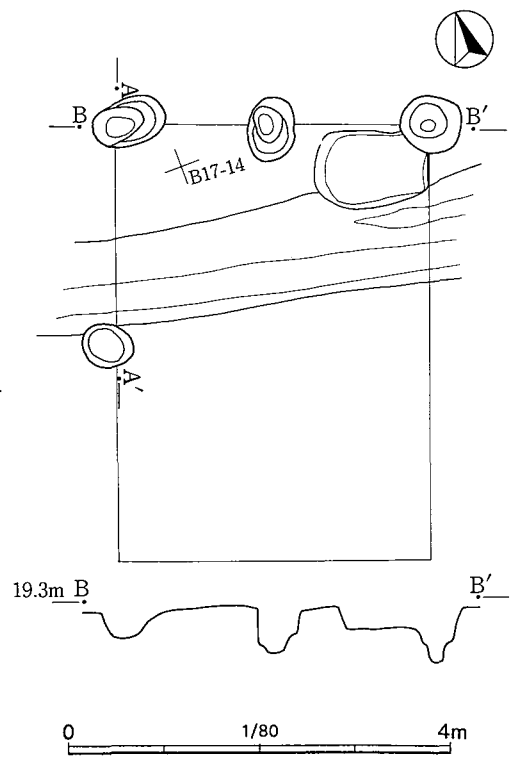




第213图 ISB-008



第214图 ISB-012



第215图 ISB-013

図示可能な遺物は出土しなかった。

### I SB-013 (第215図)

I SB-013は調査区中央南，B17-14グリッドに位置する掘立柱建物跡である。建物規模は，桁行3間（推定），梁行2間（3.3m），桁行方位はN-18° -Eとなる南北棟の建物である。柱間は，桁行1.7m，梁行1.7mとなっている。柱穴の検出は，南側が溝で削平され，さらに調査範囲外に続くため，半数以上の柱穴を確認することができなかった。

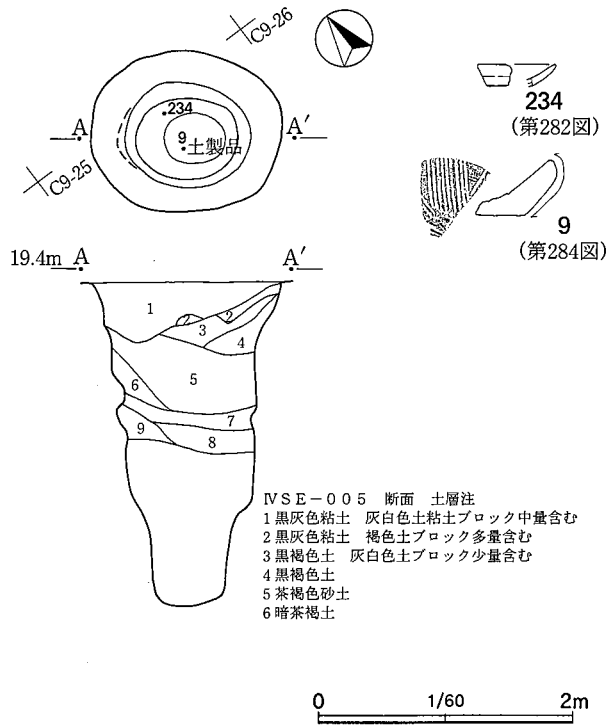
柱穴掘形は，径0.6m～0.7mの円形のしっかりしたものが存在する。

図示可能な遺物は出土しなかった。

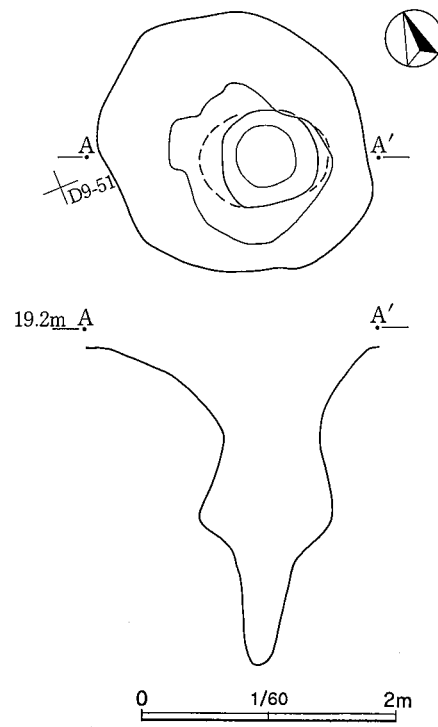
## 2 井戸・土坑

井戸とみられる遺構は，覆土の状況から2大別することが可能である。すなわち，一つは覆土中に砂や砂利層，あるいは軟弱な堆積土のあるもので，これを「井戸」と考える。例えばI SE-018（第222図）・I SE-011（第233図）・I SE-013（第235図）・I SE-007（第236図）・I SE-008（第237図）・I SE-014（第238図）・I SE-002（第240図）・I SE-001（第264図）などである。一方，覆土が比較的締まりのある土であり，人為的な埋戻し状況の認められるものが存在し，これを「井戸状土坑」と考える。例えばI SE-017（第224図）・I SE-016（第231図）・I SE-012（第234図）・I SE-015（第239図）などである。「井戸」と「井戸状土坑」は近接して検出されたものがほとんどであり，セットをなすようにもみえる。

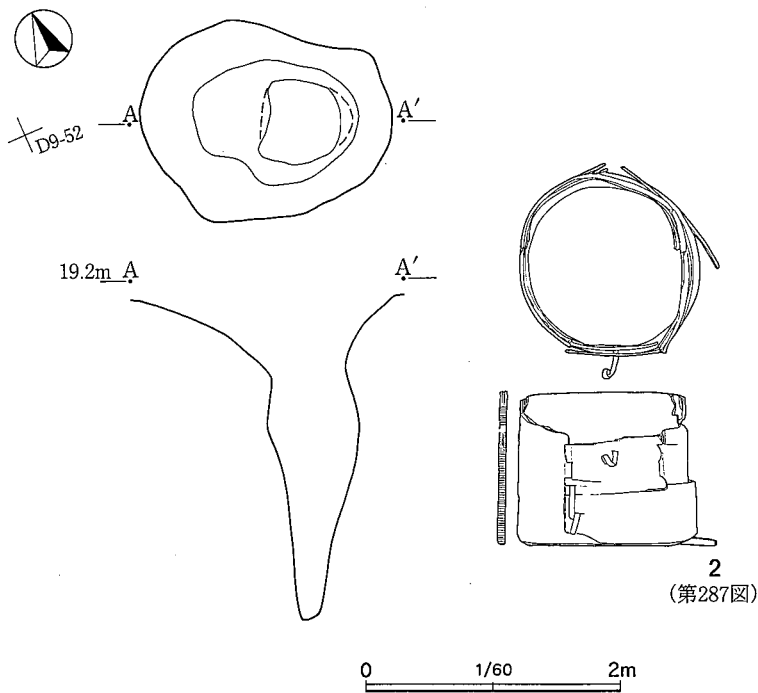
そのほか，ここではI SX-007（第261図）・I SX-006（第262図）などの地下式坑やI SX-009（第269図）などの火葬施設といった土坑も掲載した。



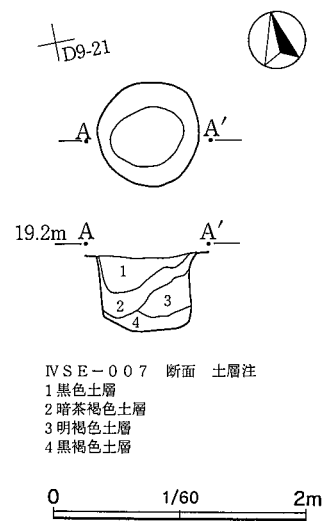
第216図 IVSE-005と出土遺物



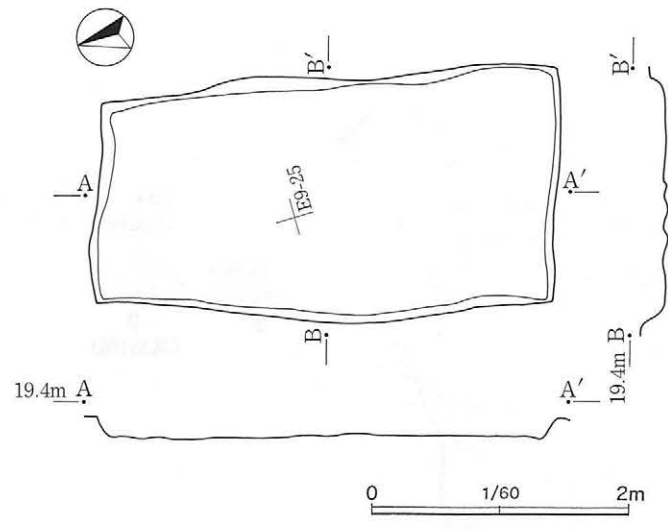
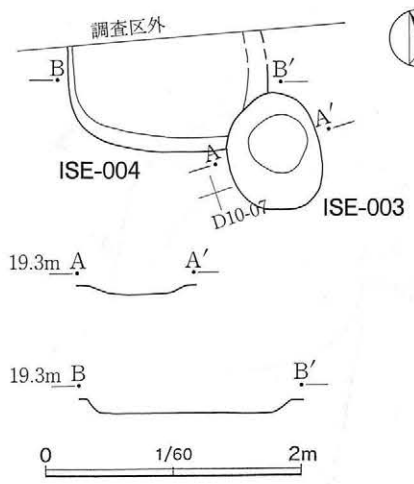
第217図 IVSE-002



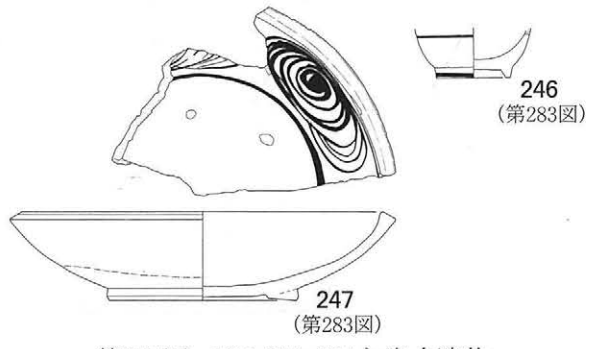
第218図 IVSE-001と出土遺物



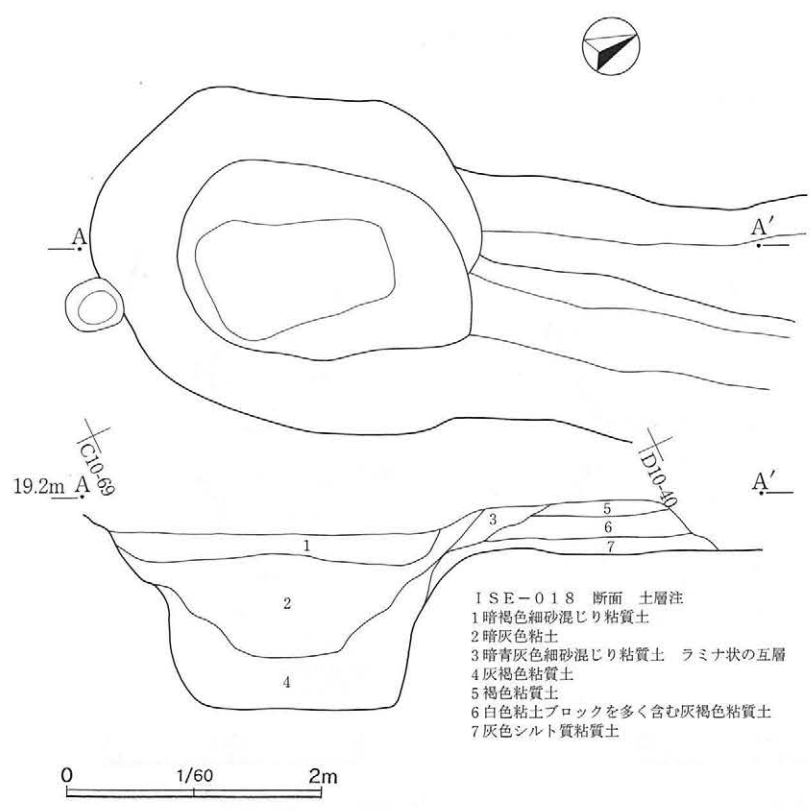
第219図 IVSE-007



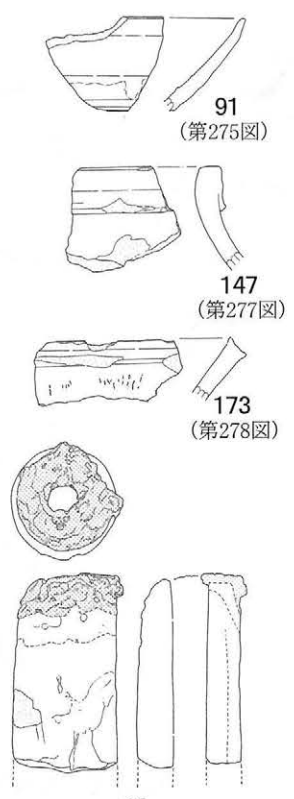
第221図 IISX-001



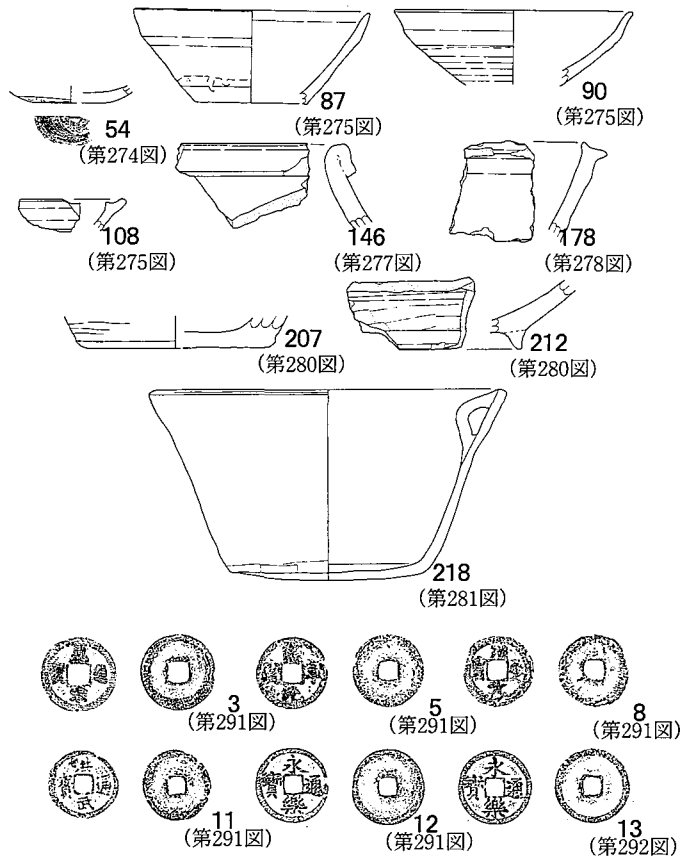
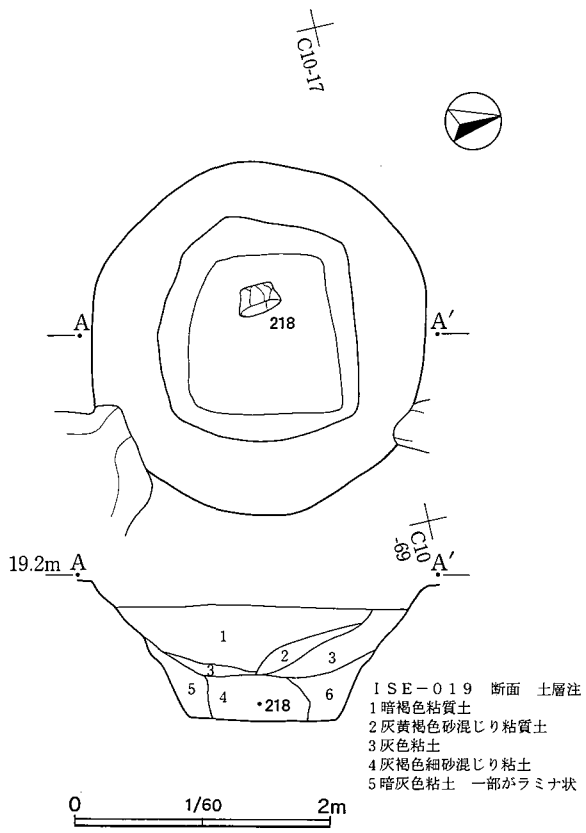
第220図 ISE-003・004と出土遺物



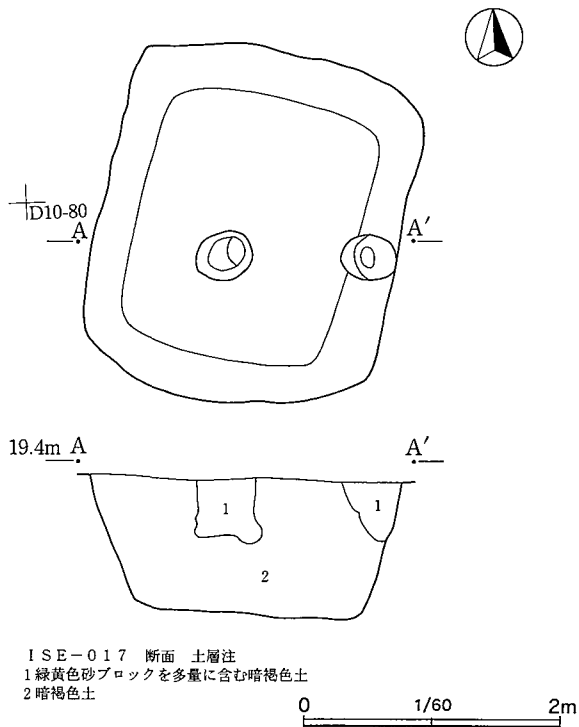
- 1 ISE-018 断面 土層注  
 1 暗褐色細砂混じり粘質土  
 2 暗灰色粘土  
 3 暗青灰色細砂混じり粘質土 ラミナ状の互層  
 4 灰褐色粘質土  
 5 褐色粘質土  
 6 白色粘土ブロックを多く含む灰褐色粘質土  
 7 灰色シルト質粘質土



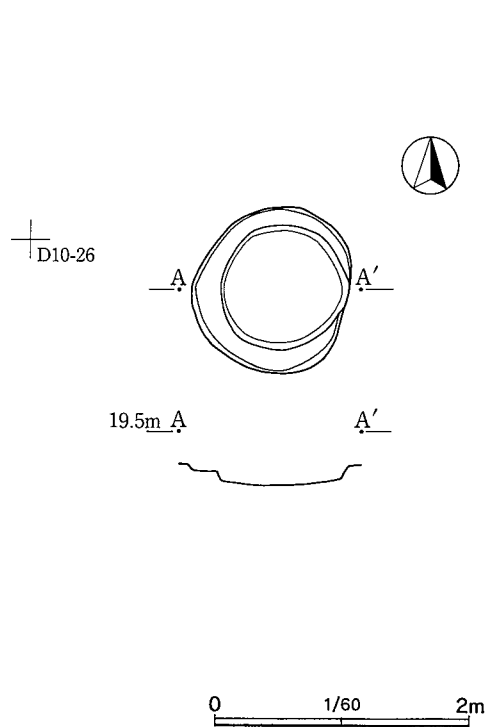
第222図 ISE-018と出土遺物



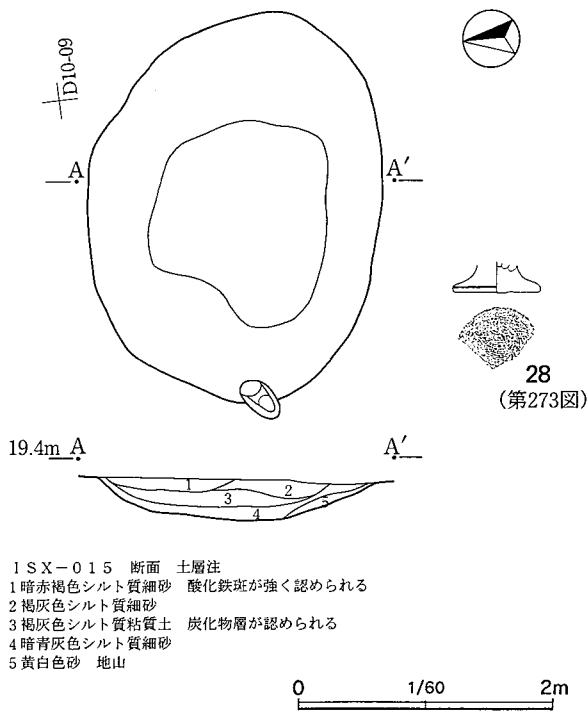
第223図 ISE-019と出土遺物



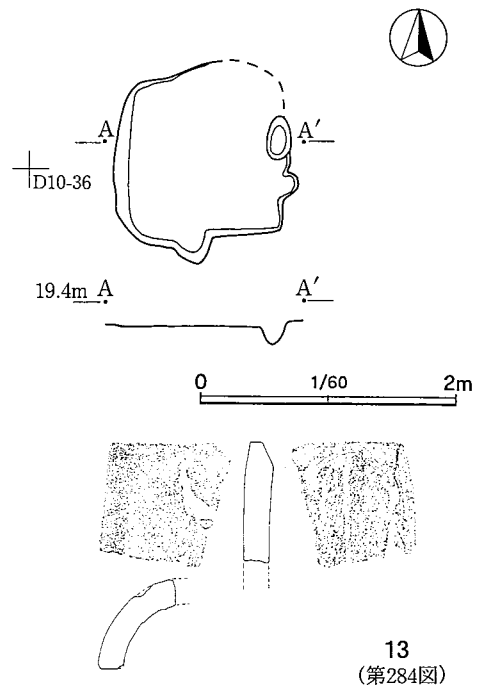
第224図 ISE-017と出土遺物



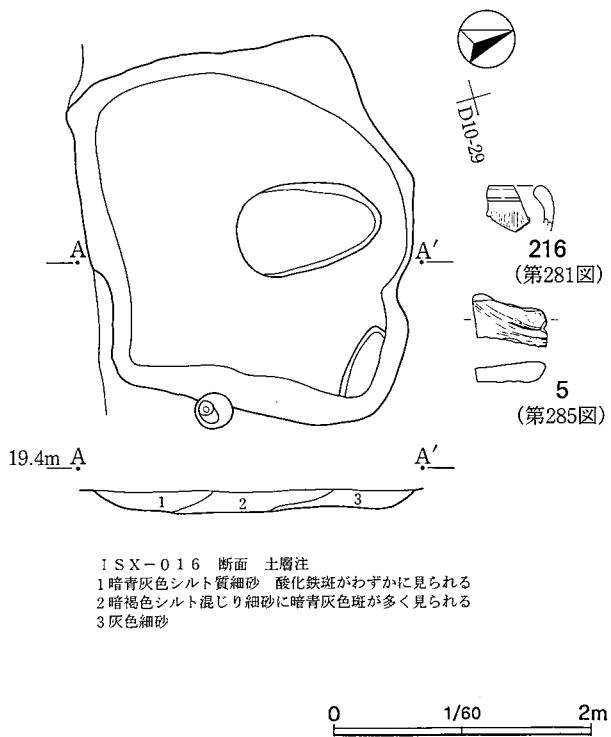
第225図 ISE-006



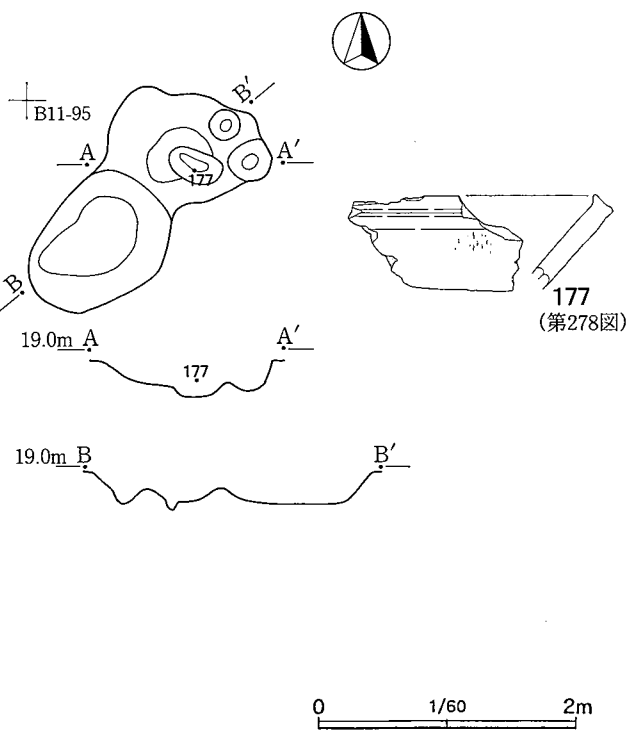
第226図 ISX-015と出土遺物



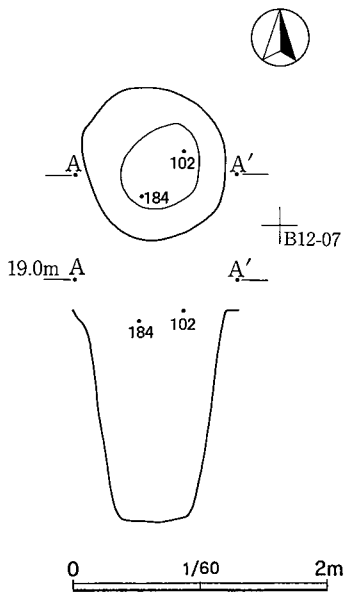
第227図 ISX-017と出土遺物



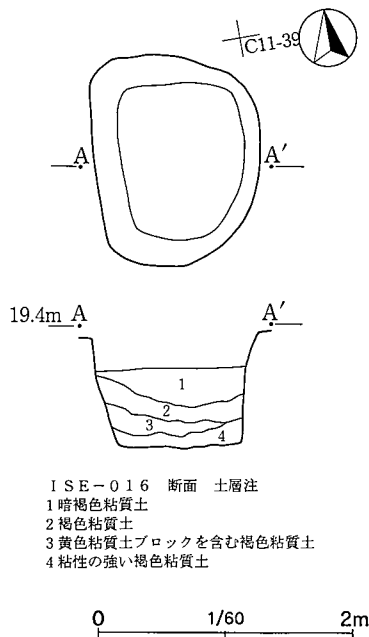
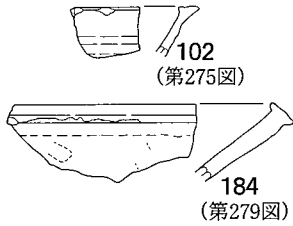
第228図 ISX-016と出土遺物



第229図 VSK-001と出土遺物

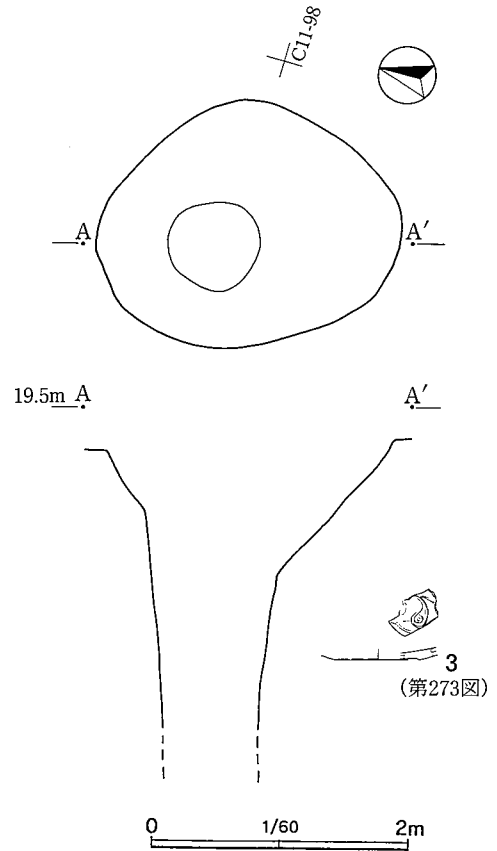


第230図 VSK-003と出土遺物

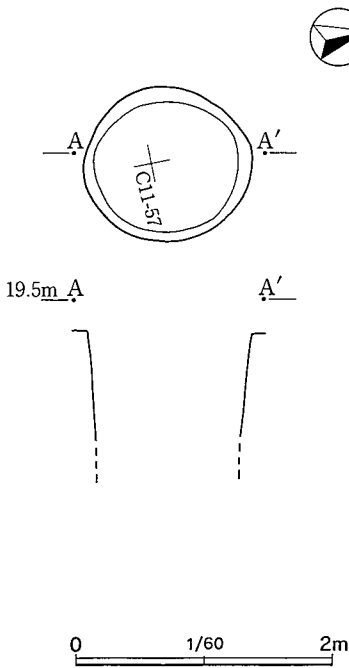


第231図 ISE-016

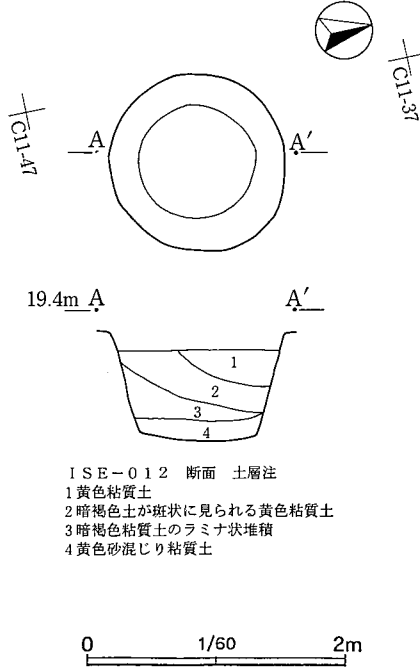
ISE-016 断面 土層注  
 1 暗褐色粘質土  
 2 褐色粘質土  
 3 黄色粘質土ブロックを含む褐色粘質土  
 4 粘性の強い褐色粘質土



第232図 VSE-003と出土遺物

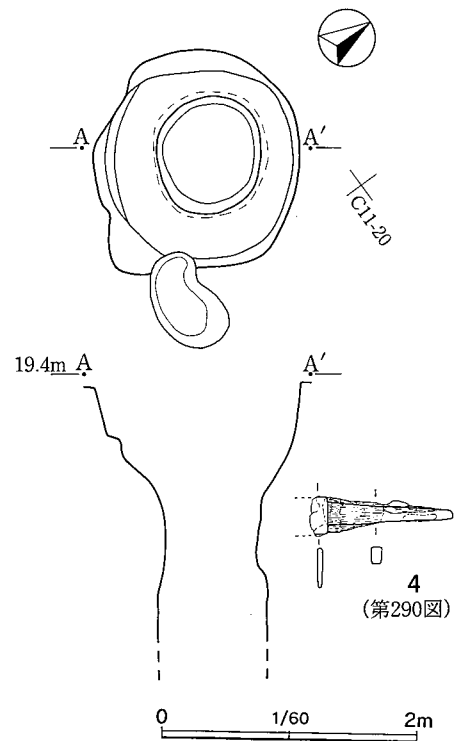


第233図 ISE-011

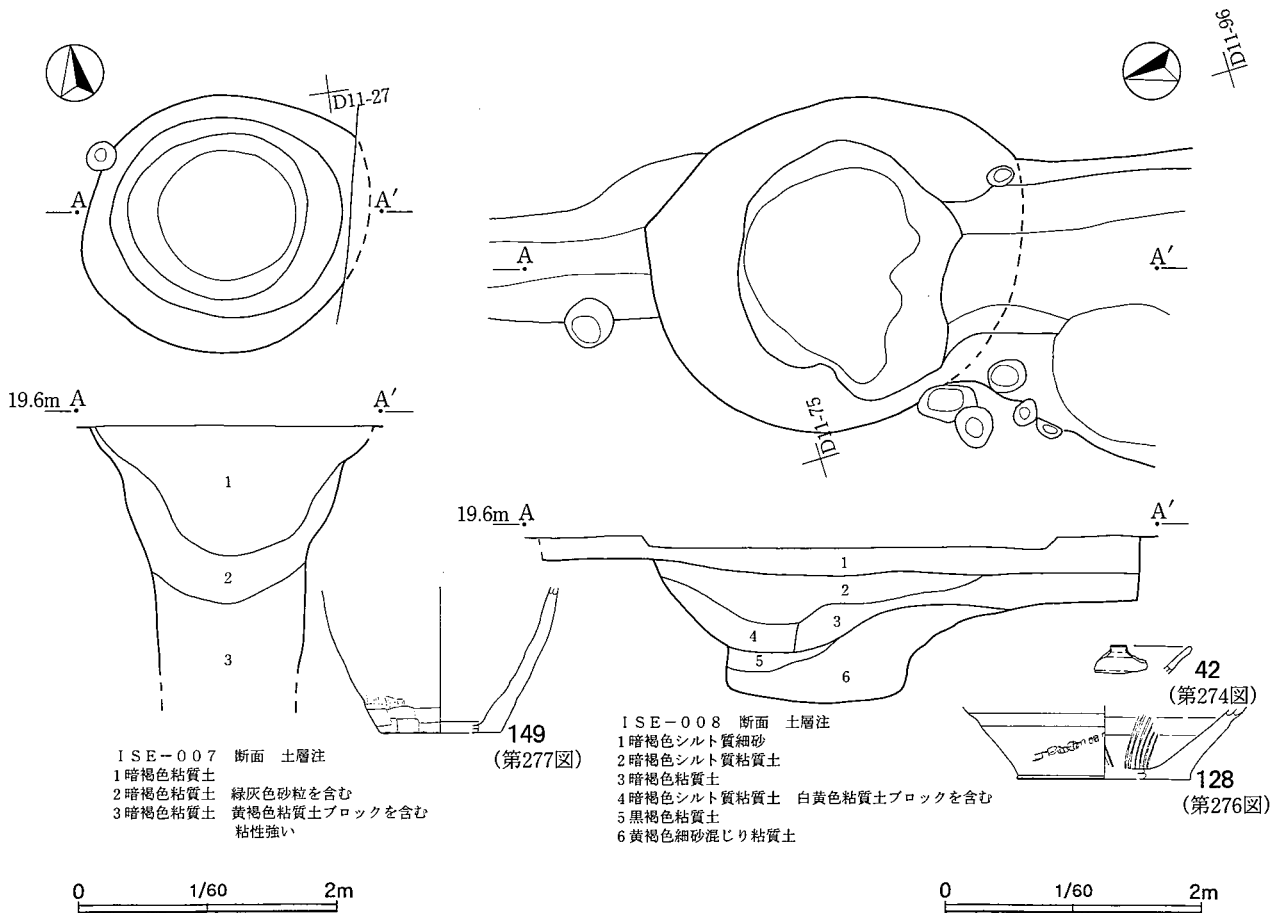


第234図 ISE-012

ISE-012 断面 土層注  
 1 黄色粘質土  
 2 暗褐色土が斑状に見られる黄色粘質土  
 3 暗褐色粘質土のラミナ状堆積  
 4 黄色砂混じり粘質土

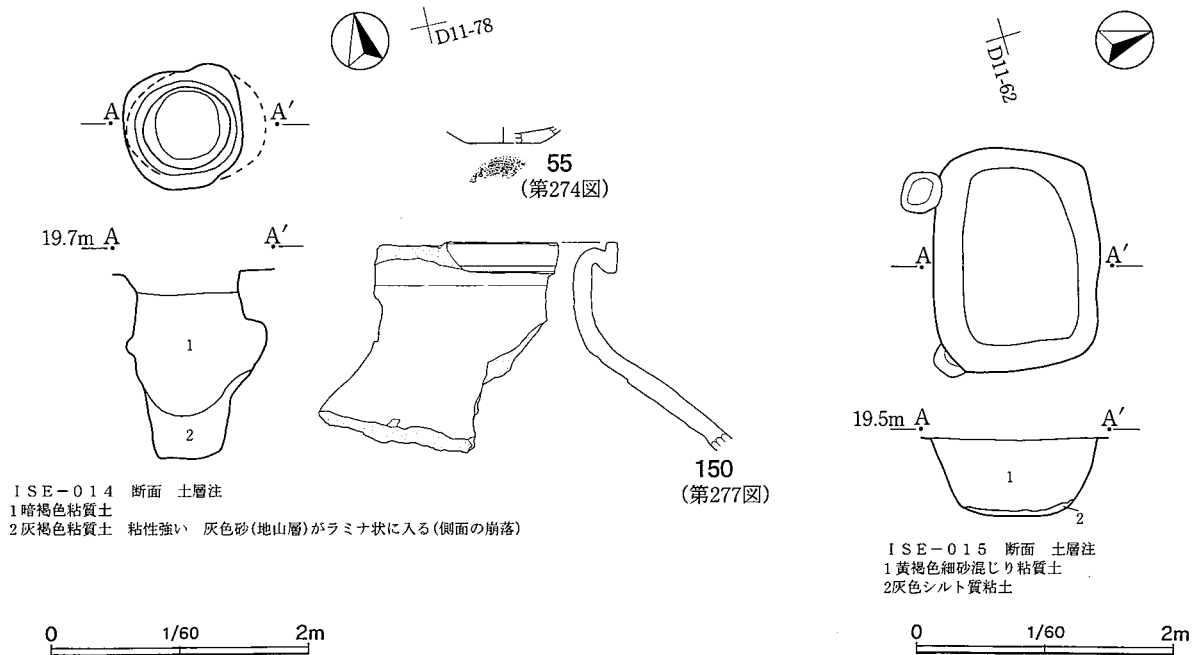


第235図 ISE-013と出土遺物



第236図 ISE-007と出土遺物

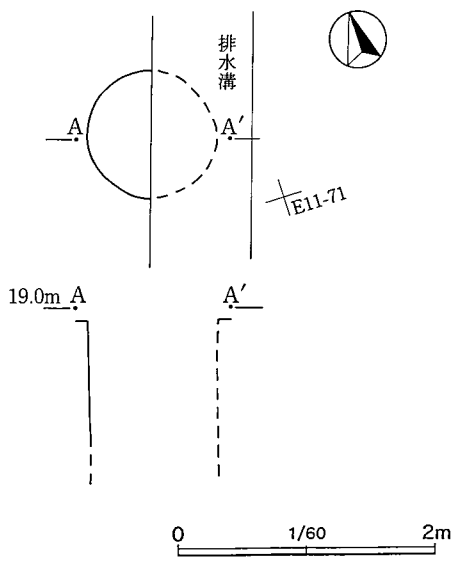
第237図 ISE-008と出土遺物



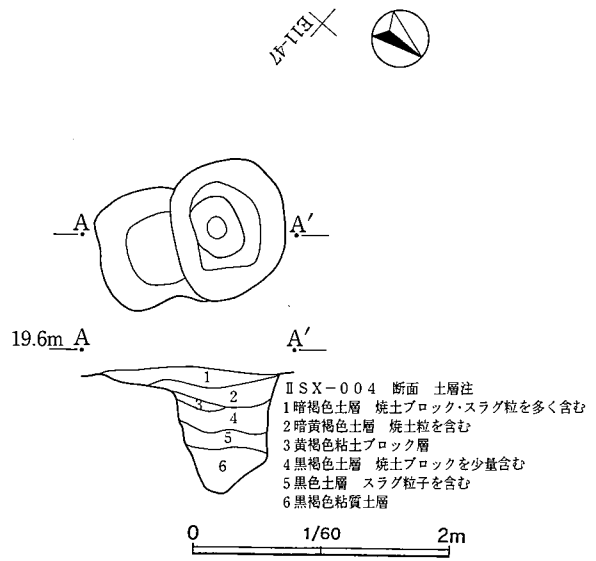
第238図 ISE-014と出土遺物

第239図 ISE-015

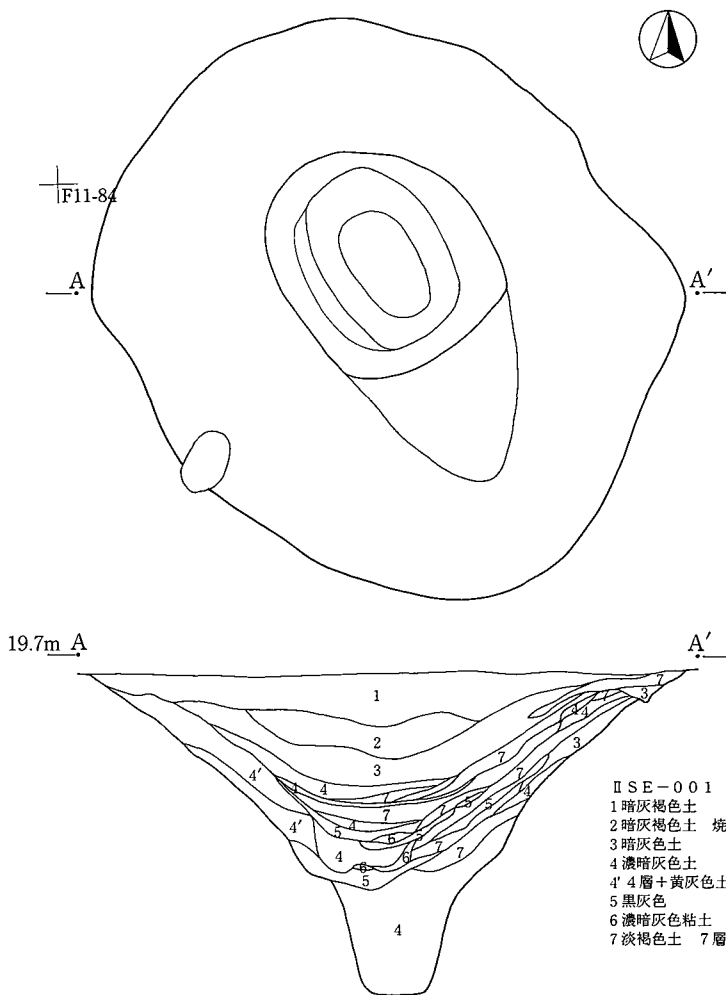




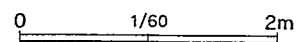
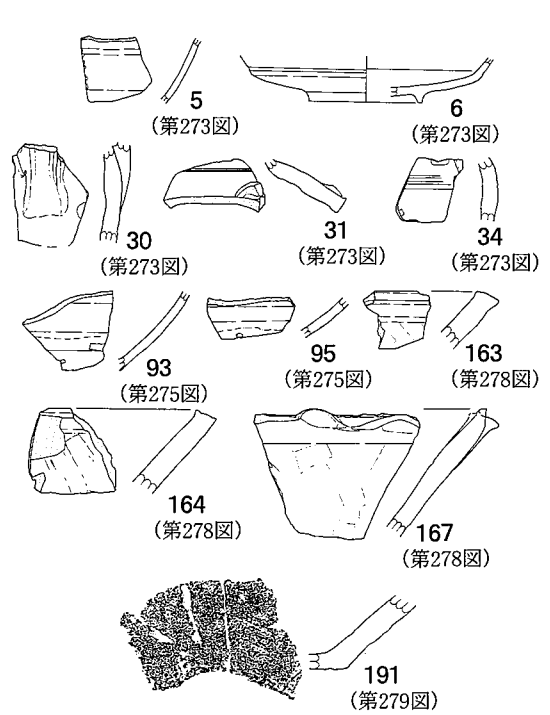
第240図 ISE-002

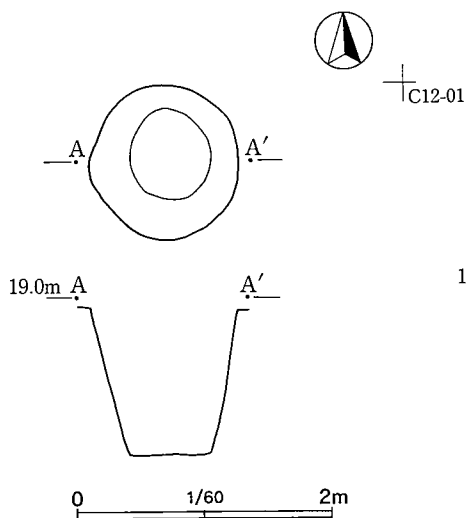


第241図 IISX-004

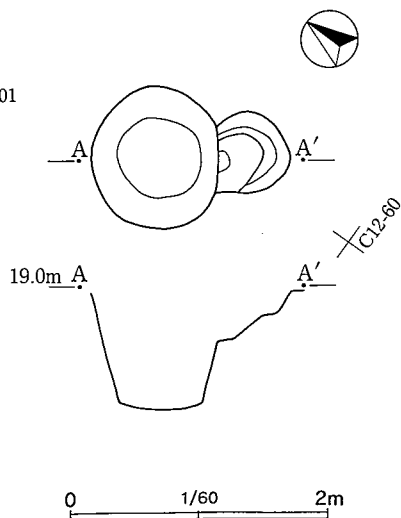


第242図 IISE-001と出土遺物

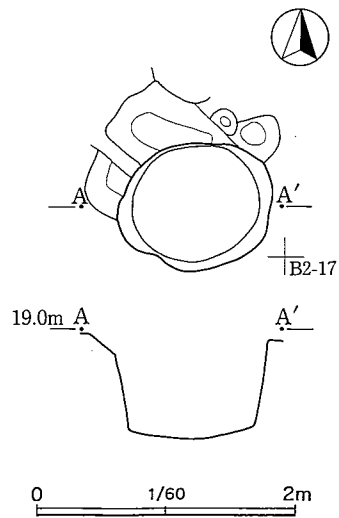




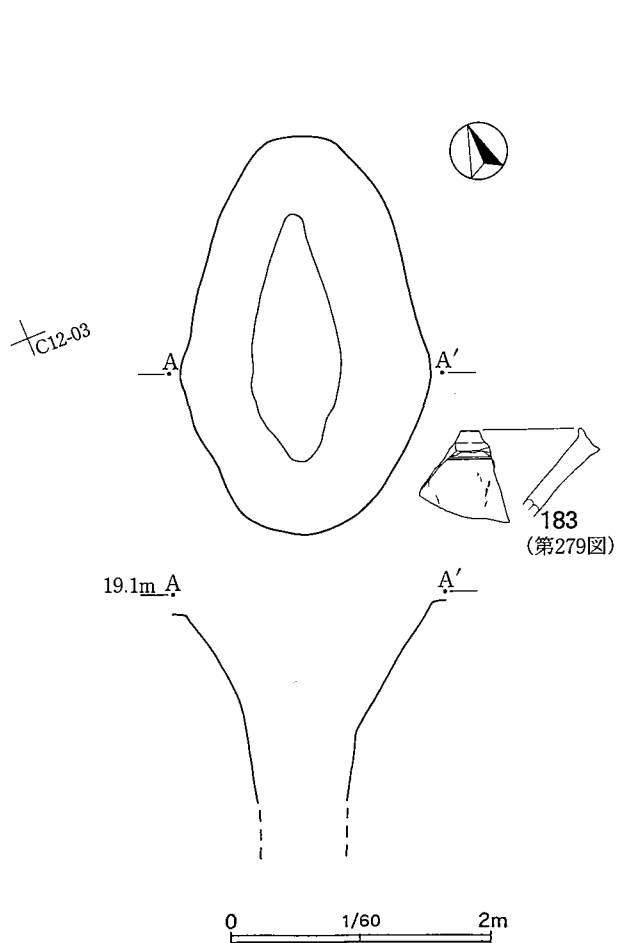
第243図 VSE-005



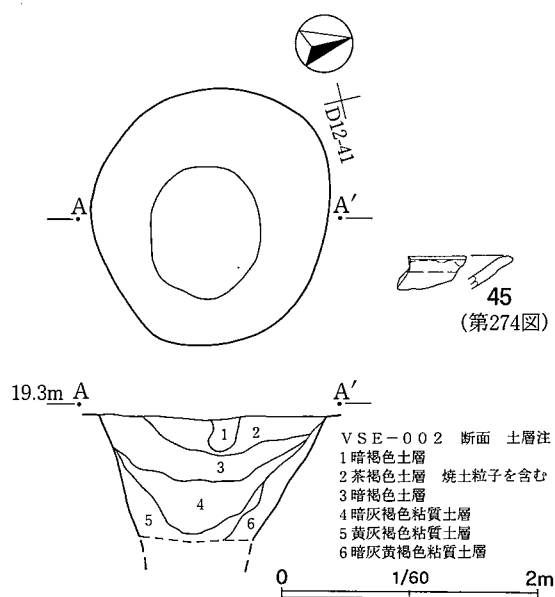
第244図 VSE-006



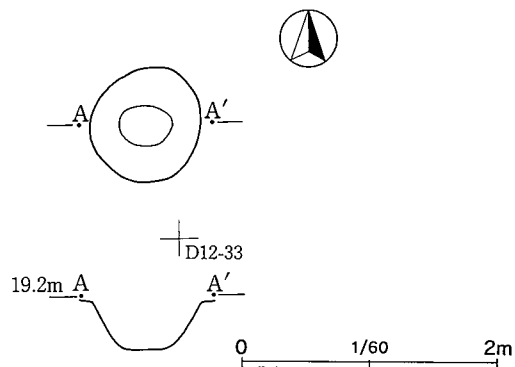
第245図 VSE-008



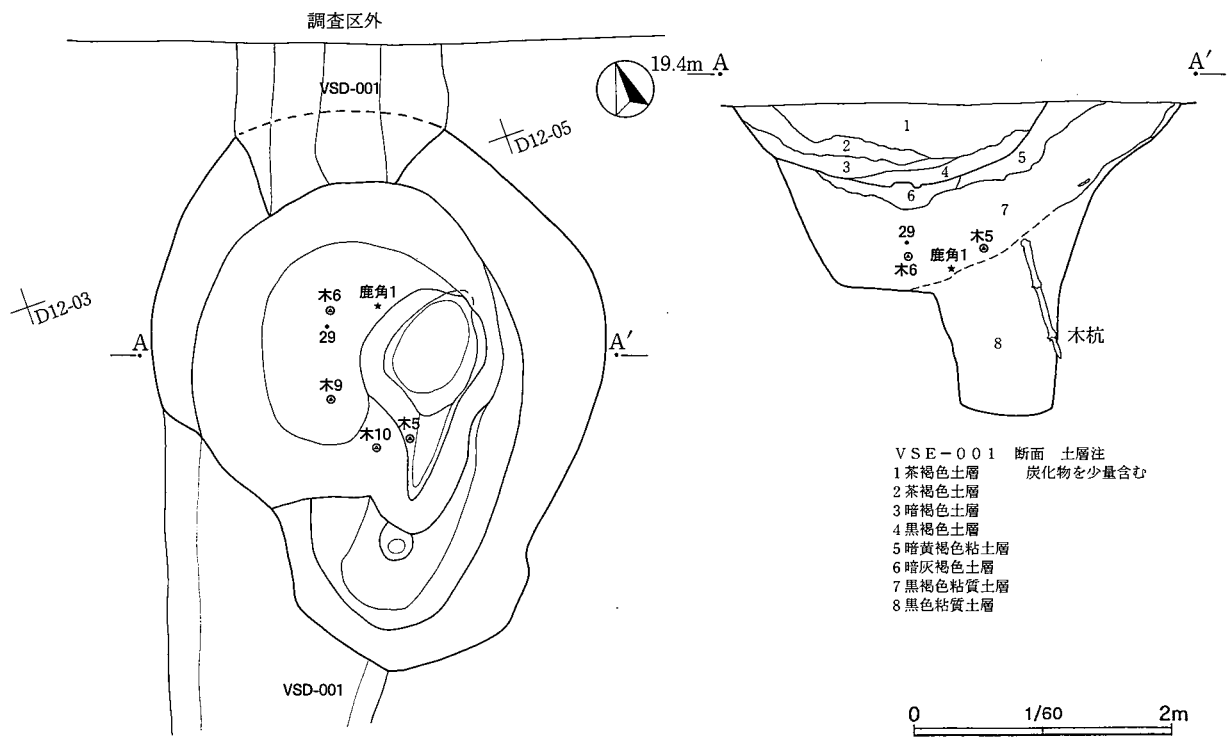
第246図 VSE-004と出土遺物



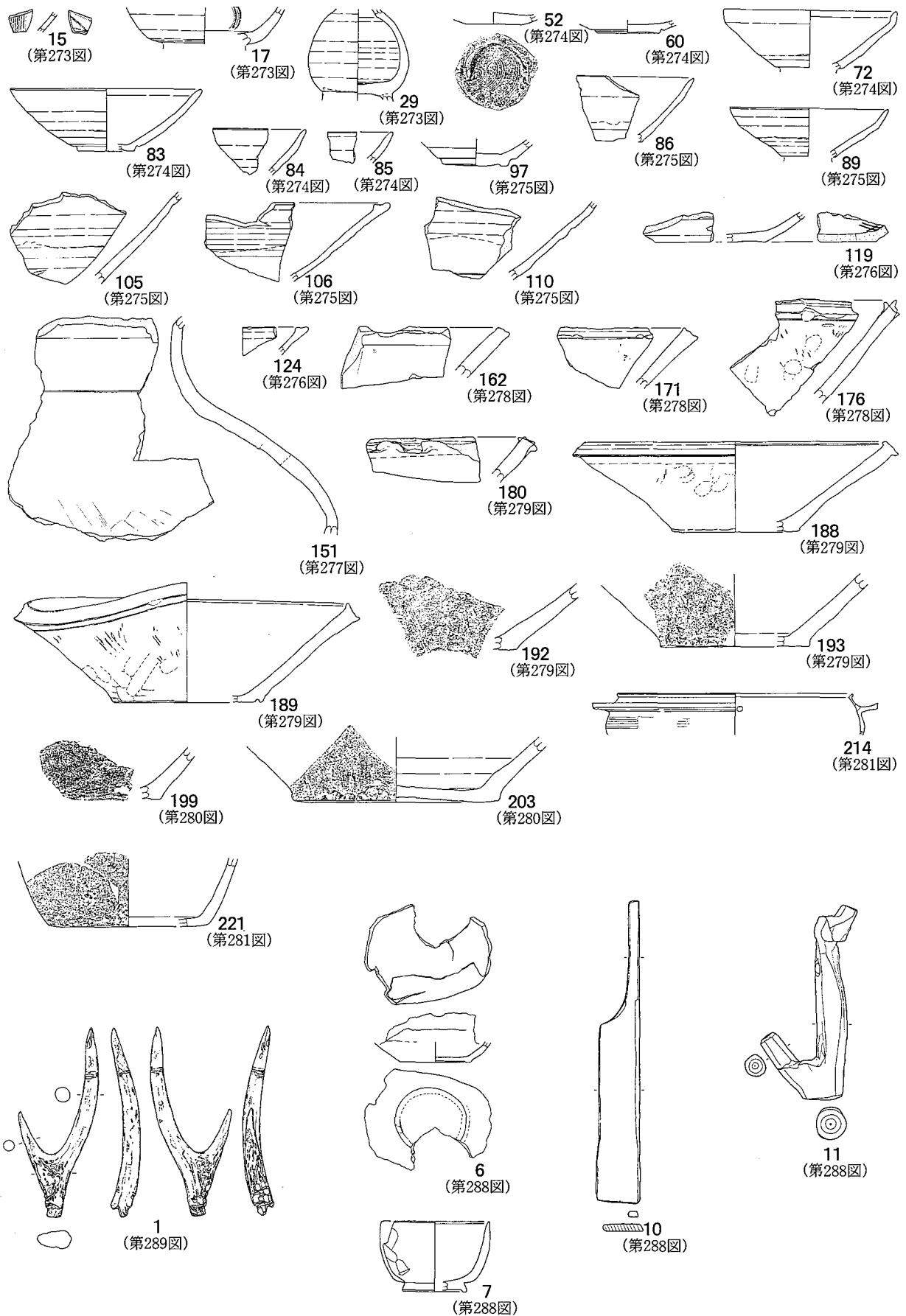
第247図 VSE-002と出土遺物



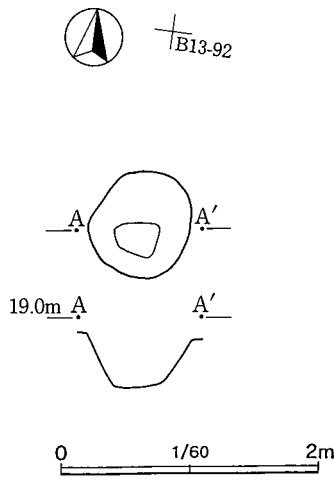
第248図 VSK-004



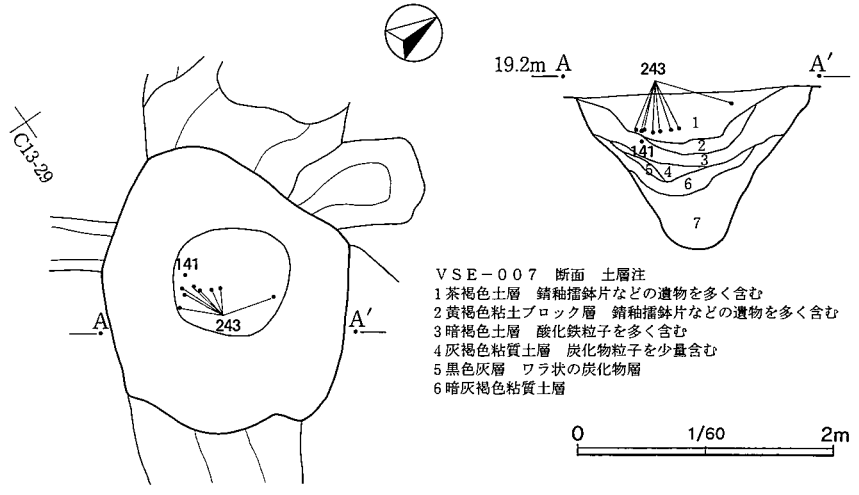
第249図 VSE-001



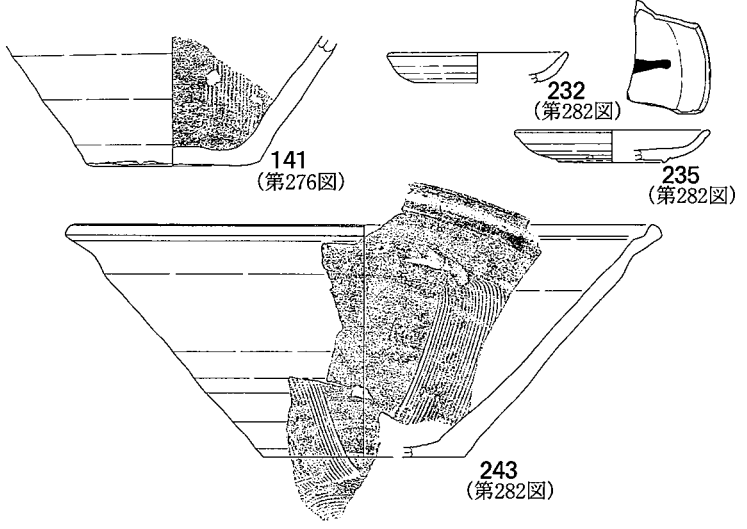
第250图 VSE-001出土遺物



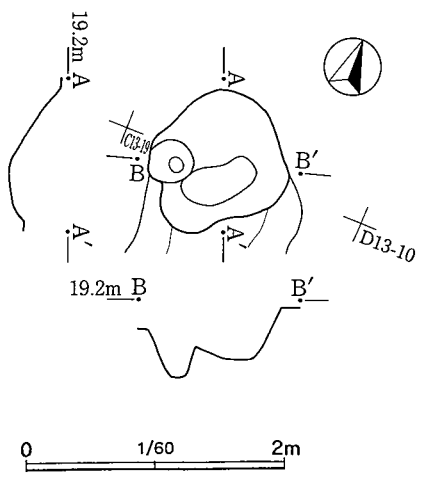
第251図 ISK-003



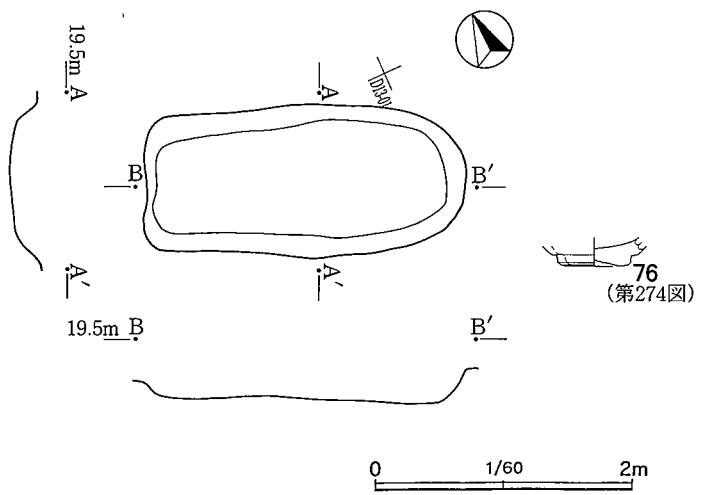
VSE-007 断面 土層注  
 1 茶褐色土層 錆軸挿鉢片などの遺物を多く含む  
 2 黄褐色粘土ブロック層 錆軸挿鉢片などの遺物を多く含む  
 3 暗褐色土層 酸化鉄粒子を多く含む  
 4 灰褐色粘質土層 炭化物粒子を少量含む  
 5 黒色灰層 ワラ状の炭化物層  
 6 暗灰褐色粘質土層



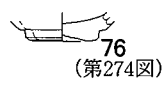
第252図 VSE-007と出土遺物

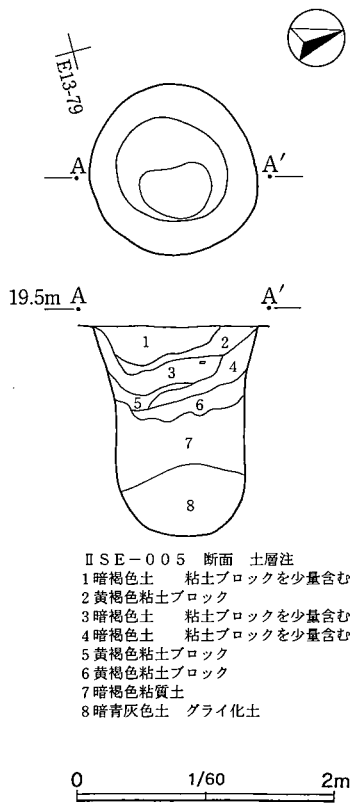


第253図 VSK-002



第254図 VSK-006と出土遺物

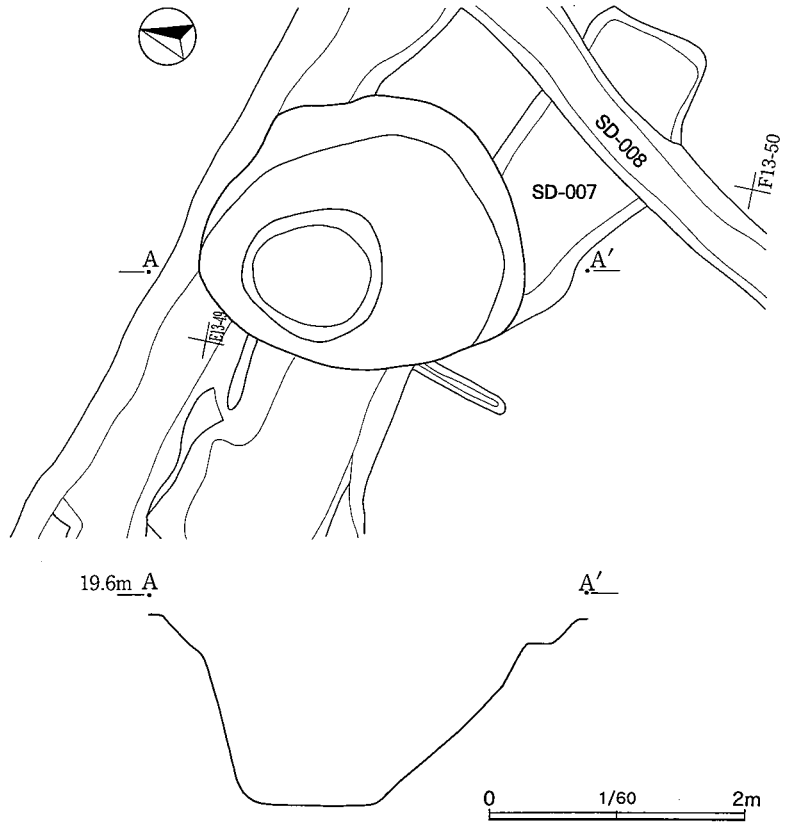




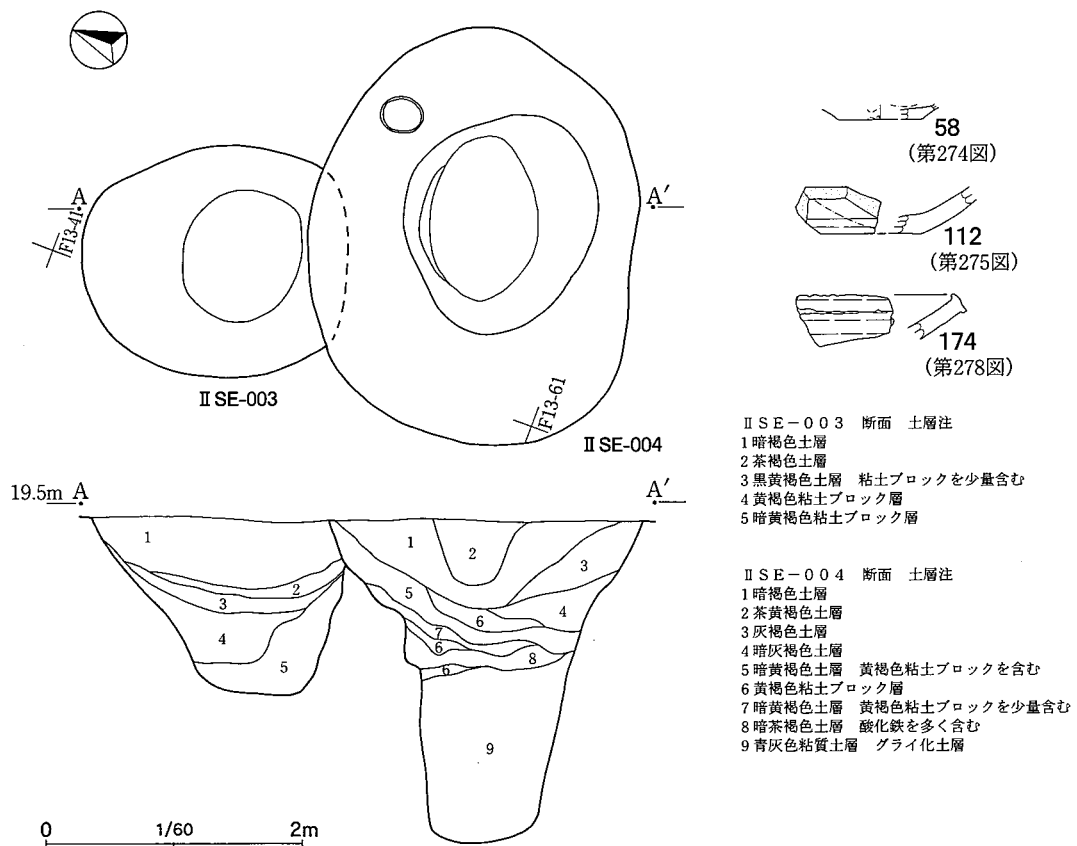
- II SE-005 断面 土層注
- 1 暗褐色土 粘土ブロックを少量含む
  - 2 黄褐色粘土ブロック
  - 3 暗褐色土 粘土ブロックを少量含む
  - 4 暗褐色土 粘土ブロックを少量含む
  - 5 黄褐色粘土ブロック
  - 6 黄褐色粘土ブロック
  - 7 暗褐色粘質土
  - 8 暗青灰色土 グライ化土

0 1/60 2m

第255図 IISE-005



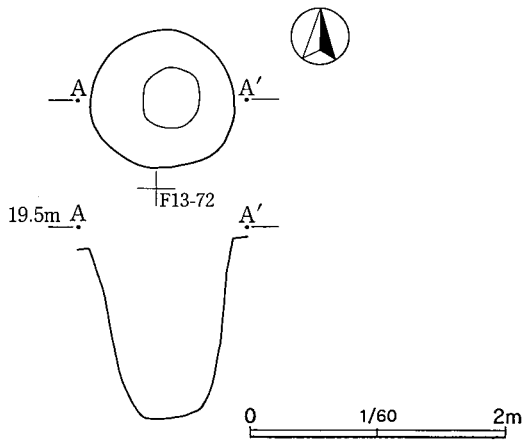
第256図 IISE-002



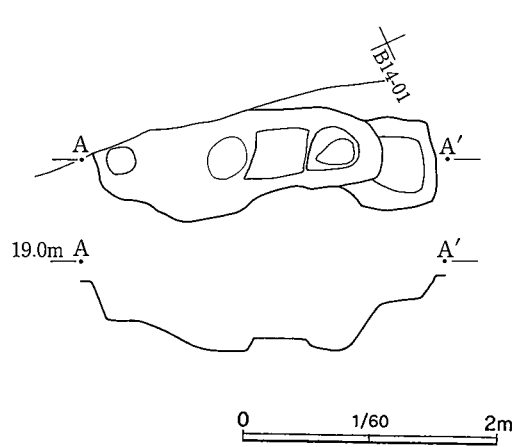
- II SE-003 断面 土層注
- 1 暗褐色土層
  - 2 茶褐色土層
  - 3 黒黄褐色土層 粘土ブロックを少量含む
  - 4 黄褐色粘土ブロック層
  - 5 暗黄褐色粘土ブロック層

- II SE-004 断面 土層注
- 1 暗褐色土層
  - 2 茶黄褐色土層
  - 3 灰褐色土層
  - 4 暗灰褐色土層
  - 5 暗黄褐色土層 黄褐色粘土ブロックを含む
  - 6 黄褐色粘土ブロック層
  - 7 暗黄褐色土層 黄褐色粘土ブロックを少量含む
  - 8 暗茶褐色土層 酸化鉄を多く含む
  - 9 青灰色粘質土層 グライ化土層

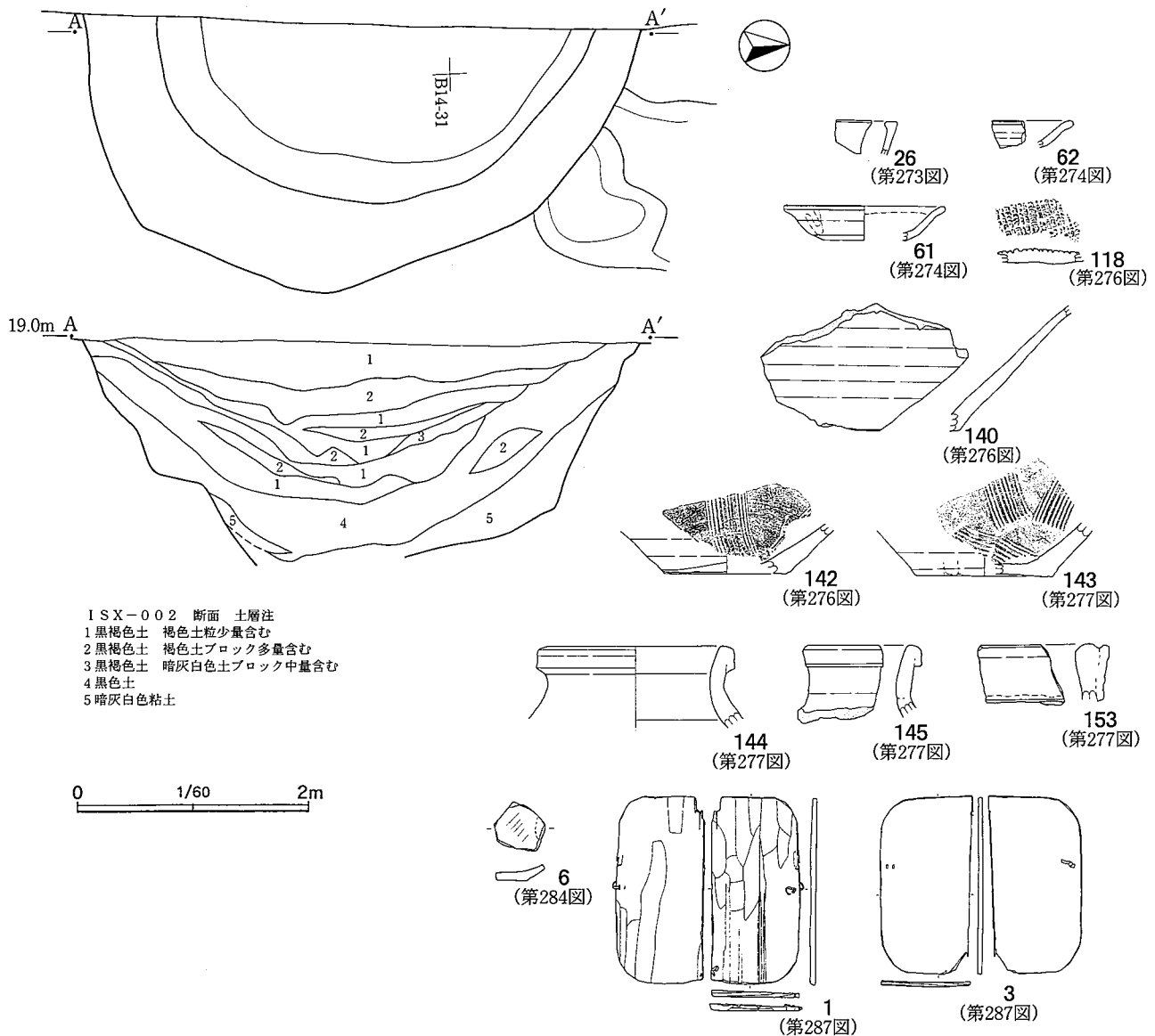
第257図 IISE-003・004と出土遺物



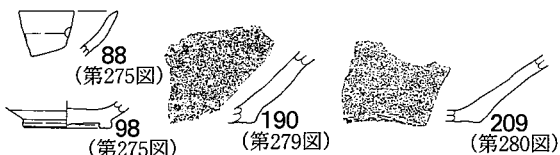
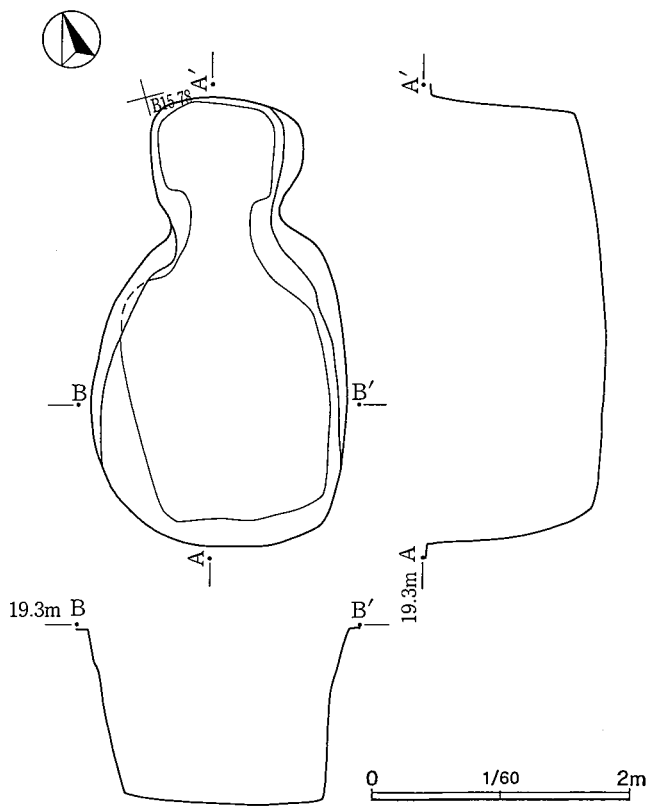
第258図 IISE-006



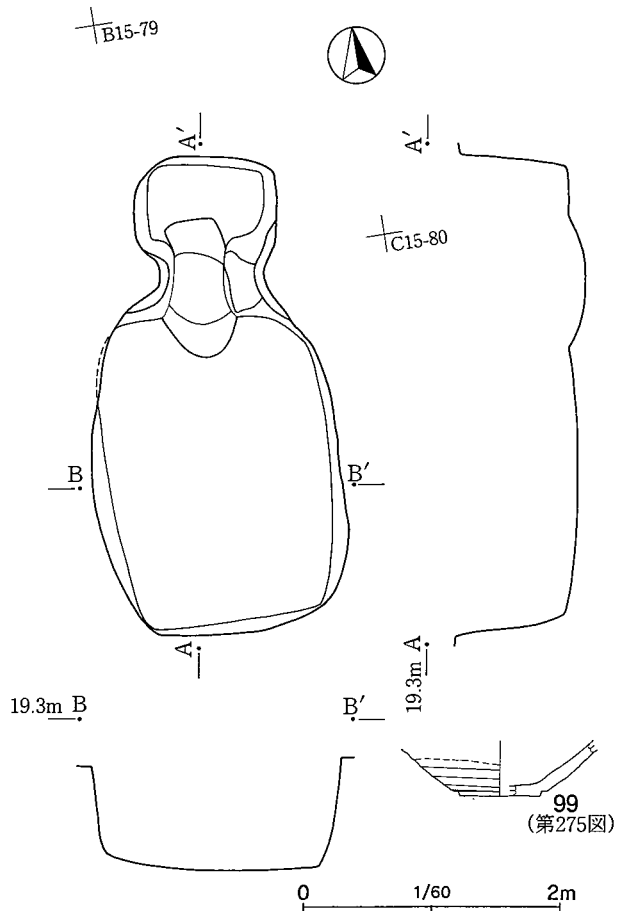
第259図 ISK-002



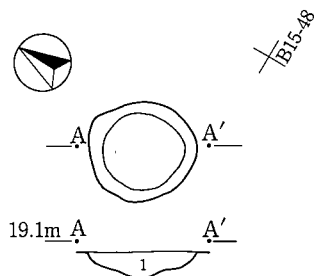
第260図 ISX-002と出土遺物



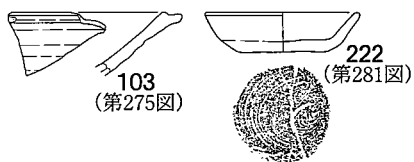
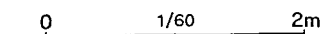
第261図 ISX-007と出土遺物



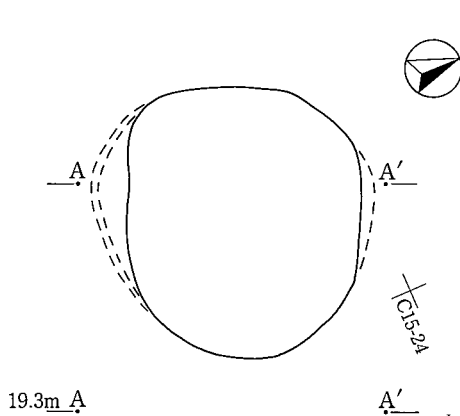
第262図 ISX-006と出土遺物



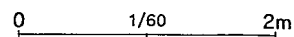
ISK-001 断面 土層注  
1 灰黒褐色土 焼土粒微量含む



第263図 ISK-001と出土遺物

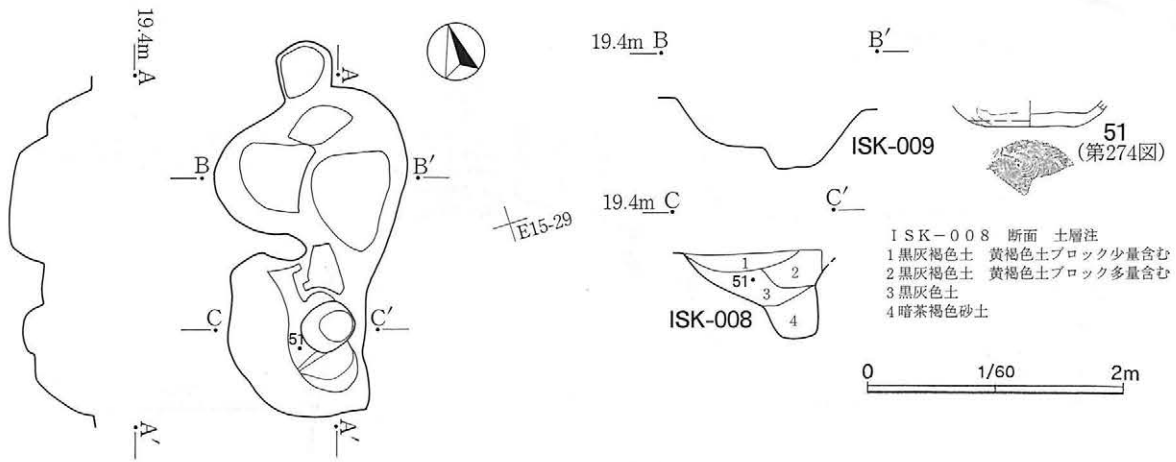


ISE-001 断面 土層注  
1 灰褐色土層 焼土粒子・粘土粒子を多く含む  
2 暗灰褐色土層  
3 黒灰色土層 粘土粒子を少量含む  
4 黒色粘質土層  
5 炭化物 灰色  
6 茶褐色粘質土層  
7 黄褐色粘土ブロック層

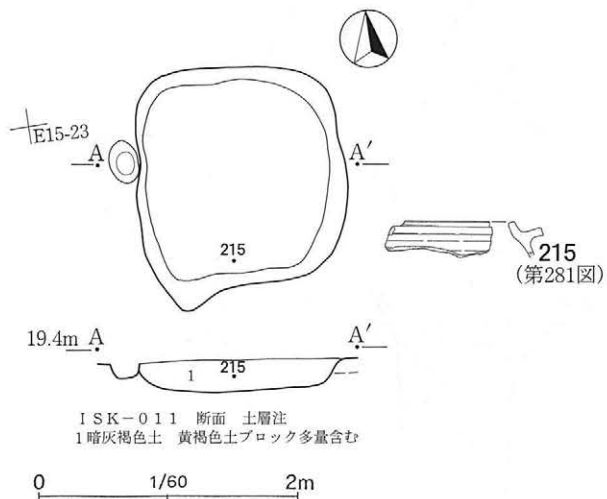


第264図 ISE-001と出土遺物

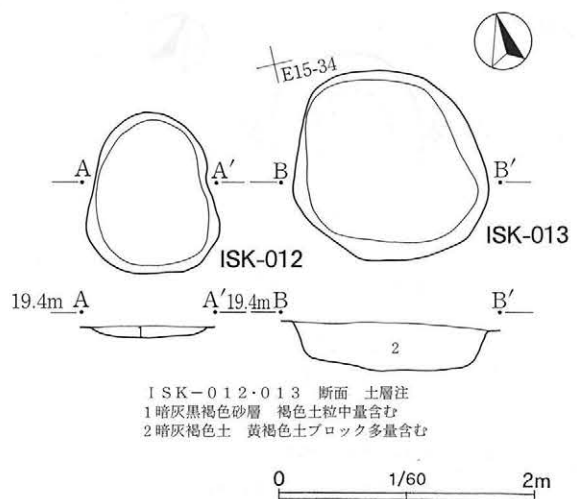




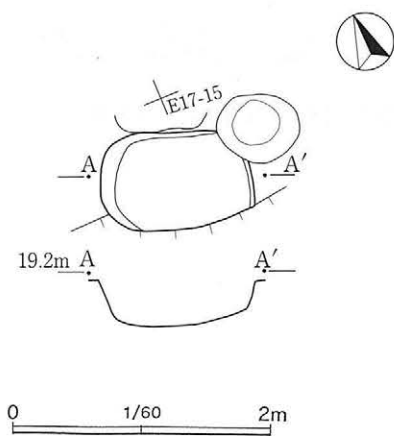
第265図 ISK-008・009と出土遺物



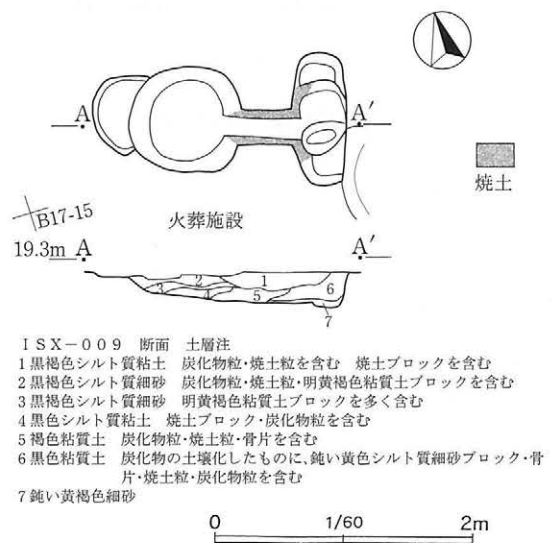
第266図 ISK-011と出土遺物



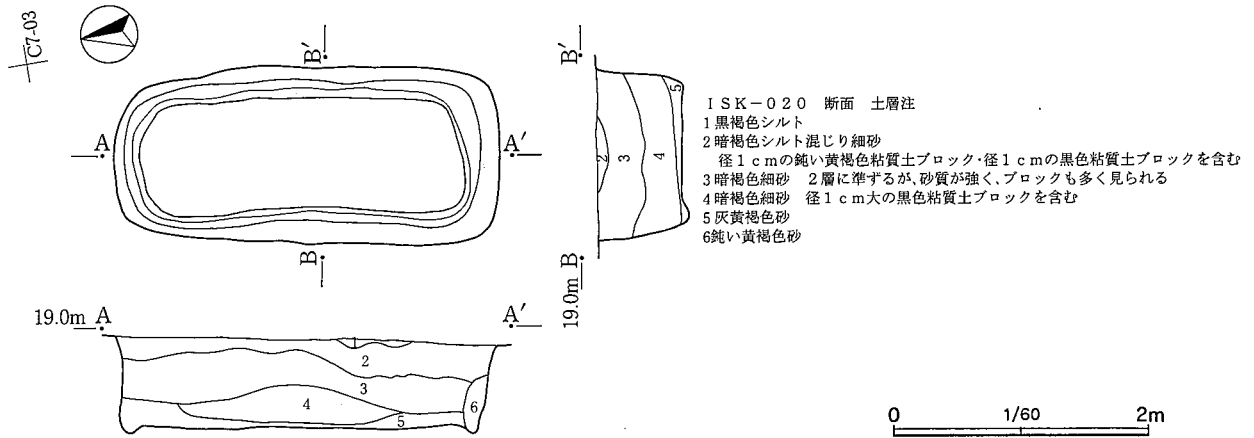
第267図 ISK-012・013



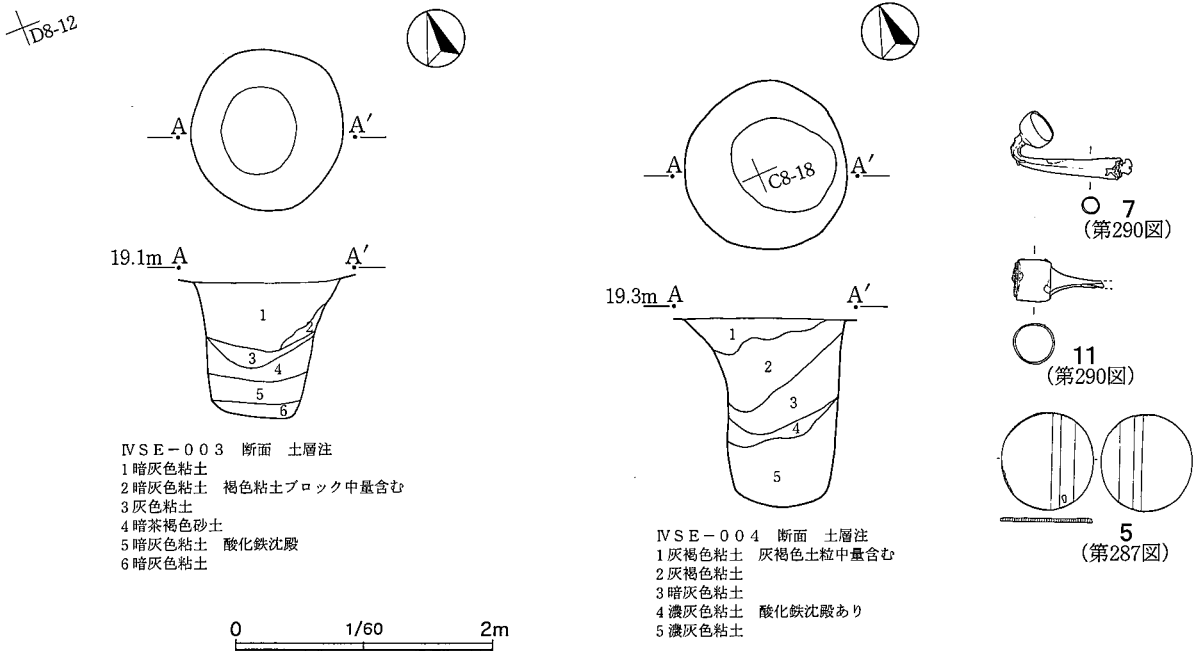
第268図 ISK-024



第269図 ISX-009



第270図 ISK-020



第271図 IVSE-003

第272図 IVSE-004と出土遺物

### 3 出土遺物（第273図～第292図・図版63～79）

#### (1) 貿易陶磁器（第273図1～27）

第273図1～4は白磁皿である。1, 2は口縁端部が外反するもの、3は多少碁笥底ふうのもの、4は平底のものである。5は白磁碗体部片であるが、口縁は外反するものであろう。3の文様は不明ながら径2.2cmの円形の界線内に描かれる。6はいわゆる枢府磁系の青白磁碗である。屈曲部上位外面に一条の沈線が巡る。

7～26は青磁である。7, 8は青磁鎬蓮弁文碗の口縁部である。7は内面にも連弁状の彫込みを有する。なお、釉は青灰色である。9は鎬蓮弁文碗の体部片であり、釉は貫入が顕著である。10は細蓮弁文碗の底部で、高台端のみ露胎である。11は蓮弁文皿の口縁部片である。12～15は口縁部片で、12はヘラ描、13～15は櫛描である。なお、13, 15は釉が多少黄色味を有する。16は底部、17は体部～底部片であり、16は片肉彫りの花文、17も同様ながら文様は不明である。18, 19は無文の口縁部片である。20～24は底部片で、23が体部下端まで、それ以外は高台内無釉である。なお、22は青灰色の釉調である。25は腰折れの青磁皿かと思われる、口縁端部は鋭く外反する。26は青磁香炉口縁部で、内面は露胎となる。

27は染付碗であり、見込み二重界線内に「福」、外面高台から体部にかけて三重の界線、その上部には僅かに文様が確認される。なお、高台端は露胎である。

以上、細片が多くその年代・産地等は不明な部分が多いが、青磁は12や16のように龍泉窯系、また、13, 15のような同安窯系かと思われるものがみられ（3の白磁も含められるか）、12世紀末以降に始源を有し、鎬蓮弁の青磁など概して13世紀～14世紀の製品が主流を占めるかと思われる。但し、27の染付「福」銘は時期が下り、15世紀代に位すると思われる。

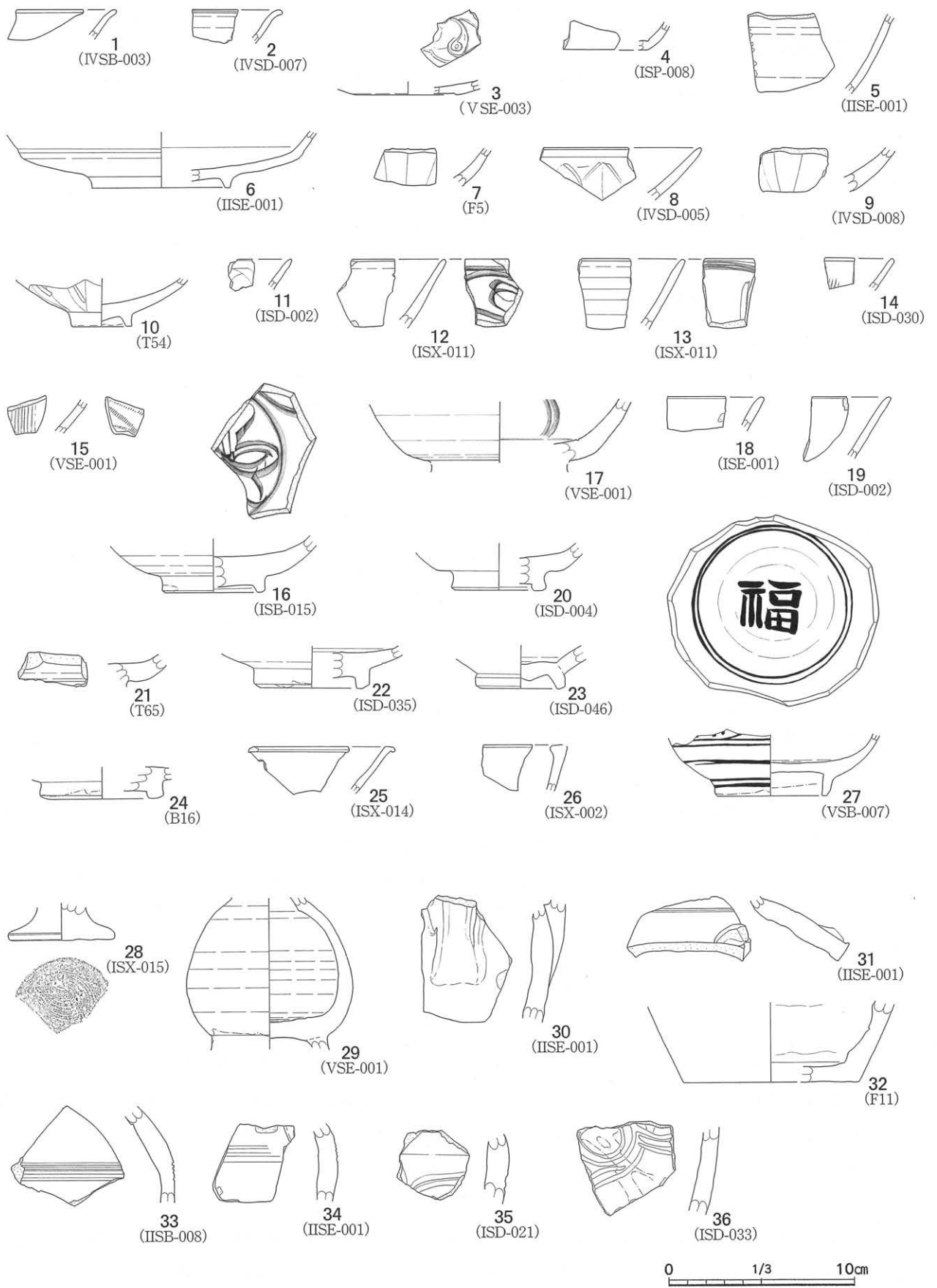
#### (2) 瀬戸・美濃（第273図28～第277図143）

第273図28～36は古瀬戸中期様式と思われる一群である。28は小形の鉄釉花瓶底部である。29は欠損部分が多いが恐らく花瓶であろう。外面には文様がなく、釉は灰釉である。30, 31は水注の胴部片であり、30は把手部、31は注口の基部である。32は底部片で形状や胎土等から水注の底部と判断される。なお、これら水注は灰釉ながら底部には釉はみられない。33～36は梅瓶の肩部～胴部片であろう。33, 34は灰釉、35, 36は鉄釉である。前者は肩部に4条の沈線が巡り、後者は片部～胴部にかけて陰刻文様を施すものである。

第274図37～第277図143は古瀬戸後期様式以降に属する。37～45は縁釉小皿口縁（45は多少大型で挟み皿の可能性あり）であり、釉は何れも灰釉である。46, 47は縁釉小皿口縁～底部片を復元実測したものであり、削り出し高台で底部下端は回転ヘラケズリ調整による。48～50は縁釉以外の可能性もある口縁部（皿ないし平碗）であるがここで図示した。51～60までは同じく縁釉小皿の底部である。この内、51, 52, 62は内面施釉かつトチン痕を遺し、腰折皿とすべきかもしれない。

61～69は初期の大窯製品と思われる。61, 62は挟み皿、63以降は灰釉皿と思われるが、61を除けば口縁部細片であり断定はし得ない。

70～79は天目茶碗であり、70～74は口縁部、75～77は底部、78, 79は体部片である。この内、72, 77, 79は灰釉、残りは鉄釉である。また、72, 77は平碗の可能性もある。80, 81は大窯製品の天目茶碗片と思われる、共に鉄釉を施す。



第273图 出土陶磁器 1

第274図82～第275図100は灰釉平碗であり、82～91は口縁～体部（一部口縁のみ）、92～95は体部片、96～100は底部（片）である。何れも外面体部中位まで灰釉を施し、削り出し高台のものである。

第275図101～111は折縁深皿（中皿）であり、101～104、106～108は口縁部（～体部）片、109、110は体部片、111は底部片である。何れも外面底部中位（～下端近く）まで灰釉を施し、底部は三足を有するものである。

112、113は折縁深皿ないし直縁大皿の底部かと思われ、前者は外面下端近くまで灰釉を施す。

114は直縁大皿口縁部と思われる。口縁内側に一条の窪みが巡り、端のみ灰釉を施す。115は片口鉢であろう。鉄釉を薄く刷毛塗りしており、若干褐色に発色する。胎土は土師質である。第276図116も片口鉢の底部になろうか。三足を有し、胎土は若干須恵質である。

117は卸皿、118は同じく卸皿の底部片である。前者は口縁部のみ灰釉を施す一方、後者は内面全面施釉のものである。

119は卸目付大皿で、内面に自然降灰が見られる。

120は香炉の口縁部片であるが、近世瀬戸製品の可能性もある。121は灰釉の花瓶底部片である。

第276図122～第277図143は播鉢であるが、大窯に降る製品（131～143）が半分程度みられたので、挿図でも分けて掲載した。122～127は口縁部である。124までは折縁のもので、中皿や鉢の可能性もある。何れも鉄釉刷毛塗りである。125以降は紫褐色の錆釉である。129～130は底部（片）であり、何れも全面施釉である。この内、129は胎土に砂礫や長石粒を含み、瀬戸以外の可能性もある。

131～143は大窯初期の播鉢で、131～139は口縁部片、140は体部片、141～143が底部（片）である。釉は紫褐色の錆釉であるが、136は紫黒色に発色する。なおこの内、140と141は底部内面の摩耗が著しい。

これら瀬戸・美濃製品の年代的な位置付けであるが、中期様式から見られるものの、主体を占めるのは後期様式である。それもその後半にピークがあり、大窯初期の段階でほぼ断絶するという状況である。ただ、その中にも瀬戸の播鉢は後期様式よりも大窯製品のほうが多いくらいであり、これは次に報告する常滑の鉢との需給関係を物語っている可能性が高い。何れにせよほぼ14世紀末～15世紀代という幅で捉えられると思われ、その前代に後期初めそして中期様式の製品が僅かにみられる内容とあってよい。また、大窯製品であるが、藤沢編年の大窯Ⅰ期でほぼ終わっていることは単純にその間、人の活動が絶えてしまうとみることは問題があろう。これは一般的な大窯Ⅱ以降の製品の稀少さとも関係するわけで、城館や集落でのあり方とも併せ検討課題としておくべきだろう。

### (3) 常滑（第277図144～第280図204）

第277図144～148、第278図157は広口壺の口縁部～体部である。この内、145は最も小形で口縁部径13cm程、148、157が大形品で口縁部径20cm以上になろう。148が黄褐色の他は暗褐色～紫褐色を呈する。149は小形の壺の体部～底部大形片である。

第277図150、151、155、第278図156、157、第279図191～204は甕であり、150、151は同一個体になろう。157までは口縁部ないし口縁～胴部の大形片、191以下は底部片ながら、1点（198）胴部片（肩部押印文様）を含む。なお、195、197は鉢の可能性もある。

第278図159～第279図190までは片口鉢であるが、159～161は小形の鉢になろう。口唇部の形状から176を境にして大きく二分され、それは色調（黄褐色・赤褐色/紫褐色）や肌理（砂目/施釉状）にも現れてい

る。年代的には前者が古く後者が新しい。

これら常滑製品の年代観であるが、甕の一部（150～152）に13世紀代に遡る製品がみられるものの、それ以外は概ね14世紀末～15世紀代に位置付けられよう。ただその新しい群-176以降の片口鉢など-の終末をどこにおくかは、瀬戸の播鉢との関係もあって微妙であるが、後者が大窯期に至って量的に増加している点は示唆するところがあるろうか。

#### (4) その他諸窯（第280図205～第281図225）

第280図205、206は片口鉢（ないし山茶碗）の口縁部と思われる。何れも砂粒を含むが206は顕著である。

207は壺ないし瓶の底部と思われる。長石粒を多く含む須恵質である。

208は渥美の壺肩部片であり、肩部にヘラ描の文様を施す。

209は平底の鉢と思われ、須恵質である。胎土に長石粒を多く含む。

210は丹波の播鉢と思われ、口縁内面に一条の沈線を巡らす。胎土は長石、石英を多く含む、色調は明黄褐色～灰褐色である。

211は備前の播鉢底部と思われ、胎土に長石粒・砂粒を含む。色調は茶褐色～灰褐色である。

212、213は片口鉢底部と思われる。胎土は砂粒を含む、外面体部下端に回転ヘラケズリ整形を施す。212は内面の摩耗が著しく、須恵質である。

第281図214、215はいわゆる南伊勢系土器の羽釜口縁部片である。丁寧な器表調整と緻密な胎土を特徴とする。214は鏝部分にススの付着がみられる。

216、217は素焼きの小形の手焙であり、216の外面は文様というより櫛目に相当する。217は僅かに三足の一部が確認できる。

218～221は内耳鍋である。218は完形で、耳は2：1で一對になり、2組のほうの一つが欠けている。外面にススの付着が顕著ながら、底面は火によるためか赤焼けた器表面が露出する。219、220は口縁部であり、前者は丸みのある口唇部、後者は平らである。221は底部であり、こちらは外面のみならず底面にもススの付着が著しい。

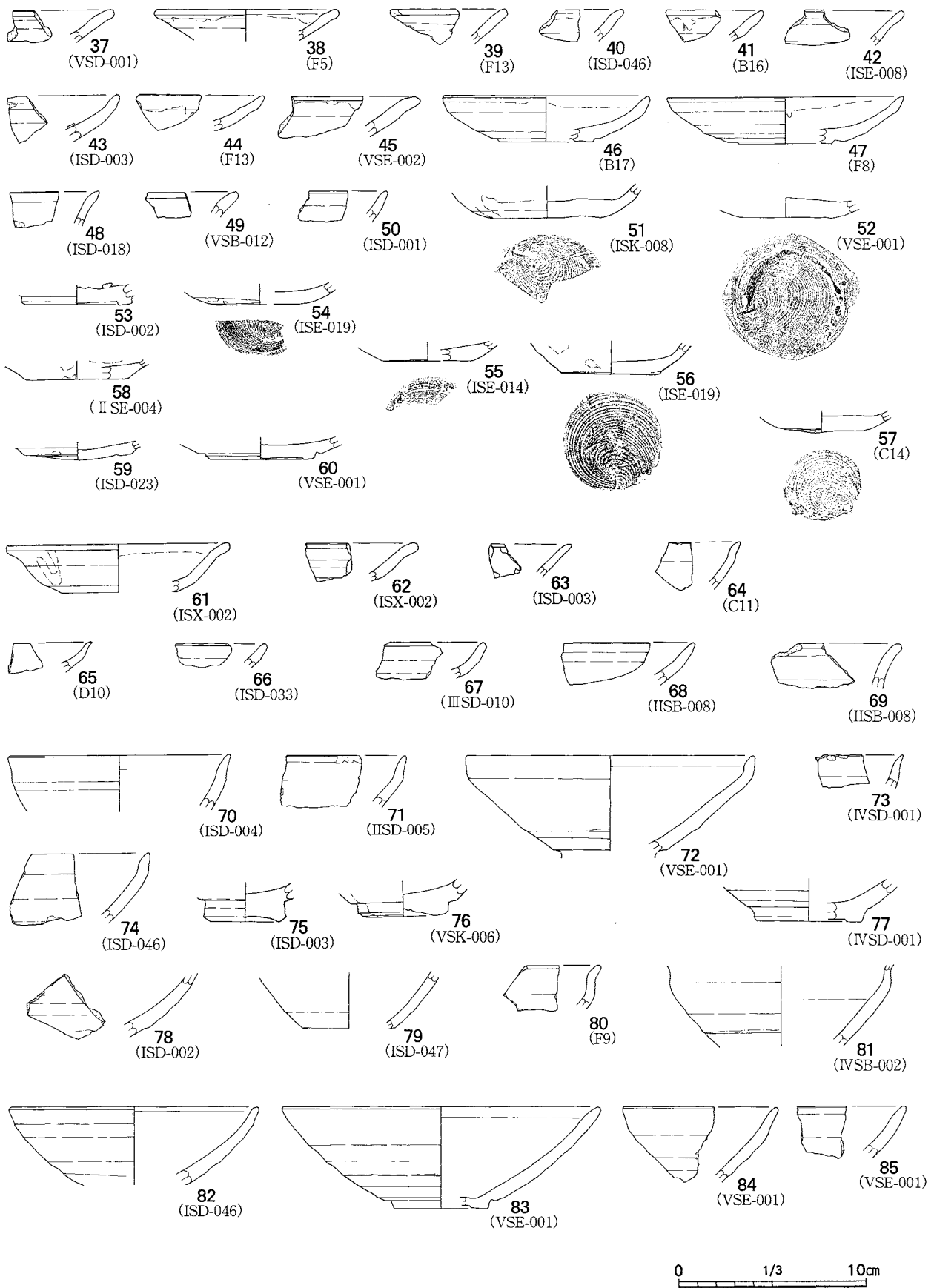
222～225はカワラケである。口径7cmのものと10cmのものに分けられ、何れも底面に回転糸切り痕を遺す。なお、223、224は砂粒を多く含む胎土である。色調は全て明るい黄褐色である。

これら諸窯産は年代的に大きく2グループに分けられようか。即ち、15世紀代の丹波、備前、南伊勢系土器、内耳鍋とそれ以前である。前者は遺物の中心をなす瀬戸・美濃、常滑産と併行する時期であり、僅かながらも他窯産が流入している事実が明らかにされた点に意義があろう。一方、後者は12世紀～14世紀代の所産かと思われるが破片でもあり特定しえない。

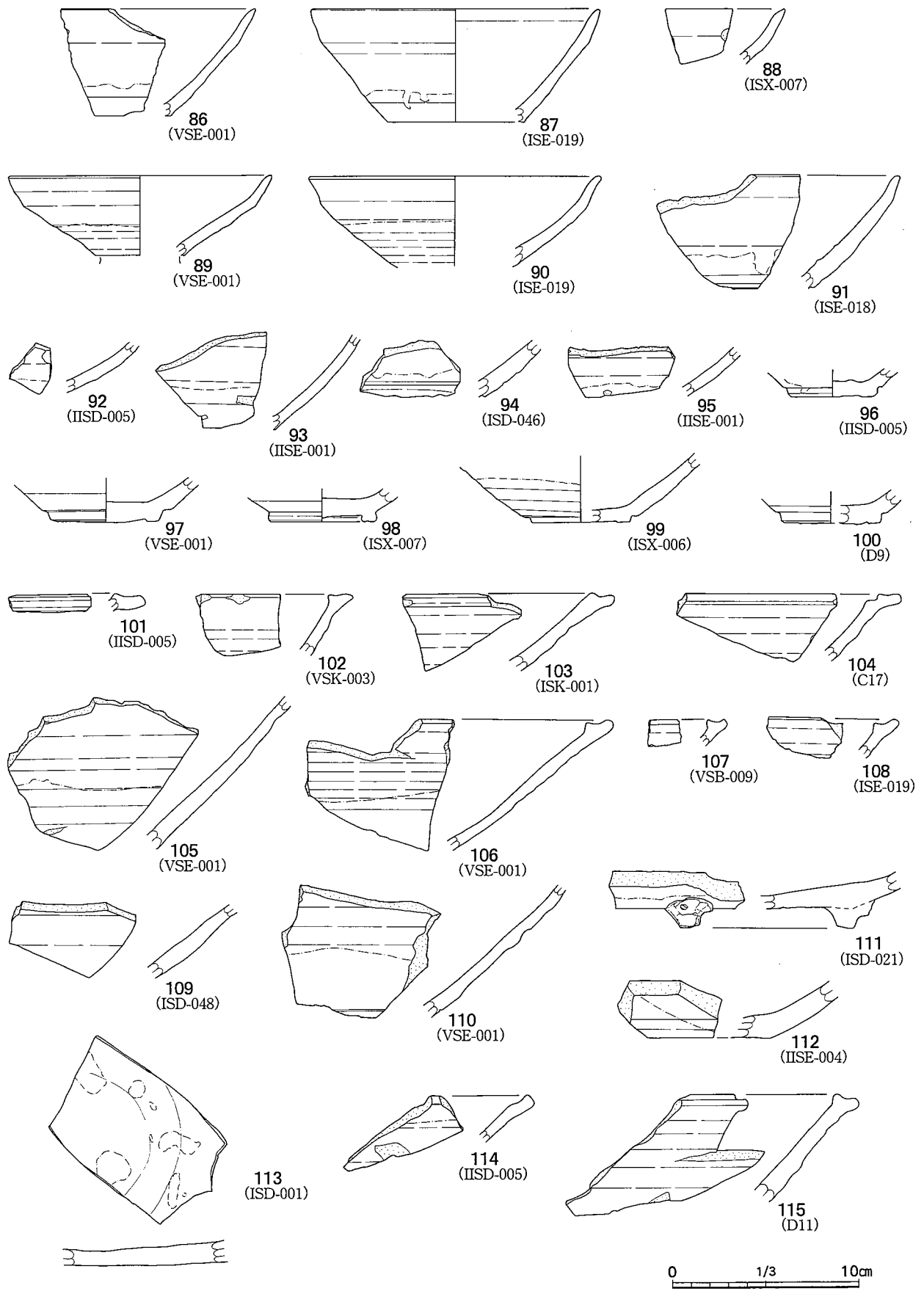
#### (5) 近世陶磁器（第282図226～第283図247）

唐津（第282図226～230）

226～228は鉄絵皿（底部片）であり、226は胎土目積み、227、228は砂目積みである。229は筒型碗底部であり、遺存部分は無釉である。230は全面施釉の皿（底部1/2）で、長石釉により文様を描いている。

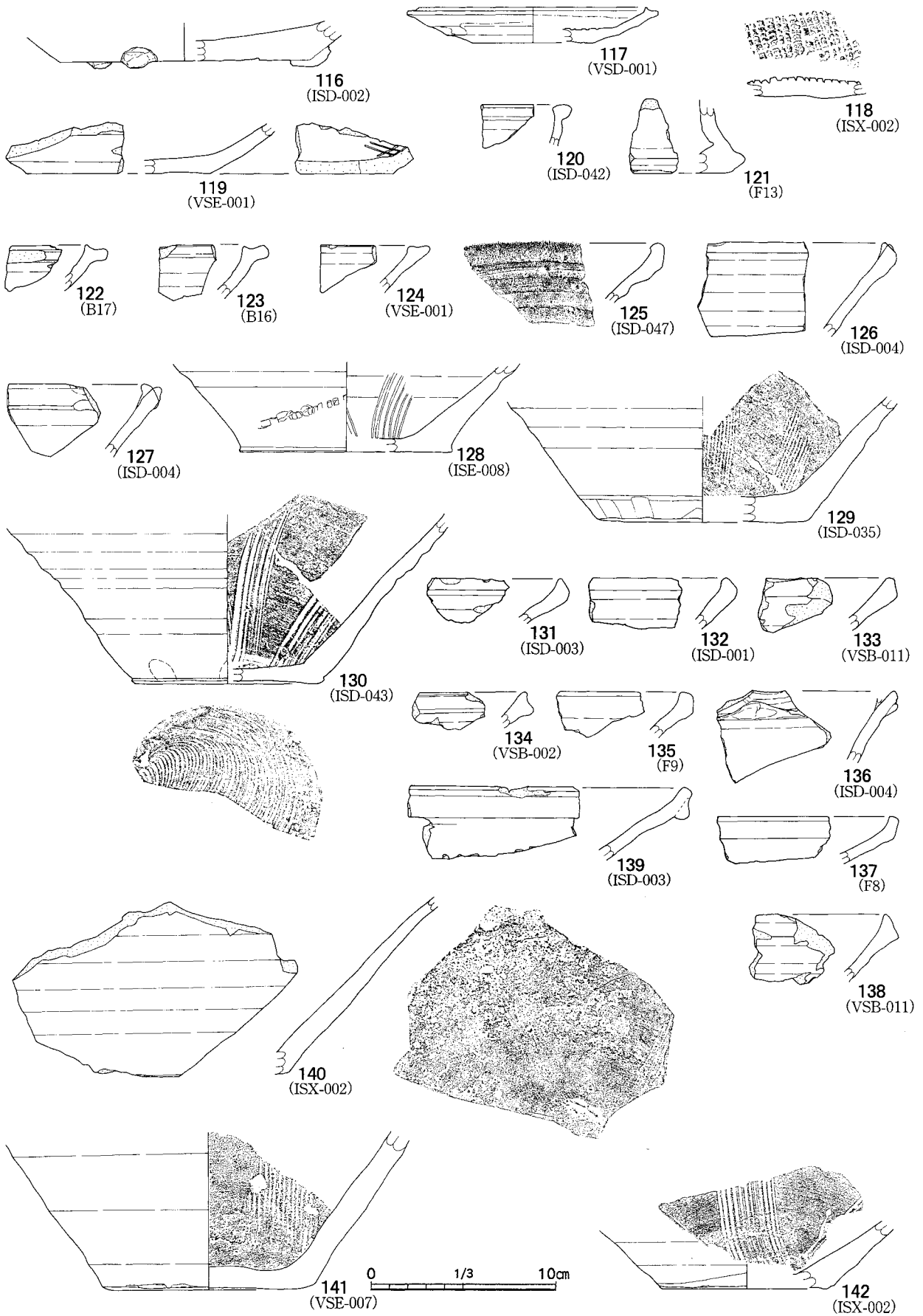


第274图 出土陶磁器 2

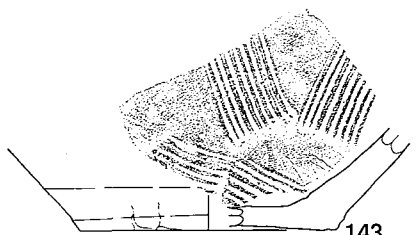


第275图 出土陶磁器 3

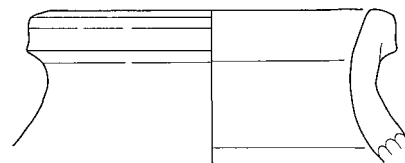




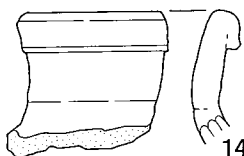
第276图 出土陶磁器 4



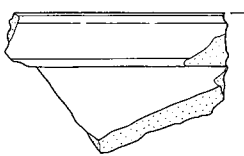
143  
(ISX-002)



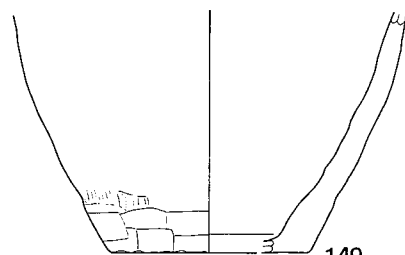
144  
(ISX-002)



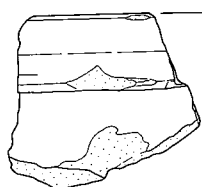
145  
(ISX-002)



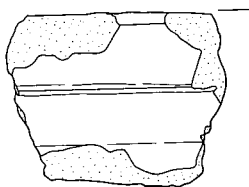
146  
(ISE-019)



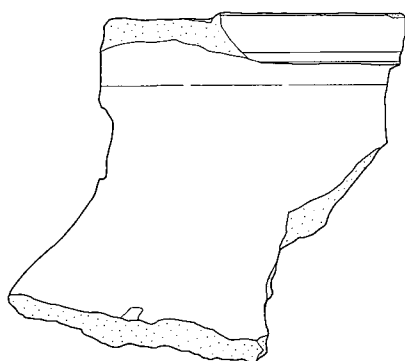
149  
(ISE-007)



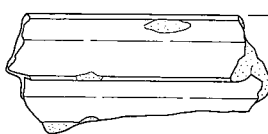
147  
(ISE-018)



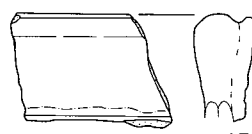
148  
(IISD-005)



150  
(ISE-014)



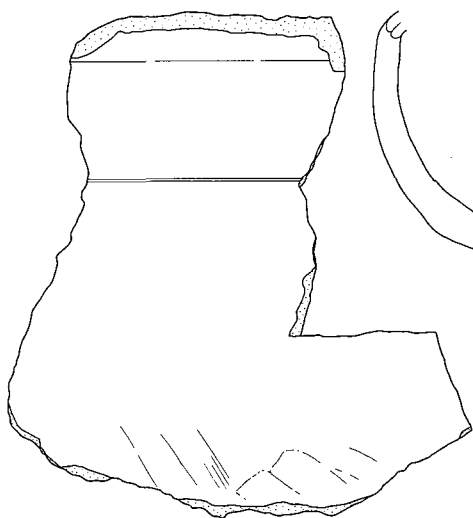
152  
(IISD-005)



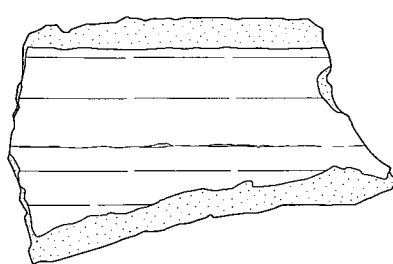
153  
(ISX-002)



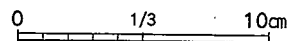
154  
(ISD-001)



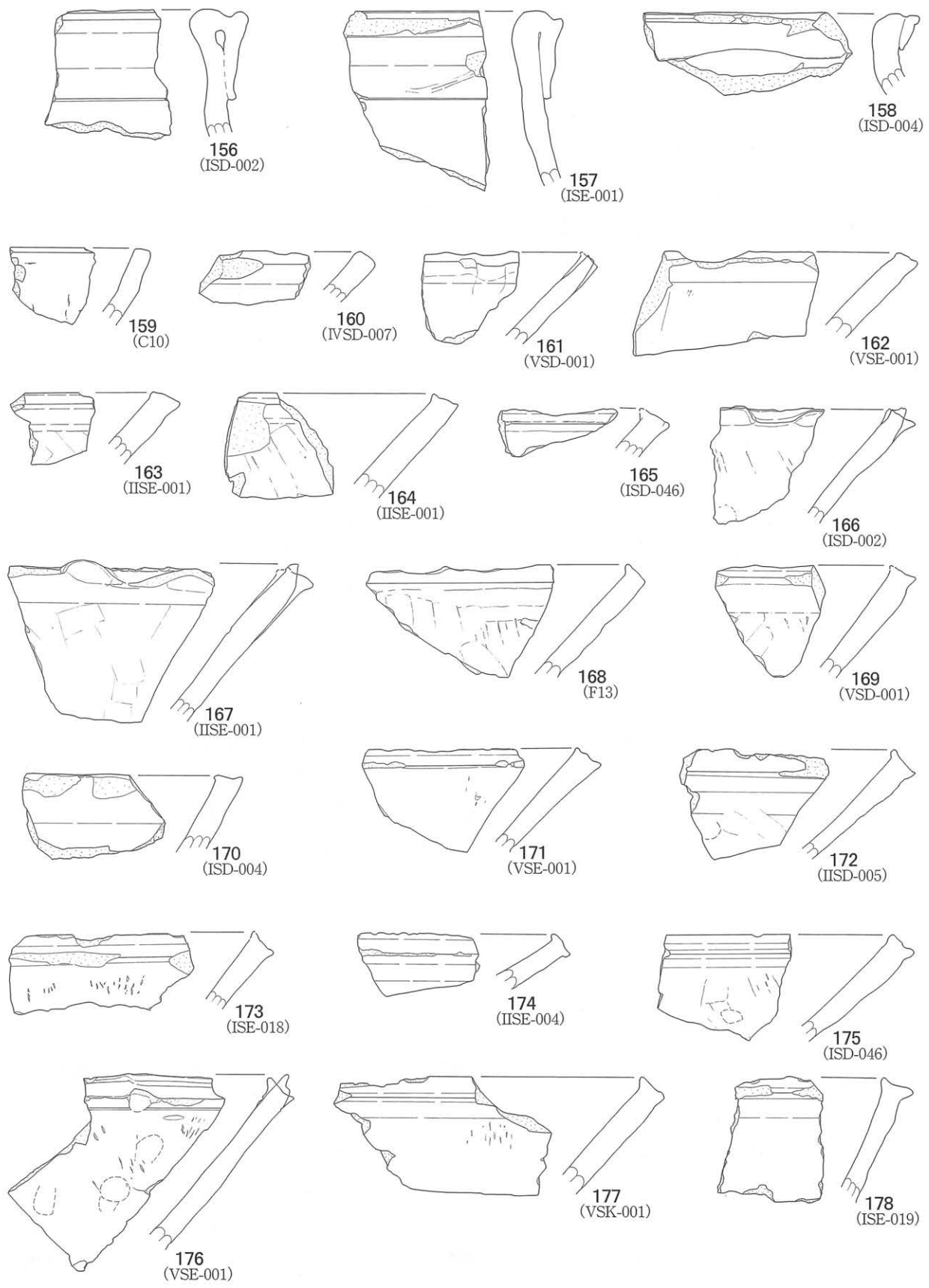
151  
(VSE-001)



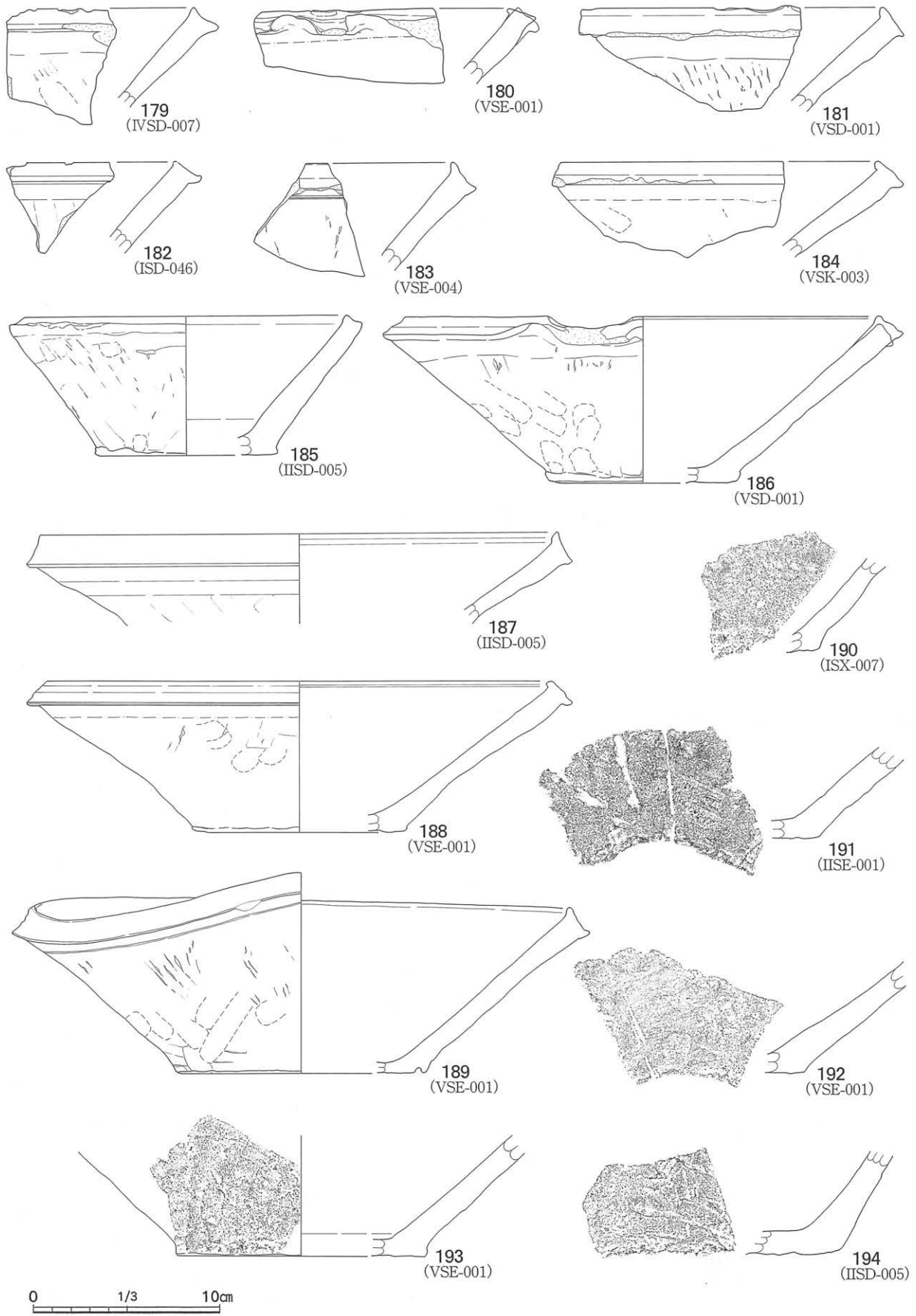
155  
(IISD-005)



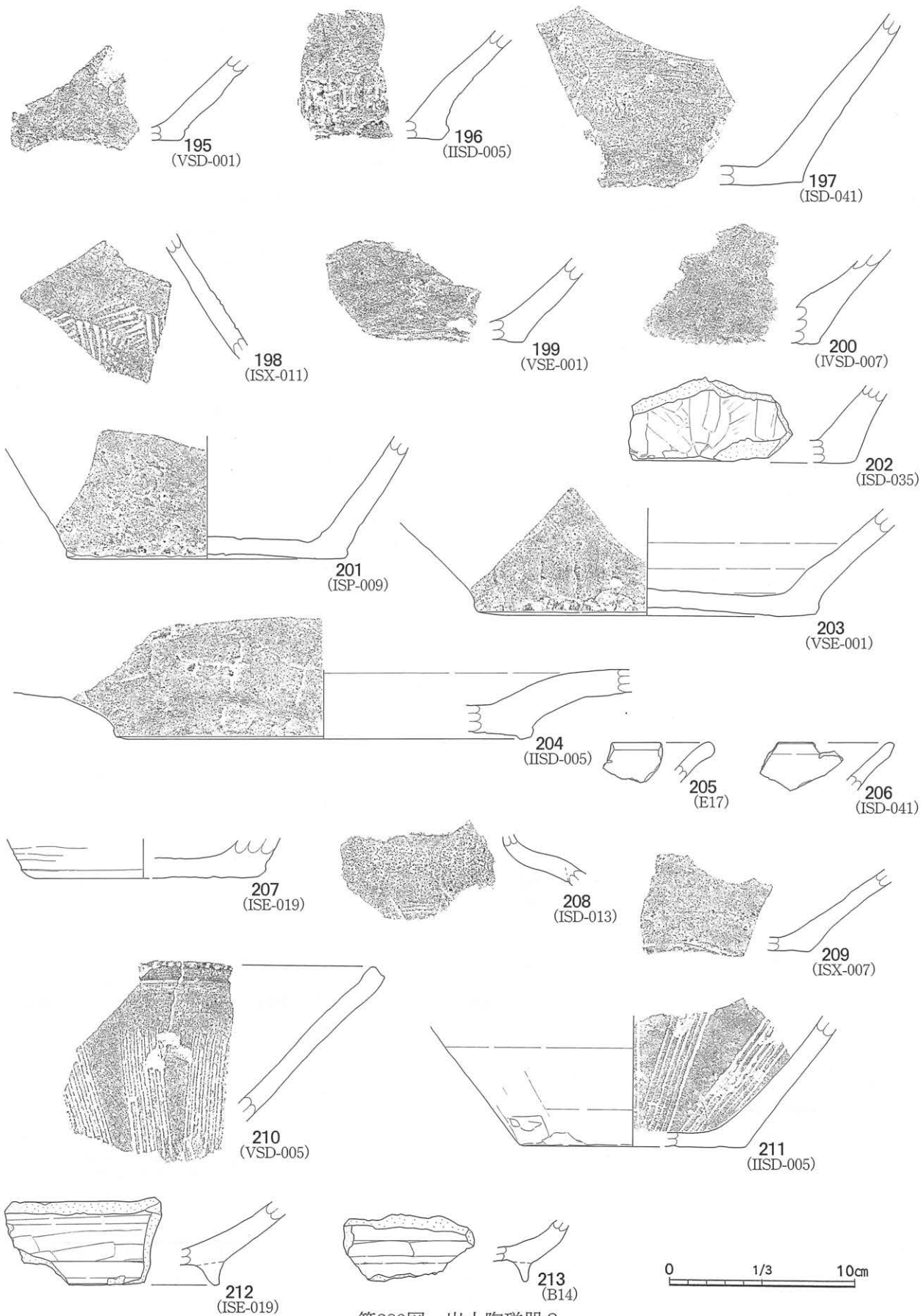
第277图 出土陶磁器 5



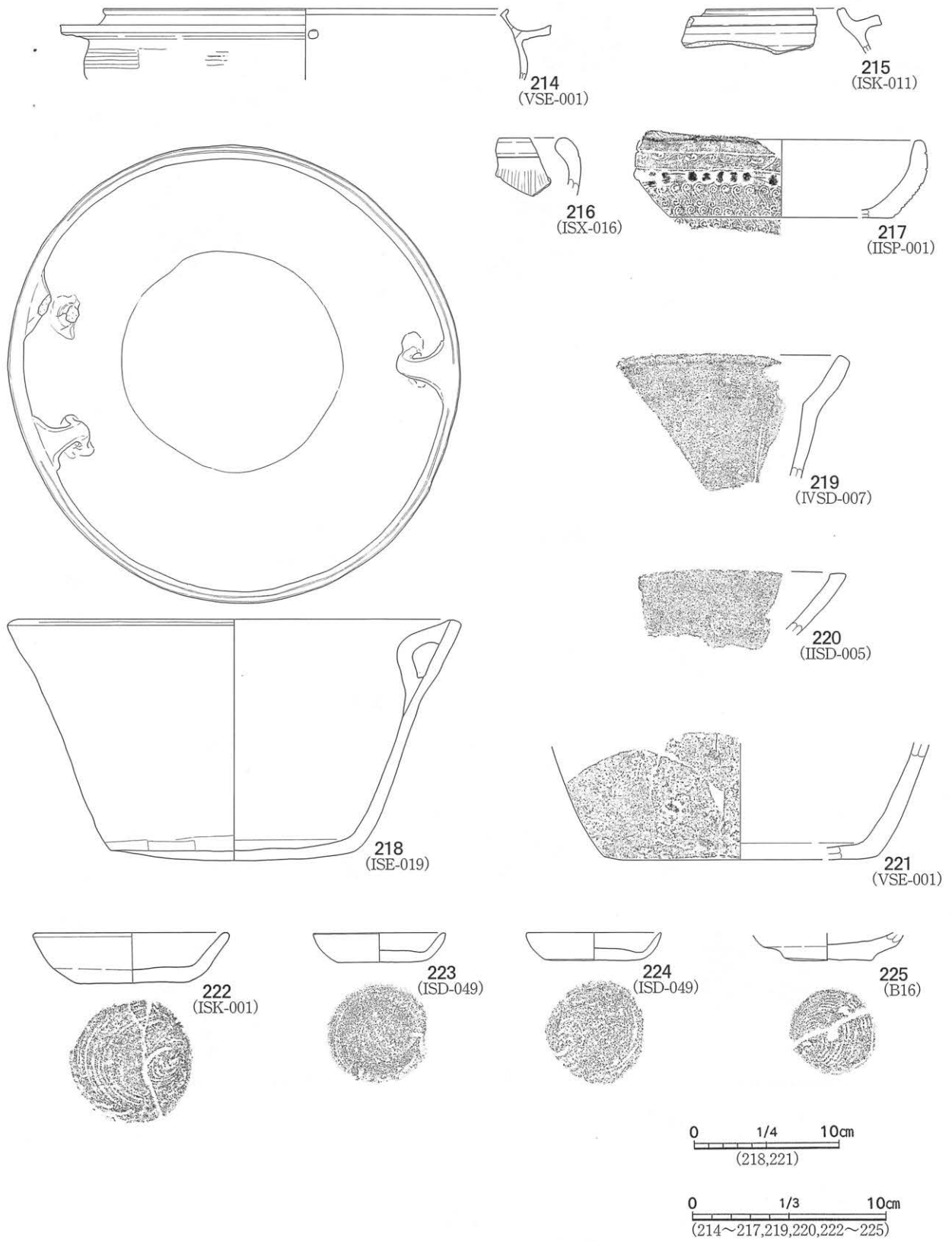
第278図 出土陶磁器 6



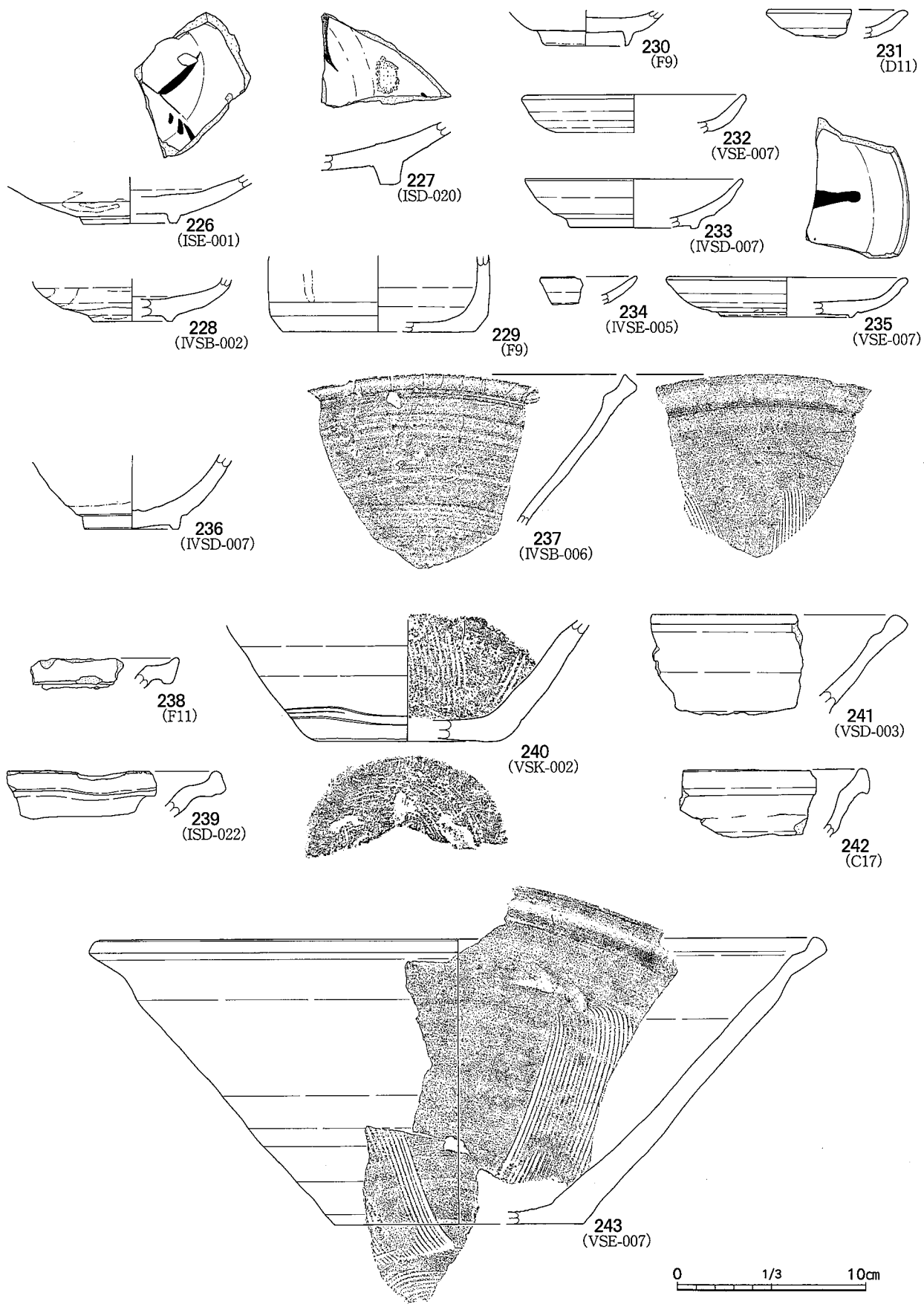
第279图 出土陶磁器 7



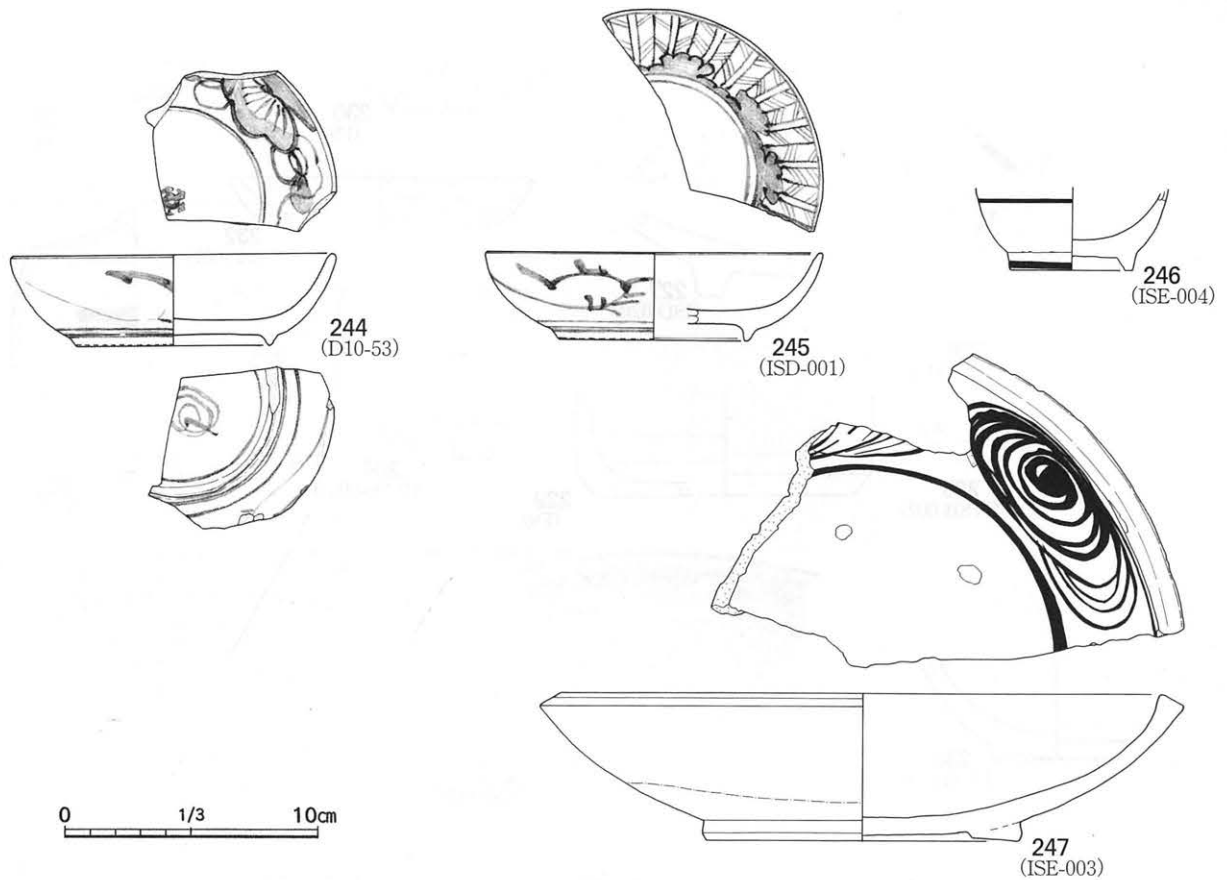
第280图 出土陶磁器 8



第281図 出土陶磁器 9



第282図 出土陶磁器10



第283図 出土陶磁器11

瀬戸・美濃（第282図231～243・第283図247）

231～235は志野皿口縁部（～底部）片である。この内、232は鼠志野、235は鉄絵らしき文様がみられる。

236は鉄釉天目茶碗体部～口縁部約1/2個体である。237～243は播鉢であり、243が形を窺える他は、237が口縁～体部片、238、239、241、242が口縁部片、240が体部～底部1/2個体（内面のみならず外面も摩耗）である。何れも錆釉である。247は馬目大皿である。口唇部に鉄釉を施し、内面には鉄絵が描かれる。また、外面体部下端～底部を除き長石釉を施す。口縁～底部粗大片であり、2点ハリざさえ痕が確認される。

伊万里（第283図244～246）

244、245は皿であり、前者は内面松竹梅・外面唐草、見込みに五弁花文、高台内に渦福銘（244）、後者は内面矢羽根、外面唐草という組合せである。246は碗底部である。

これら近世製品の年代であるが、唐津、瀬戸・美濃志野が16世紀末～17世紀前半（230は下の時期）、瀬戸・美濃丸碗・播鉢が17世紀代、伊万里が17世紀～18世紀代（17世紀代246、18世紀代244・245）、馬目大皿が18世紀代である。

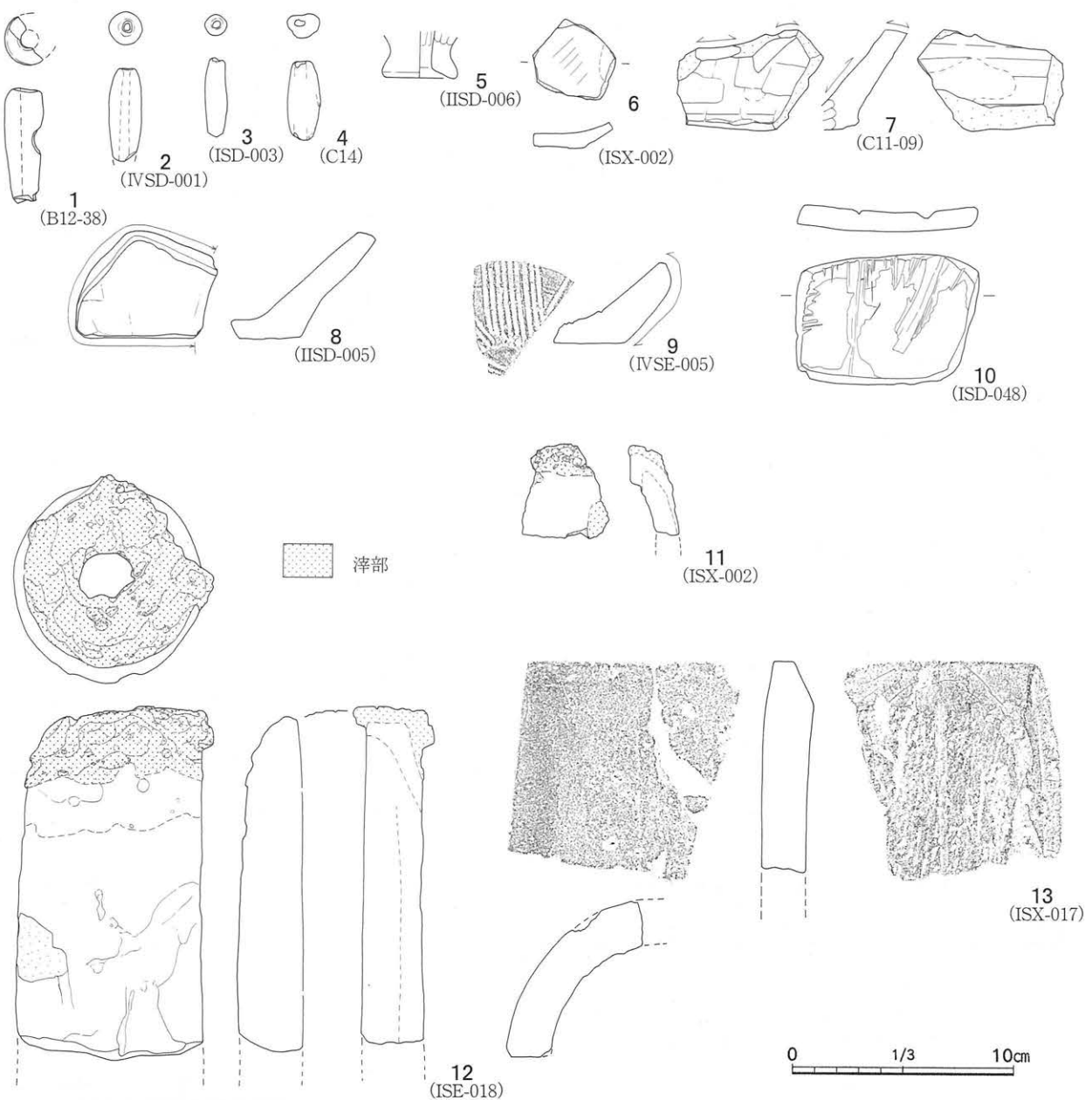
ただし、掲載したのは唐津や志野を除けば全体の一部にすぎず、ここではとりわけ17世紀代の遺物に的を絞って（それもより古い段階に）選択した結果である。瞥見したところこの遺跡では17世紀代以降、伊万里を中心に瀬戸本業焼製品、堺・備前の播鉢、在地産の焙烙など様々な製品がみられ、それはとりも直さず遺跡内が近世に屋敷地として活用された結果を示しているものと思われる。



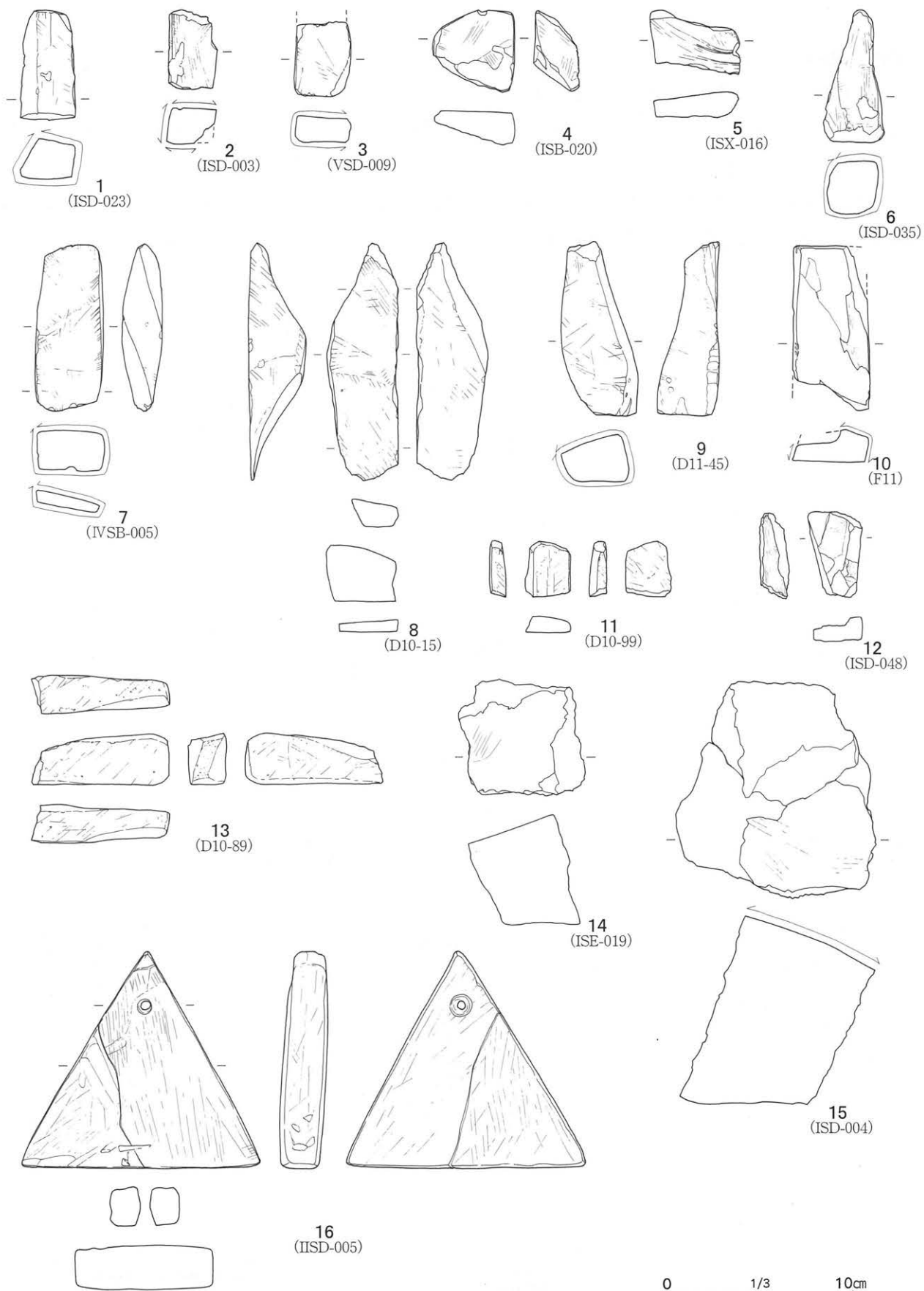
(6) その他 (第284図～第292図)

第284図1～13は土製品類である。1～4は土錘である。5は焼成前の貫通孔があり、土製品か土器類の一部か明らかではない。6～10は転用砥石である。11・12は羽口である。12は井戸 (I SE-018) から出土したものである。13は瓦である。

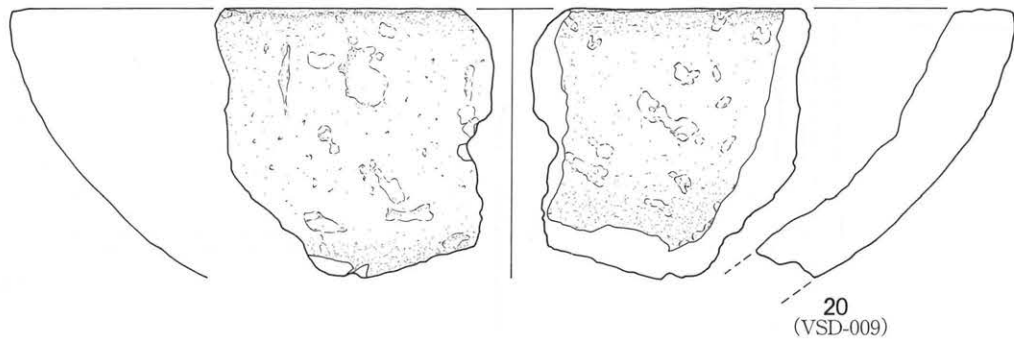
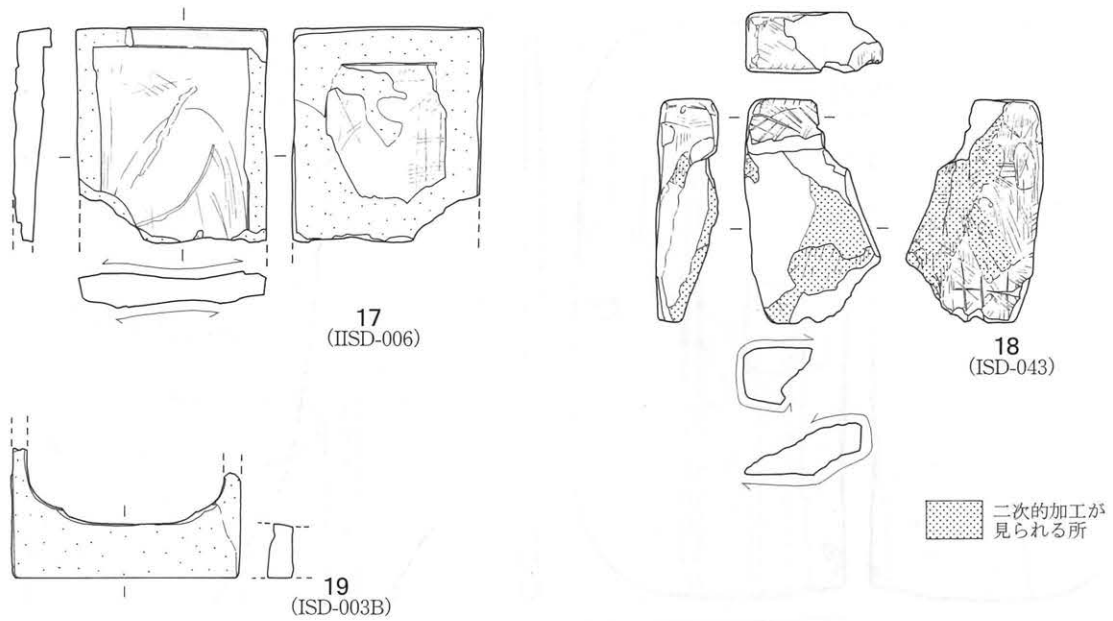
第285～286図は石器・石製品である。16は三角形状を呈し、一角に穿孔がみられる。全面的に擦痕が観察される。18は温石と考えられる。擦痕が顕著で、砥石などに転用された可能性が高い。20は石鉢と考えられる。



第284図 出土土製品類



第285図 出土石器・石製品 1



0 1/3 10cm

第286図 出土石器・石製品 2

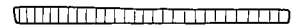
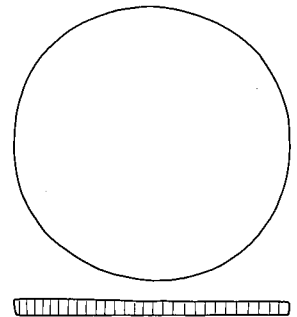
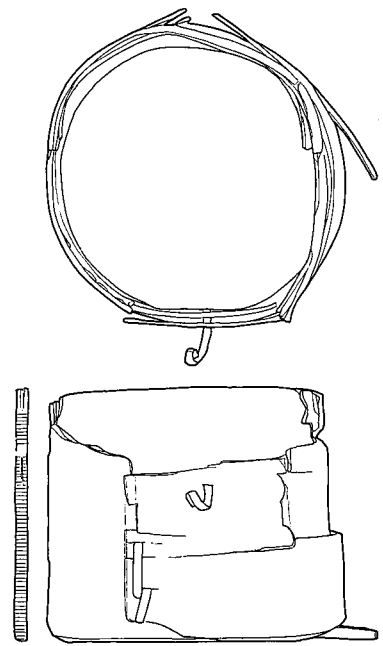
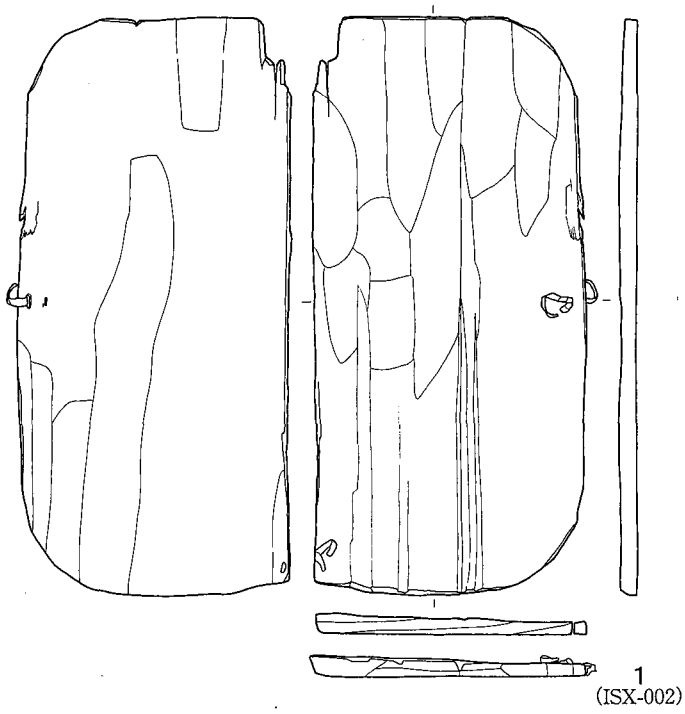
第287～288図は木製品である。井戸から出土したものが多く。

第289図は鹿角製品である。先端部分は良く研磨され、鋭くなっている。二又の長い方の先端付近には横方向に線状の傷がみられる。また、根本の部分にも傷が観察されるが、鹿角を切り取った際の傷とみられる。

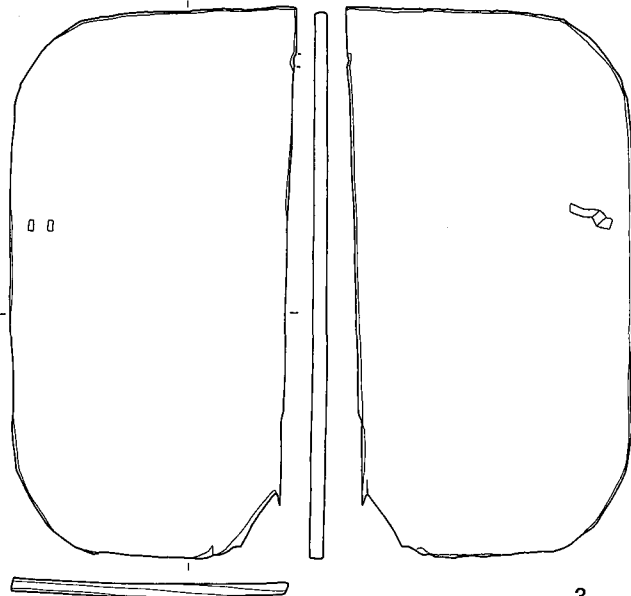
第290図は金属製品である。1は薄い板状の破片であるが、遺存状態が悪く、詳細は明らかでない。2～4は刀子の部分と考えられる。いずれも遺存状態は良くない。5は銅製品で、刀装具とみられる。6～11はキセルである。

第291図は銭貨である。寛永通寶のほか、北宋銭・明銭などが含まれる。

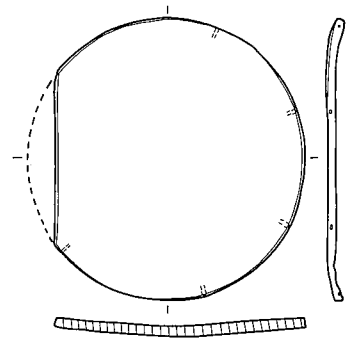
注1 甲斐博幸 1998「千葉県常代遺跡の弥生時代の堰-弥生時代南関東の灌漑技術-」『治水・利水を考える』第7回東日本埋蔵文化財研究会山梨大会実行委員会 山梨考古学協会



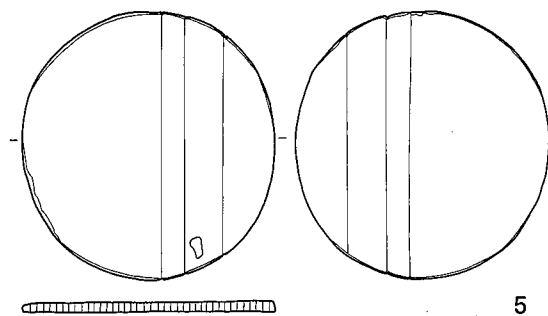
2  
(IVSE-001)



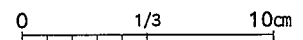
3  
(ISX-002)



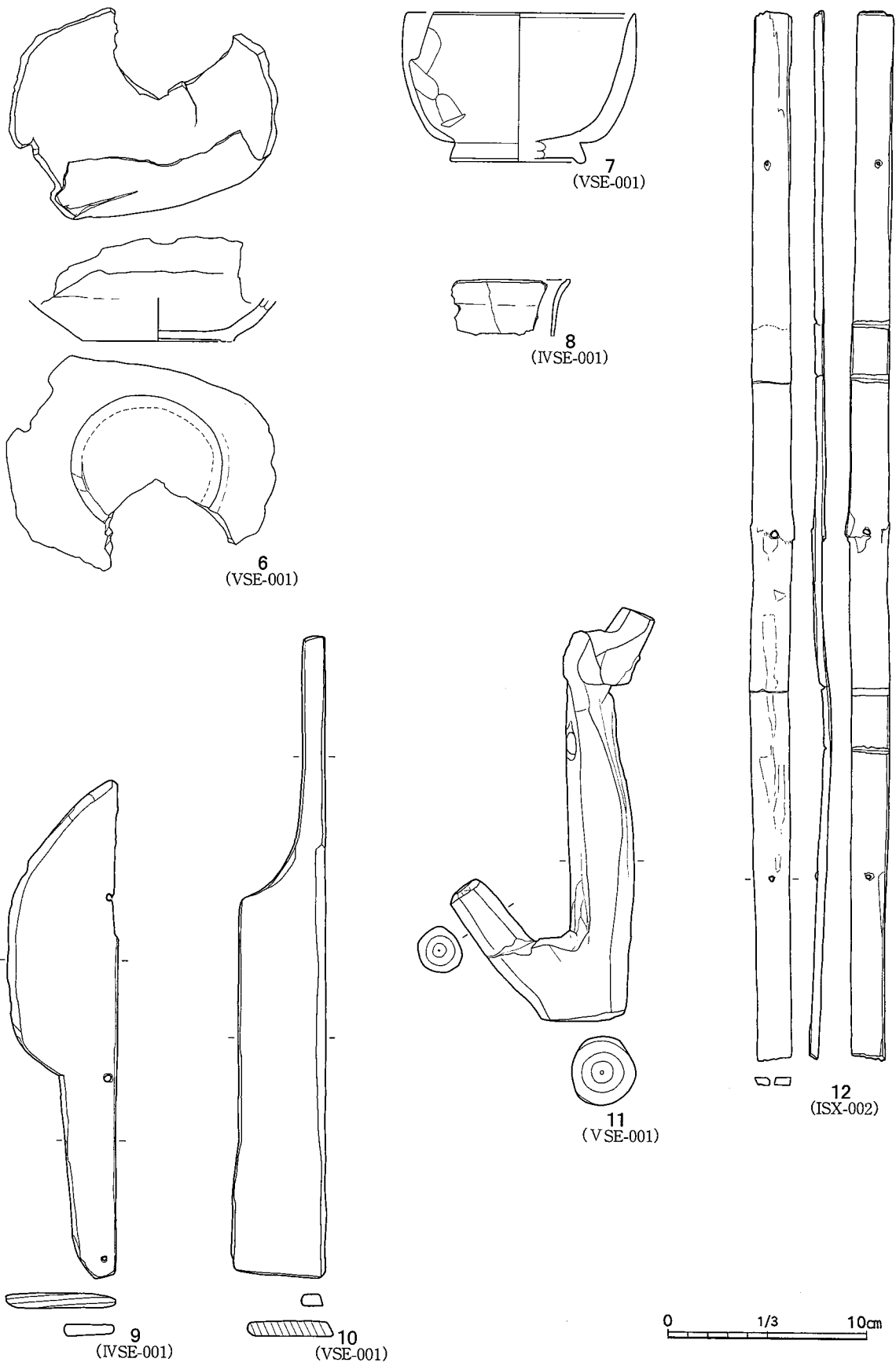
4  
(IVSE-001)



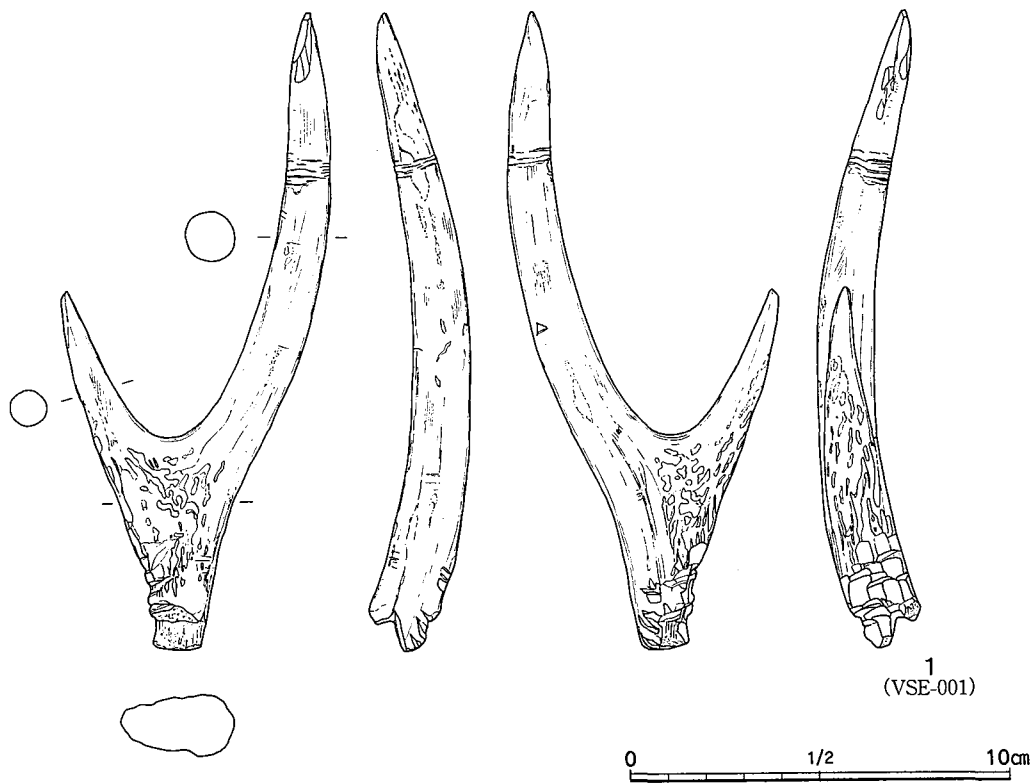
5  
(IVSB-004)



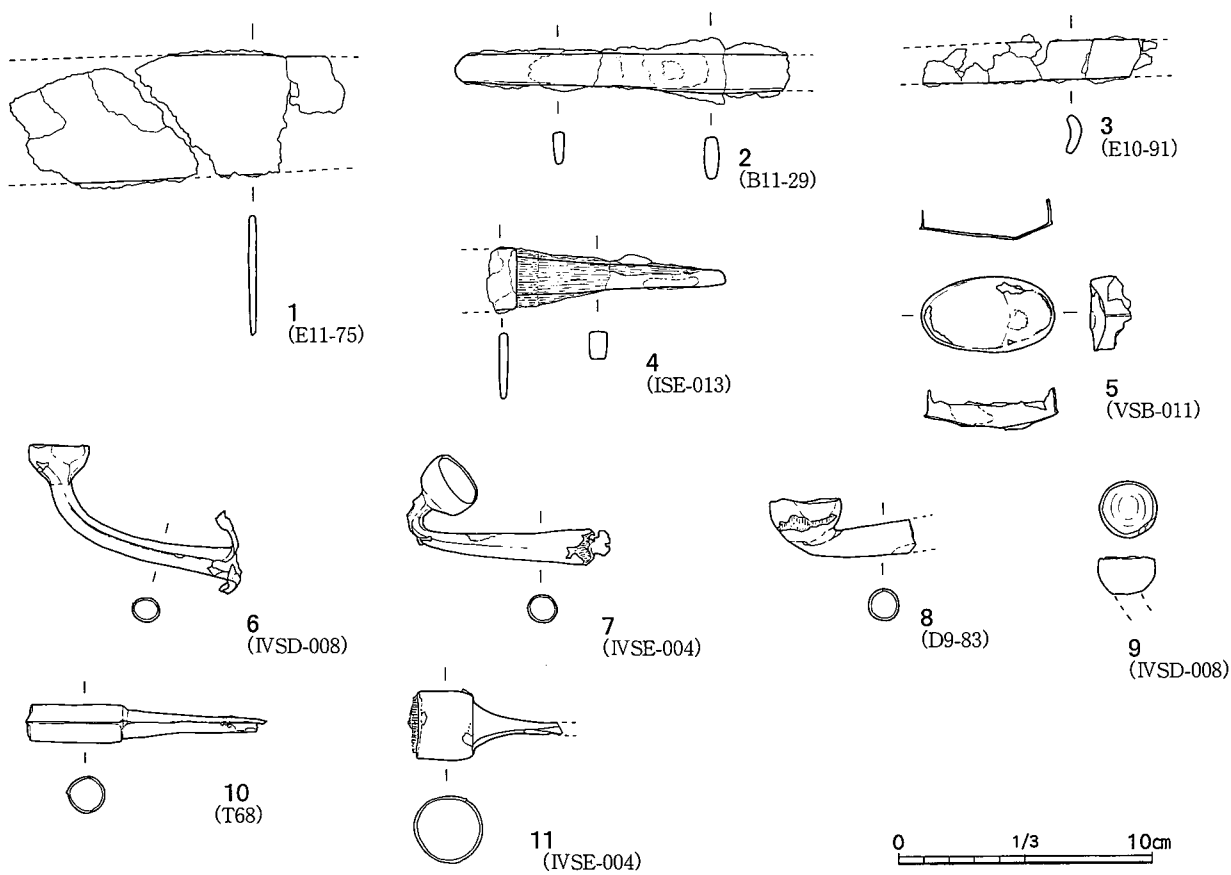
第287図 出土木製品 1



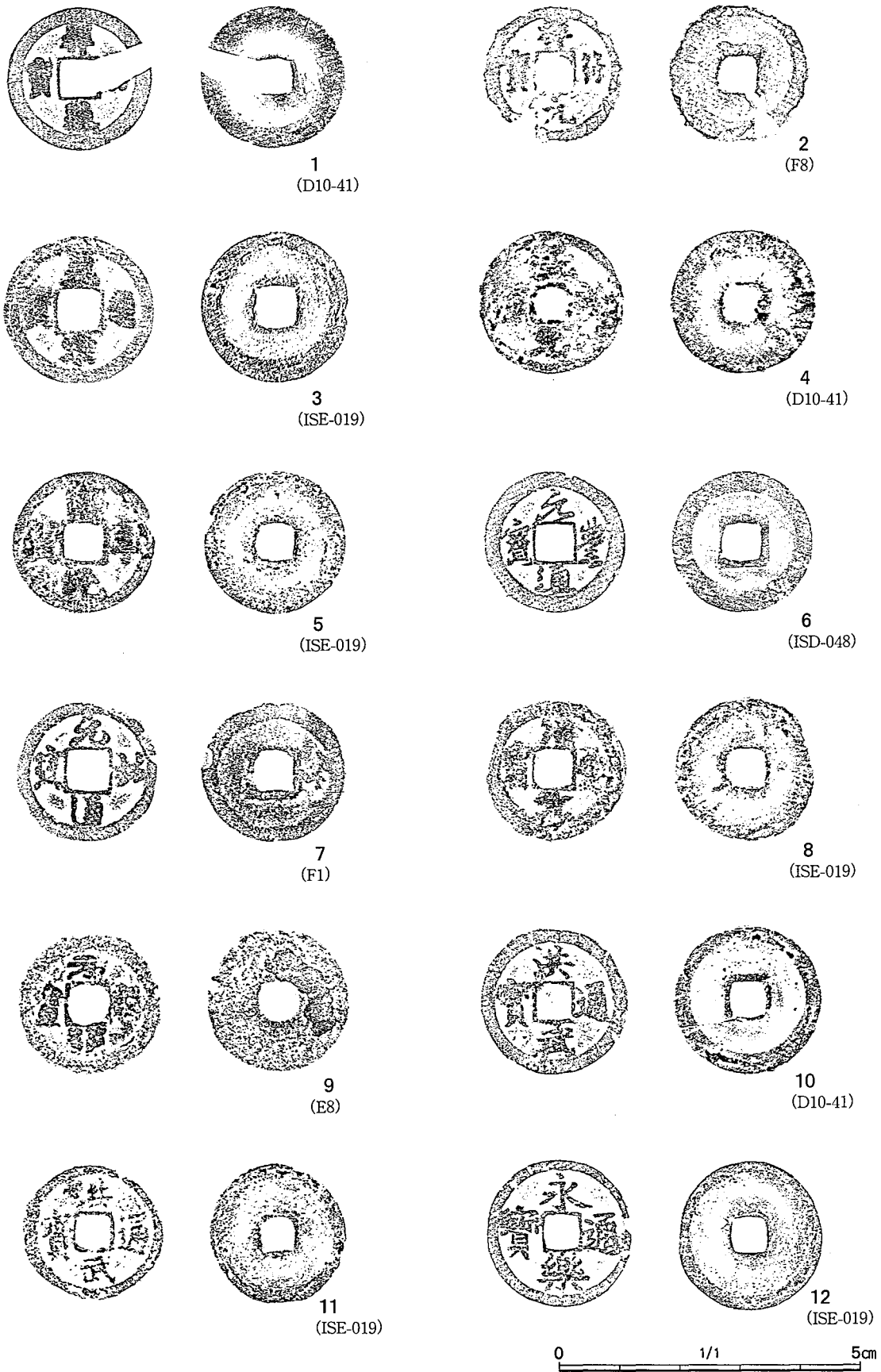
第288図 出土木製品 2



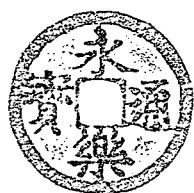
第289図 出土鹿角製品



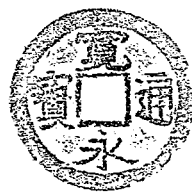
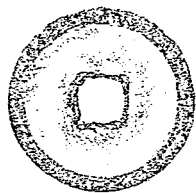
第290図 出土金属製品



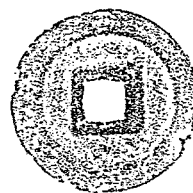
第291図 出土銭貨1



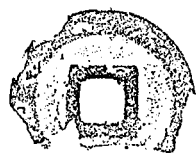
13  
(ISE-019)



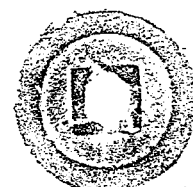
14  
(VSB-012)



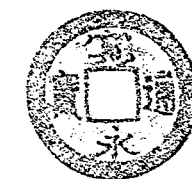
15  
(ISD-023)



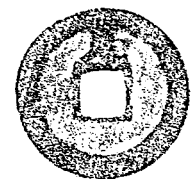
16  
(VSD-005)



17  
(D10-11)



18  
(ISD-021)



19  
(ISD-046)



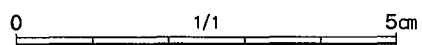
20  
(IISD-005)



21  
(D10-41)



22  
(D9-43)



第292図 出土錢貨 2



第7表 中郷地区住居跡・掘立柱建物跡一覧表(1)

区	遺構番号	時代	時期	種類	グリッドNo.	全測図No.	掲載挿図No.	掲載図版No.	出土遺物	特記事項	備考
I	SI-003	弥生	後期	竪穴住居跡	B16-36	第101図	第103図		浅鉢	隅丸方形 4柱穴 壁高なし	貯蔵穴はISK-016
I	SI-008	古墳	前期	竪穴住居跡	B16-73	第101図	第104図			正方形 4柱穴 炉有り 壁高なし	
I	SI-005	古墳	後期	竪穴住居跡	B5-96	第101図	第108図	図版40		方形 カマド有り	約1/3残存
I	SI-002	古墳	前期	竪穴住居跡	B16-54	第101図	第105図	図版39	土師器壺・甕、勾玉	方形 炉有り	
I	SI-001	古墳	後期	竪穴住居跡	B16-84	第101図	第106図	図版39	土師器杯・高杯・壺・甕、礫、鉄滓、石斧	方形 カマド有り	
I	SI-007	奈良	8c中	竪穴住居跡	D11-69	第124図	第127図	図版41	土師器杯・壺・甕、鉄滓		約1/2残存
I	SB-014	平安	10c	掘立柱建物跡	C17-14	第125図	第128図	図版41	土師器高台付椀	2×3? 南北棟	
I	SB-020	平安	9c初	掘立柱建物跡	C10-64	第123図	第129図		土師器杯、須恵器甕口縁、弥生土器、中世陶磁器、砥石	2×3 南北棟 柱痕跡揃う	
II	SB-003	奈良・平安		掘立柱建物跡	E10-89	第124図	第130図	図版41	鉄滓	2×4 東西棟 方形の柱穴 柱痕跡有り	II SB-005より古い
II	SB-001	奈良・平安?		掘立柱建物跡	E11-66	第124図	第131図	図版42	須恵器甕口縁 瀬戸水注	2×3 南北棟 柱痕跡揃う	
II	SB-004	奈良・平安		掘立柱建物跡	E11-80	第124図	第132図	図版41	須恵器	2×3 東西棟 方形の柱穴 柱痕跡揃う	
II	SB-002	奈良・平安		掘立柱建物跡	F11-51	第124図	第133図			2×3 東西棟 方形の柱穴 柱痕跡揃う	
II	SB-006	奈良・平安		掘立柱建物跡	F12-04	第124図	第134図			2×3? 南北棟 方形の柱穴 柱痕跡有り	
I	SB-002	奈良・平安		掘立柱建物跡	C14-98	第125・126図	第135図	図版42	須恵器杯、土師器	2×3? 南北棟 方形の柱穴 柱痕跡揃う	
I	SB-001	平安		掘立柱建物跡	D14-61	第125・126図	第136図	図版42	土師器(古墳時代前期) 平安時代土師器	2×3 南北棟 整然とした方形の柱穴 柱痕跡揃う	
I	SB-003	奈良	8c中	掘立柱建物跡	D14-65	第126図	第137図	図版42	スラグ 古墳須恵器 奈良・平安土師器	2×3 南北棟 方形の柱穴 柱痕跡揃う	
I	SB-004	奈良	8c中	掘立柱建物跡	D15-41	第126図	第138図	図版43	土師器杯須恵器杯蓋	2×3 南北棟 東廂 方形の柱穴 柱痕跡揃う	2×3の東西棟が重複の可能性もある
I	SB-007	奈良・平安		掘立柱建物跡	B16-55	第125図	第139図		弥生、土師器	2×3 東西棟 北廂 方形の柱穴 柱痕跡揃う	
I	SB-009	奈良?		掘立柱建物跡	B16-72	第125図	第140図		弥生、古墳前期赤彩土師器、土師器	2×3 東西棟 南廂 崩れた方形の柱穴 柱痕跡揃う	
I	SB-010	平安		掘立柱建物跡	C16-00	第125図	第141図	図版43	須恵器、灰釉陶器、播り鉢、管状土錘	2×3 四面廂 南北棟	
I	SB-005	奈良	8c中	掘立柱建物跡	D16-45	第126図	第142図	図版43	土師器、杯、弥生	2×2 東柱1か所	
IV	SB-007	中・近世		掘立柱建物跡	C8-06	第167図	第173図	図版45		2×3 東西棟 6尺	
IV	SB-001	中・近世		掘立柱建物跡	C8-13	第167図	第174図	図版45		2×3 四面廂 東西棟	
IV	SB-003	中世	15c後	掘立柱建物跡	C8-27	第167図	第175図	図版45	白磁皿	2×5 東西棟 6尺	
IV	SB-002	中・近世		掘立柱建物跡	C8-29	第167図	第176図	図版45	陶器、唐津碗、大窯天目	2×5 南北棟 6尺	
IV	SB-004	中・近世		掘立柱建物跡	C8-57	第167図	第177図	図版45		2×3 南北棟 6尺	
IV	SB-006	中世		掘立柱建物跡	C9-07	第167図	第178図	図版45	登窯錆釉播鉢	2×3 南北棟 6尺	
IV	SB-005	中世		掘立柱建物跡	C8-87	第167図	第179図	図版45		2×4 南北棟 建替え	
I	SB-017	中・近世		掘立柱建物跡	E10-76	第168図	第180図			2×3 東西棟 6尺	
I	SB-015A	中世		掘立柱建物跡	E10-79	第168図	第181図		土師器杯	2×3 東西棟 7尺 柱痕跡揃う	
I	SB-015B	中世	12V~13I	掘立柱建物跡	F10-70	第168図	第182図		龍泉窯青磁碗 土師器	2×3 東西棟 7尺 柱痕跡揃う	
I	SB-015C	中世	12V~13I	掘立柱建物跡	F10-70	第168図	第183図			2×3 東西棟 9尺 柱痕跡有り	
I	SB-016	中・近世		掘立柱建物跡	E10-88	第168図	第184図			2×3 東西棟 6尺	
I	SB-018	中・近世		掘立柱建物跡	D11-21	第169図	第185図		土師器、須恵器	2×3 東西棟 7尺 8尺	
I	SB-021	中世		掘立柱建物跡	G11-20	第169図	第186図			2×3 東西棟 5.5尺 6尺 東廂	
V	SB-008	中・近世		掘立柱建物跡	B11-24	第169図	第187図	図版46		2×3? 東西棟 7尺	調査区域外へ
V	SB-009	中世	15c末	掘立柱建物跡	B11-54	第169図	第188図	図版46	瀬戸御皿	2×3 東西棟 7尺 6.5尺	
V	SB-010	近世		掘立柱建物跡	B12-05	第169図	第189図	図版46	陶器、磁器	2×3 東西棟 6尺 楕円形の柱穴	

第7表 中郷地区住居跡・掘立柱建物跡一覧表(2)

区	遺構番号	時代	時期	種類	グリッドNo	全測図No	掲載押図No	掲載図版No	出土遺物	特記事項	備考
V	SB-011	中・近世		掘立柱建物跡	B12-04	第169図	第190図	図版46	瀬戸洛北	2×5 東西棟 7尺 建替え 大形の柱穴	
V	SB-012	近世		掘立柱建物跡	B12-14	第169図	第191図	図版46	急須、瀬戸陶器、磁器、播鉢、宋銭	2×5 東西棟 7尺	一部区域外へ
V	SB-007	中世	15c 後	掘立柱建物跡	C11-77	第169図	第192図	図版46	磁器、古染付「福」	2×3 南北棟 6尺 7尺	
V	SB-006	中・近世		掘立柱建物跡	D12-00	第169図	第193図	図版46		2×3 東西棟 6尺	
V	SB-001	中世		掘立柱建物跡	C12-16	第169図	第194図	図版47		2×5 南北棟 東廂 8尺 7尺	
V	SB-002	中・近世		掘立柱建物跡	C12-28	第169図	第195図	図版47	瀬戸陶器、磁器	2×5 南北棟 8尺 6尺	
V	SB-003	中・近世		掘立柱建物跡	C12-29	第169図	第196図	図版47		2×5 南北棟 7尺 6尺 南に建替え	VSE-002と重複
V	SB-004	中・近世		掘立柱建物跡	C12-28	第169図	第197図	図版47		2×3 南北棟 8尺 6尺	
V	SB-005	中・近世		掘立柱建物跡	C12-45	第169図	第198図	図版47		2×4 東西棟 6尺 6尺	
II	SB-018	中・近世		掘立柱建物跡	E11-28	第170図	第199図			2×3 南北棟 6尺 7尺	
II	SB-012	中世		掘立柱建物跡	E11-84	第170図	第200図			2×3 南北棟 6尺 6尺	西半 I SD-021～ 024により削平
II	SB-013	中世		掘立柱建物跡	E12-03	第170図	第201図			2×3 東西棟 6尺 6.5尺	西半 I SD-021～ 024により削平
II	SB-005	中・近世		掘立柱建物跡	F11-92	第170図	第202図	図版47		2×3 東西棟 6尺 6尺	II SB-003より新しい
II	SB-007	中・近世		掘立柱建物跡	E12-37	第170図	第203図			2×3 東西棟 3.5尺 4.5尺	
II	SB-014	中・近世		掘立柱建物跡	E12-52	第170図	第204図			2×3 南北棟 7尺 6尺	
II	SB-015	中・近世		掘立柱建物跡	E12-52	第170図	第205図			2×3 東西棟 6尺	
II	SB-016	中・近世		掘立柱建物跡	E12-65	第170図	第206図			2×3 南北棟 8尺 6尺	
II	SB-011	中世		掘立柱建物跡	F12-53	第170図	第207図			2×3 南北棟 4.5尺	東半調査区外
II	SB-008	中世		掘立柱建物跡	F12-50	第170図	第208図		瀬戸尊式花瓶・平碗・梅瓶	2×4 東西棟 4.5尺 7尺 北廂	
II	SB-009	中世		掘立柱建物跡	E12-79	第170図	第209図		常滑	2×3 東西棟 7尺 建替え	
II	SB-010	中世		掘立柱建物跡	F12-92	第170図	第210図			2×3 南北棟 6尺	
II	SB-017	中・近世		掘立柱建物跡	E13-23	第170図	第211図			2×2 南北棟 4尺	
I	SB-006	中・近世		掘立柱建物跡	C16-39	第170図	第212図	図版47		2×3 東西棟 北廂 6尺 7尺	
I	SB-008	中世		掘立柱建物跡	B16-65	第170図	第213図			2×3 南北棟 6.5尺 5尺	
I	SB-012	中・近世		掘立柱建物跡	B16-93	第170図	第214図			2×3 南北棟 4尺	北側削平
I	SB-013	中・近世		掘立柱建物跡	B17-04	第170図	第215図			2×3 南北棟 5.5尺	南側削平

第8表 中郷地区井戸・土坑一覧表(1)

区	遺構番号	時代	種類	グリッドNo.	全測図No.	掲載挿図No.	掲載図版No.
I	SE-001	中・近世	井戸	C15-23	第172図	第264図	
I	SE-002	中世?	井戸	E11-60	第169図	第240図	
I	SE-003	近世	桶掘付土坑	D9-97	第169図	第220図	図版48
I	SE-004	近世、近代	桶掘付土坑	D9-96	第169図	第220図	
I	SE-005	近世	桶掘付土坑	D9-96	第169図		
I	SE-006	近代	桶掘付土坑	D10-26	第169図	第225図	
I	SE-007	中世	井戸	D11-20	第169図	第236図	図版49
I	SE-008	中世	井戸	D11-65	第169図	第237図	図版49
I	SE-009	中世?	井戸状土坑	D11-74	第169図		
I	SE-011	中・近世	井戸	C11-41	第169図	第233図	
I	SE-012	中・近世	井戸状土坑	C11-36	第169図	第234図	図版48
I	SE-013	中・近世	井戸	C11-29	第169図	第235図	図版49
I	SE-014	中世	井戸	D11-77	第169図	第238図	
I	SE-015	中・近世	井戸状土坑	D11-62	第169図	第239図	図版49
I	SE-016	中世	井戸状土坑	C11-38	第169図	第231図	図版48
I	SE-017	中世?	井戸状土坑	D10-70	第169図	第224図	
I	SE-018	中世	井戸	C10-48	第169図	第222図	図版48
I	SE-019	中世	井戸	C10-67	第169図	第223図	図版48
I	SE-020	奈良・平安	井戸	D10-07	第123図	第145図	図版44
I	SE-021	近世	井戸	E10-44	第168図		
I	SE-023	奈良・平安	井戸	B10-97	第123図	第144図	
I	SK-001	中世	土坑	B15-47	第171図	第263図	
I	SK-002	中世	土坑	B14-01	第171図	第259図	
I	SK-003	近世	土坑	B13-91	第172図	第251図	
I	SK-004	中・近世	土坑	C14-78	第172図		
I	SK-005	中・近世	土坑	C14-88	第172図		
I	SK-006	弥生	土坑	E16-47	第102図	第110図	図版40
I	SK-007	奈良・平安?	土坑	D16-42	第126図		
I	SK-008	中世	土坑	E15-18	第172図	第265図	
I	SK-009	中世	土坑	E15-18	第172図	第265図	
I	SK-010		土坑	E16-37	第172図		
I	SK-011	中世	土坑	E15-23	第172図	第266図	
I	SK-012	中世?	土坑	E15-33	第172図	第267図	
I	SK-013	中世	土坑	E15-34	第172図	第267図	
I	SK-014	奈良・平安	土坑	E15-26	第126図	第155図	
I	SK-015	古墳	土坑	C15-01	第102図	第111図	
I	SK-016(1SI-003)	弥生	貯蔵穴	B16-38	第101図	第103図	
I	SK-017	平安	土坑	D15-14	第126図	第153図	
I	SK-018	平安	土坑	D15-50	第126図	第154図	
I	SK-019	弥生	土坑	D15-77	第102図	第109図	
I	SK-020	中世?	土坑	C17-02	第172図	第270図	

第8表 中郷地区井戸・土坑一覧表(2)

区	遺構番号	時代	種類	グリッドNo.	全測図No.	掲載挿図No.	掲載図版No.
I	SK-021		土坑	B16-96	第171図		
I	SK-022		土坑	B17-07	第171図		
I	SK-023	奈良	土坑	B17-15	第125図	第157図	
I	SK-024		土坑	B17-15	第171図	第268図	図版50
I	SK-025	奈良・平安	土坑	C17-25	第125図	第159図	
I	SK-026	平安	土坑	E11-20	第123図	第147図	
I	SK-027		土坑	B11-17	第169図		
I	SK-028		土坑	B10-86	第169図		
I	SK-029	奈良・平安	土坑	D11-63	第123図	第146図	図版44
I	SX-001	平安	土坑	B15-20	第125図	第152図	
I	SX-002	中世	井戸	B14-20	第171図	第260図	
I	SX-003		土坑	E15-56	第172図		
I	SX-004	平安?	土坑	B16-43	第125図	第156図	図版44
I	SX-006	中・近世	地下式坑	B15-79	第171図	第262図	図版50
I	SX-007	中世	地下式坑	B15-78	第171図	第261図	図版49
I	SX-008		土坑	E15-41	第172図		
I	SX-009		火葬施設	B17-16	第171図	第269図	
I	SX-010	平安	土坑	B17-00	第125図	第158図	
I	SX-011	中世	方形区画墓?	D17-33	第172図		図版50
I	SX-012	平安	捨場?	D17-54	第126図	第160図	図版44
I	SX-013		焼土充填土坑	D17-26	第172図		
I	SX-014	中世	方形区画墓?	D17-39	第172図		図版50
I	SX-015	中世	土坑	D10-08	第169図	第226図	
I	SX-016	近世	土坑	D10-29	第169図	第228図	
I	SX-017		土坑	D10-26	第169図	第227図	
I	SX-018	近世	土坑	D10-36	第169図		
I	SX-019	近世	火葬施設	D10-22	第169図		
I	SX-020	近世	火葬施設	D10-42	第169図		
I	SX-021	近世	火葬施設	D10-42	第169図		
I	SX-022	近世	土坑	D10-23	第169図		
I	SX-023	近世	土坑	B10-95	第169図		
I	SX-024	近世	火葬施設	B10-98	第169図		
II	SE-001	中世	井戸	F11-74	第170図	第242図	図版49
II	SE-002	中世?	井戸	E13-39	第170図	第256図	
II	SE-003	中世	井戸状土坑?	F13-41	第170図	第257図	
II	SE-004	中世	井戸	F13-51	第170図	第257図	
II	SE-005	中世	井戸	E13-69	第170図	第255図	
II	SE-006	中・近世	井戸	F13-62	第170図	第258図	
II	SE-007	奈良・平安	井戸	E13-19	第124図	第148図	
II	SK-001	古墳	土坑	F12-64	第100図	第112図	
II	SK-002		土坑	F12-74	第170図		
II	SX-001	平安	井戸	E12-06	第124図	第149図	図版44

第8表 中郷地区井戸・土坑一覧表(3)

区	遺構番号	時代	種類	グリッドNo.	全測図No.	掲載挿図No.	掲載図版No.
II	SX-002	平安	土坑	E12-56	第124図	第150図	図版44
II	SX-003	平安	土坑	E12-29	第124図	第151図	図版44
II	SX-004		土坑	E11-37	第170図	第241図	図版49
II	SX-005		土坑	E13-68	第170図		
II	SX-006	平安or中世	土坑	E13-68	第124図		
III	SX-001	中世?	土坑	E 9-14	第167図	第221図	図版48
IV	SE-001	中世	井戸	D 9-52	第167図	第218図	図版48
IV	SE-002	中世	井戸	D 9-41	第167図	第217図	図版48
IV	SE-003	中・近世	井戸状土坑?	D18-12	第167図	第271図	
IV	SE-004	中・近世	井戸	C18-08	第167図	第272図	図版50
IV	SE-005	中世	井戸	C 9-25	第167図	第216図	
IV	SE-006	奈良・平安	井戸	C 9-17	第121図	第143図	図版44
IV	SE-007		井戸状土坑?	D 9-21	第167図	第219図	
IV	SK-002		土坑	C 9-41	第167図		
V	SE-001	中世	井戸	D12-03	第169図	第249図	図版49
V	SE-002	中世	井戸	D12-41	第169図	第247図	
V	SE-003	中世	井戸	C11-87	第169図	第232図	
V	SE-004	中世	井戸	C12-03	第169図	第246図	図版46
V	SE-005	中世	井戸状土坑?	B12-09	第169図	第243図	図版46
V	SE-006	中・近世	井戸状土坑?	B12-59	第169図	第244図	図版46
V	SE-007	中・近世	井戸	C13-09	第169図	第252図	
V	SE-008		井戸状土坑?	B12-06	第169図	第245図	
V	SK-001	中世	土坑	B11-95	第169図	第229図	
V	SK-002	中・近世	土坑	C13-19	第169図	第253図	図版47
V	SK-003	中・近世	井戸	B11-96	第169図	第230図	
V	SK-004	中世	土坑	D12-22	第169図	第248図	
V	SK-005		土坑	D12-91	第169図		
V	SK-006	中・近世	土坑	D13-01	第169図	第254図	
V	SK-007		土坑	C12-43	第169図		

第9表 中郷地区溝状遺構一覽表(1)

区	遺構番号	時 代	種 類	全測図No.	掲載図版No.
I	SD-001	中・近世	溝	第171図	図版50
I	SD-002	中世	溝	第172図	
I	SD-003A	近世	溝	第172図	
I	SD-003B	中世	溝	第172図	
I	SD-004	中世	溝	第172図	図版50
I	SD-004A	中世	溝	第172図	
I	SD-004B	中世	溝	第172図	
I	SD-005	古墳	溝	第102図	
I	SD-006	平安	溝	第126図	
I	SD-007	平安	溝	第126図	
I	SD-008	平安?	溝	第126図	
I	SD-009	中・近世	溝	第172図	
I	SD-010	平安	溝	第126図	
I	SD-011		溝	第172図	
I	SD-012	平安	溝	第126図	
I	SD-013	中・近世	溝	第172図	
I	SD-014	奈良・平安?	溝	第125図	
I	SD-015		溝	第171図	
I	SD-016		溝	第172図	
I	SD-017		溝	第172図	
I	SD-018	中世	溝	第171図	
I	SD-019	近世、近代	溝	第169図	
I	SD-020	近世、近代	道路跡		
I	SD-021	近代	道路跡	第170図	図版50
I	SD-022	近世	道路跡	第170図	
I	SD-023	近世	道路跡	第170図	図版50
I	SD-024	近世	道路跡	第170図	
I	SD-026	中世	溝	第168図	
I	SD-027		溝	第168図	
I	SD-028		溝	第168図	
I	SD-029		溝	第168図	
I	SD-030	近世	溝	第168図	
I	SD-031	古墳	溝	第100図	図版40
I	SD-032	古墳	溝	第100図	
I	SD-033	中世	溝	第169図	図版51
I	SD-034		溝	第169図	
I	SD-035	中世	区画溝	第169図	
I	SD-036	近世、近代	溝	第169図	
I	SD-037		溝	第169図	
I	SD-038	近世か?	溝	第169図	図版51
I	SD-039		溝	第169図	

第9表 中郷地区溝状遺構一覽表(2)

区	遺構番号	時 代	種 類	全測図No.	掲載図版No.
I	SD-040		溝	第169図	
I	SD-041	中世	溝	第169図	図版51
I	SD-042	中世	溝	第169図	図版51
I	SD-043	中世	溝	第169図	図版51
I	SD-044		溝	第169図	図版51
I	SD-045	近世、近代	溝	第169図	
I	SD-046	中世	溝	第169図	
I	SD-047	中世	溝	第169図	図版51
I	SD-048	中世	溝	第169図	図版51
I	SD-049	近世	溝	第169図	
I	SD-050	中世	溝	第169図	
II	SD-001	中・近世	溝	第170図	
II	SD-002	中・近世	溝	第170図	
II	SD-003	近世?	溝	第170図	
II	SD-004		溝		
II	SD-005	古代~中世	溝	第124図	
II	SD-006	中・近世	溝	第170図	
II	SD-007	平安	溝	第124図	
II	SD-008	中・近世	溝	第170図	
II	SD-009		溝		
II	SD-010		溝		
II	SD-011		溝	第170図	
III	SD-001	奈良・平安	溝	第122図	
III	SD-002		溝	第168図	
III	SD-003	平安	溝	第122図	
III	SD-004		溝	第168図	
III	SD-005		溝	第169図	
III	SD-006	中・近世	溝	第169図	
III	SD-007		溝	第169図	
III	SD-008	古墳	溝	第99図	図版40
III	SD-009	奈良・平安	溝	第122図	
III	SD-010	中・近世	溝		
IV	SD-001	中世	溝		
IV	SD-002	近世?	溝		
IV	SD-003	中・近世	溝		
IV	SD-004		溝	第167図	
IV	SD-005	中世	溝	第167図	
IV	SD-006	古墳	溝	第98図	
IV	SD-007	中・近世	溝	第167図	図版51
IV	SD-008	近世	溝	第167図	図版51
IV	SD-009	古墳	溝	第98図	図版51
IV	SD-010		溝	第167図	

第9表 中郷地区溝状遺構一覧表(3)

区	遺構番号	時代	種類	全測図No.	掲載図版No.
IV	SD-011	中・近世	溝	第167図	図版51
V	SD-001	中世	溝	第169図	
V	SD-002	中・近世	溝	第169図	
V	SD-003	中世	溝	第169図	図版47
V	SD-004		溝	第169図	図版46
V	SD-005	中・近世	溝	第169図	図版46
V	SD-006		溝		
V	SD-007	中世	溝		
V	SD-008	近世	溝	第169図	
V	SD-009	近世	溝	第169図	
V	SD-012	中・近世	溝		



第10表 中郷地区掲載土器観察表(1)

遺構番号	挿図	番号	種別	器種	遺存度	単位: cm (復元値)				調整		胎土	焼成	色		調内面
						口径	頸部径	胴部最大径	底径	器高	外面			内面	外面	
I SI-003	第103図	1	弥生	鉢	全体5/6口縁3/5	14.5	-	-	5.8	8.3	口縁から体部中央まで細文、中央に沈線、沈線からは横位のヘラミミガキ	粗い砂粒	普通	赤彩、にぶい黄褐色	赤彩、にぶい黄褐色	赤彩、にぶい黄褐色
I SI-002	第105図	1	弥生	壺	口縁1/4弱	15.4	-	-	-	[4.1]	摩滅して調整不鮮明	砂粒、褐色粒多量	普通	明褐色	明褐色	明褐色
I SI-002	第105図	2	弥生	甕	破片											
I SI-002	第105図	3	弥生	甕	破片											
I SI-002	第105図	4	弥生	甕	破片											
I SI-002	第105図	5	弥生	甕	破片											
I SI-002	第105図	6	弥生	甕	破片											
I SI-002	第105図	7	弥生	甕	全体の3/5	-	-	22.3	-	[20.1]	体部2カ所横方向に刺突文が巡る、ハケ調整後斜め方向にヘラミミガキ	砂粒多量	普通	明褐色	明褐色	明褐色
I SI-002	第105図	8	弥生	甕	口縁部完形底部なし	14.5	-	20.6	-	[15.3]	口縁から下は横方向のナデ、体部は剥離し不鮮明	粗い砂粒	普通	黄褐色～浅黄褐色	黄褐色～浅黄褐色	黄褐色～浅黄褐色
I SI-002	第105図	9	弥生	甕	全体の9/10	14.5	-	19.0	6.6	18.8	斜め方向のナデが目若干見られるが、摩滅し不鮮明	砂粒多量	普通	暗褐色	暗褐色	暗褐色
I SI-001	第107図	1	土師器	杯	口径1/6底部1/4	(14.6)	-	-	(6.8)	4.8	ヘラケズリ	砂粒、雲母少量	やや甘	赤彩	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色
I SI-001	第107図	2	土師器	杯	全体1/2	13.2	-	-	-	[4.4]	横方向のナデ、赤彩	砂粒、白色針状物質	普通	明褐色(黒斑あり)	赤褐色～にぶい赤褐色	赤褐色～にぶい赤褐色
I SI-001	第107図	3	土師器	台付鉢	ほぼ完形	12.1	-	-	9.2	8.9	表面が摩滅しているため調整痕はほとんどわからない	大粒砂粒、小石状もあり	普通	明褐色～灰褐色	にぶい黄褐色(口縁部のみ灰黄褐色)	にぶい黄褐色
I SI-001	第107図	4	土師器	卍	完形	9.3	7.4	13.9	-	15.3	口縁部～頸部横方向のヘラミミガキ、胴部横方向のヘラミミガキ	砂粒	普通	明褐色～にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色
I SI-001	第107図	5	土師器	甕	口径1/2強	18.9	-	-	-	[12.2]	ミガキ、赤彩が施される		普通	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色
I SI-001	第107図	6	土師器	杯	底部のみ欠損	16.6	-	22.7	-	[27.4]	ヘラケズリ 黒斑あり	砂粒多量	普通	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色
I SI-001	第107図	7	土師器	甕	ほぼ完形	16.0	-	22.2	7.0	26.7	ヘラによる調整、表面に2ヶ所大きく黒色化	砂粒、褐色粒多し	普通	にぶい黄褐色～暗褐色	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色
I SI-001	第107図	8	土師器	甕	完形	17.4	-	22.7	6.7	25.2	内、外面共剥離、摩滅し、調整不明	砂粒、白色針状物質	普通	にぶい褐色～明赤褐色	明褐色	明褐色
I SI-001	第107図	9	土師器	甕	底部のみ	-	-	-	5.8	[2.5]	ヘラケズリ	砂粒、雲母	普通	明黄褐色	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色
ISK-019	第109図	1	弥生	壺	破片											
ISK-019	第109図	2	弥生	壺	底部ほぼ完形	-	-	-	5.4	[1.4]		大きめの砂粒	普通	にぶい黄色	にぶい黄色	にぶい黄色

第10表 中郷地区掲載土器観察表(2)

遺構番号	挿図	番号	種別	器種	遺存度	単位: cm (復元値)				調整		胎土	焼成	色		内面
						口径	頸部径	胴部最大径	底径	器高	外面			内面	外面	
ISK-019	第109図	3	弥生	壺	底部ほぼ完形	-	-	-	9.0	[4.9]	薄く剥離し、不鮮明	大粒砂粒	普通	明黄褐色	にぶい黄褐色	
ISK-006	第110図	1	弥生	甕	全体4/5	-	26.5	6.2	[22.8]	体部中央付近までミガキ、ナデ調整と思われるが、不鮮明。体部中央部既有り	大粒砂粒	普通	明黄褐色	明黄褐色		
ISK-015	第111図	1	土師器	小型甕	全体2/3	(13.2)	-	13.6	9.7	口縁下は横ナデが見られるが、体部は磨滅し調整不鮮明 赤彩	砂粒、褐色粒	普通	暗褐色	暗褐色		
C10-59	第113図	1	縄文	甕	底部	-	-	-	[5.2]	ヘラナデ	不鮮明	普通	浅黄色	褐灰色		
D15	第113図	2	弥生	小型鉢	底径1/3	(10.4)	-	(4.4)	5.1	口縁より下から沈線に区画された部分細文。それより下はミガキと思われ、赤彩不鮮明	剥離・磨滅し、不鮮明	普通	にぶい黄褐色～黄灰色	にぶい黄褐色		
B16-06	第113図	3	弥生	鉢	全体2/3	(18.2)	-	5.6	9.1	口縁と沈線との間は横位に細文が巡らされている。沈線から下は縦のミガキ調整と思われるが不鮮明 赤彩	磨滅して不鮮明 赤彩	やや甘	にぶい橙褐色～褐灰色	にぶい橙褐色～灰黄褐色		
ISX-006	第113図	4	弥生	鉢	破片	-	-	-	-	口縁下～横方向沈線の間に細文	横方向のナデ	普通	にぶい黄褐色	灰黄色～黄灰色		
B15-98	第113図	5	弥生	小型鉢	全体2/5	(11.8)	-	4.3	7.2	底部付近浅いヘラケズリ、赤彩が見られるが不鮮明	赤彩 不鮮明	普通	にぶい黄褐色～黄灰色	にぶい黄色		
C15	第113図	6	弥生	鉢	破片	-	-	-	-	折返し口縁、細文		普通	灰褐色	灰褐色		
D15	第113図	7	弥生	壺	口頸部1/4	(8.6)	-	-	[7.5]	口縁下縦方向のミガキ、上下沈線に区画された部分細文。赤彩	不鮮明 赤彩	普通	橙色	橙色		
ISD-005	第113図	8	弥生	壺	口縁1/6	(18.4)	-	-	[3.9]	磨滅し調整不鮮明	磨滅し調整不鮮明	普通	明黄褐色	明黄褐色		
E16	第113図	9	弥生	壺	口縁1/3	(18.4)	-	-	[6.6]	折返し口縁、口唇部に細文。磨滅し調整不鮮明 赤彩?	赤彩 横方向のヘラミガキ?	普通	橙色	にぶい橙色		
ISX-011	第113図	10	弥生	甕	底部 1/3	-	-	(6.5)	2.9	不鮮明	不鮮明	普通	灰黄褐色	橙色		
ISX-012	第113図	11	弥生	壺	底部完形	-	-	6.7	[3.0]	不鮮明	不鮮明	普通	明黄褐色～暗褐色	明黄褐色～暗褐色		
D15	第114図	12	土師器	小型鉢	全体3/5	(12.2)	-	3.4	5.6	ヘラ目調整後、一部ヘラミガキ?	丁寧なヘラミガキ	良好	にぶい赤褐色、一部黒色	にぶい赤褐色		
T54	第114図	13	土師器	杯	全体1/4	(13.3)	-	丸底	4.5	口縁下横ナデ、体部はヘラケズリ後横方向のミガキ	赤彩 ヘラナデ	普通	にぶい褐色	にぶい赤褐色		
C15	第114図	14	土師器	杯	全体1/5	-	(12.4)	-	[3.4]	有鈎痕做杯 磨滅し不鮮明	不鮮明	普通	明赤褐色～にぶい橙色	明赤褐色～にぶい橙色		
ISD-057	第114図	15	土師器	杯	破片	-	-	-	-	赤彩	赤彩	普通	褐色	褐色		
ISD-003 ISD-003B	第114図	16	土師器	高杯	杯部2/3	11.6	-	-	[3.8]	口唇部に沈線、体部ナデからミガキ	縦方向の細いミガキ、更に上から横方向のナデで消されている	良好	褐色～明赤褐色	明赤褐色		

第10表 中郷地区掲載土器観察表(3)

遺構番号	挿図	番号	種別	器種	遺存度	単位: cm (復元値)				調		整		胎土	焼成	色		調
						口径	頸部径	胴部最大径	底径	器高	外面	内面	外面			内面		
VSK-002	第114図	17	土師器	高杯	脚	-	-	-	-	[6.8]	摩滅し調整不鮮明	ヘラケズリ後横ナデ	砂粒、褐色粒	普通	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色		
IISD-001	第114図	18	土師器	高杯		-	-	-	-	[6.3]	摩滅し不鮮明	不鮮明	砂粒多量	やや甘	明赤褐色	明赤褐色		
IISD-005	第114図	19	土師器	高杯	脚1/2	-	-	(10.0)	-	[7.1]	縦方向のケズリ? 不鮮明	不鮮明	細砂粒、褐色粒	普通	橙色～浅黄色	橙色～浅黄色		
ISD-005	第114図	20	土師器	高杯	底部・脚1/2	-	-	(7.4)	-	[5.2]	剥離、摩滅し調整不鮮明	調整不鮮明	砂粒	普通	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色		
IISX-001	第114図	21	土師器	高杯	脚1/4	-	-	-	-	[5.9]	摩滅して調整不鮮明	不鮮明	細砂粒	普通	橙色	にぶい黄橙色		
B15	第114図	22	土師器	高杯		-	-	-	-	[4.0]	摩滅し調整不鮮明	摩滅し調整不鮮明	砂粒多量	普通	明黄褐色	明褐色		
D15	第114図	23	土師器	埴	全体2/3	(12.2)	8.3	12.3	4.2	13.1	口頸部縦方向のミガキ、胴部はケズリによる調整の後、斜め方向のミガキ	口縁から下は縦方向のヘラミガキ、頸部は横方向のヘラミガキ、輪積み痕	砂粒多量、褐色粒、雲母	普通	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色		
D15	第114図	24	土師器	埴	口縁ほぼ完形	12.2	5.5	-	-	[7.8]	赤彩 ヘラミガキが認められるが摩滅して不鮮明	赤彩 縦方向のヘラミガキ?	砂粒、雲母、白色針状物質	普通	にぶい橙色	にぶい橙色		
D15	第114図	25	土師器	小型壺	全体4/5	-	-	-	3.6	[8.8]	摩滅し調整不鮮明	不鮮明	砂粒	やや甘	にぶい黄褐色	にぶい褐色		
D15	第114図	26	土師器	壺	口縁9/10	16.1	9.8	26.7	-	[20.9]	全体に縦方向のヘラミガキ。頸部付け根に凸帯が巡る 赤彩	口縁下縦方向のヘラミガキ 胴部ハケ目 口縁から頸部下まで赤彩	砂粒、雲母、褐色粒	普通	にぶい赤褐色	にぶい橙色		
E15	第114図	27	土師器	壺	全体2/5底部ほぼ完形	-	-	27.3	6.0	[18.0]	縦方向のミガキ調整後中央付近はヘラナデが施されている。黒斑有り。	ヘラナデ	砂粒、褐色粒多量	普通	にぶい赤褐色、褐色	にぶい赤褐色、褐色		
B16-06	第114図	28	土師器	壺	肩部	-	(9.3)	-	-	[5.5]	頸部付け根付近はハケ目、肩部はヘラナデと思われる	ヘラケズリだが粗い調整	砂粒、褐色粒多量	やや甘	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色		
D15	第114図	29	土師器	壺	底部完形	-	-	-	7.6	[12.1]	若干のミガキが見られるが、全体が摩滅している	不鮮明	砂粒、褐色粒	普通	暗黄褐色、黒色	灰黄褐色		
ISD-001	第114図	30	土師器	甗?	口径1/3	(16.3)	-	-	-	[7.4]	調整不鮮明		砂粒多量、雲母、白色針状物質	普通	褐色～暗褐色	褐色～暗褐色		
D15	第114図	31	土師器	小型甗	口径1/4	(7.6)	-	-	-	[4.2]	不鮮明	不鮮明	砂粒	普通	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色		
D15	第114図	32	土師器	壺	底部1/2	-	-	-	5.5	[5.6]	ハケ調整後ヘラミガキ	ヘラナデ	砂粒多量	良好	にぶい赤褐色	褐色		
C15	第114図	33	土師器	小型甗	底部付近完形	-	-	-	3.8	[3.6]	摩滅し調整不鮮明	摩滅し調整不鮮明	砂粒多量	普通	暗黄褐色	暗黄褐色		
ISB-001	第114図	34	土師器	壺	口径1/3	(16.2)	(10.4)	-	-	[11.5]	口縁部外へ折返し、頸部は明瞭なハケ調整、体筋はミガキも認められるが、不鮮明	横位のナデ調整	砂粒、雲母	普通	明黄褐色	暗灰白色～灰色		
D15	第115図	35	土師器	甗	全体4/5	21.7	-	25.8	4.2	23.3	ほぼ全体に右下がりのハケ目、底部付近は浅いヘラケズリ	横方向のハケ目	粗い砂粒、褐色粒	普通	灰褐色	にぶい赤褐色		
D15	第115図	36	土師器	甗	口径4/5	18.7	-	21.0	-	18.3	全体が斜め方向のハケ目、底部付近は横方向のハケ目	横方向のハケ目、輪積み痕明瞭	砂粒多量、褐色粒	普通	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色		

第10表 中郷地区掲載土器観察表(4)

遺構番号	挿図	番号	種別	器種	遺存度	単位: cm (復元値)				調		整		胎土	焼成	色		調
						口径	頸部径	胴最大径	底径	器高	外	内	面			外	内	
D15	第115図	37	土師器	甕	全体3/5	-	-	25.7	6.2	[19.5]	ハケ調整後、一部ヘラナデ	横方向のハケ目	砂粒、白色針状物質	普通	灰黄褐色	にぶい褐色		
D15	第115図	38	土師器	甕	口径1/3底部完形	(17.0)	(13.1)	(25.8)	6.5	25.2	胴部中央付近までハケ調整、下部ヘラナデ	ヘラナデ	大粒砂粒、雲母	良好	にぶい赤褐色~暗褐色	にぶい赤褐色~暗褐色		
D15	第115図	39	土師器	甕	全体3/5	19.7	-	(24.0)	6.6	21.2	胴部上~中央にかけてはハケ調整、底部付近は斜め方向のヘラナデ	口縁下横方向のヘラナデ	大粒砂粒	普通	灰黄褐色	にぶい褐色		
D15	第115図	40	土師器	甕	口径1/2	24.8	-	-	-	[10.6]	口頸部ハケ調整後横ナデ、胴部はハケ目	横方向のハケ目	砂粒、雲母、褐色粒	普通	灰褐色~にぶい赤褐色	にぶい赤褐色~にぶい褐色		
C15	第115図	41	土師器	甕	口縁1/4	(16.0)	-	-	-	[6.4]	縦から斜め方向のハケ目	横方向のハケ調整後、ヘラナデ	砂粒、雲母	普通	明褐色	明褐色		
C15	第115図	42	土師器	甕	口径1/4強	(19.6)	-	-	-	[4.7]	口縁下から全体にハケ調整	横方向のハケ調整後、ヘラナデ	砂粒、白色針状物質	普通	にぶい褐色	にぶい褐色~暗褐色		
C15	第115図	43	土師器	甕	口径1/3弱	(18.0)	-	-	-	[5.5]	横ナデ後縦方向のミガキ赤彩?	口縁下から全体にハケ調整	砂粒、雲母、白色針状物質	普通	にぶい褐色	にぶい褐色		
D15	第115図	44	土師器	甕	口径1/4	(13.4)	-	-	-	[8.3]	全体にハケ調整	ハケ調整後ヘラナデ	砂粒、褐色粒	普通	黄灰色~にぶい赤褐色	黄灰色~にぶい赤褐色		
ISK-023	第115図	45	土師器	甕	口縁1/4	(17.2)	-	-	-	[6.4]	口縁~肩部まで粗雑な横ナデ、体部ハケ調整後ナデ	ナデ	砂粒	普通	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色		
ISX-006	第115図	46	土師器	甕	口縁1/4	(14.0)	-	-	-	[7.0]	口縁に刻み、体部には斜めから横にハケ目が施される	不鮮明	大粒砂粒多量	やや甘	橙色~灰黄色	橙色		
C15	第116図	47	土師器	甕	破片						折返し口縁	摩滅し調整不鮮明	砂粒	普通	灰褐色~にぶい褐色	灰褐色~にぶい褐色		
C15	第116図	48	土師器	甕	破片													
ISK-016	第116図	49	土師器	甕	破片													
C15	第116図	50	土師器	甕	破片						ナデ調整	輪積み痕顕著によるナデ	砂粒、白色針状物質	普通	にぶい褐色	にぶい褐色		
ISX-006	第116図	51	土師器	甕	破片						体部 縦方向にヘラミガキ	横位~斜位にヘラミガキ	砂粒、褐色粒	普通	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色		
C16-87	第116図	52	土師器	甕	口径1/4	(19.4)	-	-	-	[6.3]	口縁下横ナデ、体部縦方向のケズリ	横ナデ、薄く剥離している	砂粒多量、雲母	普通	暗黄褐色	暗黄褐色		
ISP-044	第116図	53	土師器	甕	口径1/4	(16.2)	-	(17.0)	-	[13.7]	口縁下横ナデ、体部調整不鮮明	口縁下横ナデ、体部調整不鮮明	砂粒	普通	明黄褐色~にぶい黄褐色	明黄褐色~にぶい黄褐色		
ISK-023	第116図	54	土師器	甕	口縁1/5	(16.7)	-	(16.3)	-	[10.0]	摩滅により不鮮明	摩滅により不鮮明	粗い砂粒	普通	橙色	橙色		
ISX-012	第116図	55	土師器	甕	口縁部破片								細砂粒、雲母	普通	橙色	橙色		
ISK-024	第116図	56	土師器	甕	口縁1/4弱	(10.0)	-	-	-	[4.0]	横ナデ、体部ハケ調整?		砂粒、白色針状物質	普通	暗褐色~にぶい褐色	暗褐色~にぶい褐色		
ISI-007	第116図	57	土師器	甕	破片									普通	明黄褐色	明黄褐色		
ISK-026	第116図	58	土師器	甕	破片													

第10表 中郷地区掲載土器観察表(5)

遺構番号	押図	番号	種別	器種	遺存度	単位：cm (複元値)			調		整		胎土	焼成	色		調内面
						口径	頸部径	胴部最大径	底径	器高	外面	内面			外面	内面	
ISK-026	第116図	59	土師器	甕	破片									橙色	橙色	橙色	
ISB-020	第116図	60	土師器	杯	底部1/4強	-	-	(7.0)	[3.8]	ヘラナデと思われる	底部際ヘラケズリ、他はヘラナデ	砂粒多量	普通	にぶい褐色	明褐色		
IVSD-005	第116図	61	須恵器	杯	破片					有段口縁			やや甘	灰白色~灰色	灰白色		
ISD-010	第116図	62	須恵器	杯	破片							緻密	普通	灰色	灰色		
ISD-003	第116図	63	須恵器	蓋	破片							微砂粒	普通	灰色	灰色		
B17	第116図	64	須恵器	蓋	破片								普通	灰色	灰色		
ISD-005	第116図	65	須恵器	高杯		-	-	-	[3.1]	全体に磨滅		細砂粒	普通	黄灰色	黄灰色		
C15	第116図	66	須恵器	高杯	脚付け根部完存	-	-	(8.2)	[5.5]	脚に3単位の穿孔	ヘラナデ	細砂粒	普通	褐灰色	褐灰色		
ISB-003	第116図	67	須恵器	甕	破片							細砂粒	普通	灰色	灰色		
ISD-002	第116図	68	須恵器	甕	破片							細砂粒	普通	灰色	灰色		
ISD-012	第116図	69	須恵器	壺	口径1/4弱	(10.0)	-	-	[3.1]			砂粒	普通	灰色	灰色		
ISE-019	第116図	70	須恵器	甕	底部1/2	-	-	(3.8)	[3.2]			細砂粒	普通	灰色	灰色		
ISD-002	第116図	71	須恵器	甕	破片							砂粒、白色粒多量	普通	灰色	灰色		
ISP-040	第116図	72	須恵器	甕	破片								普通	灰白色	灰白色		
B15-89	第116図	73	須恵器	甕	破片					櫛描波状文	横方向のヘラナデ	砂粒、雲母多量	普通	灰色	黄灰色		
ISX-007	第117図	74	須恵器	甕	破片							砂粒	良好	灰色	灰色		
ISX-002	第117図	75	須恵器	甕	破片							細砂粒	普通	暗褐色~黒褐色	黄灰色		
D15	第117図	76	須恵器	甕	全体1/4	(22.5)	-	(35.4)	[34.2]	格子タタキ、横方向カキ目	同心円アテ具痕	細砂粒	良好	灰色	灰色		
T54B	第161図	1	土師器	皿	全体9/10	14.1	-	9.7	2.4	口縁下横ナデ、体部は薄く剥離が見られるがヘラケズリと思われる	磨滅し調整不鮮明	砂粒、褐色粒	普通	にぶい褐色	褐色		
ISB-004	第161図	2	土師器	杯	全体1/3	(13.0)	-	(8.8)	3.5	非ロクロ 磨滅し、調整不鮮明	調整不鮮明	砂粒	普通	明黄褐色	明黄褐色		
ISB-001	第161図	3	土師器	杯	口径1/6	(10.8)	-	-	[3.0]	磨滅し調整不鮮明		砂粒、雲母(少量)	普通	明黄褐色	明黄褐色		
ISE-020	第161図	4	土師器	杯	全体1/4	(11.8)	-	(7.8)	3.5	非ロクロ 若干ヘラケズリが見られる		砂粒、雲母多量	普通	明黄褐色	明黄褐色		
ISK-026	第161図	5	土師器	杯	口径1/4弱	(13.8)	-	(8.6)	[3.7]	非ロクロ ヘラケズリ		砂粒、褐色粒多量	普通	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色		

第10表 中郷地区掲載土器観察表(6)

遺構番号	挿図	番号	種別	器種	遺存度	単位: cm (復元値)				[現存値]		調整		胎土	焼成	色		調内面
						口径	頸部径	胴部最大径	底径	器高	外面	内面	外面			内面		
ISSX-002	第161図	6	土師器	杯	口径1/3	(12.6)	-	-	(8.3)	3.5	ヘラナデ	ヘラナデ	砂粒、雲母	普通	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色		
ISB-004	第161図	7	土師器	杯	底部1/4	(11.1)	-	-	(7.6)	[3.6]	非ロクロ	調整不鮮明	砂粒、雲母、白色針状物質	普通	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色		
ISK-018	第161図	8	土師器	杯	底部1/3	(13.0)	-	-	(8.0)	3.4	非ロクロ	ヘラケズリと思われ、調整不鮮明	砂粒、雲母、白色針状物質	普通	明黄褐色	明黄褐色		
ISK-029	第161図	9	土師器	杯	口径1/4弱	(12.8)	-	-	-	[3.2]	非ロクロ	体部ヘラケズリ	砂粒	普通	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色		
ISB-004	第161図	10	土師器	杯	全体1/4	(12.4)	-	-	(4.1)	[3.8]	非ロクロ	体部ヘラケズリ	砂粒、褐色粒、雲母多量	普通	明黄褐色	明黄褐色		
ISL-007	第161図	11	土師器	杯	口径1/5	(11.8)	-	-	(10.2)	[3.6]	非ロクロ	調整不鮮明	砂粒	普通	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色		
ISE-019	第161図	12	土師器	杯	口径1/5	(12.1)	-	-	-	[3.5]	非ロクロ	不鮮明	砂粒、雲母、褐色粒	普通	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色		
E15	第161図	13	土師器	杯	口径1/4	(13.0)	-	-	(8.4)	3.8	非ロクロ	ヘラケズリ?	砂粒	普通	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色		
C10	第161図	14	土師器	杯	全体1/4	(13.9)	-	-	(9.6)	[5.1]	非ロクロ	不鮮明	細砂粒	普通	明黄褐色～黄灰色	橙～にぶい黄褐色		
ISSX-003	第161図	15	土師器	杯	全体1/3	(13.2)	-	-	(8.2)	4.4	調整不鮮明		砂粒、雲母、褐色粒	普通	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色		
D15	第161図	16	土師器	杯	全体1/4	(11.6)	-	-	(9.2)	4.5	非ロクロ	口縁下横ナデ、体部ヘラケズリ?	砂粒、褐色粒、白色針状物質	普通	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色		
ISB-004	第161図	17	土師器	杯	底部1/3強	-	-	-	(9.3)	[2.5]	非ロクロ	体部ヘラケズリ	砂粒、褐色粒、雲母多量	普通	にぶい黄褐色	明黄褐色		
ISE-020	第161図	18	土師器	杯	口径1/4	(11.8)	-	-	(8.5)	4.8	非ロクロ	ヘラケズリ	砂粒、白色針状物質	普通	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色		
ISK-018	第161図	19	土師器	杯	底部1/4	(11.5)	-	-	(7.2)	3.9	非ロクロ	不鮮明	砂粒、雲母、褐色粒	普通	浅黄褐色	浅黄褐色		
ISX-012	第161図	20	土師器	杯	口径1/3	(12.0)	-	-	(8.2)	3.6	非ロクロ	ヘラケズリ	砂粒、雲母	普通	明黄褐色	にぶい黄褐色		
ISK-017	第161図	21	土師器	杯	底部約1/2	(12.2)	-	-	(8.4)	4.3	非ロクロ	不鮮明	砂粒	普通	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色		
ISK-017	第161図	22	土師器	杯	口径1/4	(12.0)	-	-	(7.8)	3.5	非ロクロ	ヘラケズリと思われ、調整不鮮明	砂粒、褐色粒	普通	明黄褐色	明黄褐色		
ISB-004	第161図	23	土師器	杯	口径1/4	(11.5)	-	-	(7.7)	[3.7]	非ロクロ	調整不鮮明	砂粒、雲母	普通	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色		
ISB-014	第161図	24	土師器	杯	底部1/3強	-	-	-	(7.8)	[1.6]	非ロクロ		砂粒、雲母	普通	明黄褐色	明黄褐色		
ISL-007	第161図	25	土師器	杯	全体1/3弱	(12.2)	-	-	(9.2)	3.5	非ロクロ	調整不鮮明	砂粒、雲母	普通	明黄褐色～にぶい黄褐色	明黄褐色～にぶい黄褐色		
ISB-005	第161図	26	土師器	杯	全体1/2弱	(11.0)	-	-	(8.6)	5.1	非ロクロ	口縁下横ナデ、体部ヘラケズリ	砂粒、雲母	普通	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色		
ISB-004	第161図	27	土師器	杯	全体2/3弱	11.9	-	-	8.7	3.5	非ロクロ	口縁下横ナデ、体部ヘラケズリ	砂粒	普通	明黄褐色	明黄褐色		
ISD-001	第161図	28	土師器	杯	完形	10.7	-	-	8.1	3.9	非ロクロ	調整不鮮明	砂粒、雲母	普通	浅黄褐色～褐色	褐色		
ISD-001	第161図	29	土師器	杯	全体4/5	11.5	-	-	8.8	4.1	非ロクロ	調整不鮮明	細砂粒	普通	褐色	褐色		

第10表 中郷地区掲載土器観察表(7)

遺構番号	挿図	番号	種別	器種	遺存度	単位: cm			[現存値]		調		整		胎土	焼成	色		調
						口径	頸部径	胴最大径	底径	器高	外	内	面	面			面	外	
ISD-012	第161図	30	土師器	杯	全体3/5				7.0	4.2	非ロクロ口縁下横ナデ、体部ケズリが見られる。口唇部油煙痕	横ナデ	油煙痕	砂粒、褐色粒、雲母	普通	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色		
IISX-002	第161図	31	土師器	杯	全体4/5				7.7	3.8	非ロクロ口縁下横ナデ、下部ヘラケズリ	横ナデ		砂粒、白色針状物質	普通	橙色	橙色		
DI5	第161図	32	土師器	杯	全体4/5				8.4	3.9	非ロクロ口縁下横ナデ、下部ヘラケズリ	横ナデ		砂粒、雲母、褐色粒	普通	にぶい橙色	にぶい橙色		
ISK-017	第161図	33	土師器	杯	口径1/4			(6.8)		3.5	非ロクロ口縁下横ナデ、下部ヘラケズリ後ナデ調整	横ナデ		砂粒、雲母多量	普通	明黄褐色	明黄褐色		
ISK-017	第161図	34	土師器	杯	口径1/4底部2/3			(7.5)		4.4	非ロクロ口縁下横ナデ、下部ヘラケズリ	横ナデ		砂粒、雲母多量	普通	明黄褐色	明黄褐色		
IISX-002	第161図	35	土師器	杯	全体5/6				7.5	4.0	非ロクロ口縁下横ナデ、下部ヘラケズリ油煙痕	横ナデ	側面全体に油煙痕が厚く付着	砂粒、褐色粒	普通	浅黄色～灰色	黒色、灰黄色		
ISE-020	第161図	36	土師器	杯	全体1/3				(7.8)	4.3	非ロクロ調整不鮮明	横ナデ		砂粒、雲母	普通	橙色	橙色		
ISB-004	第161図	37	土師器	杯	口径1/4			(6.0)		4.0	非ロクロ調整不鮮明	横ナデ		砂粒	普通	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色		
IIISD-001	第161図	38	土師器	杯	口径1/5			(7.8)		3.7	非ロクロ体部ヘラケズリ	横ナデ		砂粒	普通	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色		
IIISD-001	第161図	39	土師器	杯	全体1/4			(7.0)		3.8	非ロクロ体部ヘラケズリ	横ナデ		砂粒、白色針状物質	普通	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色		
ISE-020	第161図	40	土師器	杯	口径1/4			(5.8)		[3.8]	非ロクロ調整不鮮明	横ナデ		砂粒、白色針状物質	普通	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色		
ISE-020	第162図	41	土師器	杯	全体9/10底部壳形				7.1	4.1	非ロクロ調整不鮮明	横ナデ	薄く剥離	砂粒、褐色粒	普通	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色		
DI5	第162図	42	土師器	杯	底部1/2強				7.5	[2.5]	非ロクロヘラナデ?	横ナデ		砂粒、雲母、褐色粒	普通	にぶい橙色	にぶい橙色		
ISI-007	第162図	43	土師器	杯	全体1/2弱			(6.6)		3.9	非ロクロナデとヘラケズリ調整	横ナデ		砂粒、雲母、白色針状物質	良好	明褐色	明褐色		
IISX-002	第162図	44	土師器	杯	底径1/2			(8.2)		3.8	調整不鮮明	横ナデ		砂粒、褐色粒	普通	橙色	橙色		
ISX-012	第162図	45	土師器	杯	底径1/4			(8.2)		4.4	ヘラケズリと思われるが不鮮明	横ナデ		砂粒、雲母、白色針状物質	普通	赤褐色～にぶい橙色	赤褐色～にぶい橙色		
ISX-012	第162図	46	土師器	杯	全体3/5				7.6	3.7	ロクロ調整後ヘラケズリ	横ナデ	横方向のヘラナデ	細砂粒	普通	明黄褐色	明黄褐色		
ISX-012	第162図	47	土師器	杯	全体2/3				7.3	4.7	非ロクロヘラケズリ	横ナデ	横方向のヘラナデ	細砂粒、雲母多量	普通	明黄褐色	明黄褐色		
ISB-004	第162図	48	土師器	杯	口径1/2			7.0		3.8	非ロクロ体部浅いヘラケズリ	横ナデ		砂粒、雲母、褐色粒	普通	橙色～にぶい黄褐色	にぶい黄色		
ISX-012	第162図	49	土師器	杯	全体1/2弱				9.0	4.1	非ロクロ調整不鮮明	横ナデ		砂粒、雲母、白色針状物質	普通	明黄褐色	明黄褐色		
ISD-002	第162図	50	土師器	杯	底部1/4			(7.0)		[1.4]	調整不鮮明	横ナデ	調整不鮮明	砂粒、雲母	普通	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色		
ISK-017	第162図	51	土師器	杯	口径1/5底部3/4				7.2	3.6	非ロクロ口縁下横ナデ、体部ヘラケズリ	横ナデ		砂粒、雲母多量、白色針状物質	普通	明黄褐色	明黄褐色		
ISK-026	第162図	52	土師器	杯	全体1/4			(8.4)		[4.6]	非ロクロ調整不鮮明	横ナデ		砂粒、白色針状物質	普通	橙色	橙色		

第10表 中郷地区縄文土器観察表(8)

遺構番号	挿図	番号	種別	器種	遺存度	単位: cm			[現存値]			調		整		胎土	焼成	色		調
						口径	頸部径	胴最大径	底径	器高	外	内	面	内	面			外	内	
IISX-002	第162図	53	土師器	杯	全体4/5	12.0	-	-	7.8	4.8	非ロクロ口縁下横ナ デ、下部ヘラケズリと思 われるが、摩滅し不鮮明	横方向のヘラナデ 煙痕	油	砂粒、雲母、 褐色粒	普通	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色			
ISD-002	第162図	54	土師器	杯	底部1/4	-	-	(6.2)	[1.7]	不鮮明				砂粒、雲母	普通	明黄褐色	明黄褐色			
IISX-002	第162図	55	土師器	杯	全体2/3	12.1	-	-	6.8	4.2	非ロクロ口縁下横ナ デ、下部ヘラケズリ	ヘラナデ 指ナデ		砂粒、雲母、 褐色粒	普通	明黄褐色～に ぶい黄褐色	明黄褐色～に ぶい黄褐色			
IISX-002	第162図	56	土師器	杯	ほぼ完形	12.4	-	-	5.3	4.6	非ロクロ口縁下横ナ 後ヘラナデ	底、ヘラのあたり顕著		砂粒、雲母、 褐色粒	普通	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色			
ISX-012	第162図	57	土師器	杯	全体1/3	(11.2)	-	-	(6.8)	4.6	摩滅し調整不鮮明	不鮮明		砂粒、雲母	普通	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色			
IISX-002	第162図	58	土師器	杯	全体2/3	12.4	-	-	7.0	3.9	非ロクロ口縁下横ナ、 下部ヘラケズリ 輪切痕 残り、やや粗雑な調整	調整不鮮明		砂粒多量	普通	明黄褐色～橙 色	橙色			
IISX-002	第162図	59	土師器	杯	全体1/3強	(11.8)	-	-	6.2	4.0	剥離し調整不鮮明	調整不鮮明		砂粒、褐色粒	普通	橙色～黄灰色	橙色～黄灰色			
ISK-025	第162図	60	土師器	杯	全体9/10口縁のみ 1/2	11.4	-	-	6.9	3.9	非ロクロ口縁下横ナ デ、体部は粗雑なヘラ ケズリ	横方向のナデ		砂粒、雲母	良好	明黄褐色	明黄褐色			
ISX-012	第162図	61	土師器	杯	全体2/5	(11.6)	-	-	6.8	4.7	摩滅して調整不鮮明	摩滅により不鮮明		砂粒、白色針 状物質	普通	明黄褐色	明黄褐色			
IISX-002	第162図	62	土師器	杯	全体3/5	(11.8)	-	-	7.0	4.3	非ロクロ口縁下横ナ デ、下部ヘラケズリ	調整不鮮明		砂粒、雲母、 褐色粒	普通	明黄褐色～に ぶい黄褐色	明黄褐色～に ぶい黄褐色			
IISX-002	第162図	63	土師器	杯	全体1/2底部完形	(11.7)	-	-	6.4	4.7	摩滅し調整不鮮明	調整不鮮明		砂粒多量、雲 母	普通	橙色～灰色	橙色			
ISB-003	第162図	64	土師器	杯	口縁1/4	(10.4)	-	-	(7.2)	[4.0]	非ロクロ口縁下横ナ デ、体部浅いヘラケズ リ	横ナデ		砂粒、雲母、 白色針状物質	普通	橙色	橙色			
ISK-029	第162図	65	土師器	杯	全体1/2強底部3/4	(11.2)	-	-	6.6	[3.9]	非ロクロ口縁付近剥 離、体部下方ヘラケズ リ	横ナデ		砂粒、白色針 状物質多量	普通	にぶい橙色	にぶい橙色			
ISX-012	第162図	66	土師器	杯	ほぼ完形	11.9	-	-	6.5	4.0	ロクロ口縁付近除き ヘラケズリ	横方向のヘラナデ		細砂粒、褐色 粒、雲母	普通	明黄褐色	明黄褐色			
IISX-002	第162図	67	土師器	杯	全体4/5	8.8	-	-	5.2	3.1	非ロクロ口縁下横ナ デ、下部ヘラケズリ	ヘラナデ?若干油煙痕 のこる		砂粒、雲母、 褐色粒	普通	橙色～にぶい 黄褐色	橙色～にぶい 黄褐色			
IISX-002	第162図	68	土師器	杯	ほぼ完形	8.5	-	-	5.5	2.8	ヘラケズリ?全体剥離 し、調整粗雑	油煙痕		砂粒、雲母、 褐色粒	普通	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色			
C15	第162図	69	土師器	杯	底部完形	(9.4)	-	-	5.4	3.5	非ロクロ口縁下横ナ 調整不鮮明	摩滅し調整不鮮明		砂粒、雲母、 白色針状物質	普通	明黄褐色	明黄褐色			
ISK-029	第162図	70	土師器	杯	ほぼ完形	9.6	-	-	5.7	3.4	非ロクロ口縁下横ナ 調整不鮮明	不鮮明		白色針状物質	普通	浅黄褐色	浅黄褐色			
C15	第162図	71	土師器	杯	全体2/3	9.5	-	-	5.8	3.5	非ロクロ口縁下横ナ 調整不鮮明	横ナデ		砂粒、雲母、 白色針状物質	普通	明黄褐色	明黄褐色			
IISD-005	第162図	72	土師器	杯	全体1/4	(8.2)	-	-	(4.2)	3.7	摩滅し調整不鮮明 口縁に油煙痕	油煙痕		砂粒、褐色粒	やや甘	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色			
ISD-005	第162図	73	土師器	杯	底部完形	-	-	-	4.2	[1.7]	不鮮明			砂粒、褐色粒、白 色針状物質、雲母	普通	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色			



第10表 中郷地区掲載土器観察表(9)

遺構番号	挿図	番号	種別	器種	遺存度	単位: cm (復元値) [現存値]				調		胎土	焼成	色		内面
						口径	頸部径	胴最大径	底径	器高	外面			内面	外面	
B17-05	第162図	74	土師器	杯	口径1/4弱	(12.4)	-	-	-	[3.7]	非ロクロ	砂粒、雲母、白色針状物質	普通	橙色	橙色	橙色
D15	第162図	75	土師器	杯	全体1/2	-	-	-	9.0	[5.0]	非ロクロ 後ヘラナデ?	砂粒、雲母、褐色粒	普通	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色
ISX-012	第162図	76	土師器	杯	全体1/3	(13.2)	-	-	(7.8)	5.5	摩滅し調整不鮮明	砂粒、雲母多量	普通	明黄橙色	明黄橙色	明黄橙色
IISX-002	第162図	77	土師器	杯	全体9/10	12.8	-	-	8.1	5.9	口縁下ヨコナデ ヘラケズリ 一部剥離 し不鮮明	砂粒、雲母、褐色粒	普通	にぶい黄橙色 ～灰黄褐色	にぶい黄橙色 ～灰黄褐色	にぶい黄橙色 ～灰黄褐色
IISX-002	第162図	78	土師器	杯	全体1/2弱	(13.9)	-	-	6.9	5.0	ヘラケズリ	砂粒多量、雲母	普通	にぶい黄橙色 ～灰色	にぶい黄橙色 ～灰色	にぶい黄橙色 ～灰色
I SE-020	第162図	79	土師器	杯	全体2/3	15.0	-	-	8.2	6.2	非ロクロ ヘラケズリ と思われるが不鮮明	砂粒、褐色粒、白色針状物質	普通	明橙色	明橙色	明橙色
IISX-002	第163図	80	土師器	杯	全体2/3	12.8	-	-	7.0	5.0	摩滅し調整不鮮明	砂粒、褐色粒	普通	橙色	橙色	橙色
IISX-002	第163図	81	土師器	杯	全体3/5底部完形	(12.4)	-	-	6.6	3.5	剥離し調整不鮮明	砂粒多量、雲母	普通	橙色	橙色	橙色
IISD-003	第163図	82	土師器	杯	口径1/4	(13.8)	-	-	(5.7)	4.2	ロクロ	砂粒多量	普通	橙色～にぶい黄褐色	橙色～にぶい黄褐色	橙色～にぶい黄褐色
IISX-002	第163図	83	土師器	杯	口径1/4	(11.5)	-	-	(6.4)	4.1	ロクロ	砂粒、雲母	普通	橙色	橙色	橙色
ISX-001	第163図	84	土師器	杯	底部1/3	(13.1)	-	-	(6.8)	4.2	ロクロ ケズリ	砂粒	普通	明黄橙色	明黄橙色	にぶい黄褐色
IISX-002	第163図	85	土師器	杯	全体2/5	(13.0)	-	-	6.9	4.4	ロクロ 下部回転へ	砂粒、褐色粒	普通	にぶい黄褐色 ～浅黄褐色	にぶい黄褐色 ～浅黄褐色	にぶい黄褐色
IISD-007	第163図	86	土師器	杯	全体1/2強	(13.0)	-	-	6.0	4.2	ロクロ 下部回転へ	砂粒、褐色粒	普通	黄褐色～灰黄色	黄褐色～にぶい黄褐色	黄褐色
ISX-001	第163図	87	土師器	杯	口径1/6	(12.8)	-	-	-	[3.6]	ロクロ	砂粒	普通	橙色	橙色	にぶい黄褐色
I SI-001	第163図	88	土師器	杯	口径2/5	(12.5)	-	-	(5.9)	3.8	ロクロ	砂粒、褐色粒	普通	黄褐色	黄褐色	-
IISX-002	第163図	89	土師器	杯	全体5/6	12.8	-	-	5.8	4.5	ロクロ 下部回転へ	砂粒、褐色粒	普通	橙色～灰黄色	明黄褐色～橙色	明黄褐色～橙色
IISX-002	第163図	90	土師器	杯	全体1/2	(12.6)	-	-	6.0	4.3	ロクロ 下部回転へ	砂粒、雲母、褐色粒	普通	にぶい黄褐色 ～にぶい黄褐色	にぶい黄褐色 ～にぶい黄褐色	にぶい黄褐色
IISX-002	第163図	91	土師器	杯	全体5/6	12.7	-	-	6.1	4.4	ロクロ調整後、下部手持ち ヘラケズリ	砂粒、雲母	普通	明黄褐色～灰色	明黄褐色～灰色	明黄褐色～灰色
IISX-002	第163図	92	土師器	杯	口径1/2	13.0	-	-	(6.6)	3.9	ロクロ 摩滅して	砂粒多量	普通	橙色	橙色	橙色
IISX-002	第163図	93	土師器	杯	全体2/5	(12.8)	-	-	5.7	4.5	ロクロ 下部回転 ヘラケズリ	細砂粒、褐色粒多量	普通	にぶい黄褐色 ～灰黄褐色	にぶい黄褐色 ～灰黄褐色	にぶい黄褐色 ～灰黄褐色
ISD-012	第163図	94	土師器	杯	口径1/6	(12.4)	-	-	-	3.6	摩滅し調整不鮮明	砂粒、雲母	普通	橙色～黄褐色	橙色～黄褐色	橙色～黄褐色
IISX-002	第163図	95	土師器	杯	全体4/5	12.5	-	-	5.9	3.6	ロクロ	砂粒、褐色粒多量	普通	橙色～灰黄色	橙色～灰黄色	橙色～灰黄色
I SE-018	第163図	96	土師器	杯	口径1/4	(12.2)	-	-	(6.2)	3.5	ロクロ	砂粒	普通	橙色	橙色	橙色

第10表 中郷地区掲載土器観察表(10)

遺構番号	挿図	番号	種別	器種	遺存度	単位：cm (復元値)				[現存値]		調整		色		焼成	胎土
						口径	頸部径	胴最大径	底径	器高	外	内	面	外	内		
ISX-011	第163図	97	土師器	杯	全体1/5	(12.2)	-	-	(5.9)	4.4	ロクロラケズリ	下部回転へ		細砂粒	普通	明黄褐色～明黄褐色	明黄褐色～明黄褐色
B17-05	第163図	98	土師器	杯	全体4/5	12.2	-	-	6.4	4.5	ロクロラケズリ	下部回転へ		砂粒	やや甘	橙色～明黄褐色	橙色～明黄褐色
III SD-003	第163図	99	土師器	杯	ほぼ完形	12.0	-	-	5.6	4.0	ロクロ	摩滅して	不鮮明		普通	橙色～明黄褐色	橙色
V SE-001	第163図	100	土師器	杯	全体2/3	11.3	-	-	4.7	3.6	ロクロラケズリ	下部手持ちへ	不鮮明		普通	橙色	橙色
II SD-007	第163図	101	土師器	杯	底部3/4	(16.1)	-	-	7.8	4.8	摩滅し調整不鮮明	摩滅し調整不鮮明	摩滅し調整不鮮明	細砂粒	やや甘	黄褐色～橙色	橙色
II SX-002	第163図	102	土師器	杯	全体1/3	(13.8)	-	-	6.3	4.8	ロクロラケズリ	下部回転へ	調整不鮮明 煙痕付着?	砂粒	普通	橙色	橙色～にぶい黄褐色
I SX-012	第163図	103	土師器	杯	全体3/5	(14.9)	-	-	6.6	4.8	ロクロラケズリ	下部回転へ	横方向へラミガキ	細砂粒、雲母	普通	赤褐色～にぶい褐色	橙色～にぶい褐色
II SX-002	第163図	104	土師器	杯	口径1/4強	(17.0)	-	-	(6.4)	5.0	ロクロ粗い調整	輪痕残り	ロクロ	砂粒多量	普通	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色
II SX-002	第163図	105	土師器	皿	全体2/3	13.7	-	-	5.9	2.0	摩滅し調整不鮮明	不鮮明	不鮮明	砂粒、褐色粒多量	普通	橙色	橙色
II SX-003	第163図	106	土師器	皿	ほぼ完形	13.3	-	-	6.0	[2.5]	ロクロラケズリ?不鮮明	下部へラケ	不鮮明	細砂粒、褐色粒多量	普通	橙色	橙色～黄灰色
I SP-022	第163図	107	土師器	高台付杯	高台径1/4弱	-	-	-	(7.2)	[2.0]	ロクロ	一部黒く変化		砂粒、雲母	普通	暗黄土色	暗黄土色
I SK-026	第163図	108	土師器	高台付杯	全体3/4底部完形	14.4	-	-	7.4	4.8	ロクロ			砂粒、褐色粒多量	普通	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色
II SD-007	第163図	109	土師器	高台付杯	全体3/4	13.8	-	-	-	[5.0]	ロクロ調整後へラナデ	黒色処理へラミガキ		砂粒	普通	浅黄色～橙色	黒色
II SX-002	第163図	110	土師器	高台付杯	底径1/4	(16.4)	-	-	(7.8)	5.4	ロクロ口縁付近のみ横ナデ、他は不鮮明	黒色処理、へラミガキ		細砂粒	普通	黄灰色～にぶい黄褐色	オリーブ黒色
I SB-014	第163図	111	土師器	高台付杯	底部1/3弱	(13.0)	-	-	(6.8)	4.7	ロクロ	黒色処理、へラミガキ		砂粒、雲母	良好	明黄褐色	黒色
II SX-002	第163図	112	土師器	杯	全体5/6	13.6	-	-	8.4	4.3	ロクロ	摩滅し不鮮明	黒色処理	砂粒、白色針状物質	やや甘	橙色～にぶい黄褐色	黒色
C17	第164図	113	土師器	高杯	脚1/2弱	-	-	-	(6.6)	[5.2]	粗製へラケズリ後ナデ?やや不鮮明	へラナデ		砂粒、雲母、白色針状物質、褐色粒	普通	明赤褐色	にぶい褐色
I SX-012	第164図	114	土師器	甌	口縁部破片									砂粒、雲母、褐色粒	普通	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色
I SK-023	第164図	115	土師器	甌	全体4/5口縁～肩部完形	11.8	-	16.3	-	[18.3]	口縁～肩部まで横ナデ、体部斜位～横位のへラケズリ、黒斑	横方向ナデ、輪痕み顕著		砂粒多量、雲母	普通	にぶい黄褐色～暗黄褐色	にぶい黄褐色
I SX-014	第164図	116	須恵器	蓋	全体1/2	-	-	-	(15.4)	3.3	ロクロ調整、へラケズリ			細砂粒	普通	灰白色	灰白色
I SB-004	第164図	117	須恵器	蓋	口径1/4	(15.2)	-	-	-	[2.5]	ロクロ	横ナデ		砂粒(密)	良好	白灰色	白灰色
I SK-018	第164図	118	須恵器	蓋	破片									砂粒	普通	灰白色	灰白色
F12	第164図	119	須恵器	盤(転用版)	底部破片	-	-	-	(12.0)	[1.4]				砂粒	普通	灰白色	灰白色

第10表 中郷地区縄文土器観察表(11)

遺構番号	挿図	番号	器種	器類	器種	遺存度	単位: cm			調整		胎土	焼成	色		調内面
							口径	頸部径	胴部最大径	底径	器高			外面	内面	
ISX-002	第164図	120	甕	須恵器	破片						横ナデ～縦方向のケズリ	へらナデ、粗い調整	砂粒多量	やや甘	灰色	灰色
ISX-012	第164図	121	甕	須恵器	口径1/4								細砂粒	普通	灰色	灰色
IVSE-001	第164図	122	甕	須恵器	破片						施軸	無軸		普通	灰色～灰オリーブ色	灰色
C14	第164図	123	甕	須恵器	底部破片								細砂粒	普通	褐灰色	褐灰色
VSE-003	第164図	124	甕	須恵器	破片						へらによる波状文		微細砂粒	普通	灰白色	灰白色
I SE-019	第164図	125	壺	須恵器	破片									普通	灰白色	灰白色
I SB-020	第164図	126	甕	須恵器	破片									普通	灰白色	灰白色
IVSD-007	第164図	127	甕	須恵器	破片								砂粒	普通	褐灰色	暗灰色
I SD-002	第164図	128	甕	須恵器	破片									普通	黄灰色～灰色	暗灰黄色
II SD-005	第164図	129	甕	須恵器	破片								細砂粒	普通	灰色	灰色
D15	第164図	130	甕	須恵器	破片									良好	褐灰色	褐灰色
II SD-005	第164図	131	甕	須恵器	破片								細砂粒	普通	褐灰色	灰黄色
II SD-011	第164図	132	甕	須恵器	破片								砂粒	普通	灰色	灰白色
I SD-003	第164図	133	甕	須恵器	破片								砂粒	普通	灰色～黄灰色	灰色～黄灰色
I SP-040	第164図	134	甕	須恵器	破片									普通	灰白色	灰白色
C17	第165図	135	甕	須恵器	口径1/4弱								砂粒多量	やや甘	暗灰黄色	暗灰黄色
ISX-012	第165図	136	甕	須恵器	口径1/6								砂粒、曇母	普通	灰色	灰色
ISX-012	第165図	137	甕	須恵器	底部3/5							へらケズリ	砂粒	普通	灰色	灰色
II SX-002	第165図	138	甕	須恵器	口縁1/5								砂粒多量	やや甘	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色
I SB-010	第165図	139	椀	緑釉陶器	破片						施軸	施軸		良好	オリーブ灰、緑色	
B16	第165図	140	椀	緑釉陶器	破片						施軸	施軸		普通	灰オリーブ色	灰オリーブ色
C16	第165図	141	椀	緑釉陶器	底部1/4						施軸	施軸		普通	灰オリーブ色	灰オリーブ色
F13	第165図	142	椀	灰釉陶器	破片						施軸	施軸		普通	灰黄色	灰黄色
ISX-011	第165図	143	椀	灰釉陶器	高台部破片								微砂粒	普通	灰白色	灰白色

第10表 中郷地区掘載土器観察表(12)

遺構番号	挿図	番号	種別	器種	遺存度	単位: cm (復元値)				調 整		胎 土	焼成	色 調	
						口径	頸部径	胴部最大径	底径	器高	外 面			内 面	外 面
II SE-001	第165図	144	灰軸陶器	瓶	破片						剥離	施釉	普通	灰白色	灰色
C17-05	第165図	145	灰軸陶器	瓶	破片								良好	灰黄色	灰黄色
I SD-050	第165図	146	灰軸陶器	瓶	頸部破片	-	7.4	-	-	6.0	施釉	施釉	普通	灰オリーブ色	灰白色~灰オリーブ色
II SX-002	第165図	147	灰軸陶器	瓶	頸部1/3	-	(6.3)	-	-	[9.8]	施釉	頸部付け根まで施釉	普通	灰オリーブ色~オリーブ灰色	灰オリーブ色
II SX-002	第165図	148	灰軸陶器	瓶	底部1/2	-	-	-	(7.6)	[3.3]	高台部にまだらに施釉	施釉	普通	灰色	釉 灰オリーブ色
D11	第165図	149	灰軸陶器	淨瓶	底部1/2	-	-	-	(7.8)	[2.8]	まだらに施釉	無釉	普通	灰黄色	灰黄色
II SX-001	第165図	150	灰軸陶器	瓶	底部1/4	-	-	-	(7.0)	[2.4]	一部施釉	底に釉付着	普通	灰白色	釉 オリーブ黄色、灰白色
V SE-007	第165図	151	灰軸陶器	瓶	底部1/5	-	-	-	(7.9)	[3.0]	施釉	無釉	普通	釉 灰オリーブ色、灰白色	灰白色
II SD-007	第165図	152	灰軸陶器	壺	底部	-	-	-	-	[2.4]	まだらに施釉	底に釉付着	普通	褐灰色	灰色
II SD-001	第165図	153	灰軸陶器	鍬	鍬脚1本						まばらに釉付着			灰白色	

第11表 中郷地区掲載陶磁器一覽表(1)

遺構番号	挿図	番号	種類	器種	遺存度	単位: cm (復元値)				[現存値]		備考
						口径	頸部径	胴部最大径	底径	器高	器高	
IVSB-003	第273図	1	白磁	皿	破片							
IVSD-007	第273図	2	白磁	皿	破片							
VSE-003	第273図	3	白磁	皿	底径1/5	-	-	(5.5)	[0.8]			碁笥底
I SP-008	第273図	4	白磁	皿	破片							
II SE-001	第273図	5	白磁	皿	破片							
II SE-001	第273図	6	白磁	碗	底部1/4	-	-	(7.4)	[3.0]			内外面釉
F5	第273図	7	青磁	碗	破片							外面錦蓮弁文 釉は青灰色
IVSD-005	第273図	8	青磁	碗	破片							外面錦蓮弁文 釉は青灰色
IVSD-008	第273図	9	青磁	碗	破片							外面錦蓮弁文
T54-B	第273図	10	青磁	碗	底部完形	-	-	3.2	[2.6]			外面細蓮弁線
I SD-002	第273図	11	青磁	皿	破片							外面櫛描文
I SX-011	第273図	12	青磁	碗	破片							内面花文
I SX-011	第273図	13	青磁	碗	破片							内面櫛描文 釉は多少黄色味
I SD-030	第273図	14	青磁	皿	破片							外面櫛描文
VSE-001	第273図	15	青磁	碗	破片							内外面櫛描文 釉は多少黄色味
I SB-015B	第273図	16	青磁	碗		-	-	(5.2)	[3.0]			内面花文
VSE-001	第273図	17	青磁	碗	破片							内面に文様
I SE-001	第273図	18	青磁	碗	破片							
I SD-002	第273図	19	青磁	碗	破片							
I SD-004	第273図	20	青磁	碗	底部1/6	-	-	(4.8)	[2.5]			外面全面施釉
T65	第273図	21	青磁	碗	破片							外面全面施釉
I SD-035	第273図	22	青磁	碗	底部1/3	-	-	(5.4)	[2.3]			高台内無釉 釉は青灰色
I SD-046	第273図	23	青磁	碗	底部1/2	-	-	(4.0)	[2.3]			外面無釉 釉は青灰色
B16	第273図	24	青磁	碗	底部1/4	-	-	(6.6)	[1.7]			錦蓮弁文 高台内無釉
I SX-014	第273図	25	青磁	皿	破片							
I SX-002	第273図	26	青磁	香炉	破片							内面無釉
VSBB-007	第273図	27	染付	碗	底部完形	-	-	5.8	[3.3]			内面二重界線内「福」 外面三重の界線 高台端部無釉
I SX-015	第273図	28	瀬戸・美濃	花瓶	底部1/2強	-	-	(5.6)	[2.1]			外面鉄釉
VSE-001	第273図	29	瀬戸・美濃	花瓶	全体1/3	-	-	(8.9)	[8.1]			外面高台部以外灰釉
II SE-001	第273図	30	瀬戸・美濃	水注	把手部片							外面灰釉

第11表 中郷地区縄文陶磁器一覽表(2)

遺構番号	挿図	番号	種類	器種	遺存度	単位：cm (復元値) [現存値]				備考
						口徑	頸部徑	胴部最大徑	底徑	
I SE-001	第273図	31	瀬戸・美濃	水注	肩部片					外面灰釉
F11	第273図	32	瀬戸・美濃	水注	底部1/5	-	-	(9.4)	[4.3]	
I SB-008	第273図	33	瀬戸・美濃	梅瓶	肩部片					灰釉
I SE-001	第273図	34	瀬戸・美濃	梅瓶	肩部片					灰釉
I SD-021	第273図	35	瀬戸・美濃	梅瓶	胴部片					鉄釉
I SD-033	第273図	36	瀬戸・美濃	梅瓶	胴部片					鉄釉
V SD-001	第274図	37	瀬戸・美濃	縁釉小皿	口縁部片					口縁部灰釉
F5	第274図	38	瀬戸・美濃	縁釉小皿	1/4個体	(9.5)	-	-	[1.6]	口縁部灰釉
F13	第274図	39	瀬戸・美濃	縁釉小皿	口縁部片					口縁部灰釉
I SD-046	第274図	40	瀬戸・美濃	縁釉小皿	口縁部片					口縁部灰釉
B16	第274図	41	瀬戸・美濃	縁釉小皿	口縁部片					口縁部灰釉
I SE-008	第274図	42	瀬戸・美濃	縁釉小皿	口縁部片					口縁部灰釉
I SD-003	第274図	43	瀬戸・美濃	縁釉小皿	口縁部片					口縁部灰釉
F13	第274図	44	瀬戸・美濃	縁釉小皿	口縁部片					口縁部灰釉
V SE-002	第274図	45	瀬戸・美濃	縁釉小皿	口縁部片					口縁部灰釉
B17	第274図	46	瀬戸・美濃	縁釉小皿	口縁部1/4	(10.8)	-	(5.0)	2.5	口縁部灰釉 体部下端回転へラケズリ
F8	第274図	47	瀬戸・美濃	縁釉小皿	1/4個体	(12.4)	-	(18.4)	2.5	口縁部灰釉 体部下端回転へラケズリ
I SD-018	第274図	48	瀬戸・美濃	縁釉小皿	口縁部片					口縁部灰釉
V SB-012	第274図	49	瀬戸・美濃	縁釉小皿	口縁部片					口縁部灰釉
I SD-001	第274図	50	瀬戸・美濃	縁釉小皿	口縁部片					灰釉
I SK-008	第274図	51	瀬戸・美濃	腰折皿	底部1/3	-	-	(5.8)	[1.7]	ピン跡 灰釉
V SE-001	第274図	52	瀬戸・美濃	腰折皿	底部完形	-	-	6.4	[1.1]	ピン跡 灰釉 断面に漆つき痕跡
I SD-002	第274図	53	瀬戸・美濃	腰折皿	底部1/2強	-	-	(5.9)	[1.1]	輪トチ跡 灰釉
I SE-019	第274図	54	瀬戸・美濃	縁釉小皿	底部1/4	-	-	(5.2)	[1.2]	灰釉
I SE-014	第274図	55	瀬戸・美濃	縁釉小皿	底部片					灰釉
I SE-019	第274図	56	瀬戸・美濃	縁釉小皿	底部完形	-	-	5.4	[1.8]	灰釉
C14	第274図	57	瀬戸・美濃	縁釉小皿	底部ほぼ完形	-	-	4.2	[1.2]	鉄釉
I SE-004	第274図	58	瀬戸・美濃	縁釉小皿	底部1/5	-	-	(5.6)	[1.0]	灰釉
I SD-023	第274図	59	瀬戸・美濃	縁釉小皿	底部1/3	-	-	(5.8)	[1.0]	灰釉
V SE-001	第274図	60	瀬戸・美濃	縁釉小皿	底部1/4	-	-	(5.4)	[1.2]	灰釉
I SX-002	第274図	61	瀬戸・美濃	挟み皿	体部1/2	(11.6)	-	-	[2.5]	口縁内面灰釉

第11表 中郷地区掲載陶磁器一覽表(3)

遺構番号	挿図	番号	種類	器種	遺存度	単位：cm (復元値)				〔現存値〕		備考
						口徑	頸部徑	胴部最大徑	底徑	器高		
I SX-002	第274図	62	瀬戸・美濃	挟み皿	口縁部片							口縁内面灰釉
I SD-003	第274図	63	瀬戸・美濃	平碗	口縁部片							灰釉
C11-16	第274図	64	瀬戸・美濃	皿	口縁部片							灰釉
D10-11	第274図	65	瀬戸・美濃	皿	口縁部片							灰釉
I SD-033	第274図	66	瀬戸・美濃	皿	口縁部片							灰釉
III SD-010	第274図	67	瀬戸・美濃	皿	口縁部片							灰釉
II SB-008	第274図	68	瀬戸・美濃	皿	口縁部片							灰釉
II SB-008	第274図	69	瀬戸・美濃	皿(平碗)	口縁部片							灰釉
I SD-004	第274図	70	瀬戸・美濃	天目茶碗	口縁部1/6	(11.6)	-	-	(3.7)	[2.9]		鉄釉
II SD-005	第274図	71	瀬戸・美濃	天目茶碗	口縁部片							鉄釉
V SE-001	第274図	72	瀬戸・美濃	天目茶碗	1/4個体	(15.1)	-	-	(5.6)	[5.1]		灰釉
IV SD-001	第274図	73	瀬戸・美濃	天目茶碗	口縁部片							鉄釉
I SD-046	第274図	74	瀬戸・美濃	天目茶碗	口縁部片							鉄釉
I SD-003	第274図	75	瀬戸・美濃	天目茶碗	底部	-	-	-	(4.4)	[2.0]		鉄釉 内反り高台
V SK-006	第274図	76	瀬戸・美濃	天目茶碗	底部1/2	-	-	-	(5.6)	[1.9]		鉄釉 内反り高台
IV SD-001	第274図	77	瀬戸・美濃	天目茶碗	底部1/4	-	-	-		[2.2]		灰釉
I SD-002	第274図	78	瀬戸・美濃	天目茶碗	体部片							鉄釉
I SD-047	第274図	79	瀬戸・美濃	天目茶碗	体部片	-	-	-		[3.1]		灰釉
I9	第274図	80	瀬戸・美濃	天目茶碗	口縁部片	-	-	-				全釉
IV SB-002	第274図	81	瀬戸・美濃	天目茶碗	口縁部片	-	-	-		[4.4]		鉄釉
I SD-046	第274図	82	瀬戸・美濃	平碗	口縁部1/3	(13.0)	-	-		[4.2]		灰釉
V SE-001	第274図	83	瀬戸・美濃	平碗	1/4個体	(16.7)	-	-	(5.0)	5.5		灰釉
V SE-001	第274図	84	瀬戸・美濃	平碗	口縁部片							灰釉
V SE-001	第274図	85	瀬戸・美濃	平碗	口縁部片							灰釉
V SE-001	第275図	86	瀬戸・美濃	平碗	口縁部～体部片							灰釉
I SE-019	第275図	87	瀬戸・美濃	平碗	約1/6個体	(15.2)	-	-		[6.1]		灰釉
I SX-007	第275図	88	瀬戸・美濃	平碗	口縁部片							灰釉
V SE-001	第275図	89	瀬戸・美濃	平碗	口縁部～体部片	(13.8)	-	-		[4.3]		灰釉
I SE-019	第275図	90	瀬戸・美濃	平碗	約1/5個体	(15.4)	-	-		[4.9]		灰釉
I SE-018	第275図	91	瀬戸・美濃	平碗	口縁部～体部片							灰釉
II SD-005	第275図	92	瀬戸・美濃	平碗	体部片							灰釉

第11表 中郷地区掲載陶磁器一覽表(4)

遺構番号	挿図	番号	種類	器種	遺存度	単位：cm (復元値)				[現存値]		備考
						口径	頸部径	胴部最大径	底径	器高		
II SE-001	第275図	93	瀬戸・美濃	平碗	体部片							灰軸
I SD-046	第275図	94	瀬戸・美濃	平碗	体部片							灰軸
II SE-001	第275図	95	瀬戸・美濃	平碗	体部片							灰軸
II SD-005	第275図	96	瀬戸・美濃	平碗	底部3/3	-	-	-	(7.3)	[2.0]		灰軸 削り出し高台
V SE-001	第275図	97	瀬戸・美濃	平碗	底部3/4	-	-	-	5.8	[2.4]		灰軸 内面一部すす 削り出し高台
I SX-007	第275図	98	瀬戸・美濃	平碗	底部3/5	-	-	-	(5.6)	[1.8]		灰軸 付高台
I SX-006	第275図	99	瀬戸・美濃	平碗	底部1/3	-	-	-	(5.2)	[3.6]		灰軸 削り出し高台
D9-96	第275図	100	瀬戸・美濃	平碗	底部1/2	-	-	-	(5.3)	[1.8]		灰軸 削り出し高台
II SD-005	第275図	101	瀬戸・美濃	折縁深皿	口縁部片							灰軸
V SK-003	第275図	102	瀬戸・美濃	折縁深皿	口縁部片							灰軸
I SK-001	第275図	103	瀬戸・美濃	折縁深皿	口縁部片							灰軸
C17	第275図	104	瀬戸・美濃	折縁深皿	口縁部片							灰軸
V SE-001	第275図	105	瀬戸・美濃	折縁深皿	体部片							灰軸 側面砥石として使用
V SE-001	第275図	106	瀬戸・美濃	折縁深皿	口縁部～体部片							灰軸
V SB-009	第275図	107	瀬戸・美濃	折縁中皿	口縁部片							灰軸
I SE-019	第275図	108	瀬戸・美濃	折縁中皿	口縁部片							灰軸
I SD-048	第275図	109	瀬戸・美濃	大皿	体部片							灰軸
V SE-001	第275図	110	瀬戸・美濃	大皿	体部片							灰軸
I SD-021	第275図	111	瀬戸・美濃	三足付大皿	底部破片							灰軸
II SE-004	第275図	112	瀬戸・美濃	大皿	底部破片							灰軸
I SD-001	第275図	113	瀬戸・美濃	大皿	底部							(鉄軸)
II SD-005	第275図	114	瀬戸・美濃	直縁大皿	口縁部片							口縁部のみ灰軸
D11-60、75	第275図	115	瀬戸・美濃	片口鉢	口縁部～体部片							鉄軸刷毛塗り
I SD-002	第276図	116	瀬戸・美濃	三足付大皿	底部1/4	-	-	-	(13.3)	[2.5]		無軸
V SD-001	第276図	117	瀬戸・美濃	卸皿	底部1/5	(12.0)	-	-	(6.4)	2.0		縁のみ灰軸 内面卸目
I SX-002	第276図	118	瀬戸・美濃	卸皿	底部片							灰軸
V SE-001	第276図	119	瀬戸・美濃	卸目付大皿	底部片							内面卸目
I SD-042	第276図	120	瀬戸・美濃	筒形香炉	口縁部片							灰軸
F13-41	第276図	121	瀬戸・美濃	花瓶	底部片							灰軸
B17	第276図	122	瀬戸・美濃	播鉢	口縁部片							鉄軸刷毛塗り
B16	第276図	123	瀬戸・美濃	播鉢	口縁部片							鉄軸刷毛塗り



第11表 中郷地区掲載陶磁器一覽表(5)

遺構番号	挿図	番号	種類	器種	遺存度	単位：cm (復元値) [現存値]				備考
						口径	頸部径	胴部最大径	底径	
VE-001	第276図	124	瀬戸・美濃	插鉢	口縁部片					鉄釉刷毛塗り
ISD-047	第276図	125	瀬戸・美濃	插鉢	口縁部片					錆釉
ISD-004	第276図	126	瀬戸・美濃	插鉢	口縁部片					錆釉
ISD-004	第276図	127	瀬戸・美濃	插鉢	口縁部片					錆釉
ISE-008	第276図	128	瀬戸・美濃	溜鉢	底部1/4	-	-	(11.4)	[4.8]	全面鉄釉刷毛塗り
ISD-005	第276図	129	瀬戸・美濃	插鉢	底径1/3	-	-	(11.2)	[6.8]	全面鉄釉刷毛塗り
ISD-043 D11-75	第276図	130	瀬戸・美濃	插鉢	底部1/2	-	-	(10.2)	[9.0]	全面鉄釉刷毛塗り 漆つき痕跡
ISD-003	第276図	131	瀬戸・美濃	插鉢	口縁部片					錆釉
ISD-001 ISX-002	第276図	132	瀬戸・美濃	插鉢	口縁部片					錆釉
VSB-011	第276図	133	瀬戸・美濃	插鉢	口縁部片					錆釉
VSB-002	第276図	134	瀬戸・美濃	插鉢	口縁部片					錆釉
F9	第276図	135	瀬戸・美濃	溜鉢	口縁部片					錆釉
ISD-004	第276図	136	瀬戸・美濃	插鉢	口縁部片					錆釉(紫黒色)
F8	第276図	137	瀬戸・美濃	溜鉢	口縁部片					錆釉
VSB-011	第276図	138	瀬戸・美濃	插鉢	口縁部片					錆釉
ISD-003 ISD-003B	第276図	139	瀬戸・美濃	插鉢	口縁部片					錆釉
ISX-002	第276図	140	瀬戸・美濃	插鉢	体部～底部片					全面錆釉 内面磨耗顕著
VSE-007	第276図	141	瀬戸・美濃	插鉢	底部完形	-	-	11.3	[8.4]	全面錆釉 内面磨耗顕著
ISX-002	第276図	142	瀬戸・美濃	插鉢	底部1/4	-	-	(8.8)	[3.7]	全面錆釉
ISX-002	第277図	143	瀬戸・美濃	插鉢	底部1/3	-	-	(10.0)	[4.0]	全面錆釉
ISX-002	第277図	144	常滑	広口壺	口縁部1/4	(12.8)	-	-	[6.0]	紫褐色に発色
ISX-002	第277図	145	常滑	広口壺	口縁部片					紫褐色に発色
ISE-019	第277図	146	常滑	広口壺	口縁部片					
ISE-018	第277図	147	常滑	広口壺	口縁部片					
ISD-005	第277図	148	常滑	広口壺	口縁部片					断面漆つき痕跡 黄褐色
ISE-007	第277図	149	常滑	甕	体部～底部片	-	-	(7.8)	[9.5]	
ISE-014	第277図	150	常滑	甕	口縁部～胴部片					肩部ゴマ状の隆灰
VSE-001	第277図	151	常滑	甕	口縁部～胴部片					肩部ゴマ状の隆灰
ISD-005	第277図	152	常滑	甕	口縁部～胴部片					
ISX-002	第277図	153	常滑	甕	口縁部～胴部片					N字状口縁
ISD-001	第277図	154	常滑	甕	口縁部～胴部片					N字状口縁

第11表 中郷地区掲載陶磁器一覽表(6)

遺構番号	挿図	番号	種類	器種	遺存度	単位：cm (復元値) [現存値]				備考
						口径	頸部径	胴最大径	器高	
II SD-005	第277図	155	常滑	甕	体部粗大片					胎土明褐色
I SD-002	第278図	156	常滑	甕	口縁部片					外面降灰
I SE-001	第278図	157	常滑	甕	口縁部片					
I SD-004	第278図	158	常滑	広口壺	口縁部片					紫褐色に発色
C10-80	第278図	159	常滑	片口鉢	口縁部片					表面黒褐色
IVSD-007	第278図	160	常滑	片口鉢	口縁部片					表面灰褐色
VSD-001	第278図	161	常滑	片口鉢	口縁部片					明赤褐色
VSE-001	第278図	162	常滑	片口鉢	口縁部片					淡赤褐色
II SE-001	第278図	163	常滑	片口鉢	口縁部片					黒褐色
II SE-001	第278図	164	常滑	片口鉢	口縁部片					淡赤褐色
I SD-046	第278図	165	常滑	片口鉢	口縁部片					明黄褐色
I SD-002	第278図	166	常滑	片口鉢	口縁部片					黒褐色
II SE-001	第278図	167	常滑	片口鉢	口縁部片					明黄褐色
F13-41	第278図	168	常滑	片口鉢	口縁部片					黄褐色
VSD-001	第278図	169	常滑	片口鉢	口縁部片					赤褐色
I SD-004	第278図	170	常滑	片口鉢	口縁部片					明黄褐色
VSE-001	第278図	171	常滑	片口鉢	口縁部片					表面紫黒色
II SD-005	第278図	172	常滑	片口鉢	口縁部片					赤褐色
I SE-018	第278図	173	常滑	片口鉢	口縁部片					表面紫褐色
II SE-004	第278図	174	常滑	片口鉢	口縁部片					紫褐色～褐色
I SD-046	第278図	175	常滑	片口鉢	口縁部片					明黄褐色～褐色
VSE-001	第278図	176	常滑	片口鉢	口縁部片					表面紫褐色
VSK-001	第278図	177	常滑	片口鉢	口縁部片					赤褐色
I SE-019	第278図	178	常滑	片口鉢	口縁部片					表面紫褐色
IVSD-007	第279図	179	常滑	片口鉢	口縁部片					表面紫褐色
VSE-001	第279図	180	常滑	片口鉢	口縁部片					表面紫褐色
VSD-001	第279図	181	常滑	片口鉢	口縁部片					表面紫褐色
I SD-046	第279図	182	常滑	片口鉢	口縁部片					表面紫褐色
VSE-004	第279図	183	常滑	片口鉢	口縁部片					表面紫褐色
VSK-003	第279図	184	常滑	片口鉢	口縁部片					表面紫褐色
II SD-005	第279図	185	常滑	片口鉢	口縁部～底部1/4	(17.0)	-	(9.6)	7.4	表面紫褐色

第11表 中郷地区掲載陶磁器一覽表(7)

遺構番号	挿図	番号	種類	器種	遺存度	単位: cm (復元値)				[現存値]		備考
						口径	頸部径	胴最大径	底径	器高		
VSD-001	第279図	186	常滑	片口鉢	1/4個体	(25.0)	-	-	-10.0	8.9	断面部に漆つぎ痕跡 暗褐色～赤褐色	
II SD-005	第279図	187	常滑	片口鉢	口縁部1/6	(27.4)	-	-	-	[4.8]	表面紫褐色	
VSE-001	第279図	188	常滑	片口鉢	1/5個体	(26.6)	-	-	(11.4)	8.0	表面紫褐色	
VSE-001	第279図	189	常滑	片口鉢	1/4個体	(28.4)	-	-	(13.2)	10.6	表面紫褐色	
ISX-007	第279図	190	常滑	片口鉢	底部片						黄褐色	
II SE-001	第279図	191	常滑	甕	底部片						暗褐色	
VSE-001	第279図	192	常滑	甕	底部片						暗褐色～赤褐色	
VSE-001	第279図	193	常滑	甕	底部1/3	-	-	-	(13.0)	[6.4]	明赤褐色	
II SD-005	第279図	194	常滑	甕	底部片						明赤褐色	
VSD-001	第280図	195	常滑	甕	底部片						明赤褐色	
II SD-005	第280図	196	常滑	甕	底部片						黒褐色	
I SD-041	第280図	197	常滑	甕	底部片						暗赤褐色	
ISX-011	第280図	198	常滑	甕	胴部片						外面叩き目 暗褐色	
VSE-001	第280図	199	常滑	甕	底部片						内面降灰 外面くすんだ柿色	
IVSD-007	第280図	200	常滑	甕	底部片						内面降灰 外面黄褐色	
I SP-009	第280図	201	常滑	甕	底部1/3	-	-	-	(14.8)	[6.6]	灰色一部黄褐色	
I SD-035	第280図	202	常滑	甕	底部片						灰褐色	
VSE-001	第280図	203	常滑	甕	底部1/3	-	-	-	(18.0)	[5.8]	表面灰褐色	
II SD-005	第280図	204	常滑	甕	底部1/4	-	-	-	(22.2)	[3.7]	外面紫褐色 内面灰赤色	
E17	第280図	205	不明	片口鉢	口縁部片						暗灰褐色	
I SD-041	第280図	206	不明	片口鉢	口縁部片						暗灰褐色	
I SE-019	第280図	207	常滑	壺・瓶	底部1/5弱	-	-	-	(12.2)	[2.1]	灰色	
I SD-013	第280図	208	常滑	壺	肩部片						肩部外面降灰 内面灰黒色	
I SX-007	第280図	209	不明	片口鉢	底部片						灰黒色	
VSD-005	第280図	210	丹波	播鉢	口縁部片						明黄褐色～灰褐色 長石・石英粒混入	
II SD-005	第280図	211	備前	播鉢	底部1/6	-	-	-	(12.0)	[7.0]	黒褐色 長石粒混入	
I SE-019	第280図	212	不明	片口鉢	底部片						灰色 内面磨耗	
B14	第280図	213	不明	片口鉢	底部片						灰色 砂粒含む	
VSE-001	第281図	214	南伊勢系	羽釜	口縁部1/4	(20.8)					罎下面スス付着 明黄褐色	
I SK-011	第281図	215	南伊勢系	羽釜	破片						明黄褐色	
I SX-016	第281図	216	在地系	手焙	口縁部片						外面櫛目	

第11表 中郷地区掲載陶磁器一覽表(8)

遺構番号	挿図	番号	種類	器種	遺存度	単位: cm (復元値)				[現存値]		備考
						口径	頸部径	胴最大径	底径	器高		
II SF-001	第281図	217	在地系	手焙り	口縁部~底部1/2残	(14.4)	-	-	(11.4)	4.0	外面渦巻き状文様	
I SE-019	第281図	218	在地系	内耳鍋	ほぼ完形	30.0	-	-	16.8	16.7	底面付近除き体部全体にスス	
IVSD-007	第281図	219	在地系	内耳鍋	破片						外面全体にスス付着	
IISD-005	第281図	220	在地系	内耳鍋	口縁部片						スス付着顕著	
VSE-001	第281図	221	在地系	内耳鍋	底部1/5	-	-	(14.0)	[6.0]		スス付着顕著	
ISK-001	第281図	222	在地系	カワラケ	ほぼ完形	9.7	-	-	6.0	2.6	底面回転糸切り痕	
ISD-049	第281図	223	在地系	カワラケ	4/5個体	(6.8)	-	-	5.0	1.5	底面回転糸切り痕	
ISD-049	第281図	224	在地系	カワラケ	2/3個体	6.7	-	-	4.5	1.5	底面回転糸切り痕	
B16	第281図	225	在地系	カワラケ	底部完形	-	-	-	4.5	[1.4]	底面回転糸切り痕	
ISE-001	第282図	226	唐津	皿	底部1/3	-	-	(5.0)	[2.5]		内面長石釉 鉄絵 胎土目積み	
ISD-020	第282図	227	唐津	大皿	底部1/4	-	-	-	-	-	内面長石釉 鉄絵 砂目積み	
IVSB-002	第282図	228	唐津	皿	底部1/3	-	-	(4.2)	[2.3]		高台周辺を除き長石釉 砂目積み	
F9	第282図	229	唐津	筒形碗	底部1/5	-	-	(10.2)	[4.1]		遺存部無釉	
F9	第282図	230	唐津	皿	底部1/2	-	-	(4.2)	[1.9]		透明釉に長石釉を刷毛塗り	
D11-69	第282図	231	志野	皿	口縁部片						多少オレレンジ色を帯びている	
VSE-007	第282図	232	志野	皿	全体1/5	(11.5)	-	-	-	[2.0]	鼠志野 高台内を除き長石釉	
IVSD-007	第282図	233	志野	皿	底部1/4	(11.4)	-	-	(6.8)	2.6	高台内を除き長石釉 鉄絵	
IVSE-005	第282図	234	志野	皿	口縁部片						高台内を除き長石釉 鉄絵	
VSE-007	第282図	235	志野	皿	底部1/4	(12.5)	-	-	(6.9)	2.1		
IVSD-007	第282図	236	瀬戸・美濃	丸碗	底部1/2	-	-	(5.0)	[4.0]		鉄釉	
IVSB-006	第282図	237	瀬戸・美濃	搦鉢	口縁部片						錆釉	
F11	第282図	238	瀬戸・美濃	搦鉢	口縁破片	-	-	-	-	-	錆釉	
ISD-022	第282図	239	瀬戸・美濃	搦鉢	口縁破片	-	-	-	-	-	錆釉	
VSK-002	第282図	240	瀬戸・美濃	搦鉢	体部~底部1/2	-	-	(10.0)	-	-	錆釉 内外面磨耗	
VSD-003	第282図	241	瀬戸・美濃	搦鉢	口縁部片						錆釉	
C17	第282図	242	瀬戸・美濃	搦鉢	口縁部片						錆釉	
VSE-007	第282図	243	瀬戸・美濃	搦鉢	1/4個体	(37.6)	-	-	(13.1)	15.1	錆釉	
D10-53	第283図	244	伊万里	皿	1/3個体	12.8	-	(7.6)	[3.6]		内面松竹梅 見込にコンニャク五弁花文	
ISD-001	第283図	245	伊万里	皿	1/3個体	13.2	-	(7.4)	[3.0]		内面矢羽根文様	
ISE-004	第283図	246	伊万里	碗	底部完形	-	-	-	4.8	[3.2]		
ISE-003	第283図	247	瀬戸・美濃	馬目大皿	1/4個体	(23.4)	-	(12.2)	5.8		高台周辺を除き長石釉 鉄絵	

第12表 中郷地区土錘・土製品観察表

遺構番号	挿図	番号	種 類	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重 量 (g)	孔径(mm)	備 考	
	D15-27	第118図	77	紡錘車	52.0	52.0	14.0	39.4	6.6	
I	SE-001	第118図	78	土錘	27.0	29.0	30.0	21.8		
	F12	第164図	119	転用硯	58.0	66.0	11.0	30.2		須恵器盤
IV	SE-006	第166図	1	土錘	52.0	18.0	18.0	12.1	6.2	
I	SB-010	第166図	2	土錘	49.0	16.0	16.0	9.8		
IV	SE-006	第166図	3	土錘	(43.0)	12.0	12.0	5.8	3.8	
II	SX-002	第166図	4	土錘	43.3	18.1	17.5	10.5	3.7	
II	SX-002	第166図	5	土製品	(28.5)	(42.0)	(10.0)	11.0	8.5	
V	SD-002	第166図	6	転用砥石	67.2	121.6	10.0	101.3		須恵器甕
V	SE-001	第166図	7	転用砥石	50.8	56.0	11.7	32.0		須恵器甕
	C5	第166図	8	瓦塔?	(51.5)	(23.0)	(9.0)	6.6		
I	SE-007	第166図	9	羽口	(79.0)	(88.5)	(52.0)	203.6		
I	SX-012	第166図	10	羽口	(64.0)	(52.5)	(33.0)	63.0		
I	SD-048	第166図	11	瓦	(53.5)	(74.0)	(19.5)	119.3		
	B12-38	第284図	1	土錘	52.0	22.0	(23.0)	12.3	8.3	
IV	SD-001	第284図	2	土錘	42.0	14.9	14.8	9.0	4.5	
I	SD-003B	第284図	3	土錘	35.0	10.0	10.0	2.7		
	C14	第284図	4	土錘	36.0	15.0	11.0	5.8	4.0	
II	SD-006	第284図	5	土製品?	復元底径 (42.0)	現存器高 (28.0)	-	32.8	14.0	
I	SX-002	第284図	6	転用硯	36.0	37.0	7.5	10.6		瀬戸・美濃
	C11-09	第284図	7	転用砥石	45.5	66.0	17.0	58.4		常滑片口鉢
II	SD-005	第284図	8	転用砥石	48.0	63.0	18.0	83.5		常滑甕
IV	SE-005	第284図	9	転用砥石	36.8	54.5	17.0	50.6		瀬戸・美濃搗鉢
I	SD-048	第284図	10	転用砥石	82.0	59.0	9.0	65.7		瀬戸・美濃搗鉢
I	SX-002	第284図	11	羽口	(42.5)	(39.0)	(22.0)	20.0		
I	SE-018	第284図	12	羽口	(160.0)	(89.0)	94.0	1157.0		
I	SE-017	第284図	13	瓦	(98.0)	(102.0)	(20.0)	228.8		

第13表 中郷地区石器・石製品観察表

遺構番号	挿図	番号	種類	石材	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	孔径 (mm)		備考
									縦	横	
	C13-18	第119図	1 磨製石斧	珪質凝灰岩	75.0	35.0	13.0	57.00			
I	SI-001	第119図	2 扁平片刃石斧	閃緑岩	108.5	52.5	18.0	233.87			斑れい岩の可能性あり
I	SD-003	第119図	3 柱状片刃石斧の未製品	砂岩	87.8	26.0	24.3	94.80			
I	SD-002	第119図	4 石皿	流紋岩	55.0	58.0	29.0	90.40			
	D15-49	第119図	5 磨石類	砂岩	63.0	53.0	24.0	104.00			
I	SD-004	第119図	6 敲石類	砂岩	124.0	76.0	48.0	703.30			
I	SX-002	第119図	7 台石	チャート	72.5	70.5	54.0	386.20			
I	SX-002	第119図	8 磨石類	砂岩	101.5	60.5	19.0	148.50			
I	SD-003B	第119図	9 磨石類	流紋岩	84.0	58.0	36.0	219.50			
	D15-86	第119図	10 磨石類	砂岩	87.5	70.5	30.0	253.90			
I	SI-002	第119図	11 磨石類	砂岩	67.0	62.0	24.5	145.60			
I	SE-019	第119図	12 玉砥石	凝灰岩	116.0	46.5	53.0	260.40			被熱, タール状のものが付着
	D15-77	第119図	13 砥石	砂岩	75.0	48.0	14.0	68.90			
I	SX-011	第119図	14 砥石	砂岩	68.5	41.0	34.5	155.30			
	D15-16	第119図	15 砥石	砂岩	51.0	49.0	15.0	60.80			
I	SD-002	第119図	16 砥石	凝灰岩	56.5	40.0	21.0	64.80			
	D15-44	第120図	17 紡錘車	凝灰岩	40.0	40.0	10.0	19.10	3.3	3.4	
I	SX-011	第120図	18 紡錘車	滑石	(32.0)	(22.0)	21.0	25.60	9.0	-	最大長(上面), 最大幅(下面)
I	SI-002	第120図	19 勾玉	滑石	26.0	16.0	10.0	5.90	4.0	4.5	
	D17	第120図	20 勾玉	翡翠?	15.0	14.5	9.0	2.00	4.0	4.0	被熱?
	C15-43	第120図	21 剣形石製模造品?	粘板岩	42.0	22.0	6.0	8.10	5.3	4.5	
	D11-86	第120図	22 石製品	滑石	18.5	16.0	3.5	1.80	1.5	1.7	
	D10-88	第120図	23 白玉	ガラス	5.0	5.0	3.0	0.08	2.0	2.5	
I	SD-023	第285図	1 砥石	凝灰岩	59.0	30.0	22.0	50.80			
I	SD-003	第285図	2 砥石	凝灰岩	43.0	26.5	19.5	33.40			
V	SD-009	第285図	3 砥石	凝灰岩	40.0	31.0	15.0	29.40			
I	SB-020	第285図	4 砥石	凝灰岩	44.0	44.0	19.0	43.95			
I	SX-016	第285図	5 砥石	凝灰岩	34.0	49.0	14.0	24.30			
I	SD-035	第285図	6 砥石	凝灰岩	71.0	33.5	34.0	68.50			
IV	SB-005	第285図	7 砥石	凝灰岩	89.0	37.0	22.0	82.30			一部、被熱
	D10-15	第285図	8 砥石	凝灰岩	126.5	38.5	31.0	134.40			
	D11-45	第285図	9 砥石	凝灰岩	93.5	42.0	33.5	113.80			
	F11	第285図	10 砥石	粘板岩	89.0	42.0	17.0	75.00			
	D10-99	第285図	11 砥石	凝灰岩	30.0	25.0	9.5	8.37			
I	SD-048	第285図	12 砥石	粘板岩?	46.0	30.0	16.0	22.30			硯の再利用か?
	D10-89	第285図	13 砥石	凝灰岩	27.5	74.0	21.0	50.30			
I	SE-019	第285図	14 不明	安山岩	62.0	68.0	59.0	359.00			SD-004 21と同一個体?
I	SD-004	第285図	15 不明	安山岩	117.0	107.0	106.0	1546.60			後に砥石として再利用している可能性あり
II	SD-005	第285図	16 不明石製品	凝灰岩	116.0	128.5	24.0	320.70	8.0	8.5	
II	SD-006	第286図	17 硯	粘板岩	85.0	74.0	14.5	146.50			
I	SD-043	第286図	18 温石	滑石	88.0	54.0	22.0	107.80			二次的加工痕(磨き?)が見られる
I	SD-003B	第286図	19 硯	粘板岩	(51.0)	90.5	(10.0)	48.70			
V	SD-009	第286図	20 石鉢?	安山岩	口径 (392.0)	器高 (106.0)	27.6	576.50			

第14表 中郷地区銭貨計測表

遺構番号	挿 図	番号	銭種	書体	外縁外径(mm)		外縁内径(mm)		内郭外径(mm)		内郭内径(mm)		外縁厚 (mm)	内面厚 (mm)	量目 (g)	初鑄年	備 考
					縦	横	縦	横	縦	横	縦	横					
D10-41	第291図	1	祥符通寶	楷書体	24.5	24.5	20.0		7.0	6.0			1.1	0.8	(1.2)	1008	
F8	第291図	2	祥符通寶	楷書体	23.1	23.2	19.2	19.5	7.8	7.3	6.7	6.4	1.3	0.7	1.5	1008	
I SE-019	第291図	3	皇宋通寶	楷書体	24.8	25.1	21.0	21.0	9.0	8.5	7.0	7.0	1.2	0.8	2.8	1038	
D10-41	第291図	4	嘉祐元寶	楷書体	23.8	23.8	18.5	19.0	6.0	4.5	6.0	4.5	1.1	0.8	2.2	1056	
I SE-019	第291図	5	熙寧元寶	楷書体	23.6	23.8	19.0	19.0	8.5	8.5	6.5	6.5	1.5	1.3	3.7	1068	
I SD-048	第291図	6	元豊通寶	行書体	23.7	23.5	18.5	18.0	7.5	7.5	6.5	6.5	1.3	0.9	2.8	1078	
F1	第291図	7	元祐通寶	行書体	23.4	23.8	19.0	19.5	8.0	8.0	7.0	7.0	1.3	0.7	2.4	1086	
I SE-019	第291図	8	紹聖元寶	行書体	23.5	23.8	19.0	18.5	18.5	19.0	6.5	6.5	1.3	0.8	2.8	1094	
E8	第291図	9	元符通寶	篆書体	23.2	23.1	19.0	19.0	8.5	8.0	6.5	6.5	1.0	0.7	1.5	1098	
D10-41	第291図	10	洪武通寶		25.0	20.5	24.5	20.5	6.5	5.5	7.0	6.0	1.1	0.7	1.5	1368	3つに割れている
I SE-019	第291図	11	洪武通寶	楷書体	22.8	22.8	19.0	19.0	7.0	7.5	6.0	6.0	1.6	0.9	3.1	1368	
I SE-019	第291図	12	永樂通寶	楷書体	24.9	24.9	21.5	21.5	7.0	7.0	6.0	5.5	1.3	0.8	2.3	1408	
I SE-019	第292図	13	永樂通寶	楷書体	23.6	23.5	21.5	21.0	6.5	6.5	6.0	6.0	1.2	0.8	1.8	1408	
VSB-012	第292図	14	寛永通寶		24.8	24.6	20.0	20.0	7.5	7.5	6.0	5.5	1.4	0.9	2.9		古寛永
I SD-023	第292図	15	寛永通寶		24.5	(19.0)	20.0	(15.5)	8.0	7.5	6.5	6.0	1.1	0.5	(1.2)		古寛永 下部欠損 2つに割れている
VSD-005	第292図	16	寛永通寶		24.5	24.5	20.5	20.0	8.0	(6.0)	7.5	6.0	1.1	0.6	(1.9)		古寛永
D10-11	第292図	17	寛永通寶		(8.0)	24.5	(6.0)	20.5		8.0		7.0	1.3	0.8	0.8		古寛永
I SD-021	第292図	18	寛永通寶		23.0	22.9	18.2	18.0	7.8	7.5	6.8	6.4	0.9	0.5	1.7		新寛永 背面「足」の 文字がある
I SD-046	第292図	19	寛永通寶		23.5	(22.5)	21.0	(20.0)	8.0	6.5	8.0	7.0	1.1	0.7	(1.3)		銭文不明瞭 3つに 割れている
II SD-005	第292図	20	寛永通寶		22.4	22.4	18.5	18.0	(8.0)	(8.0)	7.5	7.0	(0.9)	(0.7)	(1.4)		銭文不明瞭
D10-41	第292図	21	□□元寶	楷書体	24.1	24.0	21.0	20.0	7.0	6.0	7.0	5.5	1.3	1.2	2.6		銭文不明瞭
D9-93	第292図	22	寛永通寶		2.3	2.3	1.9	1.9	7.0	6.0	7.0	(6.0)	1.2	0.9	2.7		銭文不明瞭

第15表 中郷地区木製品観察表

挿 図	番号	遺構番号	器種・分類			法量 (cm)			樹 種
			大項目	中項目	部 位	長さ	幅(径)	高さ	
第287図	1	I SX-002	用途不明品			23.0	10.6	0.8	
第287図	2	IVSE-001	曲物		側板	9.5	11.0	0.6	ヒノキ
第287図	2	IVSE-001	曲物		底板	10.7	10.8	0.7	
第287図	3	I SX-002	用途不明品			21.7	11.3	0.6	
第287図	4	IVSE-001	器	曲物	底板	9.8	10.9	0.4	
第287図	5	IVSE-004	用途不明品			10.5	9.9	0.4	
第288図	6	VSE-001	器	椀		32.0	4.8	0.8	ブナ属
第288図	7	IVSE-004	漆器	椀		4.5	3.6	0.9	スダジイ
第288図	8	IVSE-001	漆器	椀	口縁部	2.8	4.7	0.3	
第288図	9	IVSE-001	器	木包丁		24.9	5.5	0.7	
第288図	10	VSE-001			羽子板	32.0	4.8	0.8	
第288図	11	VSE-001	自在鍵			13.5	5.0	0.8	
第288図	12	I SX-002	用途不明品			52.3	2.0	0.4	

第16表 中郷地区陶磁器遺構別組成表(破片数・重量)(1)

遺構番号	質 陶 磁						瀬 戸 ・ 美 濃										常 滑				備 前			南伊勢系 羽釜	極美	その他	合 計			
	白磁		青磁		染付		灰 和			鉄 釉			天目茶碗		鉄釉磁鉢		その他		片口鉢		壺・甕		片口鉢					壺・甕	壺・甕	壺・甕
	皿	その他	碗	その他	皿	大皿類	壺	碗	その他	皿	鉄釉	皿	鉄釉磁石	鉄釉磁石	鉄釉磁石	鉄釉磁石	鉄釉磁石	鉄釉磁石	鉄釉磁石	鉄釉磁石	鉄釉磁石	鉄釉磁石								
	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数					重量	破片数	重量
I SB-015B		1																									1			
			61.6																								61.6			
I SB-020																											4			
																											49.7			
I SD-001																											50			
																											伊万里 1			
																											62.8			
																											4,026.4			
I SD-002																											17			
																											580.3			
I SD-003																											24			
																											503.2			
I SD-003B																											5			
																											172.4			
I SD-004																											8			
																											288.9			
I SD-007																											1			
																											74.7			
I SD-012																											1			
																											6.2			
I SD-013																											1			
																											55.2			
I SD-018																											2			
																											21.1			
I SD-020																											1			
																											唐津1			
																											49.1			
I SD-021																											18			
																											484.4			
																											278.2			
																											30.2			
																											29.9			
																											27.4			
																											21.8			
																											12.9			
																											84.0			























第17表 中郷地区出土鉄滓計測表(1)

地区	遺構種別	遺構番号	詳細	遺物番号	滓種別	長軸	短軸	厚み	重量	地区	遺構種別	遺構番号	詳細	遺物番号	滓種別	長軸	短軸	厚み	重量
I	SB	001	P1	007	含鉄炉内滓	37.16	17.14	21.91	17.53	I	SB	004	P15	014	含鉄鉄滓	28.47	19.35	17.31	9.30
I	SB	001	P6	008	含鉄炉内滓	66.92	26.75	37.52	71.22	I	SB	004	P15	014	含鉄鉄滓	29.85	28.33	23.14	13.54
I	SB	004	P5	005	含鉄炉内滓	81.08	52.99	45.99	222.16	I	SB	004	P15	014	椀型滓	23.87	23.04	16.99	7.31
I	SB	004	P12	011	含鉄炉内滓	57.79	52.45	35.47	81.72	I	SB	004	P16	015	椀型滓	27.78	21.66	19.45	12.33
I	SB	004	P12	011	含鉄炉内滓	39.25	25.07	40.17	36.88	I	SB	004	P16	015	椀型滓	24.44	19.65	12.69	6.15
I	SB	004	P12	011	含鉄炉内滓	25.91	17.75	23.53	5.58	I	SB	005	P6	006	鉄塊系遺物	35.50	32.73	30.63	37.58
I	SB	004	P12	011	鉄塊系遺物	26.89	19.3	19.11	11.50	I	SB	010	P25	024	椀型滓	71.66	56.35	50.89	214.89
I	SB	004	P12	011	鉄塊系遺物	20.54	17.57	16.55	3.42	I	SB	018		004	含鉄鉄滓	20.59	11.32	7.08	1.74
I	SB	004	P13	012	含鉄炉内滓	54.87	30.35	28.73	53.49	I	SD	002			鉄塊系遺物	40.08	36.45	28.52	201.01
I	SB	004	P13	012	含鉄炉内滓	51.8	38.53	31.96	54.49	I	SD	002			椀型滓	92.33	52.00	39.77	45.42
I	SB	004	P13	012	含鉄炉内滓	57.3	50.91	54.66	6.89	I	SD	002			椀型滓	33.25	22.81	19.63	15.92
I	SB	004	P13	012	含鉄炉内滓	52.27	49.45	33.78	71.22	I	SD	002			椀型滓	24.44	19.65	12.69	11.30
I	SB	004	P13	012	含鉄炉内滓	39.88	22.45	27.01	21.22	I	SD	002			含鉄炉内滓	27.52	20.18	15.24	7.19
I	SB	004	P13	012	含鉄炉内滓	33.69	27.64	26.33	19.88	I	SD	002			含鉄鉄滓	24.16	16.69	9.06	3.22
I	SB	004	P13	012	含鉄炉内滓	40.29	32.42	25.71	23.90	I	SD	002		001	椀型滓	34.92	24.09	20.95	23.39
I	SB	004	P13	012	含鉄炉内滓	34.48	25.96	22.1	25.73	I	SD	002		001	鉄塊系遺物	30.54	25.79	21.16	24.21
I	SB	004	P13	012	含鉄炉内滓	34.99	29.96	22.66	18.92	I	SD	002		016	再結合滓	59.42	40.73	30.56	56.15
I	SB	004	P13	012	含鉄炉内滓	35.38	25.4	14.88	13.24	I	SD	003		002	鉄塊系遺物	29.01	26.25	11.01	6.92
I	SB	004	P13	012	鉄塊系遺物	24.71	22.37	20.61	7.93	I	SD	003		002	鉄塊系遺物	22.53	14.19	11.55	7.70
I	SB	004	P13	012	鉄塊系遺物	28.27	27.83	25.71	11.27	I	SD	003		002	椀型滓	44.11	34.23	25.93	48.65
I	SB	004	P13	012	含鉄炉内滓	31.69	32.39	21.43	9.63	I	SD	003		002	椀型滓	40.47	31.13	17.66	38.27
I	SB	004	P13	012	椀型滓	29.26	24.68	21.28	18.37	I	SD	003		002	含鉄炉内滓	63.35	42.58	20.00	60.18
I	SB	004	P13	012	含鉄鉄滓	30.07	24.57	20.54	19.97	I	SD	003		002	含鉄炉内滓	43.67	22.88	22.64	32.64
I	SB	004	P13	012	含鉄炉内滓	24.99	24.60	18.42	8.85	I	SD	003		002	含鉄炉内滓	43.74	29.10	18.47	28.18
I	SB	004	P13	012	含鉄炉内滓	24.89	14.42	18.79	5.12	I	SD	003		002	含鉄炉内滓	35.51	27.11	18.75	20.69
I	SB	004	P13	012	含鉄炉内滓	25.88	19.70	17.42	6.53	I	SD	003		002	含鉄鉄滓	45.42	28.44	26.33	29.77
I	SB	004	P13	012	含鉄炉内滓	27.29	21.76	14.13	4.73	I	SD	003		002	含鉄鉄滓	23.05	18.05	15.50	5.55
I	SB	004	P13	012	含鉄炉内滓	22.90	15.97	16.87	4.42	I	SD	003		001	椀型滓	58.64	43.35	21.86	66.19
I	SB	004	P13	012	椀型滓	17.76	14.27	10.52	3.73	I	SD	003		001	椀型滓	51.83	35.14	26.03	50.40
I	SB	004	P13	012	含鉄炉内滓	20.66	15.32	10.80	2.21	I	SD	003		001	椀型滓	32.23	23.29	20.38	19.86
I	SB	004	P13	012	含鉄炉内滓	17.43	15.94	11.94	2.22	I	SD	003		001	鉄塊系遺物	26.05	18.03	16.65	8.06
I	SB	004	P13	012	含鉄炉内滓	16.18	12.70	7.15	1.75	I	SD	003		001	鉄塊系遺物	27.08	13.87	10.27	4.23
I	SB	004	P13	012	含鉄鉄滓	14.11	9.59	8.22	1.07	I	SD	003		001	鉄塊系遺物	21.57	18.30	15.24	4.49
I	SB	004	P13	012	含鉄炉内滓	11.29	9.92	6.51	0.48	I	SD	003		001	含鉄炉内滓	43.17	30.82	25.19	15.81
I	SB	004	P13	012	含鉄炉内滓	7.16	6.58	5.17	0.20	I	SD	003		001	含鉄鉄滓	16.72	15.66	9.55	2.80
I	SB	004	P14	013	再結合滓	39.15	37.41	17.08	25.03	I	SD	004		001	鉄塊系遺物	40.38	41.75	20.70	38.33
I	SB	004	P14	013	再結合滓	39.20	25.98	24.79	21.72	I	SD	004		001	椀型滓	76.86	53.89	48.43	206.13
I	SB	004	P14	013	再結合滓	33.89	25.25	19.24	12.68	I	SD	004		001	椀型滓	57.14	43.34	30.52	80.08
I	SB	004	P14	013	含鉄鉄滓	29.00	23.16	20.46	11.41	I	SD	004		001	含鉄炉内滓	69.22	57.25	30.70	105.82
I	SB	004	P14	013	含鉄鉄滓	60.03	42.43	36.04	103.77	I	SD	004		001	鉄塊系遺物	45.15	34.24	28.4	27.91
I	SB	004	P14	013	含鉄鉄滓	23.15	21.69	22.32	11.60	I	SD	004		001	椀型滓	60.92	49.30	30.26	98.11
I	SB	004	P14	013	含鉄鉄滓	27.68	25.61	23.83	25.26	I	SD	004		001	椀型滓	58.82	41.61	36.03	130.94
I	SB	004	P14	013	含鉄鉄滓	14.57	14.22	10.90	2.15	I	SD	004		001	含鉄炉内滓	83.52	46.91	26.41	34.05
I	SB	004	P14	013	含鉄鉄滓	10.14	8.40	7.56	0.54	I	SD	004		001	鉄塊系遺物	30.85	27.75	16.88	19.40
I	SB	004	P15	014	椀型滓	51.76	39.99	31.77	93.34	I	SD	004		001	含鉄炉内滓	40.29	32.68	15.23	15.04
I	SB	004	P15	014	鉄塊系遺物	97.37	67.40	37.48	225.39	I	SD	004		001	再結合滓	37.00	35.70	25.79	24.93
I	SB	004	P15	014	椀型滓	43.63	28.37	25.52	35.19	I	SD	004		001	含鉄炉内滓	39.53	34.43	20.77	30.43
I	SB	004	P15	014	含鉄鉄滓	41.79	34.18	14.51	20.03	I	SD	004		001	鉄塊系遺物	25.37	23.49	17.81	12.48
I	SB	004	P15	014	含鉄鉄滓	34.19	25.12	17.85	10.49	I	SD	004		013	椀型滓	83.61	58.81	32.56	175.54
I	SB	004	P15	014	含鉄鉄滓	24.90	21.95	16.00	9.18	I	SD	004		017	含鉄炉内滓	41.49	26.97	20.34	81.87
I	SB	004	P15	014	椀型滓	33.65	25.66	16.51	10.68	I	SD	007		001	含鉄鉄滓	32.26	26.17	20.81	17.29
I	SB	004	P15	014	含鉄鉄滓	25.54	22.37	17.01	6.00	I	SD	007		006	椀型滓	77.00	65.72	46.16	201.93

第17表 中郷地区出土鉄滓計測表(2)

地区	遺構種別	遺構番号	詳細	遺物番号	滓種別	長軸	短軸	厚み	重量	地区	遺構種別	遺構番号	詳細	遺物番号	滓種別	長軸	短軸	厚み	重量
I	SD	009		001	鉄塊系遺物	67.23	54.10	24.97	83.90	I	SD	046		002	鉄塊系遺物	65.85	58.02	45.51	197.97
I	SD	012		001	椀型滓	46.85	34.01	27.99	49.59	I	SD	046		002	流動滓	66.34	59.32	24.80	171.90
I	SD	012		002	鉄塊系遺物	35.52	34.74	18.23	31.58	I	SD	046		002	椀型滓	47.47	38.71	41.65	83.29
I	SD	021		002	椀型滓	64.61	51.87	43.32	147.45	I	SD	046		002	流動滓	65.80	48.73	41.53	138.90
I	SD	021		001	鉄塊系遺物	41.15	39.08	21.09	70.01	I	SD	046		002	鉄塊系遺物	72.42	45.66	40.67	140.15
I	SD	021		002	椀型滓	43.73	36.69	25.92	52.32	I	SD	046		002	椀型滓	62.36	41.55	27.66	83.98
I	SD	022		001	椀型滓	29.15	25.97	23.99	28.18	I	SD	046		002	椀型滓	55.92	40.80	35.38	103.72
I	SD	022		001	含鉄炉内滓	31.89	24.80	11.05	13.60	I	SD	046		002	椀型滓	60.64	46.15	34.93	143.88
I	SD	023		002	鉄塊系遺物	59.38	53.02	31.41	92.94	I	SD	046		002	椀型滓	68.24	31.83	37.06	82.32
I	SD	023		003	含鉄炉内滓	23.56	23.13	22.16	14.32	I	SD	046		002	椀型滓	52.25	37.39	34.01	85.06
I	SD	024		001	鉄塊系遺物	50.21	18.70	14.18	26.13	I	SD	046		002	椀型滓	53.16	43.21	35.11	113.66
I	SD	038		001	含鉄炉内滓	25.89	18.45	16.04	8.70	I	SD	046		002	椀型滓	52.76	38.65	27.22	72.03
I	SD	041		001	椀型滓	53.91	50.62	30.07	112.38	I	SD	046		002	椀型滓	50.29	43.05	27.78	82.05
I	SD	041		001	椀型滓	48.34	46.02	37.51	64.00	I	SD	046		002	流動滓	46.02	42.43	26.14	72.68
I	SD	041		001	含鉄炉内滓	46.44	44.18	32.97	59.01	I	SD	046		002	椀型滓	60.06	39.85	33.75	102.99
I	SD	041		001	鉄塊系遺物	58.27	48.08	23.63	51.82	I	SD	046		002	含鉄炉内滓	46.60	45.54	24.52	66.17
I	SD	041		001	椀型滓	40.29	37.05	36.10	49.64	I	SD	046		002	椀型滓	54.02	42.12	24.53	43.03
I	SD	041		001	含鉄炉内滓	31.90	26.62	14.26	12.29	I	SD	046		002	椀型滓	50.86	34.02	37.52	81.52
I	SD	041		001	含鉄炉内滓	49.88	33.84	23.97	32.69	I	SD	046		002	椀型滓	44.58	39.66	25.28	61.32
I	SD	041		001	鉄塊系遺物	28.50	25.33	25.19	21.19	I	SD	046		002	椀型滓	61.93	45.59	32.98	83.47
I	SD	041		001	鉄塊系遺物	27.19	20.65	18.92	8.31	I	SD	046		002	鉄塊系遺物	40.57	37.98	25.82	51.64
I	SD	041		001	鉄塊系遺物	31.38	18.75	11.22	9.19	I	SD	046		002	椀型滓	34.84	34.63	35.69	53.35
I	SD	041		001	鉄塊系遺物	27.10	16.51	12.92	4.20	I	SD	046		002	鉄塊系遺物	39.87	33.83	27.08	59.68
I	SD	042		001	椀型滓	69.51	65.37	32.96	198.35	I	SD	046		002	椀型滓	38.50	36.43	28.43	37.78
I	SD	042		001	流動滓	79.78	73.84	23.23	169.60	I	SD	046		002	椀型滓	34.93	34.21	23.69	32.68
I	SD	042		001	流動滓	90.20	66.23	36.95	312.16	I	SD	046		002	含鉄炉内滓	57.28	36.57	30.03	50.96
I	SD	042		001	流動滓	68.31	58.31	20.73	116.47	I	SD	046		002	椀型滓	39.21	35.63	23.71	43.46
I	SD	042		001	流動滓	59.03	41.20	34.46	121.42	I	SD	046		002	含鉄炉内滓	38.32	34.80	16.53	19.35
I	SD	042		001	流出口滓	77.57	53.92	28.26	112.96	I	SD	046		002	含鉄炉内滓	35.41	31.06	23.46	17.47
I	SD	042		001	椀型滓	45.58	41.09	32.40	93.61	I	SD	046		002	鉄塊系遺物	41.38	25.80	23.64	36.13
I	SD	042		001	鉄塊系遺物	41.53	37.87	29.27	39.30	I	SD	046		002	鉄塊系遺物	27.26	24.11	18.07	17.35
I	SD	042		001	鉄塊系遺物	52.00	38.75	25.30	63.35	I	SD	046		002	鉄塊系遺物	20.83	15.08	11.93	2.16
I	SD	042		001	椀型滓	45.05	36.68	30.70	59.90	I	SD	046		002	鉄塊系遺物	22.44	21.59	16.26	3.20
I	SD	042		001	鉄塊系遺物	47.90	35.52	23.58	21.43	I	SD	047		002	含鉄炉内滓	52.49	42.54	24.40	70.94
I	SD	042		001	鉄塊系遺物	32.27	28.46	25.17	24.56	I	SD	047		002	含鉄炉内滓	53.68	39.34	29.35	47.97
I	SD	042		001	流動滓	34.85	19.45	15.87	17.75	I	SD	047		002	含鉄炉内滓	44.38	36.82	24.60	46.67
I	SD	042		001	含鉄炉内滓	37.14	13.67	19.31	12.24	I	SD	047		002	椀型滓	36.30	33.97	30.15	55.10
I	SD	042		002	椀型滓	68.22	50.68	32.81	140.52	I	SD	048		002	椀型滓	58.34	30.41	36.57	94.91
I	SD	042		002	鉄塊系遺物	60.73	42.33	34.89	100.84	I	SD	048		002	椀型滓	39.05	35.39	19.01	38.61
I	SD	043			鉄塊系遺物	67.78	34.38	30.15	52.36	I	SE	008			椀型滓	44.76	37.08	32.32	68.44
I	SD	043			含鉄炉内滓	57.85	40.86	32.08	62.12	I	SE	013		001	椀型滓	36.14	33.65	29.40	38.34
I	SD	043			椀型滓	42.36	37.06	29.78	41.62	I	SE	013		001	椀型滓	35.08	30.76	18.55	28.66
I	SD	043			含鉄炉内滓	36.30	34.86	17.43	21.27	I	SE	013		001	鉄塊系遺物	17.37	16.33	13.53	4.84
I	SD	043		002	椀型滓	33.10	27.59	24.24	27.74	I	SE	017		001	含鉄鉄滓	22.85	18.79	16.27	10.43
I	SD	043			椀型滓	27.39	21.87	21.55	14.18	I	SE	018		001	鉄塊系遺物	64.20	56.69	51.82	187.59
I	SD	043			含鉄鉄滓	29.61	26.70	17.47	11.96	I	SE	018		001	椀型滓	38.80	32.55	28.00	37.12
I	SD	045			椀型滓	68.35	53.27	37.61	169.87	I	SE	018		004	椀型滓	82.93	55.55	55.05	270.81
I	SD	046		001	椀型滓	74.96	57.23	47.99	257.32	I	SE	018		004	含鉄炉内滓	77.23	63.10	29.82	132.69
I	SD	046		002	椀型滓	67.85	65.13	40.58	197.25	I	SE	018		004	椀型滓	47.07	43.08	30.61	89.03
I	SD	046		002	流動滓	124.39	91.25	35.17	464.97	I	SE	019		001	椀型滓	57.51	42.66	29.59	96.58
I	SD	046		002	鉄塊系遺物	65.36	45.15	44.29	161.89	I	SE	019		003	椀型滓	58.52	49.92	34.52	100.88
I	SD	046		002	椀型滓	56.96	56.69	34.80	191.54	I	SE	019		003	椀型滓	63.59	48.89	33.44	127.67
I	SD	046		002	流動滓	50.75	48.94	35.86	103.13	I	SE	019		003	含鉄鉄滓	57.68	43.15	25.21	71.87

第17表 中郷地区出土鉄滓計測表(3)

地区	遺構種別	遺構番号	詳細	遺物番号	滓種別	長軸	短軸	厚み	重量	地区	遺構種別	遺構番号	詳細	遺物番号	滓種別	長軸	短軸	厚み	重量
I	SE	019		003	椀型滓	39.60	32.15	27.14	35.53	I	SX	011			含鉄鉄滓	23.52	20.97	8.16	6.30
I	SE	019		004	椀型滓	57.91	47.90	42.44	195.28	I	SX	011			含鉄鉄滓	17.47	14.86	10.05	3.83
I	SE	019		004	椀型滓	73.24	71.75	39.18	222.28	I	SX	011			鉄塊系遺物	20.29	13.67	13.06	3.49
I	SE	019		004	含鉄炉内滓	56.90	44.03	25.19	64.29	I	SX	011			鉄塊系遺物	35.79	22.96	16.25	19.18
I	SE	019		004	鉄塊系遺物	56.41	43.37	30.76	64.15	I	SX	011			鉄塊系遺物	69.26	49.37	15.78	131.35
I	SE	019		004	含鉄炉内滓	51.41	42.46	28.59	60.00	I	SX	012			鉄塊系遺物	42.16	34.18	28.79	62.01
I	SE	019		005	椀型滓	70.41	69.32	41.44	191.59	I	SX	012			鉄塊系遺物	43.49	29.53	25.15	31.64
I	SE	019		005	含鉄炉内滓	58.98	37.33	24.85	55.90	I	SX	012			含鉄鉄滓	46.54	23.53	16.73	18.31
I	SE	019		005	含鉄炉内滓	56.41	43.10	19.68	56.37	I	SX	012			含鉄炉内滓	87.20	63.97	29.48	189.21
I	SE	019		005	椀型滓	43.03	34.38	30.36	53.66	I	SX	012			鉄塊系遺物	39.83	31.52	28.72	30.82
I	SE	021		001	椀型滓	46.56	32.95	32.90	52.97	I	SX	012			鉄塊系遺物	37.48	35.45	23.23	31.30
I	SE	023			椀型滓	58.37	35.15	28.15	74.65	I	SX	014			椀型滓	79.06	73.87	30.35	199.58
I	SI	001		001	鉄塊系遺物	26.84	23.59	21.92	19.42	I	SX	014			再結合滓	19.92	18.73	10.66	5.35
I	SI	001		016	鉄塊系遺物	23.67	18.35	11.61	5.25	I	SX	014			鉄塊系遺物	30.50	17.02	9.80	4.96
I	SK	017		001	含鉄鉄滓	26.42	21.92	20.27	10.09	II	SE	006		001	含鉄炉内滓	70.62	54.83	30.66	111.59
I	SK	018		001	鉄塊系遺物	34.49	28.11	26.64	16.69	II	SP	002		001	鉄塊系遺物	26.85	23.75	23.45	17.19
I	SK	018		001	鉄塊系遺物	35.66	30.24	17.56	16.07	II	SX	002		001	含鉄炉内滓	49.20	32.13	33.05	40.53
I	SK	020		002	鉄塊系遺物	21.80	15.52	15.58	5.70	II	SX	002		001	含鉄炉内滓	53.14	37.93	17.20	37.53
I	SK	020		002	含鉄鉄滓	23.59	15.51	14.63	6.83	II	SX	002		001	含鉄炉内滓	31.64	18.80	21.02	8.86
I	SP	039		001	含鉄炉内滓	24.99	20.94	20.95	9.70	II	SX	002		001	鉄塊系遺物	49.05	42.65	36.91	85.02
I	SX	003		001	鉄塊系遺物	35.44	30.76	18.21	29.03	III	SD	001		001	含鉄鉄滓	38.66	32.05	19.56	23.63
I	SX	004		001	鉄塊系遺物	21.31	15.45	14.29	6.40	III	SD	001		001	含鉄鉄滓	49.37	31.54	24.06	27.26
I	SX	006		001	椀型滓	73.35	47.75	43.61	168.17	III	SD	001		001	椀型滓	35.98	36.50	22.67	26.25
I	SX	011		001	椀型滓	50.42	40.00	28.58	51.37	III	SD	001		001	椀型滓	43.56	29.68	24.38	29.97
I	SX	011		004	含鉄炉内滓	68.19	61.41	22.07	104.86	III	SD	001		001	含鉄鉄滓	44.47	39.33	27.89	41.46
I	SX	011		004	含鉄炉内滓	28.56	18.45	14.74	6.92	III	SD	001		001	含鉄鉄滓	36.39	25.71	22.08	18.56
I	SX	011		004	鉄塊系遺物	22.00	16.92	11.44	6.59	III	SD	001		001	含鉄鉄滓	32.88	22.23	20.62	13.98
I	SX	011		004	鉄塊系遺物	16.45	11.27	10.42	3.28	III	SX	001		001	椀型滓	34.64	27.00	26.62	34.25
I	SX	011		008	流出口滓	50.30	35.81	34.47	62.08	III	SX	001		002	鉄塊系遺物	57.50	44.48	35.38	103.44
I	SX	011		008	含鉄鉄滓	42.36	24.00	21.38	15.36	III	SX	001		002	鉄塊系遺物	45.01	29.74	28.07	35.73
I	SX	011		008	含鉄鉄滓	30.76	20.17	15.85	5.19	IV	SB	005		004	椀型滓	38.27	23.29	21.76	29.81
I	SX	011		008	含鉄鉄滓	23.71	16.86	11.91	6.83	IV	SB	005		001	椀型滓	27.64	19.17	12.97	5.19
I	SX	011		008	含鉄鉄滓	20.60	14.84	7.65	1.58	IV	SB	006	P1	001	鉄塊系遺物	21.17	12.36	12.03	4.63
I	SX	011		006	鉄塊系遺物	35.61	21.65	17.78	11.42	IV	SD	005		001	椀型滓	61.87	51.70	52.48	145.91
I	SX	011		006	鉄塊系遺物	31.97	21.35	21.00	17.23	IV	SD	007		014	椀型滓	47.29	35.07	25.44	46.67
I	SX	011		006	含鉄炉内滓	28.14	22.94	12.66	6.06	IV	SD	007		017	椀型滓	71.30	41.02	36.74	119.20
I	SX	011		011	含鉄炉内滓	58.77	55.32	15.22	52.34	IV	SD	007		017	椀型滓	74.87	48.47	39.45	205.16
I	SX	011		011	流動滓	93.87	51.67	30.80	166.74	IV	SE	005		001	椀型滓	65.75	59.09	32.25	159.87
I	SX	011		011	鉄塊系遺物	48.49	41.66	25.52	48.34	IV	SE	005		001	椀型滓	62.89	46.49	33.87	109.74
I	SX	011		011	含鉄炉内滓	44.83	39.45	16.86	38.18	IV	SE	005		001	椀型滓	43.42	38.35	24.50	44.32
I	SX	011		011	含鉄炉内滓	41.65	35.27	26.44	33.36	IV	SE	005		001	椀型滓	39.35	28.58	26.60	30.62
I	SX	011		011	含鉄炉内滓	46.51	29.42	19.62	28.47	IV	SE	005		001	椀型滓	36.75	35.67	24.00	38.99
I	SX	011		011	含鉄炉内滓	35.37	34.56	15.28	24.61	IV	SE	005		001	椀型滓	34.86	28.63	23.25	22.88
I	SX	011		011	含鉄炉内滓	39.95	37.59	17.57	21.41	IV	SE	005		001	椀型滓	38.11	30.19	20.23	26.39
I	SX	011		011	含鉄炉内滓	37.30	32.56	18.79	13.83	IV	SE	005		001	椀型滓	30.13	28.75	24.61	19.72
I	SX	011		011	含鉄炉内滓	35.82	25.67	16.20	18.20	V	SB	004	P16		椀型滓	41.29	38.12	25.69	78.77
I	SX	011		011	鉄塊系遺物	34.01	29.07	20.96	18.27	V	SB	009	P7		鉄塊系遺物	28.40	23.71	27.20	26.73
I	SX	011		011	含鉄炉内滓	35.28	21.84	20.01	10.99	V	SB	010	P5		鉄塊系遺物	22.73	17.24	14.45	6.34
I	SX	011		011	鉄塊系遺物	37.42	23.60	20.11	13.37	V	SB	011	P2		鉄塊系遺物	33.83	27.74	18.63	21.00
I	SX	011			鉄塊系遺物	26.17	21.17	11.43	8.39	V	SB	011	P2		含鉄炉内滓	31.83	30.13	13.13	13.36
I	SX	011			含鉄鉄滓	23.81	20.54	10.95	5.85	V	SB	011	P3		含鉄炉内滓	36.59	33.67	24.60	14.73
I	SX	011			鉄塊系遺物	30.70	13.17	9.50	3.27	V	SB	011	P11		含鉄炉内滓	26.62	12.58	12.50	3.98
I	SX	011			含鉄鉄滓	23.11	18.80	11.78	4.19	V	SB	011	P8		含鉄炉内滓	23.01	18.84	9.59	4.35

第17表 中郷地区出土鉄滓計測表(4)

地区	遺構種別	遺構番号	詳細	遺物番号	滓種別	長軸	短軸	厚み	重量	地区	遺構種別	遺構番号	詳細	遺物番号	滓種別	長軸	短軸	厚み	重量
V	SB	012	P8		鉄塊系遺物	18.88	16.99	10.01	3.07	グリッドD11-54	P1	001		001	椀型滓	30.24	16.48	18.20	11.78
V	SD	001		001	含鉄炉内滓	74.13	54.04	36.79	171.91	グリッドD11-54	P1	001		001	含鉄鉄滓	27.15	14.61	15.39	7.02
V	SD	001		001	鉄塊系遺物	77.35	53.74	46.15	152.60	グリッドD11-54	P2	002		002	含鉄鉄滓	31.45	26.68	17.09	24.22
V	SD	001		001	椀型滓	63.45	47.26	53.26	176.95	グリッドD11-54	P2	002		002	含鉄鉄滓	26.81	19.00	16.85	16.35
V	SD	001		001	椀型滓	32.98	31.19	19.29	30.83	グリッドD11-63	P1	001		001	鉄塊系遺物	24.95	22.91	10.78	8.29
V	SD	001		002	鉄塊系遺物	43.19	34.08	16.74	33.23	グリッドD11-63	P1	001		001	含鉄鉄滓	24.68	13.83	17.72	4.85
V	SD	001		002	椀型滓	43.98	31.45	22.47	49.98	グリッドD11-63	P2	002		002	含鉄鉄滓	65.54	59.79	25.21	74.87
V	SD	001		002	椀型滓	34.19	31.16	31.15	44.84	グリッドD11-63	P2	002		002	含鉄炉内滓	31.12	32.11	16.89	6.94
V	SD	001		002	椀型滓	24.99	22.89	15.39	9.93	グリッドD11-63	P2	002		002	含鉄鉄滓	17.05	11.93	8.66	0.72
V	SD	001		002	含鉄鉄滓	23.14	22.70	15.76	2.52	グリッドD11-63	P1	001		001	椀型滓	29.36	23.70	15.29	14.33
V	SD	003		001	含鉄鉄滓	92.80	81.35	38.83	218.56	グリッドD15		005		005	鉄塊系遺物	54.54	39.74	33.19	61.88
V	SD	003		001	椀型滓	37.50	33.83	29.79	42.01	グリッドD15		005		005	鉄塊系遺物	33.03	29.86	21.04	20.72
V	SD	003		001	鉄塊系遺物	33.44	28.69	31.47	46.70	グリッドD15		005		005	鉄塊系遺物	34.32	23.94	18.55	12.39
V	SD	007		001	鉄塊系遺物	20.70	14.51	10.44	3.39	グリッドD15		005		005	鉄塊系遺物	28.62	26.79	19.24	16.37
V	SE	002		001	鉄塊系遺物	29.29	29.21	25.59	30.09	グリッドD15		005		005	鉄塊系遺物	25.14	21.69	18.49	10.71
V	SE	003		001	含鉄炉内滓	56.70	37.89	19.71	123.32	グリッドD15		005		005	鉄塊系遺物	22.58	16.70	10.25	6.42
V	SE	003		001	含鉄炉内滓	57.75	45.70	23.24	50.24	グリッドD15		005		005	鉄塊系遺物	26.42	13.00	12.48	5.13
V	SE	003		001	椀型滓	35.82	28.25	24.28	24.43	グリッドD15		005		005	鉄塊系遺物	23.57	16.53	15.40	6.16
V	SE	003		001	鉄塊系遺物	23.61	16.30	9.36	3.88	グリッドD15		005		005	鉄塊系遺物	25.27	15.98	11.34	3.08
V	SE	004		001	椀型滓	35.38	28.89	31.50	36.93	グリッドD15		005		005	鉄塊系遺物	23.08	13.83	11.15	4.49
V	SE	007		011	流動滓	58.37	39.48	20.58	70.28	グリッドD15		005		005	鉄塊系遺物	21.85	12.93	9.90	2.05
V	SK	001		001	鉄塊系遺物	16.34	12.80	10.52	2.50	グリッドD15		005		005	鉄塊系遺物	21.06	16.10	11.94	2.94
V	SK	005		001	鉄塊系遺物	25.42	12.03	9.44	2.24	グリッドD15		001		001	鉄塊系遺物	27.75	24.98	19.66	13.58
	グリッド	B10-57	P2	002	鉄塊系遺物	20.18	16.17	14.34	4.67	グリッドD15		001		001	鉄塊系遺物	36.50	27.51	17.87	21.70
	グリッド	B11-09	P4	004	含鉄鉄滓	29.32	18.17	14.33	7.81	グリッドD15		001		001	鉄塊系遺物	25.13	23.10	18.19	15.90
	グリッド	B15		001	含鉄鉄滓	30.31	29.04	21.21	15.18	グリッドD15-01		001		001	含鉄炉内滓	46.42	43.71	29.39	31.06
	グリッド	B15		001	含鉄鉄滓	19.42	15.49	15.24	6.29	グリッドD16		001		001	椀型滓	30.43	26.58	17.39	21.71
	グリッド	B15-89		001	含鉄鉄滓	61.17	37.62	25.99	57.59	グリッドD16		001		001	椀型滓	35.69	26.94	22.96	31.36
	グリッド	B15-89		001	含鉄鉄滓	48.14	26.94	18.41	35.33	グリッドD16		001		001	鉄塊系遺物	31.18	19.13	17.26	11.70
	グリッド	B17		001	含鉄炉内滓	37.39	21.12	12.42	12.85	グリッドD16		001		001	含鉄鉄滓	31.29	20.07	17.19	7.99
	グリッド	C11-09	P1	001	含鉄鉄滓	15.77	14.85	10.38	2.77	グリッドD16-09		001		001	鉄塊系遺物	33.13	30.88	23.92	24.96
	グリッド	C11-11	P1	001	椀型滓	28.30	23.39	16.07	18.41	グリッドD16-35		001		001	鉄塊系遺物	20.57	16.67	17.59	6.98
	グリッド	C15		003	鉄塊系遺物	23.66	17.09	14.79	8.52	グリッドD17		001		001	鉄塊系遺物	34.64	27.45	20.03	29.70
	グリッド	C15-64		002	鉄塊系遺物	43.80	39.48	28.71	53.13	グリッドD9-91	P1	001		001	椀型滓	50.08	44.46	36.27	124.53
	グリッド	C15-02		001	鉄塊系遺物	41.92	34.81	29.78	35.49	グリッドD9-93	P3	003		003	鉄塊系遺物	46.48	23.86	20.27	36.39
	グリッド	C17		002	含鉄炉内滓	36.86	33.00	27.54	19.13	グリッドD9-96	P2	002		002	鉄塊系遺物	53.42	38.45	23.31	55.76
	グリッド	C17		002	鉄塊系遺物	25.47	21.44	20.57	12.61	グリッドE10-60	P2	002		002	鉄塊系遺物	64.98	46.41	23.48	66.50
	グリッド	C8		001	含鉄鉄滓	29.40	25.02	20.79	15.74	グリッドE10-91	P2	002		002	含鉄鉄滓	21.67	19.58	12.97	4.25
	グリッド	D10-01	P1	001	鉄塊系遺物	38.15	31.82	21.80	36.21	グリッドE17		001		001	鉄塊系遺物	22.97	15.88	9.60	4.04
	グリッド	D10-12	P1	001	鉄塊系遺物	33.98	27.46	19.65	24.01	グリッドF12		001		001	鉄塊系遺物	31.16	21.55	18.79	17.68
	グリッド	D10-31	P1	001	椀型滓	44.40	37.74	22.41	56.21	グリッドF14-00		002		002	椀型滓	60.76	47.12	27.78	118.63
	グリッド	D10-45	P1	001	含鉄炉内滓	58.09	44.98	25.35	76.55	グリッドF14-00		002		002	椀型滓	43.70	34.27	35.34	69.40
	グリッド	D10-50	P1	001	含鉄炉内滓	37.87	35.66	13.68	22.36	グリッドF14-00		002		002	鉄塊系遺物	50.88	45.16	38.45	122.20
	グリッド	D10-50	P1	001	椀型滓	18.23	15.14	12.76	5.77	グリッドF14-00		002		002	椀型滓	40.40	35.97	35.65	48.02
	グリッド	D10-69	P3	003	椀型滓	27.12	26.57	15.61	10.57	グリッドF9		001		001	椀型滓	47.56	41.54	26.82	56.82
	グリッド	D11-23	P1	001	椀型滓	23.15	20.07	18.78	14.51	不明					椀型滓	50.24	43.71	36.11	107.89
	グリッド	D11-34	P2	002	椀型滓	14.28	14.12	10.47	2.92	不明					含鉄炉内滓	50.34	42.04	15.29	36.71
	グリッド	D11-37	P1	001	椀型滓	59.60	40.39	27.13	95.96	不明					椀型滓	22.42	17.40	12.35	8.92
	グリッド	D11-45	P1	001	鉄塊系遺物	31.75	25.20	26.99	18.09	不明					含鉄鉄滓	21.10	20.47	16.83	5.79
	グリッド	D11-54	P1	001	椀型滓	60.17	56.90	30.60	113.79	合計									20747.14

単位：長軸・短軸・厚み (mm)  
重量 (g)

## 第4章 まとめ

### 第1節 三直中郷遺跡の変遷

小糸川により形成された沖積段丘に立地する三直中郷遺跡は、小櫃川などの他の河川と同様に旧石器時代、約15,000年前には深い谷（小糸川埋没谷）であったものと考えられる。地球規模の温暖化により縄文時代中期、約5,000年前までに徐々に谷は河川のもたらす土砂により埋没し、沖積低地を形成する。その後、沖積低地内を蛇行する河川により、自然堤防や後背湿地が形成され、徐々に河川の蛇行範囲が狭まり、河床低下により段丘崖が形成され、現在の状況に至ったものであろう<sup>1)</sup>。

三直中郷遺跡は、上位の沖積段丘面の自然堤防から後背湿地にかけて立地しており、自然堤防に位置する中郷地区では、弥生時代後期の竪穴住居跡が検出された。後背湿地の開発は、沖田地区で検出されたSD-001やトネリコ属の根株の年代測定の結果からみて、縄文時代晩期から弥生時代中期と考えられる（付章を参照）。該期には後背湿地を生産域、自然堤防上に小規模な居住域が展開していたと考えられる。この状況は、中郷地区での竪穴住居跡が数少なく点在し、また、土師器の出土状況や沖田地区で検出された遺物散布地点から、古墳時代中期まで継続していたものと考えられる。

古墳時代後期には、中郷地区の南半部で竪穴住居跡が検出され、中郷地区の北半部には小糸川タイプの溝が検出される。沖田地区や中郷地区の南半ではほとんど認められず、小糸川タイプの溝の機能を暗渠とするならば、自然堤防と後背湿地の間に形成されており、この部分を畑地など利用するために掘削されたものであろう。

奈良時代後半から平安時代には、自然堤防上の中郷地区に掘立柱建物が出現し、後背湿地である沖田地区では、田下駄などの木製品を含む木材により畦畔が構築される。沖田地区の畦畔は、N-SからN-15° -Eを基調にするもの（A畦畔）とN-45° -Eと東に大きく傾くもの（B畦畔）、更にN-25° -Eを基調とする木製品等による畦畔が見られ、中郷地区の掘立柱建物跡は、主軸がN-SのものとN-15° -Eと東に傾くものが見られる。中郷地区の該期の遺物を概観すると、主体は8世紀末葉から9世紀前葉を主体として、8世紀の中葉のものから9世紀代のものが見られる。僅かな資料ではあるが、N-Sに主軸をとるI SB-001、I SB-005が8世紀後葉から末葉、N-15° -Eに主軸をとるI SB-010、I SB-014が9世紀代に比定されることから、N-SからN-15° -E、へと土地の区画方向が変化し、生産域ではその後、N-25° -E、ないしはN-45° -Eと変化したものと考えられる。また、8世紀後半から9世紀前半にかけて、外箕輪遺跡や常代遺跡でも小糸川に面した部分に大型の掘立柱建物群が出現し、水運との関連が指摘されている<sup>2)</sup>。3遺跡は近接しており、郷単位に設置されたと考えることも可能である<sup>3)</sup>。

中世以降近世・近代に至るまで、中郷地区の自然堤防上は屋敷地として利用される。屋敷地は、概ねN-20° -Eの溝によって区画されており、平安時代末葉以降の土地区画として注目される。溝は南北方向の区画が明瞭であるが、東西方向の溝も数条認められる。井戸との関連から推定するならば、道に伴う溝であった可能性が高い。また、井戸に近接して、井戸に比べ浅く、細かなラミナ状の堆積層を覆土とした、遺物の少ないものを井戸状土坑として分類したが、その性格や機能については今後の検討課題である<sup>4)</sup>。

## 第2節 三直中郷遺跡の条里地割りについて

三直中郷遺跡の古代条里地割りについては、沖田地区に隣接する三直中郷遺跡坂ノ下地区の調査成果ではN-25° -Eの条里地割り<sup>5)</sup>、沖田地区の西約500mの地点の調査では、N-S方向とN-25° -E方向の畦畔が検出されており、N-S方向からN-25° -E方向への変化の時期を8世紀後半から9世紀頃としている<sup>6)</sup>。これらの条里の復元の契機となったものは、さらに西に位置する外箕輪遺跡の成果によるものである<sup>7)</sup>。外箕輪遺跡は沖田地区の西約1.4kmに所在し、掘立柱建物跡や溝、塞神社、航空写真や地籍図などからN-25° -W方向の条里地割りを復元し、それ以前の土地利用がN-S方位で行われており、出土遺物から8世紀後半から9世紀代に変化したことを指摘している。更に、周辺部の調査では、本遺跡の南西、小糸川左岸の郡条里遺跡では、8世紀後半以降にN-45° -Eとする条里区画が復元されている<sup>8)</sup>。また、時期について未詳の部分もあるが、小糸川の対岸に位置する姥田遺跡ではN-25° -Wに軸をとる水田とN-S方位の水田畦畔を検出している<sup>9)</sup>。

前述したように、今回の調査では、沖田地区においてN-S～N-15° -EとN-45° -Eの2方位の畦畔、N-S～N-15° -EとN-25° -Eの畦畔の痕跡と思われる木製品集中地点を検出し、N-S～N-15° -E、N-45° -E、N-25° -Eと変遷したことが、その検出状況からうかがえる。中郷地区では、N-S方位の掘立柱建物跡群、N-15° -E方位の掘立柱建物跡群、中世以降のN-20° -E方位の掘立柱建物跡群や井戸を伴う溝などを検出し、N-S、N-15° -E、N-20° -Eと変遷したと判断される。

沖田地区の畦畔については、時期決定可能な遺物、特に土師器・須恵器がほとんど出土しておらず、木製品のみでは詳細な時期の決定は不可能である。しかしながら、前述した周辺の調査成果から考えても、8世紀代から9世紀代のものと判断することが妥当である。中郷遺跡については、前節でも述べたように、N-S方向の時期を8世紀後葉から末葉、N-15° -Eを9世紀代としたが、全般的な出土遺物からはN-S方向の始まりを8世紀中葉まで遡らせることも可能である。なお、それ以前と考えられる古墳時代後期の小糸川タイプの溝はN-30° -Wを基調としており、9世紀以後の区画である中世の区画は、N-20° -Eを基調として近世・近代まで継続した土地区画となっている。

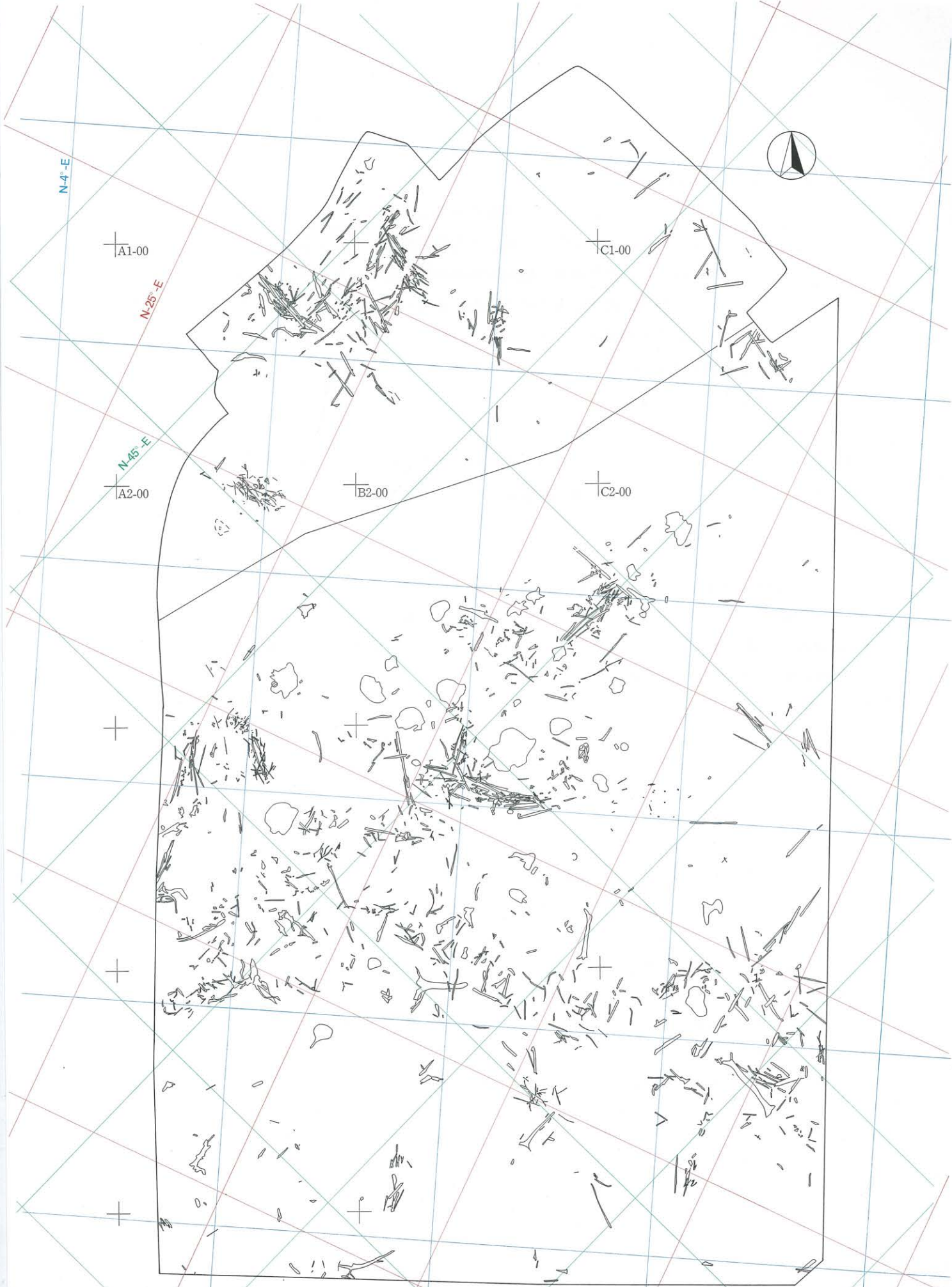
以上のことから、今回の調査区における土地区画、条里方向の変遷をまとめると、遅くとも8世紀中葉にはN-S方向の区画が存在し、外箕輪地区に若干遅れる可能性もあるが、9世紀代にN-15° -E、N-25° -Eと変化していったものと考えられ、従来の調査成果を追認することとなった。なお、N-45° -Eの畦畔については、N-S (N-15° -Eを含む) とN-25° -Eの間の時期とすることが、その検出状況から妥当と考えられる。その要因については、郡条里遺跡の条里区画に求めるより、丘陵裾部の後背湿地における土地利用の制限に求めることが、現時点では妥当であろう。

沖田地区の北に位置する八雲神社の参道N-25° -Eの方向に見られ、塞神社から条里方向で約980m離れ、沖田地区西端、3群木製品等集中地点下に検出された幅広の畦畔は、同様に約1,090mの位置に検出されている。外箕輪地区の条里方向と一致することは述べてきたが、その連続性については、今後の検討課題と考える。



第293図 沖田地区遺構配置と条里区画





第294図 沖田地区木製品等出土状況と条里区画

### 第3節 沖田地区の木製品について

沖田地区では、農具、特に田下駄足板を中心に多量の木製品が出土している。

田下駄については、表面観察により出土時の上面、下面を判断し、その左右を決定するとともに、緒孔の状況からも左右の判断を行った。その結果、概ね左右が均等に出土しており、左右対となる田下駄の判別も可能となった。しかしながら、必ずしも正位の状態で埋没しているのではなく、対となる田下駄の多くは、片方が倒位の状況であるものが多く、大足の例も片側が倒位の状況で出土している。畦畔の補強材のほかに畦畔脇への廃棄も考えられているが<sup>10)</sup>、使用期の夜間等に畦畔脇に背合わせに置かれていた可能性も指摘出来るのではなかろうか<sup>11)</sup>。

また、その製作者については、曲物転用田下駄の足板を見る限りでは、使用者と製作者が同一に近い状況であったと思われる。但し、大足については、ていねいに作られており、高い技術を有した製作者のものと思われる。この点については、沖田地区木製品2の大足の足板や14の横木が補修用のもので稚拙である点から、裏付けられるものと思う。

注1 鈴木欣也ほか 2001 『君津市史 通史』 千葉県君津市

2 笹生 衛 2003 『千葉県史研究』第11号別冊中世特集 千葉県

3 前掲注2文献では、初期荘園の荘所が流路や河川に面して立地する形との類似性を指摘しており、前代の律令制的施設との相違も考慮すべきであろう。

4 他の中世遺跡にも見られるようであるが、予察的には洗い場が想定される。

5 相京邦彦 2003 『主要地方道君津鴨川線道路改良工事に伴う埋蔵文化財調査報告書—三直中郷遺跡 坂ノ下地区—』 財団法人千葉県文化財センター第453集

6 渡邊祐二 2001 『三直中郷遺跡発掘調査報告書』 財団法人君津郡市文化財センター第168集

7 笹生 衛 1989 『君津市外箕輪遺跡・八幡神社古墳発掘調査報告書』 財団法人千葉県文化財センター第180集

中能 隆・笹生 衛 1994 『外箕輪遺跡発掘調査報告書』 財団法人君津郡市文化財センター第98集

伊藤伸久 1997 『外箕輪遺跡Ⅱ』 財団法人君津郡市文化財センター第126集

黒沢 聡 1997 『外箕輪遺跡Ⅲ』 財団法人君津郡市文化財センター第135集

8 中能 隆 1994 『郡条里遺跡Ⅲ』 財団法人君津郡市文化財センター第89集

9 松本 勝 1998 『姥田遺跡発掘調査報告書—市道六手貞元線道路改良事業に伴う埋蔵文化財調査—』 財団法人君津郡市文化財センター第143集

10 前掲注5文献

11 民俗例では、田下駄等の保管は雨のかからない乾燥した場所に下げるとされているが、畦畔脇に置く例もあるとの話も聞いた。明確な資料がないため、この点については、今後の検討課題としたい。

# 付章 自然科学分析

## 第1節 放射性炭素年代測定

山形秀樹 (㈱パレオ・ラボ)

### 1 はじめに

三直中郷遺跡出土自然木から採取された木片の加速器質量分析法 (AMS法) による放射性炭素年代測定を実施した。

### 2 試料と方法

試料は、B3-56から出土した根株状丸木材 (トネリコ属) の幹部分の外側部分より採取した木片1点 (数年輪分) である。

試料は、酸・アルカリ・酸洗浄を施して不純物を除去し、石墨 (グラファイト) に調整した後、加速器質量分析計 (AMS) にて測定した。測定した<sup>14</sup>C濃度について同位体分別効果の補正を行った後、補正した<sup>14</sup>C濃度を用いて<sup>14</sup>C年代を算出した。

### 3 結果

第18表に、試料の同位体分別効果の補正值 (基準値-25.0‰)、同位体分別効果による測定誤差を補正した<sup>14</sup>C年代、<sup>14</sup>C年代を暦年代に較正した年代を示す。

<sup>14</sup>C年代値 (yrBP) の算出は、<sup>14</sup>Cの半減期としてLibbyの半減期5,568年を使用した。また、付記した<sup>14</sup>C年代誤差 ( $\pm 1\sigma$ ) は、計数値の標準偏差  $\sigma$  に基づいて算出し、標準偏差 (Onesigma) に相当する年代である。これは、試料の<sup>14</sup>C年代が、その<sup>14</sup>C年代誤差範囲内に入る確率が68%であることを意味する。

第18表 放射性炭素年代測定および暦年代較正の結果

測定番号 (測定法)	試料データ	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	<sup>14</sup> C年代 (*1) (yrBP $\pm 1\sigma$ )	<sup>14</sup> C年代を暦年代に較正した年代	
				暦年代較正值 (*2)	1 $\sigma$ 暦年代範囲 (*3)
PLD-3159 (AMS)	木片 (トネリコ属) B3-56 丸木材	-32.4	2,160 $\pm$ 40	cal BC 200 cal BC 195	cal BC 350-295 (42.3%) cal BC 210-160 (43.3%)

なお、暦年代較正の詳細は、以下の通りである。

### 暦年代較正

<sup>14</sup>C年代値は、大気中の<sup>14</sup>C濃度が過去においても一定という仮定のもと、半減期としてLibbyの半減期5,568年を用いて算出される。しかし、実際には過去の宇宙線強度や地球磁場の変動により大気中の<sup>14</sup>C濃度は変動している上、Libbyの後により正確な<sup>14</sup>Cの半減期5,730  $\pm$  40年が得られているために、<sup>14</sup>C年代は暦年代とそのままでは合致しない。暦年代較正はこうしたずれを補正し、<sup>14</sup>C年代を暦年代に読み替える作

業である。具体的には、年代既知の樹木年輪の詳細な測定値、珊瑚のU-Th年代と<sup>14</sup>C年代の比較、および海成堆積物中の縞状の堆積構造を用いて<sup>14</sup>C年代と暦年代の関係を調べたデータにより作成された較正曲線を作成し、これを用いて<sup>14</sup>C年代を暦年代に較正する。

<sup>14</sup>C年代から暦年代への較正にはプログラムCALIB4.3 (CALIB3.0のバージョンアップ版) を使用した。暦年代較正值 (第18表の\* 2) は<sup>14</sup>C年代値 (第18表の\* 1) の交点から得られる (第295図参照)。1  $\sigma$  暦年代範囲 (第18表の\* 3) はプログラム中の確率法を使用して算出された<sup>14</sup>C年代誤差 (第18表の\* 1 参照;  $\pm 40$ の部分) に相当する暦年代範囲である (第296図参照)。カッコ内の百分率の値はその1  $\sigma$  暦年代範囲の確からしさを示す確率であり、10%未満についてはその表示を省略している。また、その確からしさを示す確率が最も高い年代範囲については表中に下線付きで示している。なお、慣例により使用する値は5年ごとの丸め込みを行うことになっている (第295図の<sup>14</sup>C年代値 $2161 \pm 39$ yrBPは $2160 \pm 40$ yrBPに、また第294図の3つの暦年代較正值calBC199, calBC185, calBC184もcalBC200とcalBC185の2つの値になる)。

#### 4 考察

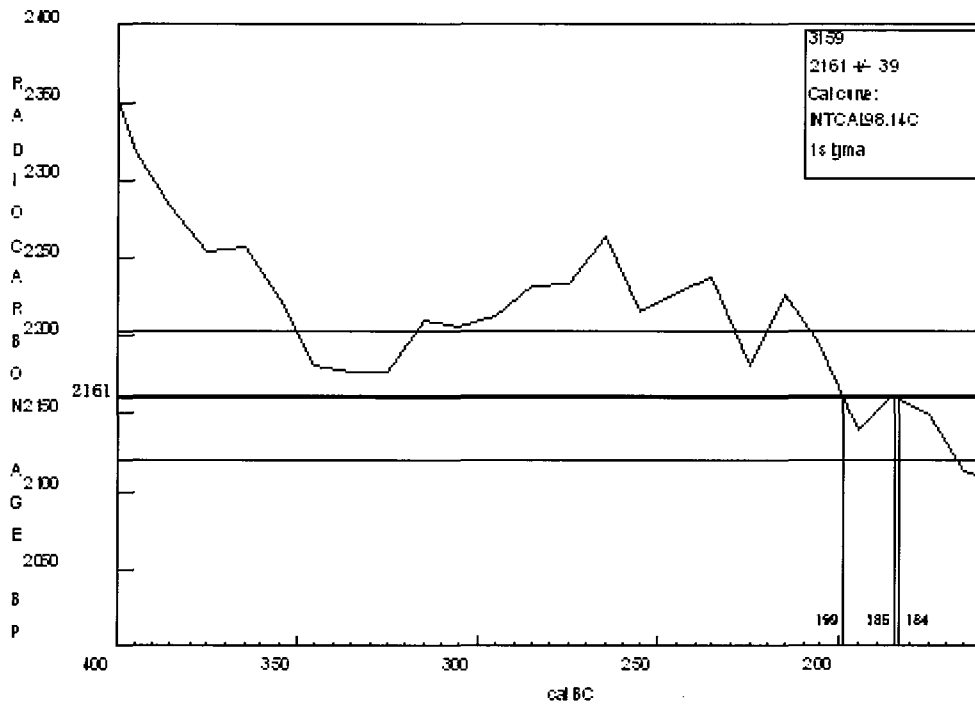
試料は、同位体分別効果の補正および暦年代較正を行った。暦年代較正した1  $\sigma$  暦年代範囲のうち、その確からしさを示す確率が最も高い年代範囲に注目すると、B3-56から出土した根株状丸木材 (トネリコ属) の幹部分の外側年輪部分より採取した木片の年代はcalBC210-160年が、より確かな年代値の範囲として示された。

#### 引用文献

中村俊夫 (2000) 放射性炭素年代測定法の基礎. 日本先史時代の<sup>14</sup>C年代, p. 3-20.

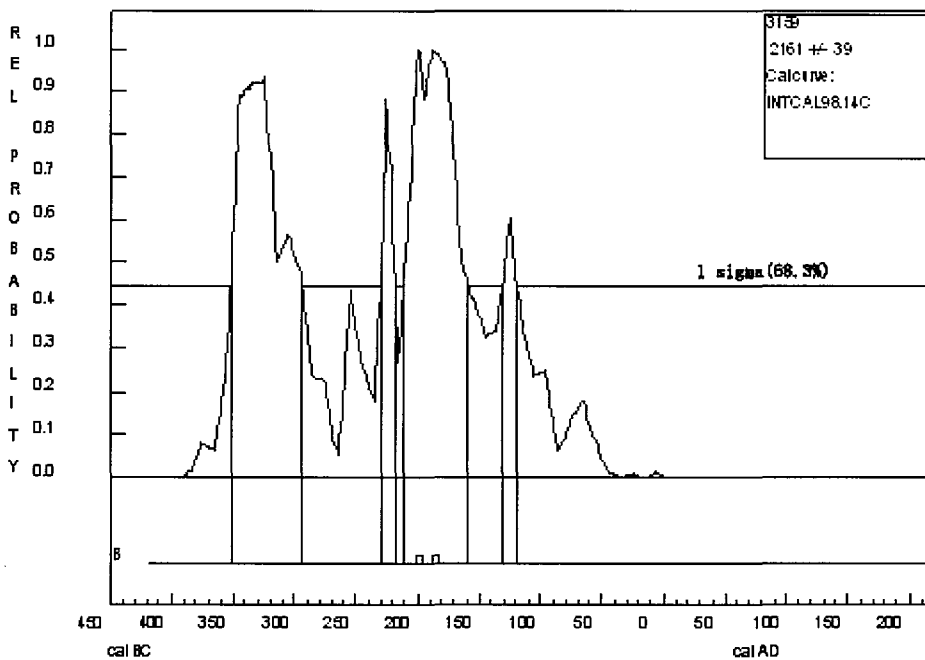
Stuiver, M. and Reimer, P.J. (1993) Extended <sup>14</sup>C Database and Revised CALIB3.0 <sup>14</sup>C Age Calibration Program, Radiocarbon, 35, p.215-230.

Stuiver, M., Reimer, P.J., Bard, E., Beck, J.W., Burr, G.S., Hughen, K.A., Kromer, B., McCormac, F.G., v.d.Plicht, J., and Spurk, M. (1998) INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration, 24, 000-0 calBP, Radiocarbon, 40, p.1041-1083.



第295図 暦年代比較正グラフ（交点法）

縦軸は<sup>14</sup>C年代、横軸は暦年代を示す。波打った曲線が校正曲線、横に走る太い直線と上下の2本の細い直線が<sup>14</sup>C年代値を示す（上下が±の誤差）。



第296図 暦年代比較正グラフ（確率法）

縦軸は確からしさを示す確率、横軸は暦年代。波打った曲線が校正年代値の確率分布曲線で、1σを表す直線に挟まれた部分の面積がその年代範囲の確率を示す。

## 第2節 三直中郷遺跡出土材の樹種

三村 昌史 (株)パレオ・ラボ

### 1 はじめに

三直中郷遺跡出土材のうち、計10点の樹種同定結果を報告する。分析対象とされたのはえつり・扉板・柾木・泥除け・田下駄といった古代の木製品、および時代が不明の自然木である。なお、自然木は水田跡の下位の層準から出土しており、時代については放射性炭素年代測定による検討が行われている。ここでは、これら出土材の樹種同定を実施することで、各木製品の用材傾向や用材選択の背景について調査するとともに、自然木の樹種から遺跡を取り巻く植生情報等について検討した。

### 2 試料と方法

出土木製品から直接、木取りや肉眼視できる組織を確認しながら横断面・放射断面・接線断面の3断面について剃刀を用いて切片をスライスし、ガムクロラール（抱水クロラール50g、アラビアゴム粉末40g、グリセリン20ml、蒸留水50mlの割合で調整した混合液）で封入してプレパラートを作成した。検鏡は光学顕微鏡にて40～400倍で行い、所有の現生標本と対照することにより同定を行った。なお、同定したプレパラートは比較参照に応じられるように保管番号を付して保管した（CHB-446～452, 462～464）。

### 3 結果および考察

第19表 樹種同定結果

遺物番号	地区等	器種	樹種	木取り	時代	保管No.	備考
231	D1-48-2	田下駄	ヒノキ	板目	古代	CHB-446	
232	D1-48-3	田下駄	ヒノキ	板目	古代	CHB-447	
132	B3-59-1	柾木	マタタビ属	芯持丸木	古代	CHB-448	
242	F0-62-1	えつり	イヌガヤ	芯持丸木・削出	古代	CHB-449	
243	F0-62-2	えつり	イヌガヤ	芯持丸木	古代	CHB-450	
90	E0-57	泥除け	スギ	板目	古代	CHB-451	
29	F0-71-1	扉板	サクラ属	板目	古代	CHB-452	
-	C2-41	自然木	ハンノキ亜属	芯持丸木・根材?		CHB-462	直径約3.5cm
-	B3-15	自然木	ハンノキ亜属	芯持丸木・根材?		CHB-463	直径約5.5cm
-	B3-56	自然木	トネリコ属	芯持丸木・根株状		CHB-464	直径約33cm、幹部分外側数年輪AMS

第20表 器種別にみた用材

樹種/器種		えつり	扉板	柾木	泥除け	田下駄	自然木	計
針葉樹	スギ	-	-	-	1	-	-	1
	ヒノキ	-	-	-	-	2	-	2
	イヌガヤ	2	-	-	-	-	-	2
広葉樹	ハンノキ亜属	-	-	-	-	-	2	2
	マタタビ属	-	-	1	-	-	-	1
	サクラ属	-	1	-	-	-	-	1
	トネリコ属	-	-	-	-	-	1	1
計		2	1	1	1	2	3	10

## 古代の木製品について

建築材・建物構成材関連ではえつり・扉板がある。このうち、えつりには2点ともイヌガヤの材が用いられているが、イヌガヤは大変丈夫な材であり使用目的に見合った選択がなされている。扉板にはサクラ属の材が用いられている。材が均質で加工が比較的容易なことや、また丈夫なことから用いられたとみられる。扉板のような板材状を呈する部材には、材を割り出し易く加工も容易なことから一般にスギやヒノキといった針葉樹が多用される傾向にあるが、丈夫さが嗜好されたためにこれらの樹種よりも割裂性の面では劣るものの一般に強靱さでは勝るサクラ属の材が選択されたのであろうか。

農耕具関連では泥除けと田下駄がある。このうち、泥除けには針葉樹材のスギが用いられていた。一般に、泥除けには堅強な部類の広葉樹材が用いられるが、鋏に比べれば打ち下ろし時にそれほど力は加わらないので、目的とするところの泥や水の跳ね返りを防ぐことができればスギでも事足りたのかも知れない。

なお、木取りは板目に取りられており、強度を持たせる工夫がされている。また、田下駄にはヒノキが用いられていた。田下駄のような板材・角材の部材を利用した構造材には、材および木理が通直で材を割り出しやすい針葉樹材が用いられるのが一般的である。このたびの田下駄の用材にヒノキが選択されたのも、そのような製作面からの理由に拠るところが大きかったものと推察される。

柁木には広葉樹材のマタビ属の材が用いられていた。マタビ属はつる性の樹木で材は従曲性に富んでおり、製品の器形・製作法に見合った用材が選択されているといえる。

## 自然木について

自然木の樹種はハンノキ亜属とトネリコ属であった。ハンノキ亜属とトネリコ属には湿地に生育する樹種がそれぞれ含まれており、出土した層準の層相と整合的な結果である。ハンノキ亜属の自然木2点は材構造からみて根材であり、またトネリコ属の自然木1点は根株状の材であるから、現地性は高いと考えられ、これらの樹木が水田として利用される以前の湿地に生育していたとみられる。

これらの自然木の時代については不明であったため、トネリコ属の自然木1点について放射性炭素年代測定による検討が行われた（別編参照）。その結果、1 $\sigma$ 暦年代範囲のうち最も確率の高い範囲がcal.BC210-160（43.3%）であった。交点法による暦年代較正值はこの範囲に含まれているものの、次いで高いcal.BC350-295の範囲の確率が42.3%と僅差であることから、自然木が伐採された時代としては双方の可能性を念頭に置いておくべきであろう。いずれにしても、弥生時代の中期～後期頃にはそれまで湿地林を構成していたトネリコ属やハンノキ亜属などの樹木が伐採され、水田として利用されていったことが推察される。

## 4 分類群の記載

以下では、同定対象とした19点の出土材中に見出された針葉樹種3分類群（スギ・ヒノキ・イヌガヤ）、広葉樹種4分類群（ハンノキ属ハンノキ亜属・マタビ属・サクラ属・トネリコ属）の計7分類群について、同定の根拠とした材組織の解剖学的特徴を示す。

### 1) スギ *Cryptomeria japonica* (L.f.) D.Don スギ科 写真図版 1a-1c

仮道管と放射柔組織、および樹脂細胞からなる針葉樹材。晩材部は量多く明瞭。分野壁孔はスギ型で大きく、1分野にふつう2個。スギは高木になる常緑針葉樹で、天然分布は降水量の多い地域に限られ、北陸などの日本海側や房総半島などにまとまった分布域が多い。生育地は湿地周辺や谷部、尾根沿いなど

幅広く、低地から比較的高標高のブナ林までみられる。材は通直で軽軟、保存性は中庸、適度な強度があり割裂性・加工性に優れる。

2) ヒノキ *Chamaecyparis obtusa* (Sieb. et Zucc.) Endl. ヒノキ科 写真図版 2a-2c

仮道管と放射柔組織、および樹脂細胞からなる針葉樹材。晩材部は量少ない。分野壁孔は大型のトウヒ型からヒノキ型でやや大きく、1分野にふつう2個。ヒノキは主に暖温帯（福島県以南）に分布し山地の尾根沿いや緩斜面などに生育する、高木になる常緑針葉樹である。現在のまとまった分布は中部地方や紀伊半島、四国南部にある。材は通直でやや軽軟、加工し易く強度に優れる上、耐朽性が著しく高い。

3) イヌガヤ *Cephalotaxus harringtonia* (Knight) K. Koch イヌガヤ科 写真図版 3a-3c 仮道管と放射組織、および樹脂細胞からなる針葉樹材。早材から晩材への移行は緩やかで晩材部の量は少ない。樹脂細胞は早材・晩材の区別なく散在する傾向にある。仮道管の内壁にはらせん肥厚がみられる。分野壁孔はヒノキ型で、1分野にふつう2-3個。

イヌガヤは小高木程度になる常緑針葉樹で主に暖温帯に分布し、林床や谷沿いにみられる。材はやや重くて硬く、緻密で強靱である。

4) ハンノキ属ハンノキ亜属（根材） *Alnus subgen. Alnus* カバノキ科 写真図版 4a-4c

小型で放射方向に伸びたやや角ばった道管が接線方向に間隔をあけて分布する散孔材。道管の穿孔は階段状で20本程度。放射組織は単列同性でしばしば複合状のものも交える。

ハンノキ亜属には湿地内や河畔の湿潤地にみられるハンノキ、崩壊の起きる上流部の溪畔や山中の適湿地にみられるケヤマハンノキなどが含まれる。いずれも温帯～暖温帯に分布し高木になる落葉広葉樹で、しばしば群生する。材質は種によって若干異なるが、硬さ・重さ・保存性などの性質は概して中庸である。出土材は2点とも材構造から根材と判断される。

5) マタタビ属 *Actinidia* マタタビ科 写真図版 5a-5c

年輪の始めに大型で薄壁の道管が間隔を置いて一列に分布し、その間隙および晩材部では小型で薄壁の道管が散在する環孔材。道管の穿孔は単一。放射組織は異性で3-4列程度のものと、上下に長く連なった直立細胞からなる単列のものが認められる。

マタタビ属にはサルナシやマタタビなどが含まれる。どちらも国内の山中の林縁に普通な蔓性の落葉広葉樹である。

6) サクラ属 *Prunus* バラ科 写真図版 6a-6c

小型で丸い道管が単独あるいは1-数个放射方向に複合し、斜めに連なる散孔材。道管の穿孔は単一。道管内腔には着色物質が詰まり、らせん肥厚がみられる。放射組織は異性で1-5列。

国内に自生するサクラ属には15種があり、2種を除いて落葉広葉樹である。千葉県にはヤマザクラ、カスミザクラ、チョウジザクラ、マメザクラなどが分布している。材は重さ・硬さ中庸～やや重硬で靱性もあり、割裂性はやや困難、均質で加工は比較的容易。

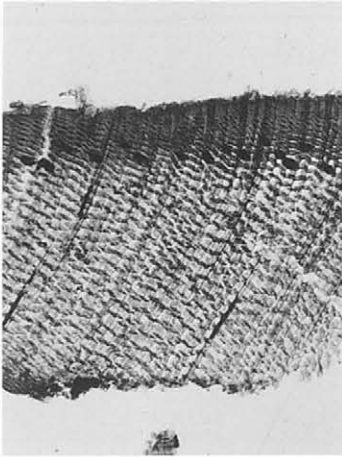
7) トネリコ属 *Fraxinus* モクセイ科 写真図版 7a-7c

大型で丸い道管が年輪の始めに一列に並び、晩材部ではごく小型で厚壁の道管がほぼ単独に分布する環孔材。木部柔細胞は周囲状。道管の穿孔は単一。放射組織は同性で、1-4列。

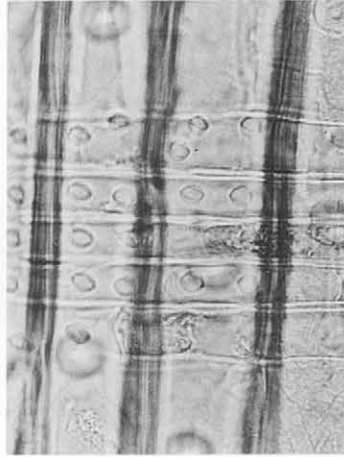
トネリコ属には日当たりの良い山中や林縁など乾性立地に生育するマルバアオダモ、林内にみられるアオダモ、谷沿いに生育するシオジやヤマトアオダモ、湿地に生育するヤチダモなどがある。材質は種によってやや異なるが、概して重さ・硬さ中庸～やや重硬、加工は困難でなく、靱性がある。



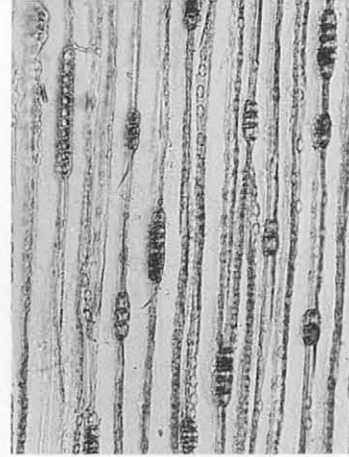
( ) 内はプレバラー特保管番号CHB-を表す。



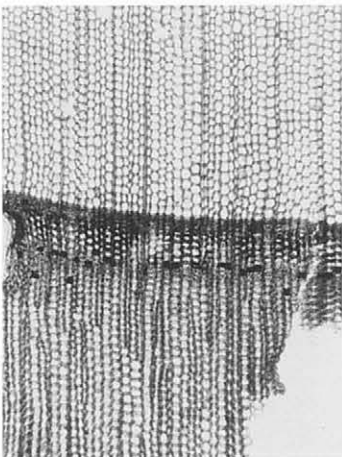
1a. スギ (451) bar : 1.0mm



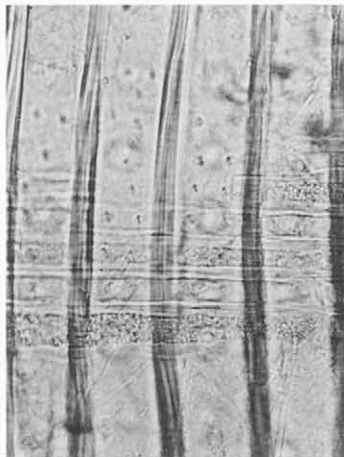
1b. 同 bar : 0.1mm



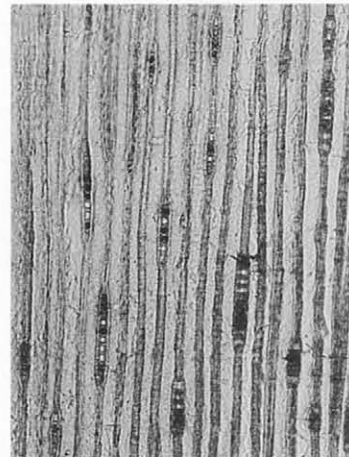
1c. 同 bar : 0.4mm



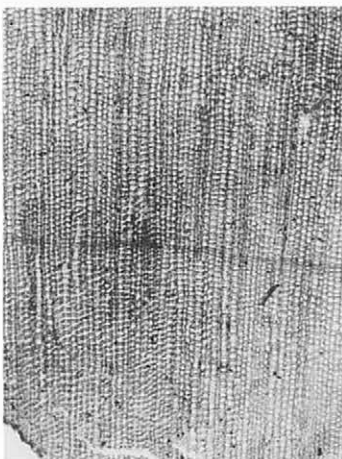
2a. ヒノキ (447) bar : 1.0mm



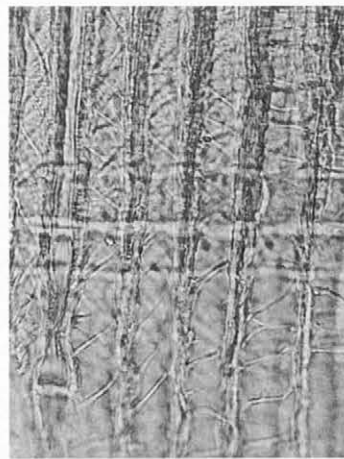
2b. 同 bar : 0.1mm



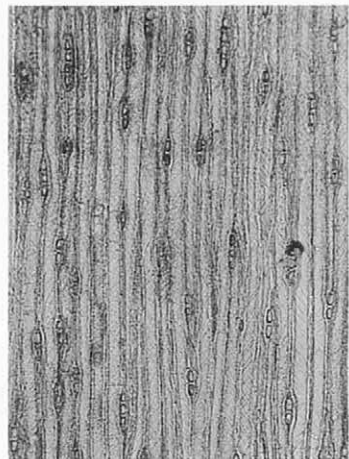
2c. 同 bar : 0.4mm



3a. イヌガヤ (449) bar : 1.0mm

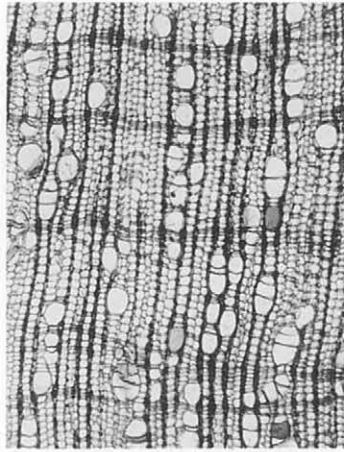


3b. 同 bar : 0.1mm

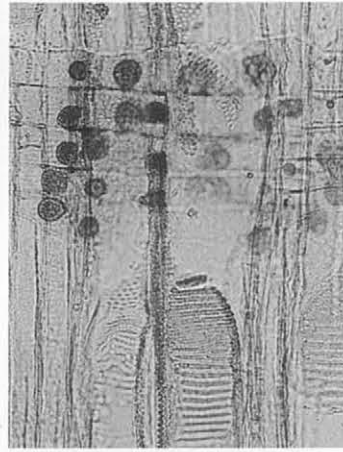


3c. 同 bar : 0.4mm

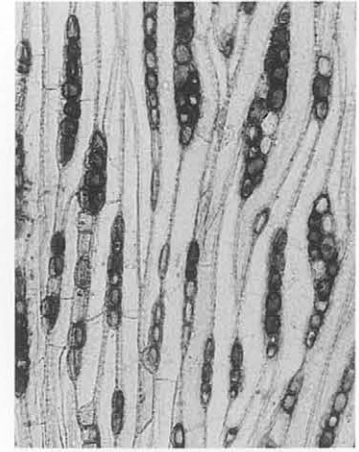
第297図 三直中郷遺跡出土木製品・木材組織光学顕微鏡写真(1) a: 横断面 b: 放射断面 c: 接線断面



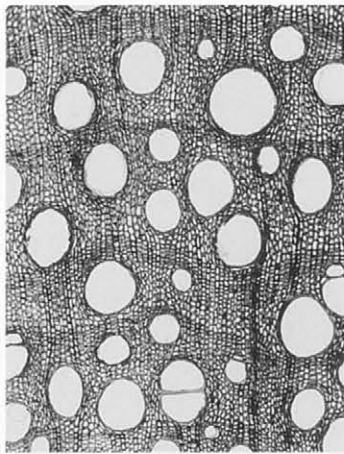
4a. ハンノキ亜属 (462) bar : 1.0mm



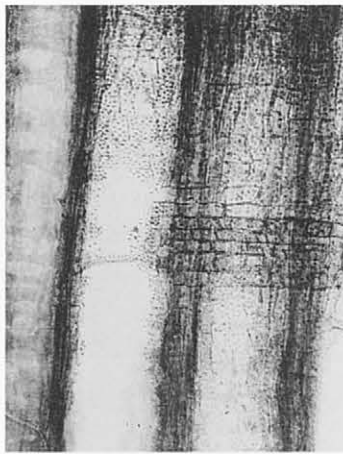
4b. 同 bar : 0.2mm



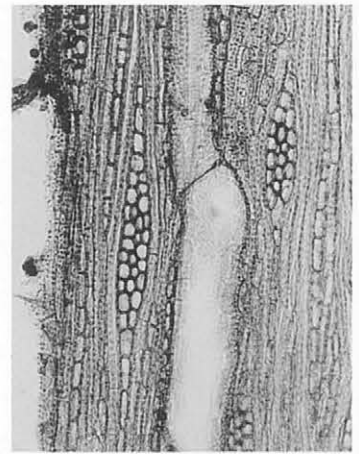
4c. 同 bar : 0.4mm



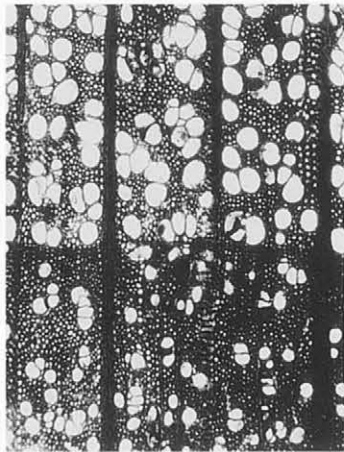
5a. マタタビ属 (448) bar : 1.0mm



5b. 同 bar : 0.4mm



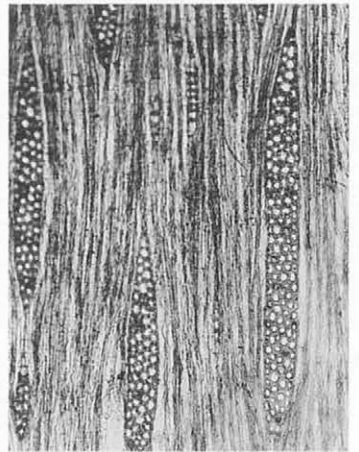
5c. 同 bar : 0.4mm



6a. サクラ属 (452) bar : 1.0mm

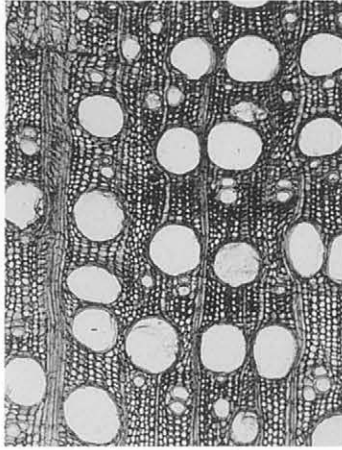


6b. 同 bar : 0.2mm



6c. 同 bar : 0.4mm

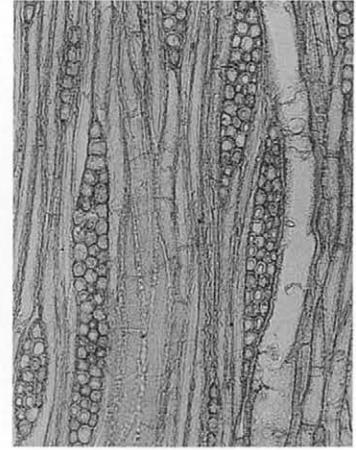
第298図 三直中郷遺跡出土木製品・木材組織光学顕微鏡写真(2) a:横断面 b:放射断面 c:接線断面



7a. トネリコ属 (464) bar : 1.0mm



7b. 同 bar : 0.4mm



7c. 同 bar : 0.4mm

第299図 三直中郷遺跡出土木製品・木材組織光学顕微鏡写真(3) a:横断面 b:放射断面 c:接線断面

# 写 真 图 版



遺跡周辺航空写真 (1 : 10000 昭和42年撮影)



調査区遠景（南から）



調査区西側遠景（東から）



沖田地区遠景



沖田地区遠景



沖田地区遠景



A-A'断面



B-B'断面



SD-001



SD-001



SD-002



SD-002A-A'断面



SD-002

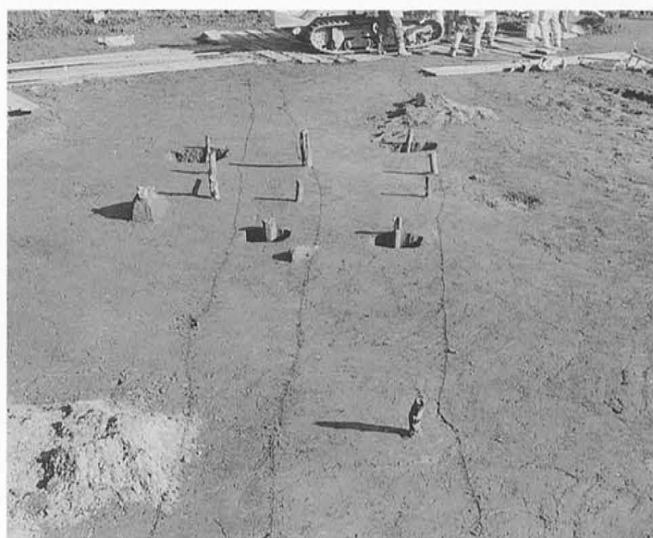




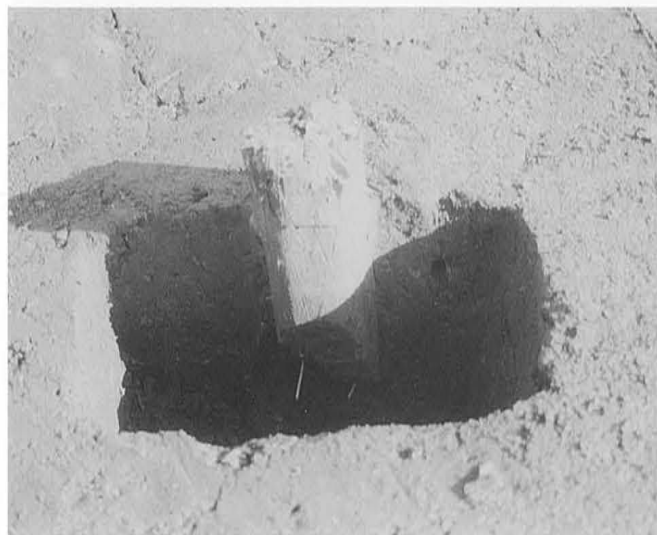
C3-22グリッド杭列



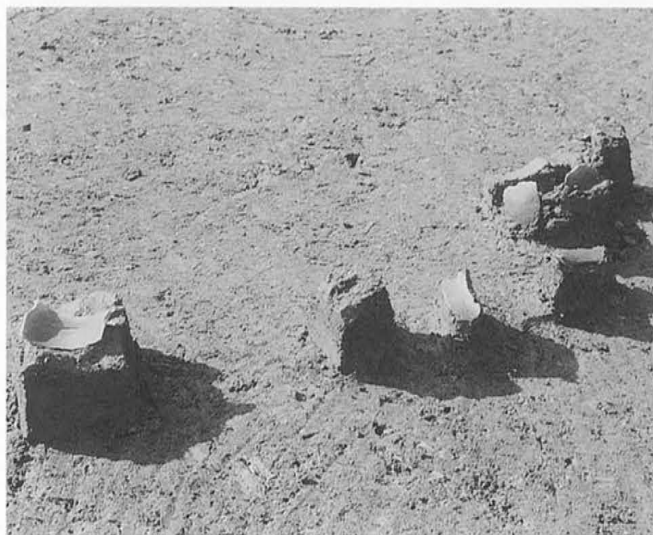
C3-22グリッド杭列



C3-22グリッド杭列



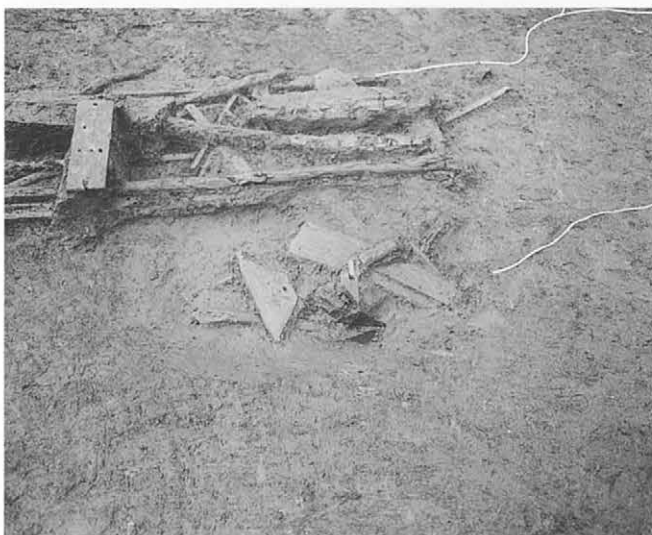
C3-22グリッド杭列



SX-001



2 群木製品等出土状況



2 群木製品等出土状況



2 群木製品等出土状況



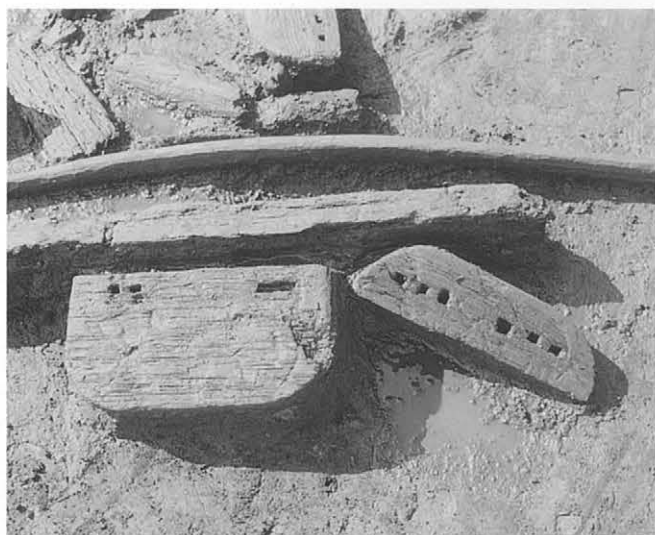
1 群木製品等出土状況



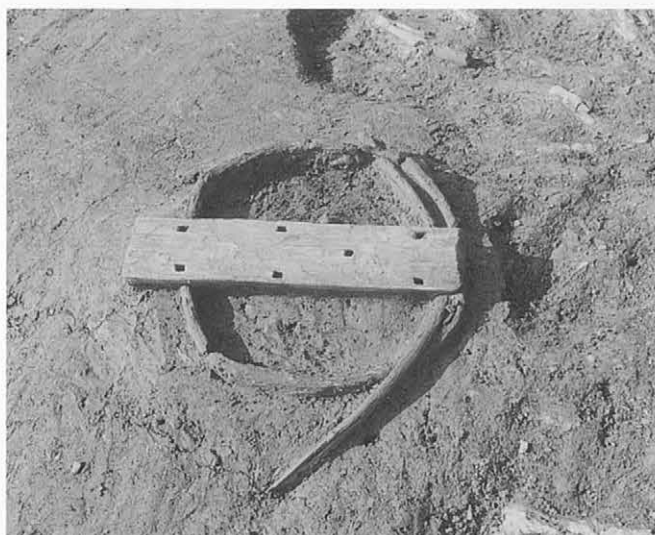
1 群 (179) 出土状況



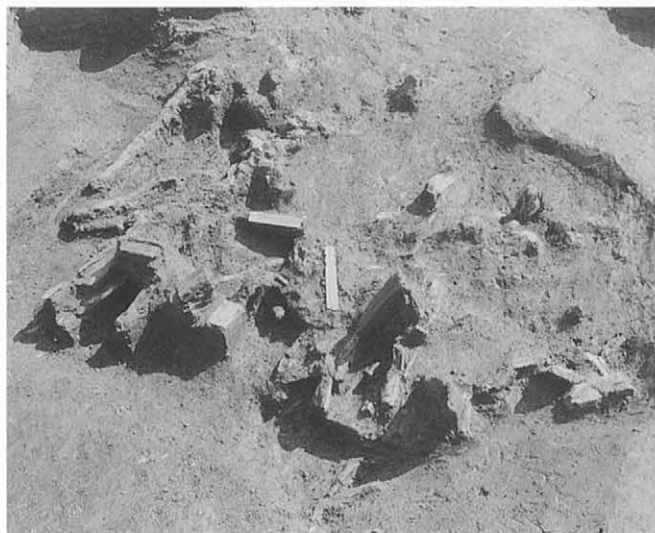
3 群木製品等出土状況



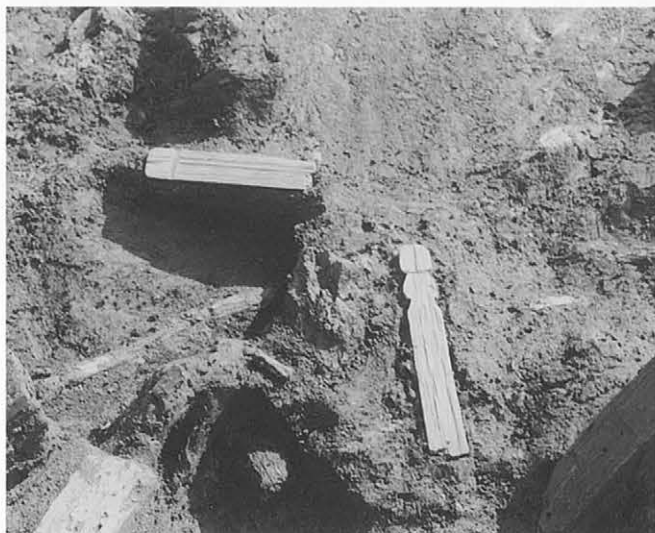
3 群 (31) 出土状況



輪カンジキ型田下駄 (85, 175) 出土状況



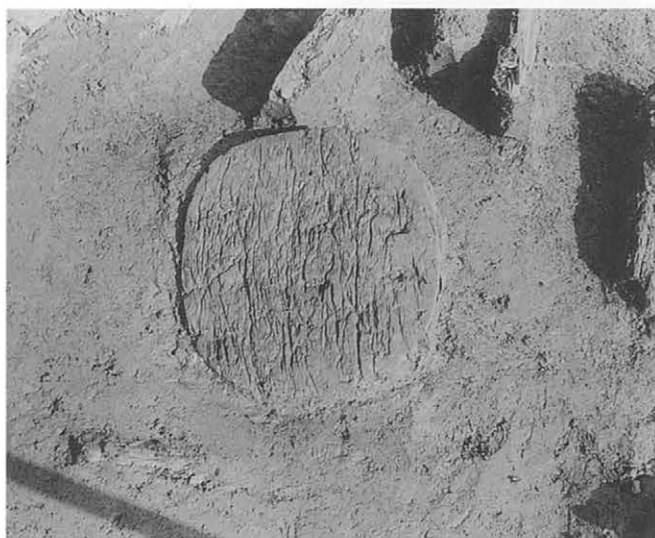
4 群木製品等出土状況



4 群 (146) 出土状況



6群木製品等出土状況



6群 (24) 出土状況



6群 (23, 28) 出土状況



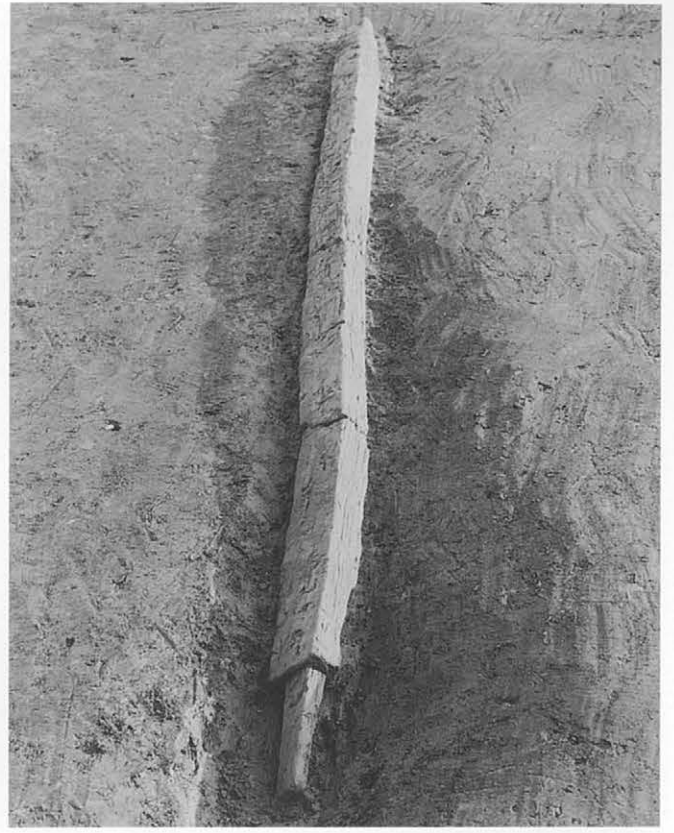
6群 (36) 出土状況



6群木製品等出土状況



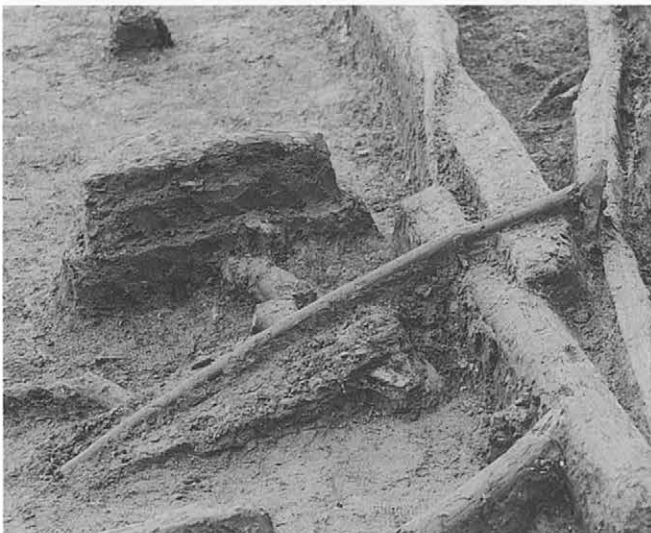
6 群 (186) 出土状況



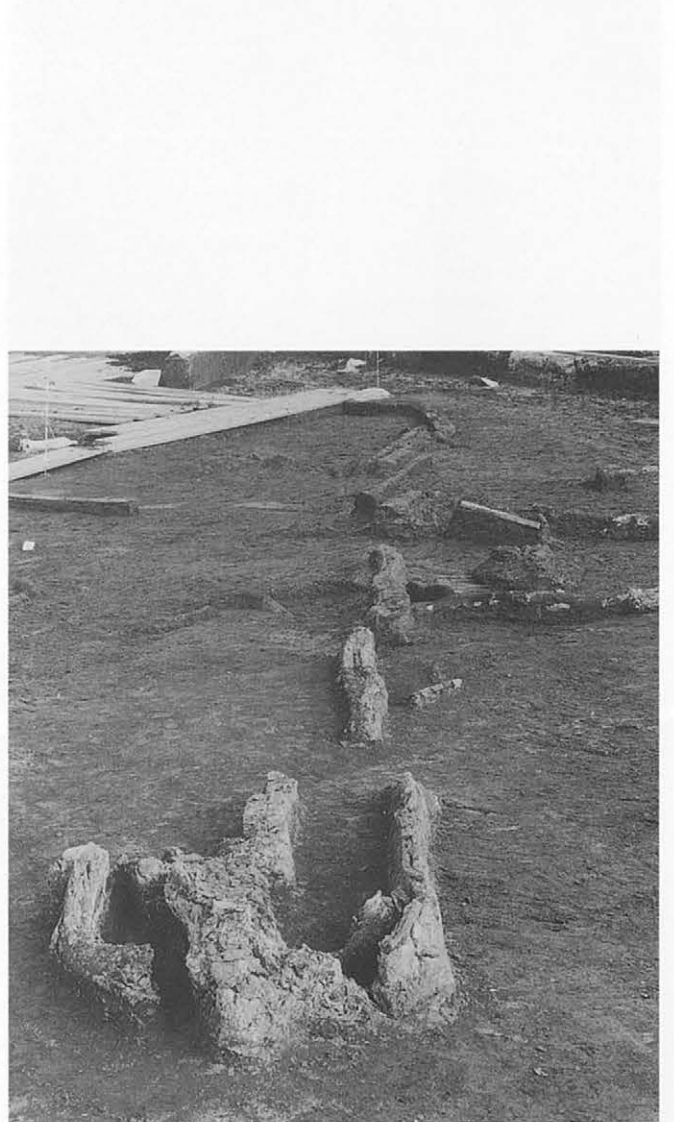
8 群木製品等出土状況



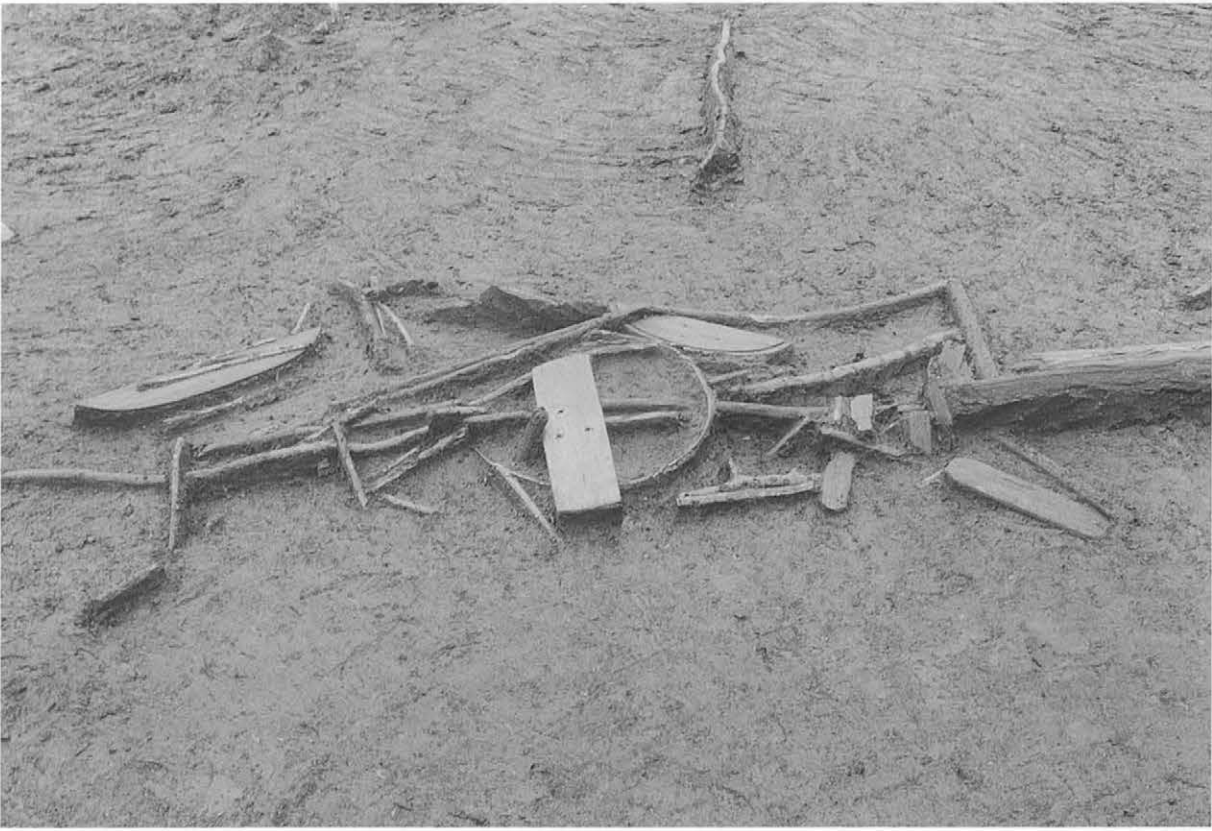
6 群 (183) 出土状況



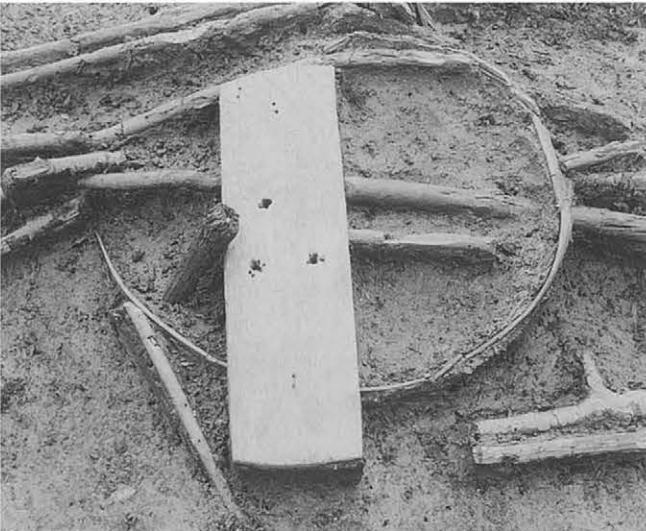
6 群 (184) 出土状況



8 群木製品等出土状況



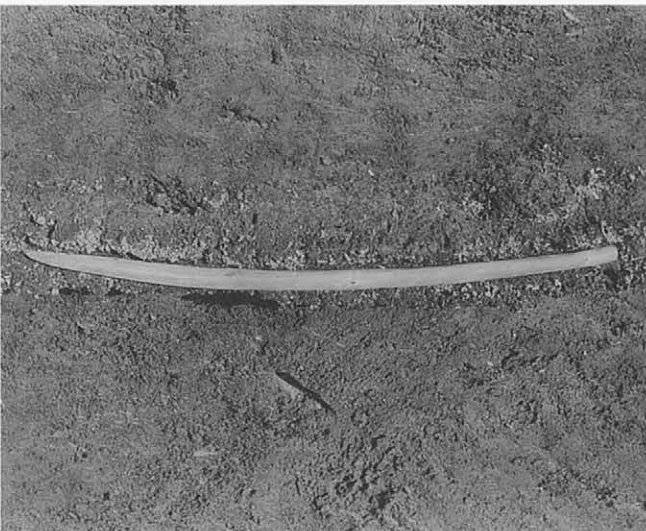
7 群木製品等出土状況



7 群 (107, 174) 出土状況



8 群木製品等出土状況



その他木製品 (199) 出土状況



8 群 (34, 108) 出土状況



11~13群木製品等出土状況



11群 (35) 出土状況



11群 (35) 出土状況



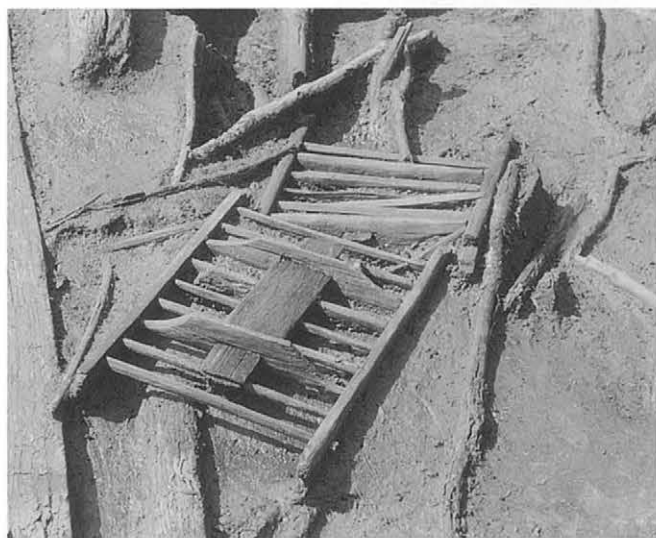
東区下部木製品等出土状況



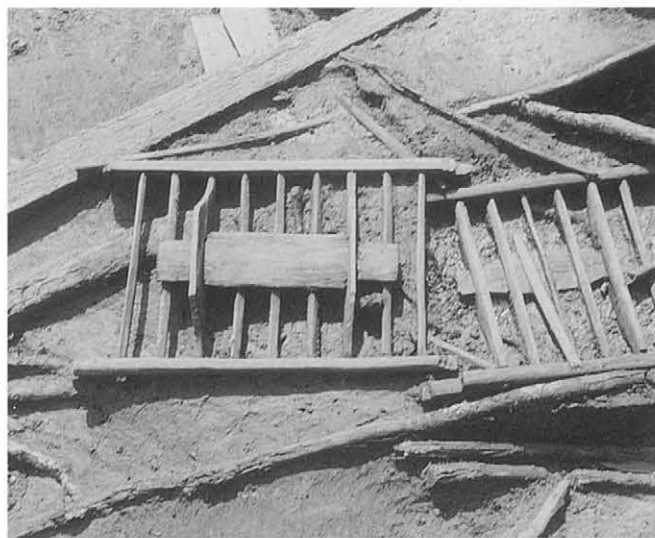
東区下部木製品等出土状況



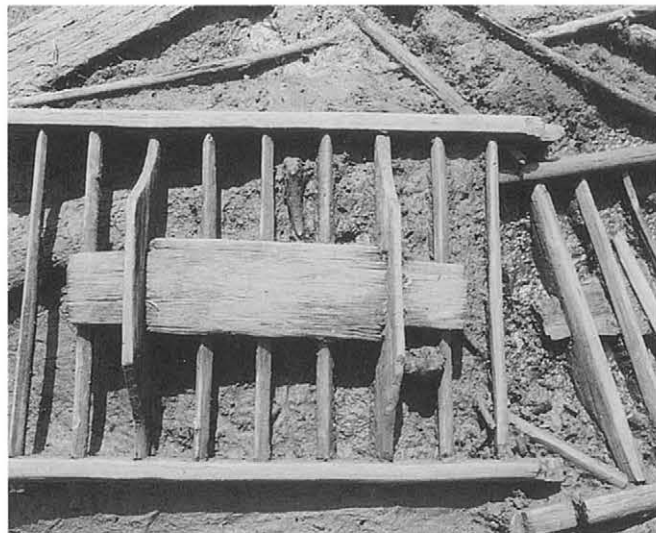
14群木製品等出土状況



14群 (1, 2) 出土状況



14群 (1, 2) 出土状況

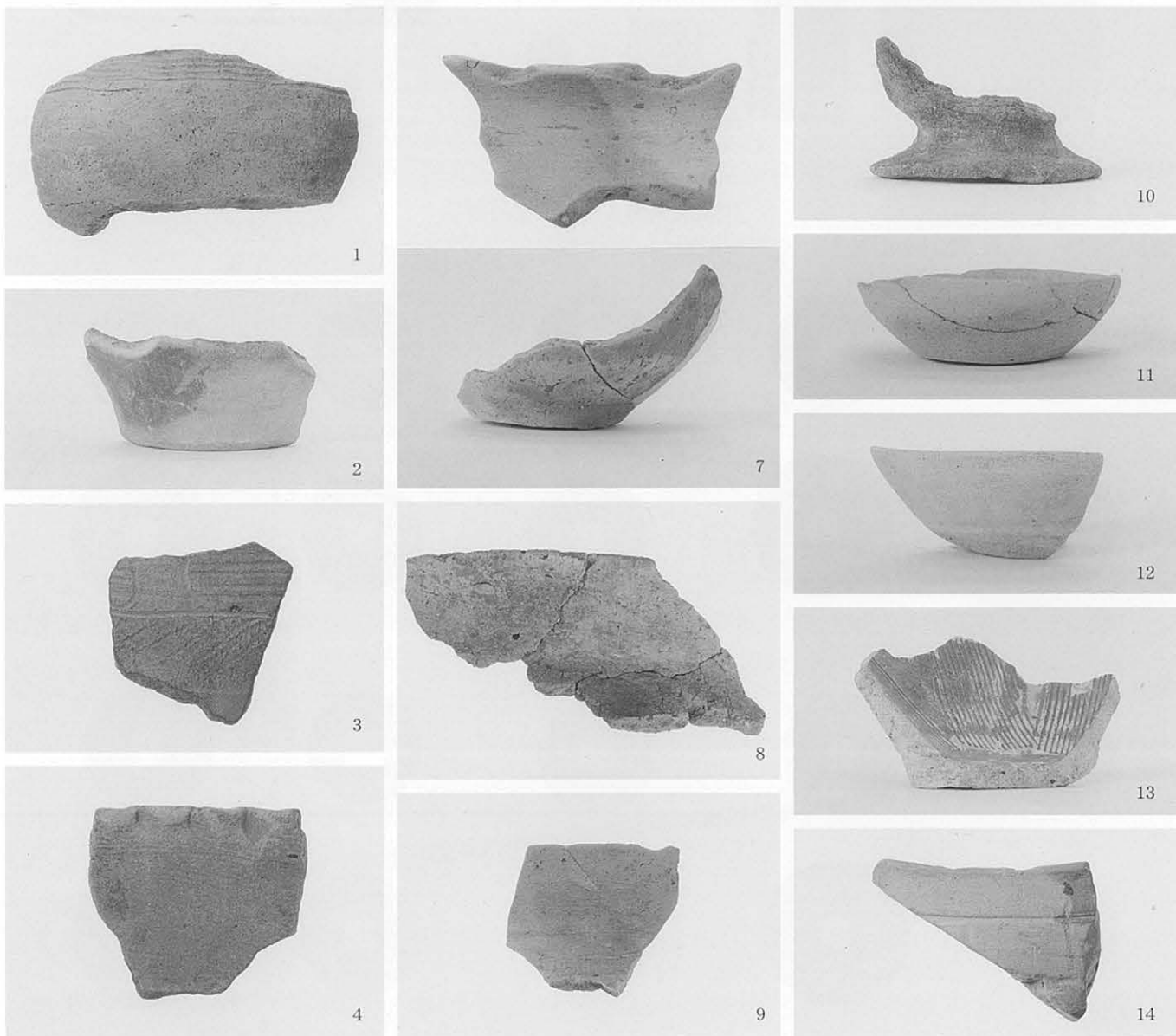


14群 (1) 出土状況

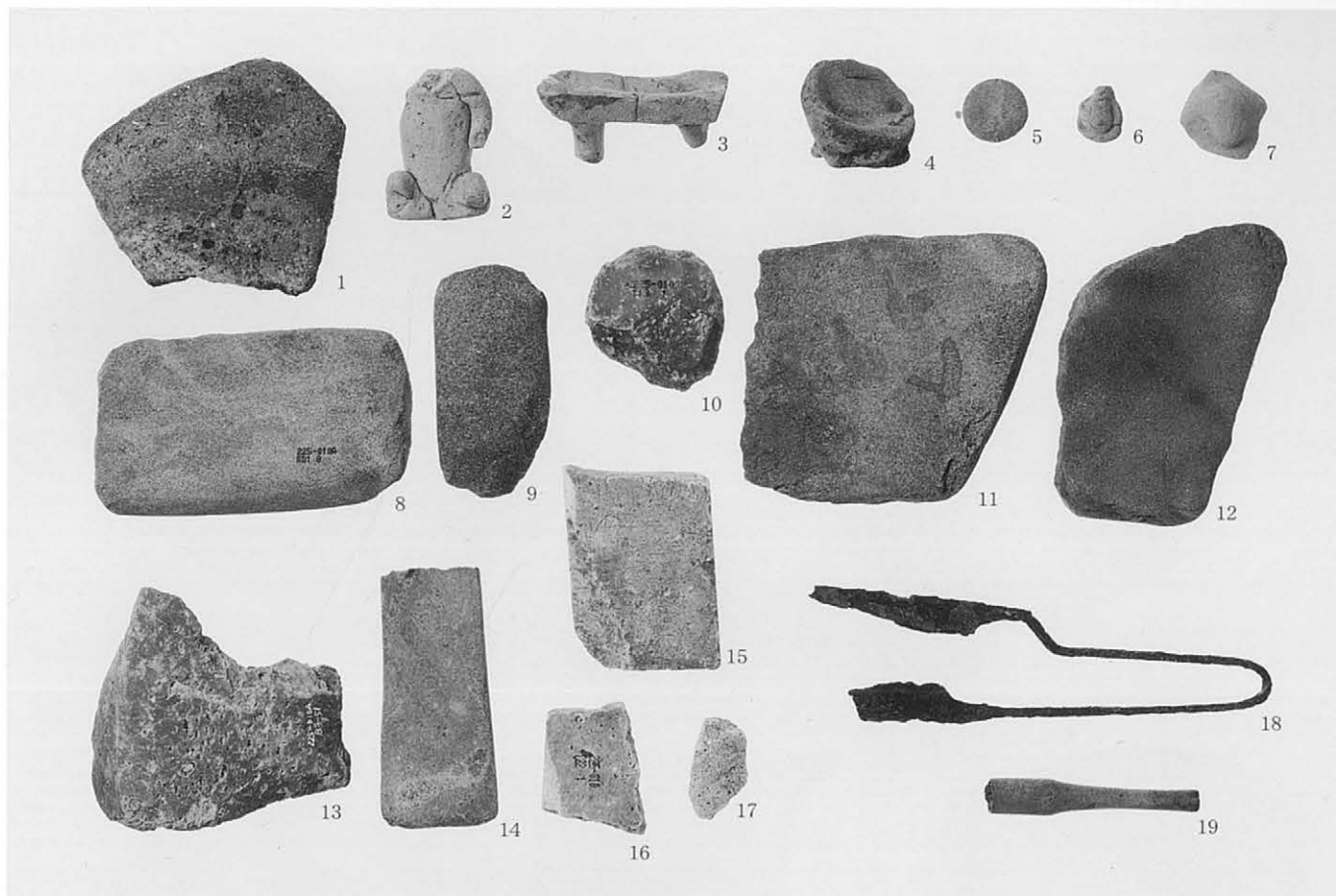


14群 (2) 出土状況

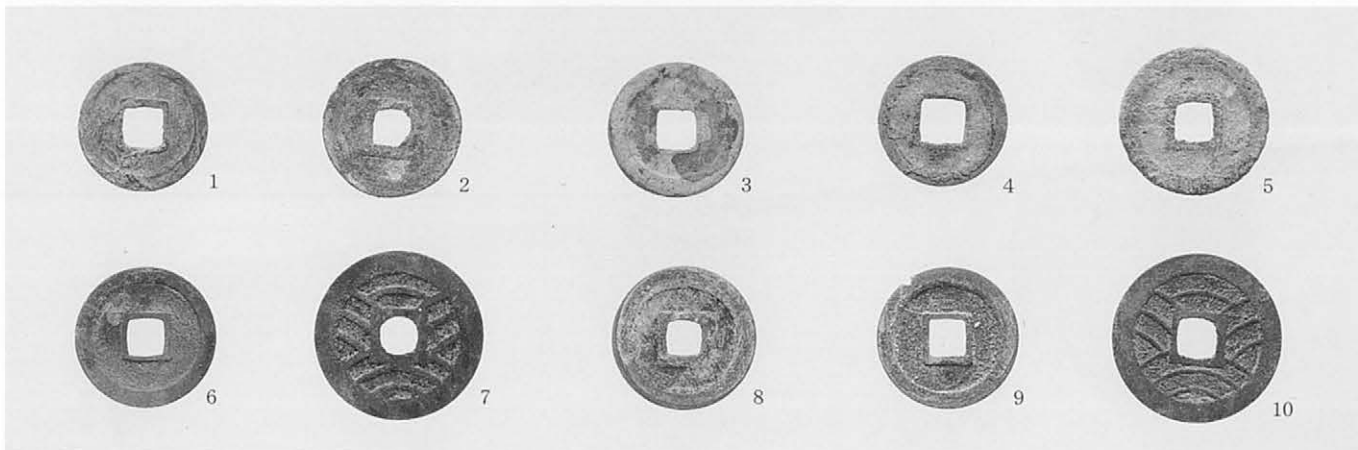
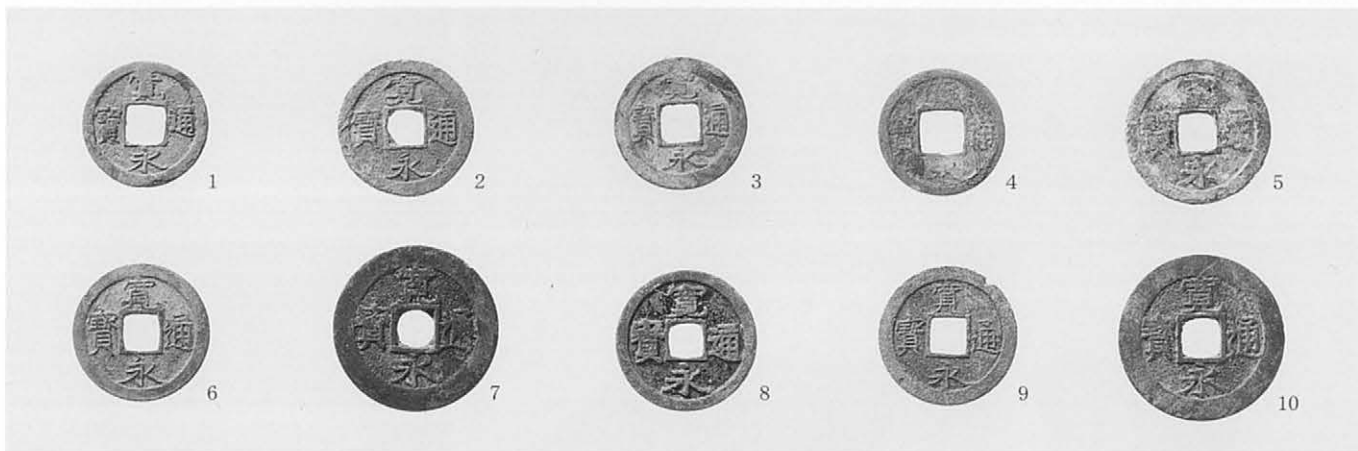




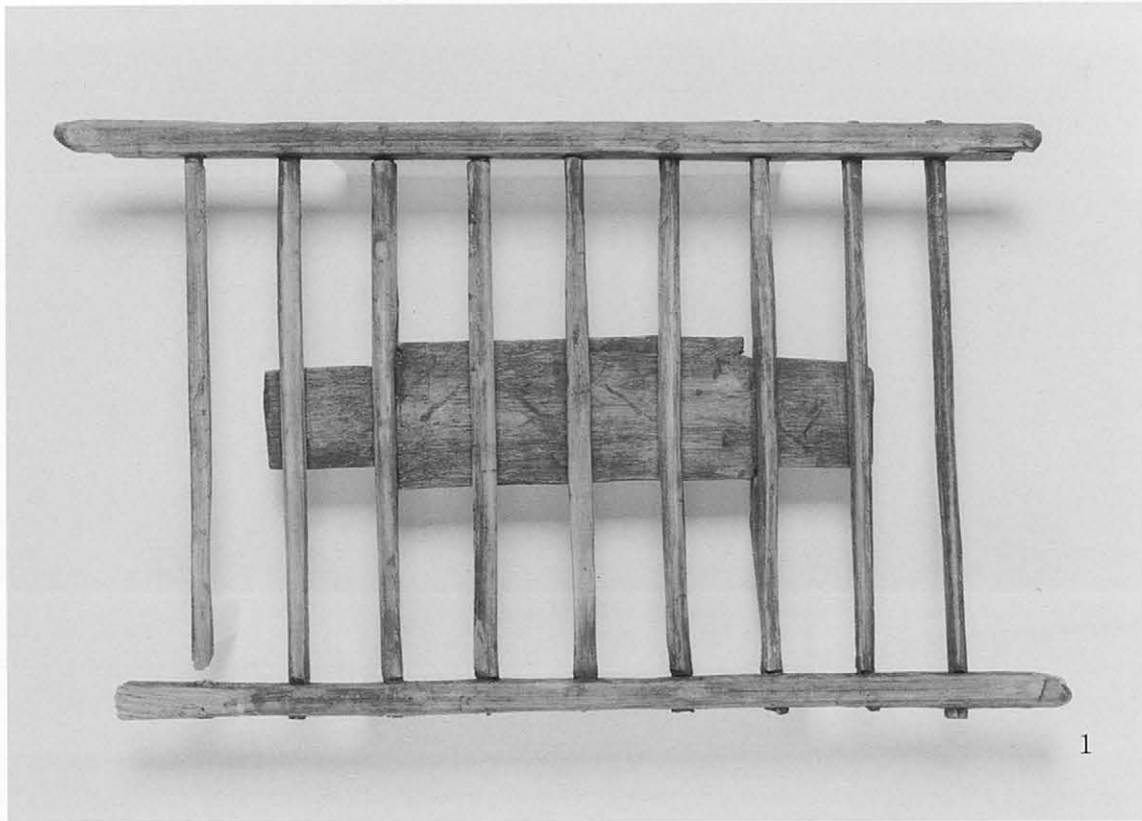
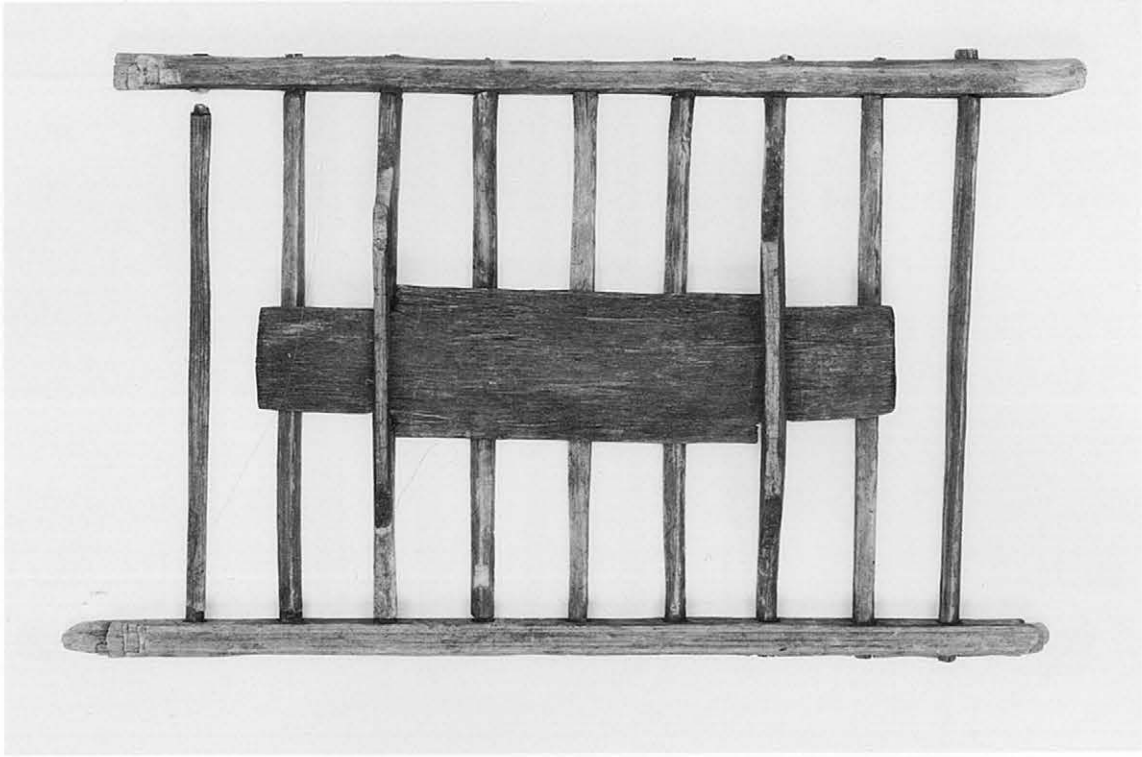
出土土器



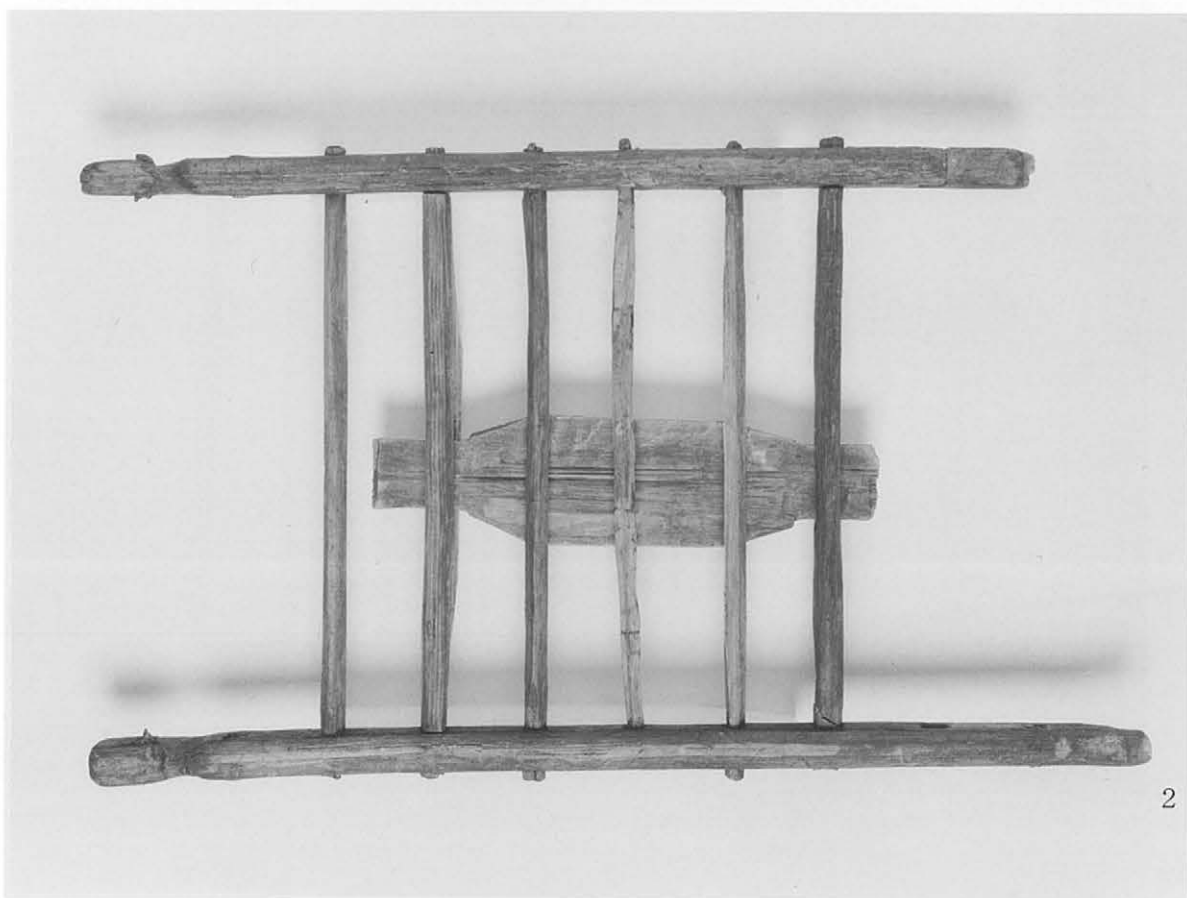
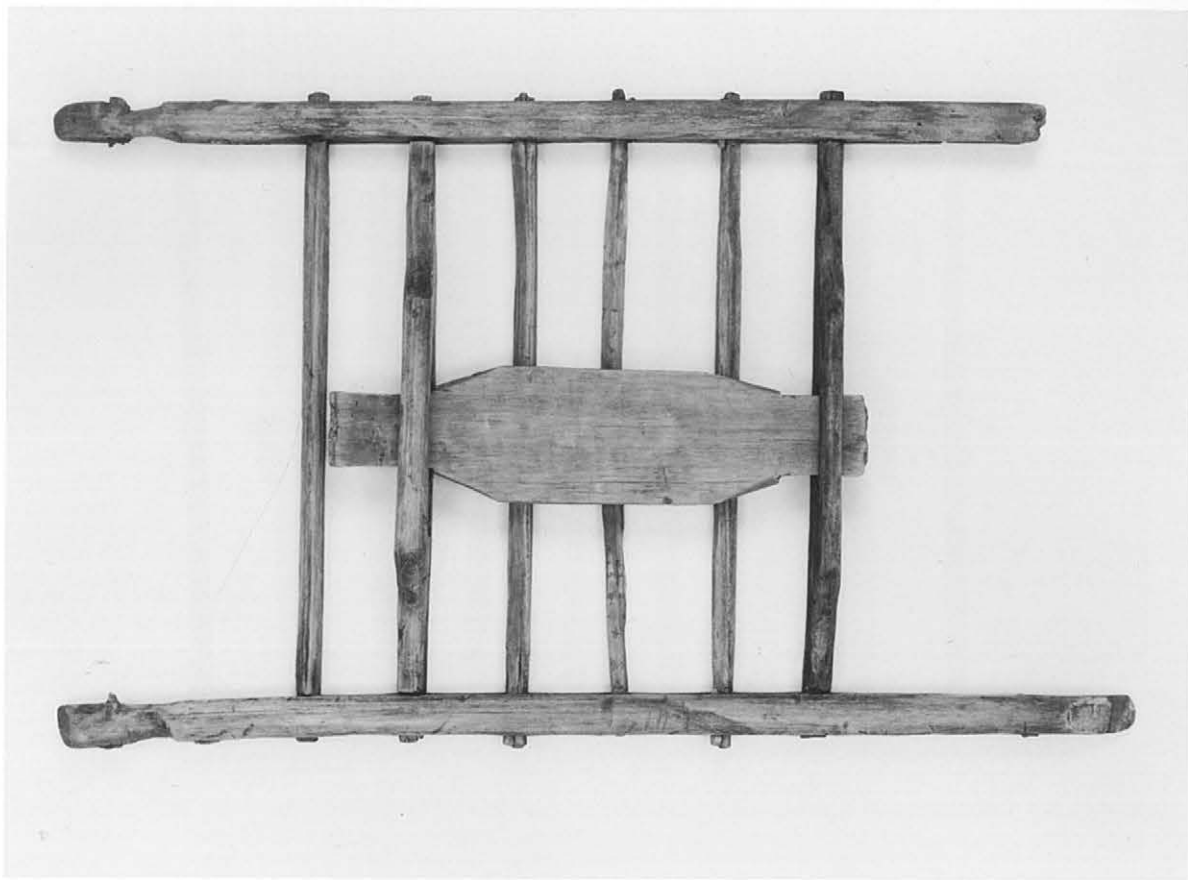
出土土製品・石器・金属製品



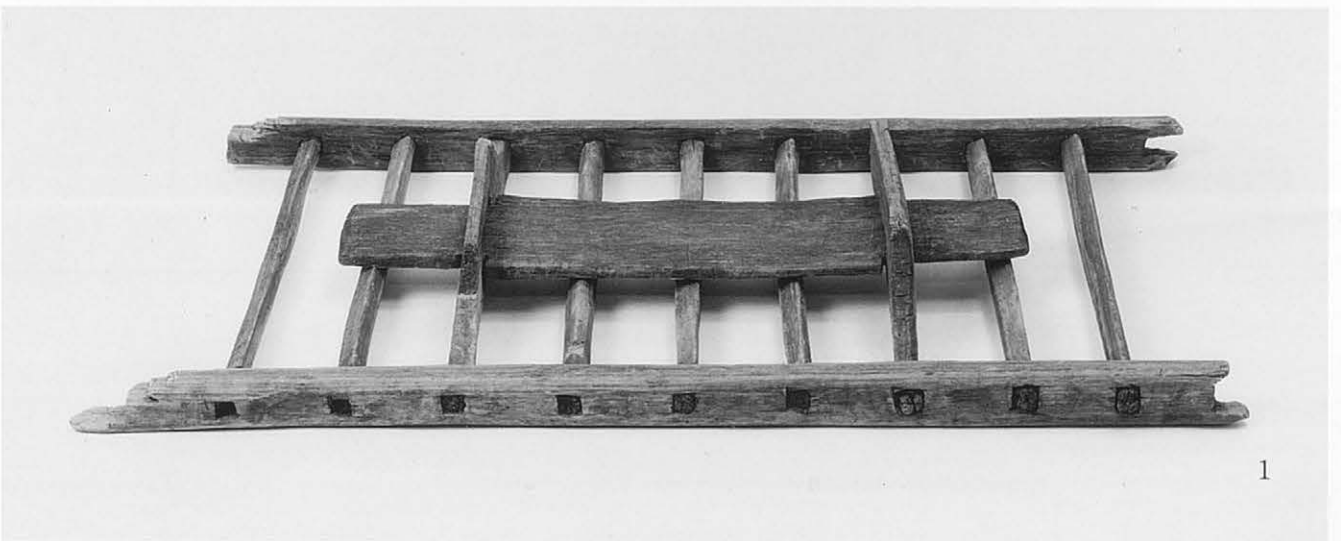
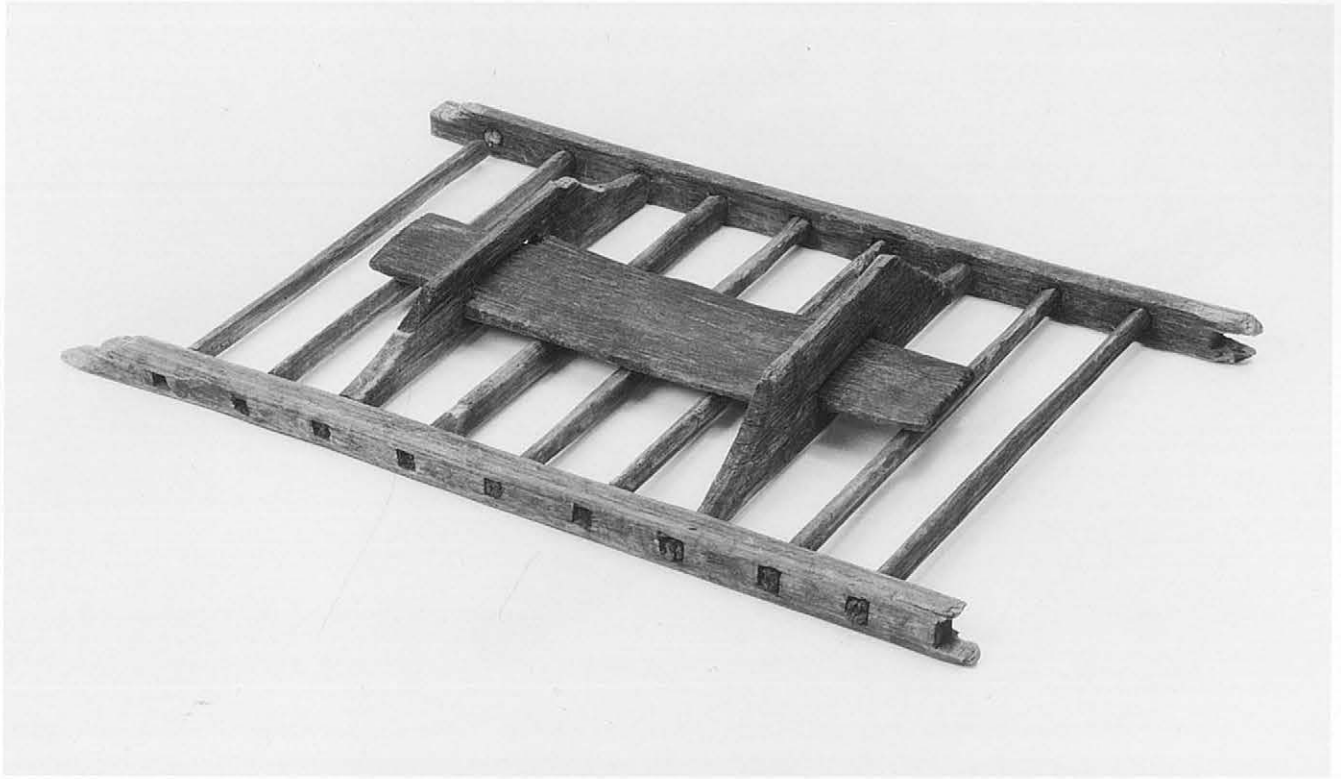
出土銭貨



出土木製品 1

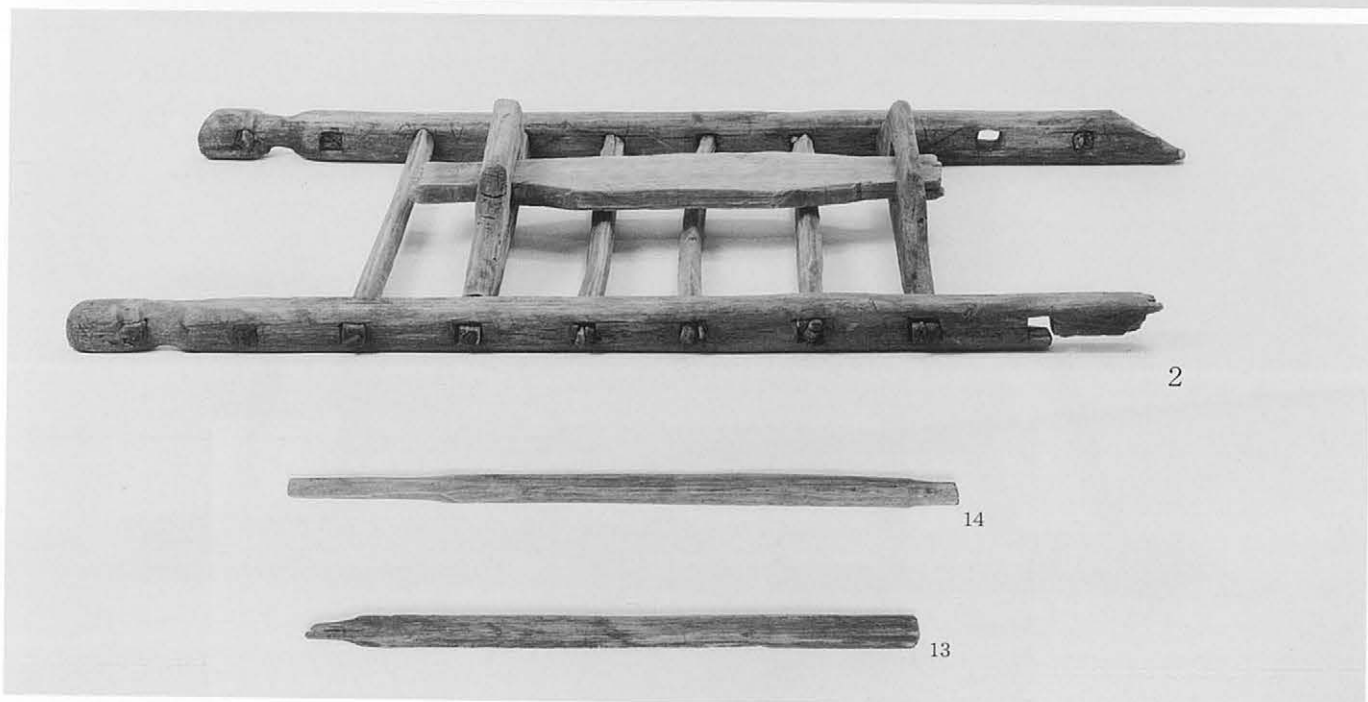
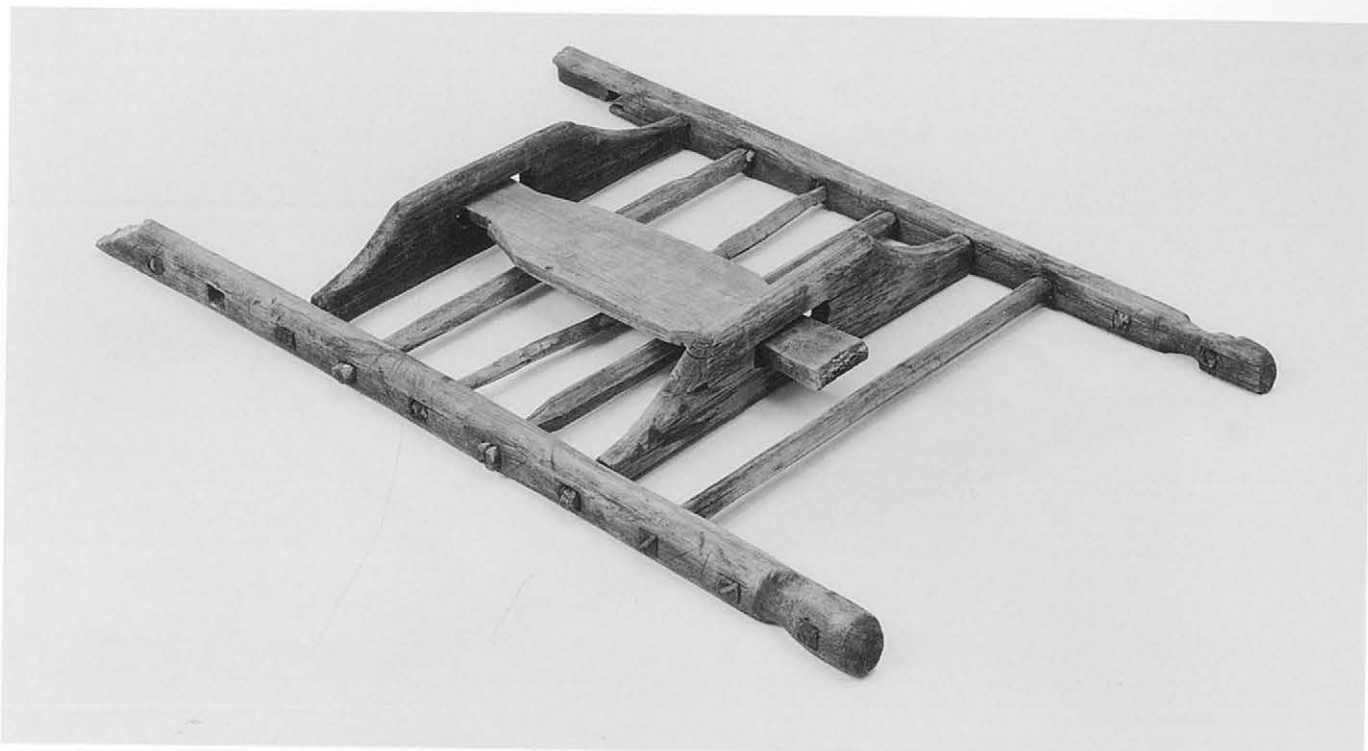


出土木製品 2

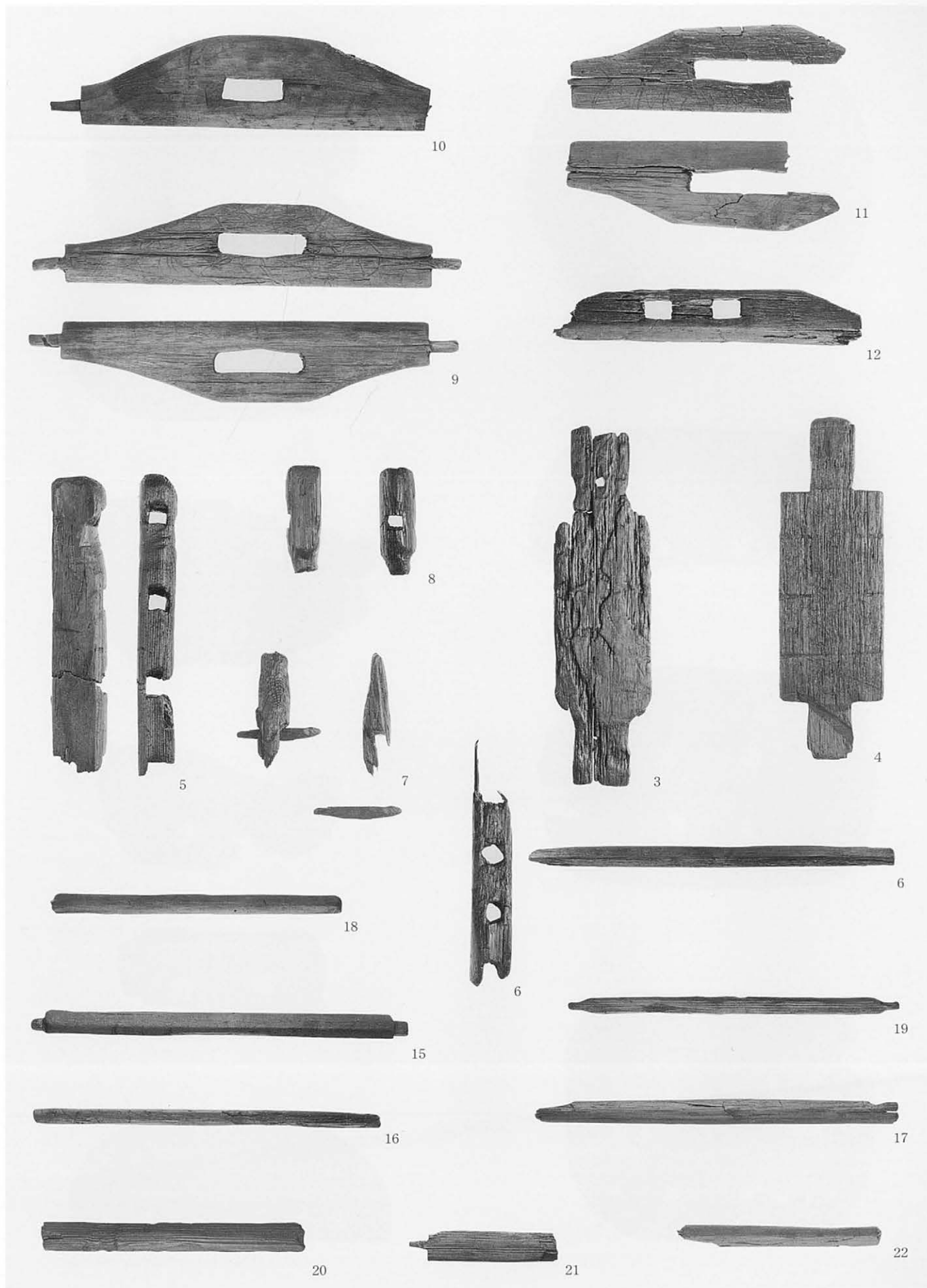


1

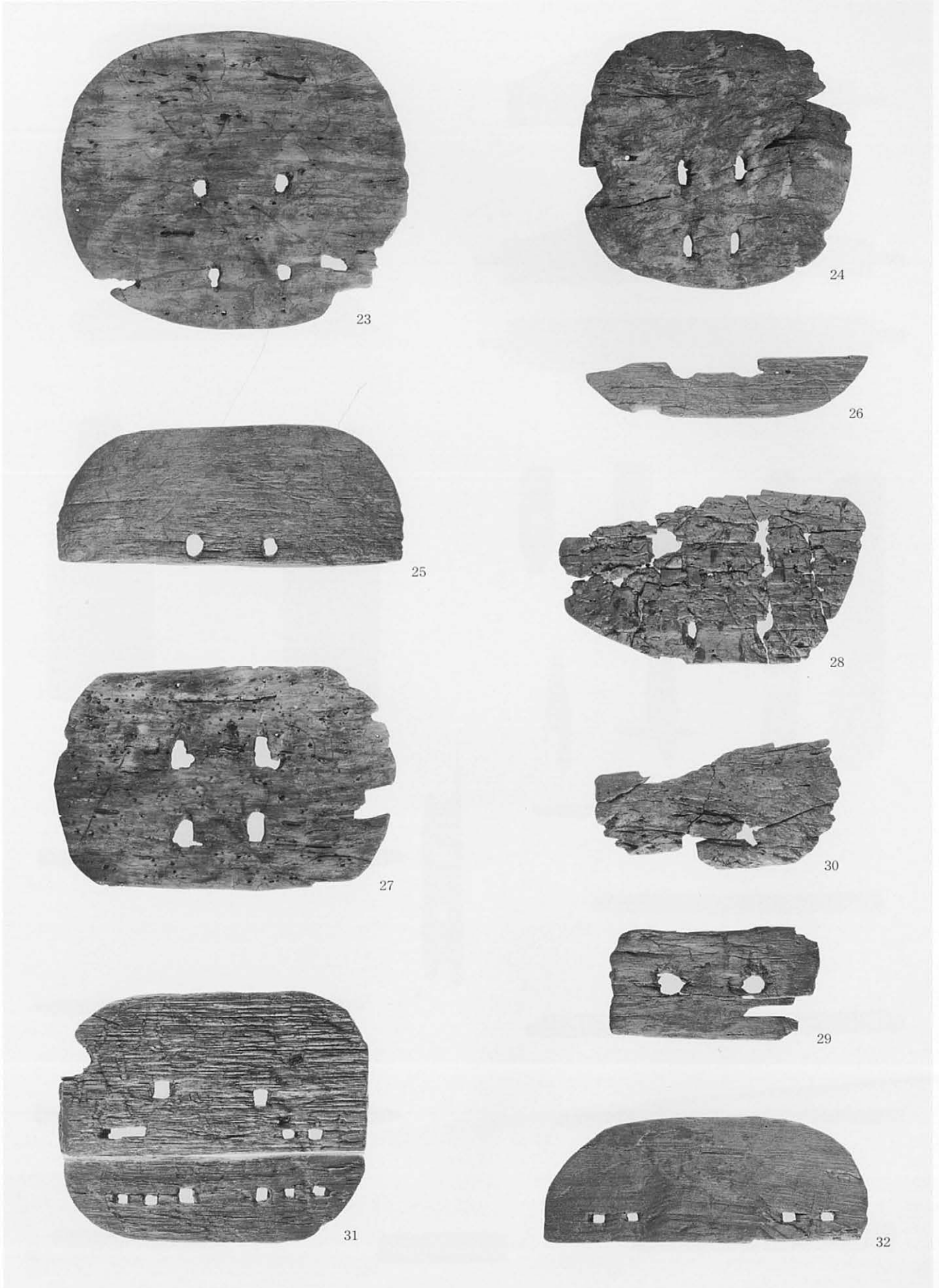
出土木製品 3



出土木製品 4

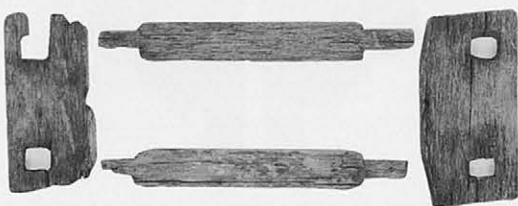
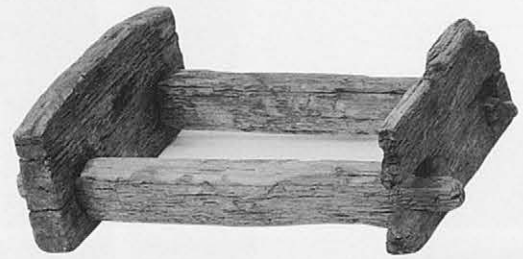
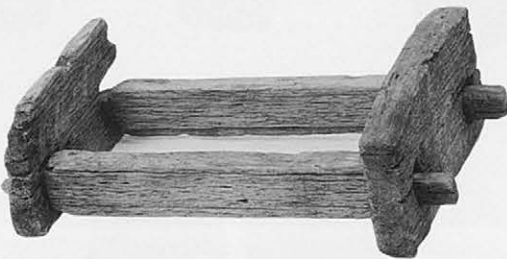
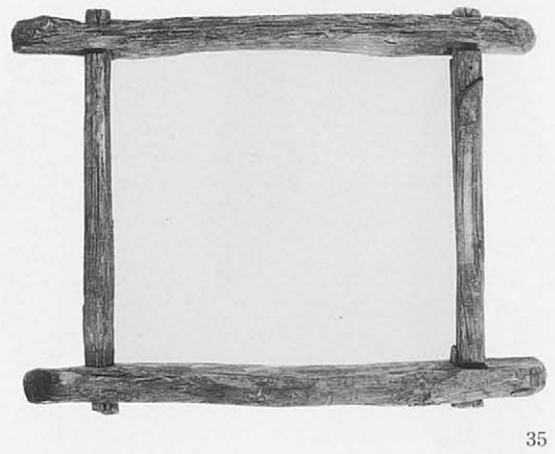
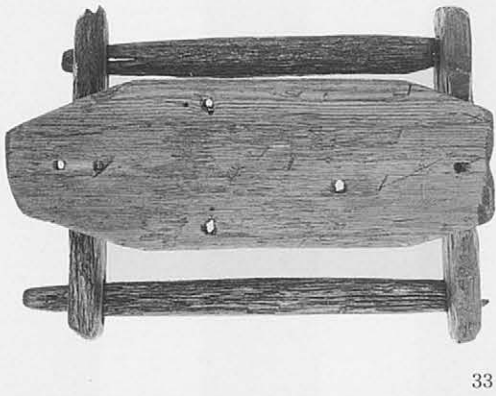
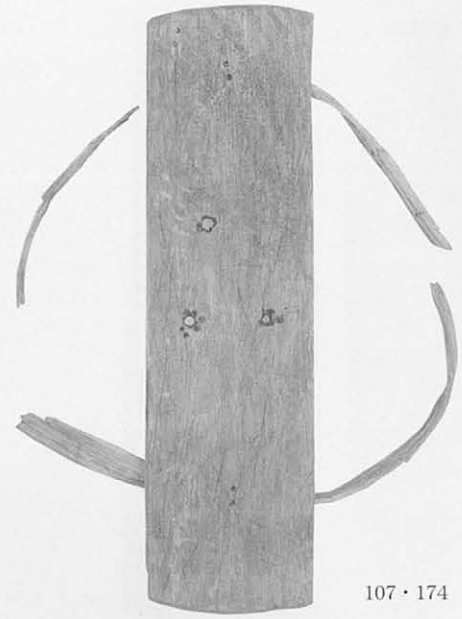
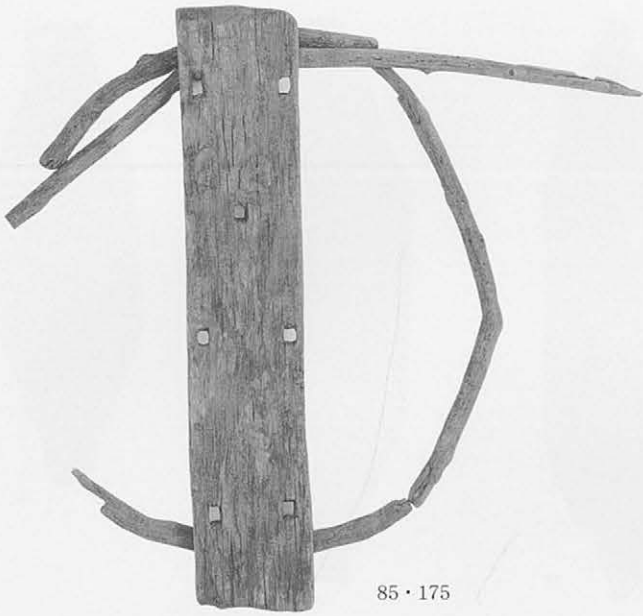


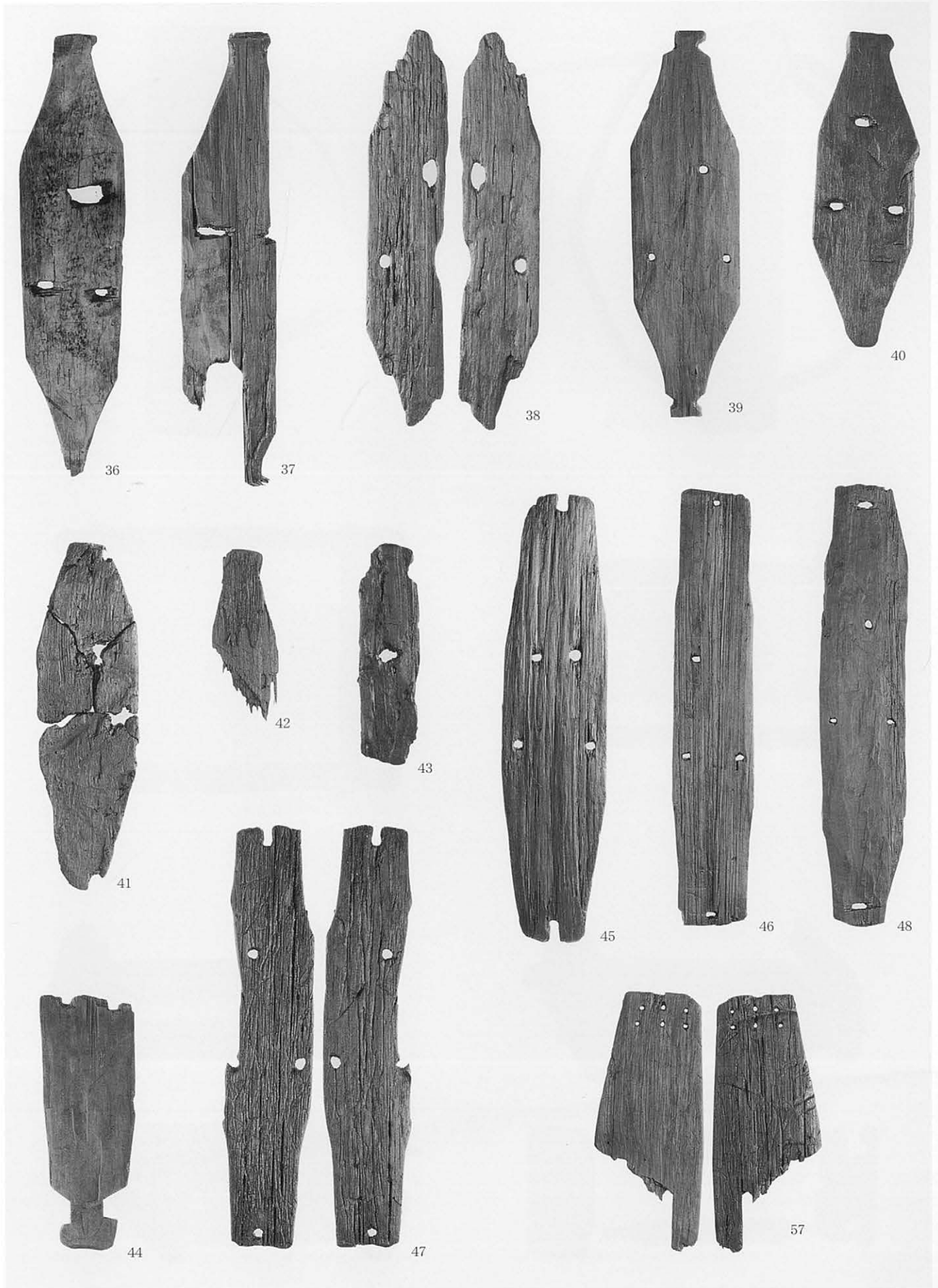
出土木製品5



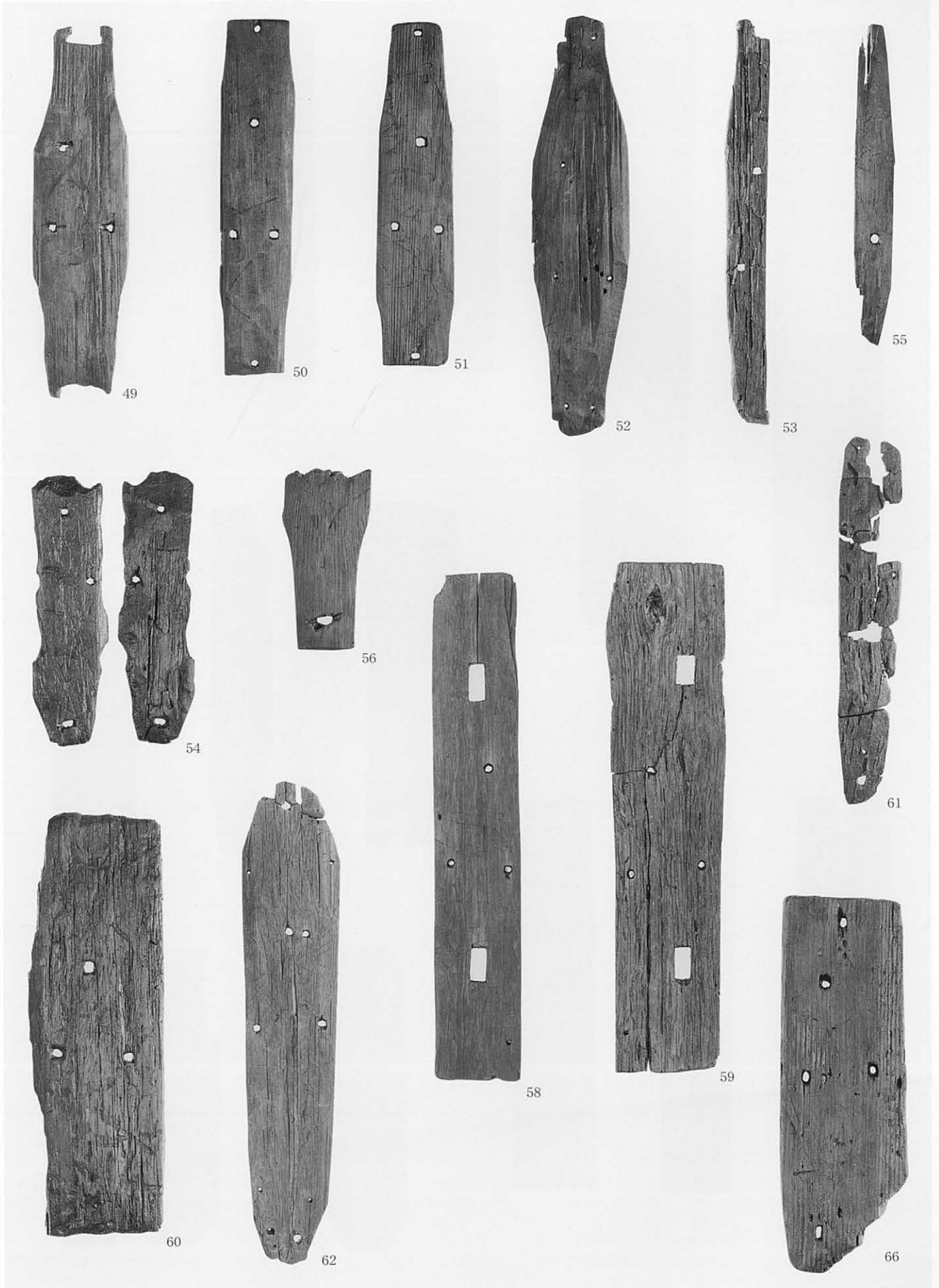
出土木製品 6



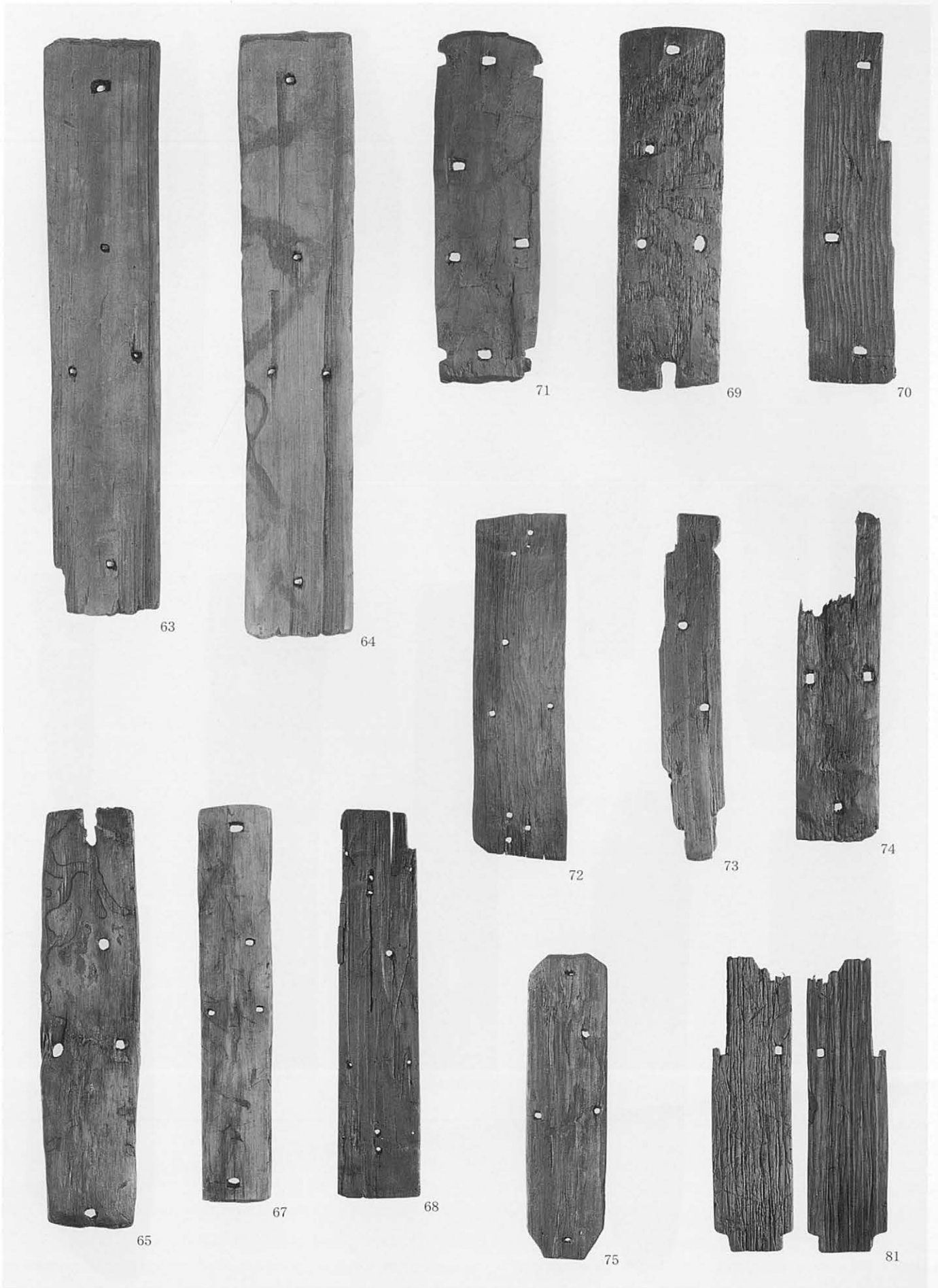




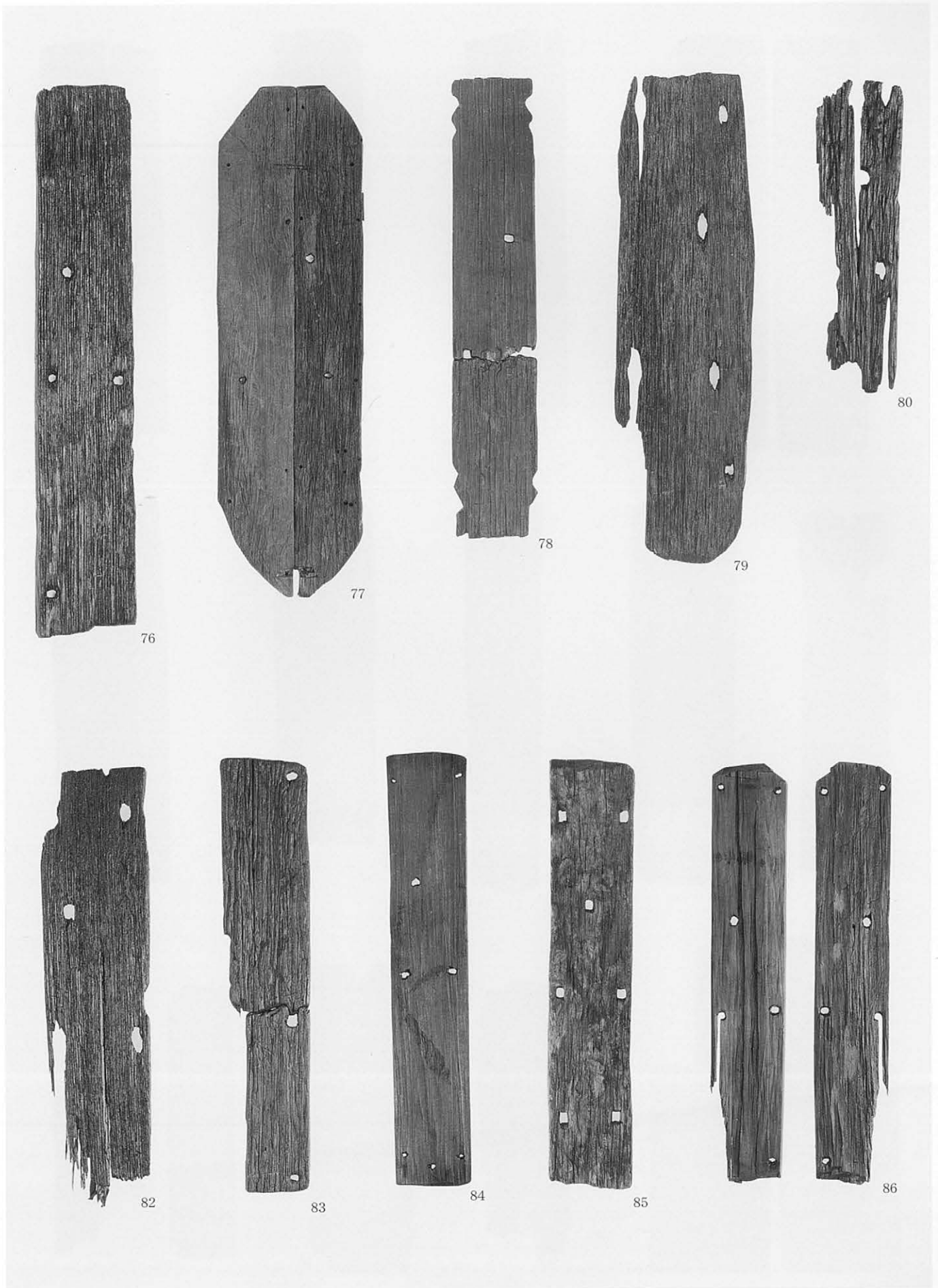
出土木製品 8



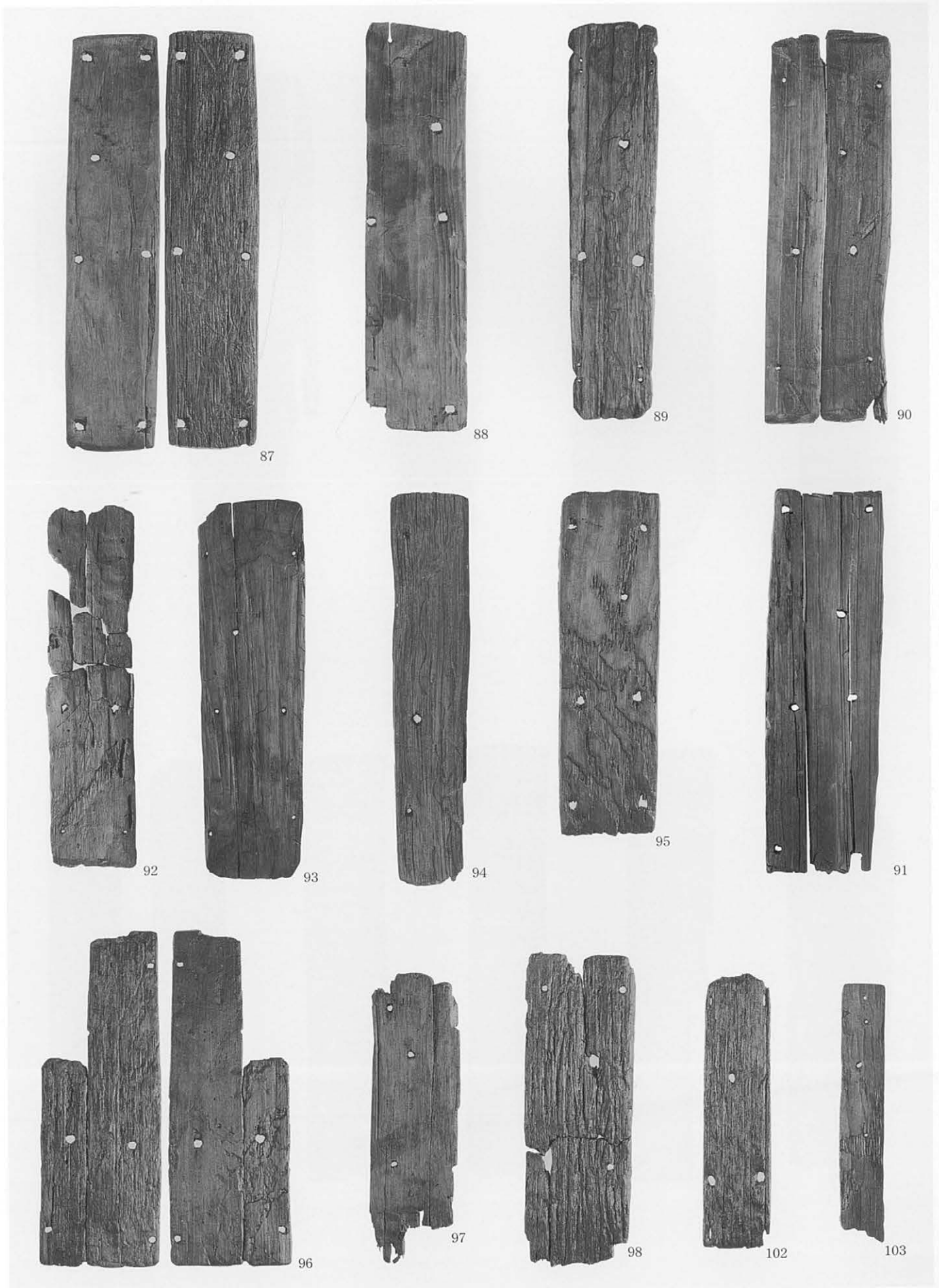
出土木製品 9



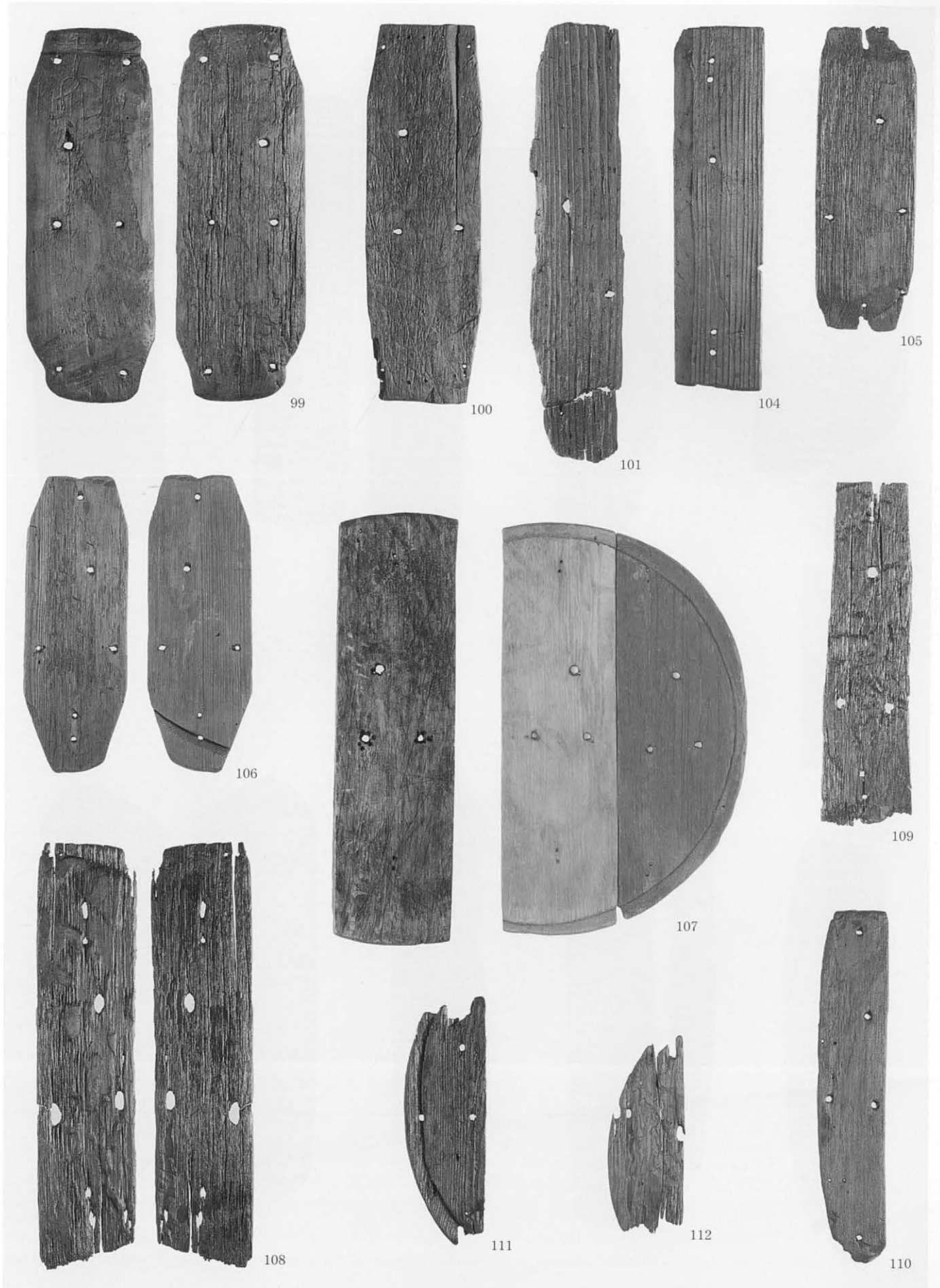
出土木製品10



出土木製品11



出土木製品12

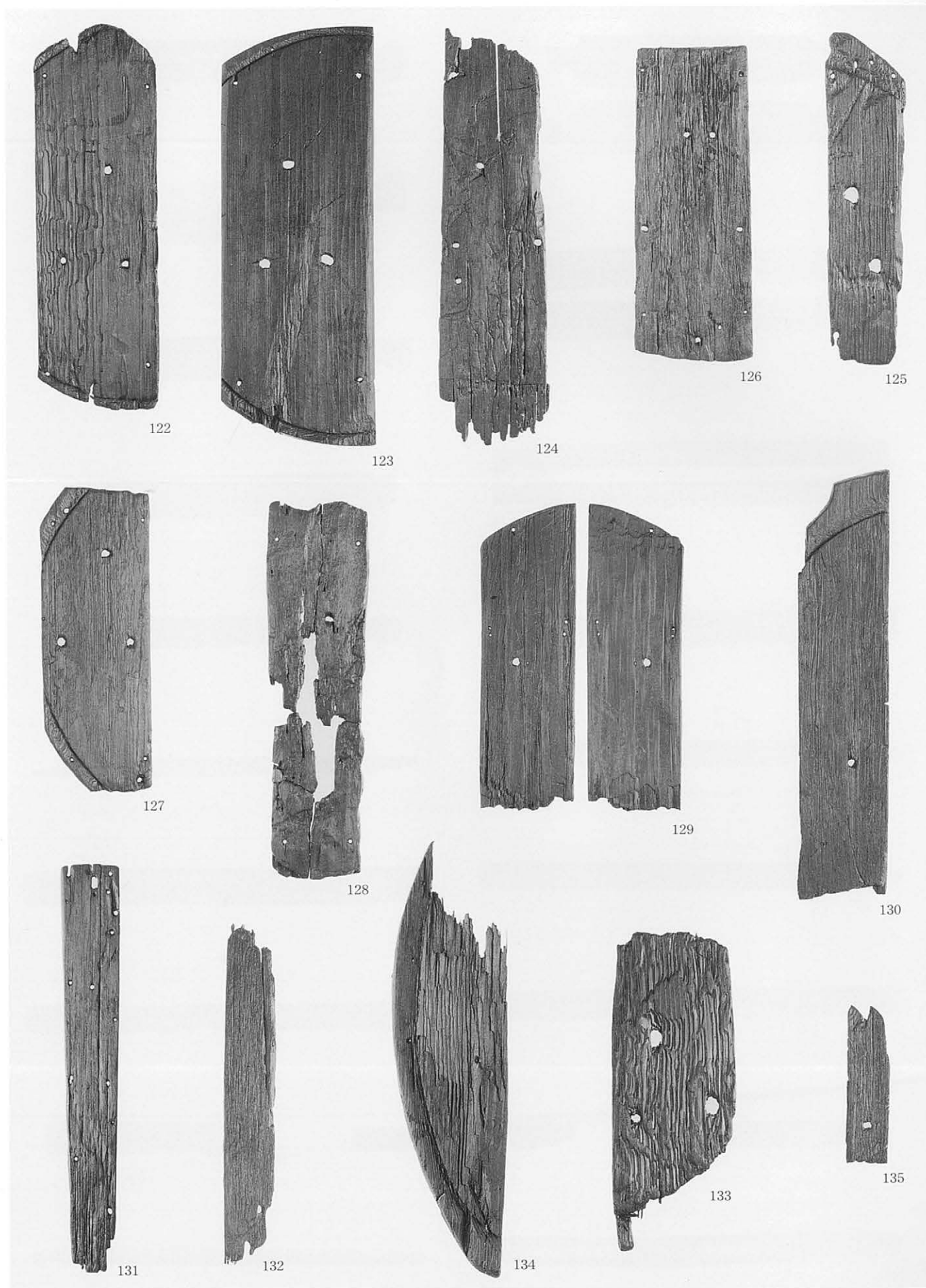


出土木製品13

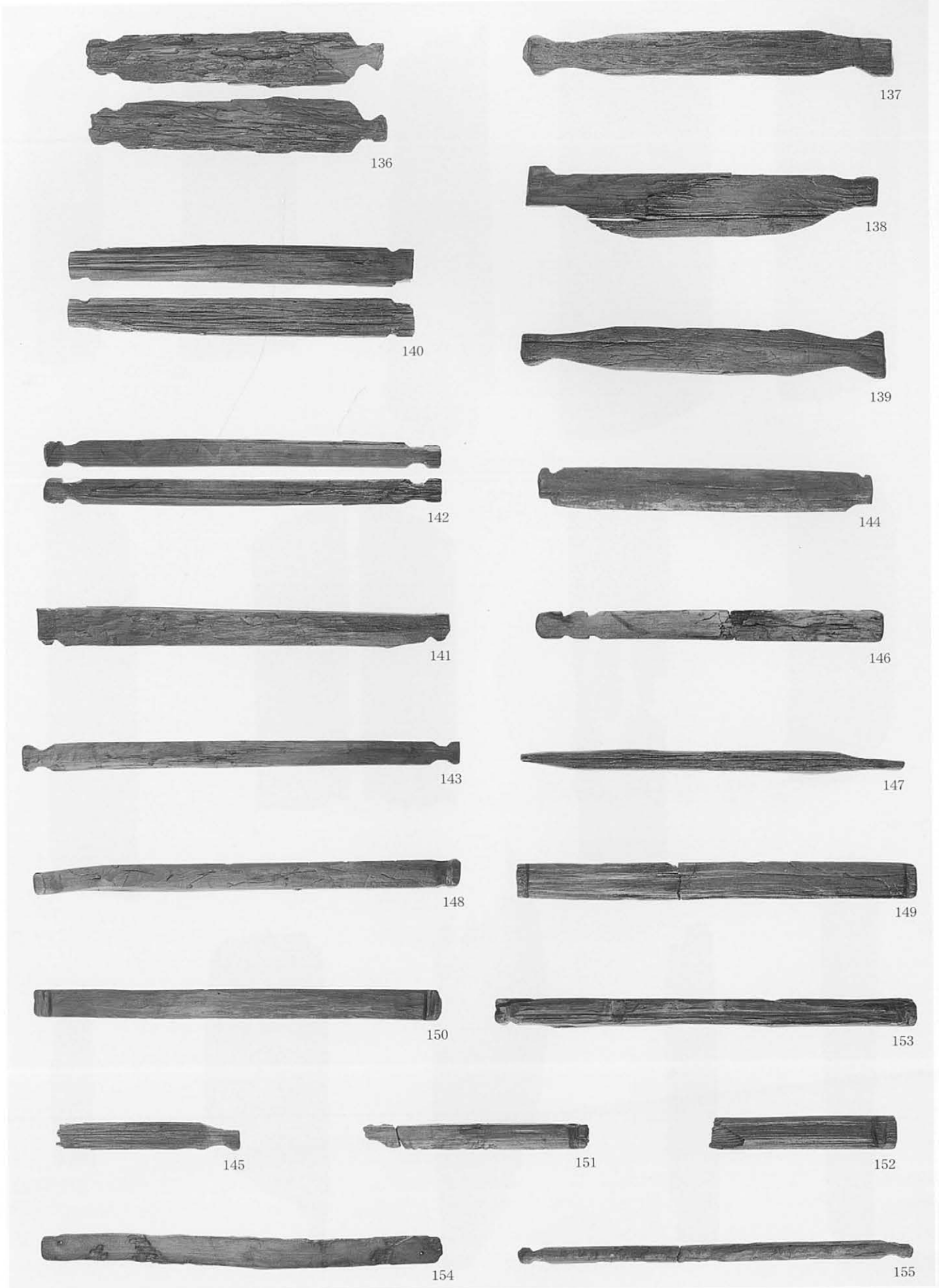


出土木製品14

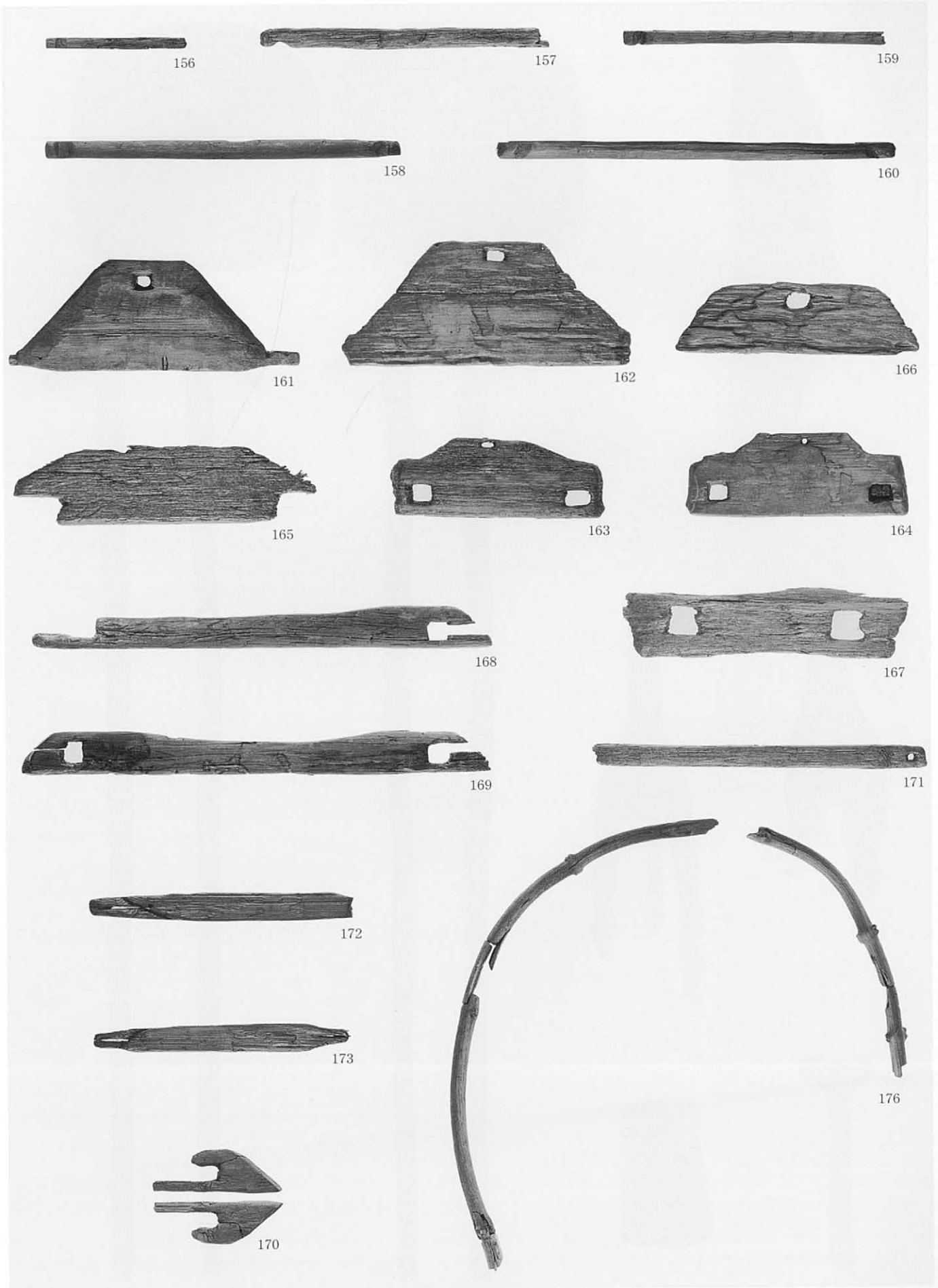




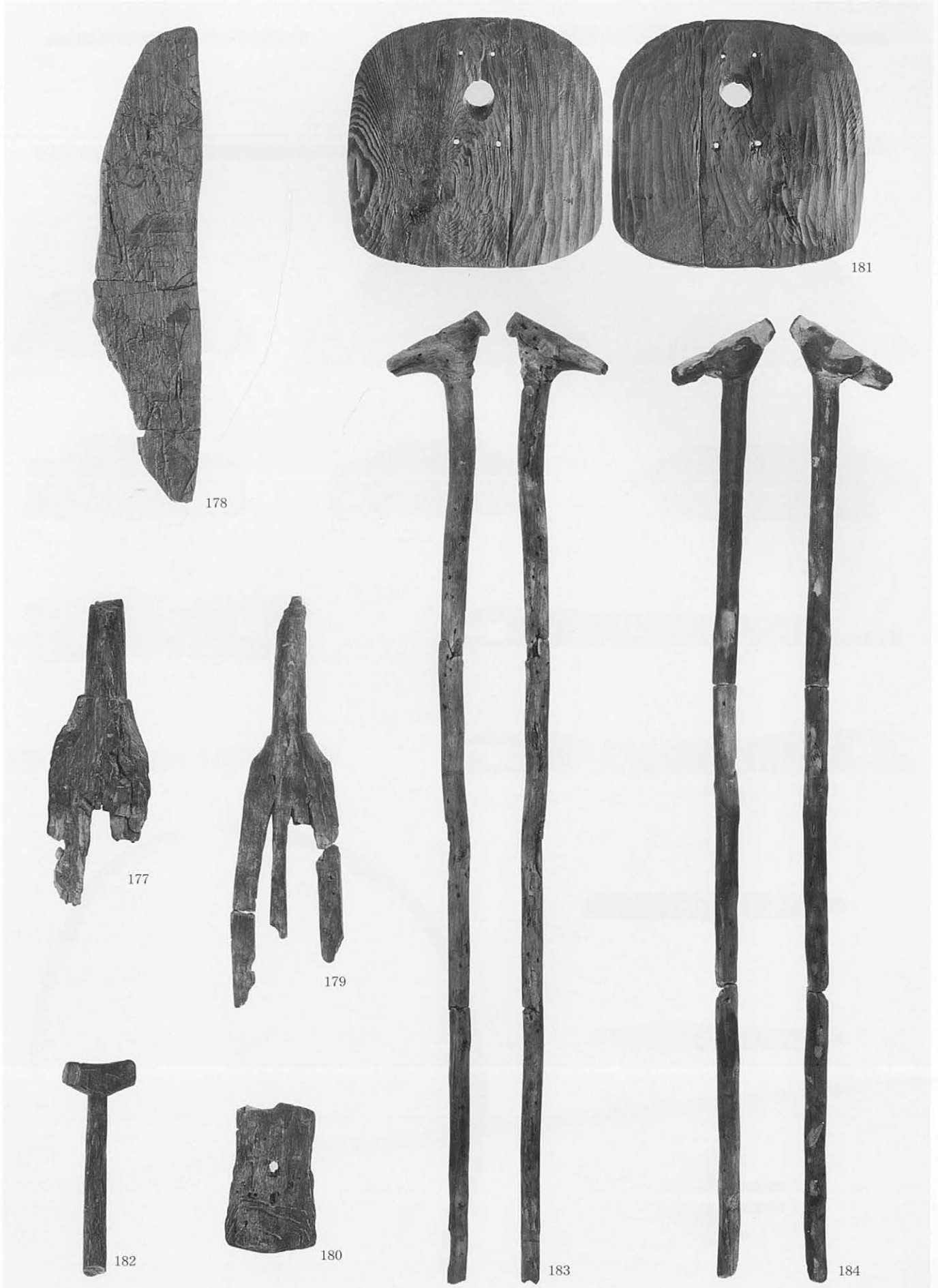
出土木製品15



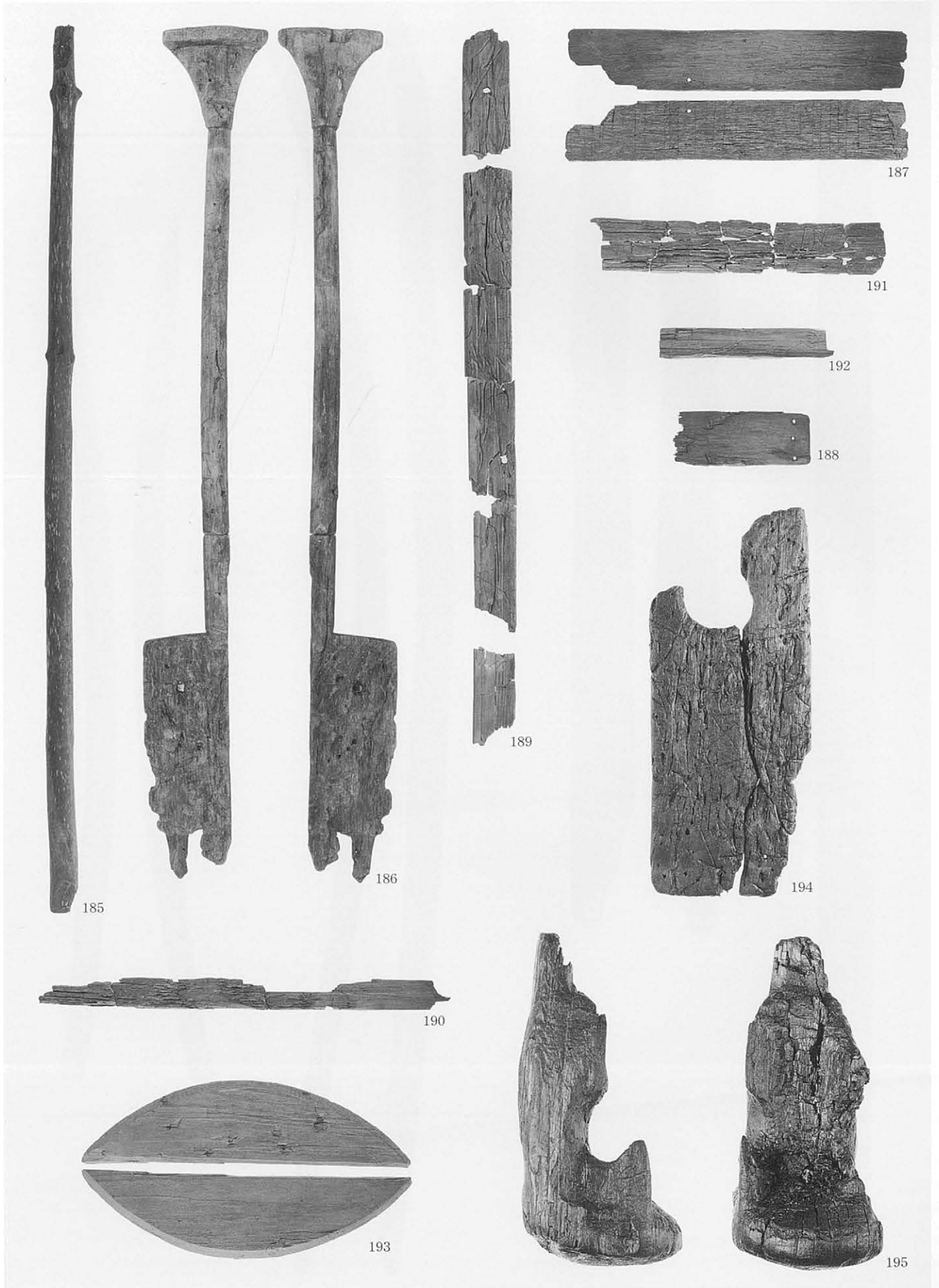
出土木製品16



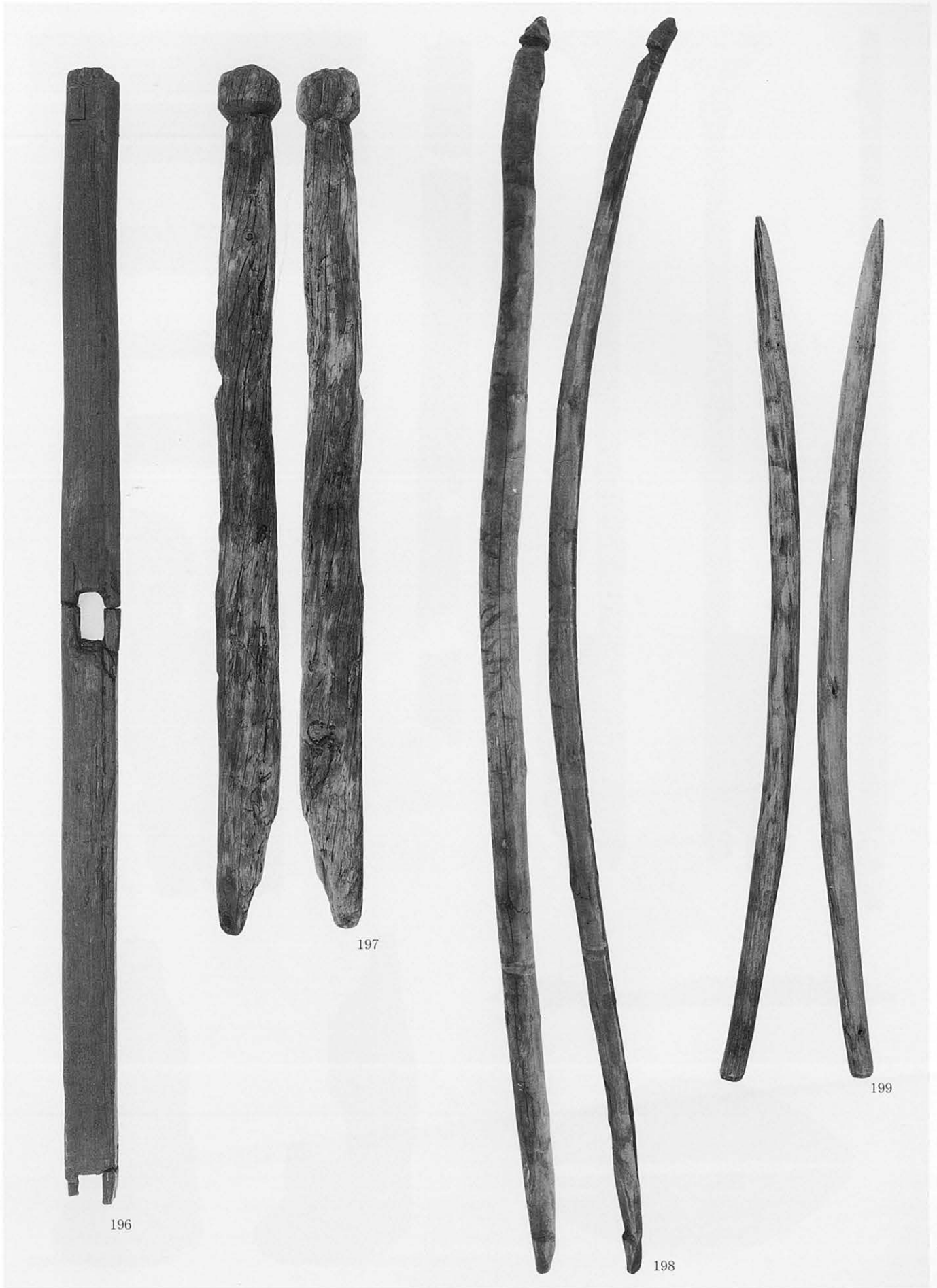
出土木製品17



出土木製品18



出土木製品19



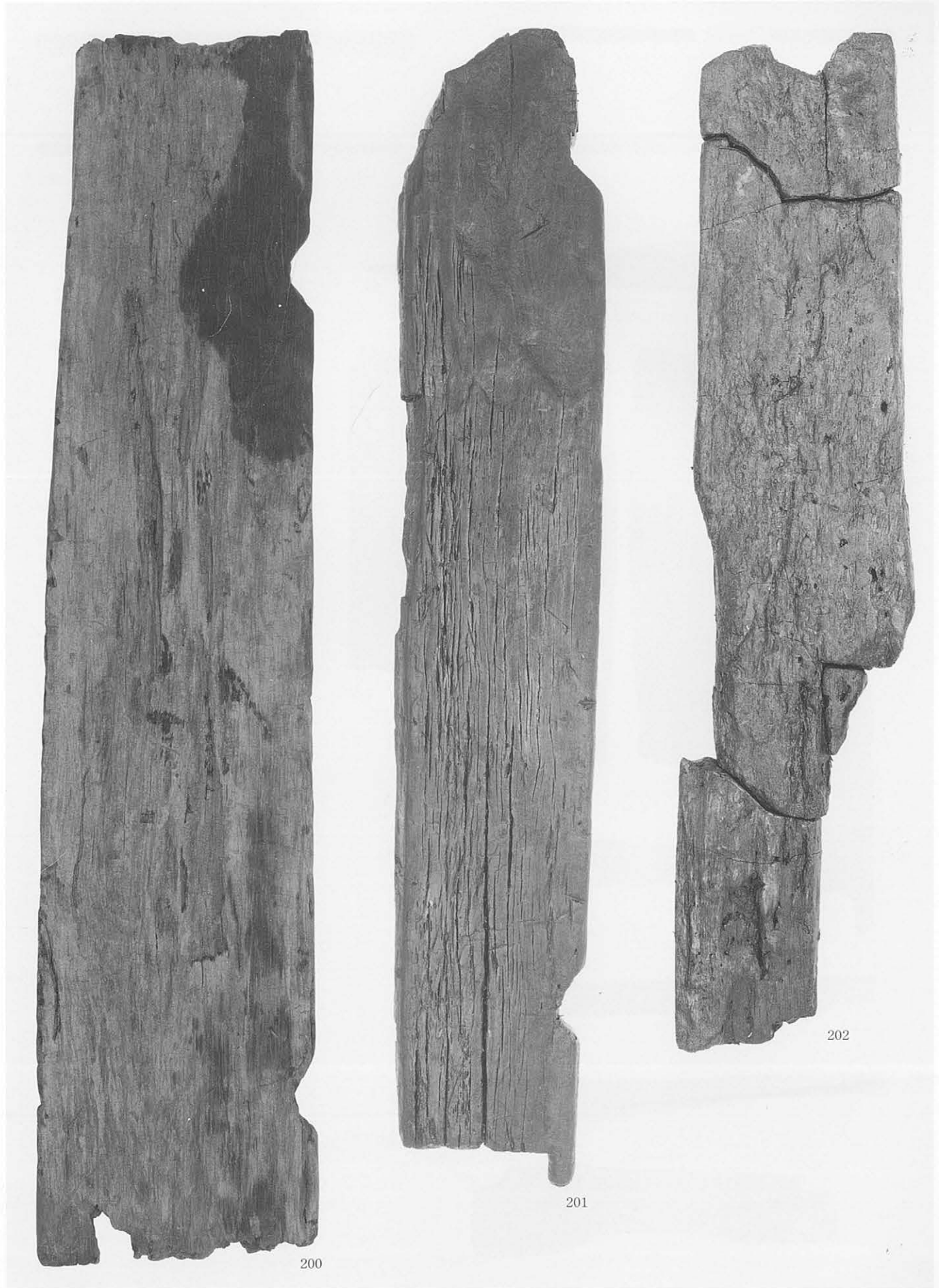
196

197

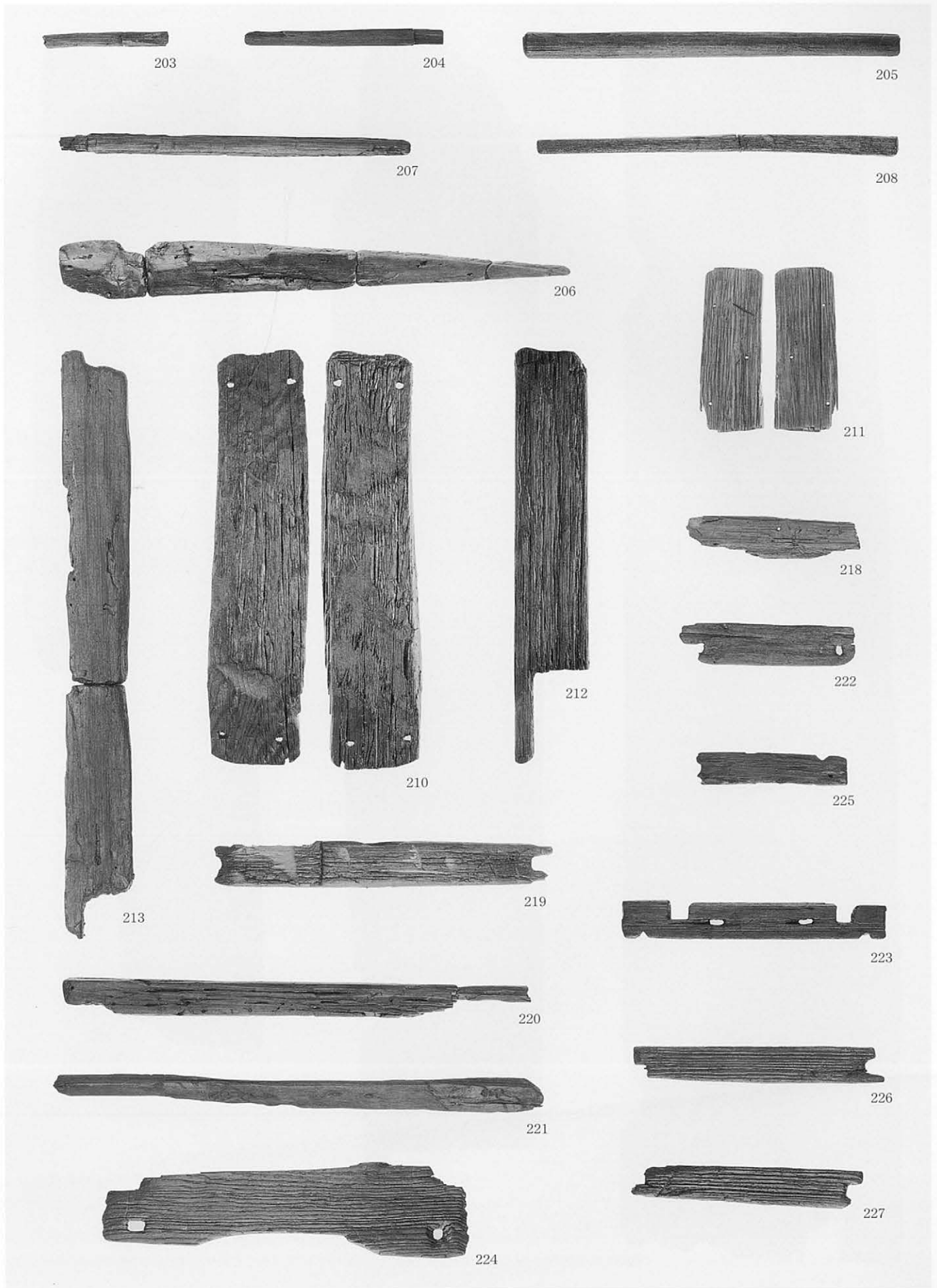
198

199

出土木製品20



出土木製品21

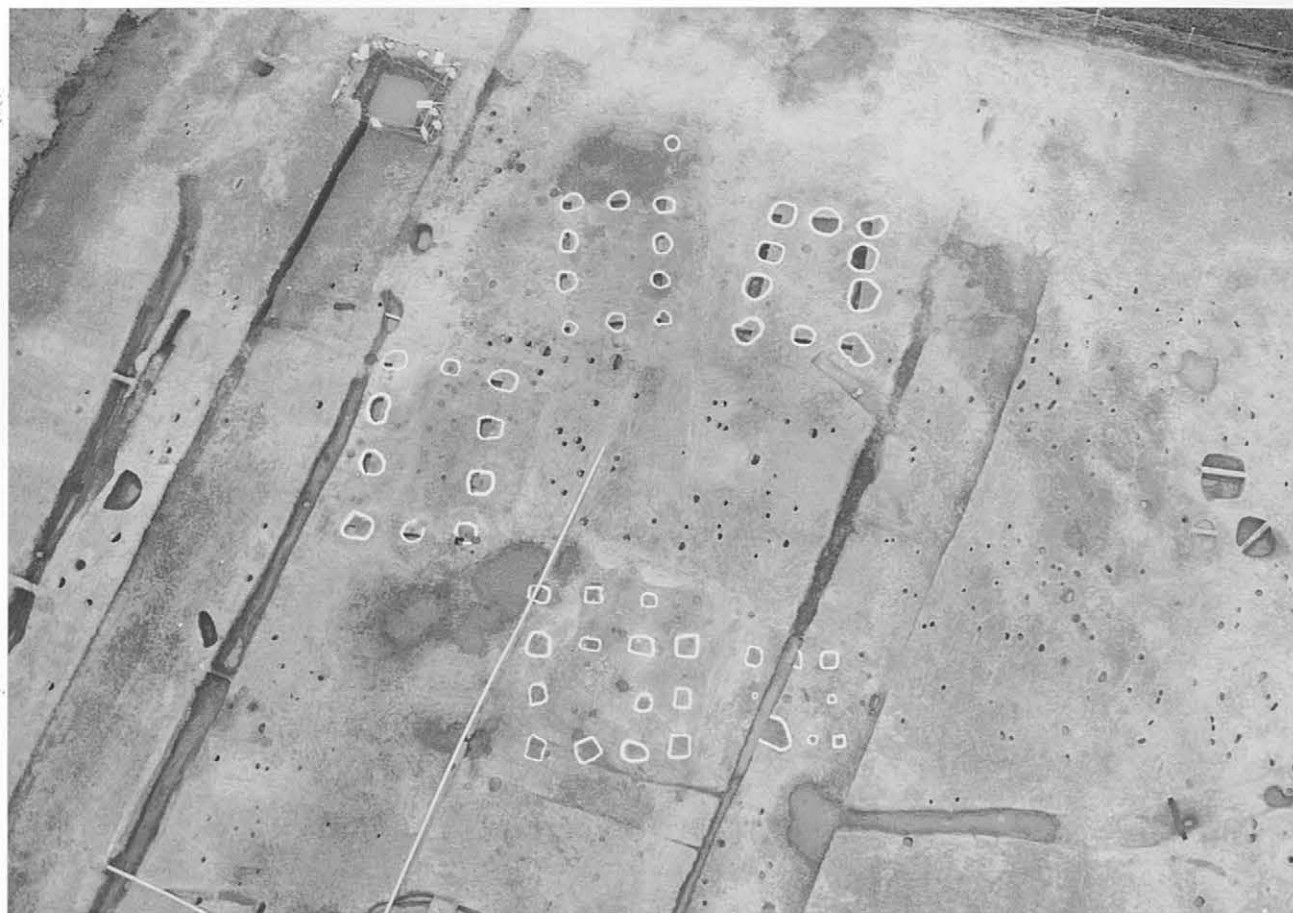


出土木製品22





出土木製品23



I区奈良・平安時代建物跡



I区（平成13年度調査区）空撮



I SI-002



I SI-001



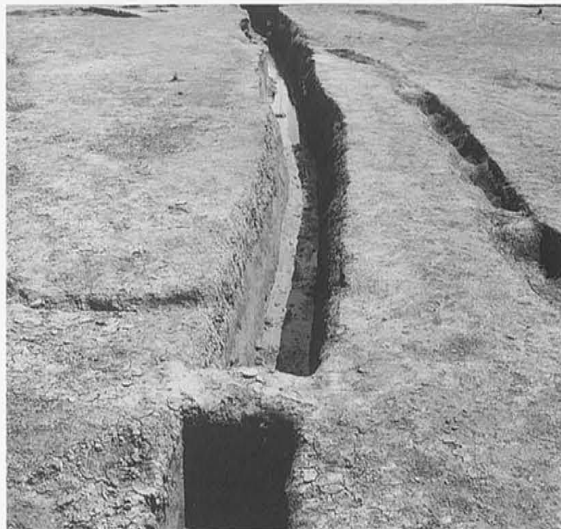
I SI-001カマド



I SI-005



I SK-006



I SD-031 · III SD-008

I SI-007



I SB-014



II SB-003・004





II SB-001



I SB-002



I SB-001 • 003

I SB-004



I SB-010

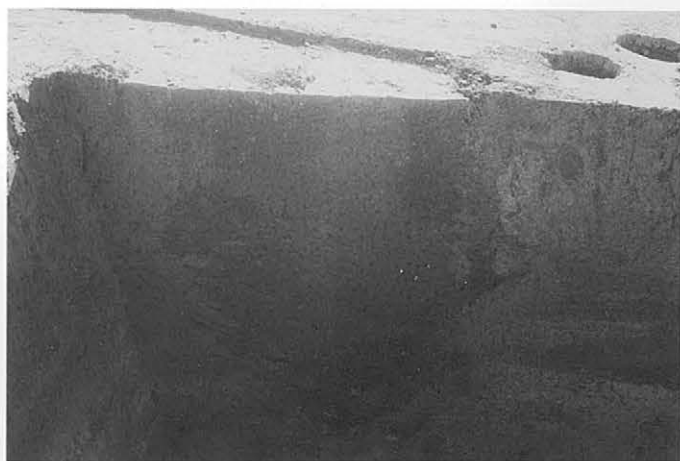


I SB-005





IVSE-006



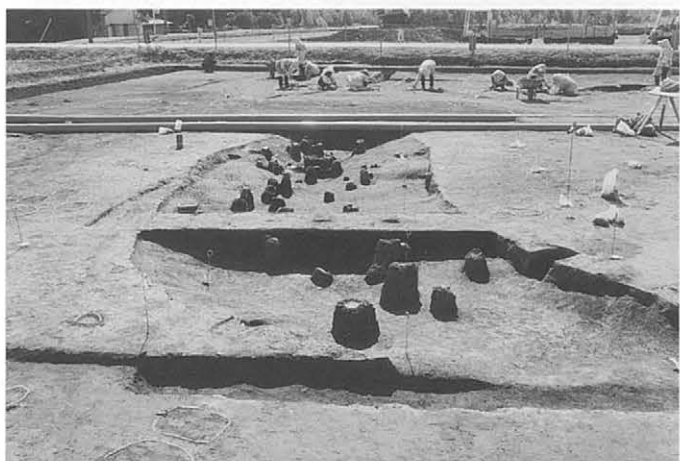
I SE-020



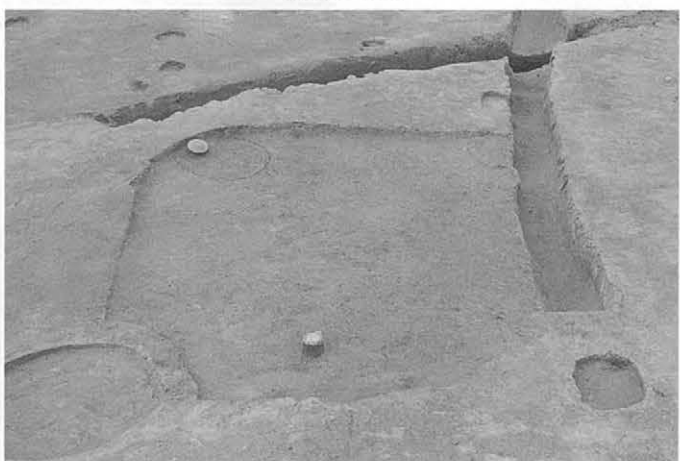
IVSK-029



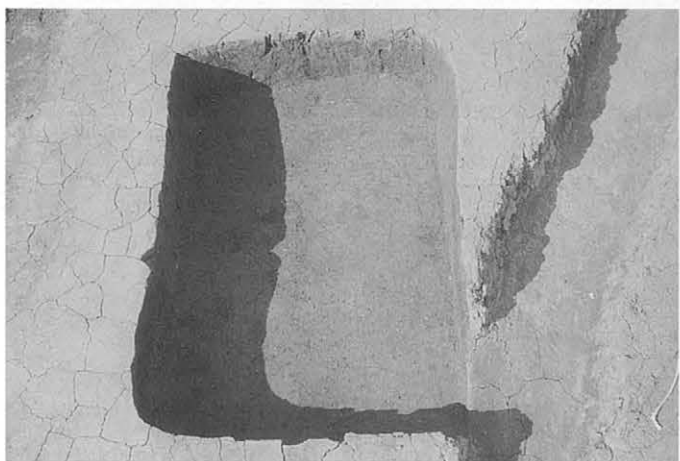
II SX-001



II SX-002



II SX-003

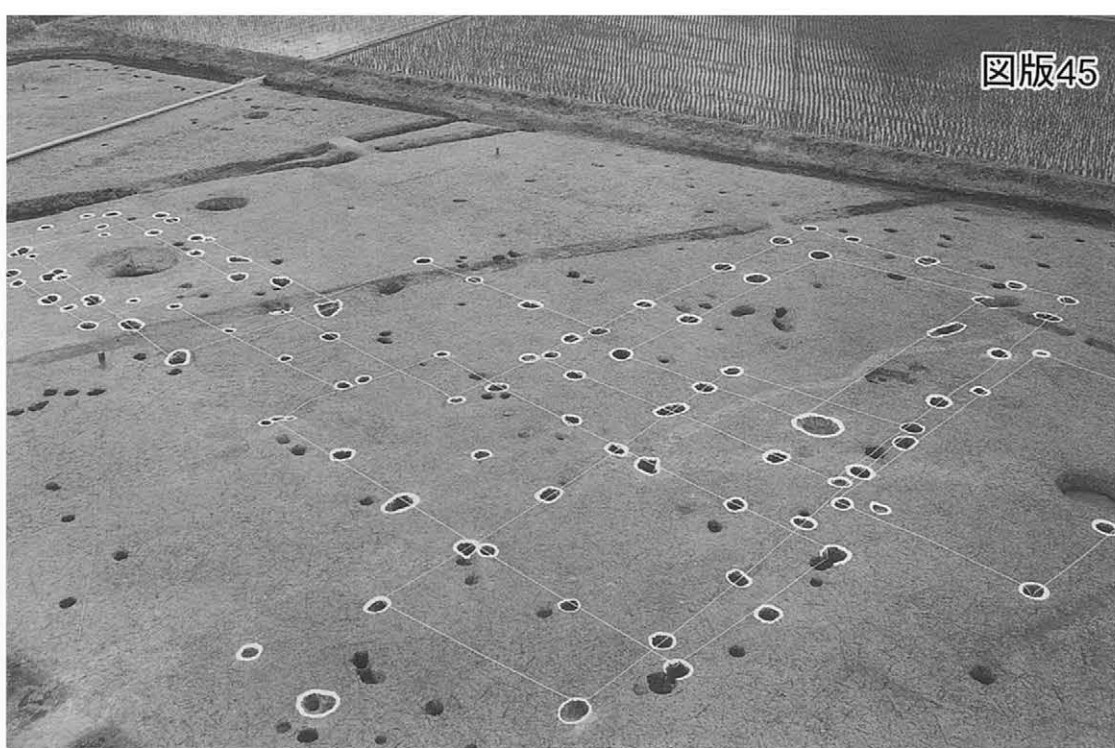


I SX-004



I SX-012





IVSB-001~007



IVSB-001



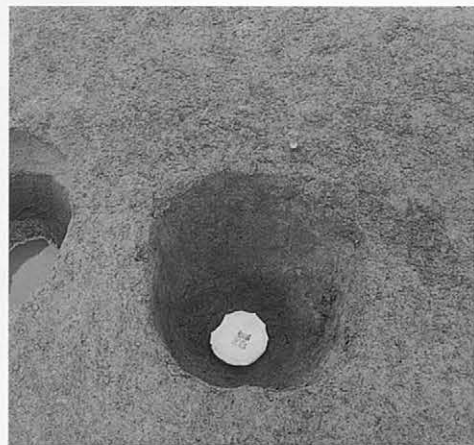
IVSB-005・006



VSB-008 · 009  
 VSE-004  
 VSD-004 · 005



VSB-010 · 011 · 012  
 VSE-005 · 006  
 VSD-005



VSB-007 P3

VSB-006 · 007

VSB-001~005  
VSK-002  
VSD-003

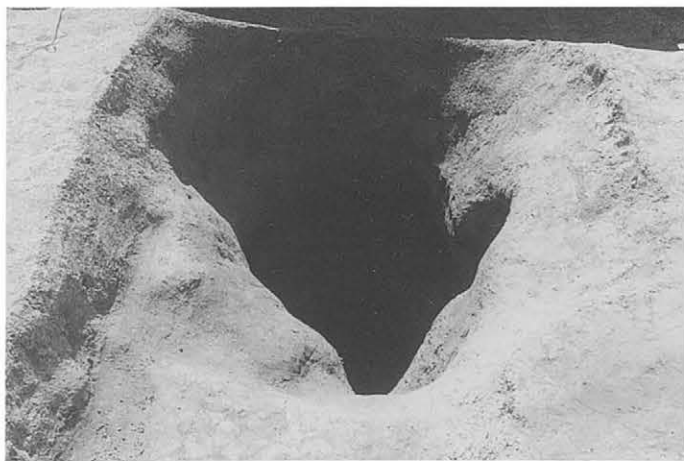


II SB-005

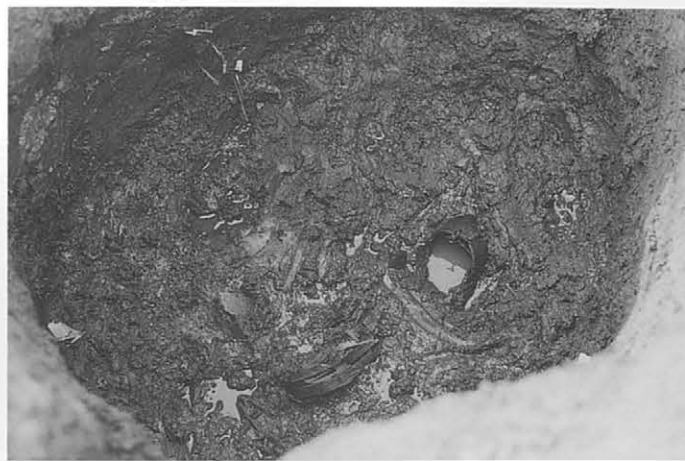


I SB-006





IVSE-002



IVSE-001



I SE-003



ⅢSX-001



I SE-018



I SE-019



I SE-016



I SE-012



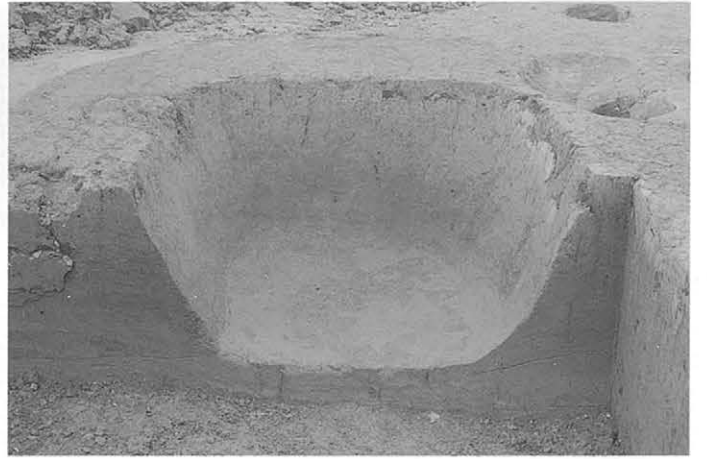
I SE-013



I SE-007



I SE-008



I SE-015



II SX-004



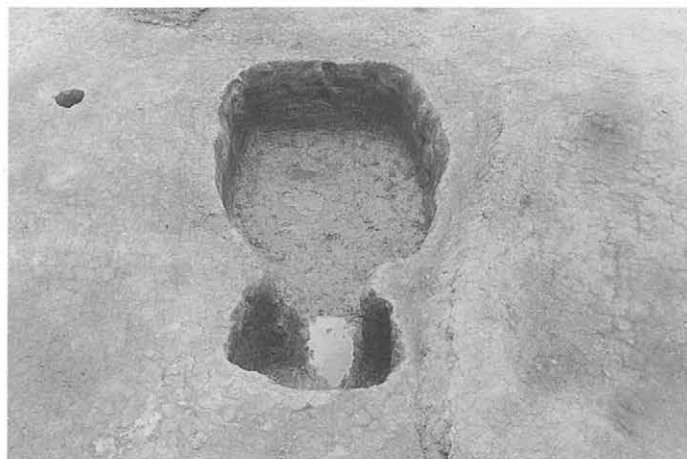
II SE-001



VSE-001



I SX-007



I SX-006



I SK-024



IVSE-004



I SX-011



I SX-014



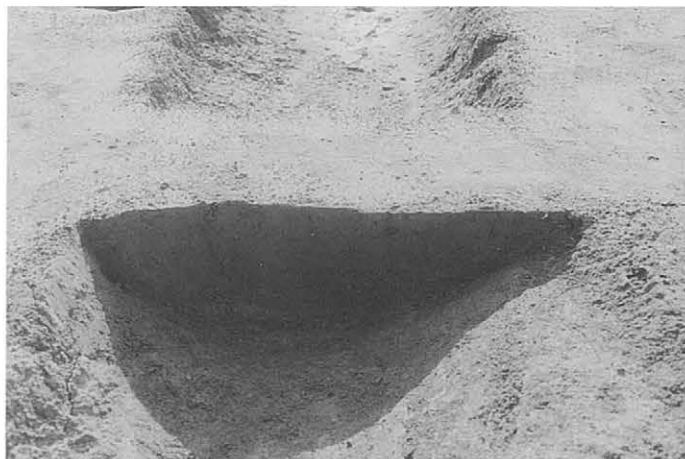
I SD-001



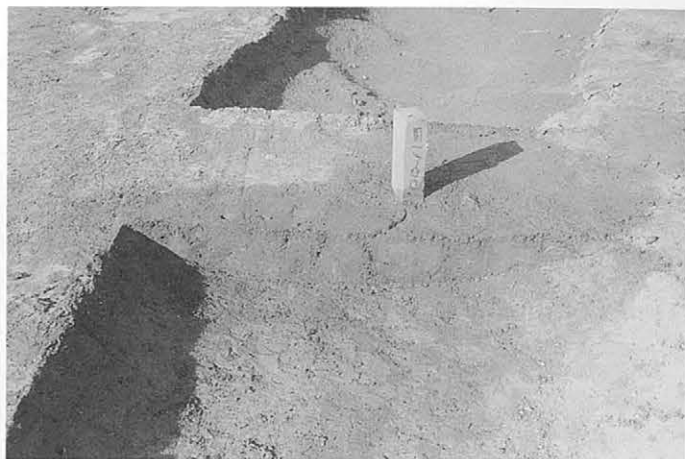
I SD-004



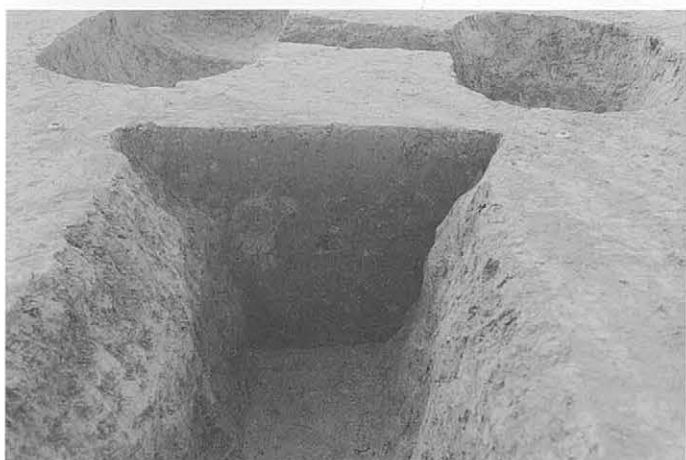
I SD-021・023



I SD-033



I SD-038



I SD-041



I SD-042・043



I SD-044・047



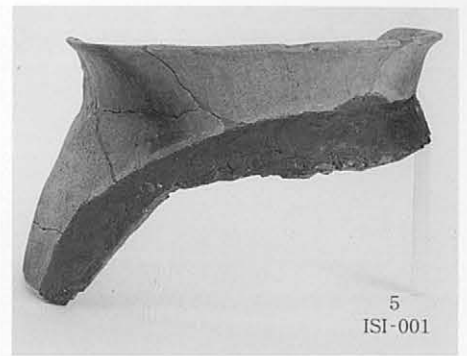
I SD-047



I SD-048

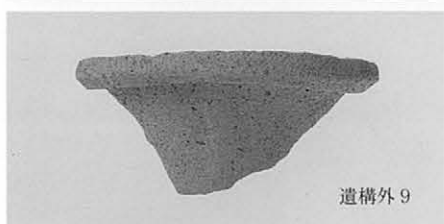


IVSD-007・008・009・011



出土土器（弥生～古墳時代） 1





出土土器（弥生～古墳時代）2



遺構外27



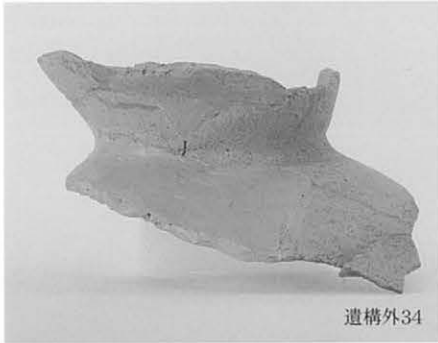
遺構外29



遺構外32



遺構外33



遺構外34



遺構外35



遺構外36



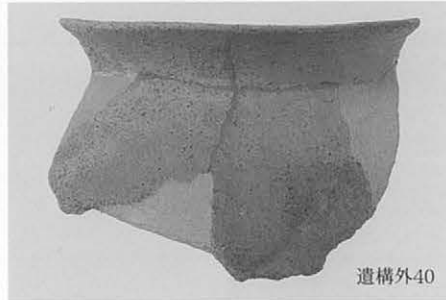
遺構外37



遺構外38



遺構外39



遺構外40



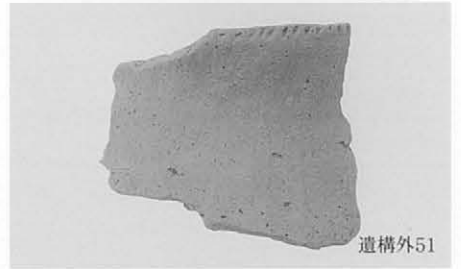
遺構外43



遺構外44



遺構外46



遺構外51



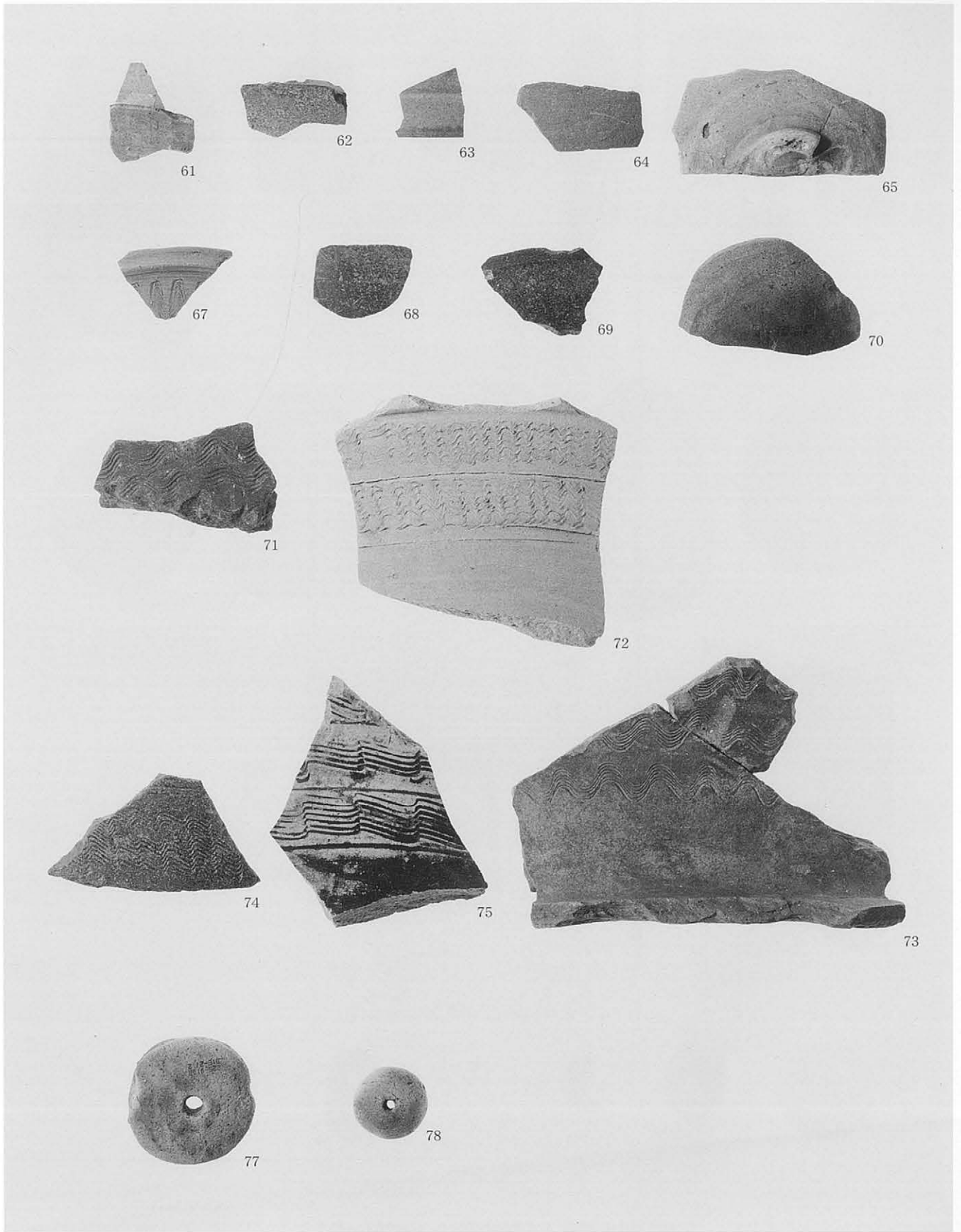
遺構外52



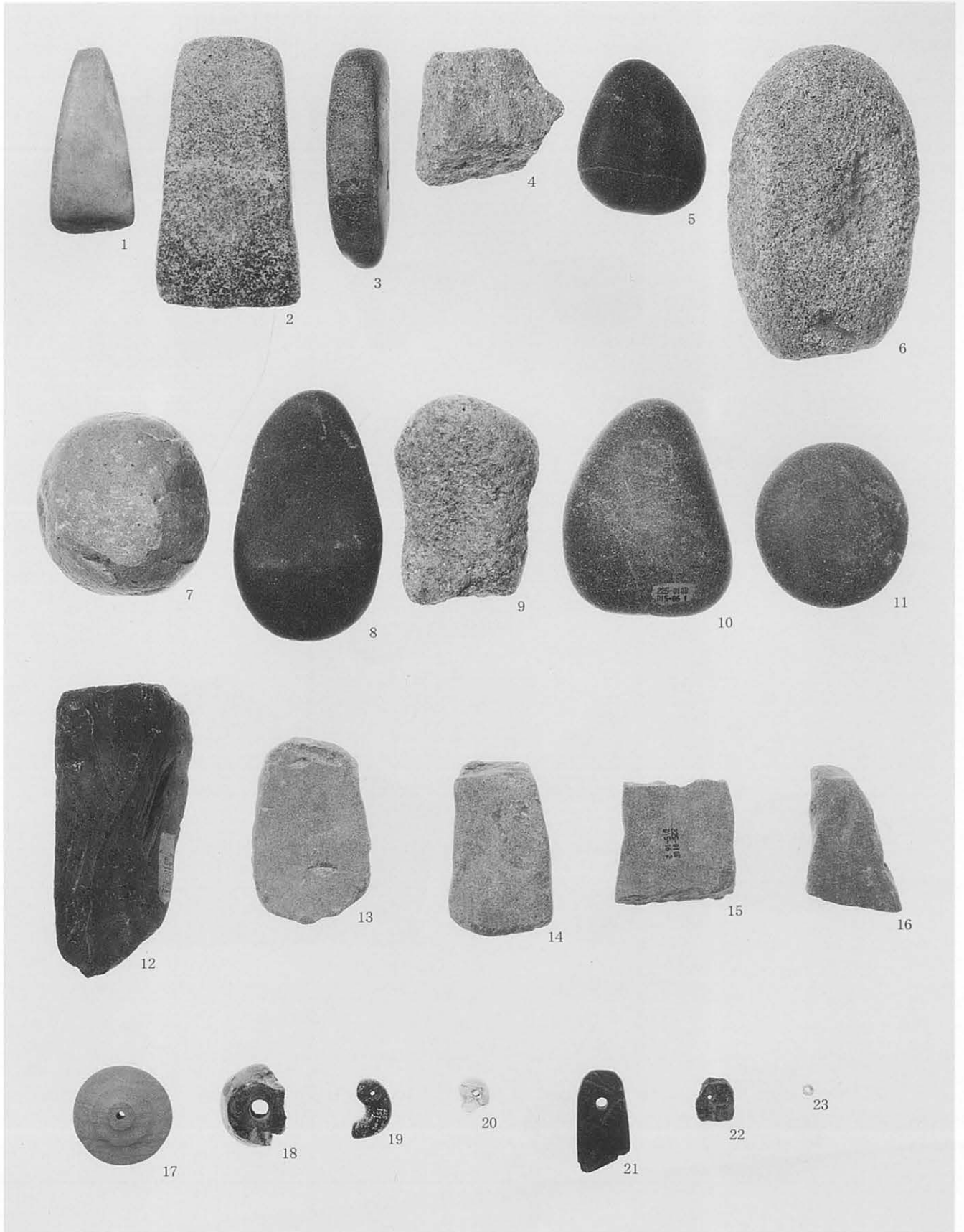
遺構外66



遺構外76



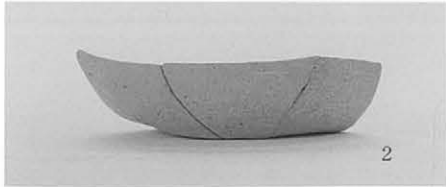
出土須恵器・土製品類（古墳時代）



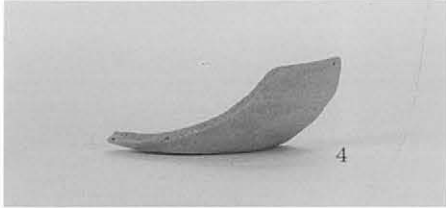
出土石器・石製品 (弥生～古墳時代)



1



2



4



5



6



7



8



10



13



14



15



16



17



18



19



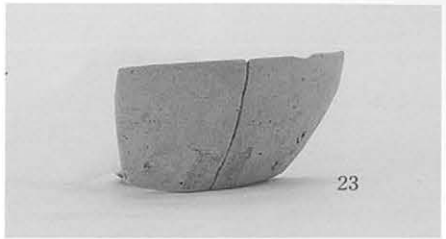
20



21



22



23



24



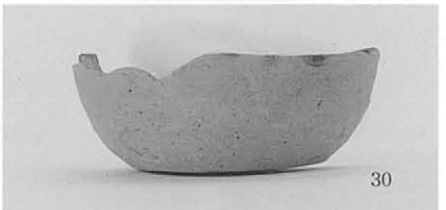
25



26



27



30



31

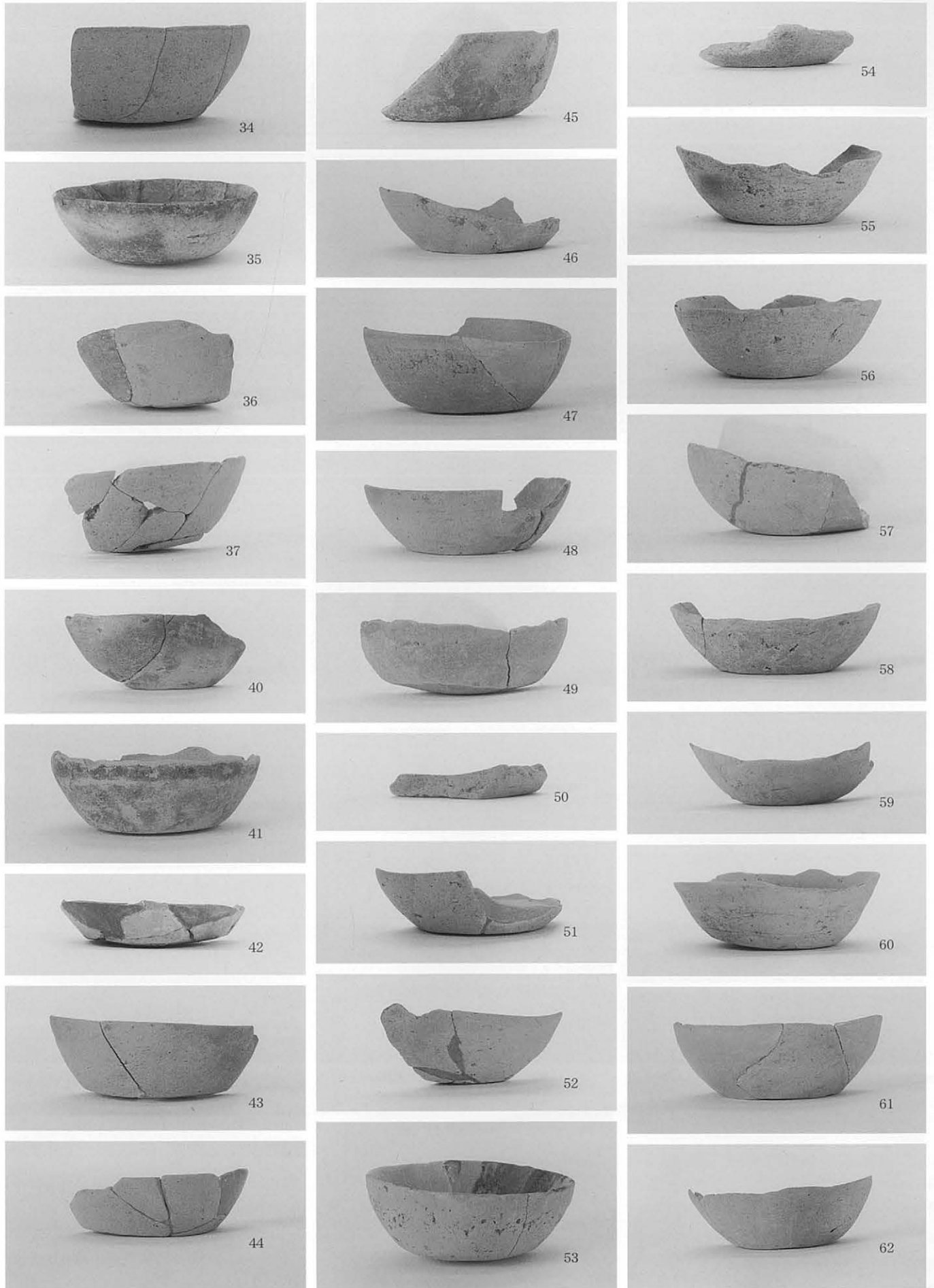


32

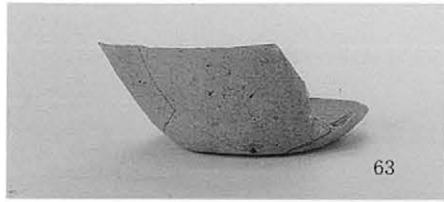


33

出土土器 (奈良・平安時代) 1



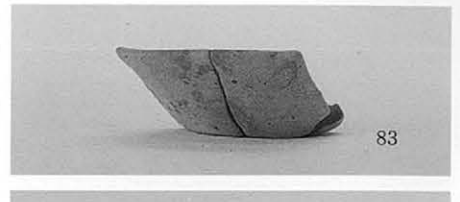
出土土器 (奈良・平安時代) 2



63



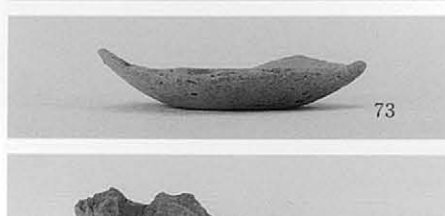
72



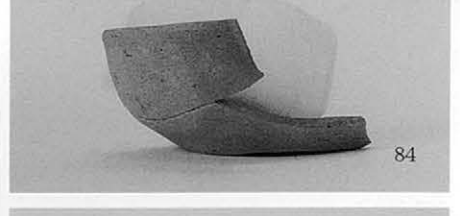
83



64



73



84



65



75



85



66



76



86



67



77



88



68



78



89



69



79



90



70



80



91



71



81



92

出土土器（奈良・平安時代）3



93



95



96



97



98



100



101



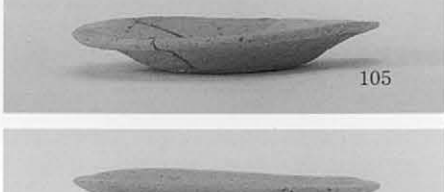
102



103



104



105



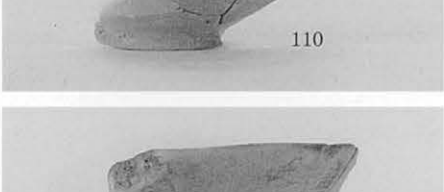
106



108



109



110



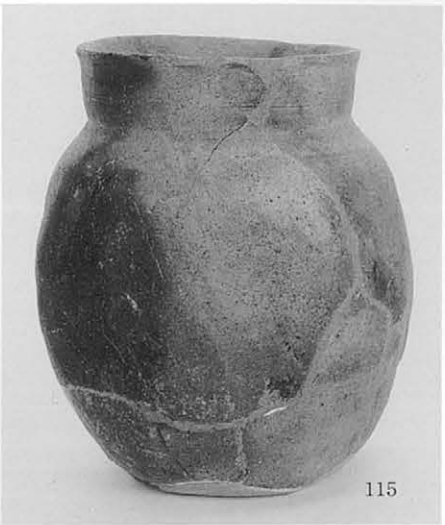
111



112



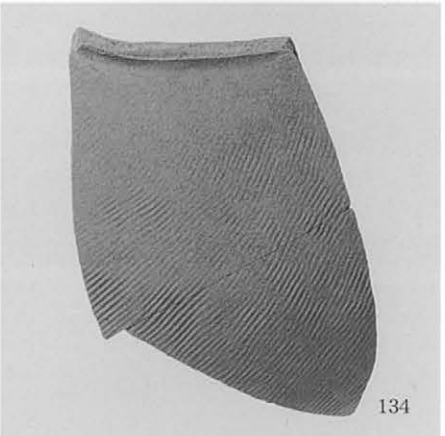
113



115



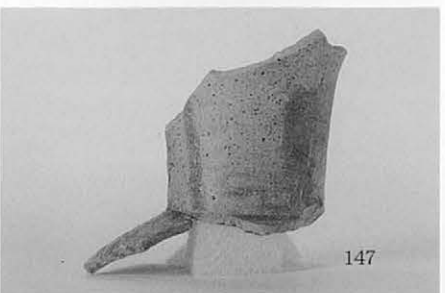
120



134



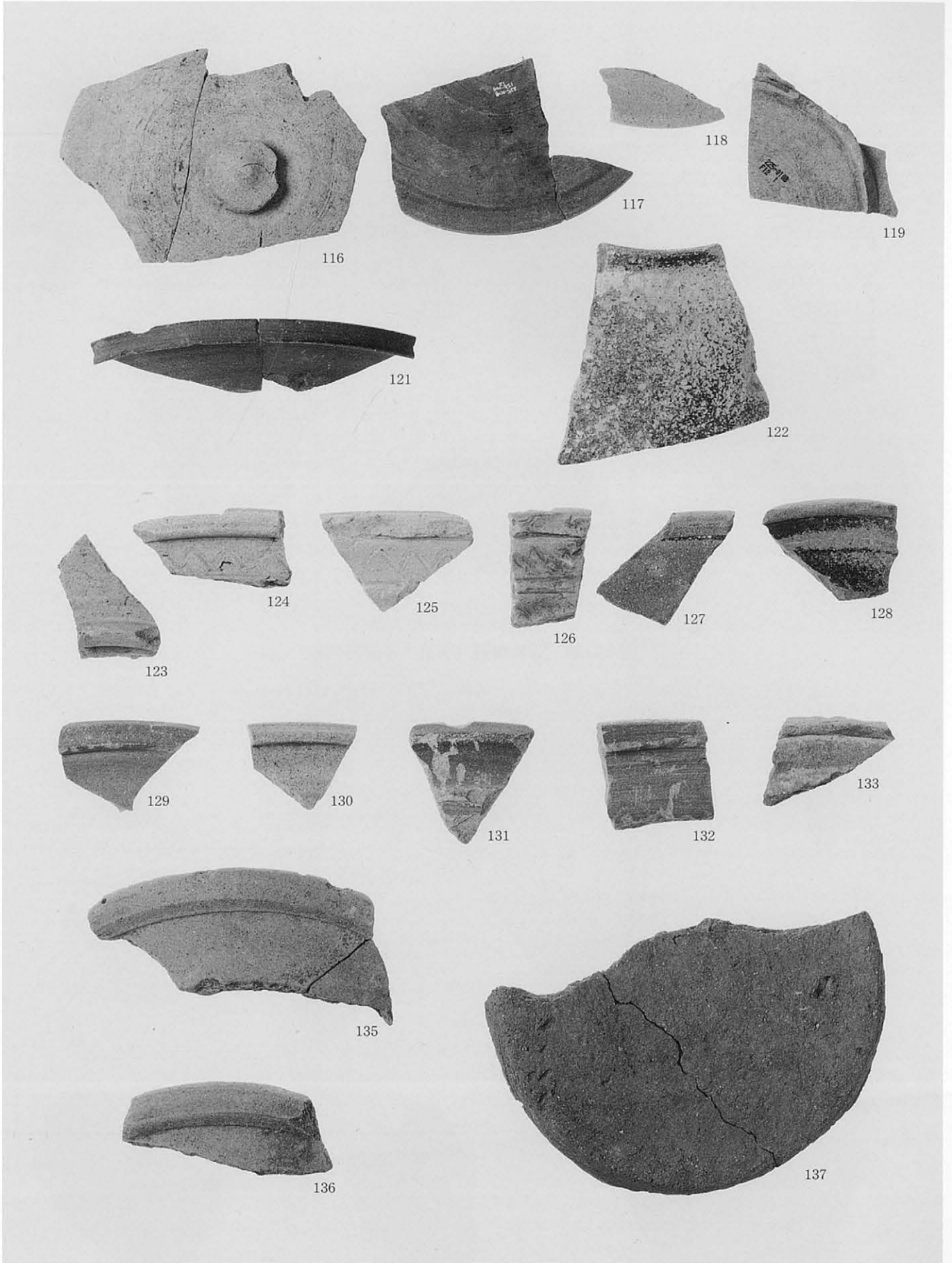
138



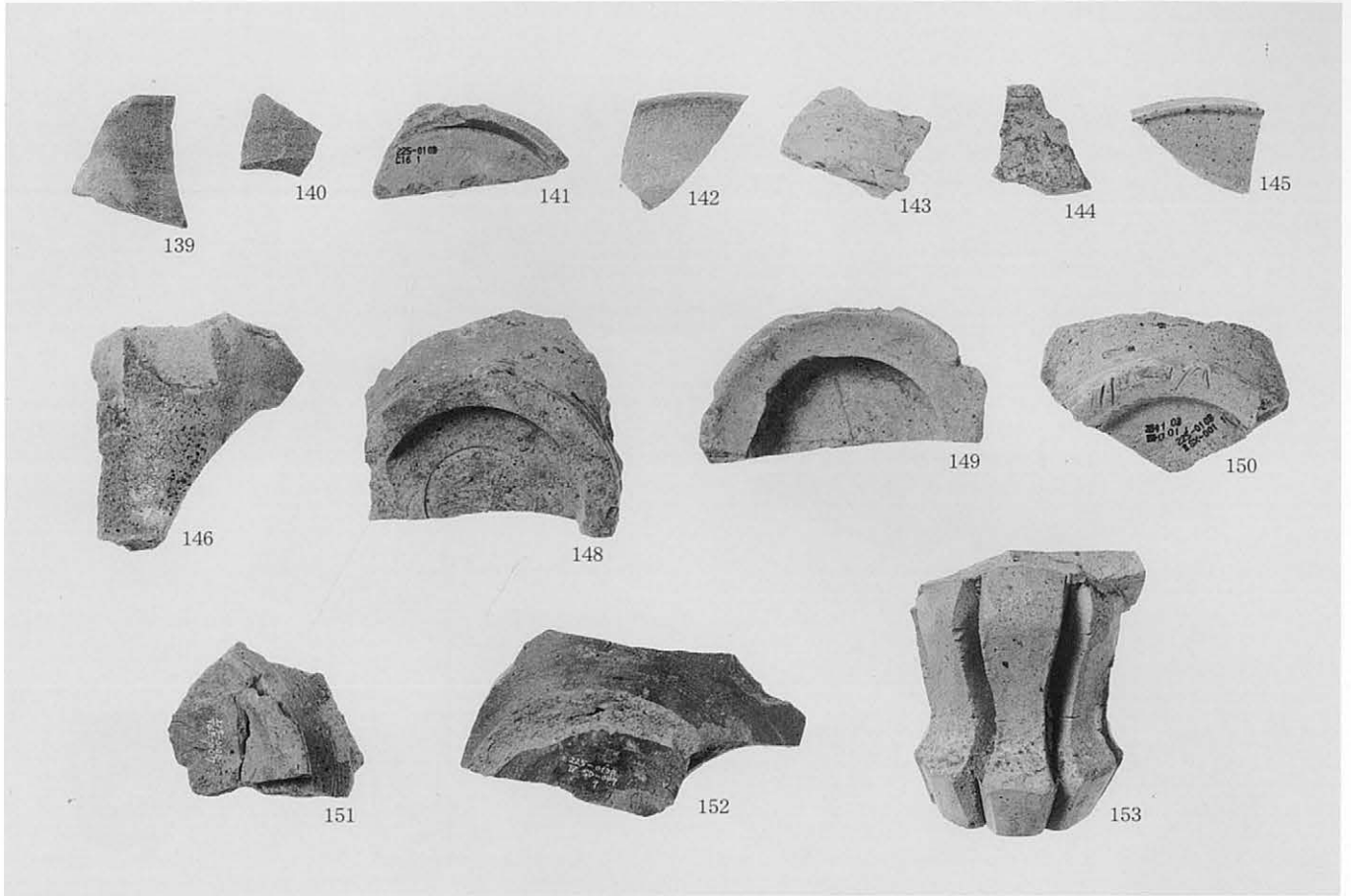
147

出土土器 (奈良・平安時代) 4





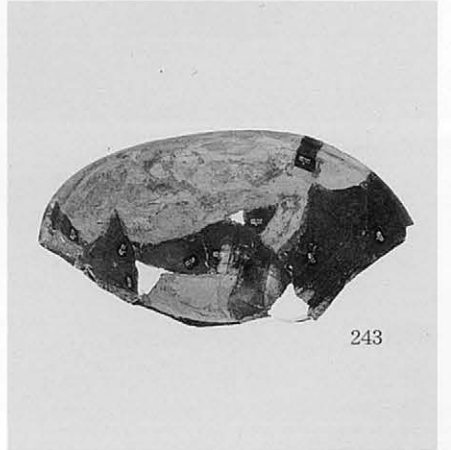
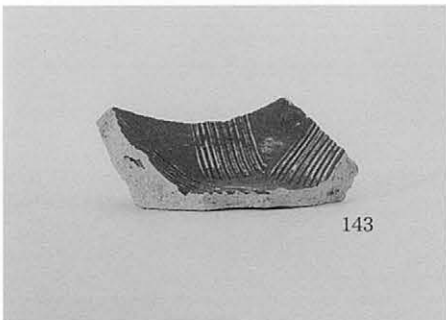
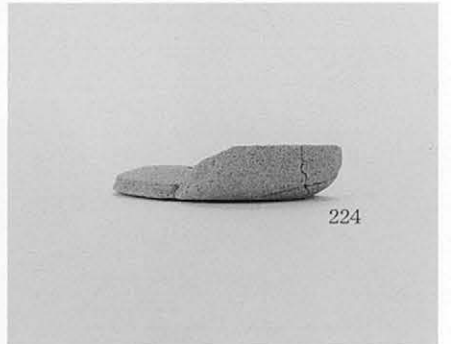
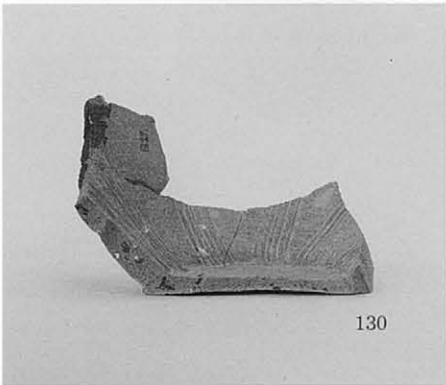
出土須恵器 (奈良・平安時代)



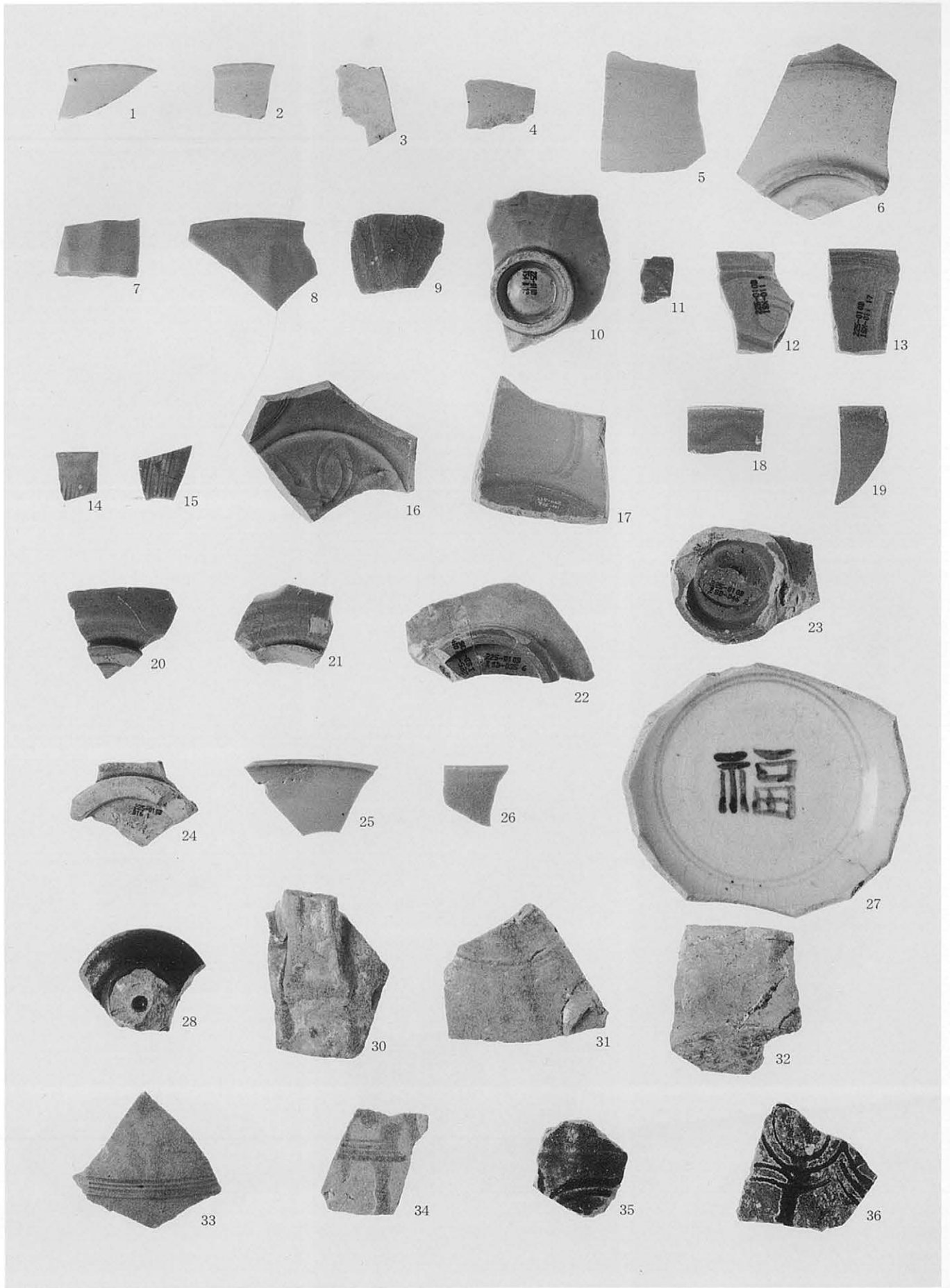
出土緑釉・灰釉陶器 (奈良・平安時代)



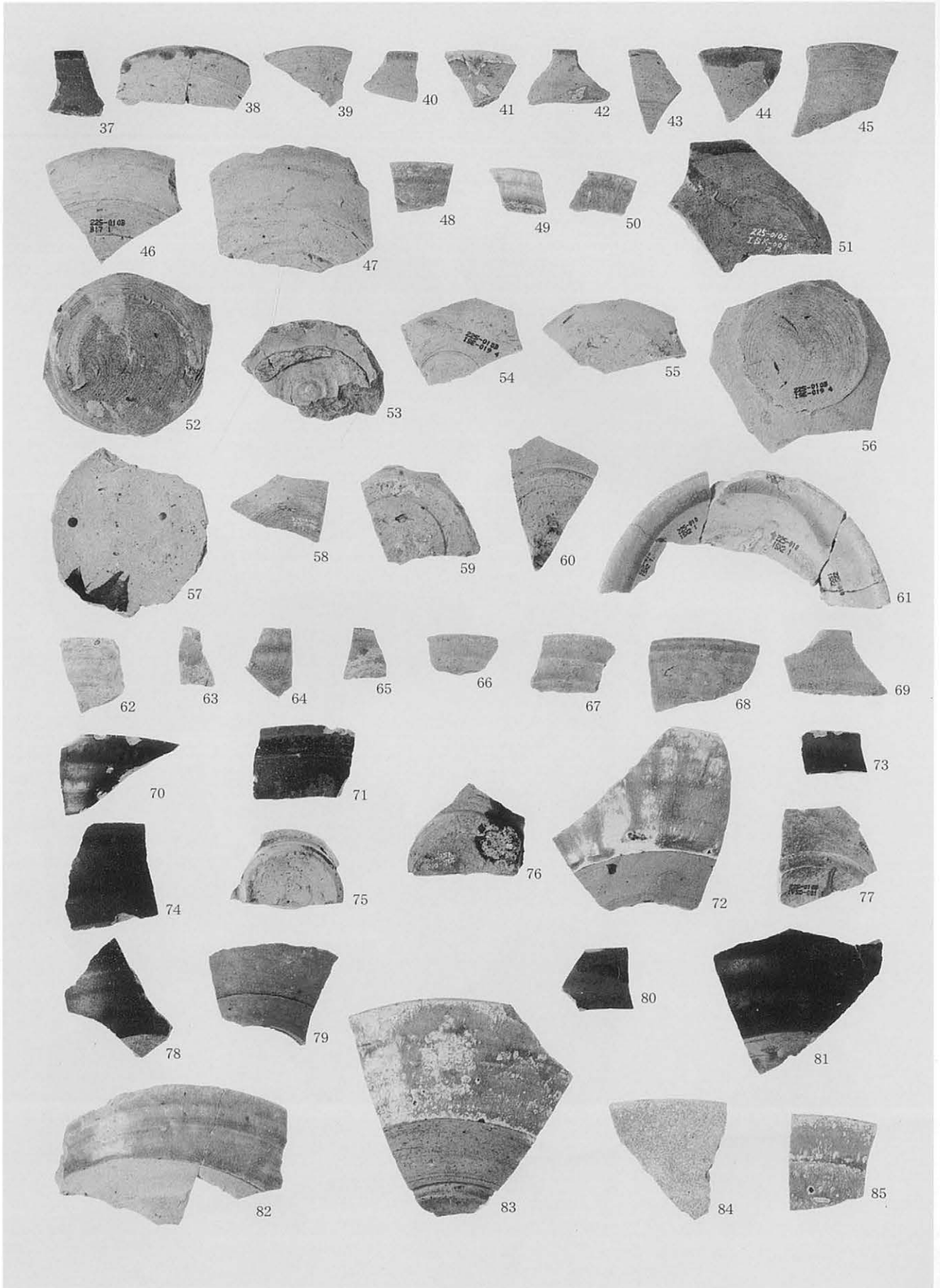
出土土製品類 (奈良・平安時代)



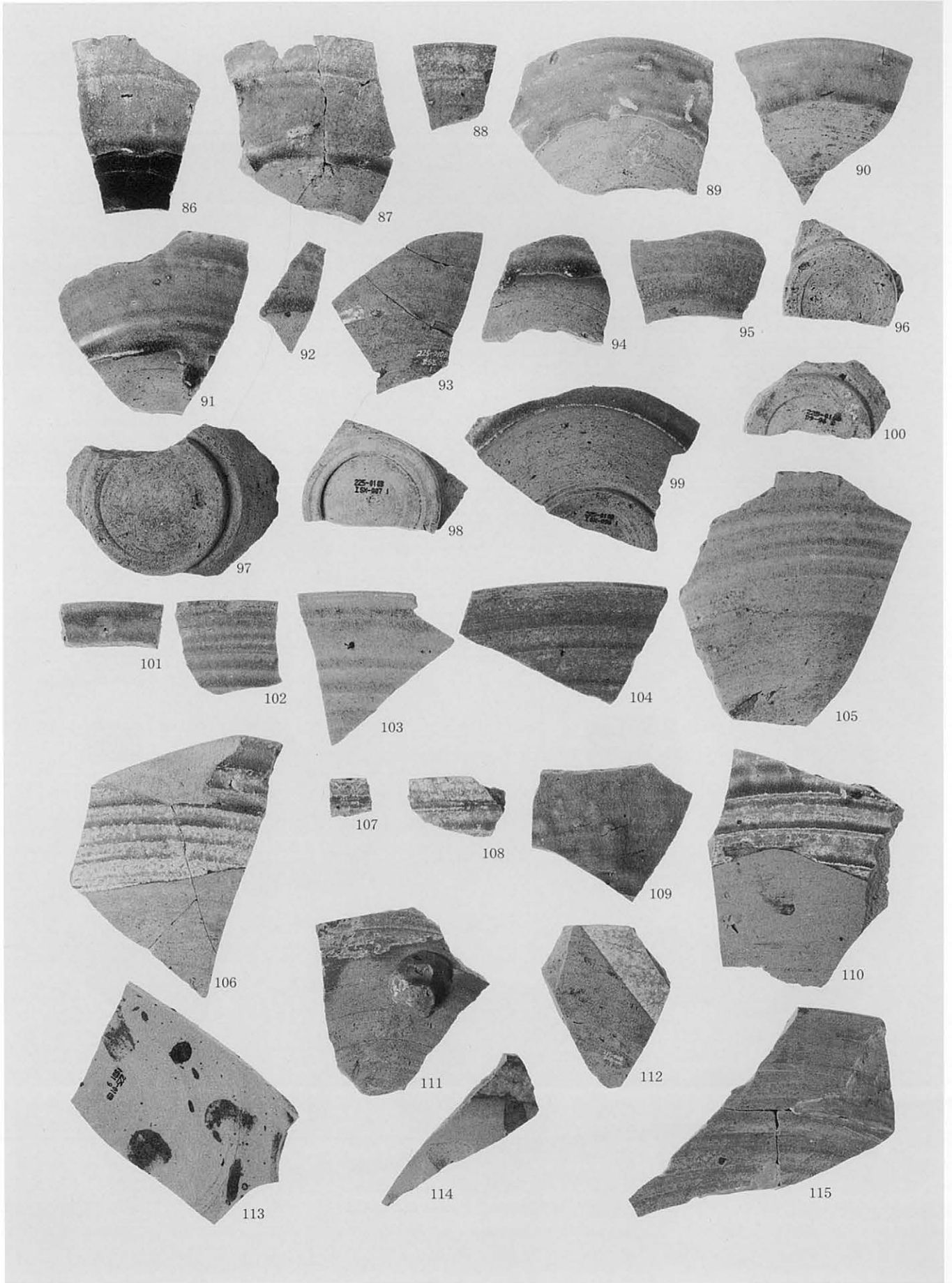
出土陶磁器 1



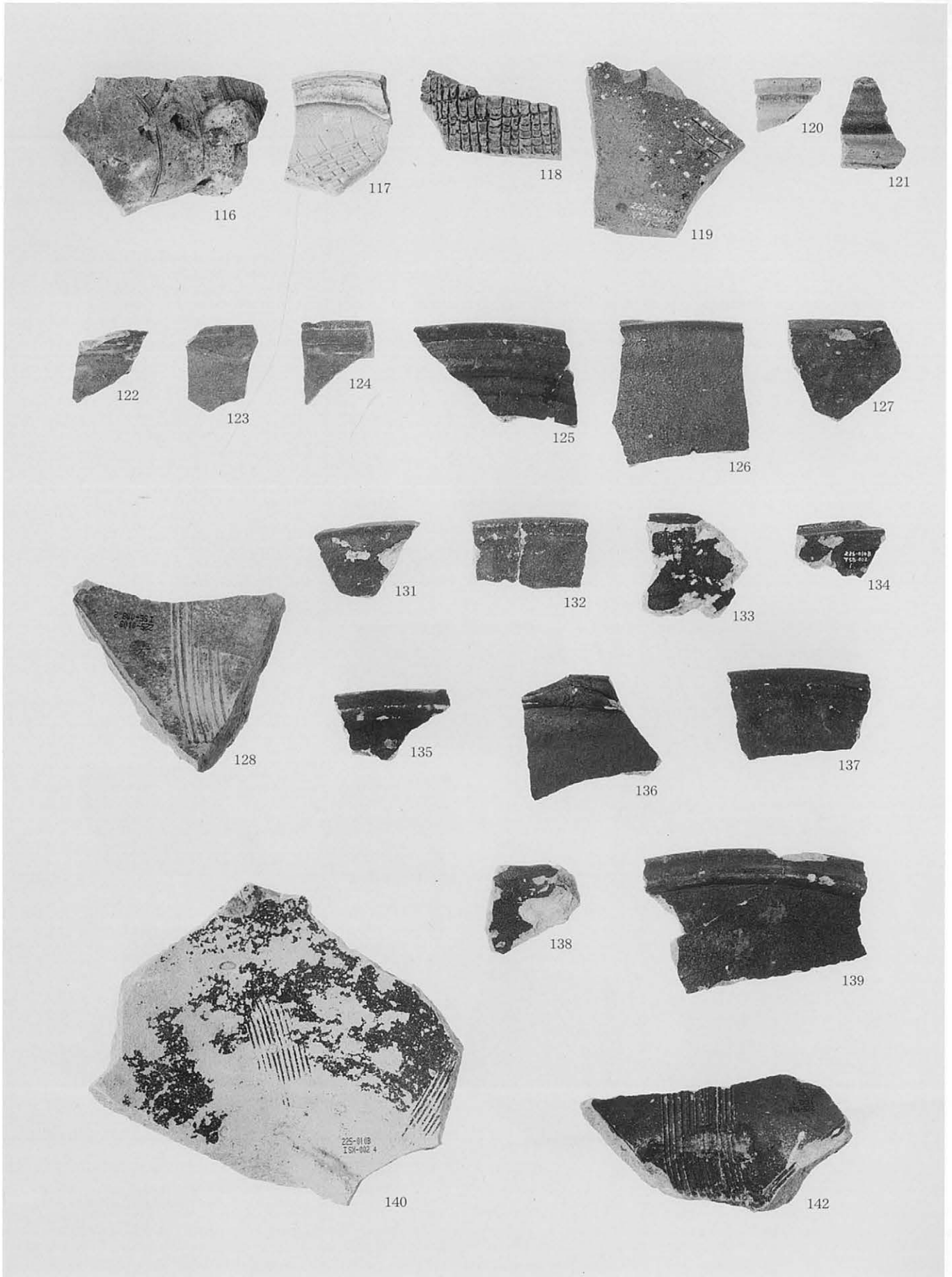
出土陶磁器 2



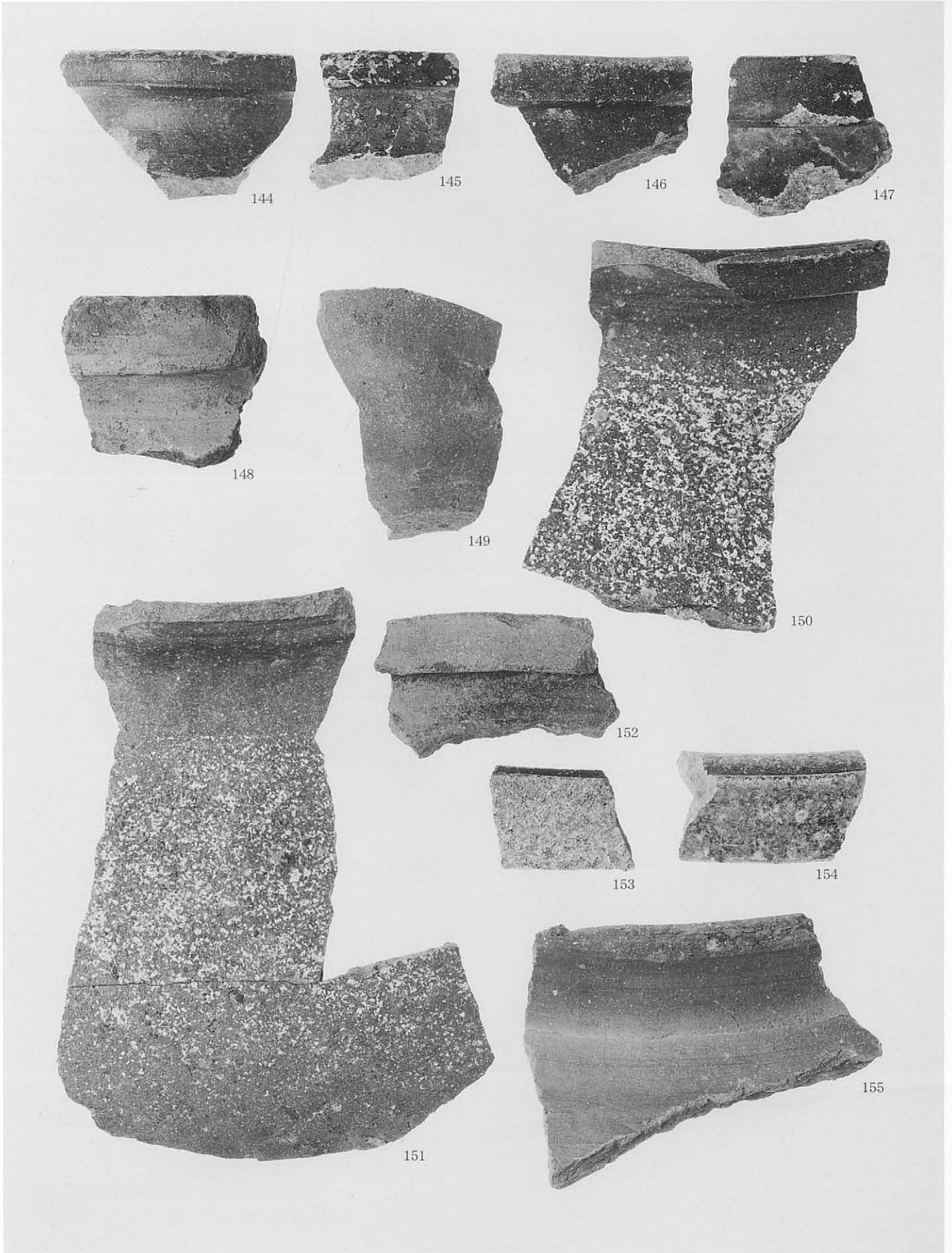
出土陶磁器 3



出土陶磁器 4

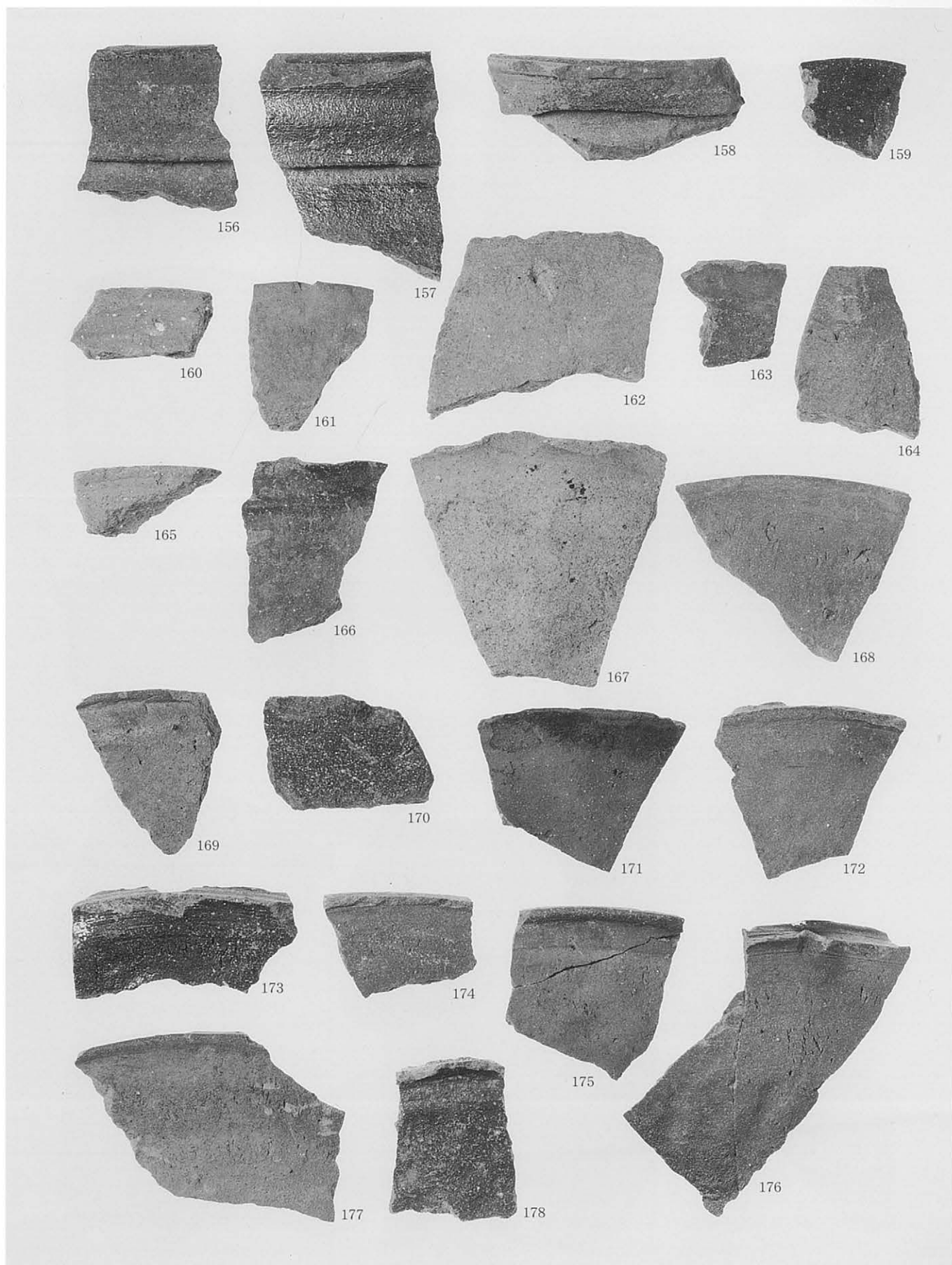


出土陶磁器 5

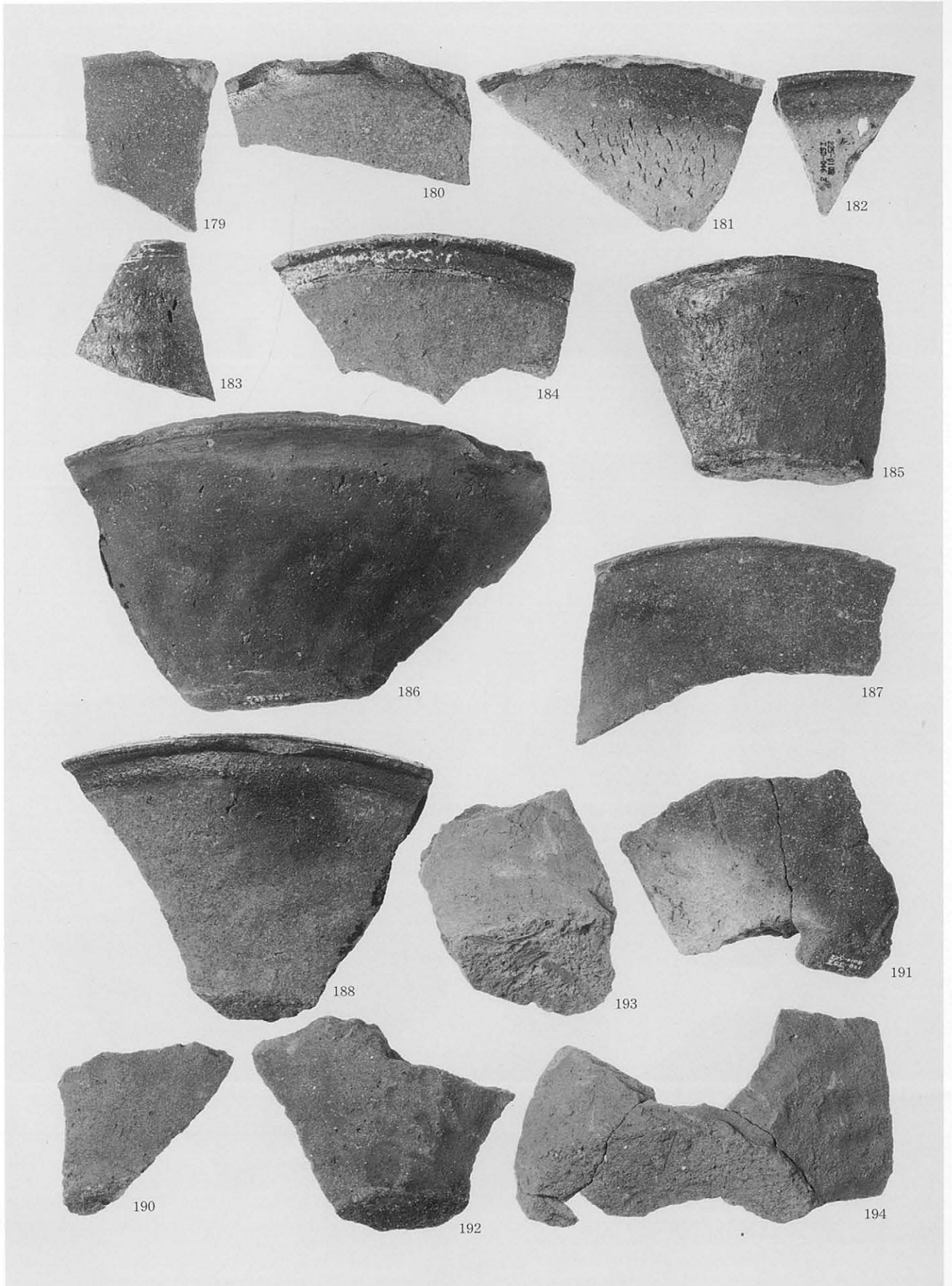


出土陶磁器 6

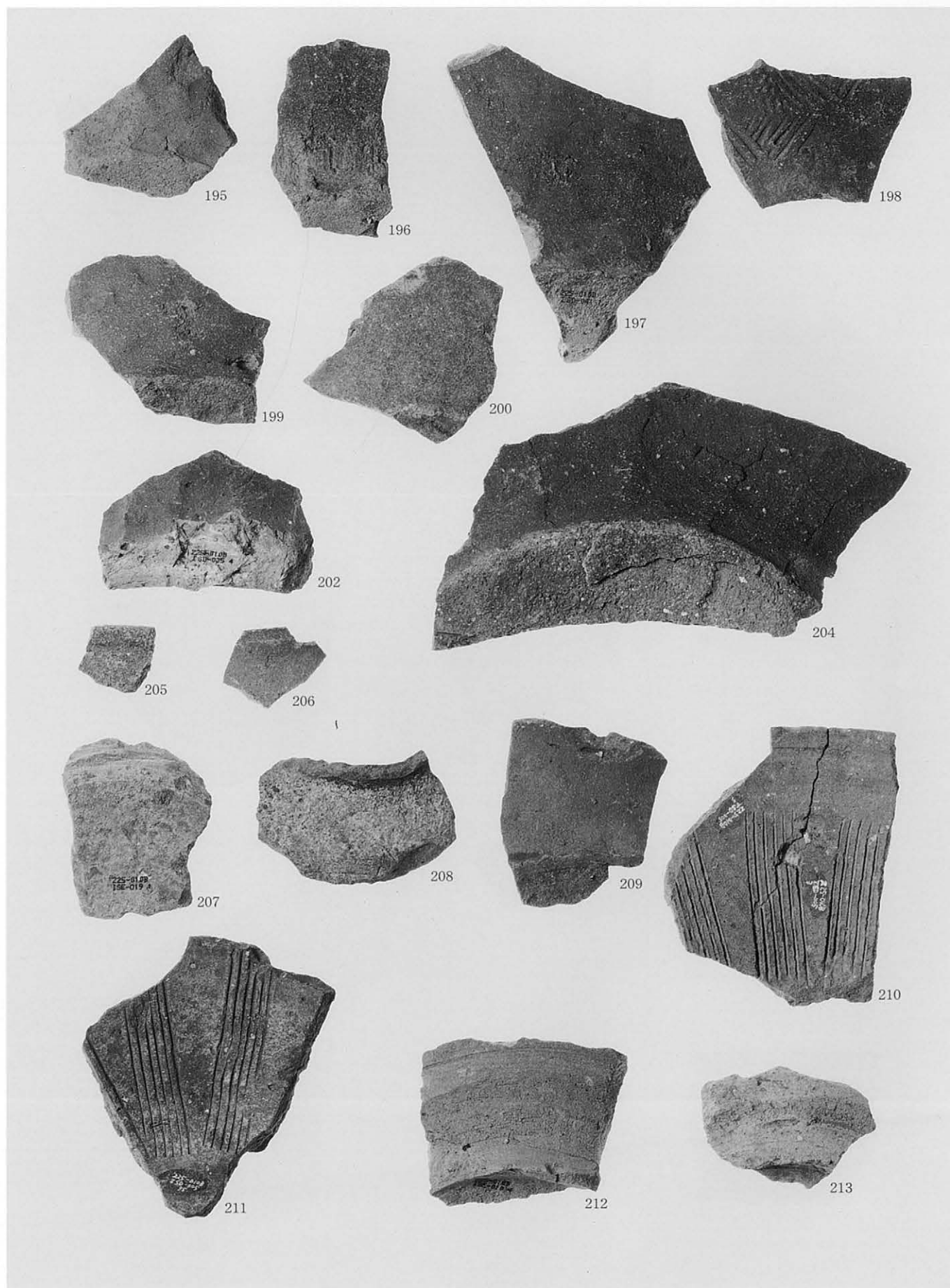




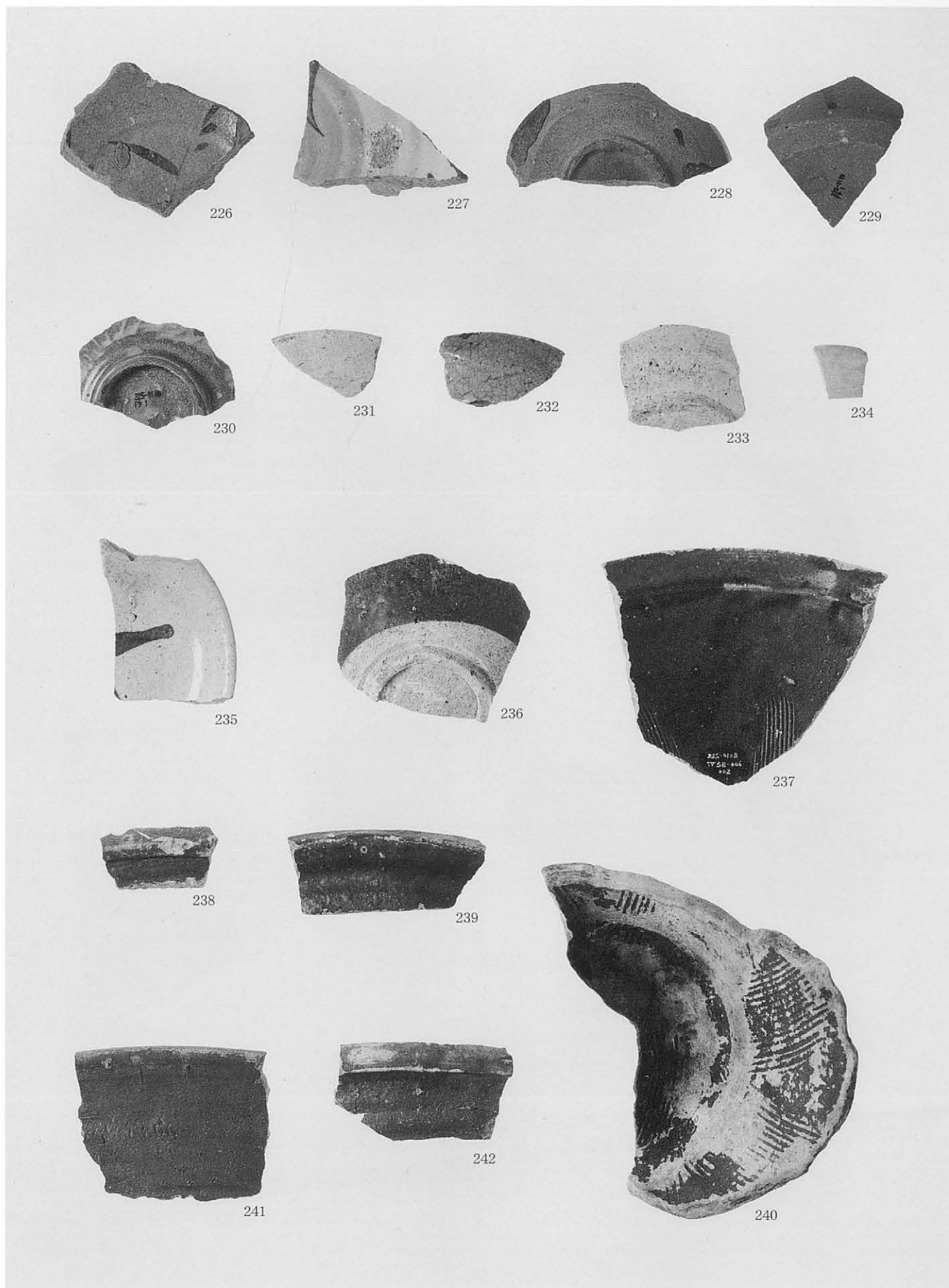
出土陶磁器 7



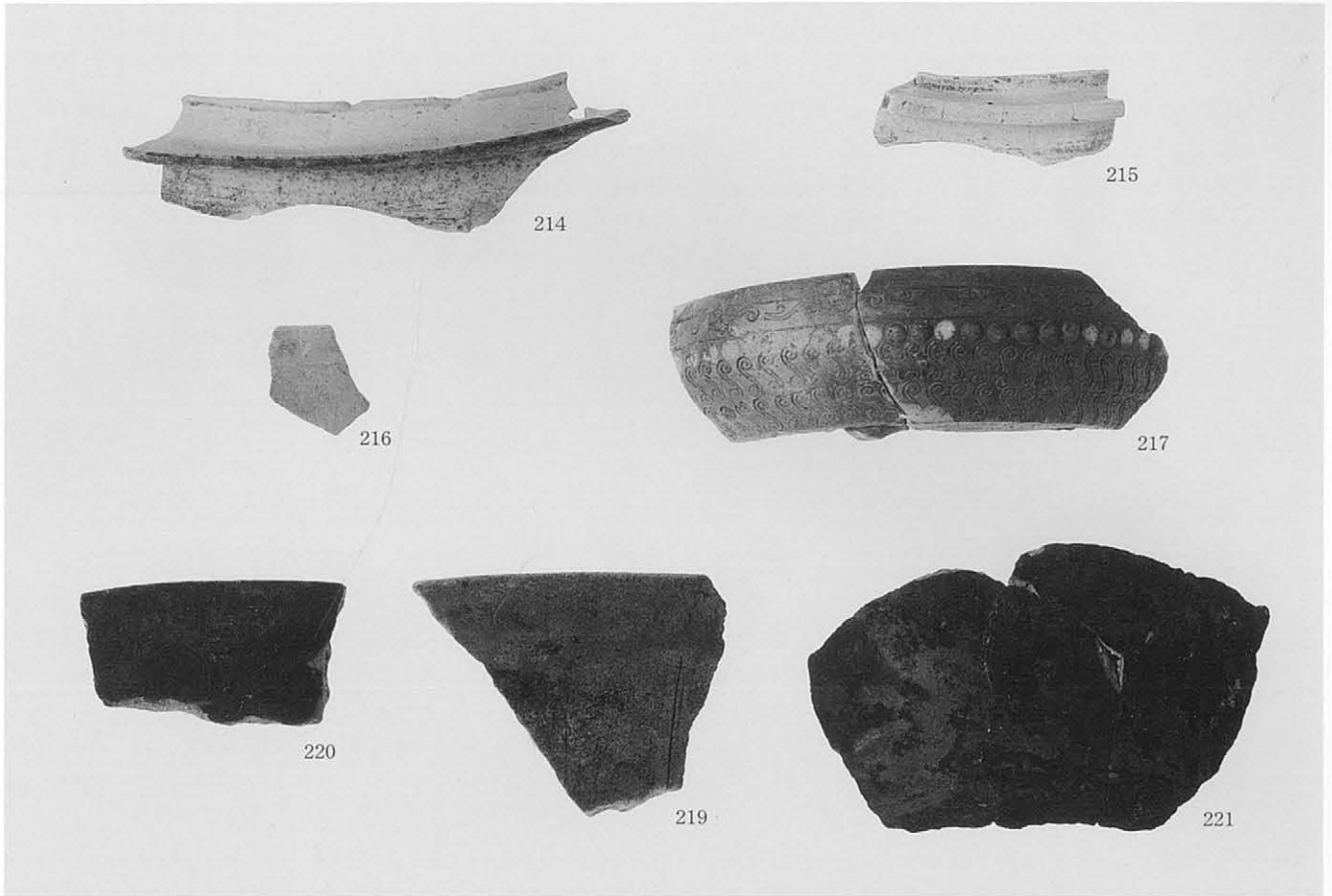
出土陶磁器 8



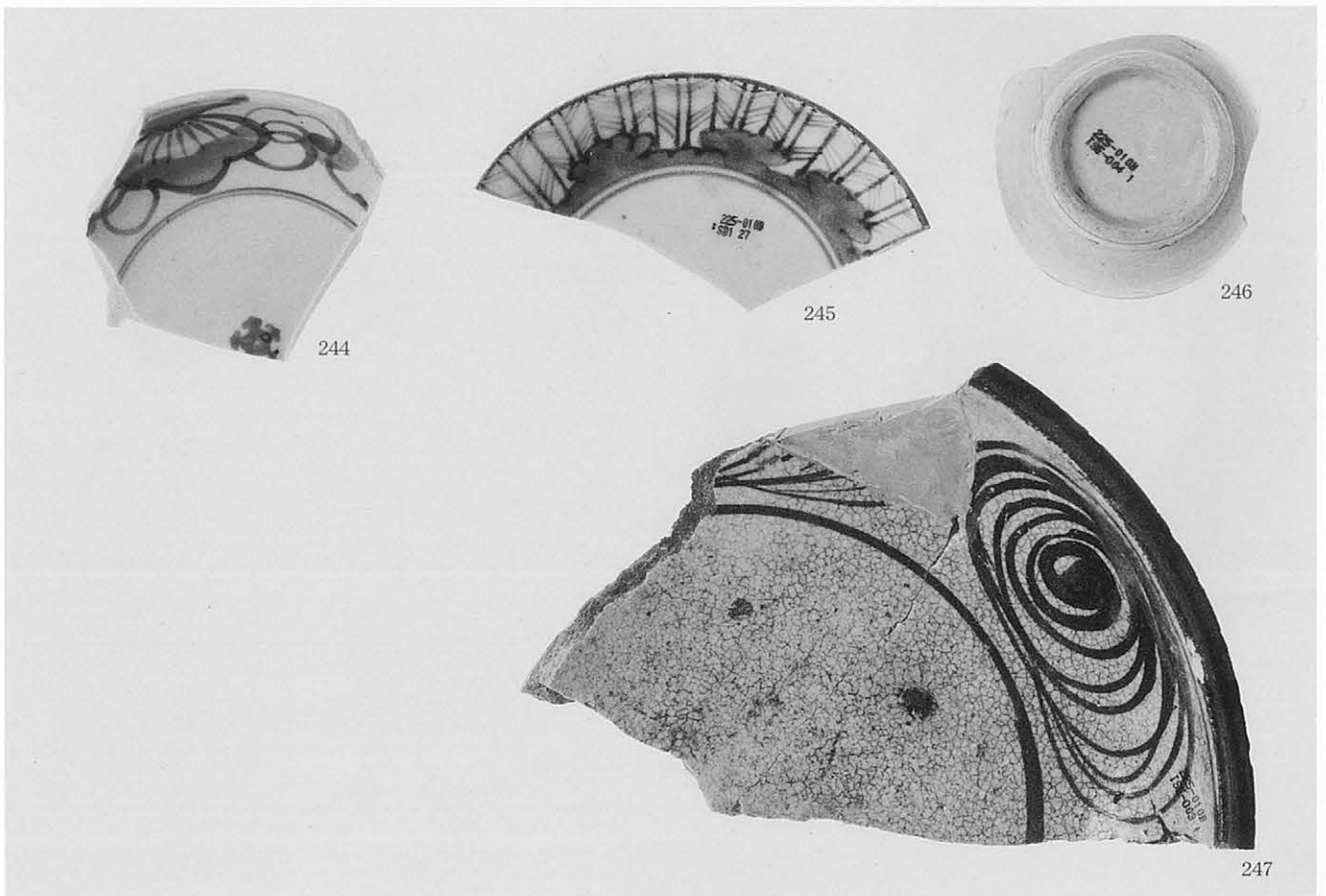
出土陶磁器 9



出土陶磁器10



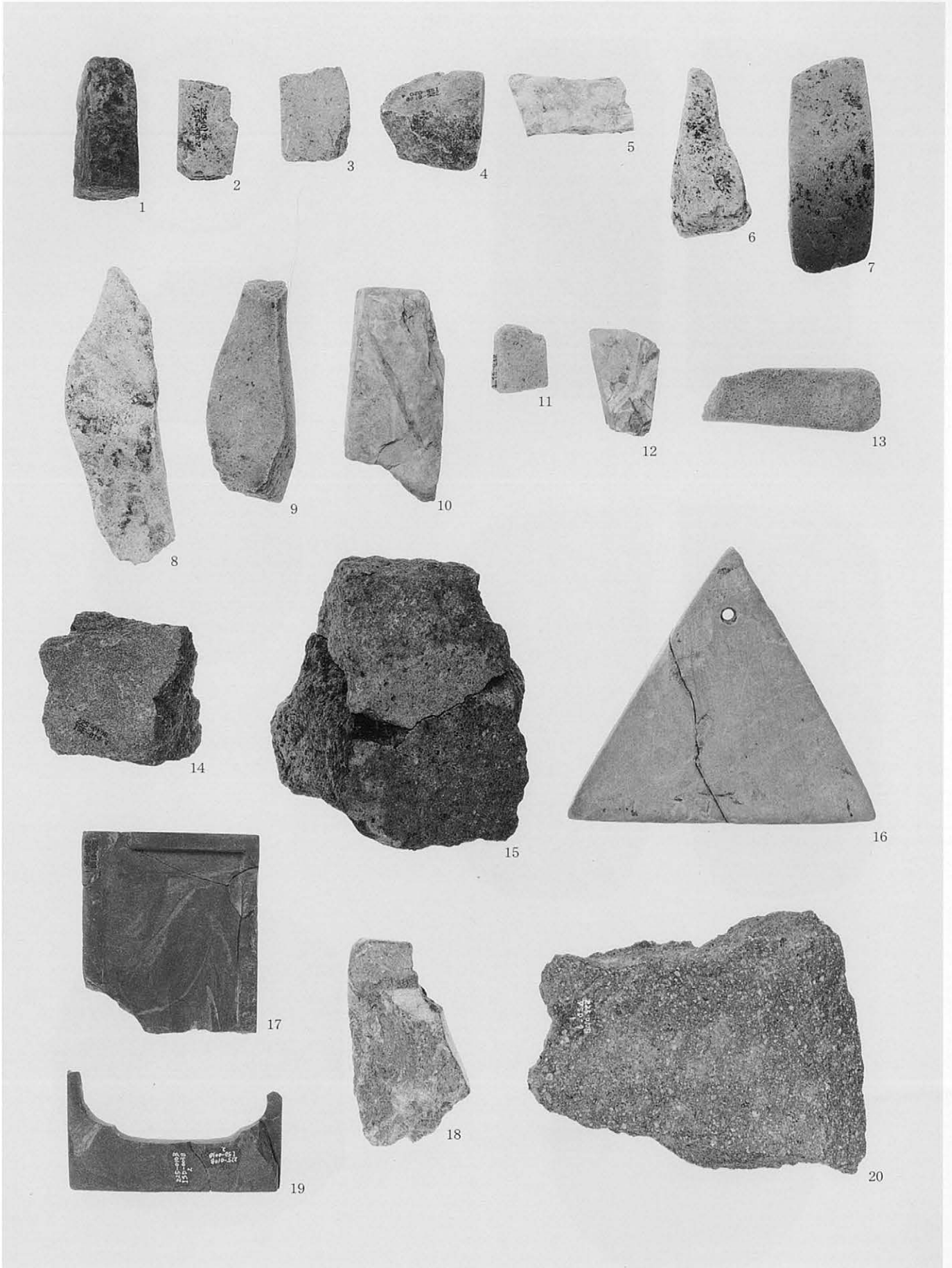
出土陶磁器11



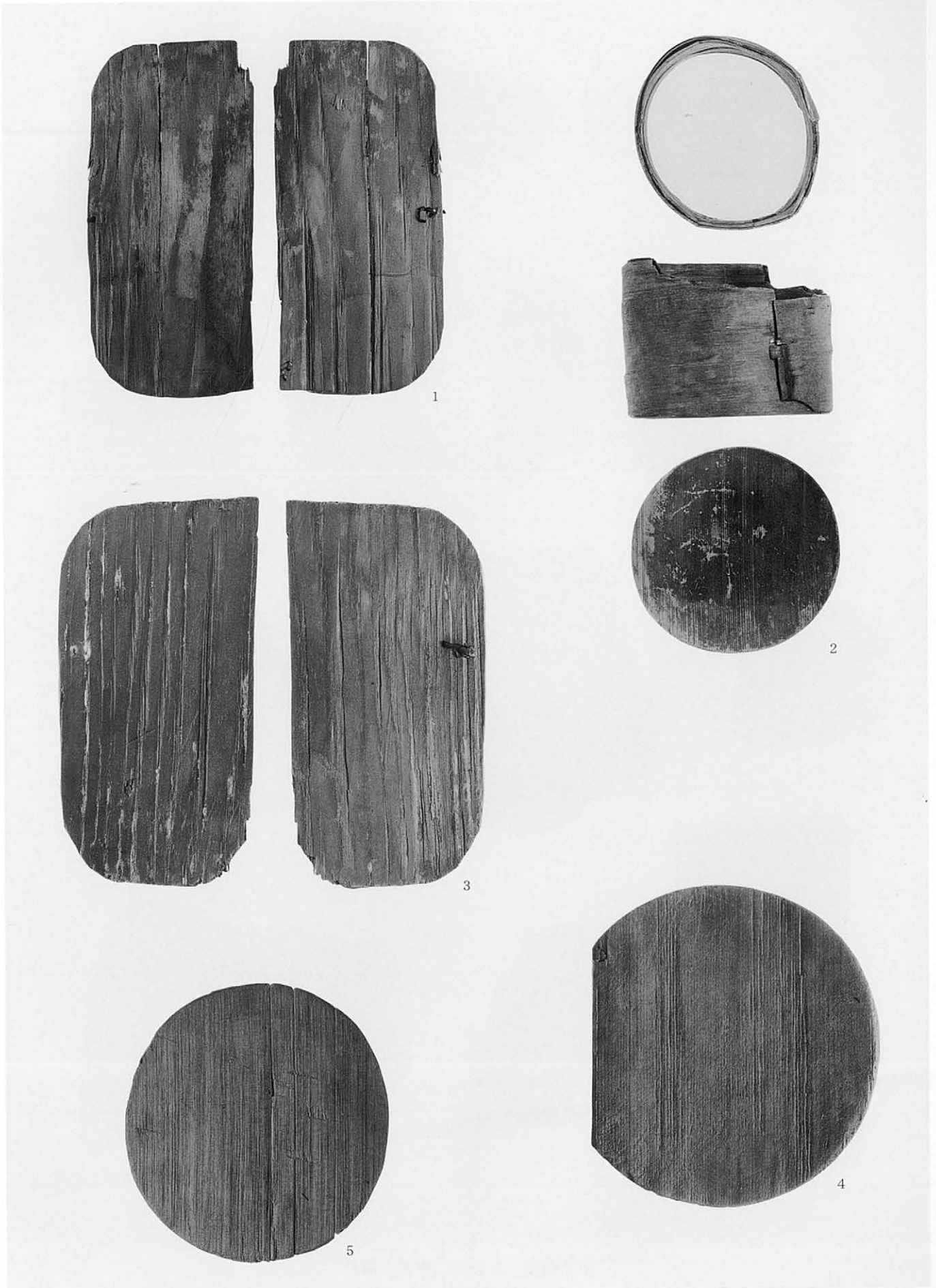
出土陶磁器12



出土土製品類 (中世以降)



出土石器・石製品（中世以降）



出土木製品 1

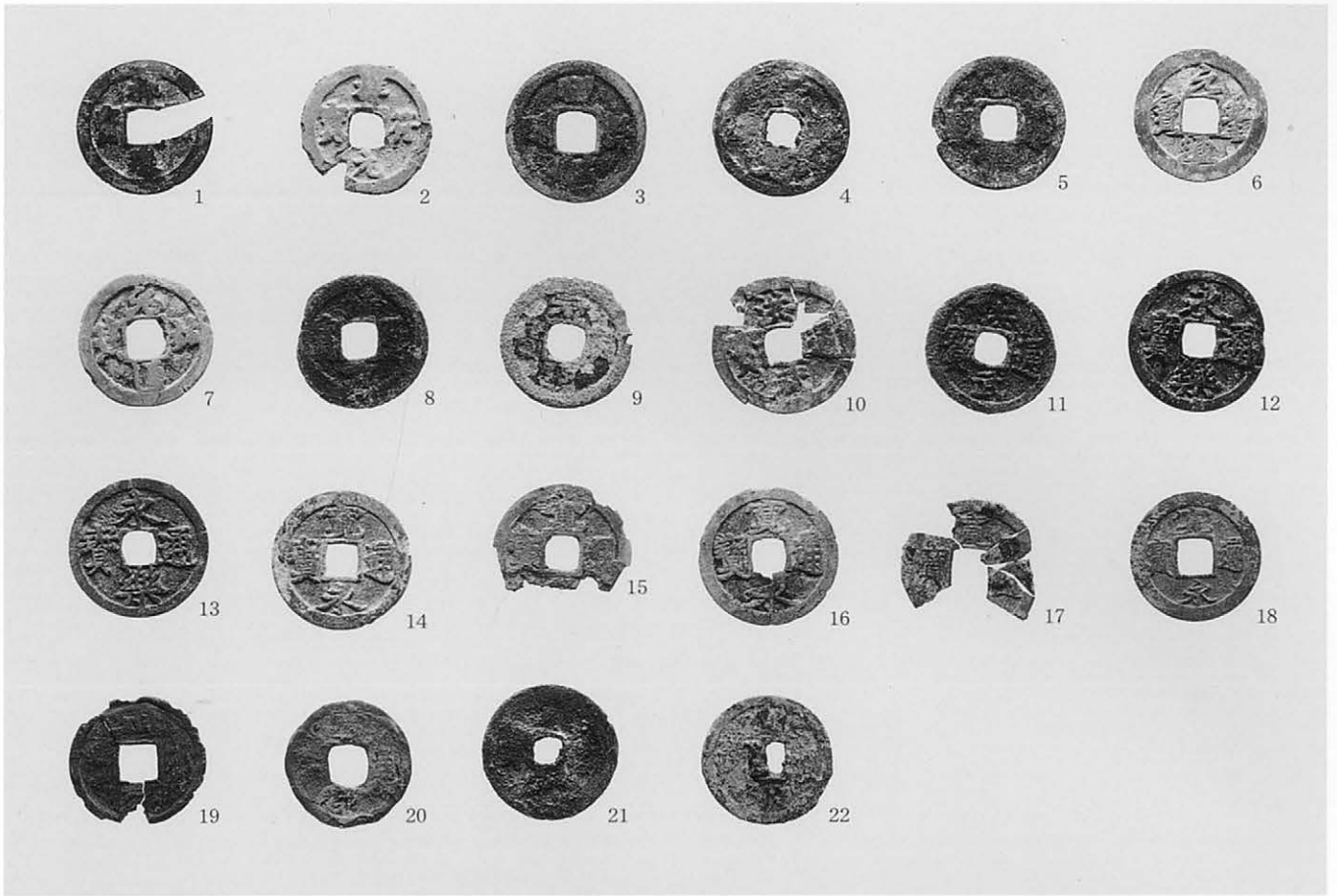




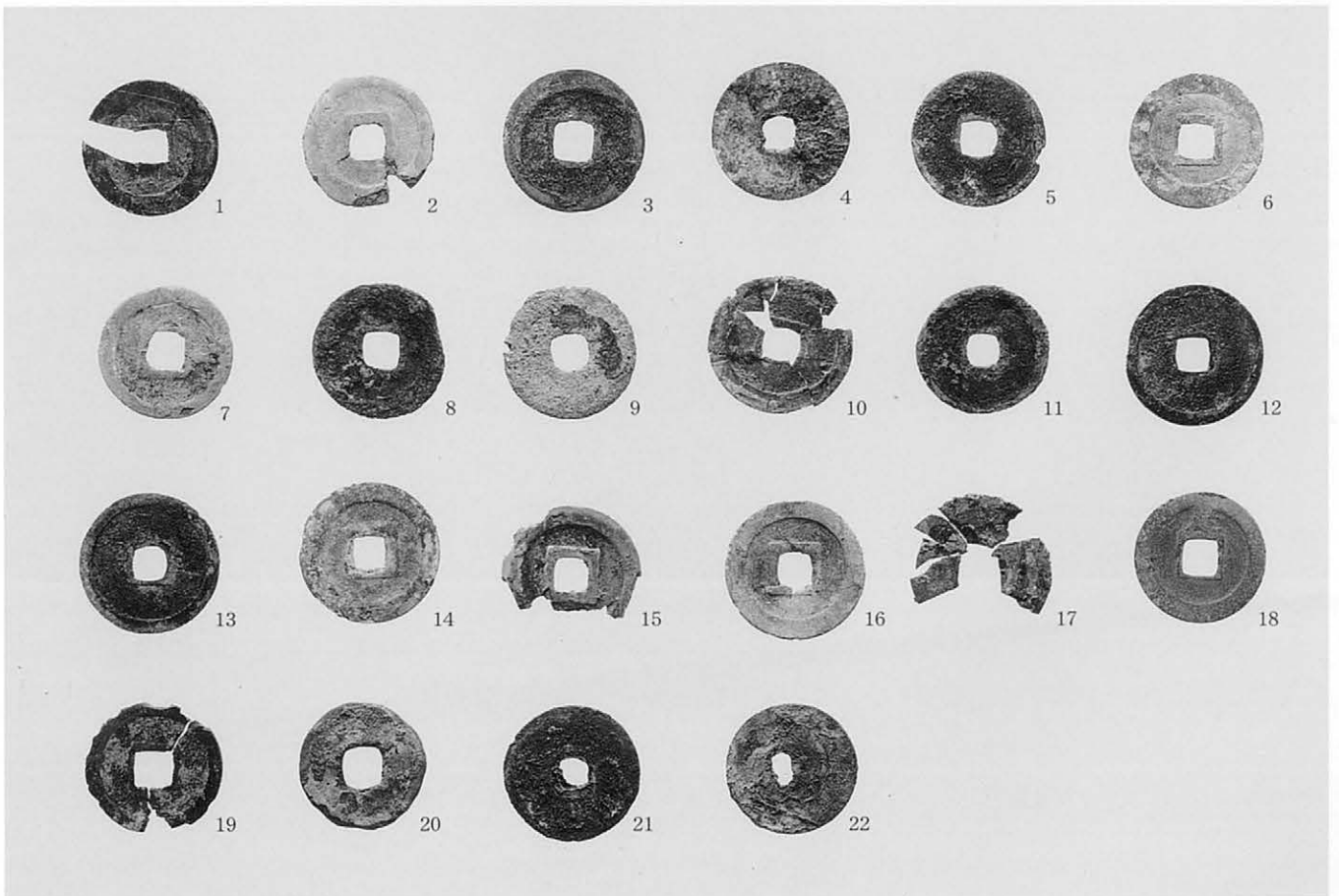
出土木製品 2



出土鹿角製品・金属製品



出土銭貨（表面）



出土銭貨（裏面）

報告書抄録

ふりがな	きみつしみのうなかごういせきーおきたちく・なかごうちくー
書名	君津市三直中郷遺跡 ー沖田地区・中郷地区ー
副書名	東関東自動車道(木更津・富津線)埋蔵文化財調査報告書
巻次	4
シリーズ名	千葉県文化財センター調査報告
シリーズ番号	第522集
編著者名	麻生 正信・半澤 幹雄
編集機関	財団法人千葉県文化財センター
所在地	〒284-0003 千葉県四街道市鹿渡809-2 TEL 043(422)8811
発行年月日	西暦2005年3月25日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
みのうなかごう 三直中郷遺跡 おきた (沖田地区)	ちぼけんきみつしみのう 千葉県君津市三直 おきた 沖田917-1ほか	12225	010A	35度 18分 54秒	139度 56分 47秒	19971201～ 19980331 19980401～ 19990331	72,802m <sup>2</sup>	道路建設 に伴う埋 蔵文化財 調査
みのうなかごう 三直中郷遺跡 なかごう (中郷地区)	ちぼけんきみつしみのう 千葉県君津市三直 なかごう 中郷212ほか	12225	010B	35度 18分 36秒	139度 56分 45秒	19980401～ 19990331 20010901～ 20011216	26,648m <sup>2</sup>	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
三直中郷遺跡 (沖田地区)	生産	弥生時代	溝状遺構 1条	弥生土器, 石器・石製品	木製品を含む木材により補強された畦畔が構築
	生産	古墳時代	溝状遺構 1条	土師器, 石器・石製品	
	生産	奈良・平安時代	土器散布地点 2か所	土師器, 木製品	
	生産	中・近世	畦畔	金属製品, 銭貨	
三直中郷遺跡 (中郷地区)	集落	弥生時代	竪穴住居跡 3軒	弥生土器, 石器・石製品	自然堤防上に展開する建物群
	集落	古墳時代	竪穴住居跡 2軒 土坑 4基	土師器, 須恵器, 土製品, 石器・石製品	
	集落	奈良・平安時代	溝状遺構 竪穴住居跡 1軒 掘立柱建物跡 16棟 井戸・土坑 18基	土師器, 須恵器, 緑釉陶器, 灰釉陶器, 土製品, 羽口, 瓦	
	集落	中・近世	溝状遺構 掘立柱建物跡 43棟 井戸・土坑 18基 溝状遺構	貿易陶磁器, 国産陶磁器, 土製品, 羽口, 瓦, 石器・石製品, 木製品, 鹿角製品, 金属製品, 銭貨, 鉄滓	
					溝で区画され, 井戸をもつ屋敷地

千葉県文化財センター調査報告第522集

東関東自動車道(木更津・富津線)埋蔵文化財調査報告書 4

—君津市三直中郷遺跡(沖田地区・中郷地区)—

---

平成17年3月25日発行

編 集 財団法人 千葉県文化財センター

発 行 日 本 道 路 公 団  
東京都港区虎ノ門1-18-1

財団法人 千葉県文化財センター  
四街道市鹿渡809-2

印 刷 株式会社 三 陽 工 業  
市原市五井5510-1

---